

基本計画書

基本計画										
事項		記入欄						備考		
計画の区分		学部 の 設置								
フリガナ設置者		カッコーホウジン オオサカイケイダイガク 学校法人 大阪成蹊学園								
フリガナ大学の名称		オオサカセイケイダイガク 大阪成蹊大学 (Osaka Seikei University)								
大学本部の位置		大阪府大阪市東淀川区相川3丁目10番62号								
大学の目的		本学は人間の徳を涵養する成蹊の名を体し、幅広く深い教養と総合的な判断力を備えた豊かな人間性を培うとともに、深く専門の学芸を教授研究し、実践的な専門教育に重きを置く大学教育を施し、実社会において知的、道徳的及び応用的能力を展開し得る人材の育成を目的とする。								
新設学部等の目的		本学部は、時代が求める新しい教育への対応と普遍的な教育の営みとを総合的・専門的に学修し、未来を切り拓く子どもの「生きる力」を育むことのできる幅広い教養をもった専門職業人を養成することを目的とする。その教育課程を通して、子どもの学びを支える学校教育を中心に、未来を担う子どもの豊かな成長を支援する教育のあり方を実践的に追究できる幼児、初等教育の人材育成を目指すものである。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地		
	教育学部 (Faculty of 教育学科 (Department of Education) 計	年 4 4	人 100 100	年次 人 3年次 10 3年次 10	人 420 420	学士 (教育学)	年 月 第 年次 平成26年4月 第1年次 平成28年4月 第3年次	大阪府大阪市東淀川区 相川3丁目10番62号		
	同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	芸術学部 情報デザイン学科 3年次編入学 (△8) 環境デザイン学科 3年次編入学 (△4) 美術学科 3年次編入学 (△3) ※平成26年4月 3年次編入学 学生募集停止 情報デザイン学科 [定員増] (27) 環境デザイン学科 [定員減] (△15) 美術学科 [定員減] (△ 5) 大阪成蹊短期大学 児童教育学科 初等教育学専攻 (△30) ※平成26年4月 学生募集停止 平成26年4月名称変更予定 児童教育学科→幼児教育学科 創造文化学科→グローバルコミュニケーション学科								
教育課程	新設学部等の名称	開講する授業科目の総数					卒業要件単位数			
	教育学部 教育学科	講義	演習	実験・実習	計					
		71 科目	74 科目	13 科目	158 科目	124 単位				
教員組織の概要	学部等の名称			専任教員等					兼任教員等	
				教授	准教授	講師	助教	計		助手
	新設分	教育学部 教育学科		人	人	人	人	人	人	人
				7 (7)	9 (7)	3 (3)	0 (0)	19 (17)	0 (0)	34 (10)
		計		7 (7)	9 (7)	3 (3)	0 (0)	19 (17)	0 (0)	34 (10)
	既設分	マネジメント学部 マネジメント学科		17 (17)	8 (8)	2 (2)	0 (0)	27 (27)	2 (2)	43 (43)
		芸術学部 情報デザイン学科		4 (4)	3 (3)	2 (2)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	55 (55)
		環境デザイン学科		3 (3)	5 (5)	1 (1)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	26 (26)
		美術学科		4 (4)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	23 (23)
		計		28 (28)	18 (18)	6 (6)	0 (0)	52 (52)	2 (2)	146 (146)
合 計		35 (35)	27 (25)	9 (9)	0 (0)	71 (69)	2 (2)	175 (154)		

教員以外の職員の概要	職 種		専 任		兼 任		計		大学全体		
	事 務 職 員		59 (59)		8 (8) 人		67 (67)				
	技 術 職 員		4 (4)		0 (0)		4 (4)				
	図 書 館 専 門 職 員		2 (2)		2 (2)		4 (4)				
	そ の 他 の 職 員		0 (0)		0 (0)		0 (0)				
	計		65 (65)		10 (10)		75 (75)				
校 地 等	区 分		専 用	共 用	共用する他の学校等の専用		計		大学全体（大阪成蹊短期大学、びわこ成蹊スポーツ大学と共用を含む）		
	校 舎 敷 地		5,708.37 m ²	25,780.55 m ²	50,490.06 m ²		81,978.98 m ²				
	運 動 場 用 地		0 m ²	73,520.01 m ²	79,482.00 m ²		153,002.01 m ²				
	小 計		5,708.37 m ²	99,300.56 m ²	129,972.06 m ²		234,980.99 m ²				
	そ の 他		0 m ²	594.52 m ²	3,807.28 m ²		4,401.80 m ²				
合 計		5,708.37 m ²	99,895.08 m ²	133,779.34 m ²		239,382.79 m ²					
校 舎			専 用	共 用	共用する他の学校等の専用		計		大学全体（大阪成蹊短期大学と共用を含む）		
			12,415.47m ² (12,415.47m ²)	20,532.04m ² (20,532.04m ²)	4,348.39m ² (4,348.39m ²)		37,295.90m ² (37,295.90m ²)				
教室等	講義室		演習室	実験実習室	情報処理学習施設		語学学習施設		大学全体（大阪成蹊短期大学と共用を含む）		
	38 室		16 室	173 室	6 室 (補助職員 - 人)		1 室 (補助職員 - 人)				
専 任 教 員 研 究 室			新設学部等の名称			室 数					
			教育学部 教育学科			19 室					
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称		図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 点	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	大学全体(大阪成蹊短期大学を含む)での共用分 ・図書 235,117冊 ・電子ジャーナル 4誌		
	教育学部教育学科		2,186 [16] (2,186 [16])	63 [0] (31 [0])	4 [4] (4 [4])	47 (47)	3449 (3449)	34 (34)			
	計		2,186 [16] (2,186 [16])	63 [0] (31 [0])	4 [4] (4 [4])	47 (47)	3449 (3449)	34 (34)			
図書館			面積		閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数				
			1,757.74m ²		180席		303,561冊				
体育館			面積		体育館以外のスポーツ施設の概要						
			2,357.27m ²		-						
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経費の見積り の積り 維持方法の概要	区 分		開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	共同研究費は大学全体 図書費には、電子ジャーナル使用料を含む
		教員1人当り研究費等			360千円	360千円	360千円	360千円	-	-	
		共同研究費等			2,500千円	2,500千円	2,500千円	2,500千円	-	-	
		図 書 購 入 費		6,500千円	1,000千円	1,000千円	1,000千円	1,000千円	-	-	
		設 備 購 入 費		129,603千円	-	-	-	-	-	-	
		学生1人当り 納付金		第1年次 1,380千円	第2年次 1,130千円	第3年次 1,130千円	第4年次 1,130千円	第5年次 -	第6年次 -		
学生納付金以外の維持方法の概要				手数料収入、私立大学等経常費補助金収入等をもって充当する。							
既 設 大 学 等 の 状 況	大 学 の 名 称			大阪成蹊大学							平成26年度から、芸術学部の3年次編入学定員を募集停止し、入学定員に振替える。情報デザイン学科97人、環境デザイン学科30人、美術学科30人とする。(平成25年届出予定)
	学 部 等 の 名 称		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定 員 超過率	開設年度	所 在 地	
	マネジメント学部		年	人	人	人		倍			
	マネジメント学科		4	200	3年次 40	880	学士(経営学)	0.68			
	芸術学部				3年次 8			0.83	平成15年度	大阪府大阪市東淀川区相川3丁目10-62	
	情報デザイン学科		4	70	3年次 4	336	学士(芸術)	1.11			
環境デザイン学科		4	45	3年次 4	203	学士(芸術)	0.66				
美術学科		4	35	3年次 3	161	学士(芸術)	0.50				
既 設 大 学 等 の 状 況	大 学 の 名 称			びわこ成蹊スポーツ大学							
	学 部 等 の 名 称		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定 員 超過率	開設年度	所 在 地	
	スポーツ学研究科		年 2	人 10	-	人 20	修士(スポーツ学)	1.05	平成24年度		
	スポーツ学部				-			1.19	平成15年度		
	競技スポーツ学科		4	156	3年次 -	612	学士(スポーツ学)	1.20		滋賀県大津市北比良1204番地	
生涯スポーツ学科		4	124	3年次 -	488	学士(スポーツ学)	1.18				

既設大学等の状況	大 学 の 名 称	大阪成蹊短期大学								
	学 部 等 の 名 称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定 員 超過率	開設年度	所 在 地	
	総合生活学科	2	220	-	440	短期大学士 (生活デザイン) (食物) (栄養)	1.13	昭和26年度	大阪府大阪市東淀川区相川3丁目10－62	平成25年度 初等教育学専攻〔定員減〕(△40) 幼児教育学専攻〔定員増〕(40) (平成24年度届出) 初等教育学専攻「平成26年度より学生募集停止」(△30) 児童教育学科を幼児教育学科に名称変更する
	児童教育学科	2	240	-	440	短期大学士 (幼児教育)	1.09	昭和31年度		
	幼児教育学専攻	2	30	-	100	(初等教育)	1.03			
	初等教育学専攻	2					1.57			
	観光学科	2	90	-	180	短期大学士 (観光)	0.86	昭和42年度		
	創造文化学科	2	50	-	100	短期大学士 (表現文化)	0.64	平成15年度		
経営会計学科	2	60	-	120	短期大学士 (経営会計)	0.78	平成15年度			
附属施設の概要		該当なし								

学校法人 大阪成蹊学園 設置認可等に関わる組織の移行表

平成25年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員		平成26年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
大阪成蹊大学					大阪成蹊大学				
マネジメント学部 マネジメント学科	200	3年次 40	880		マネジメント学部 マネジメント学科	200	3年次 40	880	
芸術学部 情報デザイン学科	70	3年次 8	296	→	芸術学部 情報デザイン学科	97	0	388	平成26年4月3年次編入 学生募集停止 定員変更
環境デザイン学科	45	3年次 4	188		環境デザイン学科	30	0	120	平成26年4月3年次編入 学生募集停止 定員変更
美術学科	35	3年次 3	146		美術学科	30	0	120	平成26年4月3年次編入 学生募集停止 定員変更
					教育学部 教育学科	100	3年次 10	420	学部の設置(認可申請)
計	350	55	1510		計	457	50	1,928	
びわこ成蹊スポーツ大学大学院				→	びわこ成蹊スポーツ大学大学院				
スポーツ学研究科 スポーツ学専攻	10	-	20		スポーツ学研究科 スポーツ学専攻	10	-	20	
計	10	-	20		計	10	-	20	
びわこ成蹊スポーツ大学				→	びわこ成蹊スポーツ大学				
スポーツ学部 生涯スポーツ学科	124	-	496		スポーツ学部 生涯スポーツ学科	124	-	496	
競技スポーツ学科	156	-	624		競技スポーツ学科	156	-	624	
計	280	-	1,120		計	280	-	1,120	
大阪成蹊短期大学				→	大阪成蹊短期大学				
総合生活学科	220	-	440		総合生活学科	220	-	440	
児童教育学科 幼児教育学専攻	240	-	480		幼児教育学科	240	-	480	平成26年4月 学科名称変更予定
初等教育学専攻	30	-	60			0	-	0	平成26年4月学生募集停止
観光学科	90	-	180		観光学科	90	-	180	
創造文化学科	50	-	100		創造文化学科	50	-	100	
経営会計学科	60	-	120		経営会計学科	60	-	120	
計	690	-	1380		計	660	-	1,320	

教育課程等の概要																
（教育学部教育学科）																
科目 区分	授業科目の名称		配当 年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
大学 共通科目	大学入門 基礎講座	大学での学びとキャリアを考える	1前	2				○		3	7	3				
		情報リテラシーⅠ	1前	2				○		1						
	情報処理	情報リテラシーⅡ	1後		2			○		1						
	外国語	英語基礎Ⅰ	1前	1				○							兼2	
		英語基礎Ⅱ	1後	1				○							兼2	
		英語演習Ⅰ	2前	1				○							兼2	
		英語演習Ⅱ	2後	1				○							兼2	
		英語表現Ⅰ	3前		1			○							兼1	
		英語表現Ⅱ	3後		1			○							兼1	
		中国語入門Ⅰ	2前		1			○							兼1	
		中国語入門Ⅱ	2後		1			○							兼1	
		フランス語入門Ⅰ	2前		1			○							兼1	
		フランス語入門Ⅱ	2後		1			○							兼1	
		韓国語入門Ⅰ	2前		1			○							兼1	
		韓国語入門Ⅱ	2後		1			○							兼1	
		海外短期語学研修	2前		2			○							兼1	
	人間の理解	日本の文学	1・2前		2		○								兼1	
		人間と宗教	1・2後		2		○								兼1	
		哲学	1・2前		2		○				1				兼1	
		心理学	1・2後		2		○									
		民族学	1・2前		2		○								兼1	
	現代社会と 国際理解	日本国憲法	1前	2			○								兼1	
		国際理解教育	1・2後		2		○								兼1	
		人権と社会	1・2後		2		○								兼1	
		現代倫理	1・2前		2		○								兼1	
		社会学概論	1・2前		2		○								兼1	
		多文化共生社会	1・2後		2		○								兼1	
		日本史概説	1・2前		2		○								兼1	
	科学技術と 環境の理解	外国史概説	1・2後		2		○								兼1	
		生命と科学	1・2後		2		○								兼1	
		環境と科学	1・2後		2		○								兼1	
		暮らしの科学	1・2前		2		○								兼1	
	地域文化の 理解	物質と科学	1・2前		2		○								兼1	
		大阪の風土と文化	1・2後		2		○								兼1	
	子どもと 社会	京都の文化と芸術	1・2前		2		○								兼1	
		子どもと文化	1後		2			○			1					
	健康と スポーツ	子どもの成長とコミュニティ	4後		2			○		1						
		スポーツ演習Ⅰ	3後	1				○							兼1	
	キャリア支 援科目	スポーツ演習Ⅱ	4前	1				○							兼1	
		企業インターンシップⅠ	2前		2			○		1						
		企業インターンシップⅡ	3前		2			○		1						
	小計（41科目）		—	12	56	0	—			3	7	3			兼18	
専門 科目	教職 基礎	教職論	1後	2			○			1	1				オムニバス・ 共同（一部） オムニバス・ 共同（一部） オムニバス・ 共同（一部） オムニバス・ 共同（一部）	
		教育学	1前	2			○			1		1				
		教育心理学	2後	2			○			1	1					
		教育行政学	3後	2			○									兼1
	初等 教育	教育課程論（小学校）	2前		2		○				1				オムニバス・ 共同（一部）	
		教育方法論	3前		2		○			1	1					
		道徳教育の指導法	3前		2		○			1						
		特別活動の指導法	3後		2		○			1						
		国語科指導法Ⅰ	2後		2		○				1					
		社会科指導法Ⅰ	3前		2		○				1					
		算数科指導法Ⅰ	2後		2		○				1					
		理科指導法Ⅰ	3前		2		○					1				
		生活科指導法Ⅰ	2後		2		○				1					
		音楽科指導法Ⅰ	2前		2		○					1				
		図画工作科指導法Ⅰ	2前		2		○				1					
		家庭科指導法	2後		2		○									兼1
		体育科指導法Ⅰ	2後		2		○			1						

科目 区分			授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門科目	専門基礎科目	初等教育	国語科指導法Ⅱ	3前		2		○				1				オムニバス・ 共同（一部） オムニバス・ 共同（一部）
			社会科指導法Ⅱ	4後		2		○				1				
			算数科指導法Ⅱ	3前		2		○				1				
			理科指導法Ⅱ	4後		2		○					1			
			生活科指導法Ⅱ	4前		2		○				1				
			音楽科指導法Ⅱ	4後		2		○					1			
			図画工作科指導法Ⅱ	4後		2		○				1				
			体育科指導法Ⅱ	4前		2		○			1					
			生徒・進路指導論	2後		2		○			2					
			学校教育相談	3前		2		○			2					
		幼児教育	保育教育課程論（幼稚園）	2後		2		○			1	1				兼1 兼1 兼1 兼1
			保育内容総論	2前		2			○		1					
			保育内容（健康）	2前		2			○		1					
			保育内容（人間関係）	2後		2			○							
			保育内容（環境）	3前		2			○							
			保育内容（言葉）	3前		2			○							
			保育内容（表現1）	2前		2			○				1			
			保育内容（表現2）	2後		2			○							
			保育方法論	3前		2		○				1				
			幼児理解	4前		1			○			1				
		保育	保育原理	2前		2		○				1				兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1
			児童家庭福祉	2後		2		○								
			社会福祉	3前		2		○								
			相談援助	3後		1			○							
			社会的養護	2前		2		○								
			子どもの保健Ⅰ－1	2前		2		○								
			子どもの保健Ⅰ－2	2後		2		○								
			子どもの保健Ⅱ	3前		1			○							
			子どもの食と栄養	3後		2			○							
			家庭支援論	3後		2		○								
	教科	乳児保育	2前		2			○							オムニバス・ 共同（一部） 兼1	
		障害児保育	2後		2			○								
		社会的養護内容	3前		1			○								
		保育相談支援	4前		1			○								
		国語科内容論	2前		2		○				1					
		社会科内容論	2後		2		○				1					
		算数科内容論	2前		2		○				2					
		理科内容論	2後		2		○					1				
	専門選択科目	教科選択	生活科内容論	2前		2		○				1				兼1 <

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門科目	架橋的科目	学校・施設ボランティア	3前		2			○		1					オムニバス・共同（一部） 共同	
		教育の事例研究	2前		2			○			1					
		学校教育論	1後		2		○				1	1				
		教育プロジェクト演習	4前		2			○		1	1					
		海外教育演習	3後		2			○			1	1				
	体験・実習	教育インターンシップⅠ	2前		2			○			1	1			共同	
		教育インターンシップⅡ	2後		2			○				1				
		教育実習事前事後指導（小学校）	3前		1				○		2					
		教育実習（小学校）	3前		4				○		1				共同	
		教育実習事前事後指導（幼稚園）	3前		1				○	1		1				
		教育実習Ⅰ（幼稚園）	3前		2				○	2						
		教育実習Ⅱ（幼稚園）	3後		2				○	2	1				共同	
		介護等体験（施設）	2前		1				○			1				
		教職実践演習（幼稚園、小学校）	4後		2			○		1	1					
		保育実習Ⅰ－Ⅰ	2後		2				○	1	1				オムニバス・共同（一部） 共同	
		保育実習Ⅰ－Ⅱ	3前		2				○	1	1					
		保育実習指導Ⅰ－Ⅰ	2後		1			○		1	1					
		保育実習指導Ⅰ－Ⅱ	3前		1			○		1	1				共同	
		保育実習Ⅱ	4前		2				○	1						
		保育実習指導Ⅱ	4前		1			○		1						
		保育実習Ⅲ	4前		2				○		1				共同	
		保育実習指導Ⅲ	4前		1			○			1					
		保育実践演習	4後		2			○		1	1					
	研究科目	チュートリアル	基礎ゼミⅠ	1後	2				○		3	7	3			
		基礎ゼミⅡ	2前	2					○		3	7	3			
		基礎ゼミⅢ	2後	2					○		3	7	3			
		専門基礎演習Ⅰ	3前	2					○		7	9	3			
		専門基礎演習Ⅱ	3後	2					○		7	9	3			
	卒業研究	専門演習Ⅰ	4前	2					○		7	9	3			
		専門演習Ⅱ	4後	2					○		7	9	3			
	教職キャリア科目	教職基礎Ⅰ	2前		2				○			1	1			オムニバス・共同（一部） オムニバス・共同（一部）
		教職基礎Ⅱ	2後		2				○			1	1			
		キャリア演習Ⅰ	3前		2				○			2	1			
		キャリア演習Ⅱ	3後		2				○		2	3	1			オムニバス・共同（一部） オムニバス・共同（一部）
		キャリア演習Ⅲ	4前		2				○			3	1			
		基礎教養(国語、算数)	1後		2			○				2				
		基礎教養(理科、社会)	1前		2			○				1	1			
	小計（123科目）			—	22	208	0	—			7	9	3			兼25
合計（164科目）			—	34	264	0	—			7	9	3			兼41	
学位又は称号		学士（教育学）		学位又は学科の分野				教育学・保育学関係								
卒業要件及び履修方法								授業期間等								
大学共通科目から下記の要件を含み22単位以上 ・共通基礎科目 必修科目8単位、「外国語」選択科目から2単位以上 ・教養科目 必修科目4単位を含み12単位以上 専門科目から下記の要件を含み84単位以上 ・専門基礎科目 必修科目8単位、「初等教育」、「幼児教育」、「保育」、「教科」から、40単位以上 ・専門選択科目 10単位以上 ・実践研究科目 必修科目14単位、「架橋的科目」、「体験・実習」から8単位以上 ・教職キャリア科目 4単位以上 大学共通科目、専門科目の要件を満たし、自由枠18単位以上併せて124単位以上修得 履修科目の登録の上限：一学期24単位とする。なお、学外で行われる実地指導関連科目は履修登録制限から除外する。 また、直前の学期に20単位以上修得した単位のうち8割以上「優」である者については、上限を超えて一学期32単位まで履修科目の登録を認める。								1学年の学期区分			2期					
								1学期の授業期間			15週					
								1時限の授業時間			90分					

授 業 科 目 の 概 要			
（教育学部 教育学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	大学 入門 基礎 講座	これから始まる4年間の大学生活をスムーズにスタートさせるための科目である。大学では、まず、自らの意思で計画し、考え、行動するという能動的な態度が求められる。未来を見据えた充実した有意義な大学生活を送るために、大学生として一人一人の個性に応じた生活と学習の基本態度を身につけることを目指す。また、大学では、各自が選んだ専門分野について深く学ぶと共に、社会に自覚的に賢く参画していく力を育てることも大切である。本科目は、大学と社会生活、どちらの学びにも大切になるコミュニケーションの作法を習得することをめざす。	
	情報 処理	情報リテラシーⅠ この授業では、大学での学びにおいて必要不可欠なコンピュータスキルの基本を身につけることを目的とする。具合的には、Windowsパソコンの基本操作、インターネット検索の方法、電子メールを使った文書のやり取りとマナー、及び、ワードプロセッサを使った文書表現、表計算ソフトを使ったデータ整理、プレゼンテーションソフトを使った発表資料の作成のためのMicrosoft Officeのツールハンドリングを学ぶ。	
		情報リテラシーⅡ この授業では、大学での学びにおいて必要不可欠な情報を活用する基本的なスキルを身につけることを目的とする。具合的には、課題解決に必要な情報収集し、収集した情報を課題解決に向けて適切に加工して解決案を作成し、作成した解決案を分かりやすく伝達するといった一連の活動を、コンピュータとインターネット（ICT）を使って行えるようにする。授業では、具体的な演習課題を通して、この一連の情報活用能力を身につける。	
		英語基礎Ⅰ 本講義では、英語の学習方法の一つとしてノートの作り方を学ぶ。予習ではどのようにノートを作るのか、講義中はどのように説明を書き込むのか、単なる問題の解答でなく問題に対する解答を得るまでのプロセスや考え方を書き留めて、復習が可能になるノートとはどのようなものかを各自考えながらオリジナルのノートを作る。このノートを利用することで、意味を理解して文章を読むことができたり、フレーズで英文を書くことができたり、辞書を活用して短文を作成することができたり、基礎力を定着させて英語力向上を目指す。	
		英語基礎Ⅱ 本講義では、英語基礎Ⅰに引き続き、英語の学習方法の一つとしてノートの作り方を学ぶ。予習ではどのようにノートを作るのか、講義中はどのように説明を書き込むのか、単なる問題の解答でなく問題に対する解答を得るまでのプロセスや考え方を書き留めて、復習が可能になるノートとはどのようなものかを各自考えながらオリジナルのノートを作る。このノートを利用することで、意味を理解して文章を読むことができたり、フレーズで英文を書くことができたり、辞書を活用して短文を作成することができたり、文章の暗唱ができるなど、応用力を発展させて英語力のさらなる向上を目指す。	
		英語演習Ⅰ 国際化に伴う日常生活における英語活用を目指して、具体的には学生達が遭遇するはずである英会話の場面を想定し、ペアワーク、グループワークによる日常会話の習得を図る。併せて、リスニング、文法等の問題演習を通して語彙力の向上もはかる。本演習で、英語を実用的なコミュニケーションツールとして使えるレベルにまで高めることを目標とする。また受講者が英語によるプレゼンテーションを行うための基本的スキルを身につける。	
		英語演習Ⅱ 英語でコミュニケーションを図るために役立つ英語の基礎を学ぶ。日常生活で使われる表現、その際に必要な基本文法、基本的な単語で構成されたリスニングやリーディングの教材を使用し、英語を日常的に活用できることを目指す。また、英語の多読、精読を繰り返し、読解力を身につける。また、具体的には英字新聞や洋画などのメディアを用いて、生きた実用的英語に触れ、実践力を磨く。最終的には英語によるプレゼンテーションスキルを養う。	

共通基礎科目	外国語	英語表現Ⅰ	英語4技能を統合した活動を通して、表現力（話すこと、書くこと）の育成を目標とする。なお、扱う話題として、日常的な場面を中心に、身近な話題を扱い、聞いた内容をメモする、読んだ内容を簡潔に話したり、書いたりする、要点をまとめてメールを作成する、メールを返信するなど日常生活で必要な技能を育てる。なお、文法、語彙は表現活動と連動して指導し、項目の暗記を求めるような活動にしないように配慮する。	
		英語表現Ⅱ	英語4技能を統合した活動を通して、表現力（話すこと、書くこと）の育成を目標とする。なお、扱う話題として、科学、福祉、人権などの社会的な課題を扱い、自分の意見をまとめて発表したり、その内容について質問したりしながら、理解を深めたり、解決策を考えるようにする。活動の形態はプレゼンテーション、ディスカッション、ディベート等適切な形態を選び実施する。なお、文法、語彙は表現活動と連動して指導するよう配慮する。	
		中国語入門Ⅰ	初心者が初歩から中国語を学ぶ科目である。中国語のローマ字とその起伏のあるアクセントが正確に読めることを目指し、また聞く、話す、読む練習を繰り返すことにより、中国語の発音と基本文法を習得し、中国語の基礎力を身につけさせる。具体的には人称代名詞・指示代名詞の用法、形容詞の基本、動詞の基本、助動詞の用法、疑問詞の用法などに関する基礎的知識を身につける。	
		中国語入門Ⅱ	「中国語入門Ⅰ」に引き続き、文法項目・語彙・表現の更なる習得を目指す。扱う話題は、日常的な場面における身近な内容とする。初修外国語であることを配慮し、「聞くこと」「話すこと」活動を中心に指導するが、「読むこと」「書くこと」の技能も適時指導する。なお、中国文化の理解等の話題も適時扱う。また、よく使われる構文をマスターし、中国語の語順に関する知識も身につける。また、離合詞の使い方、補語の用法についても学習する。	
		フランス語入門Ⅰ	初心者を対象にフランス語の初歩を学習します。フランスで幅広く受け入れられている日本のポップカルチャー（クール・ジャパン）をテーマに、生きたフランス語を身につけていきます。ビデオを中心に、必要最小限の文法の学習とともに、フランス語の基礎を学びます。またフランスの文化や伝統、フランス人の生活についての紹介も行ない、フランスへの理解を深めていきます。	
		フランス語入門Ⅱ	「フランス語入門Ⅰ」の履修者など、すでにフランス語の初歩を勉強したことがある人を対象としたクラスです。ビデオ教材も活用しつつフランス語による生きたコミュニケーションのための基礎を固めていきます。授業では、フランス語の聞き取りや口頭練習なども取り入れ、初歩的な語彙、文法事項などを少しずつ確実に身につけていきます。また、随時、プリントやCD、DVDなどを用いて、現代フランスの生活や文化の紹介も行い、フランスへの理解を深めていきます。	
		韓国語入門Ⅰ	韓国語は、独自の文字を使う言語ですが、日本語とは文法が非常によく似ているので、大変学びやすい外国語といえます。この授業では、韓国語の初級の基礎を学びます。またやさしい日常会話ができる語学力を習得していきます。文字とその発音、および書き方を学んだあと、単語や短いフレーズが読めるようになり、基本的な表現文例をいろいろ習得していきます。また、毎回の授業で〈ひとこと会話〉文をくり返し練習して、すらすら暗誦できるようにし、実際に使える韓国語の会話力もしっかり身につけさせる。	
		韓国語入門Ⅱ	韓国語入門Ⅰで習得した韓国語の基礎的な語学力を、さらにレベルアップさせていきます。特に、観光旅行などで必要となる語彙力・表現力・会話力を向上させるために、いろいろな場面を設定して、ヒアリング練習と発音のくり返し練習を進め、文型パターンと文法の理解を高め、実践的な韓国語会話を身につける。また同時に、書く練習によって作文力の定着も図る。	
		海外短期語学研修	グローバル化の進展に伴い、社会人の素養として外国語によるコミュニケーション能力の向上、異文化・多文化への理解力や対応力の育成が求められています。この研修では、外国語によるコミュニケーション能力を上げたい、異文化を体験したい、視野を広げたい、より多くの友人を作りたいと思っているなどの各自のゴール実現に向けて研修を活用できます。	

大学 共通 科目	人間の 理解	日本の文学	日本の文学について、今日の文学や演劇の源となっている江戸時代の作品を中心に読みます。種々のジャンルの作品に触れます。また、江戸時代という「時代」に影響を受けた昔話なども読みます。作品そのものに焦点を当てると同時に、作品に描かれた人、作品を描いた人のことも考えさせる。すなわち、我が国の歴史に関する知識を身につけることで作品の背景にも目を配り、文学解釈の質を向上させる。作品が描かれた当時の時代状況、社会情勢、筆者の置かれた立場などを考慮することで、日本文学をより深く理解することを目指す。	
		人間と宗教	宗教ほどアンビバレントなものはない。それは人間存在の最古層に属するが、「宗教ブーム」現象に顕著のようにきわめて今日的な事柄でもある。また絶対的幸福への道を説くものとして魅力的であるが、脱現世（だつげんせ）的であるゆえに、反社会性の「落とし穴」がつきまとう。そこで、本講義では、宗教に関する客観的知識を提供することで宗教に対する冷静な判断力を養うとともに、深い宗教的思索に触れさせることで、各人の主体的な宗教的自覚を促すことに努める。	
		哲学	2011年3月11日、東日本は未曾有の大規模な地震と津波に襲われました。この大地震と大津波は、東北地方の太平洋沿岸を壊滅させ、さらに東京電力福島第一原子力発電所の事故を引き起こしました。震災によって命を落とされた方と行方不明の方は、合わせて2万人近くに及びます。私たちは今、この大災害からどう復興するのかを出発点にして、もう一度自身の社会生活を振り返るとともに、この国の将来について考えなければならないという転換点に立っていると考えます。本科目では、この課題意識から、私たちの「いのち」をメイン・テーマにして、「生きるとは何か」「死ぬとはどういうことか」についての認識を深める。	
		心理学	身体を動かすこと、見たり聞いたりすること、人と交わること、ものをつくったり考えたりすること。私たちが日常の中で行っていることなみについて、その基礎となる心理メカニズムを学び、日常場面で使える知識を身につけることをめざす。また、生を受けて誕生し、子どもから大人になって、老いていき、死を迎えるという、人の一生を視野に入れて、人が人と交わり、自分を育てていく、その心理メカニズムの基礎も学ぶ。	
		民族学	言語や慣習、外見が異なる多様な民族すべて、つまり現代人すべてが、数万年前まで遡れば、アフリカに住む一つのグループであった。現生人類はどのように生まれ、また、ネアンデルタール人をはじめ過去の「ヒト」とはどのように違うのかを探る。そこから、ヒトがどのようなルートをたどって地球全体に広がり、多様な文化を形成していったかを知る。肌の色や体型など現代人の外見的な違いがいつごろ、なぜ形成されたかなどについて学ぶ。さらに、「民族」が必ずしも固定したものではないことや、外部的要因で「民族」が消されたり、つくられたりすることなど「民族」とは何かということも学び、異文化理解の基礎とする。	
		日本国憲法	この講義では、我が国の最高法規である日本国憲法の基本構造、全体像および具体像について、理論的な観点だけでなく、具体的な事例に即して検討する。簡潔で抽象的な憲法の具体的な意味内容を探る上での「生きた教材」としての憲法判例の分析を中心に、授業を進めていく。そして日本国憲法の成立過程を学び、その知識を活用して、さまざまな問題に向き合う姿勢を身につける。憲法改正議論が活発化する現代的状況において、政治的・社会的問題にひろく関心を持ち幅広い視野から問題を吟味することを目指す。	
		国際理解教育	本科目は、国際理解教育について、学校教育のなかで取りあげる人権、多文化、自文化などの内容を子どもとの関わりから考察しながら迫っていく。国際化にむけて社会がますます進展する中、教育との関連において国際理解を1.世界のできごと、文化、習慣、2.アジアの国における子どもの生活と人権・教育、3.在日、来日外国人と学校教育のあり方、4.今もある紛争・戦争と子どもの生活、5.地球規模の諸問題、6. これからの国際理解教育のあり方について考えていく。	

教養科目	現代社会と国際理解	人権と社会	民主主義社会は何よりも人権重視の社会でなければならないと言われるが、この建前が十分実現されているとはいえない。こうした現状を打破するには、各人が「人権」についての十分な認識を持つことが肝要である。そこで本講義では、社会思想史的な観点を踏まえながら、人権についての基本的認識を得させる。また、これと並行して、主に新聞記事を取り上げながら、現代日本における具体的な人権問題について考える。	
		現代倫理	倫理道徳は人類の歴史とともに進んできた。少なくとも、われわれは倫理をめぐる2000年以上にわたる知的財産を有している。が、たとえば「生命」に関する議論に顕著のように、伝統的な倫理的パラダイムが、現代において根底的に問い直されている。そこで、本講義では、古典的な基本問題を押さえた上で、生命倫理、環境倫理、企業倫理といった現代倫理の諸問題について、その概要の理解を目指す。これは、同時に、21世紀で有効となるような倫理学の輪郭を描き出すことでもある。	
		社会学概論	社会学は「社会」についての学問である。でも、新聞に載るような社会問題ばかりを論じているわけではない。むしろ、新聞では決して取り上げられない「どうでもいいこと」や、もはや誰も意識すらしなくなった「あたりまえのこと」をことさらにしつこく問題とすることの方が多し。社会学は、一般には「偶然である」と思われているところに法則を発見したり、一般には「自然である」と思われているところに恣意を発見したりする、そういう「へそまがり」な学問である。本講義では、毎回身近で具体的な細々とした題材を取り上げつつも、それなりに一般化された抽象的な議論もおこない、それを以て社会学の入門としたい。	
		多文化共生社会	日本にはたくさんの外国人が暮らしているが、これらの人々は、どのような時代に、どのような経緯で来日し、日本のどの地方に定着していったのか。また、これらの人々は、何歳ごろにどこの国の人と結婚し、どんな職業に就き、何人くらいの子をもうけているのだろうか。本講義では、在日外国人の中でも人口が比較的多い、中国人、韓国・朝鮮人、ブラジル人、フィリピン人、アメリカ人などに注目しつつ、こうした疑問に一つ一つ答えていく。	
		日本史概説	現代社会を理解するための必要な歴史的知識の習得を目標とし、毎回内容を示した資料を配布し講義を行う。本講義では、特に20世紀以降の国際関係・社会状況について、大阪の動向に留意しつつ取り扱うこととするが、必要に応じて、前後の時代・現代の状況にも言及する。理解を深めるような具体例の紹介も意識するが、概説的な内容となる場合が多いため、参考文献を適宜紹介する。	
		外国史概説	本講義は、地球市民としての教養として身につけるべき外国史の基礎知識の修得をねらいとする。導入では、まず「歴史」について考え、現在へとつながる国際関係がどのように形成され、また展開されたかということを世界史の地域区分・時代区分に沿って理解を深めていく。特に東アジア情勢と世界情勢の関連性に着目し、各国の環境・文化の違いを比較しながら、国際関係の歴史的変遷、動向を捉える視野を広げていく。	
	生命と科学	生命と科学	生命の発生や調節、生物多様性や自然環境といったバイオサイエンスの基幹となる知見を最新の情報を基に学ぶことを目的とする。特に、生命発生の化学的基盤および生物の進化の過程を地質学的見地や遺伝学的見地から解説し、生命が個体として機能し、多様な子孫を残してきた仕組みについて紹介する。また生命科学に関する知識を習得することを通じて、広範囲にわたる専門的知を修得する。本講義では、生命活動の根本について学び、遺伝情報や細胞を利用する方法についても理解する。	
		環境と科学	地球環境の変遷と生命活動との関わりを学び、生命活動が地球環境に及ぼしてきた歴史を理解する。また、人類の活動が引き起こした地球環境の変化が生命に及ぼす影響について、将来への予測を含めて学び、多くの生命の持続性についても考察する。さらに、自然と人間の共存可能性について考察し、環境保全と持続可能な社会の実現に向けた根本的姿勢をはぐくむことを目的とする。その際、参加者同士議論し、容易に解決のできぬ問題について検討を重ね、問いそのものの質を深めてゆく。	

	科学技術と環境理解	暮らしと科学	日常使用されている多様な化学製品の原料から製品にいたる流れや使用後の処理、回収など資源およびエネルギーの立場からみた収支バランスを念頭に理解する。さらに原子力発電の原理、装置、施設、廃棄物処理について理解するとともに、新しいエネルギー源について考察することを目的とする。地球上には多様な生物が生きているが、地球は常に変動し続けている。地球の歴史を学ぶことで環境の多様性について理解する。近年問題視されている環境問題は身近な問題ともいえる。参加者はそうした身近な問題を出発点として、地球規模の問題について、深く吟味することが求められる。	
		物質と科学	われわれの身の回りの物質を見渡すとプラスチックや合成繊維など、多くが合成高分子化合物である。この合成高分子化合物がどのように開発されてきたかを追究する。さらに太平洋戦争前に世界で最初に開発された代表的合成高分子化合物であるナイロンにスポットを当て、ナイロンの出現が日本のアカデミズム、繊維会社、政府、一般大衆にどのような影響を与えたかを説明する。そして日本全体が合成高分子化合物をどのように受容し、対応していったかを学ぶ。	
	地域文化の理解	大阪の風土と文化	現在、経済を始めあらゆる分野で地盤沈下が言われている大阪ではあるが、かつては商都大阪であり、天下の台所大阪であり、水の都大阪であった。この大阪の持つ歴史と文化の大きさについて、大阪人の命の水である「淀川」を軸にして、文学作品や史料を使って考えさせる。また、現代のわれわれにとって、大阪とは何なのか、大阪はどうあるべきなのかについても考えさせる。	
		京都の文化と芸術	京都は千年にわたって都であったため、長い歴史がはぐくんださまざまな文化遺産があり、まち自体が博物館といえます。それらを過去のもの、現在とは無関係のものとして片付けるのではなく、現代の文化や芸術、とりわけ創造や造形表現につながっている側面を知ること、過去の美術・工芸品、庭園、建築などを新たな目で発見します。映像や資料を通して、伝統と創造の意味を再確認します。	
	子どもと社会	子どもと文化	本科目は、大学共通科目としての教養科目のうち「子どもと社会」に区分される科目であると同時に、保育士資格取得のための「保育の表現技術」に関する必修科目でもある。子どもと子どもを取り巻く文化との関係について、具体的な文化財と子どもとの関係から広く学び、子どもの発達という視点から今日の社会をとらえ直す。それとともに、保育で用いられる絵本・紙芝居等の、主として言語表現に関わる文化財を実際に扱い、子どもの遊びを豊かにするための知識・技術をも習得していく。	
		子どもの成長とコミュニティ	子どもの今日的な変化の実情と子どもの成長にとって他者とかかわることの重要性を理解する。そして、子どもへかかわる際に必要な知識と方法について実践的に学んでいく。本授業を通じ、現代社会に生きる子どもの理解と教育支援のあり方について考察を深めながら、コミュニティの一員として、各自が子どもの成長を支援していくための実際的な課題を見出していく。	
	健康とスポーツ	スポーツ演習Ⅰ	近年、若年者の運動不足、活動量の低下が、体力低下を引き起こす主要な因子となり、生活習慣病リスクを高める要因となっている。特にわが国が抱える若年層の健康の問題点として、①運動習慣がなく、運動不足症候群である②体力低下が問題③やせ体型の増加が上げられる。そこで、本授業では、スポーツ実技を通じて、週1回の運動を取り組むことにより、基礎体力の向上と運動の心地よさと楽しさを体験し健康の維持増進を図る。	
		スポーツ演習Ⅱ	身体機能は、20代までは高めることが可能であり、いかに若年時期に、高い体力水準を維持するかが、将来の病気（生活習慣病）予防につながるかとされている。特にわが国が抱える若年層の健康の問題点として、①運動習慣がなく、運動不足症候群である②体力低下が問題（特に、健康と関連が強い心肺持久力の低下（最大酸素摂取量））③やせ体型の増加（筋力不足）が上げられる。そこで、本授業では、スポーツ実技を通じて、週1回の運動を取り組むことにより、基礎体力の向上、運動習慣の定着をねらいとして行う。	

キャリア支援科目		企業インターンシップⅠ	企業現場においてその業務の実体験を通じ、仕事の仕組みや流れそして職場における組織的な人間関係等の理解を深めることにより、これまで学んできた知識を再確認する。さらに、これから学ぶべき課題や就職に対する心構えを見出すことを目的とする。授業では、事前学習として、各自の実習目標を明確にするとともに、企業で求められるマナーやスキルについて学ぶ。企業現場での実習後は、事後学習として事後レポート作成と実習体験の報告そしてディスカッションを通して総括を行い、今後の課題の明確化を図っていく。	
		企業インターンシップⅡ	社会現場での実体験を通じ、業務の内容や仕組みそして職場における組織的な人間関係等の理解を深めることにより、社会人として働くことの意義を各自が見出し、さらに社会貢献的な志を養っていくことを目標とする。本科目では特に、実社会の現場として主に公共的なフィールド（自治体や公共施設等）を設定し、実際の社会活動を実地に体験することによって、新たな人材育成の観点から経済産業省が提唱する「社会人基礎力」を実践的に磨いていく。授業では、事前学習として、各自の実習目標を明確にするとともに、公共的な社会活動に必要なマナーや実的なスキルを学ぶ。実習後は、事後学習として事後レポート作成と実習体験の報告そしてディスカッションを通して総括を行い、今後の課題の明確化を図っていく。	
教職基礎		教職論	（概要）「教育は人なり」と言われる。これは、人が教育を行っており、その人により教育が成り立つ。すなわち人により教育は変容するということである。学校教育の成否は教育活動の実践者である教師の双肩にかかっていると言っても過言ではない。本講義では、教職の意義や教育の役割、教師をめぐる様々な事象などを考察することを通して、教師とはどのような職業であり、どのような資質や能力、人間性が求められているのかを考え、情熱と使命感を持って教職に臨めるようにする。 （オムニバス方式／全15回） （9 山田 敏男 ・ 6 鈴木 昌世／8回）（共同） 教師の職務を講義する。教員に求められる資質、教員の仕事と役割、学校の法と行政、学習指導、学級経営と生徒指導（いじめ問題への取り組み）、校務分掌など、教師の職務を概観する。 （6 鈴木 昌世 ・ 9 山田 敏男／7回）（共同） 教師としての成長、課題を取り上げる。教師の研修、地域や保護者との連携という課題、安全や不祥事などの事故を取り上げながら、教師像を探究する。	オムニバス方式・共同（一部）
		教育学	（概要）教育とは何か、その理論的基礎を学ぶのが本講義の目的である。本講義では「学校教育」という狭義の教育形態についての吟味に限らず、人間形成全般の問題についてさまざまな角度から検討を行う。その際、教育学の隣接領域である心理学、社会学、文学、哲学、宗教学などの知を援用しつつ、広い視座のもとで考察を深めていく。また、人間の人間化（人間が人間になっていくこと）に関する考察を通し、教育の意義を原理的に理解するとともに、人間と教育の関係性についての思考力を養っていく。 （オムニバス方式／全15回） （16 井藤 元 ・ 鈴木 卓治／8回）（共同） 本講義では「学校教育」という狭義の教育形態についての吟味に限らず、人間形成全般の問題についてさまざまな角度から検討を行う。その際、教育学の隣接領域である心理学、社会学、文学、哲学、宗教学などの知を援用しつつ、広い視座のもとで考察を深めていくことにしたい。 （8 鈴木 卓治 ・ 16 井藤 元／7回）（共同） また、人間の人間化（人間が人間になっていくこと）に関する考察を通し、教育の意義を原理的に理解するとともに、人間と教育の関係性についての思考力を養っていく。	オムニバス方式・共同（一部）

			(概要) 大量生産による豊かな社会の形成から高度知識社会へという変動に対応して、学校において目標とされる学力の中軸が変化している。それに伴い、教師にも、知識・技能を伝達するという性格から、子どもの実態と授業内容に即して個別的な判断をするプロフェッショナルな能力への転回が強調されている。本科目では、子どもの学習に責任をもつ教師の判断力の基礎となる、発達と学習に関する心理学の理論的知識を紹介する。 (オムニバス方式／全15回) (7 青木 知史 ・ 13 羽野 ゆつ子 ／8回) (共同) 発達心理学を担当する。発達について、基礎概念、諸理論を紹介し、知性、言語、社会性、情緒および親子関係の発達という各論を取り上げる。最後に、今日の発達研究を紹介する。 (13 羽野 ゆつ子 ・ 7 青木 知史 ／7回) (共同) 学習心理学を担当する。学習について、行動主義から認知主義、活動主義へという学習の心理学研究を概観し、各学習論を紹介する。今日の学習研究として文化学習論を取り上げる。最後に、障がいのある子どもの発達と学習について取り上げる。	オムニバス方式・共同 (一部)
		教育心理学		
		教育行政学	この授業は、学校教育の社会的・制度的・経営的側面について広く必要な知識を獲得することを目的としている。教育行政の仕組みや教育法規の構成についてその基本的確に理解できるようにするほか、特に憲法、教育基本法、学校教育法等について、現在社会の状況や教育改革、現場の実際とあわせて理解できるように授業が行われる。教育行政は身近な存在とはいえないが、将来教職に就いた際には欠かすことのできない基礎知識となる。本科目では、教育関連の法規、教育委員会、地方教育行政の仕組みなど、教育行政の基本的な内容について理解を深めるとともに、教育行政と学校現場との関係を知る。その上で、学校教育をめぐる今日的課題と関連づけながら、教育行政のあり方について考えていくことをめざす。	
		教育課程論(小学校)	教育課程の概念と構造について原理的に考察するとともに、小学校における教育課程の具体的な展開として学習指導要領を取り上げ、実践上の課題について考察する。その過程で、学校教育の在り方や現代の小学校教育の課題について考察し、学生自らが教育課程を巡る諸課題について主体的な提案が行えることを目的とする。より実践的な理解を図るため、小学校の実際の指導計画等を事例として取り上げる。	
		教育方法論	(概要) この授業では、学校現場において、教育目標を実現するために何をどのように教えるかという教育方法の課題を取り扱い、児童を指導するための方法・技術を学ぶことを目的とする。具体的には、学習指導、授業づくり、授業分析、教室研究、評価方法などについて取り扱う。そして、現場での実践に生かせるような教育方法の理論的知識や概念、および今日的課題について理解を深める。 (オムニバス方式／全15回) (⑤ 赤沢 真世 ・ 4 浅井 宗海 ／8回) (共同) 教育課程の基本原則や教育方法の歴史など、教育方法に関わる基礎理論を講義する。また、その理解をもって、特色ある教育実践を検討し、さまざまな教育方法の特色を整理する。それをふまえて授業を構想する。 (4 浅井 宗海 ・ ⑤ 赤沢 真世 ／7回) (共同) 学校現場での情報機器の活用方法を紹介し、情報機器を活用したプレゼンテーションの方法を演習形式で学ぶ。そして、これからの教育方法を考える。	オムニバス方式・共同 (一部)
		道徳教育の指導法	本科目では、学校教育における道徳教育の全体的な活性化へ向け、それを担うことを目指す学生が、理論および方法の両面にわたる学びを通し、道徳教育のより実践的な指導力を養っていく。そのために、道徳の目標や内容およびそれらを実現する教育のあり方について理解を深め、「補充・深化・統合」を担う「道徳の時間」に求められる指導法を、家庭や地域社会との関連、学校の教育活動全体との関連を視野に入れ探究していく。	

特別活動の指導法	文部科学省小学校学習指導要領「特別活動」を深く理解し、各内容や学年の特性や能力に見合った特別活動の授業に必要な知識を獲得することを目的とする。また、総合的な学習の時間との関連についても理解することも取り入れる。次に、「学級活動」「児童会活動」「クラブ活動」「学校行事」「縦割り班活動」の内容の実践を遂行するための指導法と指導案作成を中心に授業実践力を身につけることを目的とする。「学級活動」「児童会活動」においては、いじめ問題への対処についても検討する。	
国語科指導法 I	はじめに、国語科学習指導の在り方について、話す・聞く、書く、読むなどの言語活動の指導を具体的かつ効果的に行うための原理・原則を概説する。次に、言語活動の具体的な指導方法について、領域ごと及び書写に関する事項について、実技指導または演習を通して具体的に身につけさせる。その後、実技指導で得た知識や方法を使ってグループ内で模擬授業を行わせ、指導内容や方法について省察的に検討させることで実践的な理解を深める。	
社会科指導法 I	小学校の社会科の基本は、問題解決学習であることを理解する。そのために、現場で指導するときに役立つ、地域教材の発掘・開発、教材の提示方法、指導方法(フィールドワークや地名調べ等)、指導計画、指導案の作成、模擬授業などを構成することにより、より身近に小学校の社会科の楽しさやおもしろさを感じるようにする。また、模擬授業後には、より良い授業をめざし授業検討会を行い、実践力を身につける。	
算数科指導法 I	指導者は算数の意義とその重要性を理解した上で指導を実施する必要がある。そこで、本授業では、各学年の発達や各領域の系統性を理解した上で、基礎的・基本的な知識及び技能と、思考・表現・判断を駆使する問題解決能力を高められる「算数科における問題解決学習」の実践を遂行するための指導法の理解、指導案作成、模擬授業による実践を中心に授業実践力を身につけることを目的とする。	
理科指導法 I	本授業は、小学校の理科における理科教育のおよび自然科学的な理論的要素と教育現場における実践的要素のつながりを図りながら、理科授業の在り方全体を把握し、理科指導法の知識や技能を身に付け教育実践力の育成を目指すことを目的とする。特に今日的に必要とされる探究的内容に重点を置き、多くの実験を体験すること、教材や実験の開発と授業の組み立ての技能を獲得する。	
生活科指導法 I	生活科の目標・内容を理解し、小学校低学年を受け持っても、楽しく授業が展開できるようにする。そのために、体験的な活動、指導方法の研究、指導案作成、模擬授業をとおして、授業実践力をつける。フィールドワーク、ものづくりなどの具体的な活動をとおして、作品の見方、支援のあり方、教師の役割等について理解する。また、生活科の理論とその特質を踏まえた学習指導及び評価を取りあげる。学習指導については、単元設定と学習指導の要点について理解できるようにする。授業の組み立て方や学習指導案の作り方は、学習指導案づくりを通して身につくようにする。また模擬授業も実施する。	
音楽科指導法 I	学習指導要領改訂をうけた新たな音楽科授業の在り方を概説する。そして児童の発達に沿った指導内容の設定、指導内容と評価との関連から音楽科で培う学力を説明し、学校教育における音楽科の位置づけを理解させる。講義の前半で、各講義における理論と学習指導案とを関連付けながら、学習指導案の作成方法を理解させる。後半で音楽科の基礎理論を理解した上でグループごとに各領域の模擬授業と授業討議会を行い、理論にもとづいた実践の方法を理解させ、学習指導案を作成する能力を習得させる。	
図画工作科指導法 I	図画工作科は、自発的・自主的な表現・鑑賞活動を通してつくり出す喜びや価値を手にしたたり共有したりすることのできる教科である。しかし、技法習得や作品制作に終始し、本来の目標を見失った指導も多い。ここでは、学習指導要領に示された本来の目標や領域の内容を正しく理解し、それを反映した指導方法や評価のあり方を実際に活動しながら学習を行う。また、児童の実態に応じた指導と支援を行うための学習指導案の作成・検討を通して、授業実践力を養う。	

初等教育	家庭科指導法	本講義では、実践的、体験的な活動を通して学習することを重視している小学校家庭科において、子ども達が自分のよさや可能性を発揮しながら自己表現を目指す授業実践をいかに進めればよいかにについて考察することを目的とする。特に、家庭生活と家族、衣服への関心、食事への関心および簡単な調理、住まい方への関心、物や金銭の使い方と買い物などを重点に置き学習および指導案の立案と指導法を学ぶ。	
	体育科指導法Ⅰ	小学校体育実技種目は、陸上運動、器械運動、球技、表現ダンス、体づくり運動、水泳などがあげられる。中でも、器械運動は児童自身の運動体験の有無が技の習得に影響を与える傾向にある。本授業では、児童の体力運動能力から児童の能力を把握した上で指導案を作成し、技能習得のための「こつ」の理解と実践、工夫された補助具の作成を行う。また、グラウンドで実践される種目では、効率のよい導線および安全効果的な指導内容が求められる。そこで、体育実技Ⅰ・体育実技Ⅱ、体育科内容論で習得した知識と技術および科学的根拠を基にした指導案作成と指導実践を行い検証する。	
	国語科指導法Ⅱ	はじめに、児童の言語活動を軸として単元全体の学習活動を構想することの意義と基本的な方法を概説する。次に、演習を通して、各領域ごとに単元指導計画の立案と「本時の展開」（1時間の授業）の指導案を作成、検討させる。その上でグループごとに模擬授業及び授業後の検討会を行い、実践的な指導力量を身に付けさせる。また、その過程で、指示や発問、板書、ノート指導など、実践的な指導技術についても解説、実技指導を行う。	
	社会科指導法Ⅱ	児童に社会科の楽しさやおもしろさを感じさせるために、体験的な活動を実践し、その重要性を知る。調査活動、社会見学等の事前学習、歴史資料館などのフィールドワークを実施し、その際の重要なポイントを学ぶ。調査活動や社会見学、歴史資料館の活用を組み込んだ、指導計画、指導案を作成し、模擬授業を行う。模擬授業後には、体験的な活動に焦点を絞った検討会を行い、授業の展開方法を身につける。	
	算数科指導法Ⅱ	教育現場に就くことで児童の学習状況を評価する立場となる。そこで、本授業では、教科書研究の方法や児童の実態の捉え方、教材開発や学習評価の視点を理解した上で、指導法Ⅰの課題にスポットをあてた「算数科における問題解決学習」を中心とした算数科指導法の実践を遂行する。特にそのための指導のあり方や実践に即した指導案作成などの授業実践力を十分に身につけるとともに、教材開発や学習評価ができることを目的とする。	
	理科指導法Ⅱ	本授業は、小学校の理科における理科教育および自然科学的な理論的要素と教育現場における実践的要素のつながりを図りながら、小学校の理科授業の在り方全体を把握し、理科指導法の知識や技能の育成を目指すことを目的とする。特に児童の実態に即した授業づくりや教材作成、板書作成および授業実践に重点を置き、工夫された指導案の立案と授業の実践力を獲得する。また、小学校学習指導要領「理科」の内容をもとに、理科教育の目標や内容について理解するとともに、児童が楽しさをもって主体的に自然に親しみ、探究する指導のあり方について考察する。	
	生活科指導法Ⅱ	小学校生活科の授業が楽しく展開できるようにするために、体験的な活動の重要性について深く理解する。中でも、フィールドワーク、植物の栽培、動くおもちゃづくりなどの具体的な活動をとおして、具体的支援のポイントを学ぶ。特に、教材研究、指導案の作成、模擬授業を実践する。また、授業検討会をとおして、授業課題を明確にし授業実践力をつけることを目的とする。また、指導者の役割、評価活動、学習環境づくり等の学習指導にかかわる基礎事項を取り上げ、基本的な指導技術や指導上留意することなどを理解する。模擬授業後は相互批評を通して、学習指導のあり方を実践的に理解できるようにする。	
	音楽科指導法Ⅱ	学習指導要領に基づく音楽科の基礎理論を根拠に、より実践的、効果的な授業デザインを理解させる。講義の前半で、指導者のねらいと子どもの活動、指導者の評価・支援を関連づけることでより実践的、効果的な授業デザインが具現化されることを理解させる。また学習指導要領改訂を受け、日本伝統音楽を扱う際の指導法をそれ以外の教材と比較しながら説明する。この新たな授業デザインをふまえ、講義の後半でグループごとに各領域の模擬授業と授業改善についてディスカッションを行う。	

			図画工作科指導法Ⅱ	「図画工作科指導法Ⅰ」で理解した、図画工作科の目標に準拠した指導法を更に具体的な場面を通して学び、指導スキルの向上を目指す。授業で用いられることが多い「パス・絵の具・粘土」などの材料や「はさみ・彫刻刀・のこぎり」などの用具に加え、デジタルカメラなどの機器を実際に体験し、それぞれの特性を理解する。また、体験を通して指導で配慮すべき点や授業づくりのポイントを学び、実践的な指導力を養う。	
			体育科指導法Ⅱ	小学校体育授業を安全効果的に遂行するには、使用する器具備品・環境の整備と児童自身の形態特性、運動暦、体力・運動能力など科学的根拠を基に把握することや、児童の「動き」に対して指導者の観察力が求められる。体育科指導法Ⅰでは、各学年および種目の特性と「こつ」を理解した指導案の立案と指導実践を行った。本授業では、その際の気づきを基に、種目の系統性を理解し、「動き」の見極めと怪我防止および児童の能力に見合った補助法の習得を目指す。また、体力要素別に見た体づくり運動の指導案作成と指導実践を行う。	
			生徒・進路指導論	(概要) 学校教育における生徒指導及び進路指導等の位置づけ及び教育機関における体制について理解し、これらを実施するために必要な諸理論や手法について、体罰や懲戒の問題を含めて学ぶ。また、「いじめ」や「不登校」といった具体的な問題行動および進路指導の事例を取り上げ、問題の理解を深める。そして、理論と事例研究の統合を図ることにより、生徒指導および進路指導に関する現代的な課題を探究し、実際の教育活動への示唆を得る。 (オムニバス方式／全15回) (① 園田 雅春 ・ 8 鈴木 卓治 / 7回) (共同) 学校教育における生徒指導及び進路指導等の位置づけ及び教育機関における体制について理解し、これらを実施するために必要な諸理論や手法について学ぶ。 (8 鈴木 卓治 ・ ① 園田 雅春 / 8回) (共同) 「学校教育」という狭義の教育形態についての吟味に限らず、人間形成全般の問題についてさまざまな角度から検討を行う。	オムニバス方式・共同(一部)
			学校教育相談	(概要) 学校教育における教育相談の位置づけ及び教育機関における体制について理解し、主として幼児・児童を理解し、問題に対処するために必要な諸理論を学ぶ。また、「いじめ」「不登校」をはじめとした子どもの問題行動の事例を取り上げ、その事例研究を行うことによって、問題の見立て方を学ぶとともに学校現場で行う教育相談活動の意義と実際的な取組み方についての理解を深めていく。 (オムニバス方式／全15回) (7 青木 知史 ・ 8 鈴木 卓治 / 7回) (共同) 学校教育における教育相談の位置づけ及び教育機関における体制について理解し、主として幼児・児童を理解し、問題に対処するために必要な諸理論を学ぶ。 (8 鈴木 卓治 ・ 7 青木 知史 / 8回) (共同) 学校教育における子どもの問題行動の事例を取り上げ、その事例研究を行うことによって、問題の見立て方を学ぶとともに学校現場で行う教育相談活動の意義と実際的な取組み方についての理解を深めていく。	オムニバス方式・共同(一部)
			保育教育課程論(幼稚園)	本授業は、保育における計画と評価の理論と実際について学び、質の向上という観点から保育の過程を動的に理解することをねらいとする。計画と評価の意義、種類、留意事項などに関し、保育の特性を踏まえて基本的な考え方を学びながら、幼稚園や保育所等での実際例の分析や指導計画案の作成を行い、具体的な理解を深める。	
			保育内容総論	本授業は、幼稚園及び保育所における保育を構造的・総合的にとらえ、具体的な保育実践とのつながりにおいて保育内容を理解することをねらいとする。幼稚園教育要領及び保育所保育指針それぞれの各章の関連性を読み取り、歴史的変遷を踏まえて今日の保育内容を理解する。その上で、保育に必要な観察・記録の視点を習得し、発達に即した子ども理解と保育内容の展開について、実践と結びつけて学習する。事例研究や模擬保育などを適宜実施する。	

専門基礎科目	幼児教育	保育内容（健康）	健康の概念を明らかにし、幼児期の健康について「幼稚園教育要領」の領域「健康」に基づき、意義とねらい、内容を理解する。幼児期に生きる力の基本となる睡眠・食育・運動について正しい習慣を身に付けることの大切さを理解し、必要な援助法を学ぶ。特に、運動遊びが心身の健全な発達に大きな影響を及ぼすことを生理学的に理解し、年齢に応じた運動遊びを「幼児期の運動指針」に基づき理解する。	
		保育内容（人間関係）	幼稚園教育における領域「人間関係」の意義や内容を理解し、子どもを取り巻く人間関係について基本的な考え方を学ぶとともに、人とのかかわる力を育む教材作成や領域「人間関係」の指導計画案作成演習及び模擬保育を行い、保育実践力を培う。また、人とのかかわる力を育む保育の実際を通して、指導方法を学ぶ。	
		保育内容（環境）	子どもが周囲の様々な環境に関わり、好奇心や探求心を育む過程について、そしてその際に保育者が果たす重要性について理解する。この知識を基に、幼稚園教育における領域「環境」の意義や内容を理解するとともに、子どもを取り巻く環境について具体的事例（身近な自然、文字や記号、数量、施設等）や保育の実際を通しての指導方法を学ぶ。また、領域「環境」についての指導計画案作成演習や模擬保育を行い、保育実践力を培う。	
		保育内容（言葉）	誕生から幼児期に至るまでの子どもの言語発達、およびその過程に関わる保育者の重要性について、基本的な事項を理解する。この知識を基に、幼稚園における領域「言葉」の意義や内容を理解するとともに、言葉に関わる保育実践において、実際に保育現場において使用されている教材や具体的な実践事例を通し、豊かな言葉を育む実践的な指導方法を学ぶ。また、教材作成や指導計画案作成演習及び模擬保育を実際に体験し、保育実践力を培う。	
		保育内容（表現1）	音楽表現に関する事例を通して乳幼児の音楽教育に関する理論を理解する。そして、幼稚園、保育園で行われている音楽活動を実際に体験し、乳幼児の音楽表現（リズム）に関わる活動をつかむ。その乳幼児の姿や生活を想定しながらグループで模擬保育を計画・実践し、現場における保育者の関わり方や援助の改善方法を知る。	
		保育内容（表現2）	造形活動が子どもの発達におよぼす影響について、基本的な事項を学ぶ。また、保育者が子どもの造形活動に関わる意義について基本的な知識を得る。これらの知識を基に、保育所保育指針、幼稚園教育要領のねらいや内容を学び、造形活動について、豊かな感性や表現する力、創造力を豊かにする観点から、成長の連続性、保育の連続性を考えた指導技術実践力を修得する。また、視野の広い幼児理解と表現の過程を大切にする保育への理解を深める。	
		保育方法論	本授業は、幼稚園及び保育所における保育の方法について理論的な学習を行い、具体的な保育実践と結びつけて理解することをねらいとする。既習の内容と関連づけながら保育方法の基礎理論を学び、小学校教育との違いを踏まえて保育への理解を深めるとともに、保育実践を分析し、理論と具体的な指導方法とのつながりについて学ぶ。また、現場での様々な状況に対応できるよう、特別な配慮が必要となる事柄についても学習する。	
	幼児理解	幼児理解	人間の発達に関わる心理学的知識を前提として、乳児および幼児の個々の発達の姿を把握する観察力と、適切な発達援助を行う実践力を培うことを目的とする。このため、幼児理解に関わる理論および方法について、様々な方法を通して学ぶ。また、保幼小連携、保育者間の連携、保護者との連携など、現代の保育課題と発達援助および保育実践の関係についても理解を深める。	

保育	保育原理	本授業は、保育の意義や思想、歴史、現状と課題等、保育に関する基本的な事柄を学び、保育の本質と目的を理解することをねらいとする。まず、「保育」の意味と保育の場について学び、保育の社会的意義を理解する。その上で、代表的な保育施設である保育所の保育について学び、保育所保育指針の基本を理解する。さらに、保育の思想と歴史、現状と課題について学び、保育について理解を深める。	
	児童家庭福祉	現代社会における児童家庭福祉の意義・歴史の変遷を学び、保育との関係および児童の人権擁護の問題について理解する。さらに、児童家庭福祉の制度・法体系、財政と実施機関、児童福祉施設および児童家庭福祉の専門職・実施者等を理解した上で、児童虐待・ドメスティックバイオレンス等の児童家庭福祉をめぐる現状・課題、今後の動向・展望等について学習する。これらを学ぶことにより、これからの保育士に必要な視点・考え方を身につけていくことを目的とする。	
	社会福祉	現代社会における社会福祉の意義（理念および概念）・歴史の変遷をはじめ、社会福祉と児童家庭福祉の関連性および児童の人権や家庭支援との関係について理解する。また、社会福祉の制度・法体系、行財政・実施機関等の問題および相談援助、利用者の保護に関わる仕組みについて学ぶ。以上の点から、今後の社会福祉の動向・課題等について課題を検討する。このような基本的な知識を習得し、保育士として必要な視点・考え方を身につけていくことを目的とする。	
	相談援助	わが国における社会福祉をめぐる現状・課題等を踏まえながら、保育士がソーシャルワークを学ぶ意義、定義、援助過程等に関し、講義・演習を通して学習していく。具体的には、相談援助の概要、方法と技術を学び、その具体的展開（計画・記録・評価、関係機関等の協働、多様な専門職との連携、および社会資源の活用・調整・開発）について理解する。その上で、「社会福祉援助者としての保育士の役割」「保育におけるソーシャルワーク」について考察を深め、専門職としての自覚を高めることを目的とする。	
	社会的養護	現代社会における社会的養護の意義（理念および概念）と歴史の変遷を学んだ後、社会的養護と児童福祉の関連性（児童家庭福祉の一分野としての社会的養護）および児童の権利擁護と社会的養護の関連性について理解する。また、社会的養護の制度・法体系や実施体系、家庭的養護と施設養護、社会的養護の専門職・実施者等について理解するとともに、児童の人権擁護や自立支援およびソーシャルワークの現状と施設等の運営管理に関わる課題について学ぶ。	
	子どもの保健Ⅰ-1	まず、健康の概念と健康指標について学んだ後、子ども（特に乳幼児期）の健康的な身体発育や生理機能・運動機能・精神機能の発達と保健について学ぶ。また、こどもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。さらに、地域における保健活動と児童虐待防止についても学ぶ。また、施設等における子どもの心身の健康および安全の実施体制について理解し、子ども時代における生涯を見ずえた健康・生活支援のありかたを学習する。	
	子どもの保健Ⅰ-2	子ども（特に乳幼児期）の健康状態の把握と主な疾病の特徴について学び、さらに、それら疾病の予防方法および適切な対応について学ぶ。また、子どもの生活環境と精神保健との関係、並びに心の健康とその課題等についても理解する。さらに、保育における環境整備と保健の関係、保育現場における衛生管理、並びに保育現場における事故防止および安全対策並びに危機管理など、施設における子どもの心身の健康および安全の実施体制についても学ぶ。	
	子どもの保健Ⅱ	子どもの健康および安全に係る保健活動の作成と活用について学ぶとともに、保健活動の記録と自己評価についても学ぶ。また、保健における養護と教育の一体性など、健康増進および心身の発育・発達を促す保健活動や環境について考える。さらに、子どもの疾病とその予防法および適切な対応並びに緊急時の対応や事故防止、安全管理についても具体的に学ぶ。また、現代社会における心の健康問題や地域保健活動等についても理解する。	

子どもの食と栄養	子どもの食生活の現状と課題を理解した上で、健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を学ぶ。また、栄養の基本的概念と栄養素の種類・機能などについて知り、子どもの発育・発達と食生活の関連を理解し、保育者として適切な食育の基本を身につける。さらには、家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題を学ぶ。この他、子どもが育つ環境や文化とのかかわり、特別な配慮を要する子どもへの対応なども理解する。	
家庭支援論	家庭支援論は、子どもが生活する基本的な場である家庭を理解し、家族の福祉を保障することで、その子どもの保育をより充実したものにする 것을 目的としている。家族を支援していくことの意義・役割、家庭支援の必要性等の基本的・理論的枠組みを理解し、保育士等が行う家庭支援の原理について学ぶ。また、家庭生活を取り巻く社会的状況および子育て家庭の支援体制について理解した上で、家庭支援の多様な施策や支援活動を、事例に基づきながら学習する。	
乳児保育	乳児保育の理念と歴史的変遷および役割について学んだ後、保育所、乳児院、家庭的保育等における乳児保育および乳児や家庭を取り巻く環境と子育て支援の場等について、現状と課題を理解する。また、乳児保育の実施に関する基本理念と現状を理解した上で、実践内容に直結する3歳未満児の発達と保育内容、乳児保育の実践についての基本的知識や指導計画の作成および観察・記録および自己評価等の方法論を習得する。また、保護者および関連機関とのパートナーシップについても理解を深める。	
障害児保育	障害児保育を支える理念や歴史的変遷について学び、障害児およびその保育について理解する。また、様々な障害について理解し、障害のある子の理解や援助の方法、環境構成等について理解する。さらに、障害のある子どもたちの保育を計画し、個別支援および他の子どもとの関わりの中で育ち合う保育実践について学ぶ。その他、保護者や関係機関との連携についても取り上げ、障害についての理解と障害のある子どもを取り巻く環境に対する洞察力を養う。	
社会的養護内容	現在の日本の社会が抱える問題の一つに子どもの問題がある。近年、子どもの貧困が深刻化し、そこには複雑化した問題がある。これら社会の底辺には家庭で暮らせない子どもたちがいる。その子どもを支援する専門職に保育士が含まれているが、現代社会の困難な子育て環境に対して保育士の資質や専門性は伴っているとは言い難い。 本授業では、具体的に様々な困難を抱える子どもたちの姿に焦点をあて、保育士としてどのような支援が必要なのかを考え、日々子どもたちとのかかわりや生活のあり方について考える。	
保育相談支援	保育士の行う保護者支援の独自性について体系的に理解することを目的に、保育士の専門性を基盤に据えた保護者支援に必要な知識と技術を涵養する。すなわち、最初に保護者に対する保育相談支援の意義と原則、および保育の特性と保育士の専門性を生かした支援について学び、子どもの最善の利益と福祉を重視した保護者支援の基本を理解する。そして、保護者支援の内容、方法と技術、計画・記録・評価・カンファレンス等、保護者支援の実践について内容や方法を理解する。	
国語科内容論	はじめに、本講義では、小学校国語科の目標と内容について、学習指導要領解説国語編に即して概説する。次に、小学校現場では実際にどのように指導するのか、児童用教科書を使って解説する。また、教材分析や授業の構成方法などを具体的に解説することと併せて、話す・聞く、書く、読むなどの具体的な言語活動及び書写に関する事項を指導するために必要な知識・技能を習得させる。	
社会科内容論	小学校社会科の内容とその構成を理解する。特に、学習指導要領の目標や内容について理解し、小学校社会科の目標である公民的資質を養うために押さえておかなければならないことや身につけさせなければならないことを知る。さらに、研究発表会での授業参観、参観後の討議会を通して、社会科の授業のイメージ化とよりよい社会科の授業を成立するために必要な基礎知識を体験学習する。	

			算数科内容論 (概要) 算数科では、「算数的活動を通して、数量や図形についての基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け、日常の事象について見通しをもち筋道を立てて考え、表現する能力を育てるとともに、算数的活動の楽しさや数理的な処理のよさに気付き、進んで生活や学習に活用しようとする態度を育てる。」ことをねらいとし、各学年および領域別の知識・技能・考え方の習得を通して、算数のよさに感じる子どもの育成をめざしている。本講義では、文部科学省小学校学習指導要領「算数科」を深く理解し、学年や領域の特性や能力に見合った算数科の授業に必要な知識を取得する。 (オムニバス方式／全15回) (9 山田 敏男 ・ 12 橋本 隆公 ／7回) (共同) 算数科学習指導要領の各領域の特性と系統を取り上げる。「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」という4領域の特性と系統について解説する。 (12 橋本 隆公 ・ 9 山田 敏男 ／8回) (共同) 小学校の各学年の発達特性にそくして、算数科の学習内容を取り上げる。低学年、中学年、高学年の発達と学習内容を解説し、算数を学ぶことの楽しさについても取り上げていく。	オムニバス方式・共同 (一部)
		理科内容論	はじめに、小学校現場で使用されている教科書から小学校理科に関する全単元の内容を把握する。その後、受講生各自が教科・学年・単元を選択し、その単元について各社の教科書を比較分析する。合わせて学習指導要領、同解説、指導書の検討を行い、その単元についてのイメージを明確にする。さらに、小学校の理科実験で事故やけがの多い実験についての演習を行い、事故等を未然に防ぐ実験の方法を把握する。	
		生活科内容論	教科改訂の経緯とその社会背景を理解する。また、生活科の9つの内容についてその内容をしっかり理解し、生活科の授業を行える基礎的・基本的な知識と技術を身につけるために、具体的な事例を通して授業づくりのあり方を学ぶ。また、生活科における「遊び」の意味を理解し、楽しい授業が成立するために、気付きの質の高め方や支援のあり方についても事例をもとに考えていく。	
		音楽科内容論	音楽の構成要素や仕組みと学習指導要領における共通事項との関連を知り、西洋音楽を基礎とする楽曲及び日本伝統音楽を基盤とする音楽科の教科内容を理解する。音楽の構成要素や仕組みの理解においては、声や楽器によるアンサンブル、鑑賞等、実際の音楽活動を通して理解できるようにする。その教科内容は児童の音楽的発達の特性をふまえ、カリキュラム化されていくことを理解させる。これらをふまえて指導案を作成できるようにする。	
教科		図画工作科内容論	本授業は、現行の学習指導要領に示された図画工作科の「目標と学年別の内容」について具体例をあげながら解説し、その背景となる「造形表現の発達」や「図画工作教育の変遷」を知ることでの内容の深い理解を目指す。加えて後半に、今日求められる「言語活動」「幼小中のつながり」について、授業につながる「指導と評価」「計画と指導案」について、を知ることでの指導に生きる図画工作科の本質理解を目指す。	
		家庭科内容論	家庭科領域における、家庭経営・家庭経済、家族関係、衣食住生活、地域・社会とのかかわり、消費者・生活者としての主体形成などのテーマ別に、事例の紹介、または実習機会を設けながら、理論的・実証的に把握・検討する。また、衣食住、環境等に関する実践的・体験的な活動を通して日常生活に必要な知識技能を理解する。そして、調理実習、小物づくり(手縫い、ミシン縫い)、模擬授業等を通して基礎的、基本的な知識技能を身につける。	

専 門 科 目		体育科内容論	小学校体育科教育は、「自らが運動する意欲を培い、生涯にわたって積極的に運動に親しむ姿勢や能力を育成するとともに基礎的な体力を高めること」を柱に運動体験を通して達成感、粘り強さ、社会性を身につけることが目的とされている。本授業では、体育学習指導要領の内容理解と、①体育種目の領域改定と体づくり運動導入の目的と意義②学年別にみた運動発達特性と種目特性および各種目の「こつ」について③運動が幼児、児童期の身体に及ぼす影響について④体力向上の目的と測定方法、評価法および得られたデータの活用法について、科学的根拠を基に概説する。	
		体育実技Ⅰ	(概要) 自分の状況にあわせた身体運動実践の可能性を理解し、小学校体育実技における各種目を体験学習し、苦手意識を払拭するとともに仲間との協力と体を動かすことの楽しさと達成感を体験学習することを目的とする。また本授業では、短距離・リレー・ハードル・幅跳び・屋外で実践可能な球技の技の習得を目指し各種目の「こつ」を自らが体験し理解することや関連器具備品の安全な取り扱いと配置および効率的な導線について指導する。 (オムニバス方式／全15回) (5 安部 恵子 ・ 51 秋武 寛 ／8回) (共同) 短距離・リレー・ハードルの技の習得を目指し、各種目の「こつ」を自らが体験し理解することや関連器具備品の安全な取り扱いと配置および効率的な導線について指導する。 (51 秋武 寛 ・ 5 安部 恵子 ／7回) (共同) 走り幅跳び・サッカーの習得を目指し、各種目の「こつ」を自らが体験し理解することや関連器具備品の安全な取り扱いと配置および効率的な導線について指導する。	オムニバス方式・共同 (一部)
		体育実技Ⅱ	(概要) 自分の状況にあわせた身体運動実践の可能性を理解し、小学校体育実技における各種目を体験学習し、苦手意識を払拭するとともに仲間との協力と体を動かすことの楽しさと達成感を体験学習することを目的とする。また本授業では、マット運動・跳び箱運動・鉄棒運動・屋内で実践可能な球技の技の習得と体力要素別にみた体づくり運動・表現ダンスを実践する。また、関連器具備品の安全な取り扱いと配置および効率的な導線について指導する。 (オムニバス方式／全15回) (5 安部 恵子 ・ 51 秋武 寛 ／8回) (共同) マット運動・跳び箱運動・鉄棒運動の技の習得を目指し、各種目の「こつ」を自らが体験し理解することや関連器具備品の安全な取り扱いと配置および効率的な導線について指導する。 表現ダンスを自らが体験し、仲間とともにテーマに基づいた内容を作成し発表したり、ラジオ体操や団体行動の意義を理解し、実践できるよう指導する。 (51 秋武 寛 ・ 5 安部 恵子 ／7回) (共同) バスケットボール・バレーボールの技と「こつ」の習得および体づくり運動を自らが体験し理解することや関連器具備品の安全な取り扱いと配置および効率的な導線について指導する。	オムニバス方式・共同 (一部)
		スポーツ基礎科学	近年、幼児・児童期において、運動する子どもとしない子どもの二極化が問題視され、子どもの体力低下は顕著にみられている。発育・発達が顕著な時期に、積極的な運動遊びや身体活動量を増加させるために働きかけることが、小児生活習慣病の予防や運動能力・体力向上に大変重要である。しかし、ただ単に運動・スポーツを指導するだけでは、スポーツ障害やバーンアウト（燃え尽き症候群）などの問題も指摘されており、身体の構造や機能、スポーツ障害に対する基礎知識を踏まえた上での指導が望まれる。そこで、本講義では、身体の構造と機能、運動生理学の知識を生かし、スポーツ障害やその予防方法、リハビリテーションについて理解することをねらいとしている。	

ジュニアスポーツ障害	ジュニア世代における身体的特徴に関してスポーツ医学的観点から概説する。次に、ジュニア世代におけるスポーツ参加の意義・目的などについて解説する。子どもの発育発達の特性とスポーツ動作のバイオメカニクスについて最新のデータを提示しながらスポーツ外傷・障害の予防について解説する。以上を理解した上で、自身で各スポーツにおけるジュニア世代の外傷・障害の予防対策の立案が出来るようにする。	
幼児体育指導論	幼児期は、生涯にわたる運動全般の基本的な動きの獲得が著しい時期である。そこで平成24年3月発令された幼児期運動指針について、①多様な動きが経験できるような様々な遊びを取り入れること、②楽しく体を動かす時間を確保すること、③発達の特性に応じた遊びを提供することの重要性を中心に解説する。これらを理解した上で、幼児期に必要な運動あそびを考慮して立案し、発達特性に応じた運動あそびを安全かつ効果的に実践するための指導法および指導案の作成し実践する。	
テーピングとコンディショニング	スポーツ外傷・障害予防の方法としてのテーピング・コンディショニングの基礎知識について解説する。次に身体各部のテーピング方法について解説、各自実習をおこなう。またコンディショニングの方法について解説する。日常生活上およびスポーツ活動において重要なコンディショニング方法について解説し、その上で各種方法について実行できるようになる。	
スポーツ測定と評価	積極的な運動はもちろんのこと、日常生活における身体活動が生活習慣病の予防や改善に関与し、健康と大きく関連している。また、効果的な運動や身体活動における目安として、運動量や運動強度など数値として示され、指導・実践の場で活用されている。今後は量的な目安や指標も重要ではあるが、それ以上に質的な目安および生体反応を把握した上での指導や支援が必要となってくる。そこで、本講義では、様々なトレーニングの効果や日常生活動作、歩行、自転車などの運動が生体機能にどのような反応を及ぼすのかを血圧・心拍数・呼吸数・ストレス度合い・脳機能などから検討していくと共に、運動や日常生活動作が及ぼす生体への負担に関して検討していく。	
体育学研究	はじめに、身体活動を日常生活のなかに積極的に取り入れることの意義を子どもの健全な発育発達および予防医学的視点から概説する。次に、子どもの発育発達特性、体のつくりと機能、生理学的基礎、体力、至適運動強度について最新のデータを提示し、小児メタボリックシンドロームのメカニズムと予防策を解説する。これらを理解した上で、教育現場における身体活動実践の意義を明確にし、予防医学を考慮した体育科教育指導と教材および運動習慣の定着を考慮した運動あそびについて解説する。	
水泳	小学校体育授業で行われる水泳は、水中運動の体験のある児童とそうでない児童と2極化傾向にあり、指導の際には事前調査や配慮が必要とされる。また、水中の事故防止のためにも指導者は水中運動に関する知識と泳力が必要とされる。そこで、本授業では、事前に関き取り調査を行い、初級・中級・上級クラスを編成し指導を行う。到達目標は、初級はクロール・平泳ぎ・背泳を正しい泳法で25m完泳。中級は、クロール・平泳ぎ・背泳・バタフライを50m完泳。上級は、クロール・平泳ぎ・背泳・バタフライを100m完泳とする。	(集中)
ピアノ実技Ⅰ	学校教育や保育の場において豊かな音楽表現活動を実践するにあたり、バイエル中程度（グレード2ステップ1程度）を目安として指導者として必要なピアノ演奏技能を習得するとともに、豊かな音楽性、感受性、表現力を身につける。 ※ピアノⅠは基本的に①初心者の学生対象とする。 ①初心者、②初級（バイエル教則本中程度）、③中級（バイエル教則本修了程度）、④中上級（ブルグミュラー25番、チェルニー100番＝グレード3・4程度）、⑤上級（ソナチネ以上＝グレード5～）	

専 門 選 択 科 目	教 科 選 択	ピアノ実技Ⅱ	学校教育や保育の場において豊かな音楽表現活動を実践するにあたり、バイエル修了程度（グレード2）を目安として指導者として必要なピアノ演奏技能を習得するとともに、豊かな音楽性、感受性、表現力を身につける。 ※ピアノⅡは基本的に②初級の学生対象とする。 ①初心者、②初級（バイエル教則本中程度）、③中級（バイエル教則本修了程度）、④中上級（ブルグミュラー25番、チェルニー100番＝グレード3・4程度）、⑤上級（ソナチネ以上＝グレード5～）	
		ピアノ実技Ⅲ	学校教育や保育の場において豊かな音楽表現活動を実践するにあたり、指導者として必要なピアノ演奏技能を習得するとともに、豊かな音楽性、感受性、表現力を身につける。 ※ピアノⅢは基本的に③中級以上の学生対象とする。 ①初心者、②初級（バイエル教則本中程度）、③中級（バイエル教則本修了程度）、④中上級（ブルグミュラー25番、チェルニー100番＝グレード3・4程度）、⑤上級（ソナチネ以上＝グレード5～）	
		伴奏法	学校教育や保育の場において豊かな音楽表現活動を実践するにあたり、指導者として必要なピアノ伴奏法を習得するとともに、豊かな音楽性、感受性、表現力を身につける。 毎回学習内容を解説した後、習熟度別に課題を配布し、個人練習・グループ指導の形で授業を行う。 ※伴奏法は基本的に③中級以上の学生対象とする。 ①初心者、②初級（バイエル教則本中程度）、③中級（バイエル教則本修了程度）、④中上級（ブルグミュラー25番、チェルニー100番＝グレード3・4程度）、⑤上級（ソナチネ以上＝グレード5～）	
		器楽指導法	器楽指導において必要な各種楽器の基礎知識、基本奏法、特性を理解させる。まずは小太鼓を用いた基礎練習でリズム感覚、読譜力を向上させ、小学校で使用する楽器を用いたアンサンブルから合奏へ発展させる。その過程で器楽のもつ音色の多様性、表現技巧の可能性を理解させる。各種楽器にふれて演奏技術を学び、合奏や指揮の体験を通じて、子どもへの指導方法を理解させる。	
		合唱指導法	学校教育における合唱の具体的な指導方法、指揮法、扱うべき楽曲等について理解させる。また実際にアンサンブルや指揮の体験を通じて個々人の声の特性を生かした合唱の指導方法を理解させる。教材曲には教科書教材や合唱曲、日本の伝統音楽としてわらべうた・民謡など、合唱指導に適した教材を取り上げる。そして合唱指導について理解した内容をふまえてグループでの合唱の模擬授業を行う。	
		リトミック	リトミックとは、スイスの音楽教育家・作曲家であったエミール・ジャック＝ダルクローズ（1865～1950）によって考案された、音楽による身体と心と精神の融合を促す音楽教育のための学習方法である。常に学生自身が音楽を感じて身体を用いて即時反応するなど、音楽能力のスキルアップのための実技と、指導者としてのティーチング方法の実践の2本立てとする。授業内容は1回で終わるものではなく、積み重ねとなりからみあっていくため、1回1回の授業を大切にしていくように。動きやすい服装で参加のこと。	
		音楽療法	前半は音楽が持つ機能や音楽療法の基礎となる理論を中心に講義する。後半は多様な対象者への理解を深め、教育・福祉・医療の各場面における具体的な事例を紹介しながら、音楽療法の実践方法とその効果について講義する。また、音楽の持つ作用、効果について吟味し、音楽についての研究を概観する。その上で、音楽を用いて、いかに音楽療法を行っていくのかについて映像資料を用いながら検討する。	

			造形遊び	造形遊びは、小学校の学習指導要領に6年生まで位置づけられているが、学校現場においては十分に行われているとは言えない。原因のひとつは、教師の理解不足である。体験を通して「つくり出す喜び」を味わいながら、幼児期からの6年生へつながる造形遊びの段階的な内容を理解し、正しい授業づくりが必要感をもって進められるようにする。	
			子どもとワークショップ	土・紙・絵の具・映像などの様々な材料を使って実際につくるワークショップ形式の演習を行い、つくり出す楽しみを体験する。その体験を通して発見したことや感じたこと子どもの視点と指導者の視点から整理し、子ども理解を深めるとともに、より子どもがつくり出す喜びを味わうことのできるワークショップや授業の可能性を考える。	
			材料研究	想像力あふれる造形活動を通して、(1)造形表現から見た子ども理解 (2)題材開発と材料研究が行えるよう、実践力を培う。具体的には、紙による「飛び出す絵本の制作」折り紙を使った「ペーパークラフトの制作」土粘土による「立体造形および工芸」を行う。これらの作品作成を通して、素材の特質を表現として活かしていく方法論を考え理解する。本講義では、図画工作を指導する教員に求められる材料についての知識の習得をめざす。児童が材料と向き合い、それぞれの感性で造形活動を楽しむことができるよう、様々な素材に対して理解を深める。	
			鑑賞教育	子どもが自分の感覚や体験などを基に、自分たちの作品や様々な美術作品を見てよさや美しさを感じ取ったり、それについて話し合ったりする「鑑賞活動」を通して鑑賞の能力は高められる。また、鑑賞は表現活動と関連づけ、一体的にあつかうことで造形活動が充実したものとなる。それを授業に位置づけ展開するために必要な知識と方法を紹介し、ワークショップや実際の体験を通して理解を深める。	
			芸術療法論	芸術療法(アートセラピー)は、芸術表現あるいは創造的活動に、疾病・障害に対する治療効果や生命力を強める効果があると考へ、芸術を心理治療や教育場面に応用することを目指す分野である。芸術療法には、美術教育から出発した心理療法としての流れと、アーティストによる医療機関での活動から出発した流れがある。本科目では、この二つの流れをくむ芸術療法について、事例をととして、その方法を学ぶとともに、今日の展開として、教育場面でのアート活動を取り上げ、その心理的・教育的な効果を考察する。	
教育課題			外国語活動(小学校英語Ⅰ)	急速なグローバル社会の進展に伴い、世界各国で外国語学習の低年齢化が進んでいる。日本も平成23年度より高学年で「外国語活動」が導入された。本講義では、外国の外国語活動の動向と比較しながら日本の「外国語活動」の役割、小学校教育課程における位置づけ、年間指導計画の立て方、教材研究のすすめ方をテーマ別に学習する。本講座では、小学生に外国語(英語)を指導するために必要な知識、技能を学び、指導案を各自が作成できる能力を養う。	
			外国語活動(小学校英語Ⅱ)	小学校高学年の発達段階を考慮した外国語活動の指導法を学ぶ。次に指導案作成の基本を学び、各指導過程のねらいを理解し、ねらいに応じた活動例をワークショップ形式で学ぶ。最後にマイクロティーチングを通して外国語活動の実際を疑似体験し、「外国語活動」をすすめる技能を高める。なお、全ての受講生は与えられた教材で指導案を作成する課題を提出しなければならない。	
			子どもの安全と学校	学校安全の取り組みは、学校に関わる教職員のみならず地域と連携した取り組みが必要とされる。そこで本授業では、学校安全に関する安全計画や危機管理マニュアルの作成と理解、その取り組み、点検個所のポイント等、学校生活を踏まえた安全確保について概説する。また、実際に発生した事故の事例を基に討論を行いながら学校安全に関する知識と理解を深める。	

		特別支援教育	2006年に成立した改正学校教育法によって、従前の盲・聾・養護学校は2007年4月から「特別支援学校」に一本化され、その対象も軽度発達障害児まで、さらに、地域の小学校に通う子どもたちへの支援まで含まれるようになった。今後は一層、統合教育が進むと予測され、すべての学校教員が特別な教育支援を必要とする子どもたちの支援を学ぶ必要がある。この講義では、小学校教諭免許取得を目指す者として、最低限必要な障害の理解、特別支援教育の歴史的背景について学ぶとともに、子ども達とその家族への支援について考えることができることを目標とする。	
架橋的科目		学校・施設ボランティア	本科目は、「学校インターンシップⅠ」及び「学校インターンシップⅡ」の履修生が、実地体験を通して身につけた知見をさらに展開・深化させるために設定した科目である。 事前指導として、学校および保育施設でのボランティア活動に必要な知識やマナーを確認した上で、実際に現場に出向き実際にボランティア活動に取り組む。活動期間中は、毎回活動日誌を記し、気づいた課題を整理する等の振り返りを行い、次回の活動の目標を明確にしていく。活動終了後は事後レポートを作成しボランティア活動の総括をするとともに、事後指導で行う成果報告会での発表および討論を通じ、今後の課題を明確にしていく。	
		教育の事例研究	主としてビデオを利用して、学生、教科専門、教職専門が共同で、実践映像をお互いに見あい、映像の事実にもとづいて、参加者それぞれの判断や見解を交換していく授業である。教育実践を多面的な視点から検討することで、相互に授業・実践を見る目をひろげ、省察する力を育て、一人ひとりの力量を豊かにしていくこと、同僚性やコミュニケーション力を育てること、実践と大学で学ぶ理論とをつなぐことを目的とする。また、インターンシップや教育実習での自分の実践の省察につなげることをめざす。（事例に応じて、専門教員をゲスト講師として適宜招聘する。）	
		学校教育論	（概要）学校を中心とした教育実践について、ひろく歴史的・社会的・文化的な背景のもとに原理的に考察するとともに、できるだけ具体的な事実、事例、問題に即して考察し、学校教育を鳥瞰することを目的とする。教育学部1年生を対象とし、学校教育の全体像を理解してもらうために、教育史・教育思想と、教師の活動について、導入的な授業を行う。 （オムニバス方式／全15回） （16 井藤 元 ・ 9 山田 敏男 ／8回） （共同） 教育史と教育思想を担当する。学校の歴史について西洋教育史と日本教育史を概説する。教育思想を概観し、教育研究法について教育史と教育哲学からのアプローチを取り上げる。 （9 山田 敏男 ／7回） 教師の活動を担当する。教師の生活、教科指導、学校の1年という視点から教師の活動を紹介し、教育研究法について教育方法と教師教育からのアプローチを取り上げる。	オムニバス方式・共同（一部）
		教育プロジェクト演習	市民として学生が主体的に地域に参加し、行政や学校、保護者と連携しながら、子どもを対象としたワークショップやプロジェクトを立ち上げ、実行する。テーマ選択に時間をかけ、目的が見えれば、活動しながら考えること、すなわち、学生が主体的に実践し、ふり振り返り、新たな実践を創りだしていく、実践のサイクルをプロジェクト型学習（PBL）を通して経験的に学ぶ。学校・家庭・地域の連携の重要性が説かれる中、地域社会を体験的に理解し、その一員としての自覚と責任感を育み、同時に児童の市民性を涵養する際の方法を習得する。	
		海外教育演習	中国（上海市）あるいはオーストラリア（ケアンズ市）の小学校の視察および現地の教員や児童との交流を通し、現在の中国あるいはオーストラリアにおける学校教育の実情を知り、日本とそれらの国の学校教育を比較することを通して、日本の教育文化の特質を深く理解し、子どもの教育に実際にかかわっていく際の課題意識を幅広く高めていく。	（共同）

教育インターンシップⅠ	教育インターンシップⅠは実習の一環として位置づけられ、長期にわたり学校現場での活動に継続的に取り組む中で、教員、保育士等の子どもに関わる仕事に関する資質を高めていくことができる。毎回目的を持って活動し、日誌を丁寧に書き、振り返りを行うことで教員、保育士になる意欲を高めるとともに、業務内容と1日の流れを理解し、子ども達との関わり方を体験学習することができる。	
教育インターンシップⅡ	教育インターンシップⅡは実習の一環として位置づけられ、長期にわたり学校現場での活動に継続的に取り組む中で、教員、保育士等の子どもに関わる仕事に関する資質を高めていくことができる。毎回目的を持って活動し、日誌を丁寧に書き、振り返りを行うことで教員、保育士になる意欲を高めるとともに、教員、保育士の補助的役割を実践できる。	
教育実習事前事後指導（小学校）	教育実習に必要な基本的事項と心構えについて講義し、教育実習に対する目的意識を明確にし、教育実習が効果的に行われるようにする。まず、実習の意義について理解した後、実習日誌・記録および指導案等、小学校実習時に必要となる文書の作成について、具体的事例などを交えて最終的な確認を行う。教育実習参加後は、教育実習の総まとめをし、実習日誌の整理、実習校への対応などを含め自己評価させ、教育実習参加体験の有効的な活用をはかる。	（共同）
教育実習（小学校）	大学での理論研究を小学校で総合的に実証研究するとともに、小学校教員としての教育的実践や専門性について具体的かつ直接的に学ぶことを目的とする。具体的には、4週間の実習を通し、授業見学や学習指導案の作成、授業実習等を通して、教科の指導力を含めた教育実践力の基盤を養う。さらに、児童理解、（児童の）家庭の理解、地域社会の理解を踏まえた学級経営の基本を学び、教職に対する使命感を確立する。	
教育実習事前事後指導（幼稚園）	教育実習に必要な基本的事項と心構えについて講義し、教育実習に対する目的意識を明確にし、教育実習が効果的に行われるようにする。まず、実習の意義について理解した後、実習日誌・記録および指導案等、幼稚園実習時に必要となる文書の作成について、具体的事例などを交えて最終的な確認を行う。教育実習参加後は、教育実習の総まとめをし、実習日誌の整理、実習校への対応などを含め自己評価させ、教育実習参加体験の有効的な活用をはかる。	（共同）
教育実習Ⅰ（幼稚園）	大学での理論研究を幼稚園で総合的に実証研究するとともに、幼稚園教員としての教育的実践や専門性について具体的かつ直接的に学ぶことを目的とする。具体的には、2週間の実習を通し、幼児の活動する姿やその活動を援助する教師の姿等を観察する。また、これ等の観察を通して、大学で学んだ理論の教育実践への適用について考える機会としていく。	（共同）
教育実習Ⅱ（幼稚園）	大学での理論研究を幼稚園で総合的に実証研究するとともに、幼稚園教員としての教育的実践や専門性について具体的かつ直接的に学ぶことを目的とする。具体的には、2週間の実習を通し、幼稚園実習Ⅰでの学びを踏まえて、幼児との直接的なふれ合いから幼児理解を深め、実際の幼稚園教諭の幼児へのかかわりや保育の方法等を学び、幼児教育に関する理論や知識と保育実践との統合および自己の保育観の確立を図っていく。	（共同）
介護等体験（施設）	高齢介護および障がい者支援の基礎知識を習得し、社会福祉施設と特別支援学校の目的と事業内容に関する基礎知識を習得する。社会福祉施設（5日間）と特別支援学校（2日間）における事前学習、事後学習を行う。具体的には、演習の方法も一部取り入れた準備学習、実習中の指導助言、学びと課題を明確にするための事後学習をおこなう。	

実践研究科目	体験・実習	教職実践演習(幼稚園、小学校)	(概要) 教職課程の他の科目の履修や教職課程外での様々な活動を通じて学生が身につけた資質能力が、今日の学校教員に必要な資質能力として有機的に統合され、形成されたかを確認していくことが本講義の目的である。本講義では、到達目標に示される各観点に基づき、主に事例研究を中心に行っていく。また、教員としてのあり方や実践方法についてグループ討議を中心に行うとともに、学生の個々の到達度に応じて、個別に補完的な指導を随時取り入れていく。 (オムニバス方式／全15回) (9 山田 敏男 ・ 8 鈴木 卓治／8回) (共同) 教職の意義や教員の職務内容及び子どもに対する教育責任、社会性や対人関係能力(①組織の一員としての自覚、②保護者や地域の関係者との人間関係の構築等)をテーマにしてグループ討議を行う。そして、教育実践の事例研究として、①模擬授業、②学級経営、③安全管理、④保護者対応をそれぞれテーマ設定し、グループ討議及び実技指導を行う。最後に、鈴木卓治と共同で、今日の学校教員に必要とされる資質能力をテーマに総括的な指導を行う。 (8 鈴木 卓治 ・ 9 山田 敏男／7回) (共同) 学校現場の理解をテーマに、現職教員と共同で、特に現代社会と教育文化についてグループ討議を行う。そして、子ども理解をテーマに、①問題行動の見立て方、②子どもの人権、③特別支援教育との連携について、役割演技及びグループ討議を行う。さらに、地域社会との連携活動をテーマに、現職教員と共同で、①教育支援センターとの協力体制、②関係諸機関との協力体制についてグループ討議を行う。最後に、山田敏男と共同で、今日の学校教員に必要とされる資質能力をテーマに総括的な指導を行う。	オムニバス方式・共同(一部)
		保育実習Ⅰ-1	大学での理論研究を保育所で総合的に実証研究するとともに、保育士としての実践や専門性について具体的かつ直接的に学ぶことを目的とする。具体的には、実際に保育士の補助をしながら、援助・保育の方法や技術を身につけるとともに、保育士の職務内容を学んでいく。一連の実習を通して、保育士として必要とされる資質・能力そして技術の基礎基本を身につけるとともに、保育を学ぶ学生の課題意識を養う。	(共同)
		保育実習Ⅰ-2	大学での理論研究を保育所以外の児童福祉施設等で総合的に実証研究するとともに、保育士としての実践や専門性について具体的かつ直接的に学ぶことを目的とする。具体的には、実際に保育士の補助をしながら、援助・療育・保育の方法や技術を身につけるとともに、保育士の職務内容を学んでいく。一連の実習を通して、保育士として必要とされる資質・能力そして技術の基礎基本を身につけるとともに、保育を学ぶ学生の課題意識を養う。	(共同)
		保育実習指導Ⅰ-1	本授業は、保育実習Ⅰ-1(保育所)を円滑に進めていくための知識・技術を習得し、学習内容・課題を明確化するとともに、実習体験を深化させることをねらいとする。まず、保育実習全体の展開と実習の意義、保育実習Ⅰ-1の目標・内容を把握し、保育所について理解を深めながら、諸手続きや心構え、計画や記録等について具体的に学ぶ。実習後、自己評価や話し合い、実習先評価を踏まえた個別面談等を通し、実習Ⅰ-1での到達点と新たな課題を確認する。	(共同)
		保育実習指導Ⅰ-2	本授業は、保育実習Ⅰ-2(施設)を円滑に進めていくための知識・技術を習得し、学習内容・課題を明確化するとともに、実習体験を深化させることをねらいとする。まず、保育実習Ⅰ-2の目標・内容を把握し、諸手続きや心構え、実習Ⅰ-1での自己の課題等を確認しながら、実習施設について理解を深める。実習後、自己評価や話し合い、実習先評価を踏まえた個別面談等を通し、実習Ⅰ-2での到達点と新たな課題を確認する。	(共同)
		保育実習Ⅱ	大学での理論研究を保育所で総合的に実証研究するとともに、保育士としての実践や専門性について具体的かつ直接的に学ぶことを目的とする。具体的には、保育実習Ⅰ(保育所での実習)での学びを踏まえて、乳幼児の発育状況に応じたねらいの設定、保育内容の選択、保育方法の決定等をより深く学んでいく。一連の実習を通して、保育士としての援助技能をさらに高め、保育士になるという自覚や自己の保育観の確立を図っていく。	

		保育実習指導Ⅱ	本授業は、保育実習Ⅱを円滑に進めていくための知識・技術を習得し、学習内容・課題を明確化するとともに、実習体験を深化させることをねらいとする。まず、保育実習Ⅰを振り返り、自己の到達点と課題を確認しながら、各科目の学習状況を踏まえて保育所保育に関する理解を深め、総合実習に向けた準備を行う。実習後、自己評価や話し合い、実習先評価を踏まえた個別面談等を通し、実習Ⅱでの到達点と新たな課題を確認する。また、日程に沿って、諸手続きも同時に行う。	
		保育実習Ⅲ	大学での理論研究を保育所以外の児童福祉施設等で総合的に実証研究するとともに、保育士としての実践や専門性について具体的かつ直接的に学ぶことを目的とする。具体的には、保育実習Ⅰ（児童福祉施設等での実習）での学びを踏まえて、子どもの個人差や個別的なニーズについて理解し、その対応方法を身につける。また、援助計画の立案とその実践、家族とのコミュニケーションの方法や地域社会との連携等について学ぶ。さらに、保育士に求められる職業倫理や守秘義務等についての指導の機会としていく。	
		保育実習指導Ⅲ	本授業は、保育実習Ⅲを円滑に進めていくための知識・技術を習得し、学習内容・課題を明確化するとともに、実習体験を深化させることをねらいとする。まず、保育実習Ⅰを振り返り、自己の到達点と課題を確認しながら、各科目の学習状況を踏まえて施設養護に関する理解を深め、参加・部分実習に向けた準備を行う。実習後、自己評価や話し合い、実習先評価を踏まえた個別面談等を通し、実習Ⅲでの到達点と新たな課題を確認する。また、日程に沿って、諸手続きも同時に行う。	
		保育実践演習	本授業では、幼稚園教諭、保育士資格に関するこれまでの学修を振り返り、①保育者の意義や役割、職務内容、乳幼児に対する責任、②社会性、対人関係能力、子どもの理解、③保育内容等の指導力、に関する各事項について、保育者として必要な知識・技能の修得状況を確認し、必要に応じて補完的指導を行う。さまざまな角度から一人ひとりの資質能力が確認できるよう、講義、グループ討論、ロールプレイング、事例研究、模擬保育などの方法を適宜取り入れる。	(共同)
	研究科目	基礎ゼミⅠ	実際の小学校（幼稚園）に出向き、毎週半日の学校見学を行い、観念的なものでなく現実的な学校や教職へのありかたをとらえさせる。参観の中で生ずる疑問や自身の教育への思い、自己の教育観など様々な事柄の記録、ふりかえり、論議などの省察を行い、次の参観に臨むという実践のサイクルを経験する。また、学校（園）参観と省察にあたり、学校（園）見学のための作法や、記録の取り方、省察の方法についても学び、教育実践をとらえる視点・ものの見方を鍛える。	
		基礎ゼミⅡ	「授業」（保育）とは何か、いかに運営されるべきなのか、といった問題に関して、理論的アプローチから検討を行う。また、乳幼児・児童を指導するための方法・技術の具体を学修する。とりわけ、教員の間で長年培われ、伝承されてきた様々なスキルを演習を通じて考え、身につけていく。 また、その中で生ずる疑問や自身の教育・保育への思い、自己の教育観などについても論議し、現職教師や保育者の実践や言葉を聴き、省察し、実践をとらえる視点・ものの見方を鍛える。	
		基礎ゼミⅢ	教職を志す学生に求められる様々な研究方法について学び、その特徴を理解することが本授業の目的である。教育的事象を分析してゆくうえで理解しておくべき様々な研究方法を学び、実際に研究を遂行するためのスキルを体得する。また、研究を行ううえでの基本的なルールを把握し、教育をめぐる問題を分析するために必要な知識を習得する。	
		専門基礎演習Ⅰ	インターンシップ等での教育・保育実践経験をふりかえり、受講者自身の課題意識を明確にしていくことを目的とする。その後、広く教育に関わる文献を読み、近年の研究課題や研究方法、考察や議論の展開を学ぶ。受講者は、担当の文献を読み、発表することが求められる。この過程をとおして、文献の批判的な読み方および教育研究についての認識を深めることを目的とする。最後に、教育実習に向けた授業構想を教育研究の視点から検討する。	

		専門基礎演習Ⅱ	教育・保育実習のふりかえりをとおして、受講者自身の問題意識を明確にしていく。その後、各自の問題意識にもとづき、広い意味での教育学および教育実践に関わる先行研究を調査し、その内容を発表して共同で討議する。この過程をとおして、問題意識を教育研究の文脈に結びつけ、研究方法の構想の手がかりとすることを目的とする。	
		専門演習Ⅰ	3年次の専門基礎演習をさらに発展させ、4年間の学修成果をまとめるための授業である。具体的には、卒業研究の計画ならびに進め方に関する指導を中心に行う。受講者は、各自の卒業研究の計画発表を行う。特に、問題設定（問題意識、概念定義、先行研究、仮説）などを中心に、事前にレジュメを作成し、それに基づいて発表し、全体で討議する形で進める。	
		専門演習Ⅱ	専門演習Ⅰに引き続き、3年次の専門基礎演習をさらに発展させ、4年間の学修成果をまとめるための授業である。卒業研究の進め方に関する指導を中心に行う。受講者は各自の卒業研究の進捗発表を行う。専門演習Ⅰで設定した問題についての研究方法と、研究の進捗を中心に、事前にレジュメを作成し、それに基づいて発表し、全体で討議する形で進める。	
		教職基礎Ⅰ	（概要）教職を志す学生に求められる基礎的知識を網羅的に学習し、教育をめぐる諸問題に横断的にアプローチするための視座を獲得することが本授業の目的である。授業では演習を取り入れ、参加者が主体的に知識の習得につとめる。また、教育問題に関して、論述と議論を重ねることで、授業参加者の問題意識を深めてゆく。 （オムニバス方式／全15回） （13 羽野 ゆつ子 ・ 16 井藤 元／8回）（共同） 教育心理学に関する内容を担当する。具体的には、発達心理学と学習心理学の理論と知識を概観し、基礎的な知識の定着を図る。 （16 井藤 元 ・ 13 羽野 ゆつ子／7回）（共同） 教育学に関する内容を担当する。具体的には、教育方法や教育課程に関する理論と知識を概観し、基礎的な知識の定着を図る。	オムニバス方式・共同（一部）
		教職基礎Ⅱ	（概要）教職を志す学生に求められる応用的知識を学習し、教育をめぐる諸問題を深く洞察するための視座を獲得することが本授業の目的である。授業では演習を取り入れ、参加者が主体的に知識の習得につとめる。また、教育問題に関して、論述と議論を重ねることで、授業参加者の問題意識を深めてゆく。 （オムニバス方式／全15回） （13 羽野 ゆつ子 ・ 16 井藤 元／8回）（共同） 広い意味での教育心理学に関する内容を担当する。具体的には、教育評価や心理検査などを心理学の理論に基づき概観し、基礎的な知識の定着を図る。 （16 井藤 元 ・ 13 羽野 ゆつ子／7回）（共同） 広い意味での教育学に関する内容を担当する。具体的には、教育法規や学校運営、学級運営などを教育学および教育方法学に基づき概観し、基礎的な知識の定着を図る。	オムニバス方式・共同（一部）
		キャリア演習Ⅰ	学生が自分の特性を見つめ直し、主体的に自身の人生設計を考えていくために、キャリアサポートセンターと協力して次の課題に取り組んでいく。まず、計画的に学習する態度を養っていくために学習計画の立て方を学び、実際に計画を立ててみる。次に、自分の学習計画をもとに、毎回進捗状況をチェックすると同時に、実社会において活躍していくのに必要な教養やスキル等を学んでいく。これらの取り組みを通し、社会人として働くことの意義を理解し、就業意識を高めていく。	

教職 キャリア	キャリア演習Ⅱ	学生が自分の特性を見つめ直し、主体的に自身の人生設計を考えていくために、キャリアサポートセンターと協力して次の課題に取り組んでいく。まず、計画的に学習する態度を養っていくために、学習計画を立てる。次に、小学校教員・幼稚園教諭・保育士に求められる専門的な知識や社会教養について、その習得状況を個別的に確認し、不十分な場合は補充を行っていく。また、自分の学習計画をもとに毎回進捗状況をチェックするとともに、今日の学校教育をめぐる主要な問題についてそれぞれテーマ化し、小論文形式で問題理解を深めることによって課題意識を養っていく。	
	キャリア演習Ⅲ	学生が、小学校教員・幼稚園教諭・保育士として必要な資質・能力を身につけるために、キャリアサポートセンターと協力して次の課題に取り組んでいく。まず、今日の小学校教員・幼稚園教諭・保育士に求められる資質・能力の内容について調査し、自身の今後の課題を見出す。そしてその課題をテーマに、小集団による討論を通してコミュニケーション・スキルの向上を図る。そして担当教員の講義から最近の教育課題（いじめ、体罰、保護者対応等）について知識を蓄え、さらにその教育課題をテーマとした討論によって理解を深めていく。	
	基礎教養(国語、算数)	(概要) 教員として、最小限知っておきたい国語科及び算数科の基礎的な知識をしっかりと理解し身につけるために行う。特に、小学校教員を目指す者にとっては、一般常識的な国語の能力に加え、教科国語科・算数科を指導する上で必要な知識や技能を身につけることにより、小学校での指導内容を幅広く、そして、より深くとらえることができるので、中学校・高等学校を中心にその内容を解説する。 (オムニバス方式／全15回) (10 辻村 敬三 ・ 12 橋本 隆公 ／8回) (共同) 国語科の基礎的な内容を担当する。文字、語句、古文・漢文等の言語的事項、文章読解、文章記述、音声言語の知識・技能について、基本的な内容を解説し、知識の定着を図る。 (12 橋本 隆公 ・ 10 辻村 敬三 ／9回) (共同) 算数科の基礎的な内容を担当する。数学Ⅰ(式、図形、資料の活用など)、Ⅱ(計算、一次関数、確率など)、Ⅲ(因数分解、三平方の定理など)、高等数学Ⅰ(方程式、不等式、二次関数など)、Ⅱ(証明、関数、微分積分の考え方など)、Ⅲ(極限、微分法、積分法)の基本的な内容を取り上げ、知識の定着を図る。	オムニバス方式・共同(一部)
	基礎教養(理科、社会)	(概要) 教員として、最小限知っておきたい社会科・理科の基礎的な知識をしっかりと理解し身につけるために行う。特に、小学校教員を目指す者にとっては、上級学校の社会科・理科の内容を身につけることにより、小学校での指導内容を幅広く、そして、より深くとらえることができるので、中学校・高等学校の内容をおさえながら解説する。 (オムニバス方式／全15回) (2 西川 秀智 ・ 15 福岡 亮治 ／8回) (共同) 社会科の基礎的な内容を担当する。日本および世界の地理、歴史、政治経済、現代社会にかかわる内容を解説し、知識の定着を図る。 (15 福岡 亮治 ・ 2 西川 秀智 ／8回) (共同) 理科の基礎的な内容を担当する。特に、小学校の理科教育の指導に必要となる推理・判断等の思考力を育てる。たとえば、比較、関係付け、条件制御、推論、分析・解釈などの思考を取り上げる。	オムニバス方式・共同(一部)

都道府県内における位置関係の図面

大阪府

※MapFan(<http://www.mapfan.com/kankou/27/jmap.html>)よりデータ取得の上、
大阪成蹊大学・茨木校地の所在地を赤枠で示した。

滋賀県

※MapFan(<http://www.mapfan.com/kankou/27/jmap.html>)よりデータ取得の上、
びわこセミナーハウスの所在地を赤枠で示した。

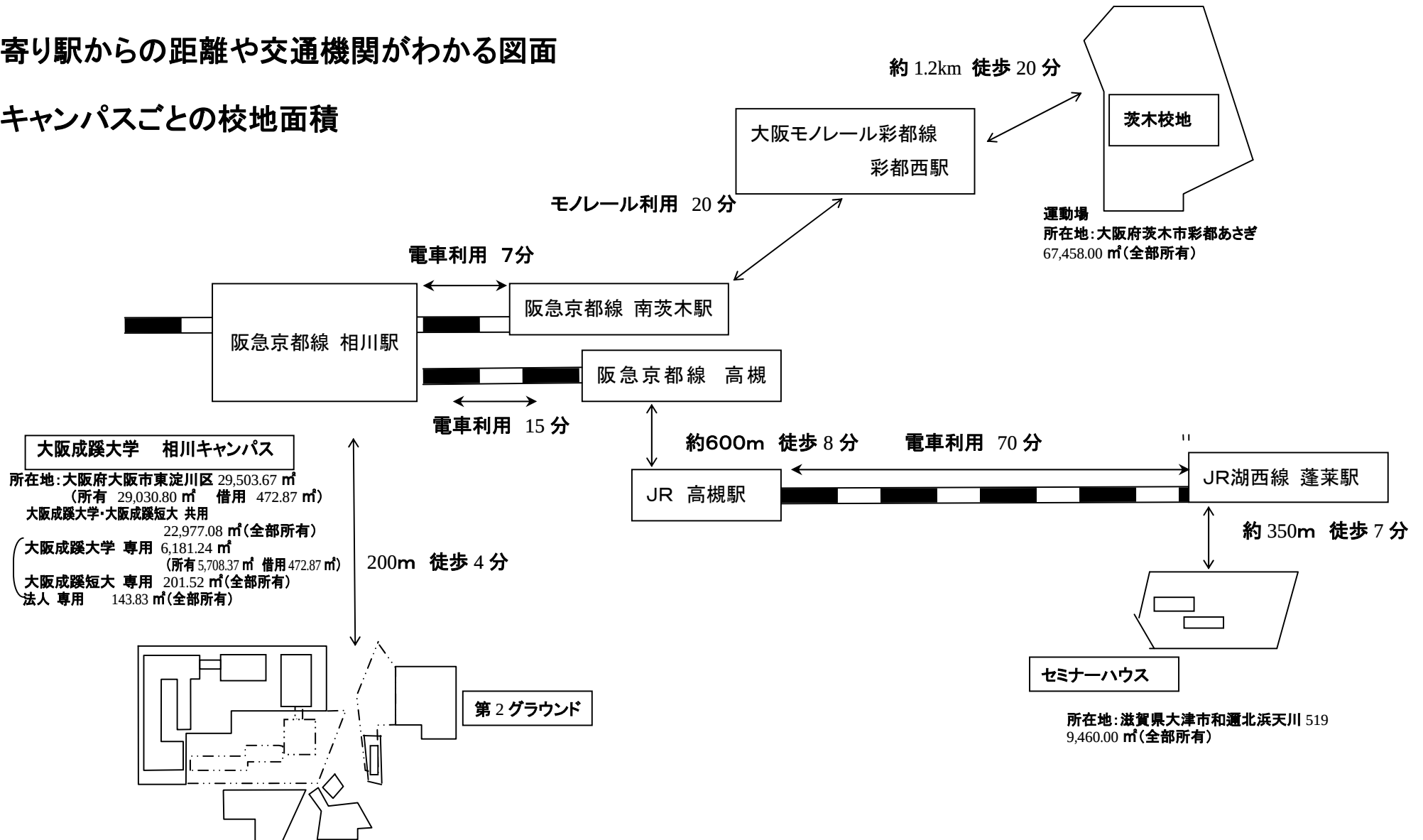
最寄り駅からの距離や交通機関がわかる図面



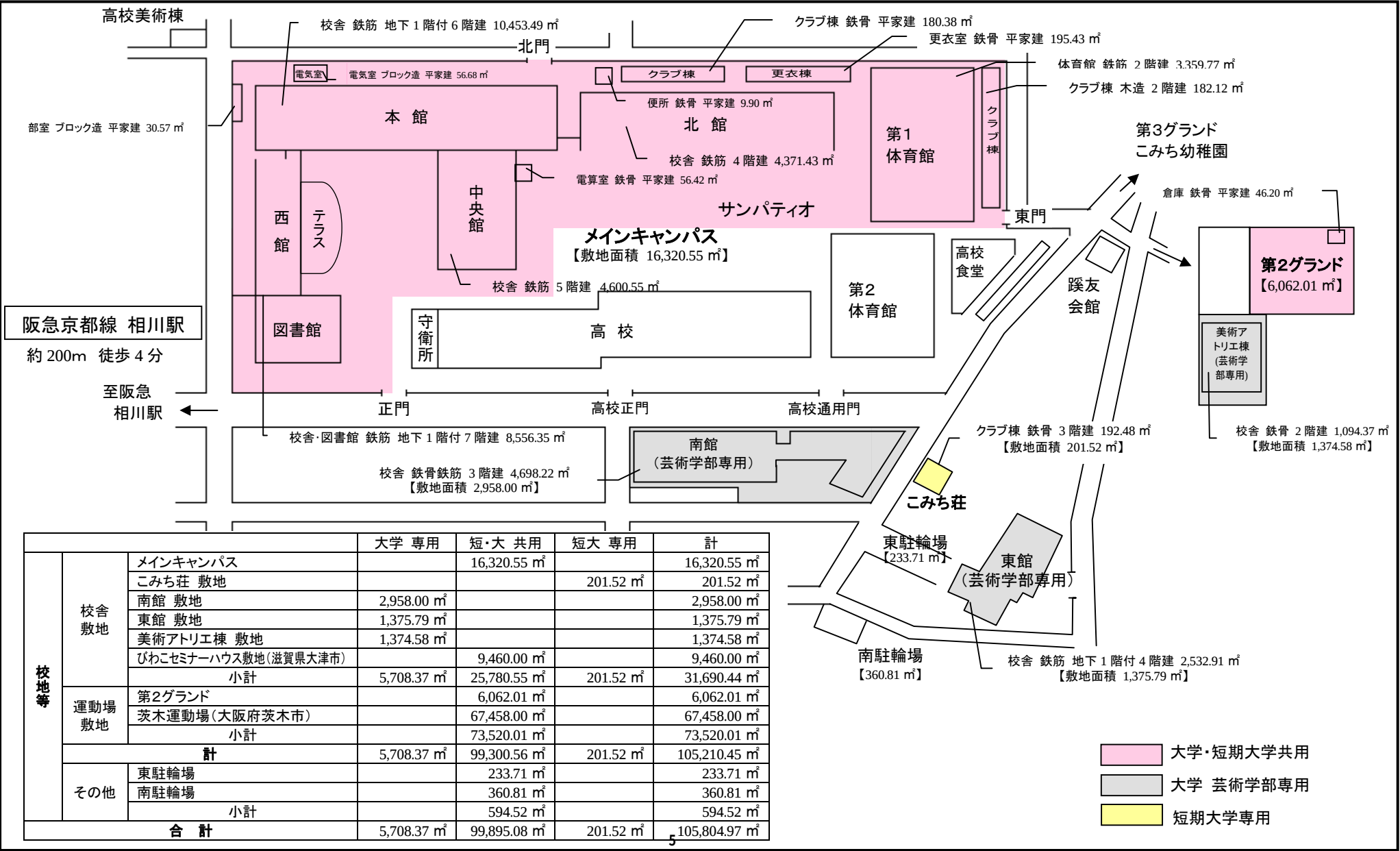
- 阪急相川駅より東へ 200m。
- 地下鉄今里筋線井高野駅から西へ 850m。
- JR 京都線吹田駅下車。阪急バス(31-86 系統)乗車。阪急相川下車。東へ 250m。

最寄り駅からの距離や交通機関がわかる図面

各キャンパスごとの校地面積



校舎、運動場等の配置図



教育学部専用、共用校舎平面図

クラブ棟(第1体育館横)

大短共用	1階	102.37㎡
	2階	79.75㎡
	計	182.12㎡

基準外

第1体育館

クラブ棟(北館北)

大短共用 180.38㎡

基準外

更衣棟(北館北)

大短共用 195.43㎡

便所(北館北)

大短共用 9.90㎡

相川キャンパス内小型建物平面図

大学・短大共用

クラブ棟(第1体育館横)	182.12㎡
クラブ棟(北館北)	180.38㎡
更衣棟(北館北)	195.43㎡
便所(北館北)	9.90㎡
電気室(本館裏)	56.68㎡
クラブ棟(本館西)	30.57㎡
電算室	56.42㎡

電算室

大短共用 56.42㎡

電算室

中央館

本館

電気室(本館裏)

大短共用 56.68㎡

図書館

西館

基準外

クラブ棟(本館西)

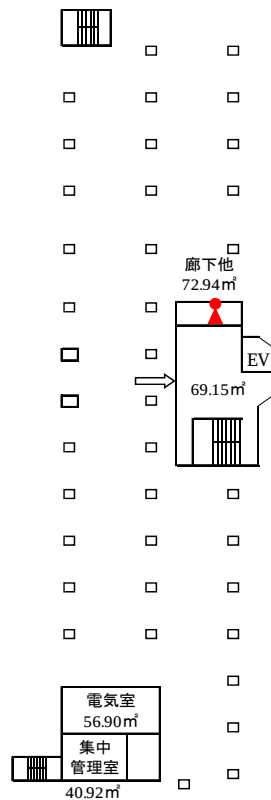
大短共用 30.57㎡

① 北館平面図 (4,371.43㎡)

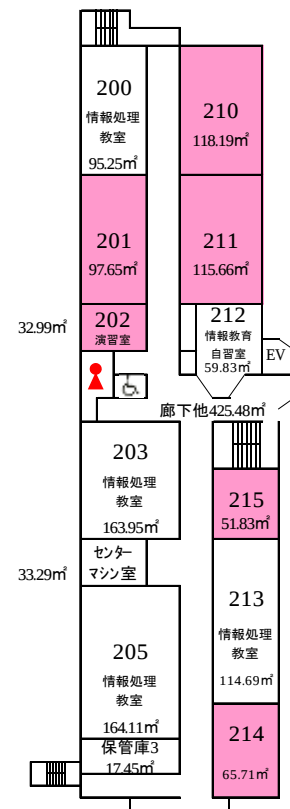
教育学部専用
 大学、短大の共用

..... 1,733.64㎡
 2,637.79㎡

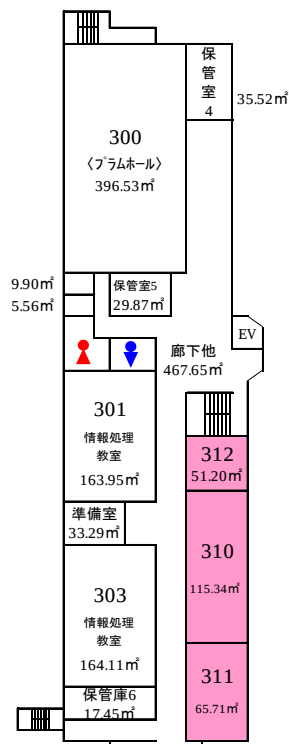
(面積)
1階 239.91㎡
 大短共用 239.91㎡



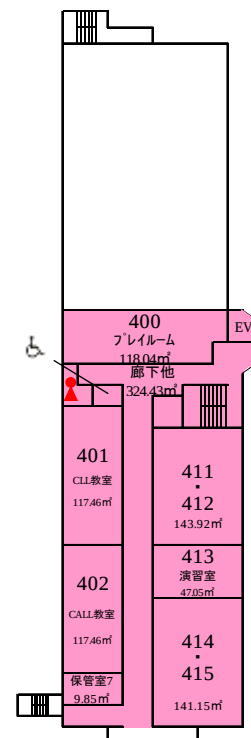
(面積)
2階 1,556.08㎡
 教育学部専用 482.03㎡
 大短共用 1074.05㎡



(面積)
3階 1,556.08㎡
 教育学部専用 232.25㎡
 大短共用 1323.83㎡



(面積)
4階 1,019.36㎡
 教育学部専用 1019.36㎡



(面積)

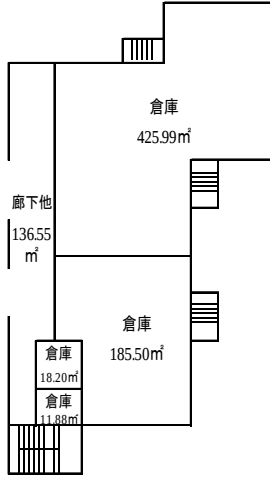
② 本館平面図 (10,453.49㎡)

大学専用	 60.75㎡
教育学部、短大児童教育学科の共用	 816.22㎡
大学、短大の共用	 6131.57㎡
他学部専用	 3444.95㎡

(面積)

地下1階 778.12㎡

大短共用 778.12㎡

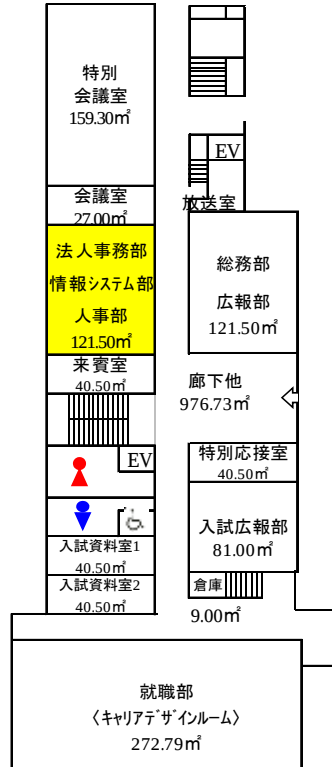


(面積)

1階 1,964.8㎡

大短共用 1,843.3㎡

他学部専用 121.5㎡



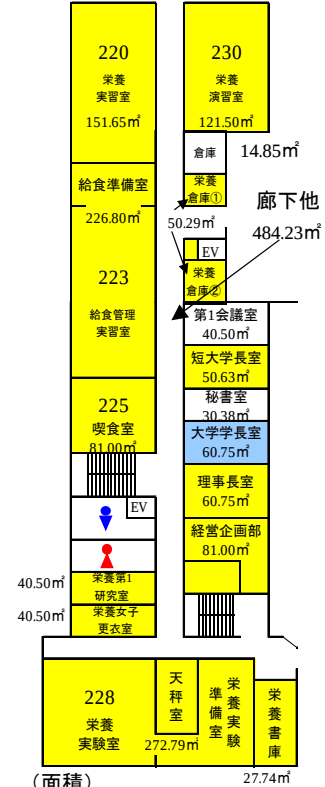
(面積)

2階 1,835.86㎡

大学専用 60.75㎡

大短共用 569.96㎡

他学部専用 1,205.15㎡

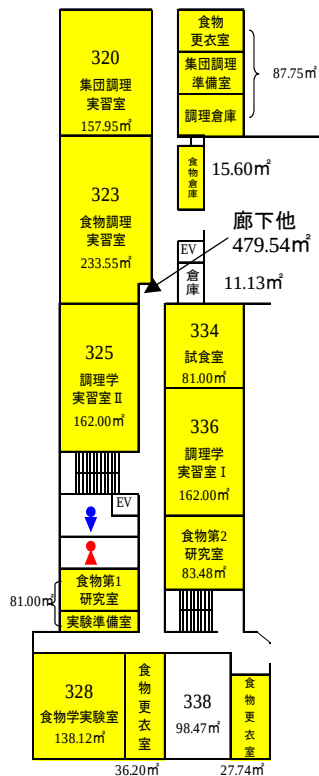


(面積)

3階 1,855.53㎡

大短共用 589.14㎡

他学部専用 1,266.39㎡



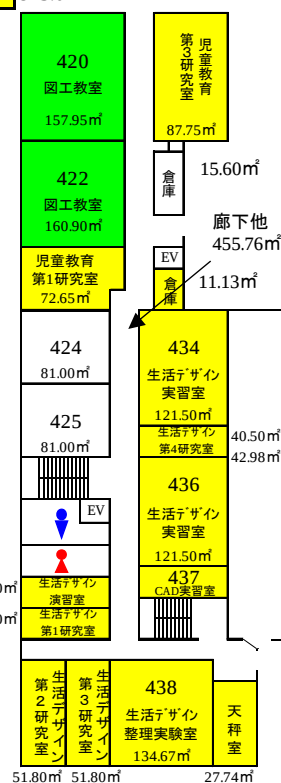
(面積)

4階 1,797.23㎡

教・幼共用 318.85㎡

大短共用 633.36㎡

他学部専用 845.02㎡

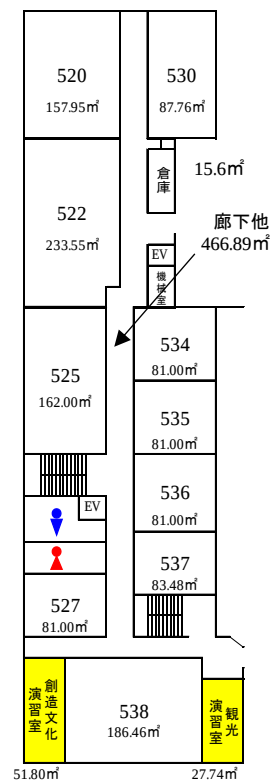


(面積)

5階 1,797.23㎡

大短共用 1,717.69㎡

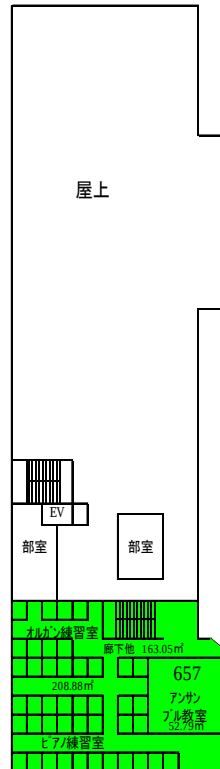
他学部専用 79.54㎡



本館平面図 (面積)
(10,453.49㎡)

	大学専用
	教育学部、短大児童教育学科の共用
	大学、短大の共用
	他学部専用

	(面積)
6階	424.72㎡
教・幼共用	424.72㎡



(面積)

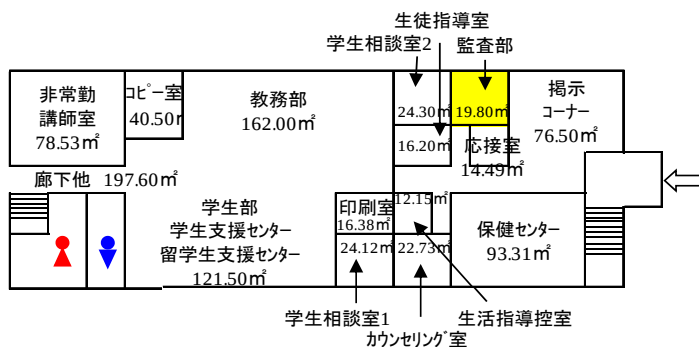
③ 中央館平面図 (4,600.55㎡)

	教育学部専用	 690.98㎡
	教育学部、短大児童教育学科の共用	 204.98㎡
	教育学部、マネジメント学部、短大総合 生活学科、児童教育学科の共用	 202.50㎡
	大学、短大の共用	 3044.20㎡
	他学部専用	 457.89㎡

(面積)

1階	920.11㎡
大短共用	900.31㎡
他学部専用	19.80㎡

□



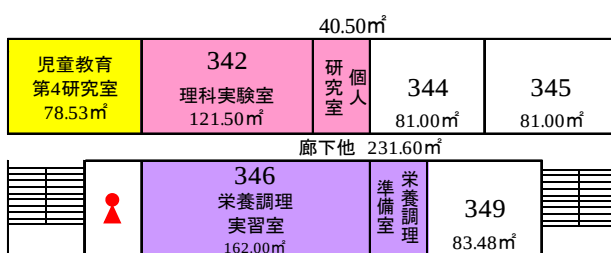
(面積)

2階	920.11㎡
教育学部専用	447.98㎡
大短共用	353.10㎡
他学部専用	119.03㎡



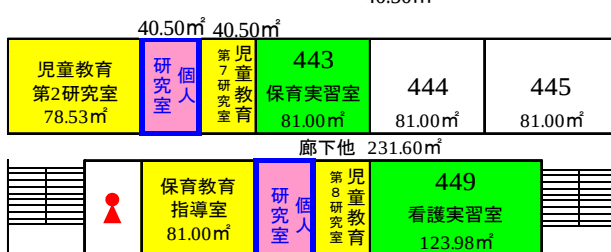
(面積)

3階	920.11㎡
教育学部専用	162.00㎡
教・マ・児・総合共用	202.50㎡
大短共用	477.08㎡
他学部専用	78.53㎡



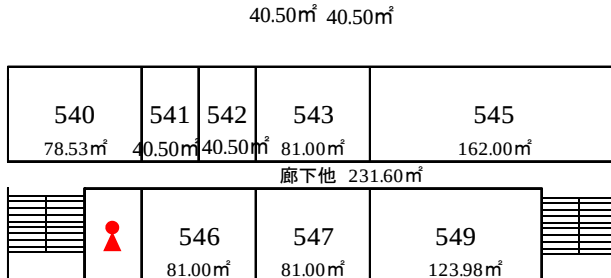
(面積)

4階	920.11㎡
教育学部専用	81.00㎡
教・児共用	204.98㎡
大短共用	393.60㎡
他学部専用	240.53㎡



(面積)

5階	920.11㎡
大短共用	920.11㎡

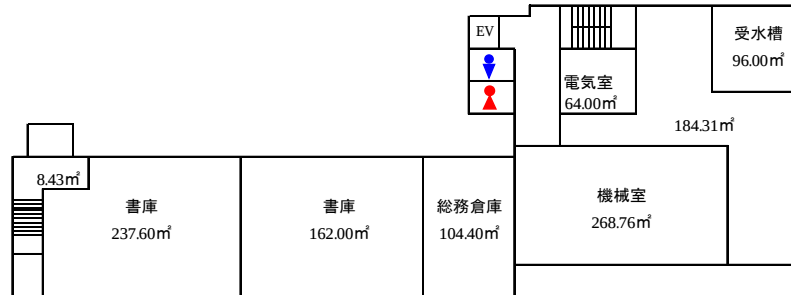


(面積)
④ 西館・図書館平面図 (8,556.35㎡)

 教育学部専用	 104.40㎡
 教育学部、短大児童教育学科の共用	 1009.80㎡
 大学、短大の共用	 6193.00㎡
 他学部専用	 1249.15㎡

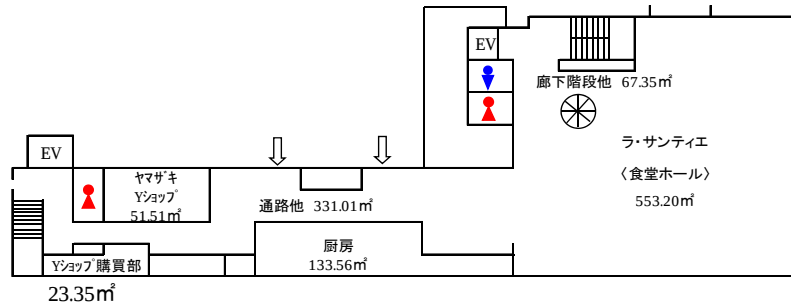
(面積)

地下1階	1,125.50㎡
大短共用	1125.50㎡



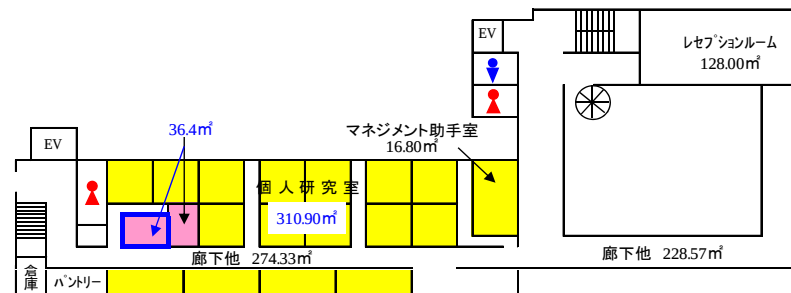
(面積)

1階	1,159.98㎡
大短共用	1159.98㎡



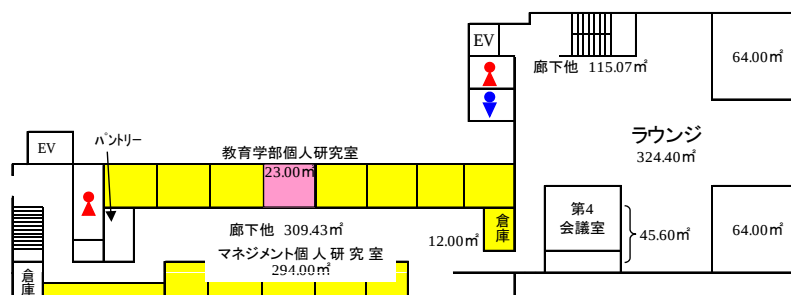
(面積)

2階	995.00㎡
教育学部専用	36.40㎡
大短共用	630.90㎡
他学部専用	327.70㎡



(面積)

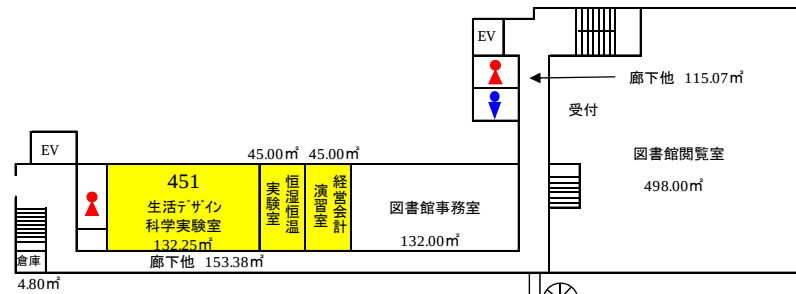
3階	1,251.50㎡
教育学部専用	23.00㎡
大短共用	922.50㎡
他学部専用	306.00㎡



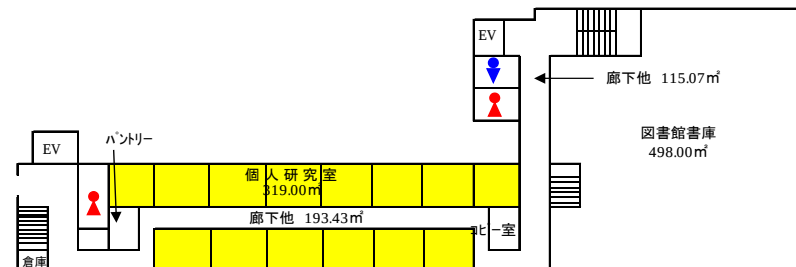
西館・図書館平面図

	教育学部専用
	教育学部、短大児童教育学科の共用
	大学、短大の共用
	他学部専用

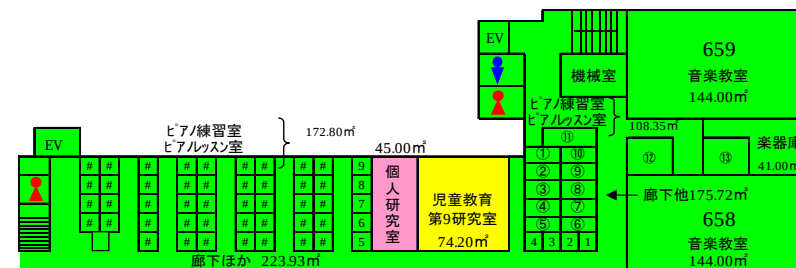
(面積)	
4階	1,125.50㎡
大短共用	903.25㎡
他学部専用	222.25㎡



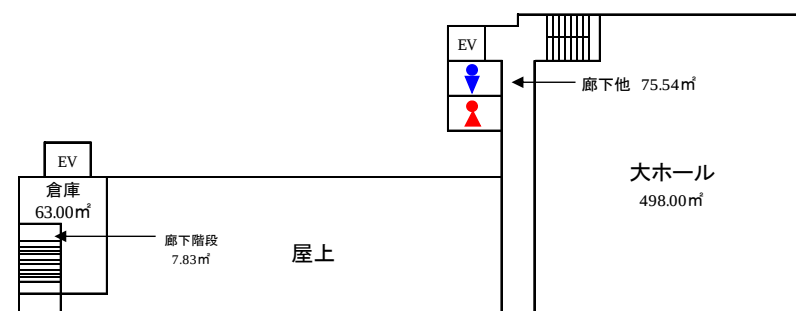
(面積)	
5階	1,125.50㎡
大短共用	806.50㎡
他学部専用	319.00㎡



(面積)	
6階	1,129.00㎡
教育学部専用	45.00㎡
教・児共用	1009.80㎡
他学部専用	74.20㎡



(面積)	
7階	644.37㎡
大短共用	644.37㎡



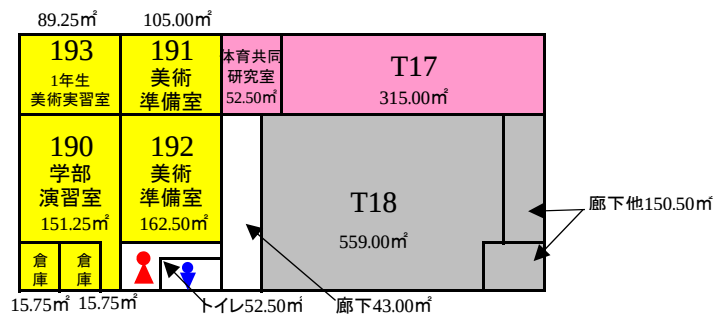
(面積)

⑤ 第1体育館平面図 (3,359.77㎡)

	教育学部専用		367.50㎡
	他学部専用		539.50㎡
	大学、短大の共用		95.50㎡
	基準外		2,357.27㎡

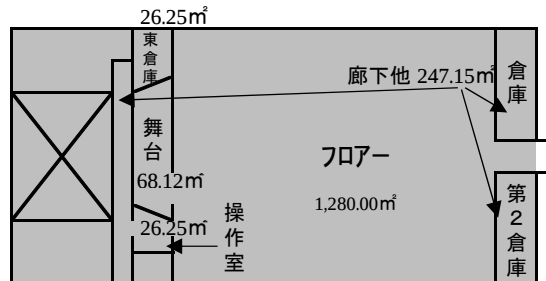
(面積)

1階	1,712.00㎡
教育学部専用	367.50㎡
他学部専用	539.50㎡
大短共用	95.50㎡
基準外	709.50㎡



(面積)

2階	1,647.77㎡
基準外	1,647.77㎡

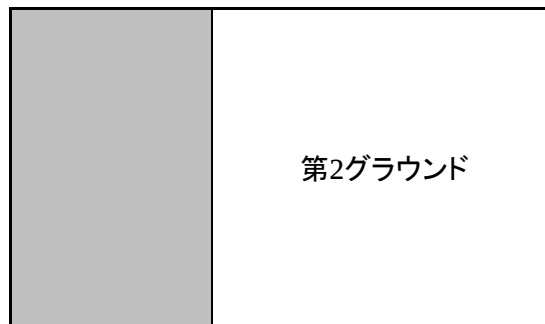


⑥ 第2グラウンド (面積) (46.20㎡)

大学、短大の共用 46.20㎡

大短共用 (面積) 46.20㎡

倉庫 46.20㎡



(面積)
セミナーハウス (1,769.91㎡)

大阪成蹊大学、びわこ成蹊スポーツ大学、大阪成蹊短期大学の共用 1,769.91㎡

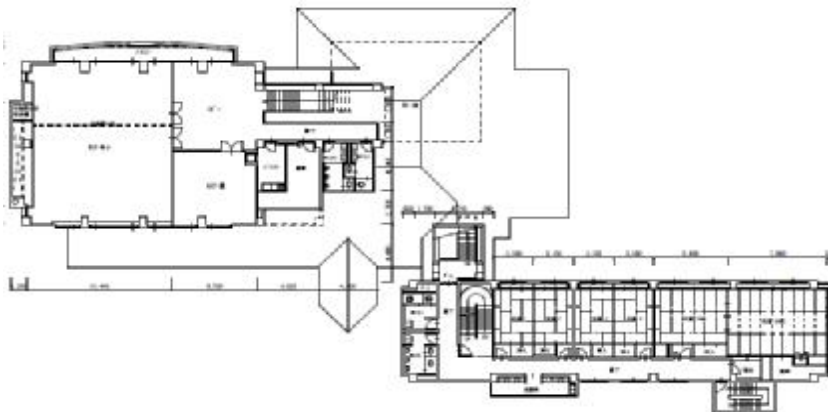
1階 870.84㎡ (含む倉庫、19.26㎡)

大阪成蹊大学、びわこ成蹊スポーツ大学、大阪成蹊短期大学の共用 870.84㎡



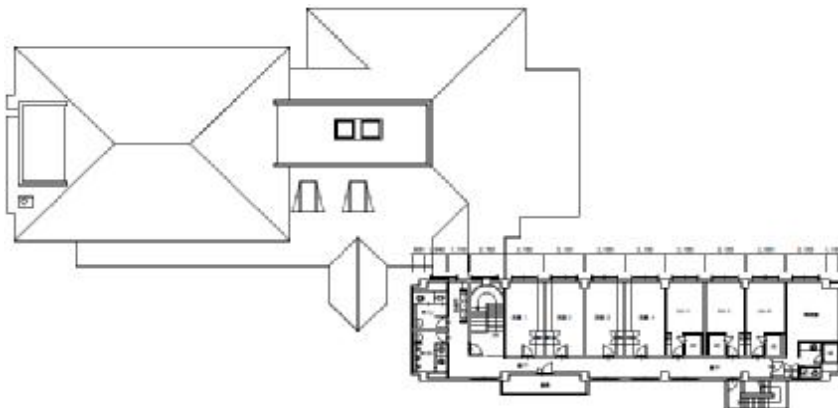
2階 624.26㎡

大阪成蹊大学、びわこ成蹊スポーツ大学、大阪成蹊短期大学の共用 624.26㎡



2階 274.81㎡

大阪成蹊大学、びわこ成蹊スポーツ大学、大阪成蹊短期大学の共用 274.81㎡



第1章 総則

第1節 目的及び自己点検・評価

(目的)

第1条 本学は人間の徳を涵養する成蹊の名を体し、幅広く深い教養と総合的な判断力を備えた豊かな人間性を培うとともに、深く専門の学芸を教授研究し、実践的な専門教育に重きを置く大学教育を施し、実社会において知的、道徳的及び応用的能力を展開し得る人材の育成を目的とする。

(自己点検・評価)

第2条 本学は、その教育水準の向上を図り、前条の目的及び社会的使命を達成するため、本学における教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行うものとする。

2 前項の点検及び評価の実施に関する規程は、別に定める。

第2節 組織

(学部、学科及び収容定員)

第3条 本学に、次の学部、学科を置く。

マネジメント学部
マネジメント学科
芸術学部
情報デザイン学科
環境デザイン学科
美術学科
教育学部
教育学科

2 前項の学部、学科における教育研究目的は次の各号に掲げるとおりとする。

(1) マネジメント学部 マネジメント学科

現代の社会・経済・経営・情報環境の下で求められる「ビジネスとマネジメント、及び情報処理に関する基礎的能力とスキル」及び「コミュニケーションに関する基礎的能力とスキル」を備え、現代の多様な経営課題の解決に貢献できる人材を育成する。

(2) 芸術学部

芸術的教養や芸術的表現能力を育成するとともに、専門領域を超えた幅広い視野と知識を持ち、社会の要請を敏感に感じ取り社会との関わりにおいてその芸術的感性や表現能力を生かし、心豊かな社会の実現に寄与することのできる人材の育成をする。

①情報デザイン学科

芸術的感性と表現能力を科学技術と結びつけ、人間社会やその歴史、文化の知識に基づき、培った情報技術能力によって視覚伝達のさまざまな媒体の可能性を追求できる、発想力豊かな人材を育成する。

②環境デザイン学科

人間を取り巻く自然、社会、人間などの広く環境全般にわたるさまざまな環境因子をデザインの対象としながら、人間生活に造形表現を通して働きかけることのできる構想力豊かな人材を育成する。

③美術学科

伝統的な造形表現と未来を開く革新的な造形思考との往還の中に現代人の置かれたさまざまな局面を捉え、未来的な展望のもとに個性豊かな表現の可能性を追求でき

る創造力豊かな人材を育成する。

(3) 教育学部 教育学科

時代が求める新しい教育への対応と普遍的な教育の営みとを総合的・専門的に学修し、未来を切り拓く子どもの「生きる力」を育むことのできる幅広い教養をもった専門職業人を育成する。

3 前項の各学部置く学科、入学定員、編入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。

学部	学科	入学定員	第3年次編入学定員	収容定員
マネジメント学部	マネジメント学科	200	40	880
芸術学部	情報デザイン学科	97	0	388
	環境デザイン学科	30	0	120
	美術学科	30	0	120
	計	157	0	628
教育学部	教育学科	100	10	420
合計		457	50	1928

(図書館)

第4条 本学に、図書館を置く。

2 図書館に関し必要な事項は、別に定める。

(保健センター)

第5条 本学に、保健センターを置く。

2 保健センターに関し必要な事項は、別に定める。

(事務)

第6条 本学に事務組織を置く。

2 事務組織に関し必要な事項は、別に定める。

第3節 教職員組織

(教職員)

第7条 本学に学長、教授、准教授、助教、助手及び事務職員を置く。ただし、教育研究上の組織編制として適切と認められる場合は、准教授、助教又は助手を置かないことができる。

2 本学に、前項のほか、副学長、学部長、講師、技術職員その他必要な職員を置くことができる。

(職務)

第8条 学長は、本学を代表し校務を掌り、所属教職員を統括する。教授は、専攻分野について、教育上、研究上又は実務上の特に優れた知識、能力及び実績を有する者であって、学生を教授し、その研究を指導し、又は研究に従事する。准教授は、専攻分野について、教育上、研究上又は実務上の優れた知識、能力及び実績を有する者であって、学生を教授し、その研究を指導し、又は研究に従事する。助教は、専攻分野について、教育上、研究上又は実務上の知識及び能力を有する者であって、学生を教授し、その研究を指導し、又は研究に従事する。助手は、その所属する組織における教育研究の円滑な実施に必要な業

務に従事する。講師は教授又は准教授に準ずる職務に従事する。

2 その他の事務職員の職務については、別に定める。

第4節 評議会及び教授会

(評議会)

第9条 本学に、本学の重要事項を審議するため評議会を置く。

2 評議会に関し必要な事項は、別に定める。

(教授会)

第10条 学部に、学部の重要事項を審議するため教授会を置く。

2 教授会に関し必要な事項は、別に定める。

第2章 学部通則

第1節 学年、学期及び休業日

(学年)

第11条 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(学期)

第12条 学年を、次の2学期に分ける。

前学期 4月1日から9月30日まで

後学期 10月1日から翌年3月31日まで

(休業日)

第13条 休業日は、次のとおりとする。

(1) 日曜日

(2) 国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日

(3) 本学園の創立記念日(4月20日)

(4) 春期休業日(3月1日から3月31日まで)

(5) 夏期休業日(7月21日から8月31日まで)

(6) 冬期休業日(12月24日から翌年1月6日まで)

2 必要がある場合は、学長は、前項の休業日を臨時に変更することができる。

3 第1項に定めるもののほか、学長は、臨時の休業日を定めることができる。

第2節 修業年限及び在学期間

(修業年限)

第14条 本学の修業年限は、4年とする。

2 在学期間は、8年を超えることはできない。ただし、第20条第1項、第21条第1項及び第22条第1項の規定により入学を許可された者は、それぞれの在学すべき年数の2倍に相当する年数を超えて在学することはできない。

第3節 入学、編入学、再入学、休学、復学、転学、退学、除籍及び復籍等

(入学時期)

第15条 入学時期は学年の始めから30日以内とする。ただし、転入学及び再入学については、学期の始めとすることができる。

(入学資格)

第16条 学部に入學することができる者は、次の各号の一に該当する者とする。

- (1) 高等学校若しくは中等教育学校を卒業した者
- (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者(通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者を含む。)
- (3) 外国において学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの
- (4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- (5) 専修学校の高等課程(修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。)で文部科学大臣が別に指定したものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- (6) 文部科学大臣の指定した者
- (7) 高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験に合格した者(旧規程による大学入学資格検定(以下「旧検定」という。)に合格した者を含む。)
- (8) 学校教育法第90条第2項の規定により大学に入学した者であって、本学において、大学における教育を受けるにふさわしい学力があると認めたもの
- (9) 本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、18歳に達したもの

(入学の出願)

第17条 本学に入学を志願する者は、入学志願票に別に定める書類及び第54条に定める検定料を添えて願い出なければならない。

(入学者の選考)

第18条 前条の入学志願者については、別に定めるところにより、選考を行う。

(入学手続及び入学許可)

第19条 前条の選考の結果に基づき合格の通知を受け、入学しようとするものは、所定の期日までに、所定の書類を提出するとともに、所定の入学手続料を納付しなければならない。

2 学長は、前項の入学手続を完了した者に入学を許可する。

(編入学)

第20条 次の各号の一に該当する者で、本学へ編入学を志願する者があるときは、選考の上、相当の年次に入学を許可することがある。

- (1) 高等専門学校又は短期大学(外国の短期大学を含む。)を卒業した者
- (2) 大学(外国の大学を含む。)を卒業した者又は学校教育法第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者
- (3) 他の大学(外国の大学を含む。)に2年以上在学し、所定の単位を修得した者
- (4) その他法令により大学の途中年次に入学できるものと認められている者

2 前項の規定により、編入学を許可された者の既に履修した授業科目及び単位数の取扱いについては、当該学部の教授会の議を経て、学部長が決定する。

(再入学)

第21条 やむを得ない事由により本学を退学した者で、同一学科に再入学を志願する者があるときは、選考の上、相当年次に再入学を許可することがある。

2 前項の規定により、再入学を許可された者の既に履修した授業科目及び単位数の取扱いについては、当該学部の教授会の議を経て、学部長が決定する。

(転入学)

第22条 他の大学(外国の大学を含む。)に在学している者で、本学への転入学を志願する者があるときは、選考の上、相当年次に入学を許可することがある。

- 2 前項の規定により、転入学を許可された者の既に履修した授業科目及び単位数の取扱いについては、当該学部の教授会の議を経て、学部長が決定する。

(転学部及び転学科)

第23条 他の学部に転学部を志願する者又は他の学科に転学科を志願する者は、当該学部教授会の議を経て、学部長が許可することがある。

- 2 前項の規定により、転学部又は転学科を許可された者の既に履修した授業科目及び単位数の取扱いについては、新たに所属することとなる学部の教授会の議を経て、学部長が決定する。

(準用)

第24条 第17条、第18条及び第19条の規定は、第20条、第21条及び第22条の規定により入学するものに準用する。

(休学)

第25条 学生は、疾病その他正当な事由により2月以上修学することができないときは、学長の許可を得て休学することができる。

- 2 疾病のため就学することが適当でないと認められる者については、学長が休学を命ずることができる。

(休学期間)

第26条 休学期間は、1年以内とする。ただし、特別の理由がある場合は、1年を限度として休学期間の延長を認めることができるが、通算3年を超えることはできない。

- 2 休学期間は、第14条に定める在学期間に算入しない。

(復学)

第27条 休学期間中に、その事由が消滅したときは、学長の許可を得て復学することができる。

(転学)

第28条 他の大学に、入学又は転入学を志願しようとする者は、学長の許可を受けなければならない。

(留学)

第29条 外国の大学又は短期大学で修学することを志願する者は、学長の許可を得て留学することができる。

- 2 前項により留学した期間は、第14条の定める修業年限に含めることができる。
- 3 第1項による留学期間中に履修した授業科目について修得した単位の取扱いは、第39条第2項の規定を準用する。

(退学)

第30条 退学をしようとする者は、学長の許可を得なければならない。

(除籍)

第31条 次の各号の一に該当する者は、当該学部の教授会の議を経て、学長が除籍する。

- (1) 授業料の納付を怠り、督促してもなお納付しない者
- (2) 第14条第2項に定める在学年限を越えた者
- (3) 第26条に定める休学期間を超えてなお修学できない者
- (4) 長期間にわたり行方不明で修学できない者

(復籍)

第32条 前条(1)により除籍となった者が復籍を希望する場合は、学長の許可を得て復籍することができる。

第4節 教育課程及び履修方法等

(教育課程の編成方針)

第33条 本学は、学部及び学科の教育上の目的を達成するために必要な授業科目を開設し、体系的に教育課程を編成するものとする。

- 2 教育課程の編成に当たっては、学部の学科に係る専門の学芸を教授するとともに、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養するよう適切に配慮するものとする。

(教育課程の編成方法等)

第34条 教育課程は、各授業科目を必修科目、選択科目及び自由科目に分け、これを各年次に配当して編成するものとする。

- 2 授業科目及びその単位数並びに履修方法については、別に定める。

(授業の方法等)

第35条 授業は、講義、演習、実験、実習、若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。

(単位)

第36条 授業科目の単位の計算方法は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、次の基準によるものとする。

- (1) 講義及び演習については、15時間から30時間までの範囲で別に定める時間の授業をもって1単位とする。
 - (2) 実験、実習及び実技については、30時間から45時間までの範囲で別に定める時間の授業をもって1単位とする。
- 2 前項の規程にかかわらず、卒業論文、卒業研究、卒業制作等の授業科目についてはこれらの学修の成果を評価して単位を与えることができる。

(単位の授与)

第37条 授業科目を履修し、その試験に合格した者には、担当教員が所定の単位を与える。

(他の学部の授業科目の履修等)

第38条 教育上有益と認められるときは、学生は、他の学部の授業科目を履修し、その単位を修得することができる。

- 2 他の学部の授業科目の履修に関し必要な事項は、別に定める。

(他の大学又は短期大学における授業科目の履修等)

第39条 教育上有益と認めるときは、学生が他の大学又は短期大学において、履修した授業科目について修得した単位は60単位を超えない範囲で本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。但し、保育士に関する授業科目については30単位以内とする。

2 前項の規定は、外国の大学又は短期大学に留学し修得した場合に準用する。

3 他の大学又は短期大学における授業科目の履修に関し必要な事項は、別に定める。

(大学以外の教育施設等における学修)

第40条 教育上有益と認めるときは、学生が行う短期大学又は高等専門学校の特攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、当該学部の教授会の議を経て、当該学部長が本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 前項の規定により与えることができる単位数は、前条第1項により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。但し、保育士に関する授業科目については30単位以内とする。

3 大学以外の教育施設等における学修に関し必要な事項は、別に定める。

(入学前の既修得単位等の認定)

第41条 教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に大学又は短期大学(外国の大学又は短期大学を含む。)において履修した授業科目について修得した単位を、入学後の本学における授業科目の履修とみなし単位を与えることができる。

2 教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に行った前条第1項に規定する学修を、学部教授会の議を経て、当該学部長が本学における授業科目の履修とみなし単位を与えることができる。

3 前2項により修得したものとみなし、又は与えることができる単位数は、編入学及び転入学の場合を除き、本学において修得した単位以外のものについては、合わせて60単位を超えないものとする。但し、保育士に関する授業科目については30単位以内とする。

4 既修得単位等の認定に関し必要な事項は、別に定める。

(成績の評価)

第42条 成績評価は、優・良・可及び不可をもって表し、可以上を合格とする。

(教育職員免許状)

第43条 教育職員免許状授与の所要資格を取得しようとする者は、教育職員免許法(昭和24年法律第147号)及び教育職員免許法施行規則(昭和29年文部省令第26号)に定める所定の単位を修得しなければならない。

2 本学において当該所要資格を取得できる教育職員免許状の種類及び教科は、別表のとおりとする。

(保育士資格)

第43条の2 教育学部の学生で保育士資格を取得しようとする者は、児童福祉法(昭和22年法律第164号)及び児童福祉法施行規則(昭和23年厚生省令第11号)に定める所定の単位を修得しなければならない。

(博物館学芸員資格)

第44条 芸術学部の学生で博物館法(昭和26年法律第285号)同法施行規則(昭和30年文部省令第24号)に規定する博物館に関する科目及び別に定める科目の単位を取得した者には、

学芸員の資格証明書を授与する。

第5節 卒業及び学位

(卒業)

第45条 本学に第14条の規定による修業年限以上在学し、次に掲げる単位数を修得した者については、当該学部の教授会の議を経て、学長が卒業を認定する。

マネジメント学部

科目区分	卒業必要単位数	
大学共通科目	38単位以上	124単位以上
専門科目	共通専門科目	20単位以上
	領域別専門科目	48単位以上
自由枠	大学共通科目若しくは専門科目	18単位以上

芸術学部

科目区分	卒業必要単位数	
大学共通科目	36単位以上	124単位以上
専門科目	学部共通専門科目	34単位以上
	学科別専門科目	44単位以上
自由枠	大学共通科目若しくは専門科目	10単位以上

教育学部

科目区分	卒業必要単位数	
大学共通科目	22単位以上	124単位以上
専門科目	専門基礎科目	48単位以上
	専門選択科目	10単位以上
	実践研究科目	22単位以上
	教職キャリア科目	4単位以上
自由枠	大学共通科目若しくは専門科目	18単位以上

(学位)

第46条 卒業した者には、学士の学位を授与する。

2 学位の授与等に関し必要な事項は、別に定める。

第6節 賞罰

(表彰)

第47条 優秀な学業成績を修め又は模範となる行為のあった学生に対しては、当該学部の教授会の議を経て学長が表彰することができる。

(懲戒)

第48条 学生が、本学の諸規則及び諸指示を守らないときは、当該学部の教授会及び評議

会の議を経て、学長が懲戒する。

- 2 懲戒の種類は、訓告、停学及び退学とする。
- 3 前項の懲戒のうち、退学については、次の各号に該当する者に対して行うことができる。
 - (1) 性行不良で改善の見込みがないと認められる者
 - (2) 正当な理由なくして出席が常でない者
 - (3) 本学の秩序を乱し、その他学生としての本分に著しく反した者

第7節 研究生、聴講生、科目等履修生、単位互換履修生及び外国人留学生

(研究生)

第49条 本学において、特別の専門事項について研究することを志願する者があるときは、本学の教育研究に支障のない場合に限り、選考の上、研究生として入学を許可することができる。

- 2 研究生に関し必要な事項は、別に定める。

(聴講生)

第50条 本学において、特定の授業科目を聴講することを志願する者があるときは、本学の教育研究に支障のない場合に限り、選考の上、聴講生として入学を許可することができる。

- 2 聴講生に関し必要な事項は、別に定める。

(科目等履修生)

第51条 本学の学生以外の者で、一又は複数の授業科目について履修することを志願する者について、本学の教育研究に支障のない場合に限り、選考の上、科目等履修生として入学を許可し、単位を与えることができる。

- 2 科目等履修生に関し必要な事項は、別に定める。

(単位互換履修生)

第52条 他の大学又は短期大学(外国の大学又は短期大学を含む。以下この項において「他の大学等」という。)の学生で、本学において授業科目を履修することを志願する者があるときは、当該他の大学等との協議に基づき、単位互換履修生として、入学を許可することができる。

- 2 単位互換履修生に関し必要な事項は、別に定める。

(外国人留学生)

第53条 外国人で、本学において教育を受ける目的をもって入国し、本学に入学を志願する者があるときは、選考の上、外国人留学生として入学を許可することができる。

- 2 外国人留学生に関し必要な事項は、別に定める。

第8節 入学検定料、入学金及び授業料等

(入学検定料)

第54条 本学への入学志願者は、別に定める入学検定料を納めなければならない。

(入学金、授業料及び教育充実費)

第55条 入学金及び授業料並びに教育充実費(以下、「授業料等」という。)の額は次のとおりとする。

種別	年額		
	マネジメント学部	芸術学部	教育学部
入学金	250,000円	200,000円	250,000円
授業料	775,000円	1,172,000円	850,000円
教育充実費	197,000円	197,000円	280,000円

- 2 外国人留学生、科目等履修生及び研究生の入学検定料、入学金及び授業料等については、別に定める。

(授業料等の納期)

第56条 入学金の納期は、入学時とし、授業料等の納期は、各年度に係わる授業料等については前期及び後期の2期に区分して行うものとし、それぞれの期において納入する額は年額の2分の1に相当する額とする。

- 2 授業料等の納期は、前期分に当たっては4月30日まで、後期分に当たっては10月2日までに納入しなければならない。
- 3 本学において特別の事情があると認められた者は、前項の規定にかかわらず分納又は延納を認めるものとする。
- 4 前項の分納又は延納の期限等については、別に定める。

(その他の納付金)

第57条 実験実習費その他必要な費用は別に徴収する。

(復学等の場合の授業料等)

第58条 学年の中途において復学した者の授業料等の額は、授業料等の年額の12分の1に相当する額に復学の日の属する月から当該学期末までの月数を乗じた額とし、これを復学した日の属する月に納入しなければならない。

(休学の場合の授業料等)

第59条 休学期間中の授業料等は免除する。

- 2 前期又は後期の途中で休学した者は、休学許可された月の翌月から復学した月の前月までの授業料等を免除する。
- 3 休学者は、休学期間中の在籍料を納付しなければならない。
- 在籍料 年額 30,000円

(退学等の場合の授業料等)

第60条 退学、転学する者は、その当該期までの授業料等は全額を納入しなければならない。

(授業料等の免除)

第61条 経済的理由により授業料等の納入が困難と認められる者、休学中の者、その他特別の理由があると認められる者に対しては、授業料等の全額若しくは一部を免除し、又は授業料等を分納して納入させることができる。

- 2 授業料等の減免等に関し必要な事項は別に定める。

第9節 公開講座

(公開講座)

第62条 地域社会の教育と文化・芸術の向上に資するため、必要に応じて公開講座を開設

する。

附 則

- 1 この学則は、平成15年4月1日から施行する。
- 2 ただし、平成15年度、16年度においては、芸術学部は第3条第2項の第3年次編入学定員にかかわらず、3年次に220名の入学生を受け入れることができる。

附 則(平成17年4月1日)

- 1 この学則は、平成17年4月1日から施行し、平成17年度入学生から適用する。
- 2 平成15年度、16年度入学生については、従前の例による。

附 則(平成18年4月1日)

改正 平成24年3月23日

- 1 この学則は、平成18年4月1日から施行し、平成18年度入学生から適用する。
- 2 平成15年度、16年度、17年度入学生については、従前の例による。

(学科の存続に関する経過措置)

大阪成蹊大学 芸術学部美術・工芸学科、デザイン学科は改正後の第3条の規定にかかわらず、当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

(教職課程の存続に関する経過措置)

大阪成蹊大学 芸術学部美術・工芸学科、デザイン学科は改正後の第43条の規定にかかわらず、当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

附 則(平成18年11月16日)

この学則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則(平成20年1月24日)

この学則は、平成20年4月1日から施行する。

附 則(平成21年4月1日)

この学則は、平成21年4月1日から施行する。

附 則(平成21年11月17日)

この学則は、平成22年4月1日から施行する。

附 則(平成21年12月15日)

この学則は、平成23年4月1日から施行する。

改正後の学則第3条の規定は、平成23年度の入学生及び編入学生から適用する。

附 則(平成22年7月20日)

この学則は、平成22年9月1日から施行する。

附 則(平成22年9月21日)

この学則は、平成23年4月1日から施行し、平成23年度入学生から適用する。

附 則(平成24年2月23日)

この学則は、平成24年4月1日から施行する。ただし、第45条については、平成24年度の入学生及び平成26年度の編入学生から適用する。

附 則(平成24年3月23日)

この学則は、平成24年4月1日から施行する。

平成18年4月1日附則の2(学科の存続に関する経過措置)(教職課程に関する経過措置)については、平成24年3月22日現在、当該学科に在学する者がいなくなるため、平成24年3月31日をもって解除する。

附 則(平成24年3月23日)

この学則は、平成24年4月1日から施行する。ただし、第59条第3項については、平成24年度の入学生及び編入学生から適用する。

附 則

この学則は、平成26年4月1日から施行する。

別表(学則第43条第2項)

取得できる教員免許状の種類

学部	教育職員免許状の種類	免許教科
マネジメント学部	中学校教諭一種免許状	社会
	高等学校教諭一種免許状	公民、情報、商業
芸術学部	中学校教諭一種免許状	美術
	高等学校教諭一種免許状	美術
教育学部	幼稚園教諭一種免許状	
	小学校教諭一種免許状	

変更の事由及び変更点

①変更の事由

- ・ 本学に新たに教育学部教育学科を設置することに伴い、学則に教育学部、教育学科を設け、当該学部、学科に関する規定を整備する。

②変更点

- ・ 教育学部教育学科を置く規程に改める(平成26年4月1日から施行する。)

変更規定

第3条 学部、学科及び教育研究目的、入学定員等を規定する。

第39条、第40条、第41条 本学の履修とみなす授業科目のうち、保育士に関する授業科目の上限単位数を規定する。

第43条の2 保育士資格取得要件を規定する。

第45条 卒業要件を規定する。

第55条 入学金、授業料及び教育充実費を規定する。

別表(学則第43条第2項) 取得できる教員免許状を規定する。

変更部分の新旧対照表

新	現行
第1条～第2条 省略	第1条～第2条 省略
第2節 組織	第2節 組織
(学部、学科及び収容定員)	(学部、学科及び収容定員)
第3条 本学に、次の学部、学科を置く。	第3条 本学に、次の学部、学科を置く。
マネジメント学部	マネジメント学部
マネジメント学科	マネジメント学科
芸術学部	芸術学部
情報デザイン学科	情報デザイン学科
環境デザイン学科	環境デザイン学科
美術学科	美術学科
<u>教育学部</u>	新設
<u>教育学科</u>	

2 前項の学部、学科における教育研究目的は次の各号に掲げるとおりとする。

(1) マネジメント学部 マネジメント学科

現代の社会・経済・経営・情報環境の下で求められる「ビジネスとマネジメント、及び情報処理に関する基礎的能力とスキル」及び「コミュニケーションに関する基礎的能力とスキル」を備え、現代の多様な経営課題の解決に貢献できる人材を育成する。

(2) 芸術学部

芸術的教養や芸術的表現能力を育成するとともに、専門領域を超えた幅広い視野と知識を持ち、社会の要請を敏感に感じ取り社会との関わりにおいてその芸術的感性や表現能力を生かし、心豊かな社会の実現に寄与することのできる人材の育成をする。

①情報デザイン学科

芸術的感性と表現能力を科学技術と結びつけ、人間社会やその歴史、文化の知識に基づき、培った情報技術能力によって視覚伝達のさまざまな媒体の可能性を追求できる、発想力豊かな人材を育成する。

②環境デザイン学科

人間を取り巻く自然、社会、人間などの広く環境全般にわたるさまざまな環境因子をデザインの対象としながら、人間生活に造形表現を通して働きかけることのできる構想力豊かな人材を育成する。

③美術学科

伝統的な造形表現と未来を開く革新的な造形思考との往還の中に現代人の置かれたさまざまな局面を捉え、未来的な展望のもとに個性豊かな表現の可能性を追求できる創造力豊かな人材を育成する。

(3) 教育学部 教育学科

時代が求める新しい教育への対応と普遍的な教育の営みとを総合的・専門的に学修し、未来を切り拓く子どもの「生きる力」を育むことのできる幅広い教養をもった専門職業人を育成する。

2 前項の学部、学科における教育研究目的は次の各号に掲げるとおりとする。

(1) マネジメント学部 マネジメント学科

現代の社会・経済・経営・情報環境の下で求められる「ビジネスとマネジメント、及び情報処理に関する基礎的能力とスキル」及び「コミュニケーションに関する基礎的能力とスキル」を備え、現代の多様な経営課題の解決に貢献できる人材を育成する。

(2) 芸術学部

芸術的教養や芸術的表現能力を育成するとともに、専門領域を超えた幅広い視野と知識を持ち、社会の要請を敏感に感じ取り社会との関わりにおいてその芸術的感性や表現能力を生かし、心豊かな社会の実現に寄与することのできる人材の育成をする。

①情報デザイン学科

芸術的感性と表現能力を科学技術と結びつけ、人間社会やその歴史、文化の知識に基づき、培った情報技術能力によって視覚伝達のさまざまな媒体の可能性を追求できる、発想力豊かな人材を育成する。

②環境デザイン学科

人間を取り巻く自然、社会、人間などの広く環境全般にわたるさまざまな環境因子をデザインの対象としながら、人間生活に造形表現を通して働きかけることのできる構想力豊かな人材を育成する。

③美術学科

伝統的な造形表現と未来を開く革新的な造形思考との往還の中に現代人の置かれたさまざまな局面を捉え、未来的な展望のもとに個性豊かな表現の可能性を追求できる創造力豊かな人材を育成する。

新設

- 3 前項の各学部置く学科、入学定員、編入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。

学部	学科	入学定員	第3年次編入学定員	収容定員
マネジメント学部	マネジメント学科	200	40	880
芸術学部	情報デザイン学科	97	0	388
※別途定員 変更届出済	環境デザイン学科	30	0	120
	美術学科	30	0	120
	計	157	0	628
教育学部	教育学科	100	10	420
合計		457	50	1928

第4条～第38条 省略

(他の大学又は短期大学における授業科目の履修等)

第39条 教育上有益と認めるときは、学生が他の大学又は短期大学において、履修した授業科目について修得した単位は60単位を超えない範囲で本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。但し、保育士に関する授業科目については30単位以内とする。

2 前項の規定は、外国の大学又は短期大学に留学し修得した場合に準用する。

3 他の大学又は短期大学における授業科目の履修に関し必要な事項は、別に定める。

(大学以外の教育施設等における学修)

第40条 教育上有益と認めるときは、学生が行う短期大学又は高等専門学校の特攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、当

- 3 前項の各学部置く学科、入学定員、編入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。

学部	学科	入学定員	第3年次編入学定員	収容定員
マネジメント学部	マネジメント学科	200	40	880
芸術学部	情報デザイン学科	70	8	296
	環境デザイン学科	45	4	188
	美術学科	35	3	146
	計	150	15	630
新設				
合計		350	55	1510

第4条～第38条 省略

(他の大学又は短期大学における授業科目の履修等)

第39条 教育上有益と認めるときは、学生が他の大学又は短期大学において、履修した授業科目について修得した単位は60単位を超えない範囲で本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 前項の規定は、外国の大学又は短期大学に留学し修得した場合に準用する。

3 他の大学又は短期大学における授業科目の履修に関し必要な事項は、別に定める。

(大学以外の教育施設等における学修)

第40条 教育上有益と認めるときは、学生が行う短期大学又は高等専門学校の特攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、当

該学部の教授会の議を経て、当該学部長が本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

- 2 前項の規定により与えることができる単位数は、前条第1項により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。但し、保育士に関する授業科目については30単位以内とする。

- 3 大学以外の教育施設等における学修に関し必要な事項は、別に定める。

(入学前の既修得単位等の認定)

第41条 教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に大学又は短期大学(外国の大学又は短期大学を含む。)において履修した授業科目について修得した単位を、入学後の本学における授業科目の履修とみなし単位を与えることができる。

- 2 教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に行った前条第1項に規定する学修を、学部教授会の議を経て、当該学部長が本学における授業科目の履修とみなし単位を与えることができる。

- 3 前2項により修得したものとみなし、又は与えることができる単位数は、編入学及び転入学の場合を除き、本学において修得した単位以外のものについては、合わせて60単位を超えないものとする。但し、保育士に関する授業科目については30単位以内とする。

- 4 既修得単位等の認定に関し必要な事項は、別に定める。

第42条 省略

第43条 教育職員免許状授与の所要資格を取得しようとする者は、教育職員免許法(昭和24年法律第147号)及び教育職員免許法施行規則(昭和29年文部省令第26号)に定める所定の単位を修得しなければならない。

- 2 本学において当該所要資格を取得できる教育

該学部の教授会の議を経て、当該学部長が本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

- ・ 前項の規定により与えることができる単位数は、前条第1項により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

- 3 大学以外の教育施設等における学修に関し必要な事項は、別に定める。

(入学前の既修得単位等の認定)

第41条 教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に大学又は短期大学(外国の大学又は短期大学を含む。)において履修した授業科目について修得した単位を、入学後の本学における授業科目の履修とみなし単位を与えることができる。

- 2 教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に行った前条第1項に規定する学修を、学部教授会の議を経て、当該学部長が本学における授業科目の履修とみなし単位を与えることができる。

- 3 前2項により修得したものとみなし、又は与えることができる単位数は、編入学及び転入学の場合を除き、本学において修得した単位以外のものについては、合わせて60単位を超えないものとする。

- 4 既修得単位等の認定に関し必要な事項は、別に定める。

第42条 省略

第43条 教育職員免許状授与の所要資格を取得しようとする者は、教育職員免許法(昭和24年法律第147号)及び教育職員免許法施行規則(昭和29年文部省令第26号)に定める所定の単位を修得しなければならない。

- 2 本学において当該所要資格を取得できる教育

職員免許状の種類及び教科は、別表のとおりとする。

(保育士資格)

第43条の2 教育学部の学生で保育士資格を取得しようとする者は、児童福祉法(昭和22年法律第164号)及び児童福祉法施行規則(昭和23年厚生省令第11号)に定める所定の単位を修得しなければならない。

第44条 省略

第5節 卒業及び学位

(卒業)

第45条 本学に第14条の規定による修業年限以上在学し、次に掲げる単位数を修得した者については、当該学部の教授会の議を経て、学長が卒業を認定する。

マネジメント学部

科目区分	卒業必要単位数		
大学共通科目	38単位以上		124 単位以上
専門科目	共通専門科目	20 単位以上	
	領域別専門科目	48 単位以上	
自由枠	大学共通科目若しくは専門科目	18 単位以上	

芸術学部

科目区分	卒業必要単位数		
大学共通科目	36単位以上		124 単位以上
専門科目	学部共通専門科目	34 単位以上	

職員免許状の種類及び教科は、別表のとおりとする。

新設

第44条 省略

第5節 卒業及び学位

(卒業)

第45条 本学に第14条の規定による修業年限以上在学し、次に掲げる単位数を修得した者については、当該学部の教授会の議を経て、学長が卒業を認定する。

マネジメント学部

科目区分	卒業必要単位数		
大学共通科目	38単位以上		124単位以上
専門科目	共通専門科目	20 単位以上	
	領域別専門科目	48 単位以上	
自由枠	大学共通科目 若しくは専門科目	18 単位以上	

芸術学部

科目区分	卒業必要単位数		
大学共通科目	36単位以上		124 単位以上
専門科目	学部共通専門科目	34 単位以上	

	学科別専門科目	44単位以上	
自由枠	大学共通科目 若しくは専門科目	10単位以上	

教育学部

科目区分	卒業必要単位数		
大学共通科目	22単位以上		124 単位以上
専門科目	専門基礎科目	48 単位以上	
	専門選択科目	10 単位以上	
	実践研究科目	22 単位以上	
	教職キャリア科目	4 単位以上	
自由枠	大学共通科目 若しくは専門科目	18 単位以上	

第46条～第54条 省略

(入学金、授業料及び教育充実費)

第55条 入学金及び授業料並びに教育充実費(以下、「授業料等」という。)の額は次のとおりとする。

種別	年額		
	マネジメント学部	芸術学部	教育学部
入学金	250,000円	200,000円	<u>250,000円</u>
授業料	775,000円	1,172,000円	<u>850,000円</u>
教育充実費	197,000円	197,000円	<u>280,000円</u>

	学科別専門科目	44単位以上	
自由枠	大学共通科目 若しくは専門科目	10単位以上	

新設

第46条～第54条 省略

(入学金、授業料及び教育充実費)

第55条 入学金及び授業料並びに教育充実費(以下、「授業料等」という。)の額は次のとおりとする。

種別	年額		
	マネジメント学部	芸術学部	新設
入学金	250,000円	200,000円	新設
授業料	775,000円	1,172,000円	新設
教育充実費	197,000円	197,000円	新設

2 外国人留学生、科目等履修生及び研究生の入学
検定料、入学金及び授業料等については、別に
定める。

第56条～第62条 省略

附 則

この学則は、平成26年4月1日から施行する。

別表(学則第43条第2項)

取得できる教員免許状の種類

学部	教育職員免許状 の種類	免許教科
マネジメント学部	中学校教諭一種 免許状	社会
	高等学校教諭一 種免許状	公民、情報、 商業
芸術学部	中学校教諭一種 免許状	美術
	高等学校教諭一 種免許状	美術
教育学部	幼稚園教諭一種 免許状	
	小学校教諭一種 免許状	

2 外国人留学生、科目等履修生及び研究生の入学
検定料、入学金及び授業料等については、別に
定める。

第56条～第62条 省略

新設

別表(学則第43条第2項)

取得できる教員免許状の種類

学部	教育職員免許状 の種類	免許教科
マネジメント学部	中学校教諭一種 免許状	社会
	高等学校教諭一 種免許状	公民、情報、 商業
芸術学部	中学校教諭一種 免許状	美術
	高等学校教諭一 種免許状	美術
新設	新設	
	新設	

○大阪成蹊大学教授会規程

平成15年4月1日
制定

(趣旨)

第1条 この規程は、大阪成蹊大学学則(平成15年4月1日)第10条第2項の規定に基づき、大阪成蹊大学の学部に置く教授会の組織及び運営に関し、必要な事項を定める。

(組織)

第2条 教授会は、学部長及び専任の教授をもって組織する。

2 前項の規定にかかわらず、当該学部長が必要と認めたときは、准教授その他の教員を加えることができる。

(審議事項)

第3条 教授会は、当該学部における次の各号に掲げる重要事項を審議する。

- (1) 学部の教育研究に関すること。
- (2) 学部の教育課程に関すること。
- (3) 学部学生の入学、退学、除籍、休学、復学及び卒業に関すること。
- (4) 学部学生の福利厚生に関すること。
- (5) 学部諸規定の制定及び改廃に関すること。
- (6) その他学部運営に関する重要事項

(運営等)

第4条 学部長は、教授会を主宰しその議長となる。ただし、学部長に事故があるときは、学部長の指名した教授が議長となる。

2 専門的な事項を審議するため、教授会に専門委員会を置くことができる。

(定足数)

第5条 教授会は、構成員の過半数の出席がなければ開会することができない。

(議決)

第6条 教授会の議事は、出席した者の過半数をもって決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

(学長の出席)

第7条 学長は、必要に応じ、教授会に出席するものとする。

(教員会議の意見)

第8条 学部長は、必要に応じ、別に定める教員会議の意見を聴くものとする。

(構成員以外の者の出席)

第9条 学部長が必要と認めた場合は、構成員以外の者を教授会に出席させることができる。

(事務)

第10条 教授会の事務は、総務部において処理する。

附 則

この規程は、平成15年4月1日から施行する。

附 則(平成19年9月20日)

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

附 則(平成22年3月23日)

この規程は、平成22年4月1日から施行する。

附 則(平成23年3月24日)

この規程は、平成23年4月1日から施行する。

設置の趣旨等を記載した書類

設置の趣旨等を記載した書類

I. 設置の趣旨及び必要性	1
1. 学園の沿革と新学部を設置理由	
2. どのような人材を育成するか	
3. どのような能力を身につけさせるのか	
4. 既設短期大学との相違	
5. 既設短期大学の再編計画	
II. 学生確保の見通しと社会的な人材需要	10
1. 学生確保の見通し	
2. 卒業後の進路	
III. 学部、学科等の特色	23
IV. 学部、学科等の名称及び学位の名称	25
V. 教育課程の編成の考え方及び特色	25
1. 教育課程の編成の考え方	
2. 教育課程の特色	
VI. 教員組織の編成の考え方及び特色	36
1. 教員配置の基本的な考え方	
2. 研究分野・研究体制と教員配置及び特色	
VII. 教育方法、履修指導方法及び卒業要件	41
1. 教育方法	
2. 履修指導及び履修モデル	
3. 卒業要件	
4. 履修登録制限と履修指導	
VIII. 施設、設備等の整備計画	44
1. 校地、運動場の整備計画	
2. 校舎等施設の整備計画	
3. 図書等の資料及び図書館の整備計画	
IX. 入学者選抜の概要	46
X. 資格取得を目的とする場合	47
X I. 実習の具体的計画	48
1. 取得可能な免許状、資格	
2. 教員養成、保育士養成のための教育・保育実習	
3. 教育・保育実習先の確保及び契約内容	
4. 教育・保育実習のための保険等の加入	

5.	教育・保育実習水準の確保の方策	
6.	教育・保育実習の事前指導	
7.	教育・保育実習事後指導及び単位認定	
8.	教育・保育実習指導のための教員の巡回体制	
9.	教育・保育実習センターの設置	
X II.	企業実習や海外語学研修など学外実習をする場合は、その具体的計画・・・	52
1.	実習先の確保の状況	
2.	実習先との連携体制	
3.	成績評価体制及び単位認定方法	
X III.	編入学定員を設定する場合は、その具体的計画・・・・・・・・・・	53
1.	編入定員を設ける趣旨及び理由	
2.	編入学年次と編入学定員	
3.	編入学生募集の対象	
4.	どのような人材を育成するか	
5.	3年次編入履修モデル	
6.	選抜の方法	
7.	既修得単位の認定方法	
8.	履修指導方法及び教育上の配慮	
X IV.	管理運営・・・・・・・・・・	55
1.	評議会及び教授会	
2.	その他の委員会等	
X V.	自己点検・評価・・・・・・・・・・	58
1.	大学の自己点検・評価	
2.	自己点検・評価の体制	
3.	自己点検・評価の実施方法	
4.	評価結果の公表・活用	
X VI.	情報の公表・・・・・・・・・・	58
X VII.	授業内容方法の改善を図るための組織的な取り組み・・・・・・・・	60
1.	基本方針	
2.	具体的内容	
X VIII.	社会的・職業的自立に関する指導等及び体制・・・・・・・・・・	63
1.	教育課程内の取り組み	
2.	教育課程外の取り組み	
3.	適切な体制の整備	

I. 設置の趣旨及び必要性

1. 学園の沿革と新学部を設置理由

本学園は、昭和 8 年 4 月大阪府下吹田観音寺において、「女子にも教育を」との時代の要請に応え、「桃李不言下自成蹊」を建学の精神として、「高等成蹊女学校」を創設したことに始まる。昭和 23 年には新学制に対応して「大阪成蹊女子高等学校」として現在の礎を築いた。その後、昭和 26 年には、より一層高度な女子教育の実践という地域の要請に応えるべく「大阪成蹊女子短期大学」を設立し、平成 15 年 4 月 1 日男女共学（「大阪成蹊短期大学」に名称変更。）への変更までの間に、短期大学、併設女子高校の卒業生は 94,922 人を数え、女子教育に多大な貢献をしてきた。

近年、高校生及び保護者を含む地域における 4 年制大学開設の要望の高まりに応えるべく、平成 15 年 4 月に大阪市東淀川区相川に現代経営情報学部と京都府長岡京市に芸術学部の 2 学部を擁する大阪成蹊大学、滋賀県大津市比良にびわこ成蹊スポーツ大学を開学した。現代経営情報学部は、社会のニーズに応え地域住民や地域産業に貢献しうる人材の育成、経営学と情報学を融合的に学べる学部として、グローバル化・情報化の進展する現代産業社会において、ますます複雑・多様化する経営上の諸問題を解決しうる能力を持った人材を育成する目的で設置した。芸術学部は、21 世紀における産業構造の変化の中で、芸術文化の振興によって社会を活性化し、社会と人間精神の豊かさをもたらすために、社会の要請に敏感に反応し、芸術の新しい価値や新しい表現文化のありようを発信する能力を持ち、さらに、そうした芸術的価値や表現文化が活かされる社会のシステムを提示・提案できる人材の育成を目指し設置した。しかし、現代経営情報学部及び芸術学部は、開学後数年は、入学定員を充足していたが、徐々に入学者が減少し、平成 23 年度には定員の充足率が 50% 台のやむなきに至った。このような状況を打開するため、平成 22 年度に大幅な経営体制の刷新を行い、教育全般の再検証や事務組織、募集、就職支援など学園の諸改革に着手した。その一環として、平成 23 年度に現代経営情報学部では学部・学科名称をマネジメント学部・学科へと変更した。また、芸術学部では、平成 23 年度から入学定員を 220 人から 150 人へと変更し、平成 24 年度には、大学所在地を京都府から学園発祥の地である大阪市東淀川区相川に移転し、新コースを設置するなど大阪成蹊大学の諸改革を実行した。その結果、平成 24 年度及び平成 25 年度の学生募集は大幅に改善し、芸術学部は入学定員を充足し、マネジメント学部も平成 24 年度、平成 25 年度と安定的に学生確保ができ改革の成果があらわれている。

一方、大阪成蹊短期大学の児童教育学科は、昭和 28 年に保育科を設置したことに始まる。昭和 31 年には初等教育科を増設（昭和 32 年に保育科を廃止）し、この初等教育科を、昭和 46 年に現在の児童教育学科に名称変更し、初等教育学専攻と幼児教育学専攻に分離した。現在、児童教育学科の初等教育学専攻は 30 人、幼児教育学専攻は 240 人を入学定員（平成 25 年度）としている。平成 25 年度の児童教育学科の入学定員充足

率は 1.15、入学者数は 313 人であった。

卒業後の就職実績では、児童教育学科の卒業生は、近隣地域を主体に小学校、幼稚園及び保育所で教員、保育士として子どもの教育に携わっている。幼稚園では、近隣地域の大阪市、吹田市等 6 市の幼稚園の 73%に卒業生が現役で活躍しており、平成 23 年度児童教育学科卒業生の幼稚園、保育所就職希望者の就職率は 100%である。また、初等教育学専攻の小学校教員採用試験では、毎年現役で合格者を輩出しており、平成 24 年度の既卒生を含めた大阪府・市の採用は 19 人と実績を上げている。さらに、地域性を勘案すると、大阪北部において児童教育の学科・専攻等を設けている大学は、本短期大学以外には 3 校（資料 1）で、大部分は大阪府の中央から以南及び東大阪に集中しており、本短期大学は、大阪北部の児童教育の分野において重要な役割を果たし貢献してきた。また、卒業生の就職実績においても、評価を得ており、本学の児童教育は、社会の高い信頼を得ていると自負している。

また、併設女子高等学校では、ここ数年志願者、入学者数を伸ばし続け、平成 25 年度の入学者は 431 人で在籍者数は 1,367 人となり、大阪府下の女子高校で最も入学者の多い高等学校である。本校には、5 つのコースが設けられており、そのコースの一つに幼児教育コース（平成 17 年度開設）がある。このコースには、平成 25 年 4 月 1 日現在で 421 人が在籍している。本学園の児童教育関係の短期大学と高等学校の学生・生徒在籍者数は、合計で 1,016 人（平成 25 年 4 月 1 日現在）である。

幼児教育コースをはじめとする内部進学生の増加、特に小学校・幼稚園教諭一種免許状取得志向による 4 年制教育系学部への進学希望は今後ますます高まるものと予想される。また、幼稚園、保育所、小学校の教育現場から、子どもの学習指導や保護者対応、教員間のチームプレーにおいて質の高い、健康で明るい教員の養成が期待されている。しかしながら、大阪府下の 4 年制教育系学部・学科（小学校・幼稚園教諭一種免許状、保育士資格取得をめざす学部・学科）の所在地は、大阪教育大学をはじめ私立大学の教育系学部・学科の大半が大阪南部等に位置しており、大阪北部において同様の教育系学部・学科を設置している大学は 5 校（資料 1）のみである。また、近隣地区の教育委員会等からの児童教育に対する本学園短期大学の伝統と実績を踏まえた 4 年制教育系学部の設置が強く望まれている。（資料 2）

このようなこれまでの本学園の人材育成の実績、併設女子高等学校や地域からの要請により、本学園では短期大学の児童教育学科初等教育学専攻を廃止し、より質の高い児童教育を目指して、大阪成蹊大学に教育学部教育学科を新設することとした。

2. どのような人材を育成するか

本学部・本学科は、時代が求める新しい教育への対応と普遍的な教育の営みとを総合的・専門的に学修し、未来を切り拓く子どもの「生きる力」を育むことのできる、幅広い教養をもった専門職業人を養成する。本学部・本学科で育成する人材は、以下の諸能

力を有する人材として規定される。

- ①人間的なふれあいを通して心のきずなを深め、子どもの思いを受け止めることのできる人材
- ②幅広い学問教養を備え、新しい時代の教育知識を身につけた人材
- ③多角的視点から現代社会の教育課題に対応できる豊かな感性・確かなセンスを持った人材
- ④教育実践を省察し研究することのできる人材

上記4項目の具体的内容は次節において詳述するが、本学部・本学科では、特に子どもの学びを支える学校教育を中心に、未来を担う子どもの豊かな成長を支援する教育のあり方を実践的に追究できる人材を育成する。そのため、本学部・本学科では、小学校教諭一種免許状、幼稚園教諭一種免許状及び保育士資格の取得を可能とする。

上記の諸能力を有する人材を育成するため、教育研究分野である教育学、保育学、教科教育学を本学部での組織的研究を通して、本学科の学生に教育における実践的な力をつけさせる。

3. どのような能力を身につけさせるのか

- (1) 人間的なふれあいを通して心のきずなを深め、子どもの思いを受け止めることのできる人材

あらゆる教育活動の出発点は子どもの理解である。本学部・本学科では、子どもの存在をあるがままに受け入れ、生活背景や家庭環境を総合的に捉え、子どもの気持ちになって考えることができる豊かな感受性を持った教員を養成する。このような子ども理解の能力は、とりわけ今日の重要課題となっているいじめや暴力行為、不登校、児童虐待への対応にも通じる。これらの問題は、特に、生活背景に留意しながら、学校種間や家庭・地域との連携を密にし、その未然防止、早期発見、早期対応に努める必要があるからである。

そこで、本学部・本学科では、4年間を通して体験学修や実習を系統的に実施する。1年次では「基礎ゼミⅠ」において学校園の見学において教員の職務内容を知り、2年次の「教育インターンシップ」「介護等体験」では、教育が子どもに与える影響と必要な専門知識及び技術について実践的に学ぶ。3年次の「教育実習」では教育実習の意義と心構えをはじめ、実践的な指導力の向上、教員としての倫理観を具体的に学び、4年次で指導者に必要とされる問題解決能力及び生涯学習の必要性を認識する。このような継続的な体験及び実習を通して、子ども一人一人の尊厳を尊重することを体得した人材を育成する。

- (2) 幅広い学問教養と新しい時代の教育知識を身につけた人材

専門職業人には、その専門性のベースとなる幅広い学問教養が求められる。教職においては、教職の専門性、実践的指導力、社会の変化に対応した教育観を培うための基礎

となるものである。それは、教員の養成においては、教員としての資質能力として、公共的使命感、専門職としての知識・技能とともに掲げられる、豊かな人間性の涵養に通じるといえる。

本学部・本学科では、専門職業人の基礎となる、三つの領域の学問教養を育てる。

①社会教養

新しい時代の教育を担う教員には、今日の時代の変化を政治、経済、自然環境、文化、教育の全般にわたる複合的な変化と捉え、そのなかで今日の教育課題を明らかにして、取り組んでいくことが重要になる。本学部・本学科では、社会教養科目として、人間と自然、社会に関する科目区分に加え、「子どもと社会」という科目区分を開設し、子どもが学び、世界を開くという視点から、子どもが置かれている社会を捉え直すことを目的とする科目を開講する。これらの教養科目を通して、今日の複雑な社会背景の理解をもった人材を育成する。

②教職教養

教育実践は、実践場面での教育者の洞察と判断によって創られる。この判断力は、実践的経験と理論との統合によって形成される。本学部・本学科では、「教職基礎」や「教職キャリア」科目を開設し、教育実践の方法を支える基礎となる教育理論及び学習科学など、教育の専門知識を身につけた人材を育成する。また、「教育課題」に関する科目を開設し、学校の安全、国際化、特別支援教育といった今日的な課題に関する教職の学問教養も身につける。

③教科教養

知識が高度化し、複合化し、流動化する社会で、教員には、教科の基礎をなす学問教養を高めることが求められる。本学部・本学科では、専門基礎科目としての「教科」に関する科目に加え、「専門選択科目」を設置し、学びの質や深さが求められる時代に、教育実践を豊かにする、教科の学問教養をもった人材を育てる。

以上のように、本学部・本学科では、教員における専門性と実践的指導力の向上や、社会の変化に対応した教育観を培うための基礎となる、幅広い学問教養と新しい時代ので教育知識を身につける。

(3) 多角的視点から現代社会の教育課題に対応できる豊かな感性・確かなセンスを持った人材

現代社会における様々な教育問題（学級崩壊、不登校、いじめなど）に対応するためには、多角的視点のもとで、個々の問題に柔軟に対応できる感性・センスが必要となる。そうした感性・センスを磨きあげるためには、単に知的に卓越しているだけでは不十分である。複雑化した現代社会を生きる子どもたちと共感的に関わっていくためには、子どもたちの変化を瞬時に察知し、その変化に鋭敏に反応するための身体感覚を身に付け、身体レベルで子どもを理解することが不可欠であるといえる。

そこで、そうした身体感覚を磨きあげるために、「教科選択」を配置し、特に体育・

音楽・図画工作の専門的学びを遂行する。これらの科目は、教育現場において実際に子どもたちと関わってゆくためのセンスを磨くうえで必須のものである。いずれの科目も身体感覚と密接に関連しており、単なる知的理解を超えた要素が求められる。例えば、体育の専門的な学びを通じて人と人とのつながりを身体レベルで体感することで子ども理解のための基盤が得られる。このことは同時に「生きる力」の養成にも直結する。また、日常生活において音楽や美術に親しむことで感性・センスを十分に働かせ、感動する心、自己の価値観の創出、異文化理解など人間としての基礎を築くことが期待できる。そこで本学部・本学科では、子どもが「健やかな体」を獲得し「豊かな感性」を育むことのできる教員、保育士の育成を目的とする。

(4) 教育実践を省察し研究することのできる人材

本学部・本学科では、子どもの成長を支援する教育のあり方を実践的に追究する人材を養成するために、「教育実践を省察し研究する力」を育てる。

現代社会は、国際化、知識の高度化、少子高齢化など、様々な諸問題に直面し、教育においては、それらへの対応が求められている。現在と未来の新しい状況や課題に対し、教育者は、日常的な教育実践を振り返り、その省察を通して自分を変革しつつ、対応していくことが求められる。このため本学部・本学科では、学校園での実践的な実習経験を省察する「実践研究科目」を配置する。本科目群では、学生や教員らの協同による実践の省察を通して、複合的な今日の教育課題に対して、どのような解決策があるか、あるいはどのような実践があるべきかについて絶えず研究に取り組んでいく力を養成する。

4. 既設短期大学との相違

(1) 人材養成の目的

大阪成蹊短期大学児童教育学科には二つの専攻が設置されている。小学校教諭二種免許状及び幼稚園教諭二種免許状が取得可能な初等教育学専攻と、幼稚園教諭二種免許状及び保育士資格が取得可能な幼児教育学専攻である。短期大学では、その教育目標を『社会で活かせる実践力を身につけた専門職業人の育成に努める』とし、専門職業人の育成を明確に掲げている。この中で初等教育学専攻では「卒業後は教育についての実践的な力量と、基本的な教職教養、幅広い社会的教養を身につけ子どもたちの前に立てること」を目標として教育をすすめる、小学校教員、幼稚園教員の養成を行ってきた。また、幼児教育学専攻では『幼児教育を専門とするところの技術と知識を高め、豊かな人間性を育くみ常に探究心を持って将来教育・保育に携われる人材を育成する。また幼稚園教員、保育士など幼児教育現場に必要な人材として実践的な力量と、基本的な教職教養、幅広い社会的教養を身につけること』との目標が掲げられ、幼稚園教員、保育士の養成教育を行っている。近年では短期大学に寄せられる幼稚園教員及び保育士の採用希望数は600名を優に超えており、この結果平成23年、24年の希望者対比の就職率は100%となっ

ている。

これに対して、本学部・本学科は、時代が求める新しい教育への対応と普遍的な教育の営みとを総合的・専門的に学修し、未来を切り拓く子どもの「生きる力」を育むことのできる、幅広い教養をもった専門職業人を養成することを目的としている。具体的には、後に示す学部4年間の教育課程を通して、インターンシップやボランティアをはじめとした独自の実習科目を配置し、実習を系統的に継続し、社会教養に加えて、教職や教科に関する専門知識を含めた幅広い学問教養を身につけさせ、現代社会の教育課題に対応できる人材を育て、さらに教育実践を省察し研究する力を育てることにより、未来を担う子どもの豊かな成長を支援する教育のあり方を実践的に追究できる人材を育成する。

本学部・本学科では、小学校教諭一種免許状、幼稚園教諭一種免許状及び保育士資格の取得を可能とする予定であり、卒業後の進路として、小学校教諭一種免許状を有する学生は小学校に、幼稚園教諭一種免許状と保育士資格を有する学生は幼稚園、保育所への就職が可能となる。さらに、教育に関するより広い学びを通して、塾や幼児教室など教育系産業や教育関係 NPO への就職が考えられ、さらに、子ども教育の専門性を身につけた学生として、教育関連の一般企業への就職も期待される。

(2)教育課程

短期大学児童教育学科では、最低必修単位として語学2単位、初年次教育である「成蹊基礎セミナー」2単位を含む共通科目10単位に加え、初等教育学専攻では専門科目必修41単位を含め50単位、幼児教育学専攻では専門科目必修25単位を含め50単位履修することとしている。教育課程では、卒業に必要な最低単位のための履修で小学校教諭二種免許状、幼稚園教諭二種免許状、保育士資格等を取得することはできないが、必要な単位履修により初等教育学専攻では小学校教諭二種免許状と幼稚園教諭二種免許状、幼児教育学専攻では幼稚園教諭二種免許状と保育士資格が取得可能な課程となっている。

なお、児童教育学科では教育現場において、より実践力に富む教員を養成するため、教員免許状取得希望の学生には、教育職員免許法に規定される科目以上の履修を義務付けている。

今回大学に新設の教育学部教育学科の教育課程は、「大学共通」と専門科目の「専門基礎」「専門選択」「実践研究」「教職キャリア」の5分野に大別される。(資料13参照)

「大学共通」については、時代が求める新しい教育への対応と普遍的な教育の営みとを総合的・専門的に学修し、未来を切り拓く子どもの「生きる力」を育むことのできる、幅広い教養を持った専門職業人を育てるという理念を念頭に置き、その基礎を培う科目を共通基礎科目と教養科目、キャリア支援科目に区分した。

専門科目としては、まず第一に教科や教職、保育に関する専門的基礎理論の修得をめざす「専門基礎」を置いている。第二にこの基礎のもとに、豊かな感性を持った人材を

育成するために「教科選択」を配置した。次いで第三に、本学部・本学科の目標である、教育学、保育学、教科教育学の研究を通して、教育における実践的な力を育てることをめざして、「実践研究」を配置し、架橋的科目、体験・実習科目、研究科目 3 つの区分を設けた。さらに、第四として卒業後に教育の専門性を活かして社会に参加していくための「教職キャリア」を設けた。これに加えて関心のある分野を深める、苦手な分野を克服する、など、各自が目的を持つて全ての科目のなかから履修科目を選択する「自由枠」を配置している（詳細はⅤ．教育課程の編成の考え方及び特色に示す）。

なお、本学科において小学校教諭一種免許状あるいは幼稚園教諭一種免許状を取得する場合は、教育職員免許法に規定される科目以上の履修指導を行い、総合的な実践力のある人材の育成を行う。

（３）教員組織

短期大学児童教育学科において、小学校教諭二種免許状及び幼稚園教諭二種免許状が取得可能な初等教育専攻は入学定員 30 名で、教職に関する科目の担当教員 3 名、教科に関する担当教員 4 名を配置しており、平成 26 年 4 月募集停止に伴い 4 名を新設の教育学部へ配置換えし、その後専攻の廃止後 3 名が退職を予定している。

今回大学に新設する教育学部教育学科では、（２）の教育課程を達成、発展させるため、研究業績を基本として任用されるいわゆる研究者教員 10 名と小学校、幼稚園、保育所等で教育実践に携わってきた実務家教員 9 名合計 19 名（上記短期大学からの配置換え 5 名を含む。）で構成する。これを小学校教諭一種免許状及び幼稚園教諭一種免許状の取得可能な教育課程において、教職に関する科目の担当教員 10 名、教科に関する科目担当教員 9 名を配置する。

５．既設短期大学の再編計画

大阪成蹊大学教育学部教育学科の設置に伴い、大阪成蹊短期大学の児童教育学科について以下のように変更する。（平成 26 年度から実施）

大阪成蹊大学教育学部（新設）

教育学科	入学定員	100 人（新設）

大阪成蹊短期大学

児童教育学科	→	幼児教育学科（名称変更）

入学定員 270 人	→	240 人（定員減）

初等教育学専攻	入学定員 30 人	→	0 人（募集停止）

幼児教育学専攻	入学定員 240 人	→	240 人（専攻廃止、学科へ一本化）

（１）初等教育学専攻の募集停止

初等教育学専攻では 2 年生の半数が教員採用試験を受け、例年 2 人から 4 人の現役正

規採用者が出ている。また、採用試験不合格者及び未受験の者で専攻学生の 6 割程度が教育委員会へ講師登録を行い、卒業後常勤講師または非常勤講師として採用されている。加えて数人が幼稚園教員となり、卒業後に保育士資格を取得した上で就職する者を含めて約 3 割が幼稚園教員、保育士となっている。前述したように大阪市教育委員会の採用だけでも直近の 6 年間で小学校への正規採用者が 88 人にのぼっており、他の自治体への採用も含めて多くの教員を輩出している現状にある。

しかしながら、小学校二種免許状所有者の小学校教員採用の現状について、平成 22 年度の学校教員統計調査（資料 3）の小学校教員の所有免許状構成をみると、15.1%が二種免許状所有者であるが、新規採用教員の学歴で見ると小学校教員の短期大学卒業生の占める割合は 7.7%となっており、二種免許状所有者で教員となる割合は減少している。

さらに、今後の教員養成のあり方については、中央教育審議会において教員の資質能力の向上について議論が深められており、教員養成を修士レベルに引き上げて一般免許状（仮称）を標準とし、学士課程終了レベルでは基礎免許状（仮称）を取得させる方向が示されている。このことは近い将来、現状の小学校教諭二種免許状が廃止される可能性があると考えられる。

このような趨勢を見極めながら、短期大学では初等教育学専攻の入学定員数を平成 24 年度に 120 人から 70 人に減らし、平成 25 年度には 30 人に減らした。さらに平成 26 年度には学校法人大阪成蹊学園として大阪成蹊大学に教育学部を設置することとし、短期大学児童教育学科初等教育学専攻の募集を停止し、在学生の卒業後、専攻を廃止する予定である。

（2）児童教育学科の名称変更と専攻の廃止

短期大学の児童教育学科幼児教育学専攻は初等教育学専攻の募集人員の削減と連動させて、平成 24 年度には入学定員を 150 人から 200 人へ増員し、平成 25 年度にはさらに 240 人へ増員した。幼児教育学専攻は、昭和 28 年の保育科の創設以来、多くの卒業生が幼稚園、保育所に就職し実績を上げている。そうした実績の評価を受けて、幼稚園、保育所から多数の募集があり、すべての採用の要求には応えられていない状況にある。幼稚園教員、保育士の本学への募集数は平成 21 年度 626 人、平成 22 年度 708 人、平成 23 年度 745 人と増加している。また学園の併設校である大阪成蹊女子高等学校には幼児教育コースが設けられているが、そのコースには短期大学の幼児教育学専攻へ進学することを希望する 150 人以上の入学生を迎えている。また幼児教育学専攻の学生募集については毎年募集定員以上の志願者があり、入学定員を確保している。

幼稚園教員の新規採用者の学歴は平成 22 年度の学校教員統計調査（資料 3）でも 71.8%が短期大学卒業生であり、幼稚園教員養成に関わる短期大学の役割は十分に高いといえる。また、保育士についても現状で数万人程度不足していると考えられており、保育士養成における短期大学の存在意義も大きい。

以上の点から幼児教育学専攻を存続させることは短期大学の社会的使命からも必要であり、かつ学生の確保、就職先の確保もできる状況にある。したがって、幼児教育学専攻の学生定員は240人を維持することとする。

なお、初等教育学専攻を廃止することとなるので、1専攻となる幼児教育学専攻名も廃止し、学科の名称を幼児教育学科に変更する。

(3) 幼稚園教員、保育士養成課程の併置

短期大学児童教育学科（幼児教育学科へ名称変更予定）の幼稚園教員、保育士養成を維持することにより、教育学部教育学科と幼稚園教員、保育士養成は併置することとなる。

短期大学における養成の必要性は、前の(2)で示した通りであり、社会的要請に応じて存続する。

今回新設する大学の教育学部教育学科における幼稚園教員、保育士養成については次のような意義と必要性がある。

①教員養成の高度化が必要とされる今日、保育においても幼稚園教諭一種免許状を持つ教員の増員が望まれること。平成22年度学校教員統計調査（資料3）においても、現職幼稚園教員のうち一種免許状保持者は22.5%であるが、新規採用教員の学歴では大学卒が23.7%となっており、増加傾向が見られる。また、公立の幼稚園では一種免許状保持者が4割を超えており、幼稚園における保育の充実のためには一種免許状保持者を多く養成する必要がある。

②平成22年度学校教員統計調査（資料3）において、幼稚園教員全体の離職者に占める30歳未満の離職率が66%を超えており、幼稚園では経験豊かな実績を持つ教員が少ない。これにはいくつかの理由があると考えられるが、その1つに幼稚園教員の7割が二種免許状保持者である点が挙げられる。教育学部教育学科4年間の養成教育により、より広い視野を獲得し、子ども理解を深めることで、長年にわたって勤務できる専門職としての幼稚園教員を養成することができる。また幼稚園における管理職養成にも貢献できる。

③短期大学で幼稚園教員、保育士養成を継続するが、短期大学での学修の中で、教育についてより深く学び、子どもへの理解を深めて幼稚園教員、保育士になろうと希望するものがある。現在は他大学の養成課程に編入せざるを得ないが、そうした有意の学生の教育学部教育学科への編入が期待できる。

なお、現在保育に関しては、幼稚園、保育所、認定こども園など並立した状態であるが、乳幼児の保育をめぐる、今後制度的改革が進行する可能性があり、また乳幼児の保育全般にわたる広い視野と実践的能力を培う上では、幼稚園教諭一種免許状の取得に加え保育士資格を取得しておくことが必要であると考えられる。したがって教育学科では短期大学と同様に保育士資格取得可能な教育課程とする。

Ⅱ. 学生確保の見通しと社会的な人材需要

1. 学生確保の見通し

(1) 教育学部の地域におけるニーズと見通し

平成 24 年度の学校基本調査の関係学科別構成比を見ると、「教育」の比率は、平成 19 年度の 5.9%から年々上昇し、平成 24 年度では 7.0%となっており、教育系学科の人気の堅調に推移していることがうかがえる。(平成 20 年度 6.1%、21 年度 6.3%、22 年度 6.5%、23 年度 6.7%)

また、同調査による関係学科別入学者数の推移においても、平成 22 年度 43,409 人、平成 23 年度 44,580 人、平成 24 年度 45,399 人と毎年増加しており、さらに教育学部に限定して入学志願者・入学者数を見ても、平成 22 年度 112,995 人・19,726 人、平成 23 年度 127,495 人・20,208 人、平成 24 年度 126,287 人・21,208 人と、平成 24 年度の入学志願者数は若干減少しているが、入学者数は、連続して増加しており、教育学系学科及び教育学部の人気は継続している。

(注) 学校基本調査からのデータの引用について

1. 平成24年度学校基本調査報告書(高等教育機関編)からの引用

本文中の「関係学科別構成比において、「教育」の比率は、平成19年度の5.9%から毎年上昇し、平成24年度は7.0%」

上記は、(7)ページの表3 関係学科・専攻分野別学生数の比率の推移(大学・大学院)(1)学部学生の表中の数値を引用

2. 平成22年度、24年度学校基本調査報告書(高等教育機関編)からの引用

本文中の「関係学科別入学者数の推移においても、平成22年度43,409人、平成23年度44,580人、平成24年度45,399人と毎年増加しており

上記の数値は、平成22年度 240ページ、平成24年度 190ページの「教育」の区分「計」の数値
なお、平成23年度は数値記載をしていないが、平成23年度版の240ページで「44,580人」を確認して「毎年増加」としている。

一方、地元地域である大阪府、京都府、兵庫県、奈良県の小学校教員・幼稚園教員・保育士養成課程を持つ大学の入学定員・入学志願者・入学者・志願倍率(倍)・入学定員充足率(%)について、私立大学の状況は下表(表1)のとおりである。

地元地域の小学校養成課程等を持つ私立大学の入学定員等の状況

(表1)

	大阪府			京都府			兵庫県			奈良県			合計		
	平成 22年度	平成 23年度	平成 24年度	平成 22年度	平成 23年度	平成 24年度	平成 22年度	平成 23年度	平成 24年度	平成 22年度	平成 23年度	平成 24年度	平成 22年度	平成 23年度	平成 24年度
集計対象 学科数	11学科	12学科	15学科	5学科	5学科	5学科	8学科	8学科	9学科	2学科	2学科	2学科	26学科	27学科	31学科
入学定員	1,850	1,965	2,245	705	730	730	1,435	1,435	1,520	250	245	245	4,240	4,375	4,740
入学志願者	15,547	15,169	15,795	10,193	10,464	9,485	10,400	11,721	12,391	2,300	3,882	3,933	38,440	41,236	41,804
入学者	1,925	2,079	2,220	801	830	797	1,575	1,585	1,732	274	286	277	4,575	4,780	5,026
志願倍率(倍)	8.4	7.7	7.0	14.5	14.3	13.0	7.2	8.2	8.2	9.2	15.8	16.1	9.1	9.4	8.8
入学定員充足率(%)	104.1%	105.8%	98.9%	113.6%	113.7%	109.2%	109.8%	110.5%	113.9%	109.6%	116.7%	113.1%	107.9%	109.3%	106.0%

(大阪府、京都府、兵庫県は日本私立学校振興・共済事業団の資料、奈良県は、(株)栄美通信発行「全国大学短期大学推薦入学年鑑」(2011～2013)及び河合塾全国進学情報セン

ター発行「Guideline」(2012、JUNE)による)

大阪府では、ここ 2 年教育系学部の志願倍率は漸減している。しかし、入学志願者数では、平成 24 年度には、22 年度比で 248 人増加している。平成 23 年度は、下表(表 2)の人口動向(「平成 22 年度国勢調査人口等基本集計」)に示すとおり、大阪府の 18 歳人口が 6,160 人減っており入学志願者数が減少したものと考えられる。

京都府においては、平成 24 年度に志願倍率を対前年比 1.3 ポイント下げたが、それでもなお 13 倍の高い志願倍率を維持している。

兵庫県、奈良県は、3 年連続で志願倍率を維持、向上させており、また、志願者数もプラスで推移している。

また、(表 1)の **2 府 2 県の入学志願者、入学者の合計は、いずれの数値も3年連続してプラスで推移している。**

人口動向(平成 22 年度国勢調査人口等基本集計(総務省統計局))

(表 2)(単位:人)

平成	18 年	19 年	20 年	21 年	22 年	23 年	24 年	25 年	26 年	27 年	28 年	29 年
年齢	22 歳	21 歳	20 歳	19 歳	18 歳	17 歳	16 歳	15 歳	14 歳	13 歳	12 歳	11 歳
大阪府	94,066	91,848	90,576	89,753	85,055	78,895	81,091	82,136	81,367	82,497	83,807	83,732
京都府	31,941	33,449	33,433	31,598	27,654	23,672	23,960	23,896	23,321	23,454	23,641	23,731
兵庫県	55,069	54,042	53,660	53,151	53,707	53,317	54,156	54,379	53,448	53,887	55,164	54,181
奈良県	14,709	14,805	14,415	14,775	14,517	14,438	14,492	14,272	13,590	13,668	13,704	13,353
合計	195,785	194,144	192,084	189,277	180,933	170,322	173,699	174,683	171,726	173,506	176,316	174,997

平成	30 年	31 年	32 年	33 年	34 年	35 年	36 年	37 年	38 年	39 年	40 年
年齢	10 歳	9 歳	8 歳	7 歳	6 歳	5 歳	4 歳	3 歳	2 歳	1 歳	0 歳
大阪府	82,531	81,397	79,777	77,032	75,630	72,527	72,661	73,439	73,886	72,047	72,870
京都府	23,402	23,148	22,726	22,598	21,525	21,336	21,585	21,356	21,301	20,744	20,576
兵庫県	53,869	52,928	51,947	50,771	49,484	47,376	47,596	47,910	48,174	46,359	46,183
奈良県	13,273	12,985	12,666	12,384	11,799	11,464	11,547	11,426	11,070	10,678	10,404
合計	173,075	170,458	167,116	162,785	158,438	152,703	153,389	154,131	154,431	149,828	150,033

上記(表 2)の人口動向と前頁(表 1)の平成 24 年度の志願者数、入学定員(本学の定員を加える)をベースとして、将来の志願倍率を予測すると、**平成 30 年度の大阪府 18 歳人口の対 24 年比は 1.02 倍であり、同率で志願倍率に適用すると 7.14 倍となる。**同様に平成 40 年度は、志願倍率が 6.30 倍となる。**2 府 2 県の合計では、平成 30 年度が 8.80 倍、平成 40 年度が 7.56 倍となり、引続き高い志願倍率が見込める。**

また、大阪府、京都府、兵庫県、奈良県の高校生の教育系学部への志願者数をそれぞれ

れの府県の 18 歳人口数で割ると、大阪府 19.5%、京都府 39.6%、兵庫県 22.9%、奈良県 27.1%となり大阪府の同比率が著しく低い数値となっている(表 3)。このことは、大阪府内においては、教育学部に進学したい生徒が地元で教育学部が少ないため京都府等に流出していると考えられる。

教育学部の志願者数と 18 歳人口

(表 3) (単位：人)

	大阪府	京都府	兵庫県	奈良県
教育学部の志願 (a) (平成 24 年度学校基本調査)	15,795	9,485	12,391	3,933
18 歳人口(人口動向) (b)	81,091	23,960	54,156	14,492
(a) ÷ (b)	19.5%	39.6%	22.9%	27.1%

特に、大阪府内には、国立の大阪教育大学及び私立大学の教育系学部、学科が 15 校あるが、教員養成及び採用試験において高い実績をあげている大学は、大阪府の中央から南部に多く、大阪市内及び大阪府北部地域は、日本でも有数の人口密集地域で教育にも熱心な地域であるが、進学したい学部、学科が少ないため、教育系学部、学科へ進学を希望する高校生が遠方の他府県へ流出していると考えられる。なお、**学校基本調査における「出身高校の所在地県別入学者数」の平成 24 年度統計によると、大阪府から京都府に流出する高校卒業生が 6,915 人と多い。**学生の多くは、自宅から遠い距離にある京都府等への通学を余儀なくされており、大阪北部各都市の教育委員会をはじめ、地元高校や生徒の本学教育学部創設の希望が多い。

なお、他地域への流出原因として次の点があげられる。**大阪北部地域にある教育系学部学科の内訳は、次表(表 4)のとおり、小学校教員の養成校は 4 校で入学定員の合計は 300 人に過ぎない。**また、**小学校教員養成だけの入学定員をみると、関西大学の入学定員 50 人は、すべて小学校教員養成だが、他の 3 校(入学定員合計 250 人)は、小学校教員養成だけの入学定員ではない。**この 3 校の小学校教員をめざす入学定員を、それぞれの学部学科の全入学定員のうちの 1/3 と想定すると、小学校教員養成の入学定員は 83 人となり、関西大学の 50 人を合計しても**小学校教員養成の入学定員は 133 人程度と考えられる。**上記 4 校のうち、**2 校は女子大学であり、小学校教員をめざす男子高校生には、77 人程度の入学定員となる。**すなわちこの地域の教育系学部学科の小学校教員養成の入学定員は、133 人と少なく、また、男子に至っては、77 人程度の入学定員規模である。また、本学の入学定員は 100 人を予定しているが、上記と同様に 1/3 を**小学校教員養成の入学定員とすると、その数は 33 人となり、この数を足しても全体で 166 人となり、また、男子は 110 人と小学校教員をめざす高校生にとっては、入学定員が少ない状況といえる。**

なお、本学でも、初等教育コースと幼児教育コースの 2 つのコースに分けて専門教育を展開するが、現時点での計画では、初等教育コースは、30 人程度と考えており、本教育学部においても小学校教員養成の入学定員は全体の入学定員の 1/3 程度と想定している。

大阪北部地域の教育系学部学科の入学定員等

(表4) (単位:人)

番号	大学名(共学の別)	学部	学科	入学定員	取得免許・資格	所在地
1	大阪青山大学(共学)	健康科学部	こども教育学科	80	小学校・幼稚園・保育士	大阪府箕面市
2	関西大学(共学)	文学部	総合人文学部 初等教育学専修	50	小学校	大阪市吹田市
3	千里金蘭大学(女子)	生活科学部	児童学科	80	小学校・幼稚園・保育士	大阪市吹田市
4	平安女学院大学(女子)	子ども学部	子ども学科	90	小学校・幼稚園・保育士	大阪府高槻市
小学校教員養成校の小計				300		
5	大阪人間科学大学(共学)	人間科学部	こども福祉学科	120	幼稚園・保育士	大阪府摂津市
6	梅花女子大学(女子)	心理こども学部	こども学科	80	幼稚園・保育士	大阪府茨木市
合計				500		

また、国立大学においては、下表(表5)のとおりいずれの大学においても、志願倍率は、安定しており、入学定員充足率も100%以上を維持している。

国立大学の入学定員、入学志願者数

(表5)(単位:人)

□	大阪府(大阪教育大学)			京都府(京都教育大学)			兵庫県(兵庫教育大学)			奈良県(奈良教育大学)		
	H22年度	H23年度	H24年度	H22年度	H23年度	H24年度	H22年度	H23年度	H24年度	H22年度	H23年度	H24年度
入学定員	890	890	890	300	300	300	160	160	160	255	255	255
入学志願者	4,135	3,942	4,077	727	677	682	640	486	724	1,418	1,576	1,672
入学者	912	901	912	318	315	318	177	171	170	262	267	270
志願倍率(倍)	3.1	3.0	3.1	2.3	2.2	2.2	3.4	2.7	3.9	5.4	5.9	6.2
入学定員充足率(%)	102.4%	101.2%	102.4%	106.0%	105.0%	106.0%	110.6%	106.8%	106.2%	102.7%	104.7%	105.8%

※1入学志願者及び志願倍率については、一般入試(前期・後期)のみ(河合塾「Guideline」2012年6月版のデータによる)

※2入学定員及び入学者数は大学全体

※3入学者数は大学のホームページからの引用及び直接大学に電話により確認した数

以上のとおり、大阪府、京都府、兵庫県、奈良県の教育系学部の学生確保については、国立及び私立の各大学において、多くの志願者数をもとに安定的に入学者を確保しているといえる。

(2) アンケート調査等から見た入学者の確保

教育学部の設置に際し、平成24年7月1日から10月31日にかけて高校2年生を対象とした「高校生向けアンケート調査(入口調査)」(資料4)を、株式会社紀伊國屋書店に依頼して実施した。本調査は、本学からのアクセス等地域性を考慮して、大阪府、京都府、兵庫県、奈良県の2府2県の公私立高校51校で実施して、6,090件の有効回答を得た。調査内容は、「大阪成蹊大学教育学部(仮称)へ進学したいと思いますか。」という質問を含んだ全9問に回答を得る形式とした。その結果、「大阪成蹊大学教育学部(仮称)へ進学したいと思いますか。」(問3)という設問に対し、「進学を希望する」との回答が171件であった。また、「進学を検討したい」との回答が470件であった。

今回調査を実施した2府2県には全日制高等学校が560校(大阪府237校、京都府91校、兵庫県186校、奈良県46校)あり、生徒数(高校2年生)は、152,528人である。(24年度学校基本調査)そのうちの51校、率にして9.1%(51校/560校)の高等学校で得た数値であり、生徒数の率では、3.9%(6,090人/152,528人)である。この比率を勘案すると、「進学を希望する」生徒数は、この2府2県だけでも、4,200人超となり、新設学部であるので高い認知度ではないことを勘案しても半数の2,000人を超える志願者が見込め、その1

割の200人に合格を出し、その半数の100人の入学者を確保することは可能と想定する。

また、併設校である大阪成蹊女子高等学校には、幼児教育コースがあり、3 学年で 12 クラス、生徒数にして 421 人(前述)が学んでおり、児童教育系の大学への進学を希望する生徒が多く在籍している。平成 22 年度からは、大阪成蹊大学と大阪成蹊女子高等学校との間で高大連携を柱として内部進学促進を図っており、下表(表 6)に示すとおり**内部進学者数は、23 年度に大幅に増加し、24 年度も高い進学者数を維持した。進学者の実人数は、23 年度から毎年増加している。**25 年度募集に向けても内部進学促進の施策を継続して実施しており、**少なくとも 24 年度と同程度の内部進学率を見込んでいる。**特に、女子高校生に人気の高い**保育士、幼稚園教諭、小学校教諭の資格取得を目指す本学教育学部への進学意欲は高く、併設校からの大阪成蹊大学への内部進学者は、今後さらに大きく伸びるものと予想している。**

前述のアンケート結果において平成 26 年度に本学の教育学部へ進学を希望する生徒は 63 人であった。併設校の生徒は、大阪成蹊短期大学の児童教育学科の教育水準や就職実績の高さなどを良く知っており、新しく設置する教育学部の教育内容や就職に対しても同様の大きな信頼と期待を持っている。さらに内部進学者に対する併設大学の入学金免除の制度も進学希望への大きな誘引要素と考えられる。

内部進学者数、率の推移

(表6) (単位:人)

	平成 19年 度卒 業	内部 進学 率	平成 20年 度卒 業	内部 進学 率	平成 21年 度卒 業	内部 進学 率	平成 22年 度卒 業	内部 進学 率	平成 23年 度卒 業	内部 進学 率	平成 24年 度卒 業	内部 進学 率	平成 25年 度卒 業見 込み	内部 進学 率	平成 26年 度卒 業見 込み	内部 進学 率	平成 27年 度卒 業見 込み	内部 進学 率
□ 高校卒業生数	267		234		168		186		200		291		443		513		430	
内部進学者数	74	29%	86	37%	76	50%	59	32%	84	46%	138	47%	208	47%	241	47%	202	47%
マネジメント学部	3	1%	0	0%	1	1%	1	1%	4	2%	3	1%	4	1%	5	1%	4	1%
芸術学部	1	0%	8	3%	3	2%	8	4%	8	4%	30	10%	45	10%	51	10%	43	10%
びわこ成蹊スポーツ大学	7	3%	9	4%	9	6%	1	1%	4	2%	3	1%	4	1%	5	1%	4	1%
大阪成蹊短期大学	63	24%	69	30%	63	41%	49	26%	68	37%	102	35%	155	35%	180	35%	151	35%
うち、児童教育学科	39	-	41	-	36	-	39	-	35	-	68	-	103	-	120	-	101	-

※平成 25～27 年度卒業生の内部進学者は 24 年度をベースに同率で算出

なお、大阪成蹊大学では、ここ数年入学定員を充足していなかったが、**芸術学部では、定員充足率が平成 23 年度が 0.99、24 年度が 1.24 と 2 年連続でほぼ定員を充足**してきた(表 7)。また、マネジメント学部においても入学者は増加傾向へと転じている。

芸術学部では、平成 24 年度にキャンパスを競合する芸術系大学の多い京都府長岡京市から高校生数が多く、芸術系大学のない大阪市内に移転し、同時にアニメーション・キャラクターデザインコースを開設、また、アート&デザインコンペティションの開催等種々の施策を展開した。それら取組みの成果が学生募集に表れ定員を充足した。

また、マネジメント学部においても、平成 23 年度に学部名称を変更するとともにスポーツや食、メディアに関するビジネスに焦点をあてた学びを導入するなど魅力ある学びの改革を実行した。また、陸上短距離やテニス、フットサルなどの課外活動の活性化を図ったことも学生募集に大いに役立った。

さらに、芸術学部の移転にともない実習室や食堂等キャンパスの大規模な改修等を実施し、学びの環境改善に取り組み、さらに、入試広報活動を強化するため、組織の改編と人員の強化等を積極的に行った。その結果、**マネジメント学部**においても近年低迷していた募集において **24 年度に対前年比 1.66 倍の入学**者となり、25 年度入試においても好調を維持している（表 7）。現在取り組んでいる**平成 26 年度生募集のオープンキャンパス**では、**マネジメント学部の説明会への高校生来場者数は、7 月末日対比で対前年比が 127%**と大きく上回っており、入学定員確保が可能な募集状況である。また、大阪成蹊大学、大阪成蹊短期大学全体でも 137%増の動員となっている（表 8）。

募集広報の効果等と同時に教育学部設置の情報も大阪成蹊大学全体の募集に好影響をもたらしている。3 学部目となる教育学部の設置により大阪成蹊大学のブランド力が一層向上し、既設学部の定員確保において大きな相乗効果が期待できる情勢となっている。

大阪成蹊大学の入学者数の推移

（表 7）（単位：人）

	入学定員 (24年度)	平成21年度		平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度	
		(実績)	前年比	(実績)	前年比	(実績)	前年比	(実績)	前年比	(実績)	前年比
大阪成蹊大学											
マネジメント学部	200	122	▲ 29	110	▲ 12	107	▲ 3	178	71	153	▲ 25
芸術学部	150	107	▲ 58	115	8	90	▲ 25	149	59	187	38
合計	350	229	▲ 87	225	▲ 4	197	▲ 28	327	130	340	13

オープンキャンパス参加者数（平成25年7月末現在）

（表 8）（単位：人）

□	24年度募集		25年度募集		26年度募集		
	通年	7月末日現在	通年	7月末日現在	7月末日現在	23年7月比率	24年7月比率
大阪成蹊大学	1,200	688	1,446	818	1,003	145%	122%
マネジメント学部	410	194	503	248	315	162%	127%
芸術学部	790	494	943	570	688	139%	120%
教育学部	-	-	-	-	311	-	-
大阪成蹊短期大学	1,917	1,079	2,129	1,268	1,550	143%	122%
大阪成蹊大学・短期大学合計	3,117	1,767	3,575	2,086	2,864	162%	137%

以上の通り、全国的な教育系学科の人気度、地域の既存校のデータ、そして併設高校をはじめとしたアンケート調査の結果から判断すると、本学が計画している教育学部の入学定員 100 人を確保することは、充分可能であると考ええる。

（3）3 年次編入学定員について

本学部、本学科においては、3 年次に編入学定員を設ける。その趣旨及び理由は、以下のとおりである。（平成 28 年度から実施）

- ① 大学、短期大学、高等専門学校卒業生に広く学修機会を提供する。
- ② 大学の門戸を広く社会に開放し、地域の生涯学修の推進に貢献する。
- ③ 本学園大阪成蹊短期大学卒業生へ学習機会を提供する。

編入学年次は 3 年次の年度当初とし、編入学定員は、次のアンケート結果を考慮して 10 人とする。平成 24 年 11 月に実施した、本学園に併設する短期大学における「大阪

成蹊大学教育学部（仮称）編入学に関するアンケート調査」（資料 5）において、教育学部に編入学を希望する者が 21 人いた。

なお、編入学生募集の対象は次のとおりである。

- ① 短期大学（部）、高等専門学校を卒業した者。
- ② 大学を卒業した者。
- ③ 大学に 2 年以上在学し、62 単位以上を修得した者。

なお、小学校、幼稚園及び中学校のいずれかの教員免許状を取得している者。または、保育士資格を取得している者に限る。

2. 卒業後の進路

本学部の学生は、卒業時に小学校教諭一種免許状、幼稚園教諭一種免許状、保育士資格取得をめざして学修する。ダブルライセンス取得も可能な教育課程が組まれるので、幼稚園、小学校教諭一種免許状を取得した学生は、卒業後小学校か幼稚園のいずれに所属しても幼稚園から小学校への移行期に効果的に対応できる教育を行うことができ、幼稚園教諭一種免許状、保育士資格を取得した学生は、就学前の子どもの支援、教育も行うことができる。

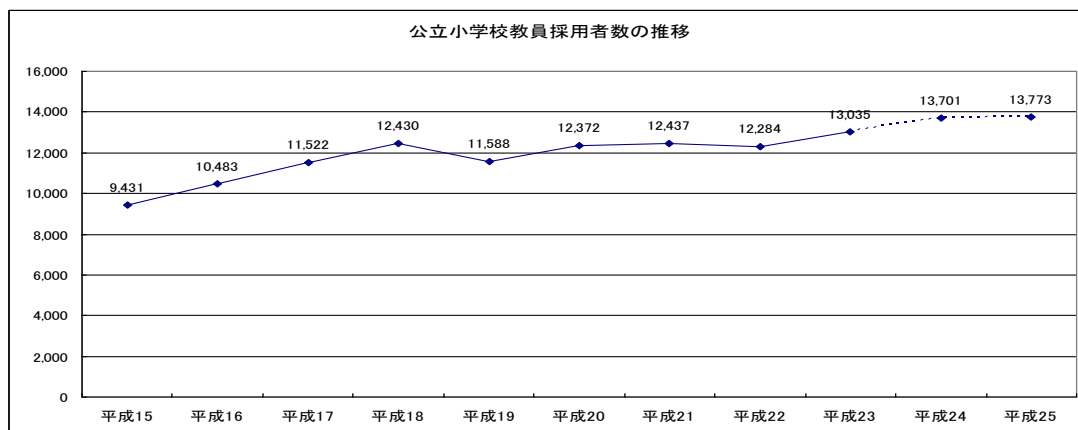
本学部の卒業生の大半は、上記の取得した免許、資格を活用して、小学校、幼稚園の教員あるいは、保育士を目指し、一部の学生が一般企業へ就職するものと推測している。

（1）小学校教員の就職について

小学校教員を希望する学生の就職につき下記のとおり考察した。

下表（表 9）「公立小学校教員採用者数の推移」は、平成 15 年度以降平成 25 年度（見込み）までの教員採用者数の推移（文部科学省調べ）である。

（表 9）



小学校教員の近年の採用状況は、平成 15 年度（9,431 人）から 18 年度（12,430 人）にかけて毎年増加し、その後若干の増減を経て、平成 22 年から再び毎年増加し、平成

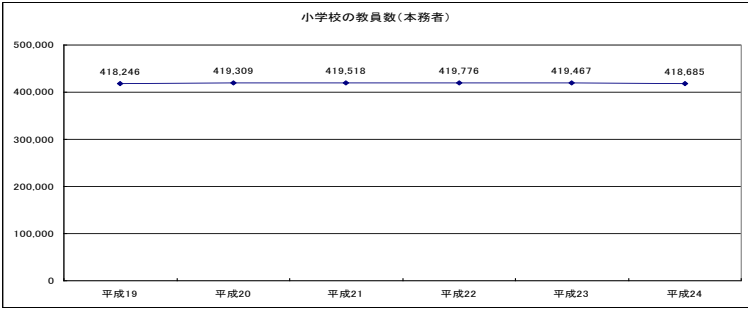
25 年度の採用予定は、13, 773 人となる見込みである。この間の本務教員数は、平成 20 年度から 5 ヶ年ほぼ 419, 000 人程度で一定した数で推移している。(表 10、表 11 参照)

(表 10)

年度	本務教員数
平成19	418,246
平成20	419,309
平成21	419,518
平成22	419,776
平成23	419,467
平成24	418,685

小学校の教員数（本務者）

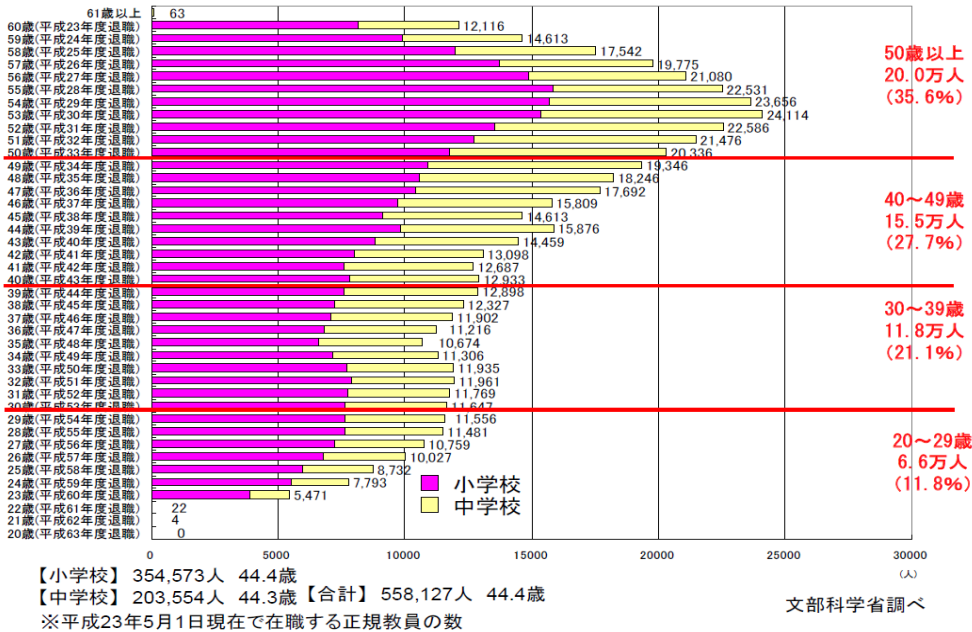
(表 11)



一方、定年退職者数は、下表（表 12）に示すとおり、平成 23 年度から毎年増加し、平成 28 年のピーク、その後のなだらかな下降においても、平成 36 年度まで、平成 24 年度の退職者数（10, 000 人）を超える高い数値が続くと考えられる。(文部科学省調べ)

(表 12)

公立小・中学校年齢別教員数(平成24年3月31日)



また、次頁の表（表 13）の文部科学省「平成 25 年度以降の公立小学校教員採用見込み数」において示されている平成 25 年度以降 5 ヶ年の公立小学校教員採用見込み数(全国・近畿)のデータによれば、毎年漸増し、13, 000 人台から 15, 000 人台となっている。

(表 13)



さらに、教職員定数改善計画「35 人以下学級の推進」(19,800 人)と「個別の教育課題への対応」(8,000 人)なども計画されており、教員の退職年齢の延長や出生率の低下等があるとしても、平成 30 年以降も小学校教員の採用は、安定的に確保されると予測される。

大阪成蹊大学では、本学部の設置に当たって、大阪市をはじめ北摂地域等近隣の各教育委員会と連携協力に関する協定を締結した。

各教育委員会では、近年、教員の早期離職の増加や子どもや保護者とのコミュニケーション能力の欠如によるトラブル発生や「いじめ」や別室登校児童の増加といった大きな問題を抱えており、真に人間力のある教員、問題解決力のある教員の育成のために種々の対策を講じようとしている。今般、本学が**近隣地域の 12 市町の教育委員会と連携協力の協定を締結したのは、本学園の教員養成の実績を踏まえ、各教育委員会が本学の教員養成のカリキュラムを高く評価したことと地域の事情を熟知した学生の採用を期待してのことである。**

本学では、1 年次の基礎ゼミ I において実施する学校見学から 2 年次の教育インターンシップ I・II、3 年次の教育実習を各教育委員会との連携で実施することとしている。これら教員養成実習の実施に際しては、各教育委員会を通じて学生の実習先を決定し、常に大学と教育委員会が連携し情報を共有しつつ互いに協力して、教育人材の養成を行う。

現在、連携協定を締結したのは、**大阪市教育局委員会をはじめ茨木市、吹田市、摂津市、高槻市、東大阪市、川西市のほか大阪府より教員採用の人事権の委譲を受けた豊能地区 3 市 2 町(豊中市、池田市、箕面市、豊能町、能勢町)の各教育委員会**である(資料 28)。

近隣地域の教育現場のニーズと深くかわり、そのニーズに的確に応える本学の教育

に、地元の教育委員会からは大きな期待が持たれている。この協定は、本学と 12 市町の教育委員会とが協力して、地元のニーズや教育現場を良く知る地元学生を育成し、その学生が地域の教員として活躍することを大きな目的の一つとしている。本学が今回の教育学部設置に当たり、一挙に 12 市町の教育委員会と締結できた理由は、本学園の短期大学がこれまで永年にわたり養成してきた教員が大阪市や北大阪地域において数多く、平成 24 年 4 月現在では、小学校教員として 388 人が現役で活躍している実績によるところが大きい。

小学校教員の一般的な採用状況に加えて、本学が締結した**近隣 12 市町の教育委員会との協定による地域密着型の教員養成**により本学卒業学生の教員採用は十分確保できると考える。

（２）幼稚園教員、保育士の就職について

幼稚園教員免許及び保育士資格取得者の就職については、（資料 6）の通り、幼稚園・保育所等に向けてアンケート調査を実施した。調査対象地域は、本学を中心に大阪市内、北摂各市等とし、アンケートの依頼件数 545 件の中から 245 件の有効回答を得た。

有効回答の内訳は、下表（表 14）のとおり、幼稚園が 97 件、保育園・保育所が 138 件、こども園が 10 件であった。

①有効回答事業所数 （表 14）（単位：件）

事業所区分	回答数
幼稚園	97
保育園・保育所	138
こども園	10
合計	245

幼稚園教諭の採用について、採用したいと回答した事業所数は、下表（表 15）のとおり幼稚園で 52、保育園・保育所、こども園で各々 6 の合計で 64 事業所であった。

②幼稚園教諭の採用

（表 15）（単位：事業所）

選択項目	幼稚園	保育園・保育	こども園	合計
採用したい	52	6	6	64
どちらとも言えない	34	9	2	45
採用の予定はない	8	22	0	30
無回答	3	101	2	106
合計	97	138	10	245

保育士の採用については、次表（表 16）のとおり、幼稚園で 15、保育園・保育所で 79、こども園 5 の合計 99 事業所であった。

③保育士の採用

(表 16) (単位：事業所)

選択項目	幼稚園	保育園・保育所	こども園	合計
採用したい	15	79	5	99
どちらとも言えない	14	42	3	59
採用の予定はない	27	5	1	33
無回答	41	12	1	54
合計	97	138	10	245

幼稚園教諭、保育士を採用したいと回答した事業所には、採用人数も合わせて尋ねた。

その結果、**幼稚園教諭については、合計で 65 人の採用希望人数**（表 17）、**保育士については、131 人の採用希望人数**となり、幼稚園教諭、保育士に対する採用希望人数は、本学教育学部の入学定員 100 人に対し十分に採用の需要が見込める結果となった（表 18）。

なお、幼稚園教諭、保育士の採用において、幼稚園が保育士の採用を希望し、保育園・保育所が幼稚園教諭の採用を希望しているのは、将来のこども園への移行を見越していると推測される。

④幼稚園教諭の採用希望人数

(表 17)

(単位：件・人)

選択項目	幼稚園	保育園・保育所	こども園	事業所数合計	採用人数合計
1 名	13	0	0	13	13
2 名	16	0	1	17	34
3 名	1	0	1	2	6
4 名	2	1	0	3	12
5 名	0	0	0	0	0
6 名以上	0	0	0	0	0
無回答	65	137	8	210	0
合計	97	138	10	245	65

⑤保育士の採用希望人数

(表 18)

(単位：件・人)

選択項目	幼稚園	保育園・保育所	こども園	事業所数合計	採用人数合計（人）
1 名	6	13	0	19	19
2 名	1	20	0	21	42
3 名	0	10	0	10	30
4 名	1	1	0	2	8
5 名	0	5	0	5	25
6 名以上	0	1	0	1	7
無回答	89	88	10	187	0
合計	97	138	10	245	131

※保育園・保育所の 6 名以上の採用と回答した園の採用人数は 7 人

また、上記調査において『採用したい』と回答したが、採用人数が未記入であった事業所が多数あったため、改めて平成 25 年 8 月に追加の確認調査を行った（資料 29）。その結果、**幼稚園教諭の採用人数が 66 人、保育士の採用人数が 159 人新たに加わり、合計で幼稚園の採用希望者数が 131 人、保育士の採用希望者数が 290 人**となった。近年の北大阪地区では、幼稚園教諭及び保育士の欠員状況が深刻になりつつあり、採用の意向が極めて強い。

なお、大阪府私立幼稚園連盟が近畿 2 府 4 県の大学、短期大学、専門学校を対象に実施したアンケート調査「就職実績比較表」（表 19）によると、私立・国公立幼稚園、民間・公立保育所等における 4 年制大学卒業の就職者は、**平成 15 年度の 797 人から平成 24 年度の 2,041 人まで大幅に増加**している。4 年制大学の調査対象校数が平成 24 年度には大幅に増加していることがその要因ではあるが、**需要は 2,000 人を越えるほど**であり、前述したとおり増加傾向は顕著であり、幼稚園教諭及び保育士の欠員が採用数に表れている。

今日、幼稚園や保育所等では、豊富な専門知識や、保護者対応等に求められるコミュニケーション能力、強い忍耐力等といった能力を教員や保育士に求めている。本学では、保育園・幼稚園実習までに、1 年次の基礎ゼミ I において実施する園・施設見学、2 年次の教育インターンシップ I で、実践の現場と大学での理論的省察とを往還するカリキュラムを編成している。豊富な実習をとおして、第 1 に、乳幼児理解に加えて、保護者とのコミュニケーションなどを体得する。第 2 に、大学において、その実践を記録し省察するサイクルを継続的に経験することで、実践と結びついた理論的知識の修得とともに、保育・幼児教育の専門家として長く務め、自らの専門性を高めていく基礎を培うことができると考えている。本学教育学部の卒業生は、高い専門的知識と強い人間力を養い、現在現場が抱えている問題に対応できる人材であり、幼稚園、保育園等への就職は十分見込めるものと考えている。

就職実績比較表（大阪府私立幼稚園連盟調べ）（表 19）（単位：人）

	私立幼稚園				国公立幼稚園				民間保育所				公立保育所				その他				合計			
	平成 15 年度	平成 19 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 15 年度	平成 19 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 15 年度	平成 19 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 15 年度	平成 19 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 15 年度	平成 19 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 15 年度	平成 19 年度	平成 23 年度	平成 24 年度
	15 年度	19 年度	23 年度	24 年度	15 年度	19 年度	23 年度	24 年度	15 年度	19 年度	23 年度	24 年度	15 年度	19 年度	23 年度	24 年度	15 年度	19 年度	23 年度	24 年度	15 年度	19 年度	23 年度	24 年度
4 年制就職者	214	218	147	279	71	77	49	118	72	198	331	423	37	101	63	161	403	586	444	1,060	797	1,180	1,034	2,041
短大就職者	1,244	1,004	586	753	57	68	27	44	2,286	2,256	1,361	1,809	185	226	119	104	655	728	323	585	4,427	4,282	2,416	3,295
専門就職者	45	9	36	22	0	3	1	0	202	69	242	102	12	11	9	5	40	51	24	73	299	143	312	202
合計	1,503	1,231	769	1,054	128	148	77	162	2,560	2,523	1,934	2,334	234	338	191	270	1,098	1,365	791	1,718	5,523	5,605	3,762	5,538

※平成 15 年度 回答養成校内訳 49 校（内訳不明）

※平成 19 年度 回答養成校内訳 49 校（4 年制 13 校、短大 32 校、専門 4 校）

※平成 23 年度 回答養成校内訳 48 校（4 年制 14 校、短大 27 校、専門 7 校）

※平成 24 年度 回答養成校内訳 60 校（4 年制 24 校、短大 32 校、専門 4 校）

また、本学園に送付される幼稚園教諭・保育士の求人数は平成 24 年度実績で 730 件であった（表 20）。

幼稚園、保育士の求人は、毎年着実に 700 件を超えており、今年度も 7 月末までの求

人票受領数を見ると、対前年比で3.6倍、前々年度比で3倍の求人票を受領しており、各園の採用意欲は一段と高まっている。

なお、平成24年度に受け取った求人票730件の内訳は、幼稚園教諭対象が285件、保育士対象が445件であった。その求人票に**4年制大学及び短期大学卒業生のいずれの学生をも対象とする求人票が、幼稚園教諭において151件**（幼稚園全体の53%）、**保育士では375件**（保育士全体の84%）あり、短期大学卒業生への求人も活発であるが、4年制大学卒業生への求人も一段と活発化していることがうかがえる。

■平成25年度(2012.12.1～現在)

(表20)(単位:人)

	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
幼稚園教員	0	0	0	0	0	19	54	72									145
保育士	1	1	2	1	9	35	95	81									225
小計	1	1	2	1	9	54	149	153									370
累計	1	2	4	5	14	68	217	370									

■平成24年度(2011.12.1～2013.3.31)

	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
幼稚園教員	0	1	1	0	0	3	12	21	38	67	65	34	22	15	6	0	285
保育士	1	1	1	0	2	11	19	29	60	67	74	75	56	34	13	2	445
小計	1	2	2	0	2	14	31	50	98	134	139	109	78	49	19	2	730
累計	1	3	5	5	7	21	52	102	200	334	473	582	660	709	728	730	

■平成23年度(2010.12.1～2012.3.31)

	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
幼稚園教員	0	0	0	0	1	0	20	29	22	58	66	56	35	23	5	3	318
保育士	0	1	1	0	3	4	33	30	33	70	81	52	52	76	13	17	466
小計	0	1	1	0	4	4	53	59	55	128	147	108	87	99	18	20	784
累計	0	1	2	2	6	10	63	122	177	305	452	560	647	746	764	784	

なお、大阪成蹊短期大学卒業生の就職実績は下表(表21)のとおり、2年連続で100%の実績であり、本学園の幼児教育の実績と幼稚園、保育園等の信頼は就職の実績からも明らかである。短期大学の就職実績については、正規、非正規に区分し表に表わした。その大部分は正規雇用である。以上のような状況から、本学教育学部に対する地域の教育委員会や幼稚園、保育園等の期待は極めて大きく、本学教育学部学生の就職先は十分確保されていると考える。

大阪成蹊短期大学の就職実績

(表21)(単位:人)

	平成23年度		平成24年度	
	正規雇用	非正規雇用	正規雇用	非正規雇用
就職希望者	135		145	
幼稚園教諭	48	4	46	1
保育士	78	8	85	4
一般企業	9	4	14	0
就職率	100%		100%	

(3) 一般企業への就職について

小学校・幼稚園教員、保育士への就職をめざす学生とは別に、一部には、一般の企業等への就職をめざす学生も考えられる。

このため本学では、学校、幼稚園、保育所以外の一般企業への就職に関し情報を得るた

め、平成24年9月1日から11月30日にかけて一般企業の中で特に教育学部の卒業生が有利であろうと推測し、教育に関係のある企業に対し、アンケート及び聞き取り調査を第三者機関の株式会社紀伊國屋書店に依頼して実施した。（詳細は（資料7）のとおり）

アンケートは、全部で7問の質問（6問は4つの選択肢から一つを選び、あと1問は自由記載とした）で、その第6問で「大阪成蹊大学教育学部（設置準備中）の卒業生を採用する可能性はありますか」という質問を設定した。8社中4社が「採用したい」、3社が「どちらとも言えない」、1社が「採用の予定はない」という回答であった。

また、聞き取り調査においては、上記「採用したい」と回答した企業のうち3社から、幼児教育学、児童教育学を学んでいることは、採用の審査において重要な優位ポイントであるとの意見を得ている。

教育系企業においては、8社中4社の50%が「採用したい」と回答しており、さらにそのうちの3社、全体の37.5%、「採用したい」と回答した企業の75%が教育学部で学んだ学生の採用に積極的であることが本調査において確認できた。

さらに追加調査として平成25年8月に本学園では、教育系企業に限定せず、地域性を考慮して大阪府下及び近隣に所在する企業に対し、別途本学の教育学部卒業生の採用についてアンケート調査を行った（資料30）。アンケートは、大阪成蹊大学のマネジメント学部、芸術学部において、求人依頼のある企業及び、すでに就職実績のある企業を中心に実施し、本学教育学部の学生を『採用したいか』どうかを質問した。

調査対象企業は、大阪府下及び近隣に事業所や営業所を置く84社で実施し、全社の有効回答を得た。そのうち、**74社が『採用したい』と答え**、本教育学部の学生が教育系以外の一般企業においても就職が十分可能であることが確認された。

一般企業への就職希望者の総数はそれ程多くはないと思われるが、教育学部の学びの特色を生かした就職をはじめ、教育関係以外の企業においても十分就職できるものと考えている。

Ⅲ. 学部、学科等の特色

本学部・本学科の特色

本学部・本学科は、時代が求める新しい教育への対応と普遍的な教育の営みとを総合的・専門的に学修し、未来を切り拓く子どもの「生きる力」を育むことのできる、幅広い教養を持った専門職業人を養成することを目的としている。

子どもが自立して社会の中で豊かな人生を送るためには、「生きる力」すなわち自ら学び、考え、行動する力が求められているが、幼児期から児童期においては、その基盤となる「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を育むことが重要である。子どもの基礎的・基本的な知識・技能と思考力・判断力・表現力を伸ばし、道徳的価値や生き方についての考えを深め、体力・運動能力の向上を図ることは、教員としての必須要件である。

子どもの「生きる力」を育むことのできる、幅広い教養を持った専門職業人の育成をめざす、本学部・本学科の特色は、以下の4点である。

①小学校・幼稚園教諭一種免許状、保育士資格が取得可能

本学部・本学科は、小学校、幼稚園、保育所での教育活動に必要な小学校教員と幼稚園教員及び保育士資格の取得が可能な教育課程が組まれている。特に、様々な学外実習を体験し、教育現場と教育学、保育学、教科教育学を結びつけて研究する「実践力」を育てることをめざす。

②豊かな感性を持った人材の育成

本学部・本学科は、子どもの心身の健全な発育発達と豊かな情操を養うことに寄与すべく国語、社会、算数、理科に重点を置くと同時に、体育、音楽、図画工作領域の教育に関しても幅広い知識と技能を持った人材を育成するため専門選択科目が組まれている。感性豊かな人材を育成するためには、体育、音楽、図画工作の科目によって感受性を培い、様々な事柄に感応するセンスを養うことが重要となる。たとえば体育は、様々な変化する状況の中で、身体活動を通して他者を理解するとともに自己を知り、社会性をはじめコミュニケーション能力を身に付けることとともに健康の維持、意欲や気力の充実を図ることが期待できる教科である。

また、音楽、図画工作は、ヒトの感性を十分に働かせ個性豊かな表現を可能にして、豊かな情操を養うことができる教科である。単に、作品制作やスキルの習得にとどまらず、音楽、美術文化をも理解することが可能である。これらの領域は、いずれも体験学習を通して展開されるものであり、子どもは達成感を心と体で感じることができる。つまり、発育発達の最も著しい時期の子どもの体、心の成長に大きく寄与するものであり、子どもの「生きる力」を養う教科といえる。さらに、これらの指導を通して子ども一人ひとりの個性や課題を把握し、きめ細かな対応や健全なクラス運営にも寄与することが期待できる。また指導者は、各領域における専門知識を深めるとともに、指導者自身の豊かな感性を育み、深い洞察力を身につけることにより、教員としての資質向上も期待できる。

③チューター制度によるきめ細かな教育

1年次から4年次まで担任機能を備えた、少人数制のゼミを各学年に設け、学修支援、実習支援、就職支援を日常的に行う体制を整える。このゼミを中心として、教育現場での体験的な学修と大学での理論的な学修を常に往還させ、学生一人ひとりの自律的な学修を促すとともに未来を担う子どもの豊かな成長を支援する教育のあり方を実践的に追究できる人材を育成する。

④豊富な実習体験

本学部・本学科では、早い段階から学外学修を取り入れる。見学実習、教育インターンシップ、教育実習、ボランティア活動などを系統立てて計画し、事前、事後学習を実施する。豊富な実習体験を積み、生きた子ども理解を進めるとともに、モデル教員との

出合いをはじめ、学生と大学教員、学校現場の現職教師との協同による省察を充実させ、教員となるための実践的な教育を行う。

協同による省察を地域にも広げ、今日の大学が求められる地域の知の拠点としての機能や、地域への開放という任務を果たすために、完成年度以降に「子ども教育研究センター(仮)」の設置を構想している。子ども教育研究センター(仮)において、学校や地域の教育課題の解決にともに携わるための調査研究活動や研修、保護者や地域の相談事業等の実施を計画している。

このような豊富な実習体験は、卒業と同時に「教えるプロ」としての自負を胸に抱き、教員として指導実践のできるさまざまなスキルの習得に持つながら。また、教員としての仕事内容を理解し、具体的な授業の進め方や子どもたちとのコミュニケーションのとり方など、必要な知識や技術を徹底して習得できる。

IV. 学部、学科等の名称及び学位の名称

本学部・本学科の理念は、時代が求める新しい教育への対応と普遍的な教育の営みとを総合的・専門的に学修し、未来を切り拓く子どもの「生きる力」を育むことのできる、幅広い教養を持った専門職業人を養成することである。特に子どもの学びを支える学校教育を中心に、未来を担う子どもの豊かな成長を支援する教育のあり方を実践的に追究できる人材を育成する。

ゆえに、学部の名称は「教育学部（英訳：Faculty of Education）」とし、学科名称は「教育学科（英訳：Department of Education）」とする。あわせて、学位名称については、本学部・本学科の教育課程の編成に基づき、「学士（教育学）（英訳：Bachelor of Education）」とする。

V. 教育課程の編成の考え方及び特色

1. 教育課程の編成の考え方

(1) 教育課程編成の基本的方針

本学部・本学科は、時代が求める新しい教育への対応と普遍的な教育の営みとを総合的・専門的に学修し、未来を切り拓く子どもの「生きる力」を育むことのできる、幅広い教養を持った専門職業人を養成するという理念にもとづき、以下の諸能力を有する人材を育成することを目標としている。

①人間的なふれあいを通して心のきずなを深め、子どもの思いを受け止めることのできる人材

②幅広い学問教養を備え、新しい時代の教育知識を身につけた人材

③多角的視点から現代社会の教育課題に対応できる豊かな感性・確かなセンスを持った人材

④教育実践を省察し研究することのできる人材

上記の人材を育成するための教育課程編成の基本方針を以下の5点とする。

①幅広い教養を持った専門職業人を育てるという理念を念頭に、その基礎となる社会教養を培う科目として、共通基礎科目と教養科目、キャリア支援科目を配置する。

②幅広い学問教養を備え、新しい時代の教育知識を身につけた人材を育てるため、社会教養に加えて専門教養及び教科教養を涵養する科目として、教職及び保育に関する専門的基礎理論や、教科の専門的基礎理論の修得をめざす「専門基礎」を配置する。

③多角的視点から現代社会の教育課題に対応できる人材を育てるため、「専門選択科目」を配置し、教科選択と教育課題の2つの区分を設ける。

④教育実践を省察し研究することのできる人材を育てるため、「実践研究科目」を設置し、教職と教科の架橋的科目、教育現場での実習・体験を継続的に行う科目、学校現場での実践を理論と結びつけて省察し研究する研究科目を配置する。

⑤卒業後に教育の専門性を活かして社会に参加していくための「教職キャリア」、関心のある分野を深める、苦手な分野を克服する、など、各自が目的を持って全ての科目のなかから履修科目を選択する「自由枠」を配置する。

上記の中で、必修の授業科目は、＜大学共通科目＞の「大学での学びとキャリアを考える」「情報リテラシーⅠ」「英語基礎Ⅰ」「英語基礎Ⅱ」「英語演習Ⅰ」「英語演習Ⅱ」「日本国憲法」「スポーツ演習Ⅰ」「スポーツ演習Ⅱ」、＜専門基礎科目＞の「教職論」「教育学」「教育行政学」「教育心理学」、＜実践研究科目＞の「基礎ゼミⅠ」「基礎ゼミⅡ」「基礎ゼミⅢ」「専門基礎演習Ⅰ」「専門基礎演習Ⅱ」「専門演習Ⅰ」「専門演習Ⅱ」とし、これら以外の科目は選択とする。

したがって、教育課程は大学共通科目には、共通基礎科目、教養科目、キャリア支援科目を、専門科目には、専門基礎科目、専門選択科目、実践研究科目、教職キャリア科目で編成している。特に、専門基礎科目には、教職基礎、初等教育、幼児教育、保育、教科を、専門選択科目には、教科選択、教育課題を、実践研究科目には、架橋的科目、体験・実習、研究科目を配置している。

この方針のもと、編成した教育課程の概要は次のとおりである。

大学 共通 科目	共通基礎科目	大学入門基礎講座	
		情報処理	
		外国語	
	教養科目	人間の理解	
		現代社会と国際理解	
		科学技術と環境の理解	
		地域文化の理解	
		子どもと社会	
		健康とスポーツ	

	キャリア支援科目		
専門科目	専門基礎科目	教職基礎	
		初等教育	教育課程及び指導法
			生徒指導・教育相談
		幼児教育	
		保育	
	教科		
		専門選択科目	教科選択
	教育課題		
	実践研究科目	架橋的科目	
		体験・実習	
		研究科目	チュートリアル
卒業研究			
教職キャリア科目			

（なお、学科の教育目標と配置した科目の対応及び教育課程の履修順序（配当年次）を概念図として示す（資料 8））

（２）教育課程とコース制

上記教育課程の実施にあたり人材育成の方向を明確にし、より効果的効率的に教学指導をすすめるため２つのコースを置くこととする。

初等教育コースは、小学校教諭一種免許状と併せて幼稚園教諭一種免許状を取得できるコースで、主に幼稚園教育に理解を持った小学校の教員を養成するものであり、子ども教育の内容および目的についての理解をふまえた教育内容と指導法を学ぶことを目標とする。

幼児教育コースは、幼稚園教諭一種免許状と併せて保育士資格を取得できるコースで、幼稚園教員、保育士に求められる、子ども理解、保育内容の理解、教育・保育の目的についての理解をふまえた教育・保育内容と指導法を学ぶことを目標とする。

コースの選択は、２年次からとし、１年次からチューター（担任）制度のもとで、教員らが学生一人ひとりの適性を見極めながらアドバイスをを行い、将来の職業と関連させながらコースを選択させるものとする。

小学校教員、幼稚園教員、保育士として実践力を養成するため系統的に教育実習に参加させる。初等教育コースでは、３年次に教育実習（小学校）、４年次に教育実習（幼稚園）に参加させる。幼児教育コースでは、２年次に保育実習Ⅰ－１（保育所）、３年次に教育実習（幼稚園）、保育実習Ⅰ－２（施設）、４年次に保育実習ⅡまたはⅢ（保育所または施設）に参加させる。

なお、各コースの教育課程において、教員免許または保育士資格の取得を希望しない

場合は、卒業要件を充たすことにより卒業できるものとしている。

(3) 大学共通科目の編成区分と授業科目

初等教育コース及び幼児教育コースでは、各コースの必修(以下、「コース必修」という)の授業科目を修得しなければならない。以下に編成区分等を解説する。

共通基礎科目は、大学での学修を円滑に進めることを目的とした「大学入門基礎講座」、社会人として仕事の遂行を促進するために不可欠な基礎的技能(ベーシック・リテラシー)の修得をめざす「情報処理」「外国語」から構成する。

・大学入門基礎講座

「大学入門基礎講座」は、新入生へのオリエンテーションとして、高校から大学の学習環境への移行を促す初年次教育科目である。大学での学びと生活をスムーズに進め、アカデミックスキルや批判的思考を育てる「大学での学びとキャリアを考える」を開講し、必修とする。

・情報処理

「情報処理」では、社会人の基礎的な技能であるコンピュータ操作の基礎を学ぶ「情報リテラシーⅠ」「情報リテラシーⅡ」を開講し、1年次に「情報リテラシーⅠ」を必修とする。

・外国語

「外国語」は、1年次から継続的に履修し、専門科目の教科選択の小区分である教育課題に配置する「外国語活動(小学校英語Ⅰ)」「外国語活動(小学校英語Ⅱ)」につなぐ、基礎科目である。グローバル化した世界では、母語以外の外国語の学習は社会人として不可欠なスキルである。本学の教育課程は、わが国の地理的近接性及び国際社会の情勢を考慮して外国語として「英語」、「中国語」、「フランス語」、「韓国語」で構成しているが、本学部・本学科では英語を4単位必修とし、1年次から2年次まで継続的に学習し、これに加えて外国語の科目2単位を選択させる。

「教養科目」については、「人間の理解」「現代社会と国際理解」「科学技術と環境の理解」「地域文化の理解」「子どもと社会」「健康とスポーツ」の6区分を設けた。

人間を取り巻く環境に対する深い関心と理解を持ち続け、自ら価値を見出し創造する力を身につけ、それらを発揮するところ豊かな良識ある人に育てることを目的とし、「日本国憲法」2単位及び「スポーツ演習Ⅰ」1単位「スポーツ演習Ⅱ」1単位を必修とする。これに加えて、初等教育コースでは、その他の教養科目8単位を選択させる。幼児教育コースでは、「子どもと文化」2単位をコース必修とし、その他の教養科目6単位を選択させる。

・人間の理解

人間性に対する深い関心を持つとともに、理解する能力を養うために、「日本の文学」「人間と宗教」「哲学」「心理学」「民族学」を開講する。

- ・現代社会と国際理解

国際社会を視野に入れて社会問題に目を向け、社会において担うべき責任を理解する能力を養うために、「日本国憲法」「国際理解教育」「人権と社会」「現代倫理」「社会学概論」「多文化共生社会」「日本史概説」「外国史概説」を開講する。

- ・科学技術と環境の理解

科学技術と自然環境との関係についての理解を深め、人間の尊厳の面から問題意識を持ち続ける力を養うために、「生命と科学」「環境と科学」「暮らしと科学」「物質と科学」を開講する。

- ・地域文化の理解

大学の位置する大阪や近隣の京都における、地域としての風土・文化・芸術や歴史に目を向けるために、「大阪の風土と文化」「京都の文化と芸術」を開講する。

- ・子どもと社会

「学び」のあり方が変化し、教育内容としても、基礎学力に加えて、表現力や思考力、探究力、いのちの教育、食育、外国語活動などが挙げられる。今日において、子どもは、学びを通して、文化とどう出会い、どのように世界を開いていくのか、という視点から、子どもが置かれている社会を捉え直すために、「子どもと文化」「子どもの成長とコミュニティ」を開講する。

- ・健康とスポーツ

健康な精神と肉体を培うとともに、健康的な生活を送る態度を身につけるために、「スポーツ演習Ⅰ」「スポーツ演習Ⅱ」を開講する。

- ・大学共通科目の「キャリア支援科目」として、職場体験・就業体験を通じて職業意識の醸成を図るインターンシップ科目（「企業インターンシップⅠ、Ⅱ」）を置く。教育職をめざす学生を対象に、別途、専門科目として、教職キャリア科目を開講する。

（４）専門基礎科目の編成区分と授業科目

専門基礎科目は、小学校教諭一種免許状、幼稚園教諭一種免許状、保育士資格の取得に関わる科目からなる。教員、保育士としての専門性の基礎を形成する科目群として、「教職基礎」「初等教育」「幼児教育」「保育」「教科」に大別した。

- ・教職基礎

「教職基礎」は、小学校教諭一種免許状、幼稚園教諭一種免許状、保育士資格の取得に関わる科目のうち、基礎となる科目「教職論」「教育学」「教育心理学」「教育行政学」で構成する。教育・保育の基本科目のため、すべて必修とする。

- ・初等教育

「初等教育」は、小学校教諭一種免許状及び幼稚園教諭一種免許状取得に関わる科目の中で、教員として、子ども、教育の内容及び目的についての理解をふまえた、教育内容の編成と指導法を学ぶ「教育課程及び指導法」に関する科目と、「生徒・教育

相談」に関する科目で構成する。

「教育課程及び指導法」に関する科目としては、「教育課程論（小学校）」「教育方法論」「道德教育の指導法」「特別活動の指導法」「国語科指導法Ⅰ」「社会科指導法Ⅰ」「算数科指導法Ⅰ」「理科指導法Ⅰ」「生活科指導法Ⅰ」「音楽科指導法Ⅰ」「図画工作科指導法Ⅰ」「家庭科指導法」「体育科指導法Ⅰ」「国語科指導法Ⅱ」「社会科指導法Ⅱ」「算数科指導法Ⅱ」「理科指導法Ⅱ」「生活科指導法Ⅱ」「音楽科指導法Ⅱ」「図画工作科指導法Ⅱ」「体育科指導法Ⅱ」を開講する。

初等教育コースでは、「教育課程論（小学校）」「教育方法論」「道德教育の指導法」「特別活動の指導法」「国語科指導法Ⅰ」「社会科指導法Ⅰ」「算数科指導法Ⅰ」「理科指導法Ⅰ」「生活科指導法Ⅰ」「音楽科指導法Ⅰ」「図画工作科指導法Ⅰ」「家庭科指導法」「体育科指導法Ⅰ」をコース必修とする。これに加えて、「教科の指導法Ⅱ」を4科目8単位選択させる。

「生徒・教育相談」に関する科目として、「生徒・進路指導論」「学校教育相談」を開講する。初等教育コースでは「生徒・進路指導論」「学校教育相談」をコース必修とする。幼児教育コースでは「学校教育相談」をコース必修とする。

・ 幼児教育

「幼児教育」は、幼稚園教諭一種免許状及び保育士資格の取得に関わる科目であり、幼稚園教員、保育士に求められる、子ども理解、保育内容の理解、教育・保育の目的についての理解をふまえた、教育・保育内容の編成と指導法を学ぶ科目である。科目としては、「保育教育課程論（幼稚園）」「保育内容総論」「保育内容（健康）」「保育内容（人間関係）」「保育内容（環境）」「保育内容（言葉）」「保育内容（表現1）」「保育内容（表現2）」「保育方法論」「幼児理解」を開講する。

幼児教育コースでは、「保育教育課程論（幼稚園）」「保育内容総論」「保育内容（健康）」「保育内容（人間関係）」「保育内容（環境）」「保育内容（言葉）」「保育内容（表現1）」「保育内容（表現2）」「保育方法論」「幼児理解」をコース必修とする。

初等教育コースでは、「保育教育課程論（幼稚園）」「保育内容総論」「保育方法論」「幼児理解」をコース必修とし、これに加えて幼児教育の科目から3科目6単位を選択させる。

・ 保育

「保育」は、保育士資格取得に関わる科目である。保育対象についての理解と、それをふまえた保育方法、さらには保育の原理的な理解を学ぶ科目である。「保育原理」「児童家庭福祉」「社会福祉」「相談援助」「社会的養護」「子どもの保健Ⅰ－1」「子どもの保健Ⅰ－2」「子どもの保健Ⅱ」「子どもの食と栄養」「家庭支援論」「乳児保育」「障害児保育」「社会的養護内容」「保育相談支援」を開講し、幼児教育コースでは、全科目をコース必修とする。

・ 教科

「教科」は、教育・保育の具体的な教科とされる科目群である。初等教育コース、幼児教育コースとも、基本となる科目「国語科内容論」「算数科内容論」「生活科内容論」「音楽科内容論」「図画工作科内容論」「体育科内容論」をコース必修とする。これに加えて、初等教育コースは、「社会科内容論」「理科内容論」「家庭科内容論」をコース必修とする。

(5) 専門選択科目の編成区分と授業科目

専門選択科目は、学科の特色である、表現科目の指導が得意な教員になること、また、子どもが置かれている現代社会への専門的理解を持つて子どもと関わることのできる教員、保育士になることをめざし開設する科目である。「教科選択」と「教育課題」に大別した。

・教科選択

「体育」「音楽」「図画工作」といった表現領域について、専門基礎科目で修得した専門基礎知識や技能をさらに発展させることや、理論的な理解を深めること、現場で求められる実践力を強化することを目的とする科目を配置した。具体的には、「体育」領域では、「体育実技Ⅰ」「体育実技Ⅱ」「スポーツ基礎科学」「体育学研究」「幼児体育指導論」「水泳」「スポーツ測定と評価」「テーピングとコンディショニング」「ジュニアスポーツ障害」を開講する。「音楽」領域では、「ピアノ実技Ⅰ」「ピアノ実技Ⅱ」「ピアノ実技Ⅲ」「伴奏法」「器楽指導法」「合唱指導法」「リトミック」「音楽療法」を開講する。「図画工作」領域では、「造形遊び」「子どもとワークショップ」「材料研究」「鑑賞教育」「芸術療法論」を開講する。

初等教育コースでは、「体育実技Ⅰ」「体育実技Ⅱ」をコース必修とする。

幼児教育コースでは、「体育実技Ⅰ」「スポーツ基礎科学」「幼児体育指導論」「ピアノ実技Ⅰ」「造形遊び」をコース必修とする。

・教育課題

子どもの安全、インクルージョン、グローバル化など、今日的な課題についての理解を深めるとともに、実践のための構想力を育てるために、「子どもの安全と学校」「特別支援教育」「外国語活動（小学校英語Ⅰ）」「外国語活動（小学校英語Ⅱ）」の科目を開講する。初等教育コースでは、すべての科目をコース必修とする。幼児教育コースでは、「子どもの安全と学校」をコース必修とする。

(6) 実践研究科目の編成区分と授業科目

実践研究科目は、教職専門と教科専門とを統合して実践を省察すること、また、教育実習等の実践と、教科や教職の理論科目とを統合して実践を省察し、問題を発見して次の実践を構想したり、課題を発見して研究したりすることを通して、実践研究の作法を学ぶ科目である。科目群として、「架橋的科目」「体験・実習」「研究科目」に大別した。

・架橋的科目

教科と教職、小学校、幼稚園、保育所の学校・施設間、実践と理論とを架橋させながら、教育・保育実践の複合性を理解し、事例を省察する基礎を育てるとともに、主体的に省察しながら実践することを経験するための科目である。学校教育を鳥瞰する「学校教育論」、実践を多角的に見て省察する「教育の事例研究」、学生が主体的に実践を構想し参加する「学校・施設ボランティア」「教育プロジェクト演習」「海外教育演習」を開設する。初等教育コース、幼児教育コースとも、2科目4単位を選択させる。

・体験・実習

学外での保育及び教育の体験や実習を中心とする科目群である。小学校教諭一種免許状、幼稚園教諭一種免許状、保育士資格取得に関わる実習科目群である。小学校教諭一種免許状取得に関わる科目として、「介護等体験（施設）」「教育実習事前事後指導（小学校）」「教育実習（小学校）」を開講する。幼稚園教諭一種免許状に関わる科目として、「教育実習事前事後指導（幼稚園）」、「教育実習Ⅰ（幼稚園）」「教育実習Ⅱ（幼稚園）」を配置した。保育士資格取得に関わる科目として、「保育実習指導Ⅰ-1」「保育実習指導Ⅰ-2」「保育実習指導Ⅱ」「保育実習指導Ⅲ」「保育実習Ⅰ-1」「保育実習Ⅰ-2」「保育実習」「保育実習Ⅱ」「保育実習Ⅲ」を配置した。また、教育実習に先立って、子どもと教育に関する広い体験や、学校生活全般を体験する「教育インターンシップⅠ」「教育インターンシップⅡ」を配置した。さらに、4年間の教育研究全般をふり返り、自己の成長を確認する「教職実践演習（幼稚園・小学校）」と「保育実践演習」を4年次後期に開講する。

初等教育コースでは、「教育実習事前事後指導（小学校）」「教育実習（小学校）」、「教職実践演習（幼稚園・小学校）」、「教育実習事前事後指導（幼稚園）」、「教育実習Ⅰ（幼稚園）」を必要に応じて履修させる。

幼児教育コースでは、「教育実習事前事後指導（幼稚園）」「教育実習Ⅰ（幼稚園）」「教育実習Ⅱ（幼稚園）」「教職実践演習（幼稚園・小学校）」「保育実習指導Ⅰ-1」「保育実習指導Ⅰ-2」「保育実習Ⅰ-1」「保育実習Ⅰ-2」「保育実践演習」を必要に応じて履修させる。「保育実習指導Ⅱ」または「保育実習指導Ⅲ」「保育実習Ⅱ」または「保育実習Ⅲ」を選択させる。

・研究科目

研究科目は必修科目で、学外での体験や実践と往還して、1年次から4年次にかけて実践力・省察力を積み上げていくことを主たる目的とする。科目構成の小区分として、「チュートリアル」と「卒業研究」を設けた。（（資料8）教育課程概念図参照）

「チュートリアル」は、専任教員が少人数の学生を担当するゼミナール形式の科目である。学部全体で開講する「基礎ゼミⅠ」「基礎ゼミⅡ」「基礎ゼミⅢ」、学生が研究分野を選択し、ゼミ形式で、より専門的な研究方法を学ぶ「専門基礎演習Ⅰ」「専

門基礎演習Ⅱ」「専門演習Ⅰ」「専門演習Ⅱ」からなる。研究科目の14単位はすべて必修とする。

- ・「基礎ゼミⅠ」（1年次後期）

毎週半日（午前中）、学校見学を実施し、記録、振り返りを行い、翌週の見学につなげる省察の習慣形成をめざす。

- ・「基礎ゼミⅡ」（2年次前期）

「教育インターンシップⅠ」の省察とともに、子どもや保護者とのコミュニケーションの方法や、教室での授業技術など、教員、保育士の身体技法を演習形式で学ぶ。

- ・「基礎ゼミⅢ」（2年次後期）

「教育インターンシップⅡ」の省察とともに、様々な教育研究方法に触れ、教員としての探究方法と関心分野を選択する機会とする。具体的には、教育哲学、心理学、教科教育、幼児教育、保育学などの研究分野ごとに、教員が教育実践を創造していくための研究方法（文献研究、参与観察法、調査法査）と論文の書き方を演習形式で学ぶ。

- ・「専門基礎演習Ⅰ」「専門基礎演習Ⅱ」（3年次前期・後期）

専門研究分野を選択し、「学校・施設ボランティア」や課外でのボランティア、「教育実習（小学校）」「教育実習（幼稚園）」「保育実習」の省察を通して課題を形成することと、その課題を専門的に研究するための基礎を学ぶ。

- ・「専門演習Ⅰ」「専門演習Ⅱ」（4年次前期・後期）

「卒業研究」として、実践の省察を通して焦点づけられてきた各自のテーマを探究する。

（7）教職キャリア科目

未来を切り拓く子どもの「生きる力」を育むことのできる、幅広い教養を持った専門職業人を養成するという本学部・本学科の目標に照らして、キャリア支援の一環として、教育・保育にかかわる職業人に求められる学問教養を育てる基礎科目を系統的に配置する。1年次では、「基礎教養（国語・算数）」「基礎教養（理科・社会）」を開講し、基礎教養の修得をめざす。2年次では、「教職基礎Ⅰ」「教職基礎Ⅱ」を開講し、教科及び教職専門教養の修得をめざす。「基礎教養（国語・算数）」「基礎教養（理科・社会）」「教職基礎Ⅰ」は、初等教育コース、幼児教育コース、ともにコース必修とする。3年次から4年次にかけて、「キャリア演習Ⅰ」「キャリア演習Ⅱ」「キャリア演習Ⅲ」を開講し、自己理解を深めながら卒業後の進路を選択し、自ら選択した職業で自律的に活躍していくためのキャリア支援を行う。初等教育コース、幼児教育コースともに「キャリア演習Ⅰ」をコース必修とする。

2. 教育課程の特色

(1) チューター制度

本学部・本学科の教育課程では、担任機能を備えたゼミを各学年に配置する。1年次の「大学での学びとキャリアを考える」「基礎ゼミⅠ」、2年次の「基礎ゼミⅡ」「基礎ゼミⅢ」、3年次の「専門基礎演習Ⅰ」「専門基礎演習Ⅱ」、4年次の「専門演習Ⅰ」「専門演習Ⅱ」まで、少人数クラス制で、学科専任の教員が担当することにより、学習支援、学外実習の省察、キャリア支援を継続・系統的に行うことが可能な教育課程としている。

(2) 独自の実習科目の配置

教育職員免許法施行規則や児童福祉法施行規則において、小学校教諭一種免許、幼稚園教諭一種免許、保育士資格取得に必要と定められた実習以外に、様々な形の実習を配置し、大学共通科目と連携して、体系的に実践力を育てる教育課程としている。

1年次前期に、大学共通科目「大学での学びとキャリアを考える」と「情報リテラシーⅠ」を連携させ、学校・地域参加の作法や手紙・メールの書き方、電話によるアポイントメントの取り方など、社会活動に必要なコミュニケーションの作法を学び、学校・地域参加のための初年次教育を行う。それをふまえて、1年次後期の「基礎ゼミⅠ」では毎週半日の学校見学を行い、教職への参加意識を高める教育を行う。2年次には、「介護等体験」や「教育インターンシップⅠ」「教育インターンシップⅡ」「保育実習Ⅰ-1」で学校園及び施設に入り、子どもと出会い、教員の仕事に参加していく。3年次の前期には「学校・施設ボランティア」で、学生の自主的な実践を促す。これらの経験を持つて、「教育実習Ⅰ（幼稚園）」「教育実習Ⅱ（幼稚園）」「教育実習（小学校）」「保育実習Ⅰ-2」に参加するとともに、学生には課外での学校ボランティアを促す。4年次には、学生が主体的に企画をし、学校・地域に参加していく「教育プロジェクト演習」を配置している。初等教育コースでは「教育実習Ⅰ（幼稚園）」、幼児教育コースでは「保育実習Ⅱ」または「保育実習Ⅲ」も行う。

このように、1年次に、学校に入る作法を学び、その後、「介護等体験」や「保育実習」に参加し、「教育インターンシップ」、「学校・施設ボランティア」を経て、教育実習に参加する。実習後も、課外での「学校・施設ボランティア」や「教育プロジェクト演習」で主体的な学校・地域参加を行う教育課程を編成し、学生が、継続的に、子どもと教育に関する幅広い体験をすると共に、地域と連携していくことの意義を理解することを目指している。

1年次		2年次	3年次	4年次
「大学での学びとキャリアを考える」	「基礎ゼミⅠ」	「教育インターンシップⅠ」 「教育インターンシップⅡ」	「学校・施設ボランティア」 (後期は課外で実施)	「教育プロジェクト演習」

初年次教育	教職への学び	教員への学びⅠ (子どもを知る)	教員への学びⅡ (学校を知る)	教員への学びⅢ (教育・保育の探究)

参考：教育職員免許法施行規則や児童福祉法施行規則において定められた実習
初等教育コース

	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
前期		介護等体験 (施設)	教育実習 (小学校)	教育実習Ⅰ (幼稚園)

幼児教育コース

	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
前期			教育実習Ⅰ (幼稚園) 保育実習Ⅰ-2 (施設)	保育実習Ⅱ (保育所) または 保育実習Ⅲ (施設)
後期		保育実習Ⅰ-1 (保育所)	教育実習Ⅱ (幼稚園)	

(3) 高い専門性を育てていく＜学び続ける教員＞を念頭においたカリキュラム

専門職業人としての資質向上には、教育方法の絶えざる改善が必須である。教育方法の改善のためには、各自がそれぞれの専門分野で研究を続け、最新の知見を教育実践に織り込むことも重要である。また、同僚や保護者、地域住民と議論し、相互に学びながら専門性を育てていくことも求められる。

本学部・本学科の教育では、学校現場での体験的な学修と理論的な学修を常に往還させ、未来を担う子供の豊かな成長を支援する教育のあり方を実践的に追究できる人材の育成を目指している。教育課程では、この目標を達成するために、1 年次後期には、「基礎ゼミⅠ」での「学校見学」、2 年次の「教育インターンシップⅠ」及び「教育インターンシップⅡ」を行う。3 年次以降は、教育実習・保育実習を行う。これらの取り組みに合わせて、「研究科目」として、ゼミナール形式の科目を設定している。具体的には、1 年次後期に開講する「基礎ゼミⅠ」、その後「基礎ゼミⅡ」(2 年次前期)、「基礎ゼミⅢ」(2 年次後期)、「専門基礎演習Ⅰ」(3 年次前期)、「専門基礎演習Ⅱ」(3 年次後期)、「専門演習Ⅰ」(4 年次前期)、「専門演習Ⅱ」(4 年次後期)といった一連の科目において、専任教員の積極的な関与の下、学校現場での体験を学生同士で省察し、各自が、教育実践に関する自分なりの課題を見つけ、研究していく力を育てていく。

以上の大学内外での取り組みによって、専門職業人として、生涯を通じて学び続け、高い専門性を育てていく力を養成する。

(4) ダブルライセンスへの対応とキャリア支援

初等教育コースは小学校教諭一種免許状、幼児教育コースは幼稚園教諭一種免許状の取得をそれぞれ主とした目的とするが、本学部・学科では小学校教諭一種免許状、幼稚園教諭一種免許状、保育士資格のうち、ダブルライセンス（小学校と幼稚園または幼稚園と保育士）も修得可能な科目配置とする。小学校・幼稚園教諭一種免許状の取得は、接続教育という今日的課題に応える人材を育てることになり、幼稚園教諭一種免許状と保育士資格取得は、乳幼児を対象とした全般的な子育て支援という課題に応える人材を育てることにつながる。このことは、学生にとって、卒業後も、中長期的な視野を持つて、教育・保育職のキャリア形成を可能にすると考えている。

また、1年次から、チューター制度を導入することにより、教員らが学生一人ひとりの適性を見極めながら、学生のコース選択のアドバイザーとなり、学生の個性に即して履修カリキュラムのアドバイスを行うとともに、1年次からの系統的な教職キャリア科目の配置により、キャリアの実現を支援する教育課程としている。

VI. 教員組織の編成の考え方及び特色

1. 教員配置の基本的な考え方

本学部・本学科は、時代が求める新しい教育への対応と普遍的な教育の営みとを総合的・専門的に学修し、未来を切り拓く子どもの「生きる力」を育むことのできる、幅広い教養を持った専門職業人を養成する。特に子どもの学びを支える学校教育を中心に、未来を担う子どもの豊かな成長を支援する教育のあり方を実践的に追究できる人材を育成する。そのため本学部・本学科では、小学校教諭一種免許状、幼稚園教諭一種免許状及び保育士資格の取得が可能な教育課程を組んでいる。

これらの目的を達成するために、本学部・本学科の教員は研究業績を基本として任用されたいわゆる研究者教員と小学校、幼稚園、保育所等で教育実践に携わってきた実務家教員とで構成する。特に、学部学科の理念と目的について共通理解を持ち、学生に理論と実践に関する能力を培うことはもちろん、人としての成長を促し優れた教育者となるよう慈しみを育てることのできる教員を配置する。

なお、本学部・本学科は、既存の短期大学児童教育学科初等教育学専攻を廃止して新たに設置するもので、初等教育学専攻の教員を配置換えすると共に本大学既存学部の教職担当教員を配置換えする。

2. 研究分野・研究体制と教員配置及び特色

(1) 研究分野・研究体制

教員は19名で構成し、研究者教員として、教授5名、准教授4名、講師1名、実務家教員として、教授2名、准教授5名、講師2名を配置する。

専任教員は、教育学、哲学、心理学、保育・幼児教育学、学校教育学、教科教育学、子ども学など、教育に関する多様な分野を専門とする教員で構成されている。研究者教員は、教育学および哲学（2名）、心理学および教育学（2名）、心理学および子ども学（1名）、科学教育・教育工学（1名）、健康・スポーツ科学および教育学（2名）、学校教育に関する教育学（2名）を専門分野とする者を配置する。実務家教員は、国語科、算数科、理科、社会科および生活科、音楽科、図画工作科の教科教育学に関する教育学を専門とする者（各1名）、学校教育に関する教育学を専門分野とする者（1名）、幼児に関する教育学および哲学を専門分野とする者（1名）、算数科および学校教育に関する教育学を専門とする者（1名）を配置する。

教育に関する多様な専門分野の研究者教員と、学校教育に関する実務経験が豊富な実務家教員を配置することにより、保育・学校教育における実践を協同的に省察し、理論化を目指すとともに、教員養成の実践研究を進める研究体制を整えている。

（2）研究時間の確保

協同的な研究体制とともに、各自の専門分野の研究時間を確保するため、教育担当時間を以下のように考える。

本学科の科目担当の特色として、実習指導は原則、複数教員で担当し、講義・演習科目についても、オムニバスで担当する科目を多く配置している。それにより、第1に、学生を多様な視点から指導すること、第2に、特にオムニバス科目を中心に、各教員の専門分野を活かして指導することが可能になる。複数担当およびオムニバス担当により、教員の担当科目数は多くなるが、実質的な授業担当時間については、インターンシップや実習担当を除いて、1人あたり通年12コマ(1コマ90分)時間を標準に計画し、大学の教育研究の水準を維持している。また、複数担当およびオムニバス担当の授業では、教員相互で指導方法や授業内容の検証が可能であり、授業内容の質の確保とともに、授業担当の負担も軽減され则认为している。さらに、複数の教員による教育は教員養成の実践的共同研究に持つなると考えている。

チューター制度については、1年次に4クラス（25名／クラス）を編成し、各クラスを1名のチューターが担当する。そのチューターが、クラス単位で1年次の「大学での学びとキャリアを考える」（前期）と「基礎ゼミⅠ」（後期）を担当し、2年次も持ち上がり、「基礎ゼミⅡ」（前期）「基礎ゼミⅢ」（後期）を担当する。3年次以降は、ゼミ（専門基礎演習Ⅰ、Ⅱと専門演習Ⅰ、Ⅱ）の担当者がチューター業務を兼ねる。このように、チューター業務は、授業担当を兼ねており、また、1年次と2年次のチューターは、各4人、計8人であり、専任教員が輪番で担当し、3年に1度は1、2年生のチューター担当のない年度があるよう、配慮している。

また、本学では、教員には週1日の研究日が確保されており、研究の遂行と地域貢献を推奨するとともに、研究の教育への還元も期待される。

（３）大学の教育水準の維持

幅広い教養を持った専門職業人を育てるという理念を念頭に、共通基礎科目に初年次教育課目として大学での学びと生活をスムーズに進め、アカデミックスキルや批判的思考を育てる「大学での学びとキャリアを考える」を設け、チューター制（担任制）で実施し、専任教員４名が担当し必修とする。その他に「情報リテラシーⅠ」「情報リテラシーⅡ」、教養科目に「心理学」「子どもと文化」「子どもの成長とコミュニティ」等を設け、専任教員４名が担当する。その内１名は博士の学位を有している。

幅広い教養を備え、新しい時代の教育知識を身につけた人材を育てるため、専門教養及び教科教養を涵養する科目として、教職及び保育に関する専門的基礎理論や、教科の専門的基礎理論の修得をめざす。教職基礎に「教職論」「教育学」「教育心理学」を設け、専任教員６名が担当する。その内３名は博士の学位を有している。初等教育に「教育課程論」「教育方法論」「特別活動の指導法」「道德教育の指導法」を設け、専任教員３名が担当する。各教科の指導法は、小学校で教育実践に携わってきた実務家専任教員６名と研究者教員１名が担当する。そのうち１名は博士の学位を有している。幼児教育、保育に、「保育内容総論」「保育教育課程論」「保育方法論」「幼児理解」を設け、専任教員３名が担当する。その内２名が博士の学位を有している。

専任教員の専門性を生かした教育によって、教員に必要とされる確かな専門知識の修得と、実践的指導力及び社会の変化に対応すべき探究心と教育観を持った専門的職業人を育成する。

（４）教職関係担当教員の配置

教職関係の科目を担当する教員は、既存の短期大学児童教育学科及び本大学既存学部より配置換えの教員７名と新規採用の５名の教員により構成する。

①本学部設置のために平成２４年１０月に採用の学部長候補の教員で、国立教育大学で豊富な教育歴と子どもに関する研究業績及び教育行政にも精通した教授。健康・スポーツ科学および教育学を専門とし、「保育内容(健康)」を担当する。

②既存の短期大学児童教育学科初等教育学専攻にて、小学校教諭二種免許状、幼稚園教諭二種免許状取得に必要な教職科目を担当している教授。心理学および教育学を専門とし、「教育心理学」「学校教育相談」を担当する。

③既存の短期大学児童教育学科初等教育学専攻にて、小学校教諭二種免許状、幼稚園教諭二種免許状取得に必要な教職科目を担当している准教授。小学校で教諭、教頭、校長、また、大阪市教育委員会管理主事、大阪市教育センター指導研究係長経験のある実務家教員。算数科教育と学校教育に関する教育学を専門とし、「教職論」「学校教育論」「教職実践演習」「算数科内容論」を担当する。

④既存の短期大学児童教育学科初等教育学専攻にて、小学校教諭二種免許状、幼稚園教諭二種免許状取得に必要な教職科目を担当し、研究活動の活発な講師。教育哲学・思想

に関する教育学を専門とし、「教育学」「学校教育論」「海外教育演習」を担当する。

⑤本大学既存学部にて、中学校・高等学校教員免許状取得に必要な教職科目を担当している教授。学校教育に関する教育学を専門とし、「教育学」「生徒・進路指導論」「学校・施設ボランティア」「学校教育相談」「教職実践演習」を担当する。

⑥本大学既存学部にて、中学校・高等学校教員免許状取得に必要な教職科目を担当している准教授。教育認知心理学に関する心理学および教育学を専門とし、「教育心理学」「教育の事例研究」「教育プロジェクト演習」を担当する。

⑦本大学既存学部にて、情報科教育法を担当している教授。科学教育・教育工学を専門とし、「教育方法論」「教育プロジェクト演習」、教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める「情報リテラシー」を担当する。

⑧既存の短期大学児童教育学科幼児教育学専攻にて、幼稚園教諭二種免許状取得に必要な教職科目を担当し、研究活動の活発な准教授。発達心理学に関する心理学および子ども学を専門とし、「幼児理解」を担当する。

⑨新規採用の教員で、私立幼稚園教諭として通算 10 年間勤務後、私立短期大学において幼稚園教諭、保育士養成教育の経験があり、保育実践と研究活動も活発に行っている実務家教員である教授。幼児教育に関する教育学および哲学を専門とし、「教職論」「保育教育課程論」「保育内容総論」「保育実践演習」を担当する。

⑩新規採用の教員で、私立短期大学幼児教育科に 12 年間勤務し、教育実践に関する論文が多数ある准教授。幼児教育に関する教育学および哲学を専門とし、「保育教育課程論」「保育方法論」「保育実践演習」「保育原理」を担当する。

⑪新規採用の教員で、高槻市立小学校に通算 31 年間勤務後、私立短期大学、国立教育大学において教職科目の教育実績を持つ実務家教員である教授。学校教育に関する教育学の専門家で「道德教育の指導法」「生徒・進路指導論」「特別活動の指導法」を担当する。

⑫新規採用の教員で、国立大学教育学部の助教として 2 年間勤務後、私立大学で教職科目の教育実績のある准教授。公立学校での外国語活動に関する授業開発にも携わっている。教育方法学・教育課程論など学校教育に関する教育学の専門家で「教育課程論（小学校）」「教育方法論」「外国語活動（小学校英語Ⅰ）」「外国語活動（小学校英語Ⅱ）」を担当する。

（５）教科担当教員の配置

国語、社会、算数、理科、生活、音楽、図画工作、体育の教科教育担当の教員は、大学で教員養成に携わり研究・実践指導の経験のある教授 1 名を本学部設置のため平成 25 年 4 月に学科長候補として採用し、小学校の現場で教鞭を執っている実務家教員 6 名（准教授 4 名、講師 2 名）を新規採用し構成する。

①京都府立豊学校小学部、宇治市立小学校、亀岡市立小学校に通算 23 年間勤務後、京

都府山城教育局指導主事、京都府教育庁指導部学校教育課指導主事、京都府総合教育センター主任研究主事を歴任した実務家教員であり、平成 25 年 4 月から既存の短期大学児童教育学科初等教育学専攻にて、小学校教諭二種免許状、幼稚園教諭二種免許状取得に必要な教職科目を担当する准教授。国語科教育に関する教育学を専門とし、「国語科内容論」「国語科指導法Ⅰ」「国語科指導法Ⅱ」を担当する。

②大阪市立小学校、大阪教育大学附属小学校に通算 20 年間勤務の管理職経験を持つ実務家教員である准教授。算数科教育に関する教育学を専門とし、「算数科内容論」「算数科指導法Ⅰ」「算数科指導法Ⅱ」「海外教育演習」を担当する。

③羽曳野市立小学校、大阪教育大学附属小学校に通算 21 年間勤務の後、羽曳野市教育委員会で指導主事を歴任後、羽曳野市立小学校で、教頭、校長の管理職として 10 年間務めるとともに生活科教育の研究開発も行っている実務家教員である准教授。生活科教育および社会科教育に関する教育学を専門とし、「生活科内容論」「生活科指導法Ⅰ」「生活科指導法Ⅱ」「社会科内容論」「社会科指導法Ⅰ」「社会科指導法Ⅱ」を担当する。

④京都市立小学校に 5 年間勤務し、京都市青少年科学センター主任主事 6 年間勤務、京都市教育委員会京都市総合教育センター研究課の研究員を 1 年間勤務した実務家教員である講師。理科教育に関する教育学を専門とし、「理科内容論」「理科指導法Ⅰ」「理科指導法Ⅱ」を担当する。

⑤大阪市立小学校、大阪教育大学附属小学校に通算 14 年間勤務し、非常勤講師として大学勤務経験を持つ実務家教員である講師。音楽科教育に関する教育学を専門とし、「音楽科内容論」「音楽科指導法Ⅰ」「音楽科指導法Ⅱ」を担当する。

⑥交野市立小学校、中学校、大阪教育大学附属小学校に通算 18 年間勤務の後、大阪教育大学附属小学校で副校長及び、寝屋川市立小学校で教頭、校長として通算 17 年間の管理職経験を持つ実務家教員である准教授。図画工作科教育に関する教育学を専門とし、「図画工作科内容論」「図画工作科指導法Ⅰ」「図画工作科指導法Ⅱ」を担当する。

⑦私立大学で教員養成に携わり実践指導の経験と活発に研究活動を行っている教授。健康・スポーツ科学と体育科教育に関する教育学を専門とし、「体育科内容論」「体育科指導法Ⅰ」「体育科指導法Ⅱ」「体育実技Ⅰ」「体育実技Ⅱ」を担当する。

（６）教員配置の特色

学部長については、本学部・本学科の理念に基づき学部を統括し得る人材であり、同時に教科の専門性と研究業績を併せ持つ教授が就任する。

専任教員の選考においては、第一に、原則として、学校教育や保育に関する実務経験が豊富な教員を配置した。その際、実務経験が豊かなだけでなく、同時にそれを理論化し得る人材を採用条件とした。第二に本学部・本学科の研究的功能を果たすために、優れた研究業績があり、大学での教育歴のある教員を配置し、実務と研究のバランスを配

慮した。第三に、年齢構成のバランスに配慮した。平成 26 年 4 月現在、30～39 歳 4 名、40～49 歳 5 名、50～59 歳 6 名、60～64 歳 2 名、65～69 歳 2 名の年齢構成であり、平成 26 年 4 月に 17 名、平成 27 年 4 月に 1 名、平成 28 年 4 月に 1 名が就任する（男性 12 名、女性 7 名）（別記様式第 3 号（その 3）参照）。第四に、「国語」「社会」「算数」「理科」「生活」「音楽」「図画工作」「体育」の教科を担当できる専任教員は、教科の指導法についても担当できることを条件にした。

なお、完成年度までに本学園定年規程（資料 9）の定年 65 歳に達するものが 3 名いる。うち、1 名はすでに特別招聘教員で採用し、もう 1 名は特別招聘教員で採用する予定で他の 1 名は定年に達した後は特別招聘教員で雇用を継続する。このため、本学園特別招聘教員就業規則（（資料 10）参照）第 5 条 2 項に「新学部設立に際し、満 70 歳未満で採用し、その後、満年齢 70 歳を超える場合であっても、完成年度の年度末までは雇用を継続できるものとする。」旨を規定している。本学部設置に際し、平成 25 年 4 月 18 日理事会（資料 11）において 2 名、平成 25 年 8 月 26 日理事会（資料 11）において 1 名の完成年度までの雇用について承認した。

Ⅶ. 教育方法、履修指導方法及び卒業要件

1. 教育方法

（1）少人数教育の実施及びチューター制

1 学年定員は 100 人であるので、必修の講義科目は全体での開講、演習及び実習科目は 2～4 クラスでの開講を基本とする。また、2 年次より初等教育コース及び幼児教育コースに分かれるため、初等教育コースの専門科目は約 25 人～30 人 1 クラス、幼児教育コースは 25 人～30 人程度の 3 クラス編成とし、基本的に 1 クラスごとに開講する。ただし、学生の希望を重視し、フレキシブルに対応する。

また、「体育」「音楽」「図画工作」の教科選択においては、授業時間の中で必要に応じて個人指導の時間を確保し、各受講者一人一人の技能の向上を図る。

1～2 年次において、「大学での学びを考える」「基礎ゼミⅠ」「基礎ゼミⅡ」「基礎ゼミⅢ」は、学科専任教員がクラス担当となり、少人数クラスで実施する。また、3～4 年次に実施される「専門基礎演習Ⅰ」「専門基礎演習Ⅱ」「専門演習Ⅰ」「専門演習Ⅱ」は、学科専任教員それぞれの専門分野に関する研究テーマを選択した学生から構成し、1 ゼミ当たり 8～15 人程度に調整を行い、きめ細かな指導を行う。これらの科目においては、幅広く学修支援、学外実習の省察、キャリア支援なども日常的に行う。

（2）オムニバス、複数担当による開講

科目担当者に関しては、原則として担当者の専門性に合わせて単独開講としているが、専門性の高い担当者の配置が可能な場合（「教育学」「学校教育論」「教育心理学」「教育方法論」「生徒・進路指導論」「学校教育相談」等）にはオムニバス形式の開講とし、教

育的効果を高める。また、よりきめ細かな指導が必要な科目においては、複数担当とするなど、担当者の専門性及び科目の特性に配慮した開講形式を採用する。

（３）実践と理論との往還

初年次から学外の学校現場等を体験し、さまざまな実践を行う。それら実践を省察するため、各年次において、理論科目と実践をそれぞれ関連づけて系統的に配置している。すなわち、１年次においては「基礎ゼミⅠ」「学校教育論」など、２年次は「教育インターンシップ」、「介護等体験」と「基礎ゼミⅡ、Ⅲ」など、３年次は「教育実習」「学校・施設ボランティア」と「専門基礎演習Ⅰ、Ⅱ」などである。

２．履修指導及び履修モデル

入学時のオリエンテーションにおいて、本学の教育理念の理解を図るとともに、教育学部教育学科の教育目標を説明する。さらに、履修方法について、シラバス、学生便覧等を用いて履修モデルを例示しながら詳しく指導を行う。履修にあたっての基本モデルとして６モデルを提示する。（資料 12）

（１）シラバス

学生が授業内容を十分把握した上で、履修計画を立てることができるように、全科目のシラバスを作成し、年度初めに配布する。さらに各科目の概要説明は、学科ガイダンス時に行う。シラバスは、①授業の到達目標及びテーマ、②授業の概要、③各回の授業計画と学習課題、④成績評価の方法（試験、レポート、授業内課題、受講態度などの項目を挙げ、割合をパーセントで示す）、⑤使用教科書等、⑥参考書・参考資料等、の６項目について記載する。

（２）学生便覧

本学に在学するにあたり必要事項を学生便覧としてまとめて入学時に配付し、新入生オリエンテーションで説明を実施する。また、在学生には３月の学内オリエンテーション時等において必要事項を適宜説明する。

（３）履修ガイダンス

入学時の学内オリエンテーション時には、授業科目の構成等、履修登録、単位修得、授業、試験、成績及び単位認定方法、履修要領などの解説・指導を行う。

また、各セメスターの開始前、担当教員より履修ガイダンスを実施し、卒業や免許・資格取得のための指導を行う。また、学期の途中で欠席が目立つなど学習意欲の低下が著しい学生に対しては、全科目担当教員から報告を受け、当該学生に対して指導教員（チューター）またはゼミ教員が、きめ細かな指導を行う。

(4) オフィスアワー

専任教員は、学生からの学業や学生生活についての質問に応じるためにオフィスアワーを設定し、学生に周知を図る。またオフィスアワー以外の時間帯でも、可能な場合には対応する体制をとる。

3. 卒業要件

本学部・本学科の卒業要件は124単位とする。なお、詳細は、下表のとおりである。

科目区分				卒業に必要な単位数	
				最低修得単位数	
大学共通科目	共通基礎科目	大学入門基礎講座		2 単位	自由 枠 18 単位 以上
		情報処理		2 単位以上	
		外国語		6 単位以上	
	教養科目	人間の理解		10 単位以上 （日本国憲法を 含む。）	
		現代社会と国際理解			
		科学技術と環境の理 解			
		地域文化の理解			
		子どもと社会		2 単位	
健康とスポーツ					
キャリア支援科目					
専門科目	専門基礎科目	教職基礎		8 単位以上	84 単位以 上
		初等教育		40 単位以上	
		幼児教育			
		保育			
		教科			
	専門選択科目	教科選択		10 単位以上	
		教育課題			
	実践研究科目	架橋的科目		8 単位以上	
		体験・実習			
		研究科目	チュート リアル	10 単位	
			卒業研究	4 単位	
教職キャリア科目			4 単位以上		
合 計				124 単位以上	

4. 履修登録制限と履修指導

履修科目の登録にあたっては1単位の授業科目につき45時間の学修を必要とすることから履修登録を制限するものとする。

履修登録にあたっては、関係教職員が学生個々人の学修について相談のうえ計画的な履修上のアドバイスをを行う。

履修登録の上限については、大学設置基準第27条の2に基づき1学期24単位とする。なお、学外で行われる実地教育関連科目は履修登録制限から除外する。ただし、上記の履修登録の上限設定にかかわらず、直前の学期に20単位以上修得した単位のうち8割以上「優」である者については、上限を超えて1学期32単位まで履修科目の登録を認めることができることとする。(資料13)

VIII. 施設、設備等の整備計画

1. 校地、運動場の整備計画

本学部の設置に伴う校地及び運動場の用地の整備については、既存学部との校地を共用する。校地面積は、105,804.97 m² (相川キャンパス (大阪市東淀川区) 29,503.67 m²、茨木校地 (茨木市彩都あさぎ) 67,458.00 m²、セミナーハウス (大津市和邇) 9,460.00 m²) である。中心校地である相川キャンパスには、校舎 37,295.90 m²、体育館 2,452.77 m²、第2グラウンド 6,062.01 m²等の主要施設を整備しているほか、北館の南側にはサンパティオと呼ぶ芝生の憩いの場や西館の前面にテラスを設け、学生同士が談笑できるスペース (約2,500 m²) を用意している。茨木校地は、課外活動のグラウンドとして活用しており、また、セミナーハウスは、学生の厚生補導施設として活用している。

2. 校舎等施設の整備計画

本学部の設置は、既設短期大学の初等教育学専攻の募集停止と同時に行う。短期大学の初等教育学専攻の専用であった小学校実習室、理科実習室等は、施設設備の改修と機器備品の新規購入等を施し、教育学部の専用とする。また、幼児教育学専攻の専用である、図画工作室や保育実習室、音楽教室、ピアノ練習室、看護実習室等は、改修及び機器備品の新規購入等を施し、教育学部との共用とする。普通教室やパソコン室については、大学と短期大学の共用とするが、これらの共用は教育にそれぞれ十分なものであり教育に支障はない。収容定員が最大となる完成年度の大学、短大の時間割 (案) で、教室、実験室、体育施設使用状況一覧のとおり共用でも教室の稼働率は、前期 4~84%、後期 8~88%で余裕がある。また、幼稚園教員にとって必要なピアノ練習室は99室あり、現在短期大学児童教育学科 (入学定員270名) の使用率は50%であり、教育学部入学定員 (100名・1、2年履修) の学生が増加しても短期大学との共用に支障はない。(資料14)、(資料15)

また、新たに教育学部の専用として、CALL 教室や演習室、及び個人研究室を改修する。

3. 図書等の資料及び図書館の整備計画

(1) 図書館閲覧室、閲覧席数、レファレンスルーム、情報検索方法等

図書館棟 4, 5 階及び地下 1 階の図書館の面積は 1, 757. 74 m²で閲覧席数 180 席 (AV・PC ブース 20 席、グループ閲覧席 140 席、ブラウジング 20 席含む)、収納可能冊数 303, 561 冊となっている。大学全体で 235, 117 冊を有しており、そのうち小学校関係図書 14, 239 冊、幼稚園関係図書 2, 270 冊、保育関係図書 2, 328 冊、その他雑誌、視聴覚資料となっている。また現在、図書館ネットワーク整備の一環として図書館システム「E-cats」を導入しており、利用者が OPAC (Online Public Access Catalog)・WebOPAC により、図書館内外から迅速な蔵書検索が行える環境を整備している。併せて、NACSIS-CAT/ILL にも加入しており、他大学との相互協力に積極的に参加している。

館内に設置している PC はすべて学内 LAN に接続しており、常設のデスクトップ PC は勿論のこと、館内の限られたスペースを有効活用すべく、ワイヤレス LAN 環境を整え、学内 LAN に接続可能なノート PC にて情報検索等を行える環境も整備している。

開館時間については利用者のニーズを考慮し、授業期間中については平日 9 時から 20 時まで、土曜日は 9 時から 17 時までとしている。また、授業のない夏期休業、冬期休業などの休業期間中は平日 9 時から 18 時 30 分まで、土曜日は休館としている。

(2) 図書・資料の整備

現在、既設大学分としてマネジメント学部、芸術学部、また既設短期大学分として総合生活学科、児童教育学科、観光学科、創造文化学科、経営会計学科の各学科の教育内容に相応しい図書を整備しており、235, 117 冊を有している。今回、教育学部の設置に伴い、教育課程構成と既存蔵書構成を踏まえ、特に小学校教諭養成関連の専門図書並びに雑誌を充実させていく。今回の教育学部設置時には、図書 2, 186 冊、学術雑誌 31 誌 (資料 16) を整備し、開設年度以降は、経常経費において学術雑誌 (資料 16) を整備するとともに専門図書に加え教養科目関連図書についても段階的に整備していく計画である。

(3) デジタルデータベース、電子ジャーナル等の整備計画

本学部は教育学・保育学系の学部であり、情報の速報性が重要な条件でもあると考える。その観点より、電子ジャーナルについては、教育学部の設置時に 4 誌 (Pediatric Exercise Science, American Journal of Education, British Journal of Educational Studies, Journal of Early childhood Research) 導入することとしている。デジタルデータベースについては現在、図書館内に限らず、学内 LAN に接続しているパソコンで

あれば利用可能な、論文等の学術情報検索システム「国立情報学研究所学術コンテンツポータル」、新聞・雑誌記事アーカイブ「聞蔵Ⅱビジュアル」、「官報情報検索サービス」、「ジャパンナレッジ・プラスN」を契約している。

（４）他の大学図書館等との協力

他大学の図書館との協力等については、私立大学図書館協会の西地区部会阪神地区研究会に所属し、他大学の図書館と、資料の閲覧、貸借等の相互利用や研修会を通じ、連携を密にするとともに研修・情報交換を活発に行っている。

IX. 入学者選抜の概要

本学部・本学科は、時代が求める新しい教育への対応と普遍的な教育の営みとを総合的・専門的に学修し、未来を切り拓く子どもの「生きる力」を育むことのできる、幅広い教養を持った専門職業人を養成する。特に、子どもの学びを支える学校教育を中心に、未来を担う子どもの豊かな成長を支援する教育のあり方を実践的に追究できる人材の育成を目的としている。

この目的に基づき、「教育学科の教育課程の学修に必要な基礎的学力を身につけ、多様な知識と能力を持ち、保育や教育活動によって乳幼児期・児童期の子どもの健全な発達を支援することに熱意と高い意欲を持つ者を受け入れる」ことをアドミッションポリシーとした入学者の選抜方法を設定する。

したがって、選抜方法としては、基礎学力を確認する「一般入試」と、自己推薦型及び体験授業型の「A0 入試」、公募制推薦、指定校推薦及び系列校の「推薦入試」、「大学入試センター試験利用入試」「社会人・帰国子女特別選抜入試」等を実施する。

①一般入試（募集人員：33 人、33%）

A 日程 18 人、B 日程 10 人、C 日程 5 人の 3 回の入試を予定している。

選抜は、A 日程、B 日程、C 日程とも 2 教科或いは 3 教科により実施する。

- ・ 2 教科による入試は、国語（必修）及び英語、数学から 1 科目選択により選抜する。
- ・ 3 教科による入試は、国語、英語、数学により選抜する。

②A0 入試（募集人員：10 人、10%）

「自己推薦型 A0 入試」及び「体験授業型 A0 入試」の 2 種類の選抜を予定している。

- ・ 自己推薦型 A0 入試（募集人員：6 人）

A 日程、B 日程の 2 回実施する。A 日程は、自己推薦書及び志望理由書により 1 次選考を行い、2 次選考において面接、小論文及び調査書により選抜し、B 日程は、面接、小論文、調査書により選抜する。

- ・ 体験授業型 A0 入試（募集人員：4 人）

自己推薦書及び志望理由書により 1 次選考を行い、2 次選考は、大学教員による授業において課題を課し、レポートと面接及び調査書により選抜する。

③推薦入試（募集人員：50 人、50%）

推薦入試は、公募制推薦入試、指定校推薦入試及び系列校入試を予定している。

・公募制推薦入試（募集人員：14 人）

A 日程 7 人、B 日程 5 人、C 日程 5 人の 3 回の入試により選抜する。

選抜は、A 日程、B 日程、C 日程とも面接及び国語、英語から 1 教科選択並びに調査書により実施する。

・指定校推薦入試（募集人員：28 人）

選抜は、本学が指定する要件を満たした受験生の面接及び調査書により実施する。

・併設校入試（募集人員：8 人）

選抜は、系列の高等学校が推薦した受験生に対し、面接、小論文及び調査書により実施する。

④大学入試センター試験利用入試（募集人員：5 人、5%）

A 日程 3 人、B 日程 1 人、C 日程 1 人の 3 回の入試を予定している。

選抜は、A 日程、B 日程、C 日程とも 2 教科、3 教科、4 教科あるいは 5 教科により実施する。

・2 教科による入試は、英語、国語、数学、理科、地歴・公民から 2 教科 2 科目選択により選抜する。

・3 教科による入試は、英語（必修）、国語、数学、理科、地歴・公民から 2 教科 2 科目選択により選抜する。

・4 教科による入試は、英語（必修）、国語（必修）、数学、理科、地歴・公民から 2 教科 2 科目選択により選抜する。

・5 教科による入試は、英語（必修）、国語（必修）、数学、理科及び地歴・公民から 3 教科 3 科目選択により選抜する。

⑤社会人・帰国子女特別選抜（募集人員：2 人、2%）

選抜は、本学が指定する要件を満たした受験生に対し、面接及び小論文により実施する予定である。

なお、社会人特別選抜は、通常の出願要件とは別に入学年度までに満 25 歳に達し、かつ社会人経験を有する者とする。

⑥3 年次編入学試験（募集人員：10 人）（平成 28 年度から実施）

選抜は、本学が指定する要件を満たした受験生に対し、面接及び小論文により実施する予定である。

X. 資格取得を目的とする場合

本学部・本学科で取得可能な資格は次のとおりである。なお、いずれの資格も、卒業要件として取得を義務づけるものではない。

資格名称	備考
小学校教諭一種免許状 (資料17, 18, 19, 20)	指定された授業科目の単位を取得することにより卒業時に取得できる
幼稚園教諭一種免許状 (資料17, 18, 19, 20)	同 上
保育士資格 (資料21)	同 上

○認定を受けようとする学部学科等の教育課程及び教員組織(小・教科に関する科目)、
同(幼・教科に関する科目) (資料17)

○認定を受けようとする学部学科等の教育課程及び教員組織(小・教科又は教職に関する科目)、同(幼・教科又は教職に関する科目) (資料18)

○認定を受けようとする学部学科等の教育課程及び教員組織(小・教職に関する科目)、
同(幼・教職に関する科目) (資料19)

○教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目 (資料20)

○教科目名称読み替え表(保育士資格) (資料21)

X I. 実習の具体的計画

1. 取得可能な免許状、資格

本学部・本学科で取得可能な免許状、資格は次の通りである。

- ・小学校教諭一種免許状
- ・幼稚園教諭一種免許状
- ・保育士資格

2. 教員養成、保育士養成のための教育・保育実習

(1) 教育・保育実習の目的

大学での理論研究を学校、幼稚園、保育所、福祉施設現場で総合的に実証研究すると同時に、児童、乳幼児への接し方や学校、幼稚園、保育所、福祉施設現場での教員や保育者の教育的実践や専門性を具体的かつ直接的に学ぶことを目的とする。

なお、実習実施の基本は授業期間外に集中して実施するよう学生の履修に配慮している。ただし、小学校実習は教育現場との調整もあり、1～2週間程度授業と重複する可能性がある。この場合は、補講により対応する。

(2) 小学校教諭一種免許状にかかわる実習

① 小学校教育実習

3年次前期に4週間の小学校教育実習を行う。小学生の成長発達の様子や教員としての職務の一端に触れ教職についての理解を深める。また、教科の指導、学習指導案の作成、教員の指導の様子などを通して教育実践力を持てるようにする。さらに、児童理解

をはじめとする児童への接し方や学級経営の基本の様子などを実際に体験し教職に対する理解を確かなものとする。

②介護等体験

2年次前期に、小学校教諭一種免許状取得希望者は、「個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深める」ために、介護等体験を特別支援学校で2日間、社会福祉施設で5日間、合計7日間行う。

(3) 幼稚園教諭一種免許状にかかわる実習

初等教育コースでは4年次前期に2週間、幼児教育コースでは3年次前期に「教育実習Ⅰ（幼稚園）」として2週間、さらに3年次後期に「教育実習Ⅱ（幼稚園）」として2週間の幼稚園教育実習を行う。幼児教育にかかわる理論や知識と保育実践とを総合的に学ぶと同時に、幼児への接し方や幼児の活動する様子、保育者の幼児への指導の仕方などを観察したり、自らが保育実践したりする。さらには、保育者の職務の一端に触れ教職についての理解を深める。

(4) 保育士資格認定にかかわる実習

2年次後期に「保育実習Ⅰ-1」として保育所で2週間、3年次前期に「保育実習Ⅰ-2」として社会福祉施設で2週間の合計4週間、4年次前期に「保育実習Ⅱ」として保育所実習2週間もしくは「保育実習Ⅲ」として社会福祉施設で2週間の合計6週間の実習を行い、幼児に対する理解を通じて保育の理論と実践の関係について習熟させる。

3. 教育・保育実習先の確保及び契約内容

小学校教諭一種免許状取得のための実習先として、大阪市教育委員会と包括協定を締結して大阪市立小学校の実習先を確保している。(資料22) また、幼稚園教育実習に関しては、大阪成蹊短期大学附属こみち幼稚園をはじめ大阪府内の幼稚園10園、近隣府県の2園を予定している。保育士資格取得に関しても幼稚園実習と同様、保育所30園及び社会福祉施設40施設を予定している。十分な実習先を確保するとともに、いわゆる母校実習はできるだけ避けるように計画する。(資料23)

実習先への依頼は、教育実習計画書等を提出し、実習内容を明確にした上で実習施設における指導者の複数配置を依頼するなど、実習先との連携体制を整える。

実習開始にあたっては、学生に守秘義務等教育実習遵守事項の誓約書を提出させるとともに、小学校、幼稚園、保育所、社会福祉施設とは実習委託契約・実習内諾書を取り交わしていく。

感染症予防対策としては、入学時に麻疹の接種証明書を提出させる。未接種者には接種を義務付けており、証明書提出を実習参加要件の一つとしている。また、社会福祉施設実習に際しては、検便を実施する。これらの指導管理については、大阪成蹊大学・大阪成蹊短期大学保健センターが一元管理する。

4. 教育・保育実習のための保険等の加入

入学と同時に、全学生に「学研災付帯賠償責任保険（付帯賠償）」に加入させており、これを持つて実習時の事故や災害等に対応する。また、実習先にもこのことを伝え、理解を得る。

5. 教育・保育実習水準の確保の方策

小学校教育実習、幼稚園教育実習、保育実習を行う学生に対しては、次の実習基準を設け、学部教務委員会の審議を経て実習参加資格を認定する。なお、小学校教育実習、幼稚園教育実習、保育実習のいずれの教育実習についても、教育実習及び保育実習誓約事項を遵守するものとする。また、単位未修得科目は2科目までとし、単位取得見込みがあると学部長が認めた者は、教務委員会での審議を経て、実習参加資格を認定することがある。

①初等教育コース

小学校教育実習

- ・「教職論」「教育学」「教育心理学」「教育課程論（小学校）」を履修済みであること。
- ・「国語科指導法Ⅰ」「社会科指導法Ⅰ」「算数科指導法Ⅰ」「理科指導法Ⅰ」「生活科指導法Ⅰ」「音楽科指導法Ⅰ」「図画工作科指導法Ⅰ」「家庭科指導法」「体育科指導法Ⅰ」の内、原則として6科目以上を履修済みまたは履修中であること。

幼稚園教育実習

- ・「教職論」「教育学」「教育心理学」「保育教育課程論（幼稚園）」を履修済みであること。
- ・「保育内容総論」「保育方法論」を履修済みであること。
- ・「保育内容（人間関係）」「保育内容（環境）」「保育内容（健康）」「保育内容（言葉）」「保育内容（表現1）」「保育内容（表現2）」のうち4科目以上を履修済みまたは履修中であること。

②幼児教育コース

幼稚園教育実習

- ・「教職論」「教育学」「教育心理学」「保育教育課程論（幼稚園）」を履修済みであること。
- ・「保育内容総論」「保育内容（人間関係）」「保育内容（環境）」「保育内容（健康）」「保育内容（言葉）」「保育内容（表現1）」「保育内容（表現2）」を履修済みであること。

保育実習

- ・「教職論」「教育学」「保育内容総論」「保育原理」を履修済みであること。

- ・「保育内容（表現 1）」「保育内容（健康）」「乳児保育」「社会的養護」「子どもの保健Ⅰ（1）」を履修済みであること。
- ・「スポーツ基礎科学」「体育実技Ⅰ」「ピアノ実技Ⅰ」「造形遊び」「幼児体育指導論」を履修済みであること。

③幼稚園教諭一種免許状のみを取得する場合

近年、政策的に幼保一元化が図られている中で、幼稚園実習では経験できない保育園での実習への参加を推奨する。なお、実習基準は下記のとおりとする。

保育実習

- ・「教職論」「教育学」「保育内容総論」「保育原理」を履修済みであること。
- ・「保育内容(表現 1)」「保育内容(健康)」を履修済みであること。
- ・「体育実技Ⅰ」「ピアノ実技Ⅰ」「幼児体育指導論」を履修済みであること。

6. 教育・保育実習の事前指導

①教育・保育実習事前指導への参加

実習への参加手続き、実習の目的、実習参加の心得、実習の流れ、個人情報取り扱い、実習参加の留意事項などについて事前に説明と講義を行い、教育・保育実習とは何かについて理解させる。

②教育・保育実習参加者への教員による個別事前指導

全体への説明、講義以外に教育・保育実習担当教員による個別の事前指導を行い、学生個別の疑問に対応するとともに各学校、幼稚園、保育所、社会福祉施設からの個々の連絡事項などを詳細に伝える。

7. 教育・保育実習事後指導及び単位認定

教育・保育実習先からの実習評価、教育実習簿、提出物、指導記録などをもとに、教育・保育実習指導担当教員が学生と個別面談を行うとともに、学部教員による審議、教務委員会による審議・合否判定を行う。また、報告書の作成や学生主体の報告会を行い、1年生、2年生も聴講させ、学生はもちろんのこと教員側もともに、教育実習の成果や反省などの振り返りを行う。学生本人の教育実践力・応用力の育成及び教職に対する意欲、さらに実習指導及び大学全体の授業のあり方などについて具体的な課題を発見し、次年度へとつなげる。

8. 教育・保育実習指導のための教員の巡回体制

実習担当教員が、実習先小学校の校長、幼稚園園長、保育所所長、社会福祉施設長と事前打ち合わせを行い、ゼミチューターが実習先を巡回指導し、指導学生の実習の様子の観察指導を行う。この巡回指導は、実習の前半及び後半に合わせて最低2回以上行う

ように計画する。また、取りまとめを行う教育・保育実習センターを中心に実習先の担当教員と綿密な情報交換を行い、連携協力を緊密に図っていく。

実習先との連携体制は実習の質の担保にかかわる事柄であり、当該学生のみならず大学や大学教員にとっても重要な事項ととらえる。さらには、当該実習より得られた情報をもとに、大学教員の授業改善や教育・保育実習体制や実習内容の改善につなげていく。

実習先は基本的に大阪府内及び近隣府県とするが、実習先が遠隔地で巡回指導ができない場合がある。その場合には、実習先の小学校校長、幼稚園園長、保育所所長、社会福祉施設長や実習先指導教員とメール、電話等で直接連絡を取り、授業内容や実習の様子の聞き取りなどを綿密に行い、実習状況や実習内容などを確実に確かめ、事後指導に活かすようにする。

9. 教育・保育実習センターの設置

本学内に教育・保育実習センターを設置し、小学校教育実習・幼稚園教育実習にかかわる学生指導、教育支援、情報交換、緊急対応等及びこれらにかかわる諸事項について、中核的な役割を担っていく。

教育・保育実習センターは、大阪成蹊大学教育学部学科長、実習担当教員2名、大阪成蹊短期大学幼児教育学科（名称変更予定）学科長、実習担当教員2名、教育・保育実習センターの教職員4名の合計10名で構成する。具体的には、教育実習全般の情報を本センターに一元化させ、実習先との事前の連絡調整及び取りまとめを遺漏なく行うとともに、実習時の巡回指導についての組織的な運営の中心として機能させていく。（資料24）

XⅡ. 企業実習や海外語学研修など学外実習をする場合は、その具体的計画

1. 実習先の確保の状況

学外での実習科目としては、次の6科目を開講する予定である。まず実践研究科目の中の体験・実習科目として、近隣の小学校をフィールドとする「教育インターンシップⅠ」（2年次前期）及び「教育インターンシップⅡ」（2年次後期）を開設する。同じく実践研究科目の中の架橋的科目として、「学校・施設ボランティア」（3年次前期）と「海外教育演習」（3年次後期）を開設する。さらに、大学共通科目の中のキャリア支援科目として「企業インターンシップ1」（2年次前期）及び「企業インターンシップ2」（3年次前期）を開設する。

実習先の確保の状況については、「教育インターンシップⅠ」、「教育インターンシップⅡ」「学校・施設ボランティア」の実習先として、既に協定を締結している大学近隣の公立小学校（大阪市立小松小学校、大阪市立井高野小学校）が確保されている。また、「海外教育演習」では中国上海市の同済大学附属小学校、オーストラリアクイーンズランド州ケアンズ市のパブリック及びカトリック系の小学校と連携し、教育制度を

含む文化と歴史、そして、教育指導のあり方等の学校教育に対する考え方や生活習慣について、国際的な視野が養われる実地研修に取り組む体制を組んでいる。(資料 25) として、「企業インターンシップ 1」、「企業インターンシップ 2」の実習先としては、次の大阪府内の各企業と協定を結び、多様な就業体験ができる体制を組んでいる。サービス業（三洋ハートエコロジー 株式会社、株式会社 ザ・ビッグスポーツ、株式会社 秋田屋）、機械製造業（パナソニック交野 株式会社）、卸売業（サントリービバレッジサービス 株式会社）、金融業（野村證券 株式会社 なんば支店）、IT 業（株式会社 富士通マーケティング）、不動産業（天王寺 SC 開発 株式会社）、流通業（株式会社 シブヤ、株式会社 高鍋食品）。(資料 25)

2. 実習先との連携体制

年度毎に実習方針及び実習内容、実習に関する手続き、実習期間、配属学生、実習記録等に関する確認及び協議を行い、実習指導全般について相互に理解が得られるようにする。さらに、学校及び企業での実習においては、実習期間中の訪問指導時に実習先からの要望や意見を直接伺う等して、実習指導における連絡と協議を密に行い、大学と実習先とが一体となって成果が得られるようにする。特に、学校系の実習先については、定期的に最低年 1 回は、実習先の管理職（校長、教頭）を含めた担当教員と本学教員による実習協議会を開催し、より充実した実習を行うことができるよう連絡・調整及び協議を行っていく。また、海外系の実習（演習）では、安全面の確保を前提に、中国やオーストラリアの教育制度を含む文化と歴史、そして教育指導のあり方等の学校教育に対する考え方や生活習慣に直接触れることを通し、国際的な視野が養われるよう実習（研修・演習）先との事前の綿密な協議を行うとともに、現地での緊密な連携の下にプログラムを実行していく。

3. 成績評価体制及び単位認定方法

学校・施設ボランティア及び企業インターンシップの評価については、実習先で作成される評価表（項目別評価及び総合評価）をもとに、科目担当教員等が協議して行う。その際、日々の実習記録、事前・事後指導の態度、レポート課題等の取り組み状況を総合的に評価して単位を認定する。また、海外教育演習については、事前指導と事後のレポート提出を義務づけ、これ等に対する取り組み状況を総合的に評価して単位を認定する。

XⅢ. 編入学定員を設定する場合は、その具体的計画

1. 編入学定員を設ける趣旨及び理由

本学科において、3 年次に編入学定員を設ける趣旨及び理由は、以下のとおりである。(平成 28 年度から実施)

- ① 大学、短期大学、高等専門学校卒業生に広く学習機会を提供する。
- ② 大学の門戸を広く社会に開放し、地域の生涯学習の推進に貢献する。
- ③ 本学園大阪成蹊短期大学卒業生へ学習機会を提供する。

2. 編入学年次と編入学定員

編入学年次は3年次の年度当初とする。編入学定員は、次のアンケート結果を考慮して10人とする。

平成24年11月に実施した、本学園に併設する短期大学における「大阪成蹊大学教育学部（仮称）編入学に関するアンケート調査」（資料5）において、教育学部に編入学を希望する者が21人いた。

3. 編入学生募集の対象

- ① 短期大学（部）、高等専門学校を卒業した者。
- ② 大学を卒業した者。
- ③ 大学に2年以上在学し、62単位以上を修得した者。

なお、小学校、幼稚園及び中学校のいずれかの教員免許状を取得している者。または、保育士資格を取得している者に限る。

4. どのような人材を育成するか

- ① 人間的なふれあいを通して心のきずなを深め、子どもの思いを受け止めることのできる人材
- ② 幅広い学問教養を備え、新しい時代の教育知識を身につけた人材
- ③ 多角的視点から現代社会の教育課題に対応できる豊かな感性・確かなセンスを持った人材
- ④ 教育実践を省察し研究することのできる人材

そのため本学部・本学科では、小学校教諭一種免許状と幼稚園教諭一種免許状、保育士の資格を取得可能とする。

5. 3年次編入履修モデル

大阪成蹊短期大学の幼児教育学科(名称変更予定)卒業生が、本学部・学科に3年次編入学することを想定し、3年次編入の履修モデルとして3モデル(資料26)を提示する。

- ① 卒業要件モデル
- ② 幼稚園教諭一種免許状取得をめざすモデル
- ③ 小学校教諭、幼稚園教諭一種免許状取得をめざすモデル

6. 選抜の方法

大阪成蹊大学編入学規程に基づき、編入学試験を行う。志願者に対して、小論文、面接、健康状態及び本学に入学する以前に在学した大学等の学業成績により、総合的に選抜を行い、教授会で合否判定を行う。

7. 既修得単位の認定方法

- ①既修得単位については、編入学生が本学に入学する以前に在学した大学、短期大学及び高等専門学校において修得した単位について、62 単位を上限として本学を卒業するために必要な単位として認定する。
- ②編入学した学生には、所定の入学手続きを行う際に、既修得単位の認定を希望する科目リストを提出させる。既修得単位の認定については、本学科の授業科目に読替え、個別に認定する。対応が難しい科目については、入学前に履修した科目の内容、シラバス等に基づいて、読替えの可否等を判定する。
- ③保育士資格科目については、厚生労働省「指定保育士養成施設指定基準(第2の5)」により、入学前に履修した保育士資格取得科目は30 単位を超えない範囲で読替えを行う。
- ④幼稚園教諭一種免許状及び小学校教諭一種免許状取得に必要な科目については、「教育職員免許法施行規則第10条の7」に従って既修得単位の読替えを行う。
- ⑤教授会は、読み替える科目を確定する。認定された授業科目の成績評価は、認定と表記する。

8. 履修指導方法及び教育上の配慮

指導教員(チューター)は編入学直後に個別面談を行うとともに、既修得単位認定の結果をもとに、履修上不利にならないように配慮しながら、卒業に必要な科目、資格取得に必要な科目、その他履修が望ましい科目等を調整し、3・4 年次の履修計画を立てさせる。この履修計画のもとに、指導教員が個別に履修・学修指導等を行う。

なお、小学校教諭一種免許状、幼稚園教諭一種免許状又は保育士資格の取得を希望する学生の入学が予想されるが、既修得単位の読替えについては、厚生労働省「指定保育士養成施設指定基準」、文部科学省「教育職員免許法施行規則」の規定による制限があること、卒業要件である124 単位の単位取得と資格取得とは連動していないこと、カリキュラムの編成上2年間で希望の資格取得ができない場合があること等について、編入学生募集要項等に明示し、受験ガイダンスにおいても周知する。

XIV. 管理運営

1. 評議会及び教授会

本学における教学面の管理運営は、大学評議会及び学部教授会を中心に行っている。各学部の教授会は月1回の開催を原則とし、入試判定等で臨時に開催することもある。

大学評議會は必要に応じ適宜開催している。

【評議会】

(1) 評議会は、学長の諮問に応じ下記の重要事項について審議する。

- ①本学の重要な組織の設置・改廃に関する事。
- ②学則その他重要な規則の制定又は改廃に関する事。
- ③学生定員に関する事。
- ④学生の福利厚生及びその身分に関する事。
- ⑤学部その他の機関の連絡調整に関する事。
- ⑥その他本学の運営に関する重要事項

(2) 評議会は下記の評議員で組織する。

- ①学長
- ②学長推薦による理事会選出理事 2名
- ③副学長
- ④学部長
- ⑤学科長 各学部1名 計3名
- ⑥教授会選出の教員 各学部2名 計6名
- ⑦図書館長
- ⑧総務本部長

【教授会】

(1) 教授会は、当該学部における下記の重要事項を審議する。

- ①学部の教育研究に関する事。
- ②学部の教育課程に関する事。
- ③学部学生の入学、退学、除籍、休学、復学及び卒業に関する事。
- ④学部学生の福利厚生に関する事。
- ⑤学部諸規定の制定及び改廃に関する事。
- ⑥その他学部運営に関する重要事項

(2) 教授会は、学部長及び専任の教授を持つて組織する。当該学部長が必要と認めたときは、准教授その他の教員を加えることができる。

2. その他の委員会等

(1) 大学評議会あるいは学部教授会のもとに、教務委員会、学生委員会、就職委員会等を置き、大学全体や各学部の教学面の管理運営が円滑に行われるよう連絡調整する。

【大学委員会】

教務委員会、学生委員会、就職委員会、自己点検評価委員会、図書館委員会、国際交流委員会、共同研究審査委員会、教員資格審査等委員会、入試委員会、

広報委員会

【マネジメント学部委員会】

教務委員会、学生委員会、学生支援委員会、留学生委員会、就職委員会、自己点検評価委員会、ファカルティ・ディベロップメント（FD）委員会、キャリア教育委員会、初年次教育委員会、高大連携委員会、情報教育委員会、国際交流委員会、研究紀要委員会、人権委員会、共同研究審査委員会、教員の再採用に関する資格審査等委員会、入試委員会、入試広報委員会

【芸術学部委員会】

教務委員会、学生委員会、学生支援委員会、留学生委員会、就職委員会、自己点検評価委員会、ファカルティ・ディベロップメント（FD）委員会、教職課程審議委員会、国際交流委員会、産官学連携委員会、高大接続教育委員会、知的財産権保護委員会、紀要委員会、共同研究審査委員会、教員の再採用に関する資格審査等委員会、入試委員会、広報委員会

【教育学部委員会】

教務委員会、学生委員会、自己点検評価委員会、入試委員会、研究紀要委員会、ファカルティ・ディベロップメント（FD）委員会、運営協議会

- ・教育学部の円滑な学部運営及び教育・研究の一層の充実を図るため運営協議会を置く。運営協議会は、次の各号に掲げる者で、組織する。

- ①学部長
- ②学科長
- ③入試委員会委員長
- ④教務委員会委員長
- ⑤学生委員会委員長
- ⑥自己点検評価委員会委員長
- ⑦事務部門の各部長

- ・教育学部には、授業の内容及び方法の改善を図るため、ファカルティ・ディベロップメント（FD）委員会において、組織的な研修及び研究を実施する。参照（XVI 授業内容方法の改善を図るための組織的な取組）

- （2）大阪成蹊大学における教職課程の充実と強化を図るため、大阪成蹊大学教員養成カリキュラム委員会を設置する。
- （3）大阪成蹊大学における教育研究活動の状況に係る自己点検及び評価の結果について、外部の有識者による検証（以下「外部評価」という。）を行い、教育研究活動の質の向上に資するとともに、社会への説明責任を果たすことを目的として大阪成蹊大学外部評価委員会を設置する。
- （4）関係委員会規程は、別添資料のとおり。（資料27）

XV. 自己点検・評価

1. 大学の自己点検・評価

大阪成蹊大学は、学則第2条において、教育水準の向上を図り、大学の目的及び社会的使命を達成するため、本学における教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行うこととしている。これを受けて大阪成蹊大学自己点検評価委員会を設置し、継続して自己点検を行うとともに、平成22年度には日本高等教育評価機構による大学機関別認証評価を受審し、平成23(2011)年3月25日付けで『日本高等教育評価機構が定める大学評価基準を満たしている』と認定された。

2. 自己点検・評価の体制

自己点検・評価を実施するため、教育学部に専任教員及び事務職員で構成する教育学部自己点検評価委員会を設置する。同委員会の委員2名は大阪成蹊大学自己点検評価委員会委員となり、大学全体の自己点検・評価業務に参加する。

また本学科は、小学校教諭一種免許状、幼稚園教諭一種免許状及び保育士の国家資格取得可能な学科であることから、より厳正な評価が必要であり、このため学外の教育関係者等からなる外部評価委員会を設置し、外部評価を受ける。

3. 自己点検・評価の実施方法

日本高等教育評価機構の大学機関別認証評価「実施大綱」及び「大学評価基準」に基づき、毎年度自己点検・評価を行い、評価書を毎年編纂する。

また小学校、幼稚園教員及び保育士養成機関としての教育・研究、学生支援に関して、自己点検評価委員会において「点検項目」を設定し、毎年自己点検を行うとともに外部評価委員会による外部評価を受ける。

4. 評価結果の公表・活用

点検評価結果は、自己点検評価報告書にまとめ、外部評価結果についても評価書としてまとめ、学生、教員及び職員に周知するとともに、大学ホームページへの掲載等により、広く市民等に公表する。また学部長、教職員は、それぞれの立場から、点検評価結果をもとに、課題を明確にして改善に取り組む。また、点検評価結果は、達成すべき目標を設定する際に活用するとともに、教員研修（FD活動）や職員研修（SD活動）において取り上げ、授業や業務の改善に努める。

XVI. 情報の公表

本学では教育研究活動等の状況をホームページで公表し、学内外の関係者に広く周知している。

(大学情報URL ; (<http://univ.osaka-seikei.ac.jp/introduction/jyoho.html>))

(1) 大学の教育研究上の目的に関すること

学則をホームページで公表すると共に、建学の精神「桃李不言下自成蹊」及び行動指針「忠恕」についても掲載している。建学の精神及び行動指針については新入生及び保護者に解説文を配布し周知している。

(2) 教育上の基本組織に関すること

学部、学科等教育の基本組織とその目的について、ホームページに公表し、学内外に広く周知している。

(3) 教員組織、教員の数並びに各教員の有する学位及び業績に関すること

教員数データとして、専任教員数、年齢構成、専任教員と非常勤講師比率、教員一人あたりの学生数及び教員組織、教員が有する学位及び業績をホームページで公表し、学内外に広く周知している。

(4) 入学者に関する受入方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

入学者に関する受入方針及び入学定員、収容定員、在学者数、卒業者数、進路状況・就職実績、卒業生のメッセージをホームページに公表している。併せて学生募集要項を発行し広く学内外に公表している。また、大学案内を発行し、大学に関する情報を、オープンキャンパスや入試説明会並びに高校訪問時において積極的に配付している。

(5) 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

シラバスをホームページに掲載し、授業科目、授業概要、授業計画、授業時間外の学修、授業形態、授業目標、評価方法、評価基準、教科書・参考書、履修条件、履修上の注意、オフィスアワーを学内外に広く公表している。また、履修の手引きと授業概要を発行し、授業科目、授業の方法及び年間の授業の計画等について学生・教職員に周知徹底している。

(6) 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

学修の成果に係る評価については、定期試験等において行い、成績評価、卒業認定、学位授与の基準については履修の手引きに掲載し、履修ガイダンスにおいて学生に周知徹底している。

(7) 校地・校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

キャンパスの概要、運動施設の概要、休息を行う環境、課外活動施設等についてはホームページに公表している。また、学生の教育研究環境については学生便覧を発行し、図書館の利用案内、情報機器施設等利用案内を掲載し、オリエンテーションで学生に周知徹底している。

(8) 授業料、入学料その他、大学が徴収する費用に関すること

授業料、入学料及び教育充実費、学研災付帯賠償責任保険（付帯賠償）その他大学が

徴収する費用に関しては、ホームページに公表している。また、学生募集要項を発行し、入学検定料、授業料等大学が徴収する費用について周知している。

(9) 大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援についてホームページに公表し、学生及び学外者に周知している。学生の健康診断・健康相談については保健センターにおいて実施し、様々な悩みの相談については、臨床心理士によるカウンセリングも実施している。なお、学生への就学支援、就職支援、学生生活支援については学生便覧に掲載するとともにオリエンテーションにおいて学生に周知徹底している。

(10) その他

①教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報

学生が修得すべき知識及び能力に関する情報は、シラバスに掲載しホームページ及び履修の手引きと授業概要において公表している。

②学則等各種規程

学則についてはホームページ及び学生便覧に掲載し公表している。履修規程は履修の手引きに掲載し学生に周知している。その他、学生生活規程、学生表彰規程、奨学金規程、図書館利用規程、学生会会則等については学生便覧に掲載し学生に周知している。

③設置認可申請書、設置届出書、設置計画履行状況等報告書

大阪成蹊大学設置認可申請書（平成14年4月30日）はホームページに公表している。

大阪成蹊大学設置に係る留意事項実施状況報告書（平成19年4月1日現在）はホームページに公表している。

今回の教育学部に係る設置認可申請書等については、文部科学省の認可後にホームページに公表予定である。また、設置計画履行状況等報告書も文部科学省へ報告後、ホームページに公表予定である。

④自己点検・評価報告書

平成22年度大学機関別認証評価 自己評価報告書はホームページに公表している。

⑤認証評価の結果

大阪成蹊大学平成22年度 大学機関別認証評価 評価報告書はホームページに公表している。

XVII. 授業内容方法の改善を図るための組織的な取り組み

1. 基本方針

教員の資質の向上を図るべく、本学部・本学科では授業内容・方法の改善を図るためのファカルティ・デベロップメント（FD）委員会を設置し組織的取り組みを継続的に行う。

教育学部の教員としての資質向上のためには、授業方法の改善を目的としたFD活動を推進することが必須要件である。そして、授業方法の改善のためには、各教員がそれ

それぞれの専門分野で研究活動に従事し、最新の知見を授業内容のうちに織り込むことも重要である。また、専門分野を越えて教員同士が、各々の分野における最新の研究成果を公開し、教育学部に在籍する教員のなかで専門的知識を共有することも求められる。そして、各教員が専門性を高め、最新の知見を吸収し、広く深い知識を獲得した上で、これらの知識を備えて学生の教育及び指導に当たることが、教育の質を向上させるために必要不可欠であると考え。こうした考えのもとで遂行される「授業内容・方法の改善を図るための組織的取組み」の具体的内容は以下に示すとおりである。

- A. 授業方法の絶えざる改善
- B. 各教員の専門分野における研究活動の推進
- C. 教育学部に在籍する各教員間の教育に関する方針の共有

上記の3項目について、以下具体的内容を記す。

2. 具体的内容

(1) 授業アンケートによる「授業評価」

・調査の目的

本学部・本学科において開講されている授業の実態を客観的に把握し、授業改善のための基礎的資料を収集すべく授業アンケートを実施する。アンケートで得られた結果をその後の授業計画及び運営に反映させ、より良い授業づくりをめざす。

・調査方法

具体的には前期及び後期にそれぞれ1度ずつ「学生による授業評価」を実施する。無記名方式でアンケートを実施し、学生が成績への影響を不安視することなく率直な感想を述べられるよう配慮する（受講者数10人未満の科目は除く）。

科目担当者は調査期間内に、当該科目の任意の授業時間中にアンケートを実施し、学生に回答させ、回収する。調査票の読み取りから集計までの一連の作業は業者に委託する。そして、結果が出た後は科目ごとの集計結果を科目担当者に返却する。なお、調査結果の分析はFD委員会が担う。

また、「学生による授業評価」での質問項目は、授業スキルの他、「受講人数は適切か」「テキスト・補助教材・配布プリント等は役に立つか」「授業の開始時間が守られているか」「教員は学生に対して公平であるか」「教員は私語、携帯電話、遅刻、途中入退室に、適切に対応しているか」等多岐にわたり、次学期以降の教育改善に役立てるものである。そして各教員は「学生による授業評価」の集計結果を受け取ったのち、それを報告書にまとめ、今後どのように授業を改善して行くかについて方針をまとめる。

・調査結果の公開

アンケートの公開方法としては、印刷物を教務課に配備するとともに学生・教員のみ閲覧可能なWEB上で掲載する。回答した学生に対してアンケートの調査結果を公開することにより、学生自身に評価者としての自覚を促すのみならず、次年度の受講登録の参考資料とさせる。また、結果を公開することにより、大学全体で授業に関する情報を共有し、授業改善を個人的なものにとどめるのではなく、大学全体として授業の質向上を目指して行く。

(2) 「授業公開」の実施

本学部・本学科においては教員が自らの担当する授業を前期・後期にそれぞれ最低1回ずつ他の教員に公開する。そして、授業の進め方や方法について相互にコメントしあうことにより、授業の質向上をめざす。

前期後期にそれぞれ2週間程度のオープンウィークを設定し、各教員が他の教員の授業見学を行う。事前に教員が見学したい授業をリクエストし、そのうえで授業公開を行う。

見学者は授業見学時に授業レポートを記入し、授業担当者は授業レポートにコメントを書き加えて学長に提出する。学長は、それについての見解を付してファカルティ・デベロップメント（FD）委員会に検討を指示する。

(3) 学内研修会の企画及び実施

FD活動の目的達成のため、学内研修会を企画・実施する。

① 授業方法改善を企図した学内研修会

- ・授業方法の向上を目的とした学内外の講師による研修会の開催
- ・授業方法の改善を企図した教育学部の全教員参加による討論会の開催

② 各教員が専門分野において資質向上をはかるための学内研修会

- ・様々な分野から講師を招き、教育学分野における最新の研究を紹介
- ・教育学部の各専任教員が自らの研究成果を他の教員に紹介し、互いの専門分野から学ぶことを目的とした研修会

(4) 学外研修会への参加

各種研修会の情報を教育学部内において周知し、各教員に対し参加を求める。そして学外研修会等への参加を通じて得られた情報を学内で共有する。

(5) 教育研究活動の称揚

教育学部内で試みた教育方法や教育内容の改善とその成果を研究論文としてまとめ、研究成果を学内外の学術雑誌等に発表する。あるいは学会・研究会等で研究発表を行う。

XVIII. 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

1. 教育課程内の取り組み

本学部・本学科の教育では、学校現場での体験的な学修と大学での座学（理論的な学修）を常に往還させながら、教員、保育士として教育・保育に携わるのにふさわしい、幅広い視野を持ち感性の豊かな、積極性とコミュニケーション能力に優れた実践力のあつた人材の育成を目指している。教育課程内では、この目標を達成するために、次に示すように4年間の学びの中で一貫して少人数制での指導を行うことにしている。まず、初年次教育として行う「大学での学びとキャリアを考える」（1年次前期）を最初に開設し、以降、専任教員が少人数の学生を担当するゼミナール形式の科目を系統立てて設定している。具体的には、1年次後期に開講する「基礎ゼミⅠ」、その後「基礎ゼミⅡ」（2年次前期）、「基礎ゼミⅢ」（2年次後期）、「専門基礎演習Ⅰ」（3年次前期）、「専門基礎演習Ⅱ」（3年次後期）、「専門演習Ⅰ」（4年次前期）、「専門演習Ⅱ」（4年次後期）といった一連の科目において、専任教員の積極的な関与をもとに、学生同士によるディスカッションや自らの意思を他者に伝えるプレゼンテーション等の主体的な活動を通じ、キャリア設計についての気づきを学生自身が引き出し、自らの力で成長し社会生活により柔軟に対応できる力を身につけさせていく。これ等の取り組みに合わせて、1年次後期以降は「基礎ゼミⅠ」での「学校見学」、2年次の「教育インターンシップⅠ」（前期）及び「教育インターンシップⅡ」（後期）、3年次前期で「学校・施設ボランティア」を開設し実践力の基礎を養っていく。また、並行して「企業インターンシップ1」（2年次前期）及び「企業インターンシップ2」（3年次前期）を開設し、実際の就業体験を通して職業意識の醸成と社会人としての意識の向上を図ることによって、幅広い職業人の育成を行う。特に教職については、1年次では「基礎教養（国語・算数）」「基礎教養（理科・社会）」を通して基礎教養を修得させ、2年次では「教職基礎Ⅰ」「教職基礎Ⅱ」を通して教職教養を修得させる。さらに、「キャリア演習Ⅰ」（3年次前期）、「キャリア演習Ⅱ」（3年次後期）「キャリア演習Ⅲ」（4年次前期）を開設し自己理解を深めながら進路を選択し、自ら選択した職業で自律的に活躍していくためのキャリア支援を行う。これらの科目をとおして、教職にかかわる全般的な学問教養の基礎を確実に身につけさせる計画である。以上の学校内外での取り組みによって、市民としての基本的な知識と良識、社会一般の仕組みや出来事や諸課題についての関心と思考力を高め、さらには生涯を通じて学び続けながら実社会で生き抜いていける力を養成する。

2. 教育課程外の取り組み

教員の専門職的な特徴をより実践的に学ぶとともに体験の考察を深めていくために、次の取り組みを重点的に行っていく計画である。1年次そして2年次における基礎的な学びの展開を図るために、3年次では、各自治体が募集する教育ボランティア（学校サ

ポーター)としての活動を奨励し、合わせて各府市教育委員会が独自に開設する教師養成プログラム(大阪府教育委員会が主催する「大阪教志セミナー」、大阪市教育委員会が主催する「大阪市教師養成講座」、堺市教育委員会が主催する「堺・教師ゆめ塾」、京都府教育委員会が主催する「京都府教師力養成講座」、京都市教育委員会が主催する「京都教師塾」等)への参加を積極的に促していく。さらに、参加した学生が自身の得た成果を発表する報告会を開催し、体験の振り返りと未参加の学生への啓発を図っていく予定である。

教育課程外でのこれ等の取り組みを通じ、学校現場での体験を積み重ねながら、学校組織の一員としての自覚を深め、そして教育課程内の学びで修得した様々な知見を活かし実際的な課題に対応する力を養う中で、教員としての使命感や社会に貢献する志を高め、教員としての職務にすぐに対応可能な実践力を養成することになっている。また、教員採用試験対策の課外講座を開設する他、教職に限定せずに社会人として求められる社会人基礎力や地域コミュニティを構成する一市民としてのあり方等についての啓発的な講演会や就業意識を養う就職ガイダンスそして学内企業セミナーも随時開催していく。さらに、個別的なキャリア・カウンセリングや模擬面接の実施、資格取得対策講座の開設、就職に関する情報の個別提供等を精力的に行うことによって、学生の人間形成とキャリア形成の両面的な促進を図ることになっている。

3. 適切な体制の整備

大学内の関係組織である教員養成カリキュラム委員会、就職委員会及び事務所管部門の就職部さらに教育・保育実習支援センターとの緊密な連携をもとに、学生の社会的及び職業的な自律に必要な能力の養成に努めていく計画である。具体的には、就職部主催の系統のかつ横断的なサポート体制に加え、ゼミ担当教員側では教員養成カリキュラム委員会と教育・保育実習センターのメンバー教員が中核となり、教育課程内・外の取り組みに際して手厚い個別相談及び指導を継続して行う体制を組み、学生一人一人の適性を見極めその適性に応じた親身な教育指導を行っていく。その目的は、単に卒業時点の就職ではなく、生涯を通じた持続的な就業力の養成にあり、教育指導の内容については学生の豊かな人間形成とキャリア設計に資するものにしていく。

「設置の趣旨を記載した書類」の添付資料 目次

- (資料1) 大阪北部における他大学の教育系学部・学科等の位置及び設置状況
- (資料2) 教育学部設置要望書
- (資料3) 平成22年度学校教員統計調査
- (資料4) 「高校生向けアンケート調査(入口調査)」
- (資料5) 「大阪成蹊大学教育学部(仮称)編入学に関するアンケート調査」
- (資料6) 「幼稚園・保育所向けアンケート調査(出口調査)」
- (資料7) 「教育系一般企業向けアンケート調査(出口調査)」
- (資料8) 教育課程概念図
- (資料9) 大阪成蹊学園定年規程
- (資料10) 大阪成蹊学園特別招聘教員就業規則
- (資料11①) 平成25年4月18日理事会資料
- (資料11②) 平成25年8月26日理事会資料
- (資料12) 教育学科の履修モデル
- (資料13) 大阪成蹊大学教育学部履修規程
- (資料14) 大阪成蹊大学、大阪成蹊短期大学の校舎等の平面図
- (資料15) 大阪成蹊大学、大阪成蹊短期大学の時間割等(完成年度:平成29年度)
- (資料16) 学術雑誌一覧
- (資料17) 認定を受けようとする学部学科等の教育課程及び教員組織
(小・教科に関する科目)、同(幼・教科に関する科目)
- (資料18) 認定を受けようとする学部学科等の教育課程及び教員組織
(小・教科又は教職に関する科目)、同(幼・教科又は教職に関する科目)
- (資料19) 認定を受けようとする学部学科等の教育課程及び教員組織
(小・教職に関する科目)、同(幼・教職に関する科目)
- (資料20) 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目
- (資料21) 教科目名称読み替え表(保育士資格)
- (資料22) 大阪市教育局の教育実習受入承諾書
- (資料23) 教育・保育実習先の一覧
- (資料24) 教育・保育実習センター構想の概要
- (資料25) 企業実習及び海外語学研修先の一覧
- (資料26) 編入学の履修モデル
- (資料27) 大阪成蹊大学関係委員会規程
- (資料28) 連携協力協定締結教育委員会一覧
- (資料29) 大阪成蹊大学 出口調査 アンケート協力事業所一覧(平成25年8月追加調査)
- (資料30) 一般企業追加アンケート調査結果

大阪北部における他大学の教育系学部・学科等の設置状況

【大学】

大阪に教育学部系学科等を設置する大学は15校あり、大阪北部に位置するのはそのうち5校（入学定員410人）

校数	学校名	学部学科名等	定員	所在地
1	梅花女子大学	心理こども学部こども学科	80	大阪府茨木市
2	千里金蘭大学	生活科学部児童学科	80	大阪府吹田市
3	関西大学	文学部 初等教育学専修	50	大阪府吹田市
4	大阪人間科学大学	人間科学部こども福祉学科	120	大阪府摂津市
5	大阪青山大学	健康科学部健康こども学科	80	大阪府箕面市
6	大阪教育大学	教育学部学校教育教員養成課程・幼稚園教員養成課程等	485	大阪府柏原市
7	大阪大谷大学	教育学部教育学科	230	大阪府富田林市
8	大阪総合保育大学	児童保育学部児童保育学科	110	大阪市東住吉区
9	四天王寺大学	教育学部教育学科	200	大阪府羽曳野市
10	太成学院大学	人間学部子ども発達学科・健康スポーツ学科	50	大阪府堺市
11	常盤会学園大学	国際こども教育学部・学科	110	大阪市平野区
12	東大阪大学	こども学部・学科	60	大阪府東大阪市
13	プール学院大学	国際文化学部子ども教育学科	80	大阪府堺市
14	大阪芸術大学	芸術学部初等芸術教育学科	80	大阪府南河内郡
15	相愛大学	人間発達学部子ども発達学科	100	大阪市住之江区
合 計			1,915	

【短期大学】

大阪に教育系学科等を設置する短大は18校あり、大阪北部に位置するのはそのうち本学を含め4校（入学定員650人）

校数	学校名	学科名	定員	所在地
1	大阪成蹊短期大学	児童教育学科	270	大阪市東淀川区
2	平安女学院短期大学部	保育科	100	大阪府高槻市
3	大阪国際大学短期大学部	幼児保育学科	180	大阪府守口市
4	大阪青山短期大学	幼児教育・保育科	100	大阪府箕面市
5	大阪キリスト教短期大学	幼児教育学科	170	大阪市阿倍野区
6	大阪信愛女学院短期大学	子ども教育学科	120	大阪市城東区
7	大阪芸術大学短期大学部	保育学科	100	大阪市東住吉区
8	大阪城南女子短期大学	総合保育学科	170	大阪市東住吉区
9	常磐会短期大学	幼児教育科	300	大阪市平野区
10	関西女子短期大学	保育科	100	大阪府柏原市
11	大阪千代田短期大学	幼児教育科	100	大阪府河内長野市
12	大阪健康福祉短期大学	子ども福祉学科	80	大阪府堺市
13	プール学院大学短期大学部	幼児教育保育学科	70	大阪府堺市
14	四條畷学園短期大学	保育学科	100	大阪府大東市
15	四天王寺大学短期大学部	保育科	100	大阪府羽曳野市
16	樟蔭東短期大学	生活学科 保育学専攻	50	大阪府東大阪市
17	東大阪大学短期大学部	幼児教育学科	80	大阪府東大阪市
18	大阪女子短期大学	幼児教育科	100	大阪府藤井寺市
合 計			2,290	

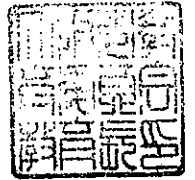
教育学部設置要望書

- ① 大阪市教育委員会
- ② 豊中市
- ③ 豊中市教育委員会
- ④ 吹田市教育委員会
- ⑤ 摂津市教育委員会
- ⑥ 茨木市教育委員会
- ⑦ 高槻市教育委員会
- ⑧ 池田市教育委員会
- ⑨ 箕面市教育委員会
- ⑩ 川西市教育委員会
- ⑪ 豊能町教育委員会
- ⑫ 能勢町教育委員会

平成 25 年 4 月 18 日

文部科学大臣 下村 博文 様

大阪市教育委員会
教育長 永井 哲郎



大阪成蹊大学 教育学部の新設について（副申）

学校法人大阪成蹊学園は、平成 26 年度に大阪成蹊大学において教育学部を
新設するために認可申請されるとのことです。

当該学校法人が設置する大阪成蹊短期大学児童教育学科は、長年の伝統と歴
史があり、当該学科の卒業生は本市のみならず近畿地区の小学校、幼稚園、保
育所等で教員、保育士及び指導者として活躍されております。

このように、大阪成蹊短期大学児童教育学科にて培った、教育の強みや特色
を活かし、大阪成蹊大学において新しい時代の高度な教育知識を身に付けた教
員を養成するために、教育学部を新設することは、大阪市民の教育的要請に対
しても大きな役割を果たすことが期待されます。

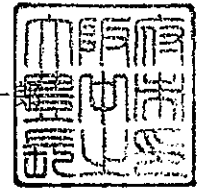
つきましては、当該学校法人の設置する大阪成蹊大学において、教育学部設
置の認可申請に関しまして、特段のご高配を賜りますよう副申いたします。

豊 政 秘 第 14 号

平成 25 年(2013 年)4 月 30 日

文部科学大臣 下村 博文 様

豊中市長 浅利 敬一



大阪成蹊大学における教育学部の新設について

日ごろは、本市の市政推進に格別のご高配を賜り、厚くお礼申しあげます。

さて、この度、学校法人大阪成蹊学園は、平成 26 年度に大阪成蹊大学において教育学部を新設するために認可申請を準備中とのことであります。

このことは、既設の短期大学児童教育学科によって培われた特色と歴史にたつて、より質の高い教員の養成がなされるものと大いに期待を寄せるところであります。

また、平成 24 年度に教職員人事権の移譲を受けた本市にとりましても、急務となっております良質な教員の確保に資するものであると考えております。

つきましては、同大学の教育学部の新設にあたり、ご高配を賜りますようお願いいたします。



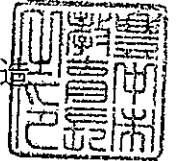
豊教総第132号

平成25年(2013年)4月30日

大阪成蹊大学

学長 武蔵野 實 様

豊中市教育委員会
教育長 大源 文造



教育学部の新設について(要請)

日ごろは、本市の教育行政に格別のご高配を賜り、厚くお礼申しあげます。

さて、本市におきましては、昨年4月に教職員人事権の移譲を受け、本市での勤務を志すモチベーションの高い受験生の確保や地域に密着した教育の推進に努めております。

今般、貴大学が新設を計画されておられる予定の教育学部につきましては、既設の短期大学児童教育学科によって培われた伝統と研究成果の蓄積を土台に、より質の高い教員の養成がなされるものと大いにご期待申し上げるところです。

本市教育委員会といたしましては、貴大学における教育学部の新設は当地域の教育文化の向上に大いに資するものと考えておりますので、ぜひとも教育学部を新設いただきますよう要請いたします。

25吹教学指第208号

平成25年5月1日

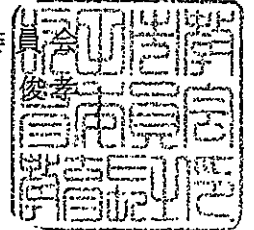
(2013年)

大阪成蹊大学

学長 武蔵野 實 様

吹田市教育委員会

教育長 西川



大阪成蹊大学教育学部の新設について（要望）

平素より本市教育行政の推進にご支援、ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、本市教育委員会では、教育の方向性を示す「わが都市すいたの教育ビジョン」を平成22年(2010年)に策定し、「今 吹田から未来の力を」を基本理念に教育活動や学校・園運営、地域連携等の改革に取り組んでおります。

また、本年3月6日には、貴大学と本市教育委員会の間で、本市の教育及び貴大学における教育・研究の充実、発展に資することを目的に連携協定を締結したところでございます。

こうした中、貴大学が新設を計画されている教育学部につきましては、本市学校教育のさらなる充実、発展につながり、一層の連携が期待されるところでございますため、是非とも設置していただきますよう要望いたします。

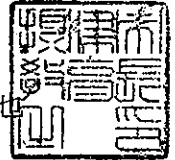
摂次学第 306 号

平成 25 年 4 月 26 日

大 阪 成 蹊 大 学
学 長 武 蔵 野 實 様

摂津市教育委員会

教育長 箸尾谷 知也



「大阪成蹊大学 教育学部」の新設について（要請）

平素より本市の教育行政にご理解ご協力を賜り厚く御礼を申し上げます。

本市では「協働」をキーワードとする第 4 次総合計画のもと、就学前教育、義務教育、さらには生涯学習に至るまで、つながりを意識した取り組みを一層進めており、特に、小中学校においては、学力向上やいじめ・不登校などの様々な教育課題の克服に向けて取り組んでいるところでございます。

このような中、教職員の人材育成が不可欠となっており、保護者・市民からも多くの期待と要請が寄せられております。

このたび、貴学が新設を計画されている「大阪成蹊大学 教育学部」につきましては、本市の教育振興や次世代の教職員の育成の上からも、ぜひとも設置くださるよう要請いたします。

茨教学第295号

平成25年4月22日

大阪成蹊大学

学長 武蔵野 實 様

茨木市教育委員会

教育長 八木 章



「大阪成蹊大学 教育学部」の新設について

日ごろは茨木市の教育活動の推進にご協力を賜り厚く御礼を申し上げます。

本市におきましては、「茨木っ子ステップアッププラン25（新学力・体力向上3カ年計画）」を策定し、学力向上、体力向上を図るとともに、いじめ・不登校等、学校生活におけるさまざまな課題に対応できるよう、教育施策の充実を図っているところでありますが、学校における教育活動では、授業力はもちろんのこと、豊かなコミュニケーション力をもってさまざまな課題を解決することができる教員を必要としています。

さらには、地域の方々や保護者等と連携し、地域を育て、市を育てるという広い視点を持った人材養成は社会が求めるところとなっております。

今回、貴大学が新設を計画されている「大阪成蹊大学 教育学部」につきましては、本市の学校教育の充実のため、ぜひとも設置くださるよう要請いたします。

高教セ第70号

平成25年4月24日

学校法人大阪成蹊学園

理事長 石井 茂 様

高槻市教育委員会

教育長 一瀬



「大阪成蹊大学 教育学部」の新設について（要請）

日頃より本市の教育水準の向上にご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

本市におきましては、「子育て・教育の環境が整ったまち」づくりを目指して、教育文化の振興を市政の重点施策の一つとしてその充実を図っているところでございます。

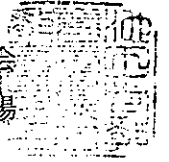
本市教育委員会としましては、「信頼される学校づくり」を目標とし、教職員の資質向上と組織体制で動く学校園づくりを進めており、そのためにも、学校・家庭・地域関係者の「横の連携」、幼稚園から大学までの「縦の接続」を強化することで社会全体の教育力を高めていくことが重要であると考えております。

このたび、貴大学が新設を計画されている「大阪成蹊大学 教育学部」につきましては、本市の教育文化向上のため、ぜひとも設置くださるよう要請いたします。

池 教 政 発 第 39 号
平成 25 年 4 月 30 日

大 阪 成 蹊 大 学
学 長 武 蔵 野 實 様

池 田 市 教 育 委 員 会
教 育 長 村 田 陽



「大阪成蹊大学 教育学部設置」要望書

時下ますますご清祥の段、お慶び申し上げます。平素は本市教育行政に対しまして、格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、近年、少子高齢化、高度情報化、国際化などの社会変化の中で、教育を取り巻く環境も急速に変化し、自立心の低下、生活習慣の乱れ、学ぶ意欲の低下、安全・安心な生活への不安など、子どもたちの教育に様々な課題が生じています。

このように先行き不透明な時代にあって、将来に展望を見出す教育の振興を図っていくため、本市では、平成 24 年に「池田市教育ビジョン」を策定し、「学びつづけ、ともに生きる池田の子ども」を目ざし、子どもたちが、これからの変化の激しい社会を力強く生き抜き、次代を担える大人になるよう、様々な取り組みを進めているところです。

取り組みには、学校・家庭・地域住民が連携・協働していくことが重要であり、中でもその核となる教員の資質能力が、その成否に大きく影響すると言っても過言ではありません。しかしながら、教員の大量退職、大量採用により、今後十年間に、教員全体の約三分の一が入れ替わると言われる中であって、学校現場では、優秀な即戦力を求める声が高く、その養成の充実は、これまで以上に望まれるところであり、かつ、本市におきましては、昨年 4 月に教職員人事権の移譲を受け、優秀な教員の採用が課題となっております。

この度、貴大学が設置を計画されている「教育学部」につきましては、次代を担う子どもたちを育む教員を養成する機関として、大いに期待するものであり、是非とも設置いただき、今後の教育活動の充実・発展に寄与くださるよう要請いたします。

箕 子 職 第 2 7 号

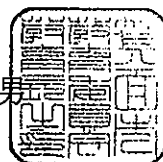
平成25年（2013年）5月7日

大阪成蹊大学

学 長 武蔵野 實 様

箕面市教育委員会

教育長 具田 利男



教育学部の新設について（要請）

時下、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

平素は、本市の教育行政に格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、本市では、子どもの豊かな「育ち」と確かな「学び」を育む学校づくりを目指し、小中一貫教育の推進や大規模改修による安全で快適な学校環境づくり、不登校児童生徒への支援、箕面子どもステップアップ調査（箕面学力・体力・生活状況総合調査）の実施など、本市独自の取り組みを進めています。

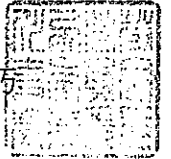
また、昨年4月には大阪府から教職員人事権の移譲を受け、本市の教育施策に共感し、本市の子どもたちの教育を担いたいという意欲と情熱を持つ優秀な教員の確保を目指し、教員の資質・能力を高める取り組みも始めたところです。

今般、貴大学が設置を計画されている教育学部につきましては、既設の短期大学児童教育学科によって培われた歴史・伝統にたって、より質の高い教員の養成がなされるものと大いに期待するものであり、誠に時宜を得たものとの認識のもと、是非とも教育学部を設置いただき、当地区の教育文化の充実・発展にご尽力賜りますよう要請いたします。

平成25年4月22日

大阪成蹊大学
学長 武蔵野 實 様

川西市教育委員会
教育長 牛尾 巧



「大阪成蹊大学教育学部」の新設について（要望）

平素は、本市教育の推進にご理解・ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、本市におきましては教育の基本理念を「地域と人の輪がつくる教育の推進」とし、4つの「めざす人間像」と5つの「基本方針」を定め、その実現に向け諸施策を実行していくこととしております。その際、職員をはじめ多くの関係者が協力していくことが必要となりますが、学校現場において直接、保護者や地域の方々と接し、子どもたちの教育を担う教職員の質の向上は重要な要素の一つであると考えております。

今回、貴大学が新設を計画されている「大阪成蹊大学教育学部」につきましては、優れた教職員を養成し、本市教育の推進に大きなお力をいただけることと期待いたしますので、その設置を要望いたします。

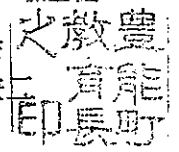
豊能教総第 137号

平成25年4月30日

大阪成蹊大学

学 長 武蔵野 實 様

豊能町教育委員会
教育長 石塚 謙



「大阪成蹊大学教育学部」の新設について（要請）

平素は、本町の教育行政に格別のご高配を賜り、厚くお礼申しあげます。

さて、本町におきましては、昨年4月に大阪府教育委員会から教職員人事権の移譲を受け、本町では特色ある教育を推進し、本町に勤務を希望する優秀な教員の確保に努めております。

今般、貴大学が計画されている「大阪成蹊大学教育学部」の新設につきましては、より質の高い教員養成がなされるものと大いにご期待いたします。

本町といたしましては、教員の確保が急務となっていることから、貴大学から優秀な学生が教員採用試験を受けてもらうことが必要です。

そのため、ぜひとも新学部を設置いただきますよう要望いたしますとともに、本町の教育行政のより一層のご支援をいただきたくお願い申し上げます。

平成25年4月25日

大阪成蹊大学

学長 武蔵野 實様

能勢町教育委員会

教育長 森田 雅彦



「大阪成蹊大学教育学部」の新設について（要望）

平素は、本町教育の推進にご理解・ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、本町におきましては、教育の基本理念を「子どもが育つ 子どもを育てる 教育の町 能勢町」のスローガンのもと、3つの重点政策、9つの重点課題の実現に向け諸事業を推進しております。その際、教職員をはじめ多くの関係者が連携・協力していくことが必要ですが、とりわけ子どもたちの教育を担う教員の資質向上は重要な要素です。また大阪府から教員人事権の移譲を受け、優秀な教員を採用していくことは喫緊の課題となっています。

今回、貴大学が新設をされています「大阪成蹊大学教育学部」につきましては、優れた教員を養成し、本町教育の推進に大きな力になっていただけるものと期待いたしますので、ぜひとも設置くださるよう要望いたします。

平成22年度学校教員統計調査

○ 教員個人調査 小学校 … 12. 免許状別 職名別 教員構成

○ 教員異動調査 小学校 … 88. 学歴区分別 年齢区分別 採用教員数

○ 教員個人調査 幼稚園 … 5. 免許状別 職名別 教員構成

○ 教員異動調査 幼稚園 … 85. 離職の理由別 年齢区分別 離職教員数

12 免許状別 職名別 教員構成

(複数回答)(%)

区 分	計	当 該 学 校 の 免 許 状							そ の 他 の 免 許 状									
		普 通 免 許			臨時免許	特別免許	な し		幼稚園	小学校	中学校	高等学校	特別支援 学 校 (視覚 障害)	特別支援 学 校 (聴覚 障害)	特別支援 学 校 (知・肢・ 病)	養護教諭	養護臨時	栄養教諭
		専 修	1 種	2 種														
計	100.0	3.7	79.2	15.1	0.3	0.0	1.7		20.7	0.2	62.0	45.2	0.2	0.6	7.7	1.1	—	0.0
国 立	100.0	15.6	76.7	6.2	0.3	—	1.3		12.6	0.3	72.6	57.6	—	0.3	4.4	2.2	—	0.1
公 立	100.0	3.6	79.4	15.1	0.3	—	1.6		20.8	0.2	62.1	45.2	0.2	0.6	7.8	1.0	—	0.0
私 立	100.0	4.9	63.2	18.5	3.2	0.1	10.1		13.5	0.0	52.2	44.3	—	0.1	1.1	1.9	—	—
男	100.0	5.2	76.1	16.5	0.3	0.0	1.9		7.8	—	66.7	51.8	0.1	0.3	5.7	0.5	—	—
女	100.0	2.8	81.1	14.3	0.3	0.0	1.6		28.6	0.3	59.1	41.2	0.2	0.8	9.0	1.4	—	0.0
校 長	100.0	3.4	75.9	12.5	0.1	—	8.0		6.3	…	78.6	66.4	0.2	0.7	4.6	0.2	—	—
副 校 長	100.0	2.1	88.3	6.8	0.1	—	2.6		16.8	…	52.4	42.4	—	0.4	4.6	0.2	—	—
教 頭	100.0	5.8	75.6	16.0	0.1	—	2.5		8.4	…	73.6	60.1	0.1	0.1	5.9	0.3	—	—
主 幹 教 諭	100.0	3.8	82.7	8.4	—	—	5.1		20.6	…	48.9	37.7	—	0.8	5.0	4.3	—	0.0
指 導 教 諭	100.0	6.1	84.5	7.6	—	—	1.9		42.1	…	56.8	34.8	—	0.2	19.6	4.6	—	—
教 諭	100.0	3.7	80.1	14.7	0.3	0.0	1.2		23.7	…	61.8	45.3	0.2	0.7	8.6	1.1	—	0.0
助 教 諭	100.0	2.8	64.5	12.2	16.1	—	4.4		9.0	…	69.8	36.8	—	—	16.4	2.8	—	—
講 師	100.0	1.7	59.5	30.8	4.1	—	3.8		28.9	…	51.2	34.0	0.0	0.3	5.7	1.4	—	0.2
養 護 教 諭	100.0	2.9	76.0	20.9	—	…	0.1		0.3	3.0	49.5	17.2	0.2	—	0.6	…	—	0.1
養 護 助 教 諭	100.0	—	51.5	43.1	3.8	…	1.6		1.0	5.6	33.1	16.7	—	—	1.0	…	—	—
栄 養 教 諭	100.0	—	68.9	31.1	—	…	—		—	3.8	16.9	5.8	—	—	—	0.7	—	…
(別掲)代替教員	100.0	1.9	53.5	30.1	3.5	0.1	10.9		21.7	…	50.9	34.6	0.1	0.1	4.8	8.6	0.0	0.1
うち公立																		
男	100.0	5.1	76.3	16.6	0.3	—	1.7		7.8	—	66.8	51.8	0.1	0.3	5.7	0.5	—	—
女	100.0	2.7	81.2	14.2	0.3	—	1.5		28.7	0.3	59.2	41.2	0.2	0.8	9.1	1.4	—	0.0
校 長	100.0	3.4	76.1	12.5	0.1	—	7.9		6.3	…	78.7	66.5	0.2	0.7	4.6	0.2	—	—
副 校 長	100.0	2.0	89.2	6.8	—	—	2.0		17.3	…	51.0	41.4	—	0.4	4.8	—	—	—
教 頭	100.0	5.8	75.7	15.9	0.1	—	2.4		8.4	…	73.7	60.3	0.1	0.1	6.0	0.3	—	—
主 幹 教 諭	100.0	3.6	82.7	8.5	—	—	5.2		20.7	…	48.5	37.4	—	0.8	5.0	4.4	—	0.0
指 導 教 諭	100.0	4.9	86.5	7.0	—	—	1.5		43.6	…	57.3	34.1	—	—	20.3	4.6	—	—
教 諭	100.0	3.6	80.3	14.7	0.3	—	1.1		23.9	…	61.8	45.3	0.2	0.7	8.7	1.1	—	0.0
助 教 諭	100.0	2.5	75.2	13.6	5.4	—	3.3		9.2	…	77.0	38.6	—	—	19.3	3.2	—	—
講 師	100.0	1.6	59.6	31.6	4.1	—	3.2		29.9	…	50.6	32.8	0.0	0.3	5.9	1.3	—	0.2
養 護 教 諭	100.0	3.0	76.1	20.8	—	…	0.1		0.3	3.0	49.6	17.1	0.2	—	0.6	…	—	0.1
養 護 助 教 諭	100.0	—	52.3	42.6	3.5	…	1.6		1.0	5.7	33.8	17.0	—	—	1.0	…	—	—
栄 養 教 諭	100.0	—	68.8	31.2	—	…	—		—	3.9	16.9	5.7	—	—	—	0.7	—	…
(別掲)代替教員	100.0	1.9	53.5	30.1	3.5	0.1	10.9		21.8	…	50.9	34.6	0.1	0.1	4.8	8.6	0.0	0.3

(注) 養護教諭、養護助教諭の場合は、当該学校の免許状の専修、1種、2種、臨時免許は、それぞれ養護教諭免許状専修、1種、2種、養護助教諭免許状を、栄養教諭の場合は、当該学校の免許状の専修、1種、2種免許は、栄養教諭免許状専修、1種、2種免許状をそれぞれ計上した。

8ページ 7行目	「小学校教員の所有免許状構成をみると、15.1%が二種免許状所有者である」の数値について は、上記表中普通免許、2種の欄の数値である。

88 学歴区分別 年齢区分別 採用教員数

(人)

区 分	計	教 員 養 成 系				一 般 系						区 分
		小 計	大学院	大 学	短期大学	小 計	大学院	大 学	短期大学	高等学校	その他	
計	17,389	8,899	703	8,196	—	8,490	214	6,859	1,337	15	65	計
国 立	37	26	13	13	—	11	—	10	1	—	—	国 立
公 立	16,994	8,740	673	8,067	—	8,254	184	6,678	1,313	15	64	公 立
私 立	358	133	17	116	—	225	30	171	23	—	1	私 立
男	6,717	3,835	384	3,451	—	2,882	93	2,619	153	7	10	男
女	10,672	5,064	319	4,745	—	5,608	121	4,240	1,184	8	55	女
25 歳 未 満	6,938	4,081	119	3,962	—	2,857	31	2,564	250	3	9	25 歳 未 満
25 歳 以上 30 歳 未 満	4,725	2,228	360	1,868	—	2,497	106	2,109	255	6	21	25 歳 以上 30 歳 未 満
30 " 35 "	1,741	733	82	651	—	1,008	37	768	191	—	12	30 " 35 "
35 " 40 "	881	335	34	301	—	546	23	368	143	3	9	35 " 40 "
40 " 45 "	654	266	13	253	—	388	3	225	153	3	4	40 " 45 "
45 " 50 "	888	466	38	428	—	422	2	242	175	—	3	45 " 50 "
50 " 55 "	1,019	521	42	479	—	498	9	385	101	—	3	50 " 55 "
55 " 60 "	458	234	15	219	—	224	3	167	50	—	4	55 " 60 "
60 " 65 "	72	28	—	28	—	44	—	28	16	—	—	60 " 65 "
65 歳 以 上	13	7	—	7	—	6	—	3	3	—	—	65 歳 以 上
うち公立												うち公立
男	6,564	3,769	371	3,398	—	2,795	83	2,546	149	7	10	男
女	10,430	4,971	302	4,669	—	5,459	101	4,132	1,164	8	54	女
25 歳 未 満	6,793	4,011	115	3,896	—	2,782	23	2,503	244	3	9	25 歳 未 満
25 歳 以上 30 歳 未 満	4,617	2,188	342	1,846	—	2,429	93	2,056	253	6	21	25 歳 以上 30 歳 未 満
30 " 35 "	1,708	721	81	640	—	987	33	756	187	—	11	30 " 35 "
35 " 40 "	851	326	32	294	—	525	19	351	143	3	9	35 " 40 "
40 " 45 "	634	260	12	248	—	374	3	215	149	3	4	40 " 45 "
45 " 50 "	870	461	37	424	—	409	2	232	172	—	3	45 " 50 "
50 " 55 "	1,002	513	39	474	—	489	8	378	100	—	3	50 " 55 "
55 " 60 "	451	231	15	216	—	220	3	164	49	—	4	55 " 60 "
60 " 65 "	64	26	—	26	—	38	—	23	15	—	—	60 " 65 "
65 歳 以 上	4	3	—	3	—	1	—	—	1	—	—	65 歳 以 上

(注) 「教員養成系」及び「一般系」の定義は、付録「(1) 調査票の様式及び記入事項の説明」を参照 のこと。以下の各表において同じ。

8ページ 8～9行目	「小学校教員の短期大学卒業生の占める割合は7.7%となっており」の数値については、 上記表中短期大学の教員数を合計で割って率を算出した。 (1,337 ÷ 17,389 = 7.7%)

5 免許状別 職名別 教員構成

(複数回答)(%)

区 分	計	当 該 学 校 の 免 許 状						そ の 他 の 免 許 状									
		普 通 免 許			臨時免許	な し		幼稚園	小学校	中学校	高等学校	特別支援 学 校 (視覚障害)	特別支援 学 校 (聴覚障害)	特別支援 学 校 (知・肢・病)	養護教諭	養護臨時	栄養教諭
		専 修	1 種	2 種													
計	100.0	0.5	22.5	71.8	0.3	5.0		0.0	10.1	3.9	3.1	0.0	0.1	0.7	0.4	—	0.0
国 立 公 立 私 立	100.0	10.4	60.6	22.9	0.3	5.8		0.9	73.7	31.5	23.2	0.3	0.6	9.2	2.4	—	—
	100.0	0.8	40.3	55.4	0.1	3.4		0.0	26.3	5.7	3.6	—	0.1	1.8	1.1	—	—
	100.0	0.4	18.1	75.9	0.3	5.3		0.0	6.0	3.4	2.9	0.0	0.1	0.3	0.2	—	0.0
男 女	100.0	1.2	14.3	27.1	1.3	56.2		0.0	18.8	29.3	27.8	0.1	0.7	0.9	0.4	—	—
	100.0	0.4	23.0	75.0	0.2	1.4		0.0	9.5	2.2	1.4	0.0	0.0	0.6	0.4	—	0.0
園 長 副 園 長 教 頭 主 幹 教 諭 指 導 教 諭 教 諭 助 教 諭 講 師 養 護 教 諭 養 護 助 教 諭 栄 養 教 諭	100.0	1.7	33.3	23.3	0.6	41.1		—	17.8	22.7	19.7	0.1	0.1	0.8	0.9	—	—
	100.0	1.2	29.1	51.3	2.0	16.5		—	12.6	9.1	7.4	—	0.0	0.8	0.5	—	—
	100.0	0.5	41.8	53.9	0.2	3.7		—	18.1	4.3	2.8	—	—	1.5	0.3	—	—
	100.0	1.5	18.7	79.4	0.1	0.4		—	9.8	1.3	0.7	—	0.1	0.9	0.7	—	—
	100.0	1.0	12.7	85.9	—	0.4		—	8.8	1.0	0.5	—	—	0.5	—	—	—
	100.0	0.3	21.0	78.2	0.1	0.4		—	8.9	1.4	1.0	0.0	0.1	0.6	0.3	—	0.0
	100.0	0.1	9.5	70.6	11.2	8.5		—	8.8	11.8	9.4	—	—	0.3	0.1	—	—
	100.0	0.3	12.5	84.0	0.8	2.4		—	11.9	3.2	2.5	—	—	0.6	0.3	—	0.1
	100.0	1.1	54.9	40.0	—	3.9		5.4	5.8	49.0	12.1	—	—	0.8	—	—	—
	100.0	—	9.1	63.6	9.1	18.2		9.1	—	—	—	—	9.1	—	—	—	—
	100.0	—	33.3	58.3	—	8.3		8.3	—	25.0	16.7	—	—	—	—	—	—
	100.0	0.6	21.6	75.4	0.5	1.9		—	17.9	1.8	1.0	—	—	0.9	2.0	—	—
	100.0	1.3	19.3	20.4	—	59.0		—	54.7	48.5	37.6	—	0.3	3.8	0.8	—	—
	100.0	0.8	41.3	57.0	0.1	0.8		0.0	25.0	3.6	2.0	—	0.1	1.7	1.1	—	—
	100.0	1.2	57.3	28.1	0.0	13.4		—	29.0	11.3	8.3	0.1	0.2	1.7	1.2	—	—
	100.0	0.9	28.5	67.1	0.6	2.8		—	16.2	2.4	1.9	—	0.2	1.2	0.7	—	—
	100.0	0.3	54.8	43.2	—	1.7		—	23.1	3.2	1.7	—	—	2.2	0.4	—	—
(別掲)代替教員	100.0	1.7	30.1	66.5	—	1.7		—	16.7	1.7	0.3	—	0.6	0.6	1.7	—	—
	100.0	—	18.4	81.6	—	—		—	12.2	6.1	4.1	—	—	—	—	—	—
	100.0	0.8	38.6	59.0	0.0	1.6		—	27.9	4.3	2.9	—	0.1	2.1	1.1	—	—
	100.0	—	19.4	75.4	3.2	1.9		—	21.4	3.5	1.9	—	—	0.6	—	—	—
	100.0	0.5	12.2	86.3	0.4	0.6		—	13.9	1.4	1.1	—	—	0.4	0.5	—	—
	100.0	—	52.4	45.6	—	2.1		2.5	5.5	54.1	10.5	—	—	—	—	—	—
	100.0	—	11.1	66.7	11.1	11.1		11.1	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	100.0	—	—	—	—	100.0		100.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	100.0	0.6	21.9	75.6	0.4	1.4		—	18.6	1.0	0.5	—	—	0.8	2.0	—	—
	100.0	1.1	13.3	28.1	1.5	56.0		0.0	13.0	26.3	26.3	0.1	0.7	0.4	0.3	—	—
	100.0	0.3	18.4	79.5	0.2	1.5		0.0	5.5	1.7	1.2	—	0.0	0.3	0.2	—	0.0
	100.0	1.9	22.6	21.1	0.8	53.6		—	12.7	27.8	24.8	0.1	0.0	0.4	0.7	—	—
	100.0	1.1	28.9	48.6	2.3	19.1		—	10.6	9.9	8.0	—	—	0.6	0.4	—	—
	100.0	0.3	27.7	66.1	0.3	5.5		—	10.6	4.9	3.6	—	—	0.3	0.2	—	—
	100.0	1.5	17.2	81.1	0.1	0.2		—	8.8	1.2	0.8	—	—	1.0	0.5	—	—
	100.0	1.0	12.2	86.3	—	0.4		—	8.4	0.7	0.3	—	—	0.6	—	—	—
園 長 副 園 長 教 頭 主 幹 教 諭 指 導 教 諭 教 諭 助 教 諭 講 師 養 護 教 諭 養 護 助 教 諭 栄 養 教 諭	100.0	0.2	17.4	82.1	0.1	0.2		—	5.0	0.7	0.6	—	0.1	0.3	0.2	—	0.0
	100.0	0.2	6.7	69.2	13.5	10.4		—	5.2	14.2	11.6	—	—	0.2	0.2	—	—
	100.0	—	12.9	80.0	1.6	5.5		—	8.7	6.2	4.9	—	—	0.8	—	—	0.3
	100.0	—	18.8	50.0	—	31.3		37.5	—	18.8	12.5	—	—	6.3	—	—	—
	100.0	—	—	50.0	—	50.0		—	—	—	—	—	50.0	—	—	—	—
	100.0	—	36.4	63.6	—	—		—	—	27.3	18.2	—	—	—	—	—	—
	100.0	—	13.3	80.0	1.3	5.3		—	5.3	4.0	2.7	—	—	—	—	—	—
	100.0	1.9	22.6	21.1	0.8	53.6		—	12.7	27.8	24.8	0.1	0.0	0.4	0.7	—	—
	100.0	1.1	28.9	48.6	2.3	19.1		—	10.6	9.9	8.0	—	—	0.6	0.4	—	—
	100.0	0.3	27.7	66.1	0.3	5.5		—	10.6	4.9	3.6	—	—	0.3	0.2	—	—
	100.0	1.5	17.2	81.1	0.1	0.2		—	8.8	1.2	0.8	—	—	1.0	0.5	—	—
	100.0	1.0	12.2	86.3	—	0.4		—	8.4	0.7	0.3	—	—	0.6	—	—	—
	100.0	0.2	17.4	82.1	0.1	0.2		—	5.0	0.7	0.6	—	0.1	0.3	0.2	—	0.0
	100.0	0.2	6.7	69.2	13.5	10.4		—	5.2	14.2	11.6	—	—	0.2	0.2	—	—
	100.0	—	12.9	80.0	1.6	5.5		—	8.7	6.2	4.9	—	—	0.8	—	—	0.3
	100.0	—	18.8	50.0	—	31.3		37.5	—	18.8	12.5	—	—	6.3	—	—	—
	100.0	—	—	50.0	—	50.0		—	—	—	—	—	50.0	—	—	—	—
	100.0	—	36.4	63.6	—	—		—	—	27.3	18.2	—	—	—	—	—	—
	100.0	—	13.3	80.0	1.3	5.3		—	5.3	4.0	2.7	—	—	—	—	—	—

(注) 1. 養護教諭、養護助教諭の場合は、当該学校の免許状の専修、1種、2種、臨時免許は、それぞれ養護教諭免許状専修、1種、2種、養護助教諭免許状を、栄養教諭の場合は、当該学校の免許状の専修、1種、2種免許は、栄養教諭免許状専修、1種、2種免許状をそれぞれ計上した。

8ページ下から 5行目	「平成22年度の学校教員統計調査でも71.8%が短期大学卒業生」の数値については、 上記表中普通免許2種の欄の数値である。
9ページ①の 3行目	現職幼稚園教員のうち一種免保持者は22.5%である 上記表中普通免許1種の欄の数値である。

85 離職の理由別 年齢区分別 離職教員数

(人)										
区 分	計	定 年 病 気 (勤奨を含む) の た め	の た め	うち精神疾患	死 亡	転 職 の た め	大 学 等 入 学 の た め	家 庭 の 事 情 の た め	職務上の問題 の た め	その他
計	11,401	741	545	230	44	2,210	64	3,732	177	3,888
国 立	18	2	—	—	—	5	—	2	—	9
公 立	1,451	546	74	38	7	202	4	368	13	237
私 立	9,932	193	471	192	37	2,003	60	3,362	164	3,642
男	509	70	34	10	23	130	6	46	19	181
女	10,892	671	511	220	21	2,080	58	3,686	158	3,707
25 歳 未 満	3,472	—	271	149	4	925	20	891	102	1,259
25歳以上30歳未満	4,152	1	121	47	2	747	32	1,613	40	1,596
30 " 35 "	1,229	—	35	7	1	185	8	562	6	432
35 " 40 "	485	—	27	12	1	101	2	189	7	158
40 " 45 "	267	1	13	4	—	56	2	100	6	89
45 " 50 "	254	—	17	4	3	72	—	78	4	80
50 " 55 "	328	35	18	3	3	65	—	118	6	83
55 " 60 "	430	157	19	4	4	37	—	144	4	65
60 " 65 "	559	464	10	—	8	14	—	17	—	46
65 歳 以 上	225	83	14	—	18	8	—	20	2	80
うち公立										
男	87	29	7	2	3	17	—	5	1	25
女	1,364	517	67	36	4	185	4	363	12	212
25 歳 未 満	90	—	13	12	—	25	—	19	3	30
25歳以上30歳未満	206	—	11	7	—	43	1	93	4	54
30 " 35 "	106	—	6	4	—	14	2	53	—	31
35 " 40 "	80	—	10	7	—	17	1	33	—	19
40 " 45 "	42	1	3	2	—	12	—	13	2	11
45 " 50 "	53	—	1	1	2	24	—	14	—	12
50 " 55 "	163	27	11	3	1	44	—	46	2	32
55 " 60 "	302	143	12	2	3	20	—	91	2	31
60 " 65 "	392	369	6	—	1	3	—	4	—	9
65 歳 以 上	17	6	1	—	—	—	—	2	—	8
うち私立										
男	420	41	27	8	20	112	6	41	18	155
女	9,512	152	444	184	17	1,891	54	3,321	146	3,487
25 歳 未 満	3,382	—	258	137	4	900	20	872	99	1,229
25歳以上30歳未満	3,942	1	110	40	2	702	31	1,520	36	1,540
30 " 35 "	1,123	—	29	3	1	171	6	509	6	401
35 " 40 "	400	—	17	5	1	83	1	154	7	137
40 " 45 "	224	—	10	2	—	44	2	87	4	77
45 " 50 "	199	—	16	3	1	48	—	64	4	66
50 " 55 "	163	8	7	—	2	20	—	72	4	50
55 " 60 "	126	13	7	2	1	16	—	53	2	34
60 " 65 "	165	94	4	—	7	11	—	13	—	36
65 歳 以 上	208	77	13	—	18	8	—	18	2	72

(注)「転職のため」とは、高等学校以下の学校の本務教員以外の職業に就いた者(大学・短大等の教員、教育委員会を含む官公庁への異動、民間企業への就職等)をいう。

9ページ
②の2行
目 「幼稚園教員全体の離職者に占める30歳未満の離職率が66%を超えており」の数値については、
上記表中の25歳未満及び25歳以上30歳未満の欄の計を足したを計で割った割合
(3,472+4,152)/11,401 = 66.8%

大阪成蹊大学
教育学部(設置準備中)

設置認可申請に伴う
調査報告書

【高校生向けアンケート調査(入口調査)】

平成 24 年 12 月 10 日

株式会社紀伊國屋書店

高校生向けアンケート調査(入口調査)

目 次

1. 調査概要
2. 集計結果
3. 分析と考察
4. (資料1)高校生向けアンケート調査協力校一覧
5. (資料2)高校生向け調査アンケート用紙

高校生を対象としたアンケート調査(入口調査)

1. 調査概要

◆調査の目的： 本調査は、平成 26 年 4 月設置に向けて認可申請準備中の大阪成蹊大学教育学部(仮称)の学生募集のニーズを、大学外の公正な第三者機関により、高校生へのアンケートを用いて、学生確保の見通しを計ることを目的とする。

◆調査期間： 平成 24 年 7 月 1 日～10 月 31 日

◆調査方法： 対象高等学校に、大阪成蹊大学教育学部（仮称）の客観的な説明が入ったアンケート用紙を送付し、各校の教職員の監督のもとで実施。返送されたアンケートは全てにナンバリングを行った上でデータ集計し、事後に検証可能な状態にして集計した。

◆調査対象： 平成 26 年 3 月に高等学校を卒業予定の者
(＝平成 24 年度に高校 2 年生課程に在籍している高校生)
※大学進学希望者は、設置を予定している平成 26 年度に大学に進学予定であるので

◆調査内容： すべて選択肢式の、9 問の質問。
※主な質問項目
『大阪成蹊大学教育学部（仮称）の印象および進学意欲について』
『回答者の進学先の希望分野について』
『回答者が進学に際し重視する点について』
『回答者の基本情報について』

◆有効回答件数： 51 高校 ／ 6,090 件

◆調査実施主体：株式会社紀伊國屋書店

◆調査対象校の選定と回収の経緯

本調査の実施主体である第三者機関としての株式会社紀伊國屋書店は、大阪市東淀川区に立地する大阪成蹊大学への通学の利便性を考慮した上で、近畿地区の二府三県（大阪府・京都府・兵庫県・奈良県・滋賀県）の100高校を選定し、アンケート調査への協力を依頼した。

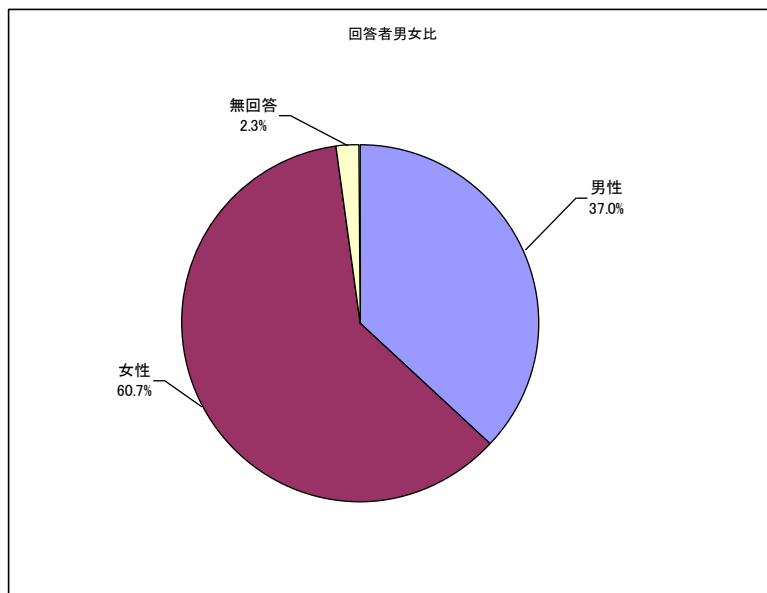
調査を依頼した高校100校の内訳は、大阪府72校、京都府13校、兵庫県9校、奈良県5校、滋賀県1校である。調査協力を依頼した100校のうち、51校（6,090名）より協力を得ることができ、アンケートを回収した。高校単位の回収率は51%である。各高校でのアンケートへの回答件数は、それぞれの高校により個別に状況が違うため、2年生の学年全クラスから、1クラスまでと幅があった。各高校の平均回収件数は、119名であった。

※調査に協力した個別の高校リストと回答者数については、（資料1）に記している。

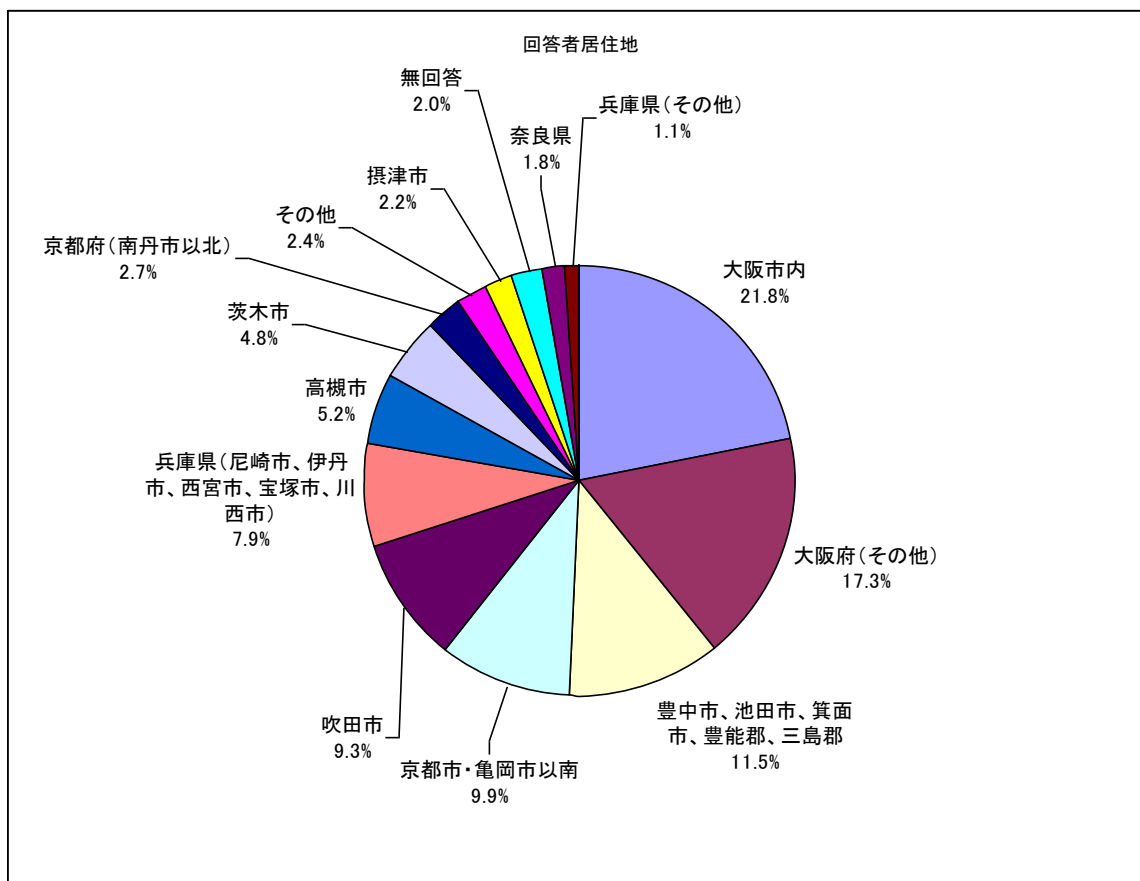
	依頼高校数	回収高校数	高校単位 回収率	回収件数	1校あたり 平均回収件数
大阪府	72	40	55.6%	4,866	122
京都府	13	7	53.8%	865	124
兵庫県	9	3	33.3%	286	95
奈良県	5	1	20.0%	73	73
滋賀県	1	0	0.0%	0	—
合計	100	51	51.0%	6,090	119

◆回答者基礎データ

- ・回答者（＝平成 24 年度の高校 2 年生）男女比



- ・回答者居住地（大阪成蹊大学教育学部(仮称)は大阪市東淀川区に設置予定である）



2. 集計結果（質問項目単純集計結果）

以下が、回収したアンケートの全ての単純集計結果である。

問1 大阪成蹊大学教育学部(仮称)についてどのように感じましたか。

		回答数	構成比
1	興味・関心をもった	636	10.4%
2	やや興味・関心をもった	1,324	21.7%
3	どちらとも言えない	2,061	33.8%
4	興味・関心はもてなかった	2,046	33.6%
	無回答	23	0.4%
	計	6,090	100.0%

問2 大阪成蹊大学教育学部(仮称)の情報を入手したいと思いますか。

		回答数	構成比
1	入手したい	421	6.9%
2	機会があれば入手したい	1,282	21.1%
3	どちらとも言えない	1,732	28.4%
4	必要ない	2,639	43.3%
	無回答	16	0.3%
	計	6,090	100.0%

問3 大阪成蹊大学教育学部(仮称)へ進学したいと思いますか。

		回答数	構成比
1	進学を希望する	171	2.81%
2	進学を検討したい	470	7.72%
3	どちらとも言えない	2,118	34.78%
4	進学を希望しない	3,309	54.33%
	無回答	22	0.36%
	計	6,090	100.00%

※以下の問4は、問3で、1もしくは2を選択した回答者にのみ回答を求めた。

問4 大阪成蹊大学教育学部(仮称)へ進学を希望される理由として、下記の中で最も適したものをお答えください。(あてはまるものすべてに○)

		回答数	構成比
1	小学校教員（一種）の免許が取得できる点	224	34.9%
2	幼稚園教員（一種）の免許が取得できる点	338	52.7%
3	保育士の資格が取得できる点	351	54.8%
4	複数の免許や資格が取得できる点	222	34.6%
5	教育という分野が学べる点	157	24.5%
6	教育・保育現場との連携が充実している点	151	23.6%
7	大阪成蹊短期大学の過去の就職実績から、良好な就職が期待できる点	82	12.8%
8	大阪成蹊大学マネジメント学部、芸術学部、びわこ成蹊スポーツ大学など多様な他学部と交流できる点	52	8.1%
9	大阪成蹊大学に良好な印象がある点	62	9.7%
10	通学が便利である点	92	14.4%
11	その他	10	1.6%
	無回答	18	2.8%
	計	641	100.0%

※問4は複数回答が可能である。

問5 進学として興味のある分野をお答えください。
(あてはまるものすべてに○)

		回答数	構成比
1	小学校教員	390	6.4%
2	幼稚園教員	813	13.3%
3	保育士	992	16.3%
4	中学校・高校教員	560	9.2%
5	文学系	598	9.8%
6	法学系	208	3.4%
7	社会学系	362	5.9%
8	経済学系	525	8.6%
9	理学系	365	6.0%
10	工学系	320	5.3%
11	農学系	171	2.8%
12	外国語学・国際関係学系	662	10.9%
13	医学・歯学・薬学系	336	5.5%
14	看護学・保健学系	566	9.3%
15	生活科学系	279	4.6%
16	芸術学系	749	12.3%
17	体育学系	489	8.0%
18	その他	1,418	23.3%
	無回答	317	5.2%
	回答者数	6,090	100.0%

※問5は複数回答が可能である。

問6-A あなたは、進学先を選択する際に、どのようなことを重視しますか。

《A群・1番目》

		回答数	構成比
1	めざす資格や免許が取得できる	2,387	39.2%
2	学びたい分野の学部・学科がある	1,616	26.5%
3	専門分野について深く学べる	497	8.2%
4	自分の興味にあわせて幅広く学べる	749	12.3%
5	教授陣が充実している	38	0.6%
6	国際性が身につく・留学関係	135	2.2%
7	課外活動が充実している	46	0.8%
8	実習・実験が充実している	80	1.3%
9	産業界と連携したカリキュラムがある	30	0.5%
10	あてはまるものがない	243	4.0%
	無回答	269	4.4%
	計	6,090	100.0%

問6-A あなたは、進学先を選択する際に、どのようなことを重視しますか。

《A群・2番目》

		回答数	構成比
1	めざす資格や免許が取得できる	855	14.0%
2	学びたい分野の学部・学科がある	1,422	23.3%
3	専門分野について深く学べる	678	11.1%
4	自分の興味にあわせて幅広く学べる	1,285	21.1%
5	教授陣が充実している	99	1.6%
6	国際性が身につく・留学関係	221	3.6%
7	課外活動が充実している	152	2.5%
8	実習・実験が充実している	566	9.3%
9	産業界と連携したカリキュラムがある	66	1.1%
10	あてはまるものがない	291	4.8%
	無回答	455	7.5%
	計	6,090	100.0%

※問6のA群、B群の設問は全て単一回答である。

問6-B あなたは、進学先を選択する際に、どのようなことを重視しますか。
《B群:1番目》

		回答数	構成比
1	キャンパスがきれい	903	14.8%
2	交通の便がよい	816	13.4%
3	校風がよい	479	7.9%
4	在校生の雰囲気が自分に合っている	452	7.4%
5	知名度が高い	272	4.5%
6	自分の学力に合っている	755	12.4%
7	就職支援が充実している	819	13.4%
8	一部上場企業への就職者が多い	79	1.3%
9	公務員試験等への合格者が多い	225	3.7%
10	奨学金制度が充実している	156	2.6%
11	学費が安い	544	8.9%
12	あてはまるものがない	272	4.5%
	無回答	318	5.2%
	計	6,090	100.0%

問6-B あなたは、進学先を選択する際に、どのようなことを重視しますか。
《B群:2番目》

		回答数	構成比
1	キャンパスがきれい	564	9.3%
2	交通の便がよい	1,153	18.9%
3	校風がよい	493	8.1%
4	在校生の雰囲気が自分に合っている	537	8.8%
5	知名度が高い	236	3.9%
6	自分の学力に合っている	710	11.7%
7	就職支援が充実している	474	7.8%
8	一部上場企業への就職者が多い	143	2.3%
9	公務員試験等への合格者が多い	142	2.3%
10	奨学金制度が充実している	269	4.4%
11	学費が安い	592	9.7%
12	あてはまるものがない	273	4.5%
	無回答	504	8.3%
	計	6,090	100.0%

※問6のA群、B群の設問は全て単一回答である。

問7 あなたの性別を教えてください。

		回答数	構成比
1	男性	2, 251	37. 0%
2	女性	3, 699	60. 7%
	無回答	140	2. 3%
	計	6, 090	100. 0%

問8 あなたの居住地を教えてください。

		回答数	構成比
1	大阪市内	1, 328	21. 8%
2	吹田市	565	9. 3%
3	摂津市	135	2. 2%
4	茨木市	293	4. 8%
5	高槻市	318	5. 2%
6	豊中市、池田市、箕面市、豊能郡、三島郡	703	11. 5%
7	大阪府（その他）	1, 055	17. 3%
8	兵庫県（尼崎市、伊丹市、西宮市、宝塚市、川西市）	483	7. 9%
9	兵庫県（その他）	64	1. 1%
10	京都市・亀岡市以南	605	9. 9%
11	京都府（南丹市以北）	163	2. 7%
12	奈良県	110	1. 8%
13	その他	145	2. 4%
	無回答	123	2. 0%
	計	6, 090	100. 0%

**問9 高校卒業後の希望進路について教えてください。
（あてはまるものすべてに○）**

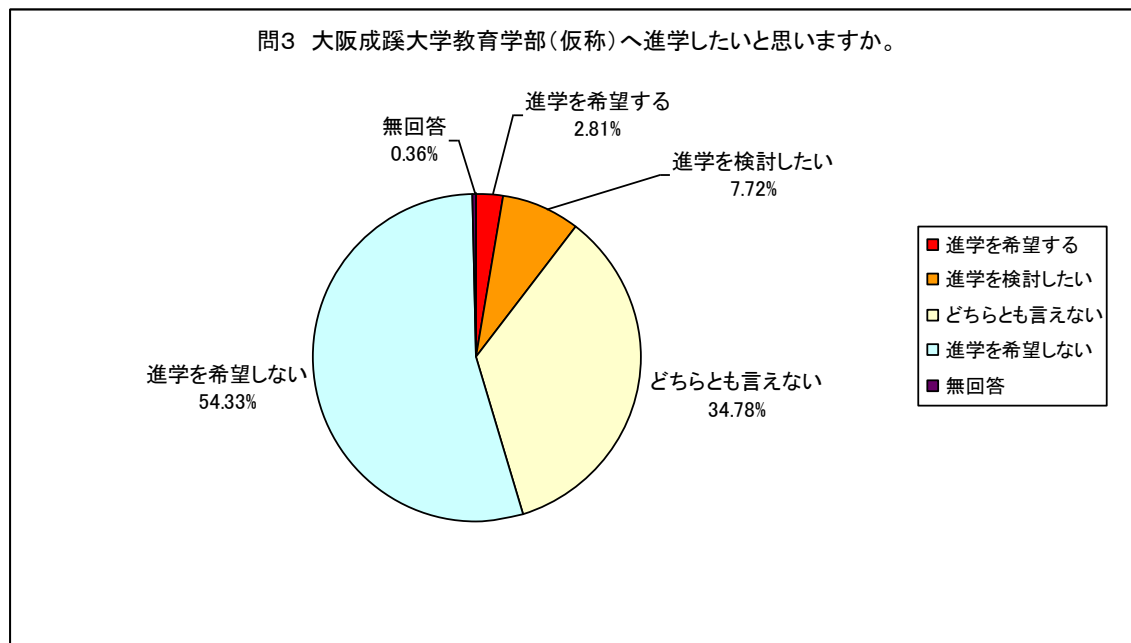
		回答数	構成比
1	四年制大学	3, 532	58. 0%
2	短期大学	1, 190	19. 5%
3	専門学校	1, 793	29. 4%
4	就職	815	13. 4%
5	その他	226	3. 7%
	無回答	152	2. 5%
	回答者数	6, 090	100. 0%

※問9は複数回答が可能である。

3. 分析と考察

■分析(1) 大阪成蹊大学教育学部(仮称)への進学意欲度

グラフ1:大阪成蹊大学教育学部(仮称)への進学の意欲についての質問(問3)への回答内訳



大阪、京都、兵庫、奈良の二府二県の高등학교に通う高校2年生(平成26年3月に卒業予定の者)

6,090人に、大阪成蹊大学教育学部(仮称)の概要を見せた上で、進学意欲について質問したところ、「進学を希望する」に171人(=2.81%)、「進学を検討したい」に470人(=7.7%)が回答し、合わせて641人(=10.51%)が進学に意欲を示しているという結果となった。

「進学を希望する」にマークをした171人は、既に定員の100名を超えており、当学部への期待の強さがうかがえる。

「進学を希望する」にマークをした高校2年生の割合である2.81%は、大学進学を希望しない高校生までも含めた全調査対象の高校2年生の中での数値であり、この割合は決して低くない数値と言え、ここからは以下の推論が導き出せる。

・平成24年度 大阪府の全日制高校に在籍する高校2年生の総数 : 72,839名(学校基本調査)

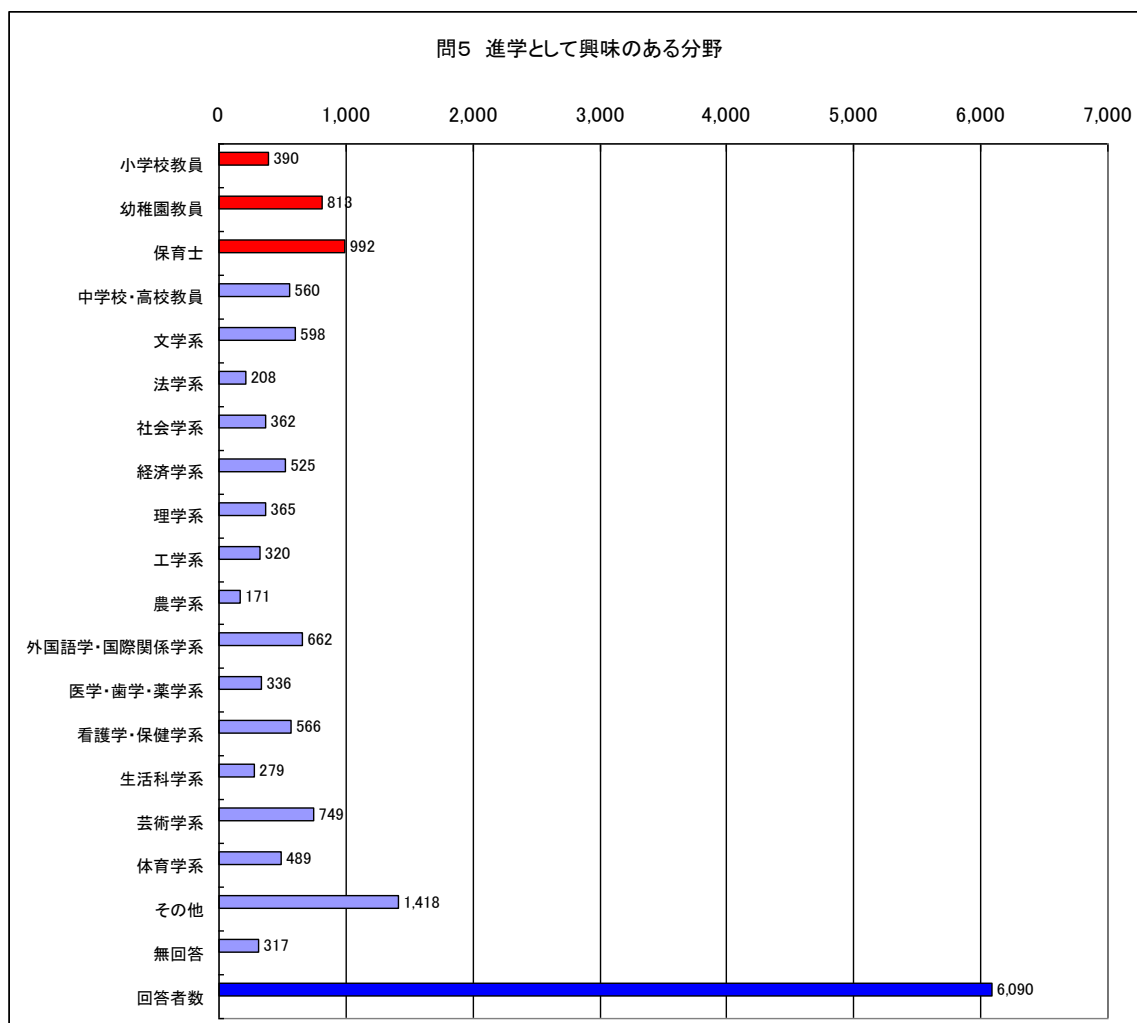
・今回のアンケート調査における大阪府の高校での回収件数 : 4,866件

・大阪府の全高校2年生における回収率 : 6.6%

上記の調査を大阪府の全高校2年生に行ったと仮定すると、 $72,839 \text{ 名} \times 2.81\% = 2,046 \text{ 名}$ が大阪成蹊大学教育学部(仮称)に対し、「進学を希望する」と考える計算となる。地理的な問題等があり、その理論値がそのまま使用できるわけではないが、全体の母集団に対し、一定の割合での進学希望者が存在することは間違いないと言える。

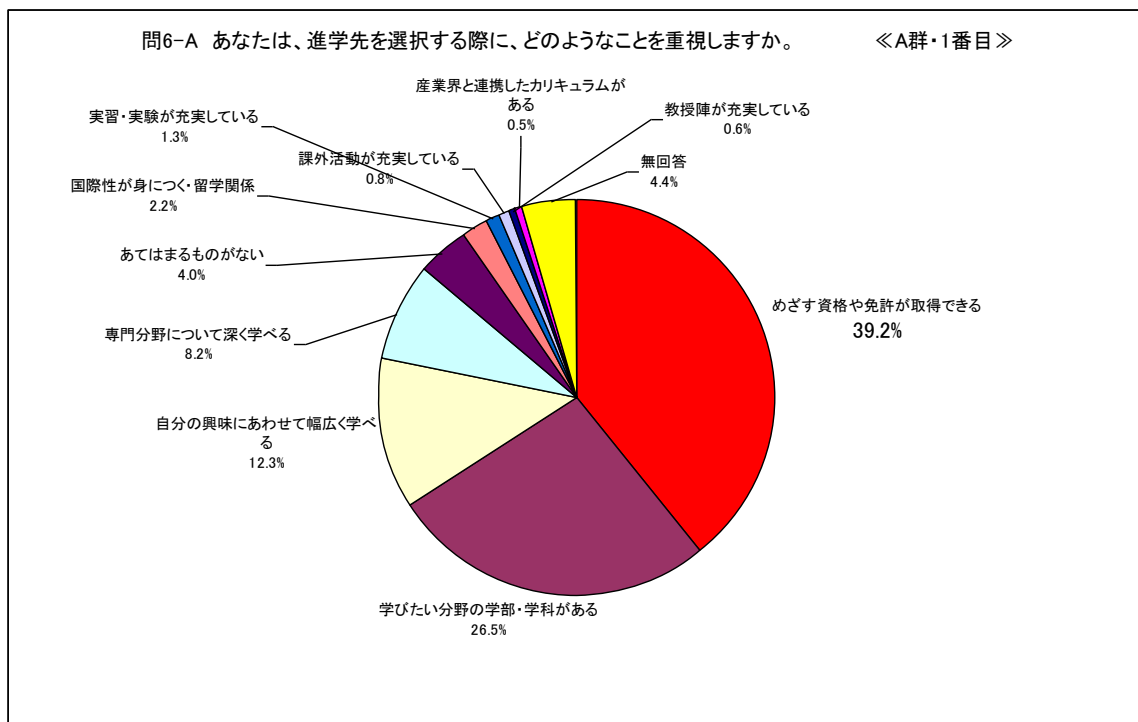
■分析(2) 小学校教員、幼稚園教員、保育士への高校生の志望の強さと資格志向

グラフ2:進学先として興味のある分野(問5)の内訳



問5にて、進学先として興味のある学問分野を質問したところ(いくつでも複数回答が可能)、回答者 6,090 名のうち、390 名(=6.4%)が小学校教員の課程を、813 名(=13.3%)が幼稚園教員の課程を、992 名(=16.3%)が保育士の課程に対し進学先としての興味を示した。この数値は他の進学先学問領域と比較しても高いものであり、児童教育及び幼児教育が、高校生の中で非常に有望な進路として受け止められていることを示している。小学校教諭、幼稚園教諭、保育士の3つの免許と資格の取得カリキュラムを提供する当学部は、学生募集においては他の平均的な学問領域の学部以上の強さを発揮することが予測される。

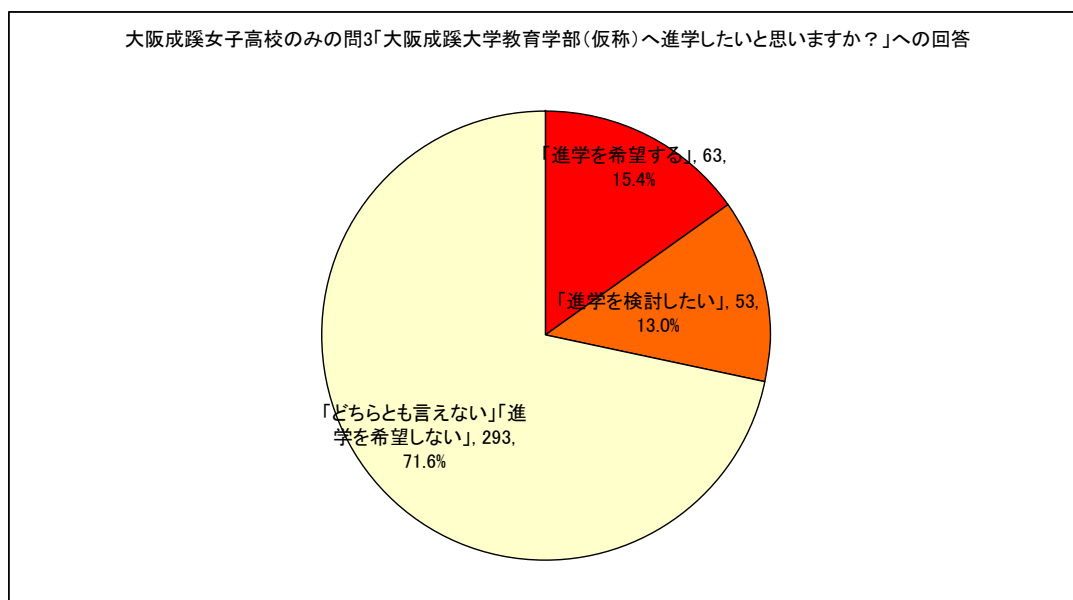
グラフ3:進学先を選択する際の重視ポイント(問6ーA)の内訳



また、上記のグラフ3で示されている問6の結果によると、進学先を決定する際に重視する点として、高校2年生の39.2%が、「目指す資格や免許の取得」を第一の点として挙げている。この点は、第一種小学校教諭免許、第一種幼稚園教諭免許、保育士資格が取得可能である当学部において、学生募集においてプラス要因になると予測される。

■分析(3) 付属高校からの強い進学意欲度

グラフ4: 付属校である大阪成蹊女子高校からの、大阪成蹊大学教育学部(仮称)への進学の意欲(問3)の内訳



上記のグラフ4で示されているのは、付属校である大阪成蹊女子高校の生徒による、アンケートの問3「大阪成蹊大学教育学部(仮称)へ進学したいと思いますか。」に対する回答の分析である。

「進学を希望する」が当高校の全回答者409名中において63名(=15.4%)、「進学を検討したい」が53名(=13.0%)の回答となっている。この高い数値は、付属校ということで当大学について知識があることや、幼児教育コースが当高校内に設置されていることがその理由だと思われるが、その2点ともに当大学への堅実な信頼感を前提とした高校生の判断によるものであり、付属高校からの大阪成蹊大学教育学部(仮称)への進学者は、一定数が見込めると予測できる。

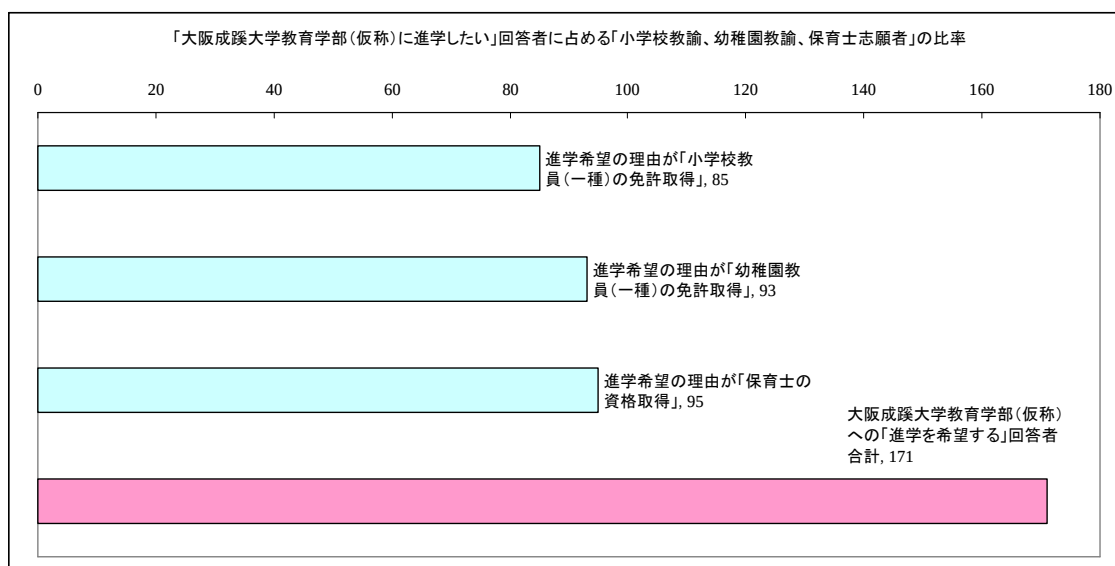
■分析(4) 進学希望者の中での、小学校教諭、幼稚園教諭、保育士志望者の割合

集計5及びグラフ5:大阪成蹊大学教育学部(仮称)への進学希望者のうち、進学希望の理由として、小学校教諭免許(一種)の取得、幼稚園教諭免許(一種)の取得、保育士資格の取得を選んだ回答者の割合

集計 5

選択項目 (複数回答)	進学希望の理由について	
	回答者数	回答者合計に占める割合
進学希望の理由が「小学校教員 (一種) の免許取得」	85	49.7%
進学希望の理由が「幼稚園教員 (一種) の免許取得」	93	54.4%
進学希望の理由が「保育士の資格取得」	95	55.6%
大阪成蹊大学教育学部 (仮称) への「進学を希望する」回答者合計	171	100.0%

グラフ 5



上記の集計5及びグラフ5で示されているのは、「大阪成蹊大学教育学部(仮称)へ進学を希望する」と回答した者171名の中での「進学を希望する理由」(複数回答可)のクロス集計データである。進学希望者のうち49.7%にあたる85名が小学校教員の免許取得を、54.4%にあたる93名が幼稚園教員の免許取得を、55.6%にあたる95名が保育士資格の取得を、進学を希望する理由として回答している。

以上の（１）から（４）までの分析により、平成 26 年 4 月に設置を予定する大阪成蹊大学教育学部（仮称）における、定員 100 名の学生募集と確保の見通しに関しては、十分な志願者を集め、適切な選抜を受けた入学者をもって定員を充足できると判断できる。

4. 資料1 高校生向けアンケート調査協力校一覧(51校 6,090件)

番号	高校名	所在地	有効回収数
1	阿武野高校	大阪府	125
2	池田高校	大阪府	80
3	茨木西高校	大阪府	263
4	上宮高校	大阪府	110
5	英真学園高校	大阪府	218
6	大冠高校	大阪府	36
7	大阪高校	大阪府	142
8	大阪成蹊女子高校	大阪府	409
9	門真西高校	大阪府	24
10	北かわち韋が丘高校	大阪府	31
11	北淀高校	大阪府	182
12	交野高校	大阪府	73
13	此花学院高校	大阪府	110
14	四條畷学園高校	大阪府	83
15	柴島高校	大阪府	36
16	渋谷高校	大阪府	24
17	島本高校	大阪府	134
18	好文学園女子高校	大阪府	349
19	住吉高校	大阪府	30
20	宣真高校	大阪府	53
21	千里青雲高校	大阪府	255
22	高槻北高校	大阪府	73
23	常翔学園高校	大阪府	41
24	豊島高校	大阪府	38
25	西寝屋川高校	大阪府	159
26	東淀川高校	大阪府	49
27	枚方津田高校	大阪府	284
28	吹田東高校	大阪府	76
29	藤井寺高校	大阪府	72
30	星翔高校	大阪府	48
31	港高校	大阪府	254
32	箕面自由学園高校	大阪府	62
33	山田高校	大阪府	78
34	淀商業高校	大阪府	63
35	羽衣学園高校	大阪府	154
36	高石高校	大阪府	113
37	信太高校	大阪府	35
38	吹田高校	大阪府	238
39	刀根山高校	大阪府	147
40	箕面東高校	大阪府	115
41	大谷高校	京都府	163
42	乙訓高校	京都府	206
43	桂高校	京都府	80
44	京都西山高校	京都府	90
45	塔南高校	京都府	34
46	鳥羽高校	京都府	188
47	東宇治高校	京都府	104
48	西の京高校	奈良県	73
49	伊丹北高校	兵庫県	72
50	夙川学院高校	兵庫県	34
51	尼崎双星高校	兵庫県	180
合計			6,090

大阪成蹊大学 教育学部（仮称） 新設構想についてのアンケート調査

2014年（平成26年）4月、大阪成蹊大学が相川キャンパス（大阪市東淀川区）に「教育学部」（仮称）の新設を計画中です。

このアンケート調査の中で、皆さんの進路についての率直な考えをお聞きすることにより、計画中の教育学部の内容に反映したいと考えています。

皆さんより得られた情報は大阪成蹊大学教育学部（仮称）の新設構想に係る統計資料としてのみ活用するものであり、個人の情報として扱うことは一切ございません。

ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

このアンケートは2012年（平成24年）4月現在、
高校2年生の皆さん
が対象となります。

アンケートは次のページからとなります。
（全部で9つの質問項目があります）

大阪成蹊大学 教育学部(仮称)の概要

(設置認可申請準備中)

2014年(平成26年)4月 開学予定!

小学校、幼稚園、保育園の 先生になりたい夢を実現!

特 色

■ 初等教育コース(小学校、幼稚園教員コース)

- ◇ 小学校教諭一種免許状、幼稚園教諭一種免許状が取得できる
- ◇ 基本教科(国語、算数、社会、理科、小学校英語)の指導力、実践力の育成
あわせて、社会人基礎力、就業力を重点的に養成
- ◇ 教員採用試験に強い学生を育成
- ◇ インターンシップおよび教育実習の充実

■ 幼児教育コース(幼稚園教員、保育士コース)

- ◇ 音楽・美術・体育に強い特色のある、実践力のある教員を育成
 - ① 大阪成蹊大学マネジメント学部、芸術学部、びわこ成蹊スポーツ大学との教育連携
 - ② 充実した音楽教育設備、指導経験豊富な先生の細やかな指導
(ピアノ:110台、個人レッスン室:99室、講師・TA(ティーチングアシスタント):36名)
- ◇ 幼稚園、保育園での実習の充実

取得可能免許・資格

複数免許・
資格取得可能

- ◇ 小学校教諭一種免許状
- ◇ 幼稚園教諭一種免許状

- ◇ 保育士資格
- ◇ 学校図書館司書教諭

※この内容は計画であり変更することがあります。

教育の成蹊

～ 教育・保育現場との太いつながり ～

■ 大阪市の小学校教員採用試験合格者数(大阪成蹊短期大学実績)

平成20～24年度 5年間 **74名** (既卒者を含む、平成24年5月1日現在)

■ 大阪市の講師採用者数 **99名**(大阪成蹊学園全体、平成24年5月1日現在)

■ 抜群の就職率! (大阪成蹊短期大学幼児教育学専攻 **100%**就職)

平成24年3月卒業生実績 保育園、幼稚園への就職希望者対比

■ 多くの卒業生が、近畿地区の保育園、幼稚園の現場で、 指導者、先生として活躍!

- ★ 北摂地区の主な幼稚園の73%で大阪成蹊短期大学卒業生が活躍
- ★ 教育界からは、「大阪成蹊出身の保育士・幼稚園教員を」との声が多く、
2011年度の求人数は700件以上

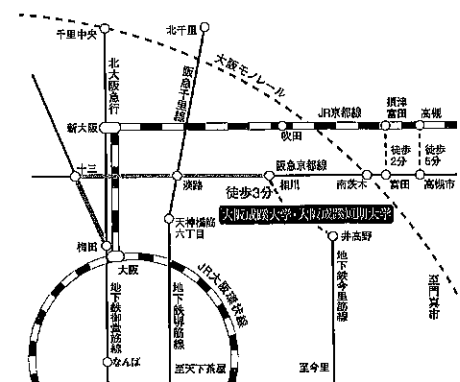
[アクセス]

○ 通学が便利!

阪急相川駅徒歩3分
梅田から14分
河原町から39分

○ JR吹田駅、地下鉄井高野駅から

無料通学バス運行
(地下鉄井高野駅～学園)5分
(JR吹田駅～阪急相川駅～徒歩)10分



以下の問1～4は左の「大阪成蹊大学教育学部（仮称）の概要」
を読んでからご回答ください。

問1 大阪成蹊大学教育学部（仮称）についてどのように感じましたか。
（あてはまるものに○）

1. 興味・関心をもった
2. やや興味・関心をもった
3. どちらとも言えない
4. 興味・関心はもてなかった

問2 大阪成蹊大学教育学部（仮称）の情報を入手したいと思いますか。
（あてはまるものに○）

1. 入手したい 2. 機会があれば入手したい
3. どちらとも言えない 4. 必要ない

問3 大阪成蹊大学教育学部（仮称）へ進学したいと思いますか。
（あてはまるものに○）

1. 進学を希望する 2. 進学を検討したい
3. どちらとも言えない 4. 進学を希望しない

問4は、問3で〔1・2〕を選択した方のみお答えください

問4 大阪成蹊大学教育学部（仮称）へ進学を希望される理由として、
下記の中で最も適したものをお答えください（あてはまるものすべてに○）

1. 小学校教員(一種)の免許が取得できる点
2. 幼稚園教員(一種)の免許が取得できる点
3. 保育士の資格が取得できる点
4. 複数の免許や資格が取得できる点
5. 教育という分野が学べる点
6. 教育・保育現場との連携が充実している点
7. 大阪成蹊短期大学の過去の就職実績から、良好な就職が期待できる点
8. 大阪成蹊大学マネジメント学部、芸術学部、びわこ成蹊スポーツ大学など多様な他学部と交流できる点
9. 大阪成蹊大学に良好な印象がある点
10. 通学が便利である点
11. その他 ()

次のページの間5～9は進路に関する質問です。皆さんお答えください。

問5 進学として興味のある分野をお答えください。(あてはまるものすべてに○)

1. 小学校教員 2. 幼稚園教員 3. 保育士 4. 中学校・高校教員 5. 文学系
6. 法学系 7. 社会学系 8. 経済学系 9. 理学系 10. 工学系 11. 農学系
12. 外国語学・国際関係学系 13. 医学・歯学・薬学系 14. 看護学・保健学系
15. 生活科学系 16. 芸術学系 17. 体育学系 18. その他

問6 あなたは、進学先を選択する際に、どのようなことを重視しますか。

A群・B群それぞれについて、1番目、2番目に重視するポイントをお答えください。

《A群：1番目() 2番目() ←番号を記入》

1. めざす資格や免許が取得できる 2. 学びたい分野の学部・学科がある
3. 専門分野について深く学べる 4. 自分の興味にあわせて幅広く学べる
5. 教授陣が充実している 6. 国際性が身につく・留学関係
7. 課外活動が充実している 8. 実習・実験が充実している
9. 産業界と連携したカリキュラムがある
10. あてはまるものがない

《B群：1番目() 2番目() ←番号を記入》

1. キャンパスがきれい 2. 交通の便がよい
3. 校風がよい 4. 在校生の雰囲気自分に合っている
5. 知名度が高い 6. 自分の学力に合っている
7. 就職支援が充実している 8. 一部上場企業への就職者が多い
9. 公務員試験等の合格者が多い 10. 奨学金制度が充実している
11. 学費が安い 12. あてはまるものがない

問7 あなたの性別を教えてください。(あてはまるものに○)

1. 男性 2. 女性

問8 あなたの居住地を教えてください。(あてはまるものに○)

1. 大阪市内 2. 吹田市 3. 摂津市 4. 茨木市 5. 高槻市 6. 豊中市、池田市、箕面市、豊能郡、三島郡
7. 大阪府(その他) 8. 兵庫県(尼崎市、伊丹市、西宮市、宝塚市、川西市)
9. 兵庫県(その他) 10. 京都市・亀岡市以南 11. 京都府(南丹市以北)
12. 奈良県 13. その他()

問9 高校卒業後の希望進路について教えてください。(あてはまるものすべてに○)

1. 四年制大学 2. 短期大学 3. 専門学校
4. 就職 5. その他()

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

大阪成蹊大学教育学部(仮称)
編入学に関するアンケート調査

対象者：大阪成蹊短期大学児童教育学科1回生257名
(初等教育学専攻：64名、幼児教育学専攻：193名)

問1 大阪成蹊大学教育学部(仮称)の新設について

	初等教育		幼児教育		合計	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
1 興味・関心をもった	24	37.5%	22	11.4%	46	17.9%
2 やや興味・関心をもった	21	32.8%	83	43.0%	104	40.5%
3 どちらとも言えない	6	9.4%	50	25.9%	56	21.8%
4 興味・関心はない	13	20.3%	38	19.7%	51	19.8%
無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
計	64	100.0%	193	100.0%	257	100.0%

問2 大阪成蹊大学教育学部(仮称)の編入学(3年次)について

	初等教育		幼児教育		合計	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
1 進学したい	18	28.1%	3	1.6%	21	8.2%
2 進学を検討したい	12	18.8%	26	13.5%	38	14.8%
3 どちらとも言えない	15	23.4%	61	31.6%	76	29.6%
4 進学を希望しない	19	29.7%	103	52.8%	122	47.5%
無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
計	64	100.0%	193	99.5%	257	100.0%

問3 あなたの性別を教えてください。

	初等教育		幼児教育		合計	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
1 男	26	40.6%	15	7.8%	41	16.0%
2 女	38	59.4%	178	92.2%	216	84.0%
無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
計	64	100.0%	193	100.0%	257	100.0%

問5 あなたの卒業後の希望進路について

	初等教育		幼児教育		合計	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
1 幼稚園	24	37.5%	102	52.8%	126	49.0%
2 小学校	40	62.5%	3	1.6%	43	17.5%
3 保育所	6	9.4%	140	72.5%	146	59.3%
4 企業	3	4.7%	11	5.7%	14	5.7%
5 進学(4年制大学へ編入)	8	12.5%	5	2.6%	13	5.3%
6 その他	6	9.4%	13	6.7%	19	7.7%

大阪成蹊大学教育学部(仮称)

編入学に関するアンケート調査

大阪成蹊大学では、2014年(平成26年)4月に教育学部(仮称)の新設を計画中です。
このアンケートは、教育学部の3年次編入学定員10名を申請するための参考資料とさせていただきます。

平成28年度以降は、大阪成蹊短期大学の卒業生もいったん社会人になられた後に、再教育の場として3年生に編入学できます。

教育学部の新設にあたって、皆さんの率直なお考えをお聞かせください。

◎【取得できる資格：小学校教諭一種免許状、幼稚園教諭一種免許状、保育士資格】

以下の問1～問5の質問で、あてはまるもの、いずれかに○を付けてください。

問1 大阪成蹊大学教育学部(仮称)の新設について

1 興味・関心をもった	2 やや興味・関心をもった
3 どちらとも言えない	4 興味・関心はない

問2 大阪成蹊大学教育学部(仮称)の編入学(3年次)について

※来年又は再来年に編入学できると仮定してご回答ください。

1 進学したい	2 進学を検討したい
3 どちらとも言えない	4 進学を希望しない

問3 あなたの性別を教えてください。

1 男	2 女

問4 あなたの専攻について教えてください。

1 初等教育学専攻	2 幼児教育学専攻

問5 あなたの卒業後の希望進路について

1 幼稚園の教員	
2 小学校の教員	
3 保育園の教員	
4 企業就職	
5 進学(4年制大学へ編入)	
6 その他(具体的に記入)	)

ご協力ありがとうございました。

大阪成蹊大学

大阪成蹊大学
教育学部(設置準備中)

設置認可申請に伴う
調査報告書Ⅱ

【幼稚園・保育所等向けアンケート調査(出口調査)】

平成 24 年 12 月 11 日

(平成 25 年 8 月 7 日修正版)

株式会社紀伊國屋書店

幼稚園・保育所等を対象としたアンケート調査(出口調査)

目 次

1. 調査概要
2. 集計結果
3. 分析と考察
4. (資料1) 出口調査アンケート協力先事業所一覧
5. (資料2) 出口調査アンケート用紙

1. 調査概要

◆調査の目的： 本調査は、平成 26 年 4 月設置に向けて認可申請準備中の大阪成蹊大学教育学部(仮称)の卒業生の社会的ニーズを、大学外の公正な第三者機関により、事業所へのアンケートを用いて測ることを目的とする。

◆調査期間： 平成 24 年 9 月 1 日～10 月 31 日

◆調査方法： 対象幼稚園・保育所等に、大阪成蹊大学教育学部（仮称）の客観的な説明が入ったアンケート用紙を、対象地域の幼稚園及び保育所に送付し実施した。返送されたアンケートは全て、事後に検証可能な状態にして集計した。

◆調査対象： 大阪府下および一部は近畿地方の他府県の幼稚園・保育所等

◆調査内容： すべて選択肢式の、10 問の質問。

※主な質問項目

『大阪成蹊大学教育学部（仮称）の卒業予定者の採用の意向について』

『事業者の基本情報、事業規模について』

『事業者が採用に際し重視する点について』

◆調査対象事業所と地域

① 幼稚園

大阪市内全区、大阪府下北摂 7 市（茨木市／高槻市／吹田市／摂津市／池田市／豊中市／箕面市）の全ての私立幼稚園（一部公立を含む）
及び一部は大阪府下別地域もしくは他府県に立地する幼稚園

② 保育園・保育所

大阪市内の北部 12 区（西淀川区／淀川区／東淀川区／此花区／福島区／北区／都島区／旭区／西区／中央区／城東区／鶴見区）の全ての私立保育所（一部公立を含む）

大阪府下北摂 7 市（茨木市／高槻市／吹田市／摂津市／池田市／豊中市／箕面市）の全ての保育所（一部公立含む）

及び一部は大阪府下別地域もしくは他府県に立地する保育園・保育所

※上記幼稚園、保育所には、こども園も含まれる。

- ◆調査依頼件数 ① 幼稚園： 225 事業所
② 保育所： 320 事業所
合計： 545 事業所

上記の依頼対象とした 225 の幼稚園と 320 の保育所は、大阪市等自治体及び社団法人大阪私立幼稚園連合会の発表している幼稚園と保育所の一覧を使用した。幼稚園、保育所ともに、こども園の機能を持つ事業所が一部含まれるが、公表されている名称からはこども園かどうかは明確に判断できないため、調査開始時点ではこども園を調査対象の事業所の種類としては記述しなかった。

アンケートの設問において「幼稚園」、「保育園・保育所」、「こども園」、「その他」を回答選択肢として、事業所の概要の種別を質問することとした。その設問への事業所からの回答により、本報告書においては、「幼稚園」、「保育園・保育所」、「こども園」の事業所種別にて集計を行った。なお、事業所の概要の回答選択肢「その他」への回答は 0 件であった。

◆有効回収件数： 245 件 （回収率：45.0%）

◆調査実施主体：株式会社紀伊國屋書店

2. 出口調査集計結果

Q1 貴園・貴所の概要について教えてください。

		回答数	構成比
(1)	幼稚園	97	39.6%
(2)	保育園・保育所	138	56.3%
(3)	こども園	10	4.1%
	計	245	100.0%

Q2以降は、Q1での回答に応じて、幼稚園、保育所・保育園、こども園の事業者別にも集計した。

Q2) 園児、幼児の在籍総数を教えてください。

選択項目	総計		幼稚園		保育園・保育所		こども園	
	事業所数	構成比	事業所数	構成比	事業所数	構成比	事業所数	構成比
1～30名	8	3.3%	1	1.0%	6	4.3%	1	10.0%
31～60名	18	7.3%	8	8.2%	10	7.2%	0	0.0%
61～90名	40	16.3%	14	14.4%	26	18.8%	0	0.0%
91～120名	38	15.5%	6	6.2%	30	21.7%	2	20.0%
121～150名	40	16.3%	8	8.2%	32	23.2%	0	0.0%
151～180名	26	10.6%	10	10.3%	15	10.9%	1	10.0%
181名以上	75	30.6%	50	51.5%	19	13.8%	6	60.0%
無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
合計	245	100.0%	97	100.0%	138	100.0%	10	100.0%

Q3) 幼稚園教諭もしくは保育士の人数(常勤)を教えてください。

選択項目	総計		幼稚園		保育園・保育所		こども園	
	事業所数	構成比	事業所数	構成比	事業所数	構成比	事業所数	構成比
5名以下	10	4.1%	8	8.2%	2	1.4%	0	0.0%
6～10名	42	17.1%	27	27.8%	14	10.1%	1	10.0%
11～15名	55	22.4%	25	25.8%	29	21.0%	1	10.0%
16～20名	60	24.5%	15	15.5%	44	31.9%	1	10.0%
21～25名	31	12.7%	11	11.3%	18	13.0%	2	20.0%
26名以上	47	19.2%	11	11.3%	31	22.5%	5	50.0%
無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
合計	245	100.0%	97	100.0%	138	100.0%	10	100.0%

Q4) 【採用者合計】2012年4月の新卒の幼稚園教諭、保育士の採用結果を教えてください。

選択項目	総計		幼稚園		保育園・保育所		こども園	
	事業所数	構成比	事業所数	構成比	事業所数	構成比	事業所数	構成比
0名	48	19.6%	22	22.7%	26	18.8%	0	0.0%
1名	52	21.2%	26	26.8%	25	18.1%	1	10.0%
2名	65	26.5%	22	22.7%	40	29.0%	3	30.0%
3名	27	11.0%	9	9.3%	15	10.9%	3	30.0%
4名	20	8.2%	9	9.3%	10	7.2%	1	10.0%
5名以上	26	10.6%	9	9.3%	16	11.6%	1	10.0%
無回答	7	2.9%	0	0.0%	6	4.3%	1	10.0%
合計	245	100.0%	97	100.0%	138	100.0%	10	100.0%

Q4-2) 2012年採用者の内訳

選択項目	総計		幼稚園		保育園・保育所		こども園	
	事業所数	構成比	事業所数	構成比	事業所数	構成比	事業所数	構成比
幼稚園一種（4年制大学）	42	17.1%	31	32.0%	8	5.8%	3	30.0%
幼稚園二種（短期大学）	76	31.0%	63	64.9%	8	5.8%	5	50.0%
保育士（4年制大学）	37	15.1%	0	0.0%	35	25.4%	2	20.0%
保育士（短期大学）	91	37.1%	0	0.0%	86	62.3%	5	50.0%
保育士（専門学校）	29	11.8%	2	2.1%	26	18.8%	1	10.0%
その他	19	7.8%	3	3.1%	16	11.6%	0	0.0%
無回答	58	23.7%	21	21.6%	35	25.4%	2	20.0%
合計	245	100.0%	97	100.0%	138	100.0%	10	100.0%

Q5-1) 【採用予定】2013年4月の新卒の幼稚園教諭、保育士の採用予定を教えてください。

選択項目	総計		幼稚園		保育園・保育所		こども園	
	事業所数	構成比	事業所数	構成比	事業所数	構成比	事業所数	構成比
0名	28	11.4%	19	19.6%	9	6.5%	0	0.0%
1名	41	16.7%	20	20.6%	20	14.5%	1	10.0%
2名	48	19.6%	21	21.6%	24	17.4%	3	30.0%
3名	30	12.2%	6	6.2%	22	15.9%	2	20.0%
4名	16	6.5%	7	7.2%	8	5.8%	1	10.0%
5名以上	36	14.7%	12	12.4%	22	15.9%	2	20.0%
未定	35	14.3%	10	10.3%	25	18.1%	0	0.0%
無回答	11	4.5%	2	2.1%	8	5.8%	1	10.0%
合計	245	100.0%	97	100.0%	138	100.0%	10	100.0%

Q5-2) 2013年採用予定内訳

選択項目	総計		幼稚園		保育園・保育所		こども園	
	事業所数	構成比	事業所数	構成比	事業所数	構成比	事業所数	構成比
幼稚園一種（4年制大学）	35	14.3%	33	34.0%	0	0.0%	2	20.0%
幼稚園二種（短期大学）	65	26.5%	59	60.8%	2	1.4%	4	40.0%
保育士（4年制大学）	35	14.3%	0	0.0%	34	24.6%	1	10.0%
保育士（短期大学）	75	30.6%	1	1.0%	71	51.4%	3	30.0%
保育士（専門学校）	15	6.1%	0	0.0%	15	10.9%	0	0.0%
その他	9	3.7%	2	2.1%	6	4.3%	1	10.0%
無回答	98	40.0%	33	34.0%	63	45.7%	2	20.0%
合計	245	100.0%	97	100.0%	138	100.0%	10	100.0%

Q6) 今後の新卒者の幼稚園教諭、保育士の採用計画を教えてください。

選択項目	総計		幼稚園		保育園・保育所		こども園	
	事業所数	構成比	事業所数	構成比	事業所数	構成比	事業所数	構成比
採用枠を拡大する予定	36	14.7%	6	6.2%	28	20.3%	2	20.0%
現行並みの採用枠とする予定	162	66.1%	70	72.2%	86	62.3%	6	60.0%
採用枠を縮小する予定	5	2.0%	3	3.1%	2	1.4%	0	0.0%
しばらく採用は考えていない	3	1.2%	3	3.1%	0	0.0%	0	0.0%
未定	33	13.5%	15	15.5%	16	11.6%	2	20.0%
無回答	6	2.4%	0	0.0%	6	4.3%	0	0.0%
合計	245	100.0%	97	100.0%	138	100.0%	10	100.0%

Q7)【大学に求めるもの】幼稚園教諭もしくは保育士を養成する教育において、大学に求めるものは何ですか？（複数回答）

選択項目	総計		幼稚園		保育園・保育所		こども園	
	事業所数	構成比	事業所数	構成比	事業所数	構成比	事業所数	構成比
学生の基礎学力の向上	144	58.8%	57	58.8%	82	59.4%	5	50.0%
幼児教育につながる実践的な授業	150	61.2%	61	62.9%	81	58.7%	8	80.0%
専門的な幼児教育	95	38.8%	39	40.2%	52	37.7%	4	40.0%
学生への幅広い教養教育	115	46.9%	47	48.5%	61	44.2%	7	70.0%
幼児教育の業界・仕事の研究	41	16.7%	20	20.6%	19	13.8%	2	20.0%
幼児とのコミュニケーションのための教育	120	49.0%	53	54.6%	62	44.9%	5	50.0%
インターンシップ・実習教育の充実	96	39.2%	39	40.2%	51	37.0%	6	60.0%
社会人としての基礎スキルの教育	210	85.7%	78	80.4%	123	89.1%	9	90.0%
その他	19	7.8%	7	7.2%	11	8.0%	1	10.0%
無回答	2	0.8%	1	1.0%	1	0.7%	0	0.0%
合計	245	100.0%	97	100.0%	138	100.0%	10	100.0%

Q8)【新卒生に求める能力】貴園・貴所が新卒生の幼稚園教諭、保育士に求める能力は何ですか？（複数回答）

選択項目	総計		幼稚園		保育園・保育所		こども園	
	事業所数	構成比	事業所数	構成比	事業所数	構成比	事業所数	構成比
コミュニケーション能力	193	78.8%	66	68.0%	119	86.2%	8	80.0%
基礎的な学力	120	49.0%	43	44.3%	71	51.4%	6	8.0%
幼児教育の専門的な知識	84	34.3%	33	34.0%	46	33.3%	5	6.7%
社会常識	199	81.2%	74	76.3%	117	84.8%	8	10.7%
積極的な行動力	157	64.1%	61	62.9%	88	63.8%	8	10.7%
幼児への愛情	149	60.8%	64	66.0%	79	57.2%	6	8.0%
チームで働く力	169	69.0%	56	57.7%	105	76.1%	8	10.7%
教育・保育への情熱	179	73.1%	75	77.3%	99	71.7%	5	6.7%
目標達成への意欲	124	50.6%	52	53.6%	63	45.7%	9	12.0%
トラブル解決能力	50	20.4%	21	21.6%	24	17.4%	5	6.7%
忍耐力	116	47.3%	52	53.6%	57	41.3%	7	9.3%
その他	11	4.5%	4	4.1%	7	5.1%	0	0.0%
無回答	1	0.4%	0	0.0%	1	0.7%	0	0.0%
合計	245	100.0%	97	100.0%	138	100.0%	10	100.0%

Q9-A-1)【幼稚園教諭の採用】大阪成蹊大学教育学部(設置準備中)の卒業生を幼稚園教諭、保育士として採用を希望されますか？

選択項目	総計		幼稚園		保育園・保育所		こども園	
	事業所数	構成比	事業所数	構成比	事業所数	構成比	事業所数	構成比
採用したい	64	26.1%	52	53.6%	6	4.3%	6	60.0%
どちらとも言えない	45	18.4%	34	35.1%	9	6.5%	2	20.0%
採用の予定はない	30	12.2%	8	8.2%	22	15.9%	0	0.0%
無回答	106	43.3%	3	3.1%	101	73.2%	2	20.0%
合計	245	100.0%	97	100.0%	138	100.0%	10	100.0%

Q9-A-2)【幼稚園教諭の採用】「採用したい」回答の場合は、採用希望人数

選択項目	総計		幼稚園		保育園・保育所		こども園	
	事業所数	構成比	事業所数	構成比	事業所数	構成比	事業所数	構成比
1名	13	5.3%	13	13.4%	0	0.0%	0	0.0%
2名	17	6.9%	16	16.5%	0	0.0%	1	10.0%
3名	2	0.8%	1	1.0%	0	0.0%	1	10.0%
4名	3	1.2%	2	2.1%	1	0.7%	0	0.0%
5名	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
6名以上	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	210	85.7%	65	67.0%	137	99.3%	8	80.0%
合計	245	100.0%	97	100.0%	138	100.0%	10	100.0%

Q9-B-1)【保育士の採用】大阪成蹊大学教育学部(設置準備中)の卒業生を幼稚園教諭、保育士として採用を希望されますか？

選択項目	総計		幼稚園		保育園・保育所		こども園	
	事業所数	構成比	事業所数	構成比	事業所数	構成比	事業所数	構成比
採用したい	99	40.4%	15	15.5%	79	57.2%	5	50.0%
どちらとも言えない	59	24.1%	14	14.4%	42	30.4%	3	30.0%
採用の予定はない	33	13.5%	27	27.8%	5	3.6%	1	10.0%
無回答	54	22.0%	41	42.3%	12	8.7%	1	10.0%
合計	245	100.0%	97	100.0%	138	100.0%	10	100.0%

Q9-B-2)【保育士の採用】「採用したい」回答の場合は、採用希望人数

選択項目	総計		幼稚園		保育園・保育所		こども園	
	事業所数	構成比	事業所数	構成比	事業所数	構成比	事業所数	構成比
1名	19	7.8%	6	6.2%	13	9.4%	0	0.0%
2名	21	8.6%	1	1.0%	20	14.5%	0	0.0%
3名	10	4.1%	0	0.0%	10	7.2%	0	0.0%
4名	2	0.8%	1	1.0%	1	0.7%	0	0.0%
5名	5	2.0%	0	0.0%	5	3.6%	0	0.0%
6名以上	1	0.4%	0	0.0%	1	0.7%	0	0.0%
無回答	187	76.3%	89	91.8%	88	63.8%	10	100.0%
合計	245	100.0%	97	100.0%	138	100.0%	10	100.0%

Q10-A)【幼稚園教諭の採用】4年制大学卒業の幼稚園教諭(一種免許)及び保育士と、短期大学卒の幼稚園教諭(二種免許)及び保育士では、どちらを積極的に採用したいですか？

選択項目	総計		幼稚園		保育園・保育所		こども園	
	事業所数	構成比	事業所数	構成比	事業所数	構成比	事業所数	構成比
四年制大学卒を採用したい	11	4.5%	9	9.3%	1	0.7%	1	10.0%
短期大学卒を採用したい	20	8.2%	19	19.6%	1	0.7%	0	0.0%
どちらも平等に採用したい	30	12.2%	18	18.6%	8	5.8%	4	40.0%
人物本位なので学歴は関係ない	77	31.4%	48	49.5%	26	18.8%	3	30.0%
無回答	107	43.7%	3	3.1%	102	73.9%	2	20.0%
合計	245	100.0%	97	100.0%	138	100.0%	10	100.0%

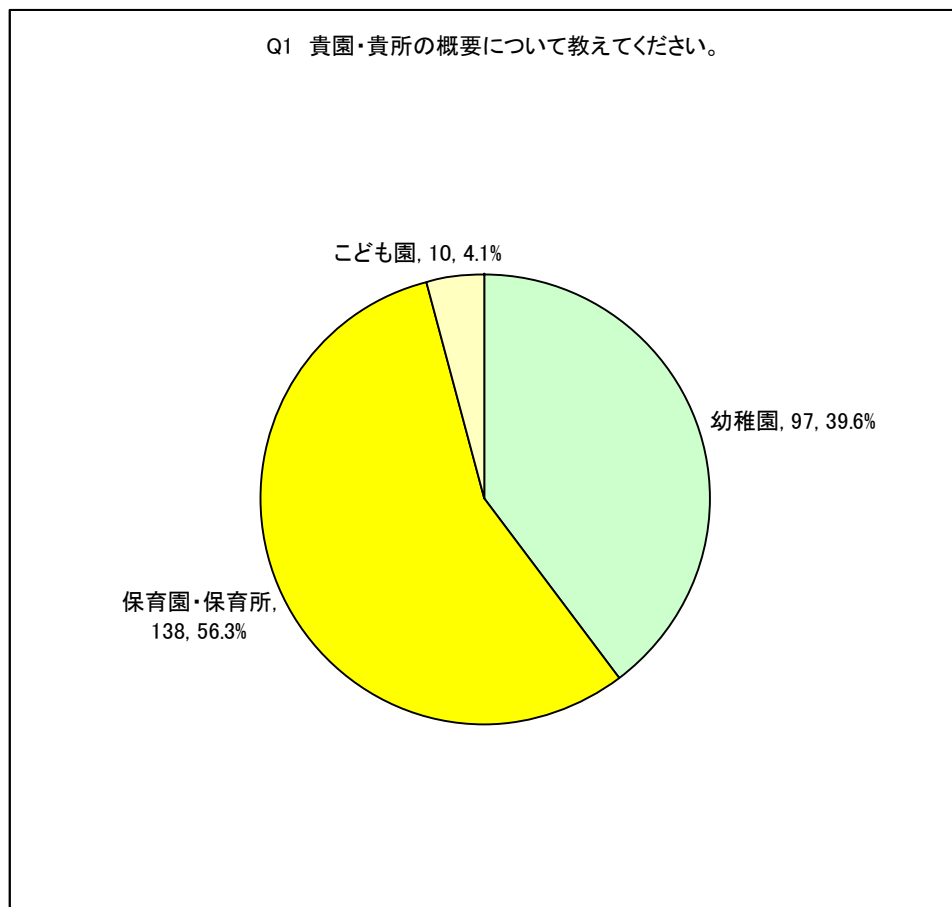
Q10-B)【保育士の採用】4年制大学卒業の幼稚園教諭(一種免許)及び保育士と、短期大学卒の幼稚園教諭(二種免許)及び保育士では、どちらを積極的に採用したいですか？

選択項目	総計		幼稚園		保育園・保育所		こども園	
	事業所数	構成比	事業所数	構成比	事業所数	構成比	事業所数	構成比
四年制大学卒を採用したい	15	6.1%	4	4.1%	11	8.0%	0	0.0%
短期大学卒を採用したい	24	9.8%	5	5.2%	18	13.0%	1	10.0%
どちらも平等に採用したい	36	14.7%	9	9.3%	23	16.7%	4	40.0%
人物本位なので学歴は関係ない	106	43.3%	19	19.6%	82	59.4%	5	50.0%
無回答	64	26.1%	60	61.9%	4	2.9%	0	0.0%
合計	245	100.0%	97	100.0%	138	100.0%	10	100.0%

3. 分析と考察

今回の大阪成蹊大学教育学部（仮称）の卒業生のニーズアセスメント出口調査では、合計 245 園の幼稚園、保育所より回答を得た。

グラフ Q 1：回答した事業所の種類

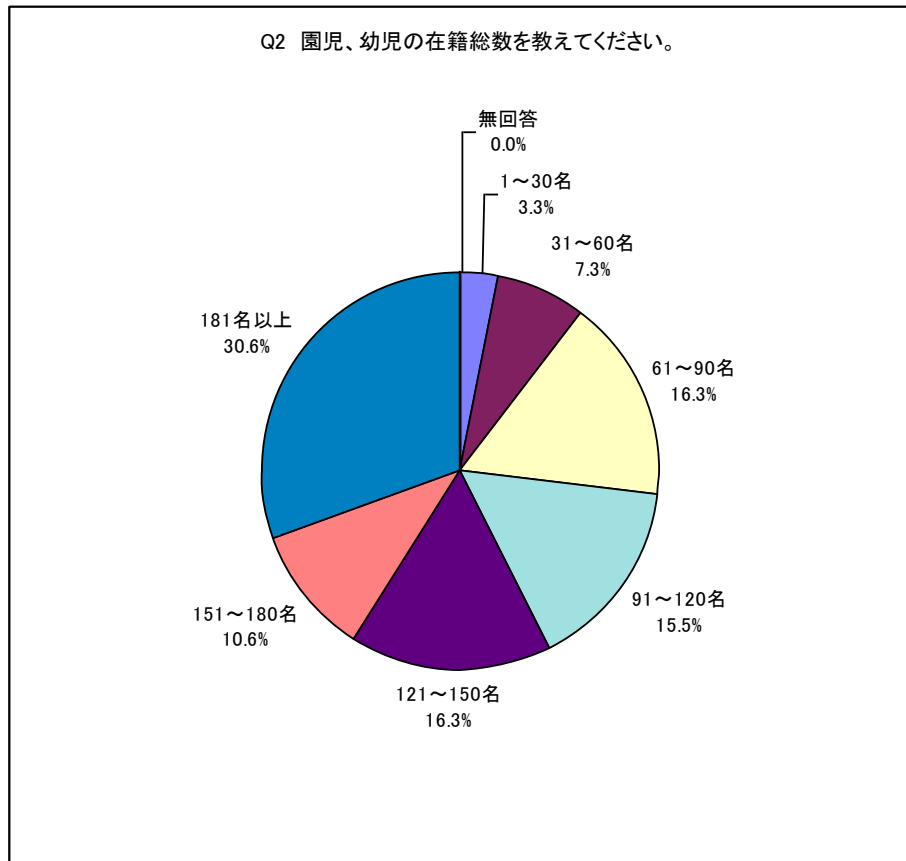


その回答事業所の内訳は、上記 Q 1 のグラフにあるように、幼稚園が 97（＝39.6%）、保育所・保育園が 138（＝56.3%）、こども園が 10（＝4.1%）となっている。

本調査の依頼対象は、大阪市等自治体及び社団法人大阪市私立幼稚園連合会の発表している幼稚園と保育所の一覧を使用した。幼稚園、保育所ともに、こども園の機能を持つ事業所が一部含まれるが、公表されている名称からはこども園かどうかは明確に判断できないため、本設問において「幼稚園」、「保育園・保育所」、「こども園」、「その他」の事業所の概要の種別を質問することとした。

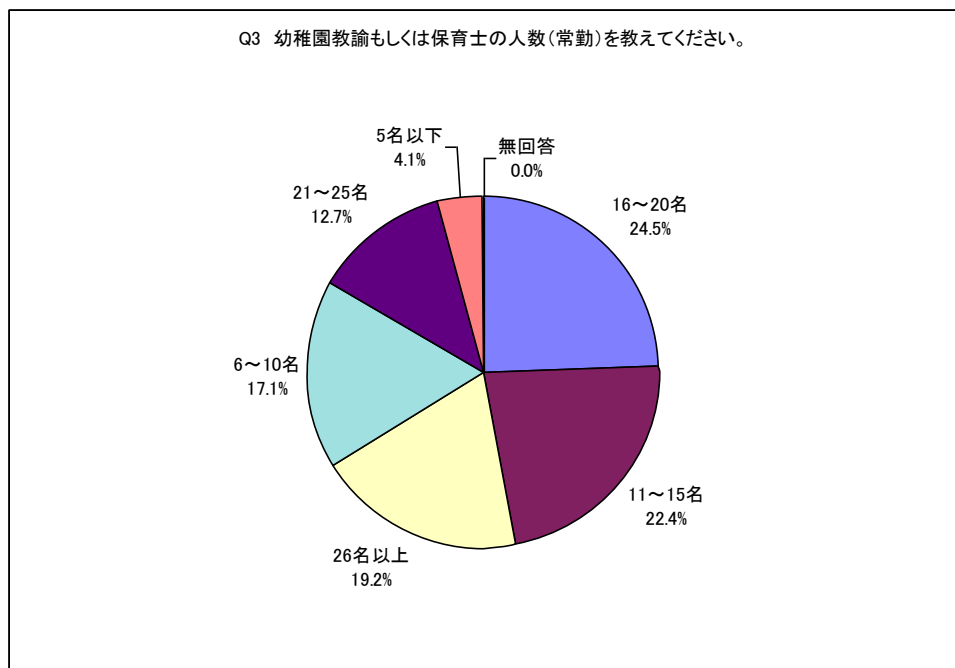
本設問への回答に従い、本報告書においては、「幼稚園」、「保育園・保育所」、「こども園」の事業所種別にて集計を行った。なお、事業所の概要の回答選択肢「その他」への回答は 0 件であった。

グラフ Q 2：事業所の園児、幼児の総在籍数



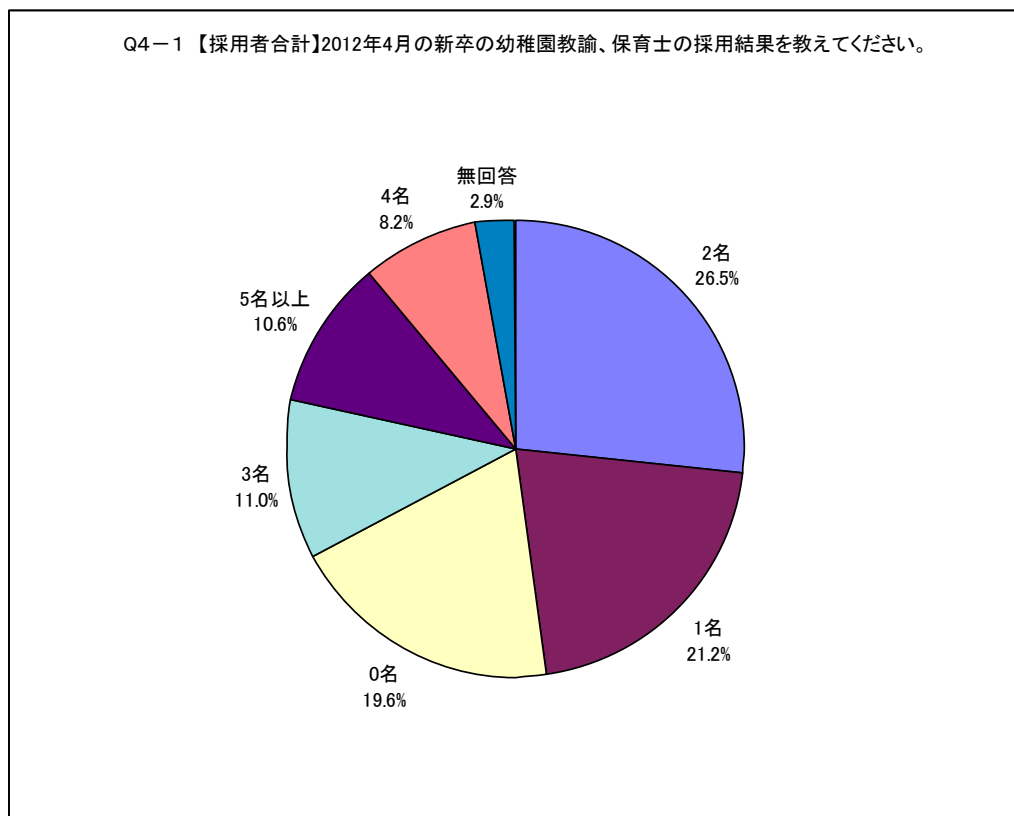
在籍している園児及び幼児の人数は、上記のQ 2のグラフの通りである。

グラフ Q 3：事業所に勤務する幼稚園教諭もしくは保育士の人数



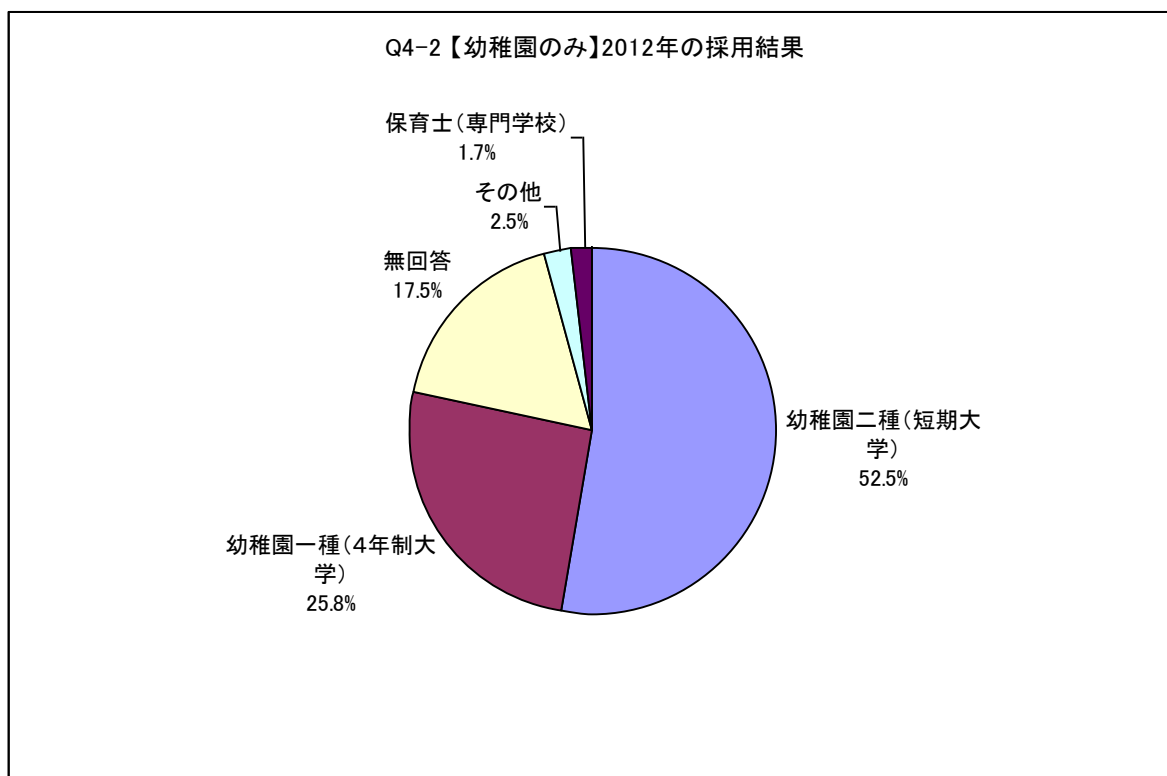
在籍している幼稚園教諭と保育士の人数は、上記のQ 3のグラフの通りである。

グラフ Q 4－1：2012 年 4 月の幼稚園教諭、保育士の採用結果（人数）

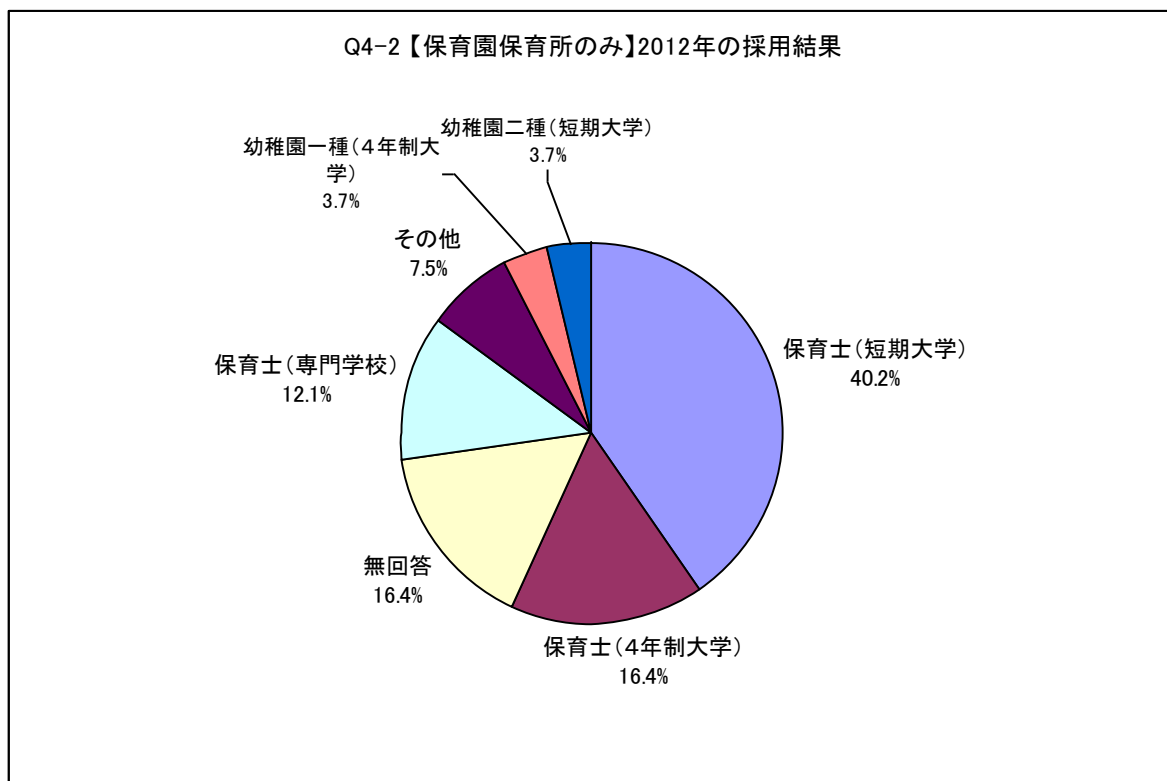


上記のグラフ Q 4－1 で示された「平成 24 年（2012 年）4 月の新卒採用の結果」を合計すると、1 事業所あたり平均して 1.9 名の採用を行っていたことが判明した。 上記 Q 3 のグラフで示されているように、今回の回答者の事業所の約半数が、幼稚園教諭及び保育士の常勤教員数が 20 名以下の事業所であるという事実から考えると、平均して 1.9 名の幼稚園教諭もしくは保育士を採用しているのは、採用需要が非常に強いと言える。

グラフ Q 4－2 A 幼稚園のみの 2012 年の学校種別ごとの採用結果



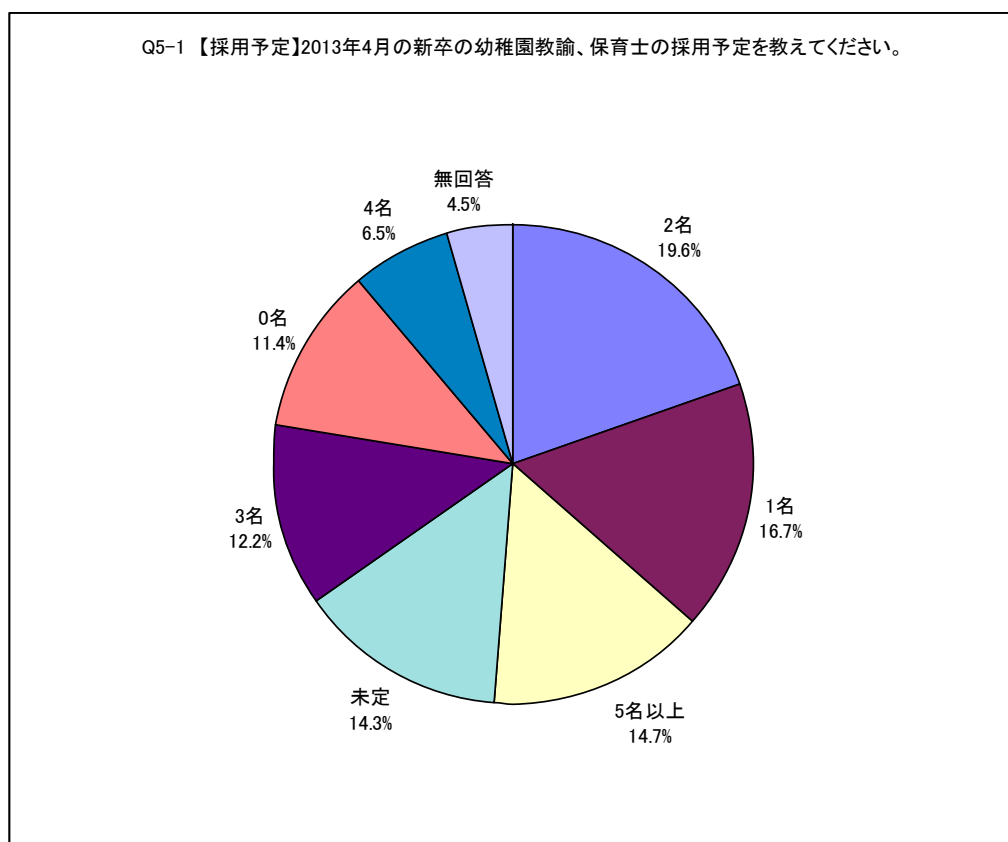
グラフ Q 4－2 B 保育所のみの 2012 年の学校種別ごとの採用結果



上記のQ 4－2 A及びQ 4－2 Bの回答のグラフでは、幼稚園と保育所の事業所別に、2012年の採用結果について、学校種別と免許資格ごとの割合を示した。幼稚園では短期大学卒の幼稚園教諭（第二種）が 52.5%で最も多く、四年制大学卒の幼稚園教諭（第一種）が 25.8%で続いた。保育所でも、短期大学卒の保育士が 40.2%で最も多く、16.4%で四年制大学卒の保

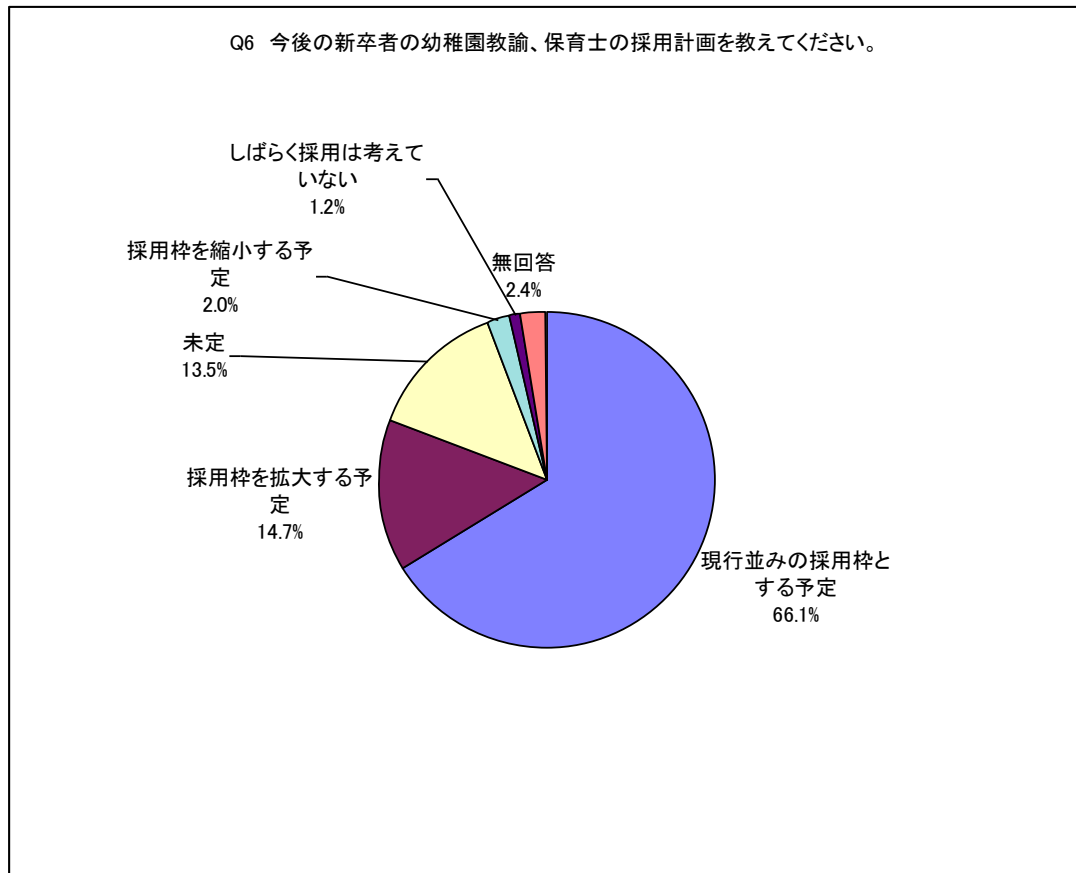
育士が続いた。

グラフ Q 5－1：2013 年（平成 25 年）の採用予定（人数）



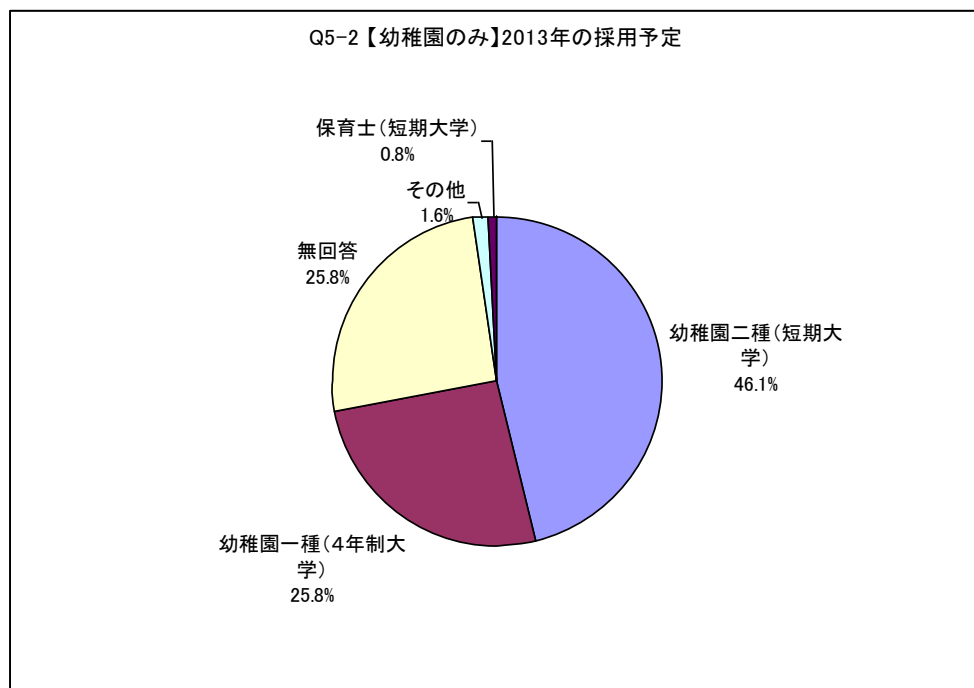
平成 25 年（2013 年）の新卒の幼稚園教諭、保育士の採用予定人数については、上記の Q 5－1 のような回答結果となった。この採用予定人数の平均値を出したところ（「未定」は 1 名で計算、無回答は排除）、1 事業者あたり平均 2.1 名の採用予定となった。 Q 6 で得られた「今後も現行並の採用とする予定」が 66.1%の回答率との結果も合わせて、幼稚園・保育所では、新卒採用の需要が今後も引き続き強く存在するということがデータとして証明された。

グラフ Q 6 : 今後の新卒者の採用予定

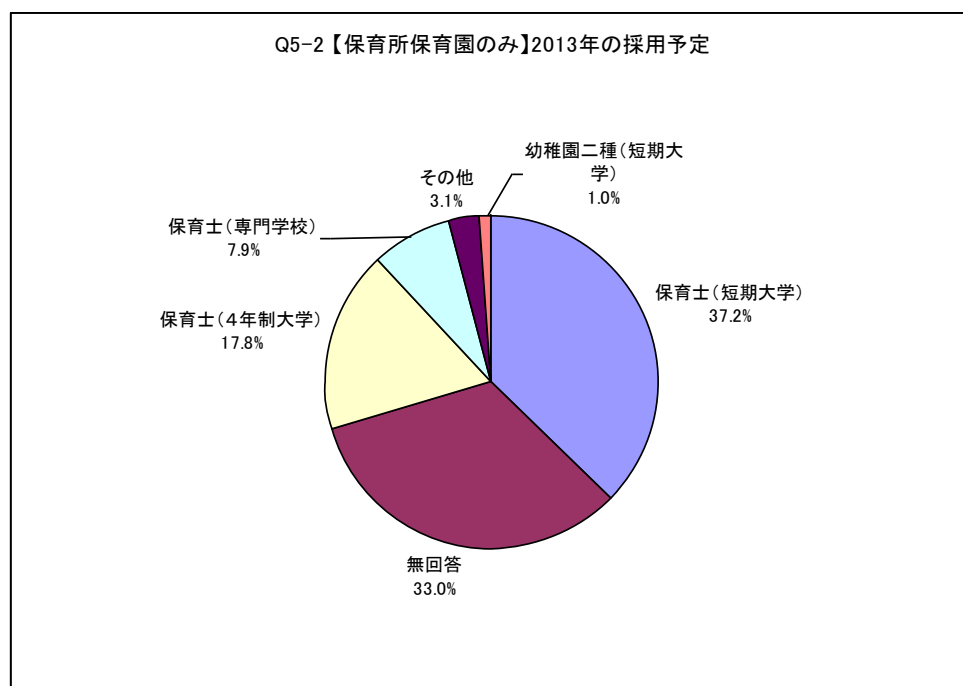


上記のグラフ Q 6 では、今後の採用計画及び採用予測について質問した。「現行並みの採用枠とする」(＝66.1%)と「採用枠を拡大する予定」(＝14.7%)を合わせて 88.1%の圧倒的な割合となった。幼稚園、保育所においては、教員及び保育士の需要が非常に高いと言える。

グラフ Q 5－2 A：幼稚園のみの 2013 年の学校種別ごとの採用予定

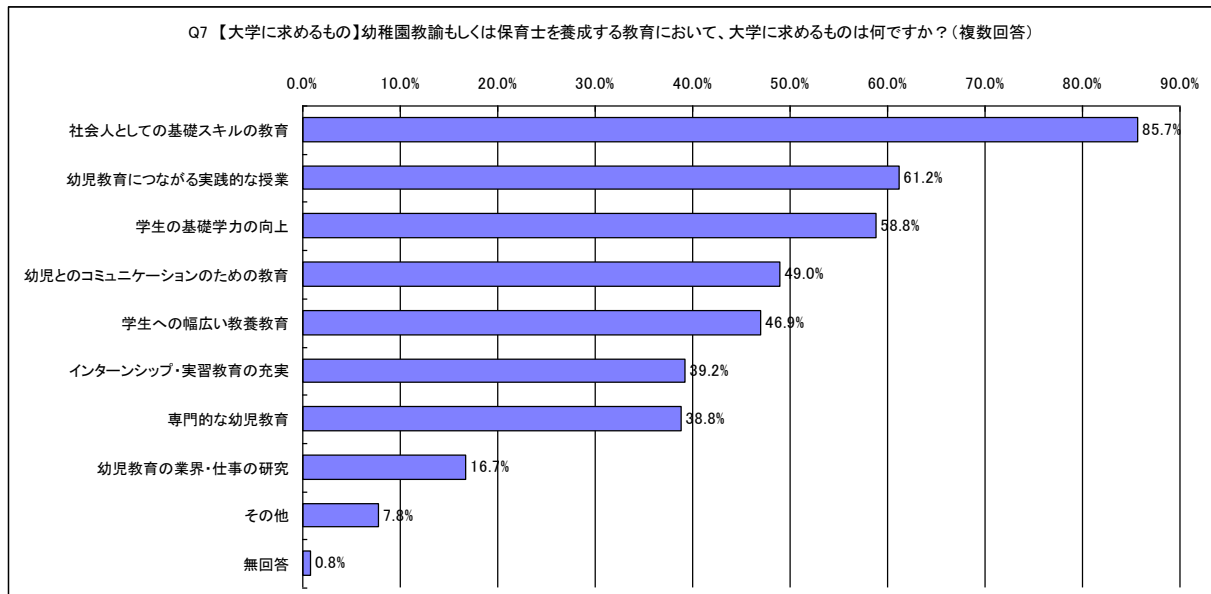


グラフ Q 5－2 B：保育所のみの 2013 年の学校種別ごとの採用予定

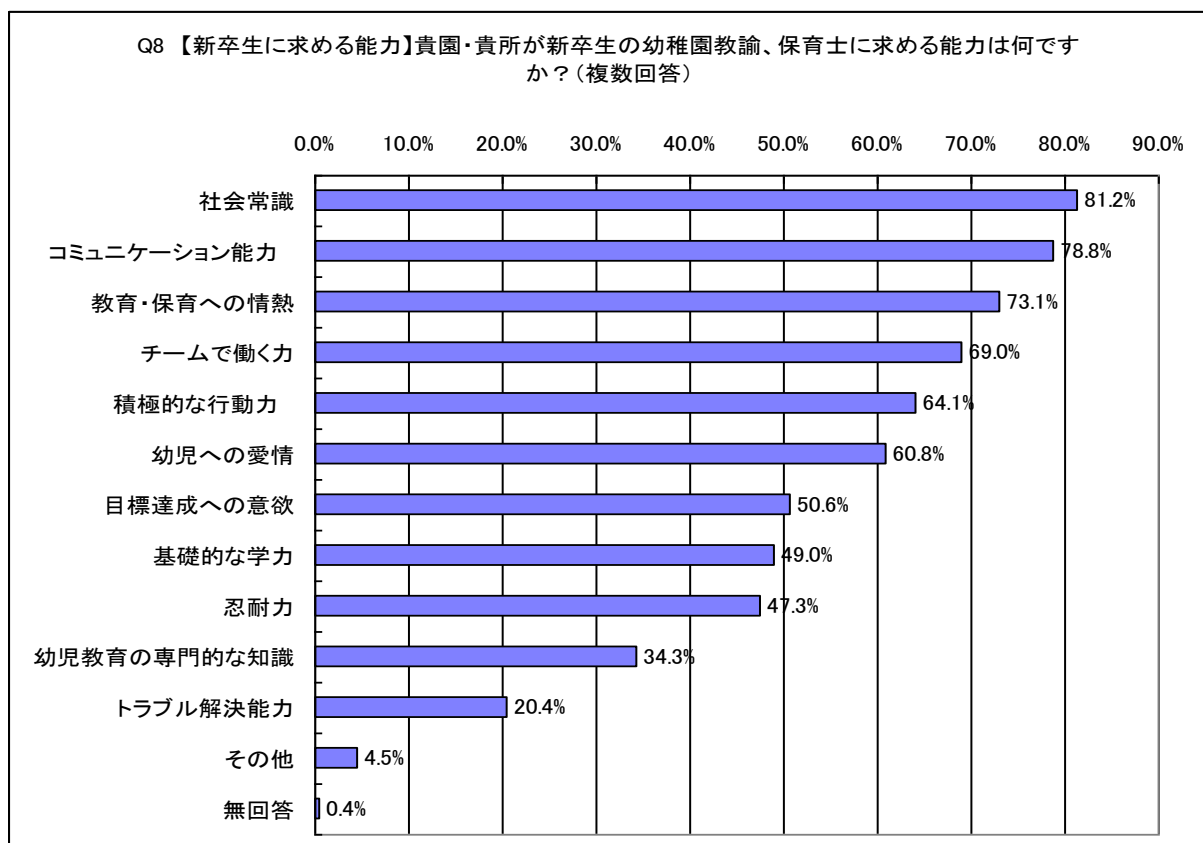


上記のQ 5－2 A及びQ 5－2 Bのグラフでは、幼稚園及び保育所それぞれの、新卒採用予定者の学校種別ごとの内訳（複数回答）を示している。保育士、幼稚園教諭ともに、短期大学卒の採用予定が四年制大学卒を上回っているが、養成学校の定員及び免許授与件数も短期大学の方が多く、そこから導かれた妥当な結果と言える。専門学校卒の保育士は、四年生大学卒の半分以上の採用予定となっている。

グラフ Q7：事業者が大学に求める要素

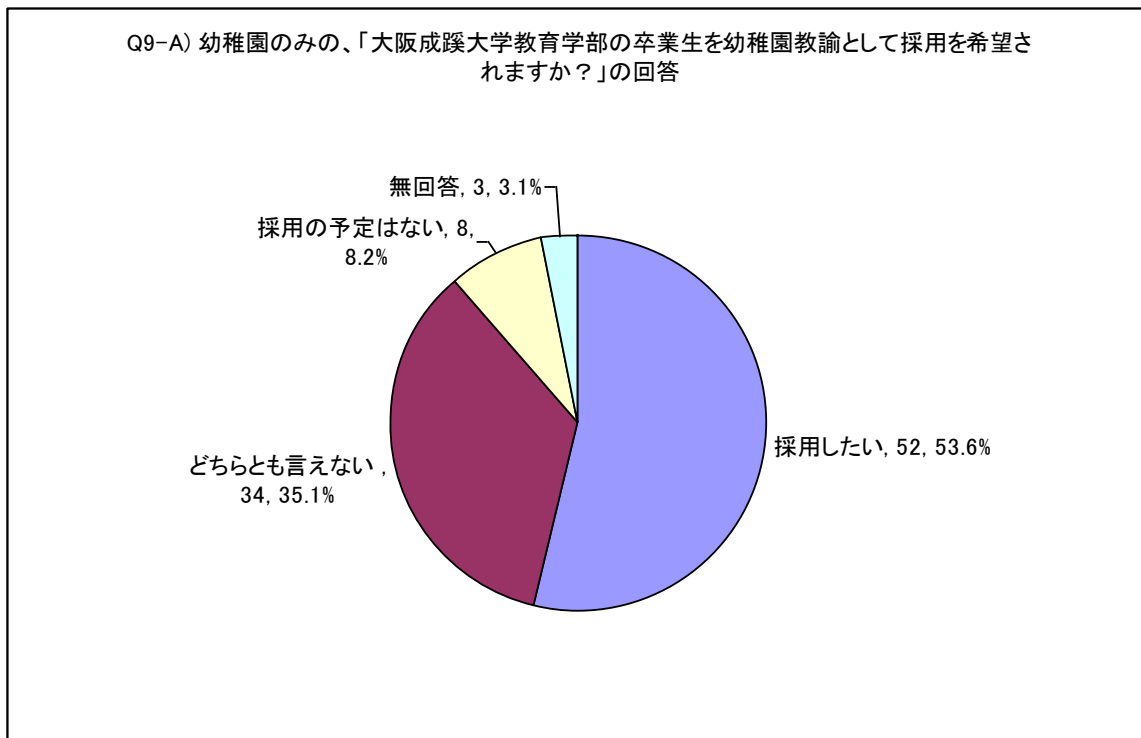


グラフ Q8：事業者が就職予定の学生に求める要素

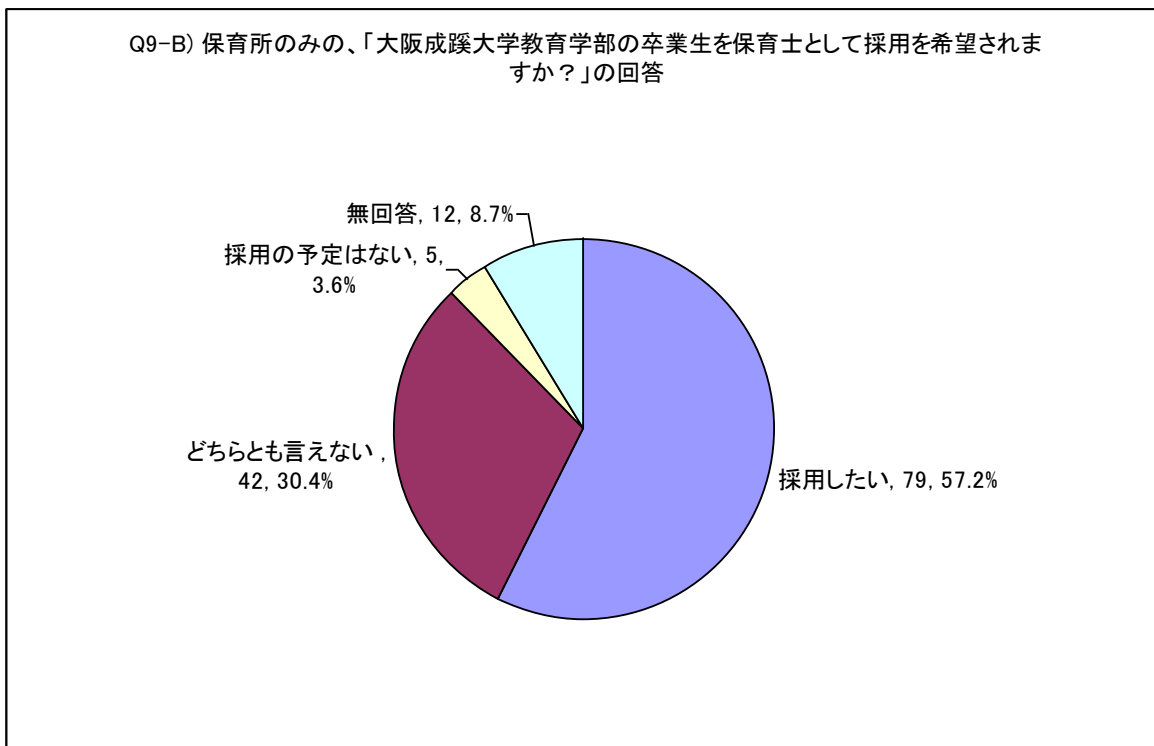


上記のグラフQ7、グラフQ8では、事業所が大学に求める要素、事業所が幼稚園教諭や保育士となる学生に求める要素を質問した（複数回答）。「大学に求めるもの」としては、「社会人としての基礎スキルの教育」が圧倒的（85.7%）に高く、「幼児教育につながる実践的な授業」、「学生の基礎学力の向上」と続いた。「学生に求めるもの」としては、「社会常識」が最も高く（81.2%）、「コミュニケーション能力」、「教育・保育への情熱」と続いた。

グラフ Q 9－A 幼稚園のみの、大阪成蹊大学教育学部（仮称）卒業予定幼稚園教諭の採用意向



グラフ Q 9－B 保育所のみの、大阪成蹊大学教育学部（仮称）卒業予定保育士の採用意向



上記のグラフQ 9－A、グラフQ 9－Bでは、大阪成蹊大学教育学部（仮称）の卒業生についての、事業所からの採用の意向を質問した。幼稚園教諭については幼稚園の 53.6%（52 幼稚園）、保育士については全体の 57.2%（79 保育所・保育園）が「採用したい」と回答した。この採用意向の数値は非常に高いものと言える。

表 Q9-A-2)【幼稚園教諭の採用】「採用したい」回答の場合の採用希望人数

幼稚園教諭 採用 希望人数	幼稚園		保育園・保育所		こども園	
	事業所数	採用希望 人数	事業所数	採用希望 人数	事業所数	採用希望 人数
1名	13	13	0	0	0	0
2名	16	32	0	0	1	2
3名	1	3	0	0	1	3
4名	2	8	1	4	0	0
合計	32	56	1	4	2	5
	幼稚園教諭 採用希望合計					
合計	事業所数		35	採用希望数		65

表 Q9-B-2)【保育士の採用】「採用したい」回答の場合の採用希望人数

保育士 採用 希望人数	幼稚園		保育園・保育所		こども園	
	事業所数	採用希望 人数	事業所数	採用希望 人数	事業所数	採用希望 人数
1名	6	6	13	13	0	0
2名	1	2	20	40	0	0
3名	0	0	10	30	0	0
4名	1	4	1	4	0	0
5名	0	0	5	25	0	0
6名	0	0	0	0	0	0
7名	0	0	1	7	0	0
合計	8	12	50	119	0	0
	保育士 採用希望合計					
合計	事業所数		58	採用希望数		131

上記の表Q9-A-2、及び表Q9-B-2は、「採用したい」と回答した事業者における、幼稚園教諭と保育士の具体的な「採用希望人数」を事業者の種別（幼稚園、保育園・保育所、

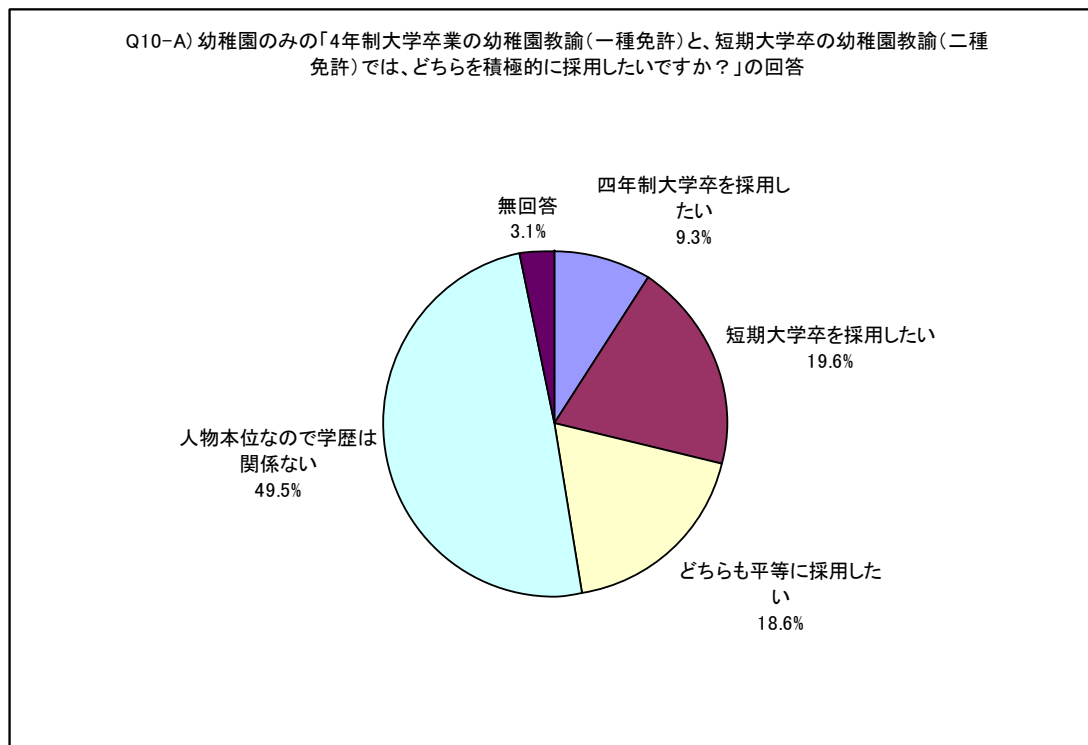
こども園)に聞いたものである。

幼稚園教諭の採用については、幼稚園では13園より1名、16園より2名、1園より3名、2園より4名の採用希望の回答(計56名)があった。採用希望人数の合計は、幼稚園からが56名、保育園・保育所からが4名、こども園からが5名となり、合計して65名の幼稚園教諭の採用希望(=①)となった。

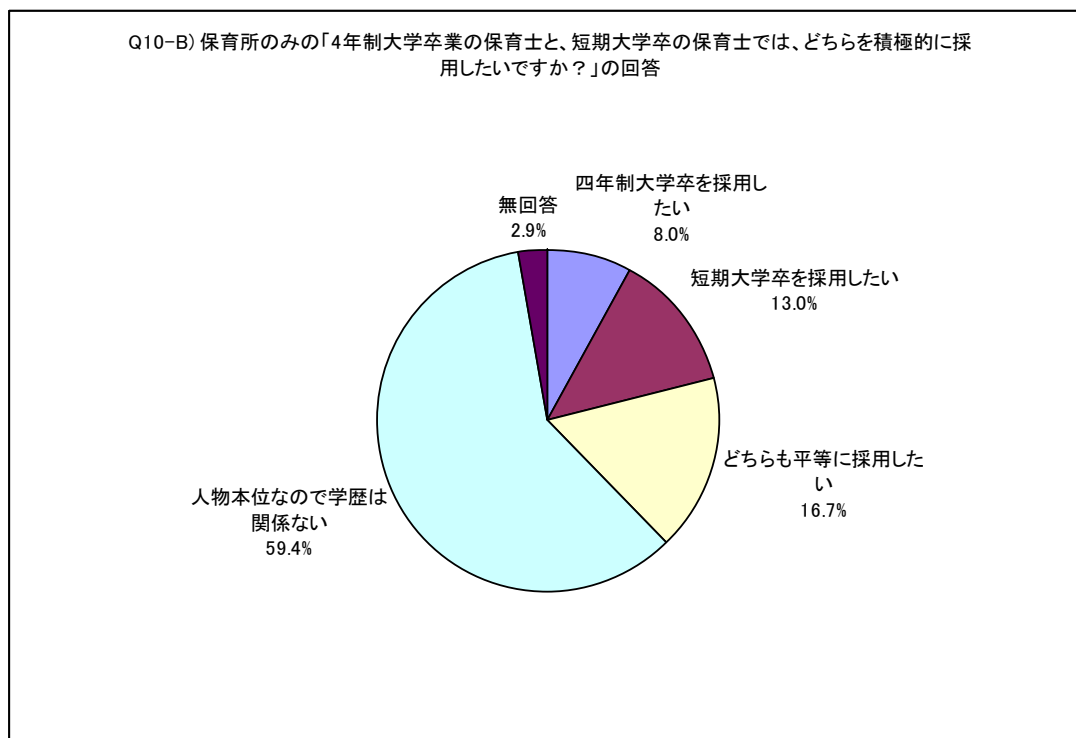
保育士の採用については、保育園・保育所では13所より1名、20所より2名、10所より3名、1所より4名、5所より5名、1所より7名の採用希望の回答(計119名)があった。採用希望人数の合計は、幼稚園からが12名、保育園・保育所からが119名、こども園からが0名となり、合計して131名の保育士の採用希望(=②)となった。

幼稚園教諭と保育士を足した採用希望人数(=①+②)は、合計196名の回答結果となり、これは大阪成蹊大学教育学部(仮称)の予定している入学定員100名をはるかに上回る数値であり、卒業後の就職就労の需要は、極めて高く安定していると言える。

グラフ Q 1 0－A：幼稚園のみの、採用時における新卒者の学校種別の印象について



グラフ Q 1 0－B：保育所のみの、採用時における新卒者の学校種別の印象について



上記のグラフQ 1 0－A、Q 1 0－Bでは、幼稚園教諭と保育士の採用について、四年制大学（幼稚園教諭免許の場合は一種免許）と短期大学（幼稚園教諭免許の場合は二種免許）及び専門学校その他の卒業生について、学校種別により採用意向の差異があるかどうかを、幼稚園と保育所にそれぞれ質問した。幼稚園、保育所ともに「人物本位なので学歴は関係ない」と「ど

「ちかも平等に採用したい」が幼稚園の場合は 68.1%、保育所の場合は 76.1%と大半を占める結果となっており、そこに「四年制大学卒を採用したい」（幼稚園事業者からは 9.3%、保育所事業者からは 8.0%）を入れると、それぞれ 77.4%、84.1%の事業者が採用において 4 年制大学卒の幼稚園教諭、保育士を積極的に採用したいと考えていることが読み取れる。よって、大阪成蹊大学教育学部（仮称）の卒業生は、幼稚園教諭及び保育士として、確実に安定した就職が可能であると言える。

上記の調査結果により、平成 26 年 4 月に設置を予定する大阪成蹊大学教育学部（仮称）における、卒業予定者の就職の見通しに関しては、極めて十分に良好な回答を得る結果となった。

したがって、外部調査機関としての客観的な分析により、卒業予定者の就職について、十分に確保される見通しであると言える。

4. 資料1 出口調査アンケート協力事業所一覧

コード	幼稚園保育園名	事業所 種別	Q9-A-1 大阪成蹊大 学教育学部の卒業生 を幼稚園教諭として採 用を希望されますか？ 【幼稚園採用】	採用希望 人数 【幼稚園 教諭】	Q9-A-2 大阪成蹊大 学教育学部の卒業生 を保育士として採用を 希望されますか？ 【保育士採用】	採用希望 人数 【保育士】
00001	鶴見幼稚園	幼稚園	採用したい	2	無回答	-
00002	蛭池文化幼稚園	幼稚園	採用したい	2	採用したい	2
00003	日本福音ルーテル教会付属 真生幼稚園	幼稚園	採用の予定はない	-	採用の予定はない	-
00004	中野幼稚園	幼稚園	どちらとも言えない	-	採用の予定はない	-
00005	箕面自由学園幼稚園	幼稚園	どちらとも言えない	-	無回答	-
00006	千里山グレース幼稚園	幼稚園	どちらとも言えない	-	どちらとも言えない	-
00007	菅原天満幼稚園	幼稚園	どちらとも言えない	-	無回答	-
00008	箕面学園附属幼稚園	幼稚園	どちらとも言えない	-	無回答	-
00009	みくま幼稚園	幼稚園	どちらとも言えない	-	採用の予定はない	-
00010	聖美幼稚園	幼稚園	採用したい	2	採用したい	1
00011	川西幼稚園	幼稚園	どちらとも言えない	-	どちらとも言えない	-
00012	無記名	幼稚園	採用したい	2	無回答	-
00013	無記名	幼稚園	採用の予定はない	-	無回答	-
00014	認定こども園 庄内幼稚園認定こども園 庄内たちばな保育園	こども園	採用したい	-	採用したい	-
00015	やまなみ幼稚園	幼稚園	採用したい	1	無回答	-
00016	淡路幼稚園	幼稚園	無回答	-	無回答	-
00017	喜連東幼稚園	幼稚園	採用したい	-	採用したい	-
00018	建国幼稚園	幼稚園	どちらとも言えない	-	無回答	-
00019	粟生幼稚園	幼稚園	採用したい	2	採用したい	4
00020	みすず学園森町保育園	こども園	無回答	-	どちらとも言えない	-
00021	朝陽ヶ丘幼稚園	幼稚園	採用したい	2	どちらとも言えない	-
00022	鴻池学園幼稚園	幼稚園	採用したい	-	採用の予定はない	-
00023	南大阪幼稚園	幼稚園	どちらとも言えない	-	無回答	-
00024	アケミ幼稚園	幼稚園	どちらとも言えない	-	採用の予定はない	-
00025	無記名	幼稚園	どちらとも言えない	-	どちらとも言えない	-
00026	平和幼稚園	幼稚園	どちらとも言えない	-	採用の予定はない	-
00027	第一すみれ幼稚園	幼稚園	どちらとも言えない	-	無回答	-
00028	彩都敬愛幼稚園	こども園	採用したい	2	無回答	-
00029	豊中幼稚園	幼稚園	採用の予定はない	-	無回答	-
00030	山手幼稚園	幼稚園	採用したい	-	採用したい	-
00031	ふたばこども幼稚園	保育園	無回答	-	どちらとも言えない	-
00032	ふしお台保育所	保育園	どちらとも言えない	-	採用したい	3
00033	みつばさ保育園	保育園	無回答	-	採用したい	2
00034	鶴見えのもと保育園	保育園	無回答	-	採用したい	2
00035	中之島ひばり保育園	保育園	無回答	-	無回答	-
00036	YMCAあわぎ保育園	保育園	採用の予定はない	-	どちらとも言えない	-
00037	つくしんぼ西保育園	保育園	採用の予定はない	-	採用したい	4
00038	都島桜宮保育園	保育園	無回答	-	採用したい	-
00039	蓮美幼児学園	保育園	無回答	-	採用したい	5
00040	無記名	保育園	無回答	-	採用したい	2
00041	大阪市立西加島保育所	保育園	無回答	-	無回答	-
00042	たんぼぼbambi保育園	保育園	採用の予定はない	-	採用したい	3
00043	無記名	保育園	無回答	-	無回答	-
00044	四貫島保育所	保育園	無回答	-	無回答	-
00045	つるのひまわり保育園	保育園	無回答	-	無回答	-
00046	真上保育園	保育園	無回答	-	採用したい	1
00047	マザーシップ船場保育園	保育園	無回答	-	どちらとも言えない	-
00048	さかえ保育園	保育園	採用の予定はない	-	採用したい	-
00049	みどり保育園	保育園	無回答	-	どちらとも言えない	-
00050	大手前保育園	保育園	無回答	-	採用したい	-
00051	大阪市立茨田東保育所	保育園	無回答	-	採用したい	1
00052	無記名	保育園	どちらとも言えない	-	どちらとも言えない	-
00053	小野原学園	保育園	無回答	-	採用したい	3
00054	千里ニュータウン保育園	保育園	どちらとも言えない	-	どちらとも言えない	-
00055	柳辻保育園	保育園	無回答	-	採用したい	-
00056	大宮第2保育所	保育園	採用の予定はない	-	採用したい	-
00057	天王保育園	保育園	無回答	-	採用したい	2
00058	東野田ちどり保育園	保育園	無回答	-	採用したい	-
00059	遠里小野保育園	保育園	無回答	-	採用したい	-
00060	くれない学園	保育園	無回答	-	採用したい	2
00061	天川保育園	保育園	無回答	-	採用したい	-
00062	千里聖愛保育センター	保育園	無回答	-	どちらとも言えない	-
00063	南総持寺保育園	保育園	採用したい	-	採用したい	-
00064	聖花保育園	保育園	無回答	-	どちらとも言えない	-
00065	かんまき和光保育園	保育園	採用の予定はない	-	どちらとも言えない	-
00066	ほづみ保育園	保育園	採用したい	-	採用したい	-
00067	双葉保育園	保育園	無回答	-	どちらとも言えない	-
00068	無記名	保育園	無回答	-	どちらとも言えない	-
00069	豊南みどり保育園(分園)	保育園	無回答	-	採用の予定はない	-
00070	たまい保育所	保育園	無回答	-	どちらとも言えない	-

00071	ふじのもり保育園	保育園	採用の予定はない	-	どちらとも言えない	-
00072	浦堂保育園	保育園	どちらとも言えない	-	どちらとも言えない	-
00073	深沢ガーデン保育園	保育園	どちらとも言えない	-	どちらとも言えない	-
00074	平和の子保育園	保育園	無回答	-	どちらとも言えない	-
00075	無記名	保育園	採用の予定はない	-	採用したい	1
00076	茨木保育園	保育園	無回答	-	どちらとも言えない	-
00077	あびにょん保育園	保育園	無回答	-	採用したい	1
00078	蓮美幼児学園 千里丘ナーサリー	保育園	無回答	-	採用したい	2
00079	ひかり保育園	保育園	採用の予定はない	-	どちらとも言えない	-
00080	無記名	保育園	採用の予定はない	-	どちらとも言えない	-
00081	玉櫛たちばな保育園	保育園	無回答	-	無回答	-
00082	無記名	保育園	無回答	-	どちらとも言えない	-
00083	茨田第2保育所	保育園	採用の予定はない	-	どちらとも言えない	-
00084	にじの木保育園	保育園	どちらとも言えない	-	どちらとも言えない	-
00085	YMCAとさぼり保育園	保育園	採用の予定はない	-	どちらとも言えない	-
00086	芝谷聖ヶ丘保育園	保育園	無回答	-	どちらとも言えない	-
00087	さつき保育園	保育園	どちらとも言えない	-	どちらとも言えない	-
00088	さつき乳児センター	保育園	どちらとも言えない	-	どちらとも言えない	-
00089	稲荷学園	保育園	無回答	-	採用の予定はない	-
00090	菅原保育園	保育園	採用の予定はない	-	どちらとも言えない	-
00091	摂津市立鳥飼保育所	保育園	無回答	-	無回答	-
00092	無記名	保育園	無回答	-	どちらとも言えない	-
00093	豊南みどり保育園	保育園	無回答	-	採用の予定はない	-
00094	刀根山こころ保育園	保育園	無回答	-	無回答	-
00095	同心保育園	保育園	採用の予定はない	-	どちらとも言えない	-
00096	いずみ保育園(豊中市)	保育園	無回答	-	どちらとも言えない	-
00097	聖ミカエル保育園	保育園	採用の予定はない	-	採用の予定はない	-
00098	なかよしすみれ保育園	保育園	無回答	-	無回答	-
00099	無記名	保育園	無回答	-	採用したい	1
00100	保育所第二和光園	保育園	無回答	-	採用したい	2
00101	不川第2保育所	保育園	採用の予定はない	-	採用したい	2
00102	青空保育園	保育園	無回答	-	採用したい	3
00103	藤森保育園	保育園	無回答	-	採用したい	1
00104	鶴満寺保育所	保育園	無回答	-	採用したい	-
00105	あけぼの保育学院	保育園	無回答	-	採用したい	5
00106	はたの保育園	保育園	無回答	-	どちらとも言えない	-
00107	末広保育園	保育園	無回答	-	どちらとも言えない	-
00108	交野保育園	保育園	無回答	-	無回答	-
00109	千里山やまて学園	保育園	どちらとも言えない	-	どちらとも言えない	-
00110	長柄保育園	保育園	無回答	-	採用したい	1
00111	やまゆり保育園	保育園	採用の予定はない	-	採用したい	-
00112	東三国丘保育園	保育園	無回答	-	採用したい	3
00113	みさき佃保育園	保育園	無回答	-	採用したい	-
00114	きたの旭ヶ丘学園	保育園	無回答	-	採用したい	2
00115	無記名	保育園	無回答	-	採用したい	1
00116	旭ヶ丘学園	保育園	無回答	-	採用したい	-
00117	玉川橋保育園	保育園	無回答	-	採用したい	2
00118	松ヶ本保育園	保育園	無回答	-	採用したい	2
00119	城東ちどり保育園	保育園	無回答	-	採用したい	-
00120	住吉保育園	保育園	無回答	-	採用したい	2
00121	佐井寺たんぽぽ保育園	保育園	無回答	-	採用したい	2
00122	豊中愛光幼稚園	幼稚園	どちらとも言えない	-	採用の予定はない	-
00123	扇町同胞幼稚園	幼稚園	どちらとも言えない	-	採用の予定はない	-
00124	千寿幼稚園	幼稚園	どちらとも言えない	-	採用の予定はない	-
00125	彩都敬愛保育園	保育園	無回答	-	採用したい	3
00126	徳蔵寺保育園	保育園	無回答	-	採用したい	-
00127	相川保育園	保育園	無回答	-	採用したい	-
00128	無記名	保育園	無回答	-	採用したい	1
00129	たんぽぽ中条保育園	保育園	無回答	-	採用したい	-
00130	無記名	保育園	無回答	-	採用したい	1
00131	なかよしわんぱく保育園	保育園	無回答	-	採用したい	2
00132	茨木山手学園	保育園	無回答	-	採用したい	-
00133	かんらん保育園	保育園	無回答	-	採用したい	2
00134	夢の鳥保育園	保育園	採用したい	-	採用したい	-
00135	彩都保育園	保育園	無回答	-	採用したい	-
00136	もろぐち保育園	保育園	無回答	-	採用したい	2
00137	姫室保育園	保育園	無回答	-	採用したい	3
00138	豊原学園	保育園	無回答	-	採用したい	5
00139	おひさま岡町保育園	保育園	採用の予定はない	-	採用したい	1
00140	あけぼのベビーセンター	保育園	無回答	-	採用したい	-
00141	無記名	保育園	無回答	-	採用したい	3
00142	ちとせ保育園	保育園	採用の予定はない	-	採用したい	2
00143	湯里保育園	保育園	無回答	-	採用したい	-
00144	摂津市立 正雀保育所	保育園	無回答	-	無回答	-
00145	無記名	保育園	無回答	-	どちらとも言えない	-
00146	ゆめ中央保育園	保育園	無回答	-	どちらとも言えない	-
00147	瀬川保育園	保育園	無回答	-	どちらとも言えない	-
00148	大東保育園	保育園	無回答	-	どちらとも言えない	-
00149	無記名	保育園	無回答	-	どちらとも言えない	-
00150	川添保育園	保育園	無回答	-	どちらとも言えない	-

00151	成徳保育園	保育園	無回答	-	採用の予定はない	-
00152	太子橋保育園	保育園	採用の予定はない	-	無回答	-
00153	保育所 聖愛園	保育園	無回答	-	どちらとも言えない	-
00154	彩都みのり保育園	保育園	無回答	-	どちらとも言えない	-
00155	ありんこ保育園	保育園	無回答	-	どちらとも言えない	-
00156	白ばら幼稚園	幼稚園	採用したい	-	無回答	-
00157	りんでん学園	幼稚園	採用したい	2	採用の予定はない	-
00158	天王学園幼稚園	幼稚園	採用したい	2	どちらとも言えない	-
00159	千里敬愛幼稚園	幼稚園	採用したい	-	採用の予定はない	-
00160	豊南幼稚園	幼稚園	採用したい	1	無回答	-
00161	住の江幼稚園	幼稚園	採用したい	1	採用したい	1
00162	茶山台幼稚園	幼稚園	採用したい	2	採用したい	1
00163	小曽根幼稚園	幼稚園	採用したい	1	採用の予定はない	-
00164	みすず学園森町こども園	こども園	採用したい	-	採用したい	-
00165	豊中みどり幼稚園 豊中みどりっこ保育園	幼稚園	採用したい	1	採用したい	1
00166	住吉清水学園びりおの幼稚園	幼稚園	採用したい	1	採用の予定はない	-
00167	御崎幼稚園	幼稚園	採用したい	-	採用したい	-
00168	まこと幼稚園	幼稚園	採用したい	2	無回答	-
00169	ルンビニ学園幼稚園	幼稚園	採用したい	-	無回答	-
00170	鮎川幼稚園	幼稚園	採用したい	1	採用の予定はない	-
00171	大阪女子高等学校附属朝陽幼稚園	幼稚園	採用したい	2	無回答	-
00172	野江幼稚園	幼稚園	どちらとも言えない	-	採用の予定はない	-
00173	日本基督教団茨木教会附属めぐみ幼稚園	幼稚園	どちらとも言えない	-	無回答	-
00174	無記名	幼稚園	どちらとも言えない	-	無回答	-
00175	徳庵愛和幼稚園	幼稚園	どちらとも言えない	-	無回答	-
00176	朝陽幼稚園	幼稚園	採用したい	1	採用の予定はない	-
00177	昭光幼稚園	幼稚園	採用の予定はない	-	採用の予定はない	-
00178	認定こども園みくにひじり保育園	こども園	無回答	-	どちらとも言えない	-
00179	清和幼稚園	幼稚園	どちらとも言えない	-	どちらとも言えない	-
00180	マリア学院 高槻マリア・インマクラダ幼稚園	幼稚園	どちらとも言えない	-	どちらとも言えない	-
00181	岸部敬愛保育園	保育園	採用したい	4	採用したい	2
00182	せつつ保育園	保育園	無回答	-	採用したい	2
00183	とりかい保育園	保育園	無回答	-	採用したい	1
00184	諏訪保育園	保育園	無回答	-	採用したい	5
00185	たちばな保育園	保育園	無回答	-	採用したい	7
00186	たんぽぽ安威保育園	保育園	無回答	-	採用したい	-
00187	すみれ保育園	保育園	無回答	-	採用したい	1
00188	阿武山たつの子保育園	保育園	無回答	-	採用したい	-
00189	都島中野幼稚園	幼稚園	無回答	-	無回答	-
00190	みくにひじり幼稚園	こども園	どちらとも言えない	-	どちらとも言えない	-
00191	むつみ幼稚園	幼稚園	どちらとも言えない	-	どちらとも言えない	-
00192	無記名	幼稚園	どちらとも言えない	-	どちらとも言えない	-
00193	小松幼稚園 臼松保育園	こども園	どちらとも言えない	-	採用の予定はない	-
00194	西平野幼稚園	幼稚園	どちらとも言えない	-	無回答	-
00195	パドマ幼稚園	幼稚園	どちらとも言えない	-	無回答	-
00196	無記名	幼稚園	どちらとも言えない	-	どちらとも言えない	-
00197	城星学園幼稚園	幼稚園	どちらとも言えない	-	どちらとも言えない	-
00198	大阪市立豊里第2保育所	保育園	採用したい	-	採用したい	-
00199	朝日幼稚園	幼稚園	無回答	-	無回答	-
00200	あけのほし幼稚園	幼稚園	どちらとも言えない	-	どちらとも言えない	-
00201	桃谷幼稚園	幼稚園	どちらとも言えない	-	採用の予定はない	-
00202	第二すみれ幼稚園	幼稚園	採用の予定はない	-	採用の予定はない	-
00203	中浜幼稚園	幼稚園	どちらとも言えない	-	無回答	-
00204	熊野幼稚園	幼稚園	どちらとも言えない	-	無回答	-
00205	無記名	幼稚園	どちらとも言えない	-	無回答	-
00206	育生幼稚園	幼稚園	採用の予定はない	-	採用の予定はない	-
00207	淀川幼稚園	幼稚園	どちらとも言えない	-	採用の予定はない	-
00208	美鳩幼稚園	幼稚園	採用の予定はない	-	採用の予定はない	-
00209	豊里幼稚園	幼稚園	採用したい	-	無回答	-
00210	御幣島幼稚園	幼稚園	採用したい	-	採用したい	-
00211	曽根幼稚園	幼稚園	採用したい	-	無回答	-
00212	無記名	幼稚園	採用したい	-	どちらとも言えない	-
00213	ひばり幼稚園	幼稚園	採用したい	2	無回答	-
00214	開成幼稚園 幼児教育学園	幼稚園	採用したい	2	無回答	-
00215	長池幼稚園	幼稚園	採用したい	1	採用の予定はない	-

00216	東高殿幼稚園	幼稚園	採用したい	2	無回答	-
00217	万代幼稚園	こども園	採用したい	-	採用したい	-
00218	西吹田幼稚園	幼稚園	採用の予定はない	-	採用の予定はない	-
00219	無記名	こども園	採用したい	3	採用したい	-
00220	アスール幼稚園	幼稚園	採用したい	-	無回答	-
00221	関目聖マリア幼稚園	幼稚園	採用したい	1	採用したい	1
00222	服部幼稚園	幼稚園	採用したい	-	採用の予定はない	-
00223	諸口幼稚園	幼稚園	採用したい	-	無回答	-
00224	茨木東邦幼稚園	幼稚園	採用したい	-	採用したい	-
00225	無記名	幼稚園	採用したい	-	無回答	-
00226	東豊中幼稚園	幼稚園	採用したい	4	採用の予定はない	-
00227	郡山敬愛幼稚園	幼稚園	採用したい	4	無回答	-
00228	熊野田幼稚園	幼稚園	採用したい	-	採用したい	-
00229	箕面桜ヶ丘幼稚園	幼稚園	採用したい	-	無回答	-
00230	喜連幼稚園	幼稚園	採用したい	-	採用したい	-
00231	奥林学園	幼稚園	採用したい	3	無回答	-
00232	岸部敬愛幼稚園	幼稚園	採用したい	1	無回答	-
00233	みなと幼稚園	幼稚園	採用したい	-	無回答	-
00234	青い鳥幼稚園	幼稚園	採用したい	2	採用の予定はない	-
00235	南港幼稚園	幼稚園	採用したい	1	採用したい	1
00236	無記名	幼稚園	採用したい	2	無回答	-
00237	みつや・めぐみ幼稚園	幼稚園	採用したい	1	どちらとも言えない	-
00238	摂津ひかり幼稚園 摂津ひかりにこにこ保育園	こども園	採用したい	-	採用したい	-
00239	第二愛育園	保育園	無回答	-	採用したい	-
00240	とりかいひがし保育園	保育園	採用の予定はない	-	採用したい	3
00241	あけぼのぶんぶん	保育園	採用したい	-	採用したい	-
00242	無記名	保育園	無回答	-	採用したい	5
00243	こどもの国敬愛保育園	保育園	無回答	-	採用したい	2
00244	たんぽぽ保育園	保育園	無回答	-	採用したい	3
00245	今福南保育所	保育園	採用の予定はない	-	採用したい	-
				65		131

大阪成蹊大学 教育学部児童教育学科（設置準備中）
の設置構想に係わるアンケート調査票【幼稚園・保育園向け】

※別紙の「大阪成蹊大学教育学部（仮称）の概要」をご覧ください。

※大変お手数ですが、10月31日までにご返送いただきますようお願いいたします。

※このアンケート調査において得られた情報は、大阪成蹊大学教育学部（設置準備中）の設置構想に係る資料としてのみ活用するものであり、それ以外に使用することは一切ございません。

貴園・貴所名【】

■貴園・貴所の概要についてお聞きます。あてはまる番号に○をつけてください。

Q1. 貴園・貴所の概要について教えてください。

1. 幼稚園 2. 保育園・保育所 3. こども園
4. その他（ ）

Q2. 園児、幼児の在籍総数を教えてください。

1. 1~30 名 2. 31~60 名 3. 61~90 名
4. 91~120 名 5. 121~150 名 6. 151~180 名
7. 181 名以上

Q3. 幼稚園教諭もしくは保育士の人数(常勤)を教えてください。

1. 5名以下 2. 6~10名 3. 11~15名
4. 16~20名 5. 21~25名 6. 26名以上

■採用についてお聞きします。

Q4. 2012 年 4 月の新卒の幼稚園教諭、保育士の採用結果を教えてください。

【採用者合計】

1. 0名 2. 1名 3. 2名
4. 3名 5. 4名 6. 5名以上

【採用者の内訳】

幼稚園一種 (四年制大学)	幼稚園二種 (短期大学)	保育士 (四年制大学)	保育士 (短期大学)	保育士 (専門学校)	その他
名	名	名	名	名	名

Q5. 2013 年 4 月の新卒の幼稚園教諭、保育士の採用予定を教えてください。

【採用予定合計】

1. 0名 2. 1名 3. 2名
4. 3名 5. 4名 6. 5名以上 7. 未定

【採用予定内訳】

幼稚園一種 (四年制大学)	幼稚園二種 (短期大学)	保育士 (四年制大学)	保育士 (短期大学)	保育士 (専門学校)	その他
名	名	名	名	名	名

Q6. 今後の新卒者の幼稚園教諭、保育士の採用計画を教えてください。(あてはまるものを一つ)

1. 採用枠を拡大する予定	2. 現行並みの採用枠とする予定
3. 採用枠を縮小する予定	4. しばらく採用は考えていない
5. 未定	

Q7. 幼稚園教諭もしくは保育士を養成する教育において、大学に求めるものは何ですか？
(あてはまるもの全てに○)

1. 学生の基礎学力の向上	2. 幼児教育につながる実践的な授業
3. 専門的な幼児教育	4. 学生への幅広い教養教育
5. 幼児教育の業界・仕事の研究	6. 幼児とのコミュニケーションのための教育
7. インターンシップ・実習教育の充実	8. 社会人としての基礎スキルの教育
9. その他 ()	

Q8. 貴園・貴所が新卒生の幼稚園教諭、保育士に求める能力は何ですか。(あてはまるもの全てに○)

1. コミュニケーション能力	2. 基礎的な学力
3. 幼児教育の専門的な知識	4. 社会常識
5. 積極的な行動力	6. 幼児への愛情
7. チームで働く力	8. 教育・保育への情熱
9. 目標達成への意欲	10. トラブル解決能力
11. 忍耐力	12. その他 ()

Q9. 大阪成蹊大学教育学部(設置準備中)の卒業生を幼稚園教諭、保育士として採用を希望されますか？また採用を希望される場合の、採用希望人数は何人ですか？(あてはまるものを一つ)

A) 【幼稚園教諭の採用】

1. 採用したい (→	1.の回答の場合は、採用希望人数【 名】)
2. どちらとも言えない	3. 採用の予定はない

B) 【保育士の採用】

1. 採用したい (→	1.の回答の場合は、採用希望人数【 名】)
2. どちらとも言えない	3. 採用の予定はない

Q10. 4年制大学卒業の幼稚園教諭(一種免許)及び保育士と、短期大学卒の幼稚園教諭(二種免許)及び保育士では、どちらを積極的に採用したいですか？(あてはまるものを一つ)

A) 【幼稚園教諭の採用】

1. 四年制大学卒を採用したい	2. 短期大学卒を採用したい
3. どちらも平等に採用したい	4. 人物本位なので学歴は関係ない

B) 【保育士の採用】

1. 四年制大学卒を採用したい	2. 短期大学卒を採用したい
3. どちらも平等に採用したい	4. 人物本位なので学歴は関係ない

■今後、貴園・貴所より大阪成蹊大学教育学部(設置準備中)の卒業生を採用していただくためには、どのようなことが必要でしょうか。ご自由にお答え下さい。

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

大阪成蹊大学
教育学部(設置準備中)

設置認可申請に伴う
調査報告書

【教育系一般企業向けアンケート調査(出口調査)】

平成 25 年 1 月 18 日

株式会社紀伊國屋書店

教育系一般企業を対象としたアンケート調査(出口調査)

目 次

1. 調査概要
2. アンケート集計結果
3. ヒアリング報告
4. (資料1)アンケート用紙

1. 調査概要

◆調査の目的： 本調査は、平成 26 年 4 月設置に向けて認可申請準備中の大阪成蹊大学教育学部(仮称)の卒業生の採用に関する社会的ニーズを、大学外の公正な第三者機関により、教育系一般企業へのアンケートとヒアリングを用いて測ることを目的とする。

◆調査期間： 平成 24 年 9 月 1 日～11 月 30 日

◆調査方法： 教育系一般企業の人事担当者に面談を行い、大阪成蹊大学教育学部（仮称）の卒業生の採用意向について、アンケート用紙への回答とヒアリングを通じて実施した。

◆調査対象： 教育系一般企業

◆調査内容： ヒアリング及び、選択肢式の 7 問のアンケート。

※主な質問項目

『大阪成蹊大学教育学部（仮称）の卒業予定者の採用の意向について』

『事業者の基本情報、事業規模について』

『事業者が採用に際し重視する点について』

◆調査依頼件数 教育系一般企業（学校法人を含む）： 8 社

A 社：学習塾運営、通信制高校、通信教育事業

B 社：教科書出版

C 社：総合教育企業（予備校、語学学校、各種スクール運営）

D 社：大手予備校

E 社：通信教育、学習塾運営

F 社：大手予備校を含めた総合教育企業

G 社：学習塾運営

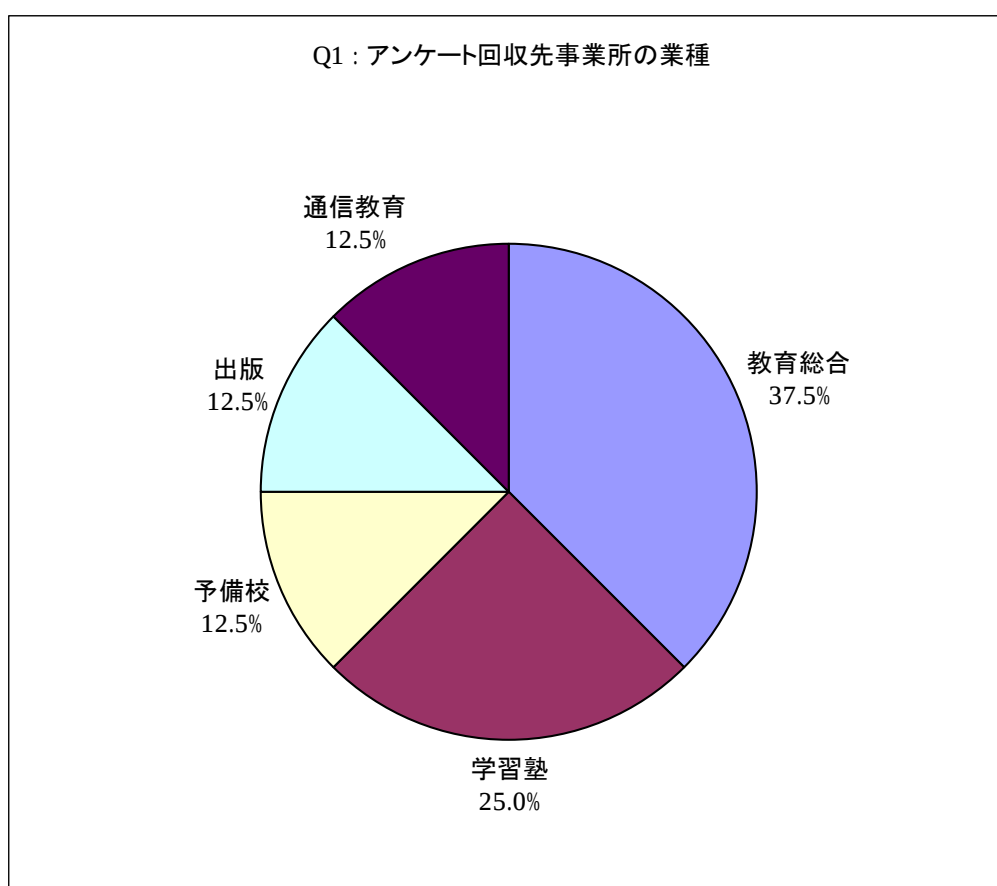
H 社：総合教育企業

◆調査実施主体：株式会社紀伊國屋書店

2. アンケート集計結果

Q1. 貴社の主要業務概要を以下より選択してください。

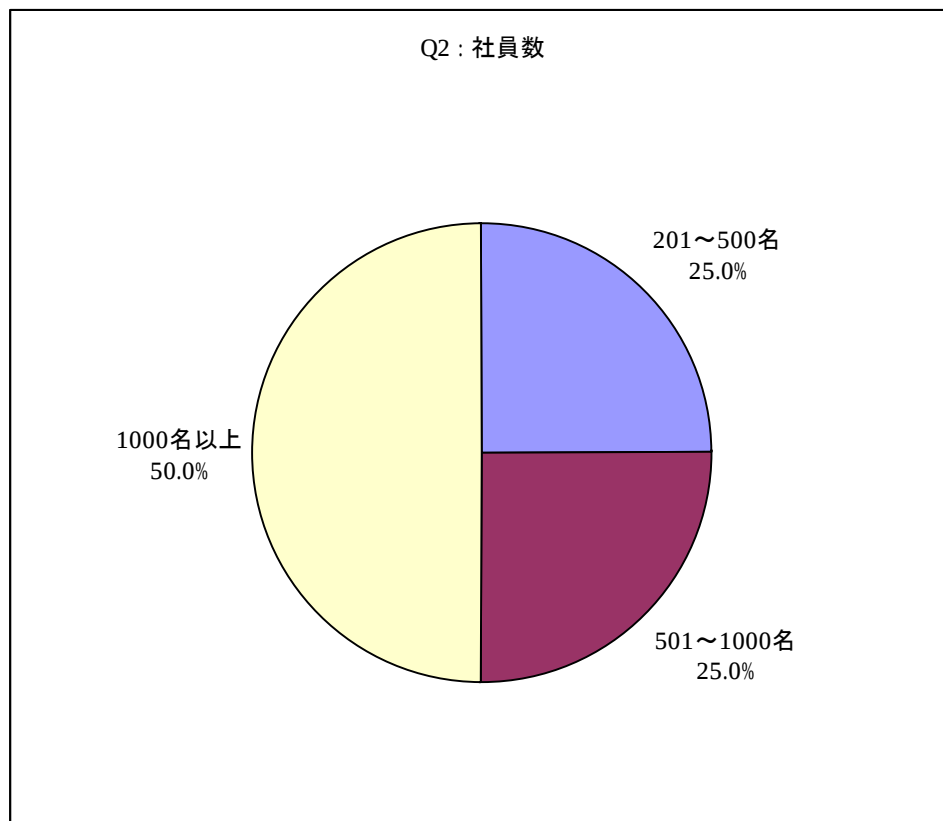
教育総合	3
学習塾	2
予備校	1
出版	1
通信教育	1
その他	0
合計	8



大阪成蹊大学教育学部（仮称）の卒業生の採用意向について、教育系一般企業 8 社にヒアリングを行った。8 社の事業種別の内訳は、上記のようになっているが、「教育総合」以外の選択肢は、主要な業務を選んでいた。8 社とも、大規模かつ総合的な教育事業を行っていると言える。

Q2. 貴社の社員数を以下より選択してください。

1	1～20名	0
2	21～50名	0
3	51～100名	0
4	101～200名	0
5	201～500名	2
6	501～1000名	2
7	1000名以上	4
	合計	8

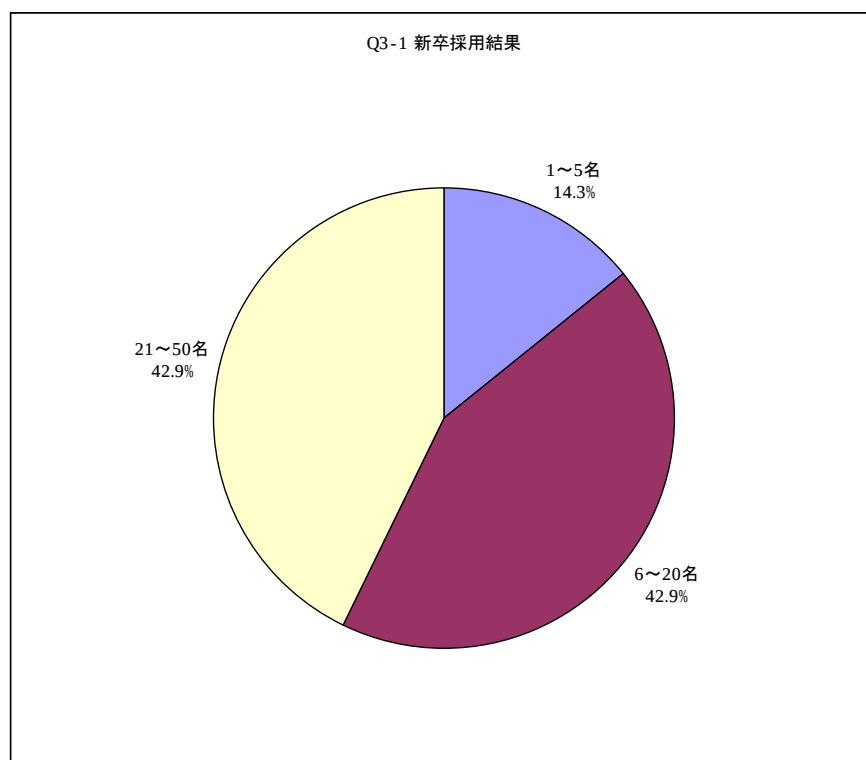


8社のうち半数が社員数1000名以上の企業であり、残りの4社も200名以上の社員数となっている。なお、上記の社員数は、本社正社員及び正教職員のみの数であり、非常勤講師、契約講師、グループ企業社員、派遣社員等は含まれていない。

Q3. 2012 年 4 月の新卒採用結果を教えてください。

【採用者合計】

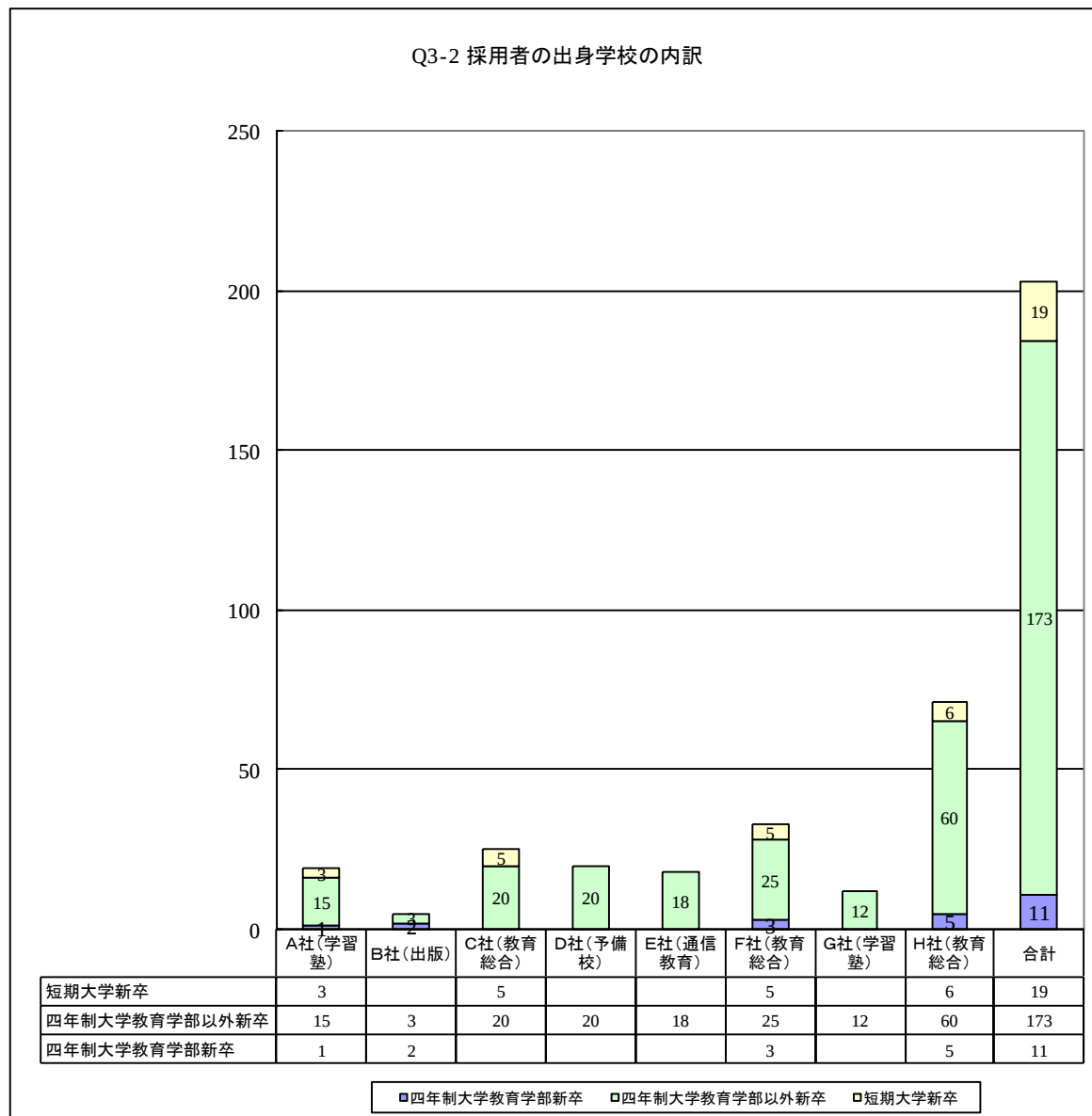
1	0名	0
2	1～5名	1
3	6～20名	3
4	21～50名	3
5	51～100名	1
6	101名以上	0
	合計	8



2012 年度の新卒採用については、3 社が 6 から 20 名、3 社が 21 名から 50 名の採用実績となっている。採用の職種は、営業、企画、編集、教室運営、総務など多岐に渡っている。

【2012 年度の採用者の内訳】

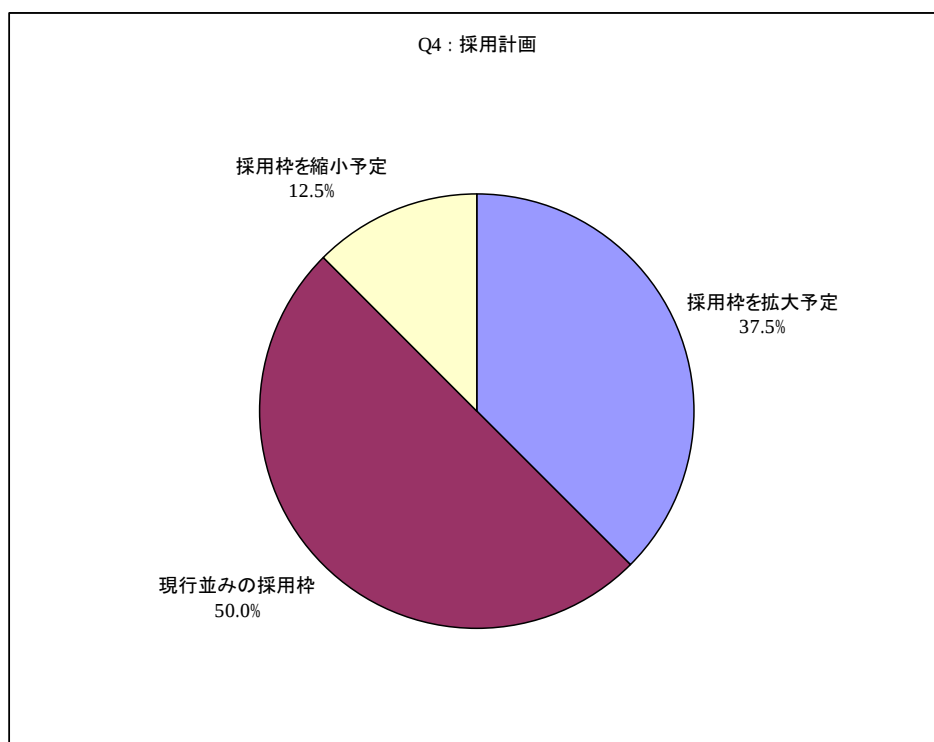
1	四年制大学教育学部新卒	11
2	四年制大学教育学部以外新卒	173
3	短期大学新卒	19
4	専門学校新卒	0
5	高校新卒	0
6	既卒その他	0
	合計	203



2012 年度の新卒採用実績における学校種別を聞いたところ、ヒアリングを行った 8 社全てが、大学と一部は短期大学から卒業生を採用していた。8 社のうち 5 社の採用実績には、教育学部の卒業生が含まれている。

Q4. 今後の4年制大学生の採用計画を教えてください。

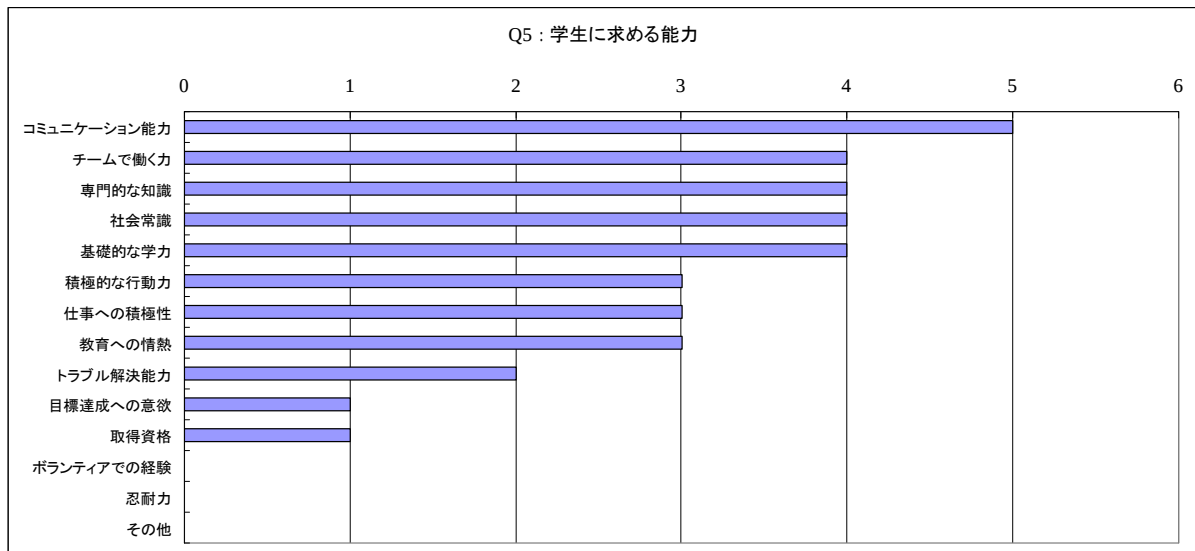
1	採用枠を拡大予定	3
2	現行並みの採用枠	4
3	採用枠を縮小予定	1
4	しばらく採用は考えていない	0
5	未定	0
	合計	8



今後の採用計画については、8社のうち3社が、「採用枠を拡大」、4社が「現行並の採用枠」と返答している。教育業界の新卒採用の全体需要については、手堅い状況が読み取れる。

Q5. 貴社が採用する学生に求める能力は何ですか。(複数回答)

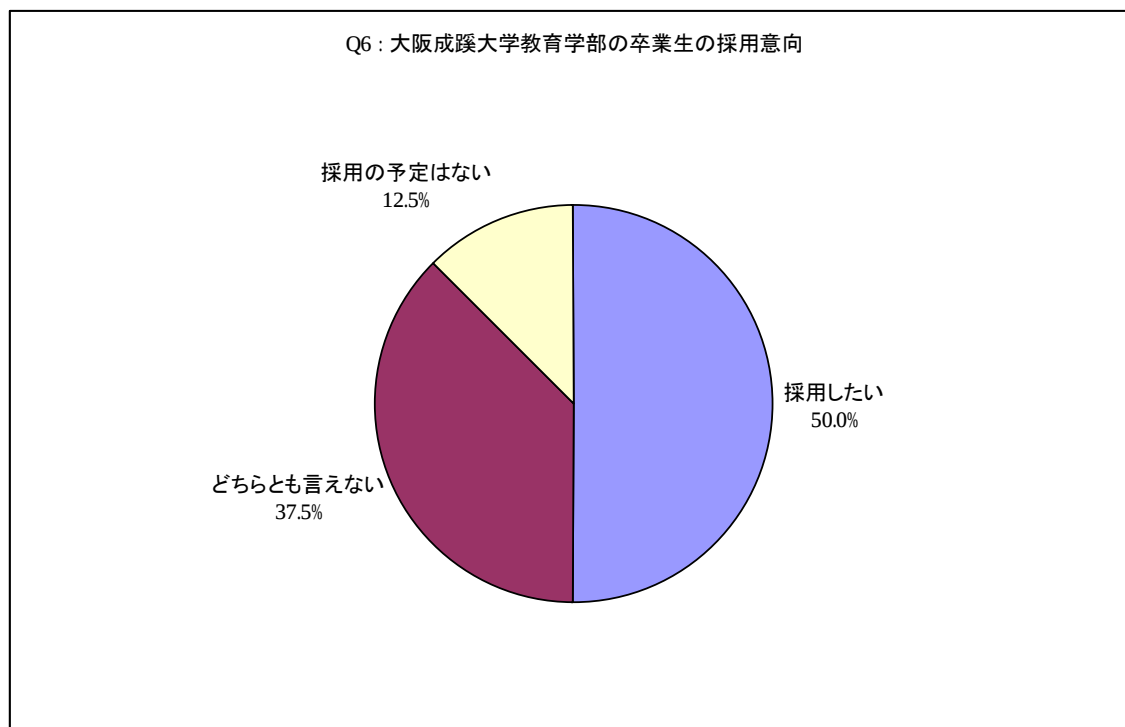
1	コミュニケーション能力	5
2	基礎的な学力	4
3	専門的な知識	4
4	社会常識	4
5	積極的な行動力	3
6	仕事への積極性	3
7	チームで働く力	4
8	教育への情熱	3
9	目標達成への意欲	1
10	トラブル解決能力	2
11	忍耐力	0
12	ボランティアでの経験	0
13	取得資格	1
14	その他	0



ヒアリングを行った企業が、学生に求める能力(複数回答)では、8社のうち5社が「コミュニケーション能力」を選択した。「基礎的な学力」、「専門的な知識」、「社会常識」、「チームで働く力」が、それに続いて4社から選択されている。「積極的な行動力」、「仕事への積極性」、「教育への情熱」が3社から選択された。

Q6. 大阪成蹊大学教育学部(設置準備中)の卒業生を採用する可能性はありますか。

1	採用したい	4
2	どちらとも言えない	3
3	採用の予定はない	1
	合計	8



大阪成蹊大学教育学部(仮称)の卒業予定者の採用意向について、質問を行った。8社のうち4社が「採用したい」、3社が「どちらとも言えない」、1社が「採用の予定はない」という回答であった。「採用したい」の回答については、当学部による幼児教育、児童教育について十分な教育を受けた学生であり、かつ企業側が求める人間性、人物像に合致していれば、積極的に採用したい、という返答であった。

「採用したい」と回答した4社もしくは8社ともに、上場企業を含む大企業であり、全ての新卒採用は、エントリーシートによる応募を通じて公正に行われ、特定の大学や特定の学部の卒業生を偏重することは制度上できなくなっている。大学名や書類上の経歴ではなく、人間性や人物本位で採用を行いたいという意見が、ヒアリングを行った企業全てから共通して出た。

Q7.今後、貴社より大阪成蹊大学教育学部(設置準備中)の卒業生を採用していただくためには、どのようなことが必要でしょうか。ご自由にお答え下さい。

- ・教室の中だけの勉強や免許取得のためだけの勉強だけでなく、大学の内外で幅広く様々なことを学んでほしい。採用の際には、学生時代に経験してきた幅の広さと人間力を重視しています。
- ・教科書の出版という特殊な業務ではあるが、営業や総務という地道な業務もあるので、学校教育の専門知識だけでなく、様々なものごとに好奇心をもって、なにごとにも楽しく学んでいく能力を身につけてほしい。
- ・教育に対する情熱と、教え子や子供たちに対する愛情を育んでください。
- ・業務は教育全般に幅広く展開している。何よりもチームで仕事をする協調性やコミュニケーション能力を重視している。
- ・教育産業の中でも最もハイエンドなゾーンを対象にしているので、講師や教務以外の社員にも、高度な教育的知識、受験的知識を要求しています。
- ・人間力、企画力、体力、問題解決能力など、社会人として必要な幅広い能力を学生時代に身につけてください。
- ・急成長している会社で、学習塾を増やしているので、前向きに明るく仕事に取り組める積極性を重視しています。対象となる小学生の教育全般に関する基礎的な知識も必要です。
- ・総合教育企業であり、様々な部署、業務があります。何よりも教育に対する愛情と、総合的な人間力を採用時には基準にします。学生時代は勉学の他に様々なことにチャレンジしてください。

3. ヒアリング報告

上記教育系一般企業には、アンケートへの回答とは別に個別のヒアリングを行った。以下にてヒアリングの総括報告を行う。

(総合的な人間力)

教育系一般企業 8 社へのヒアリングを通じて見えてきたのは、新卒採用における企業側の「総合的な人間力」と「コミュニケーション能力」への重視の姿勢である。現代の企業では、一部の研究職や専門職を除き、業務に必要な知識や経験は、社員が入社してから身につけさせるという傾向が強く、企業側は、どのような状況や職種においても最大限の能力を発揮できる学生、つまり将来性と適応能力の高い学生を求めている。8 社ともに、微妙な差異はあるものの、採用時にトータルな人間性をチェックするという点においては、大まかな一致を見ることができた。

(コミュニケーション能力とチームワーク)

8 社中 5 社が重視すると答えた「コミュニケーション能力」は、企業や組織での業務において必須となるチームワークでの目的達成能力や、昨今益々重要性を増す発信能力、プレゼンテーション能力、ものごとを伝える能力のことであり、この能力にはトータルな人間性と表現力が必要であると言える。自らの思いを的確に伝え、他者の思いを正確に受け取る能力は、コンピュータ化、業務の細分化が進んだ現代では非常に重要な能力であり、あらゆる企業がその能力を重視していることは、論を待たない。個人だけの達成ではなく、チームワークにおいて目的を達成し、成果を出していくことが、8 社全てで重要視されていた。

(チャレンジ精神と成長意欲)

教育系一般企業の業務は、教室校舎運営、教材作成、編集制作、プログラム研究開発、企画、営業、マーケティング、管理、総務全般まで多岐に渡っており、生徒と教育への愛情と同等に、様々な未知の業務へのチャレンジ精神、成長意欲、創造性が求められるというのが、8 社全てからの共通見解であった。

(現場感覚と問題解決能力)

教育系一般企業は、学習塾や予備校という形で、教室を運営しているケースが多く、その教室や校舎の運営業務が、社員に求められる。その際に重要になるのは、机上の業務や書類作成能力ではない、身体を使った「現場感覚」や「問題解決能力」であり、それは教育者全般に求められる資質と能力でもある。当学部で学ぶ卒業予定者は、専門的な教育的知識と同時に、教育実習や幅広い教養、体育や図工などの実技的授業を通じて、高い「現場感覚」と「問題解決能力」を身につけることが可能である。

(学部と学科)

8 社のうち 7 社が、採用においては大学、学部、専攻での偏重や排除は行っていない、との回答を得た。文系理系問わず、幅広く人材を募集することで、総合的な潜在能力が最も高い人材を採用し

たいというのが、今回ヒアリングを行った企業の意向であり、これは多くの一般企業の姿勢であるとも推察される。一般企業の中でも、今回ヒアリングを行ったような教育系企業においては、教員免許や資格の取得を含めた、教育についての知識や技能を学んだ卒業生が就職に有利であることは、今回のヒアリング先企業からもおおむね賛同をいただいた。

(教員免許、保育士資格)

小学校、幼稚園教員免許、保育士資格については、その免許や資格を保持していることで、採用が有利になる可能性があるかもしれないが、どのような免許や資格を持っても、それだけで、自動的に無条件に採用の確度が高まることはないというのが、8社全ての共通の返答であった。ただし、小学生や幼稚園、乳幼児を対象とした業務を行っている企業においては、専門的な幼児教育、児童教育を受けていることは非常に重要である、と返答した企業も多く、当学部が養成する、教員免許を取得し、社会的応力を持った人間性豊かな卒業予定者については、採用時の選考において有利になるという点も、8社中7社(残りの1社は、ハイエンドを対象とした受験用通信教育がメインの企業である)より確認が取れた。

4. 資料：アンケート用紙

大阪成蹊大学 教育学部児童教育学科（設置準備中）
の設置構想に係わるアンケート調査票【教育系企業向け】

※別紙の「大阪成蹊大学教育学部（仮称）の概要」をご覧ください。
※大変お手数ですが、10月31日までにご送送いただきますようお願いいたします。
※このアンケート調査において得られた情報は、大阪成蹊大学教育学部（設置準備中）の設置構想に係る資料としてのみ活用するものであり、それ以外に使用することは一切ございません。

貴社名【 】

Q1. 貴社の主要業務概要を以下より選択してください。

1. 教育総合 2. 学習塾 3. 予備校
4. 出版 5. 通信教育 6. その他 ()

Q2. 貴社の社員数を以下より選択してください。

1. 1~20名 2. 21~50名 3. 51~100名
4. 101~200名 5. 201~500名 6. 501~1000名
7. 1000名以上

Q3. 2012年4月の新卒採用結果を教えてください。

【採用者合計】

1. 0名 2. 1~5名 3. 6~20名
4. 21~50名 5. 51~100名 6. 101名以上

【採用者の内訳】

四年制大学 教育学部 新卒	四年制大学 教育学部以外 新卒	短期大学 新卒	専門学校 新卒	高校 新卒	既卒 その他
名	名	名	名	名	名

Q4. 今後の4年制大学生の採用計画を教えてください。(あてはまるものを一つ)

1. 採用枠を拡大する予定
2. 現行並みの採用枠とする予定
3. 採用枠を縮小する予定
4. しばらく採用は考えていない
5. 未定

Q5. 貴社が採用する学生に求める能力は何ですか。(あてはまるもの全てに○)

1. コミュニケーション能力	2. 基礎的な学力
3. 専門的な知識	4. 社会常識
5. 積極的な行動力	6. 仕事への積極性
7. チームで働く力	8. 教育への情熱
9. 目標達成への意欲	10. トラブル解決能力
11. 忍耐力	12. ボランティアでの経験など
13. 取得資格	14. その他（ ）

Q6. 大阪成蹊大学教育学部(設置準備中)の卒業生を採用する可能性はありますか。(あてはまるものを一つ)

1. 採用したい 2. どちらとも言えない 3. 採用の予定はない

Q7. 今後、貴社より大阪成蹊大学教育学部(設置準備中)の卒業生を採用していただくためには、どのようなことが必要でしょうか。ご自由にお答え下さい。

一般企業追加アンケート調査結果

(調査期間:平成25年8月1日から8月8日)

番号	企業名	業種	上場区分	所在地	回答
1	高木証券(株)	証券	東証2部	大阪市北区	採用したい
2	(株)ジョイックコーポレーション	アパレル		東京都中央区	採用したい
3	宝不動産(株)	不動産		名古屋市熱田区	採用したい
4	サンヨーホームズ(株)	住宅	東証1部	大阪市西区	採用したい
5	福西電機(株)	電設資材		大阪市北区	採用したい
6	(株)コスモネット	情報通信		京都市中京区	採用したい
7	(株)ダイサン	建築資材	東証2部	大阪市中央区	どちらとも言えない
8	ブリヂストンタイヤ北大阪販売(株)	タイヤ		大阪府豊中市	採用したい
9	(株)イケガミ	アパレル		大阪市北区	採用したい
10	(株)ウエルネスサプライ	スポーツ施設派遣		大阪市西区	採用したい
11	(株)ネットヨタ中央大阪	カーディーラー		大阪市中央区	採用したい
12	(株)寺内	雑貨卸		京都市中京区	採用したい
13	(株)家族亭	外食		大阪市中央区	採用したい
14	佐川印刷(株)	印刷		京都府向日市	採用したい
15	大阪レンタル(株)	建機レンタル		大阪府茨木市	採用したい
16	(株)アイテム	通信商社		大阪市西区	採用したい
17	ゴールドフラッグ(株)	アパレル		大阪市中央区	どちらとも言えない
18	エクセルヒューマン(株)	SPA(製造小売)		大阪府堺市	採用したい
19	(株)トランスコスモス・テクノロジーズ	情報通信		横浜市西区	採用したい
20	ストーリーテラー(株)	写真スタジオ		大阪市城東区	どちらとも言えない
21	(株)万代	小売		大阪府東大阪市	採用したい
22	ロングライフホールディング(株)	介護サービス	ジャスダック	大阪市北区	採用したい
23	(株)ソーシャルブリッジ	人材紹介・教育		東京都千代田区	採用したい
24	(株)ベネッセコーポレーション	教育		岡山市	採用したい
25	(株)学情	人材広告・紹介		大阪市北区	採用したい
26	(株)夢真ホールディングス	建設	ジャスダック	東京都文京区	採用したい
27	(株)ライセンスアカデミー	教育		東京都新宿区	採用したい
28	タマノイ酢(株)	食品		大阪府堺市	採用したい
29	(株)カトープレジャーグループ	レジャー		大阪市天王寺区	採用したい
30	(株)関西丸和ロジスティクス	物流・運輸		京都府綾部市	採用したい
31	(株)大倉	住宅・建築		大阪市北区	採用したい
32	(株)ネクスト	インターネット付随サービス	東証1部	東京都港区	採用したい
33	(株)タムラ製作所	電子機器製造	東証1部	東京都練馬区	採用したい
34	(株)阪南ビジネスマシン	印刷・OA機器販売		大阪府堺市	採用したい
35	日本PCサービス(株)	家電機器修理サービス		大阪府吹田市	採用したい
36	(株)アッシュペーパー	ファッション		東京都渋谷区	採用したい
37	(株)成学社	教育	ジャスダック	大阪市北区	採用したい
38	オークラハウジング(株)	住宅管理		大阪市北区	採用したい
39	(株)カプコン	ゲーム開発・販売	東証1部	大阪市中央区	どちらとも言えない
40	大倉土木(株)	土木		大阪市北区	採用したい
41	(株)トーセ	ゲーム開発	東証1部	京都市下京区	どちらとも言えない
42	オグランジャパン(株)	アパレル製造		東京都中央区	採用したい
43	合鐵産業(株)	鉄鋼		大阪市北区	採用したい
44	(株)ロードカー	自動車		大阪市西区	採用したい
45	(株)ダイリキ	小売		大阪市西区	採用したい
46	(株)ワンダイニング	飲食		大阪市西区	採用したい
47	リゾートトラスト(株)	ホテル	東証1部	名古屋市中区	採用したい
48	(株)ナルミヤ・インターナショナル	アパレル		東京都港区	採用したい
49	KOSモバイル(株)	情報通信		大阪市西区	採用したい
50	(株)パイオン	情報通信	ジャスダック	大阪市中央区	採用したい

51	(株)トヨタカローラ新大阪	自動車		大阪市淀川区	採用したい
52	(株)チュチュアンナ	アパレル		大阪市阿倍野区	採用したい
53	(株)ツカサ	インテリア		京都市右京区	どちらとも言えない
54	旭商工(株)	商社		大阪府高槻市	どちらとも言えない
55	(株)ジェイアール西日本フードサービスネット	鉄道		大阪市淀川区	採用したい
56	(株)信和ゴルフメンテナンス	ゴルフ場運営		京都市中京区	採用したい
57	(株)トヨタレンタリース京都	リース		京都市南区	採用したい
58	(株)ダイヤモンドソサエティ	ホテル		大阪市中央区	採用したい
59	(株)シティーヒル	アパレル		大阪市中央区	採用したい
60	(株)八光殿	冠婚葬祭		大阪府八尾市	採用したい
61	(株)ハナテン	中古車		大阪市城東区	どちらとも言えない
62	(株)G-7ホールディング	カー用品・業務スーパー		神戸市須磨区	どちらとも言えない
63	(株)イレブンインターナショナル	自動車シート製造		大阪府松原市	どちらとも言えない
64	(株)辰巳電子工業(株)	ゲーム開発		奈良県橿原市	採用したい
65	(株)くらコーポレーション	飲食		大阪府堺市	採用したい
66	(株)引越社関西	物流		大阪府吹田市	採用したい
67	(株)マリノ	イタリアレストラン		横浜市港北区	採用したい
68	(株)ニッカ	靴販売		千葉県浦安市	採用したい
69	(株)オペーションファクトリー	飲食・調理		大阪市西区	採用したい
70	(株)Be-Groove	アパレル		大阪市北区	採用したい
71	(株)フジデン	情報通信		兵庫県尼崎市	採用したい
72	(株)ファニーワーク	教材販売		埼玉県上尾市	採用したい
73	(株)ユタカ研装	建設		大阪市浪速区	採用したい
74	(株)キンレイ	外食		大阪市中央区	採用したい
75	(株)三井住友銀行	金融	東証1部	東京都千代田区	採用したい
76	(株)関西アーバン銀行	金融	東証1部	大阪市中央区	採用したい
77	(株)りそな銀行	金融	東証1部	東京都江東区	採用したい
78	摂津水都信用金庫	金融		大阪府茨木市	採用したい
79	(株)富士通マーケティング	情報通信		東京都文京区	採用したい
80	(株)内田洋行	事務機	東証1部	大阪市中央区	採用したい
81	(株)阪急製作所	建築		大阪市淀川区	採用したい
82	阪急百貨店ユニフォーム(株)	制服販売		大阪市北区	採用したい
83	(株)前田組	建設・土木		大阪府寝屋川区	採用したい
84	(株)滋賀銀行	金融	東証1部	滋賀県大津市	採用したい

(集計)

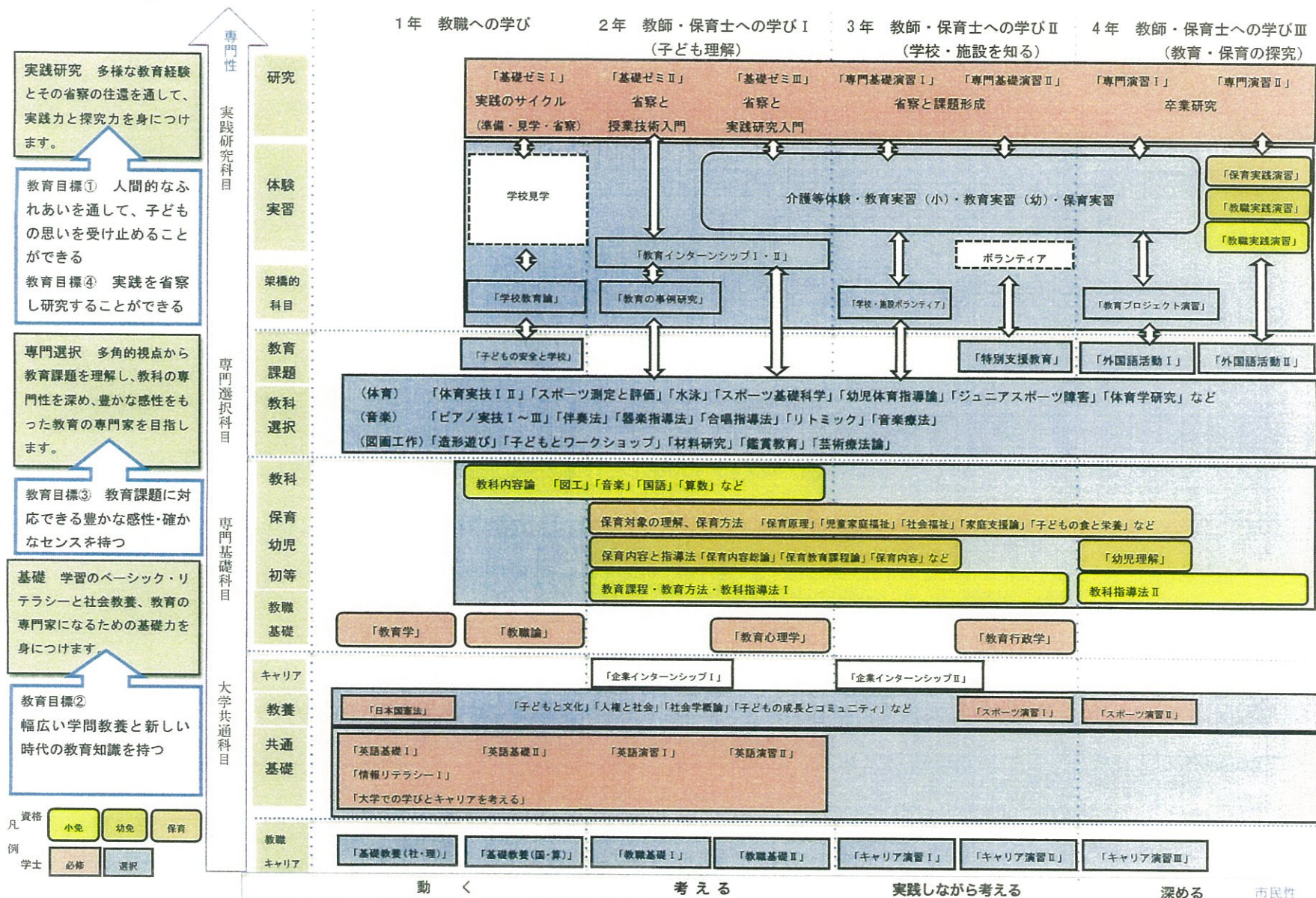
調査対象企業数	回答数	「採用したい」の 回答数	「どちらとも言えない」の回答数
84	84	74	10

資料 8

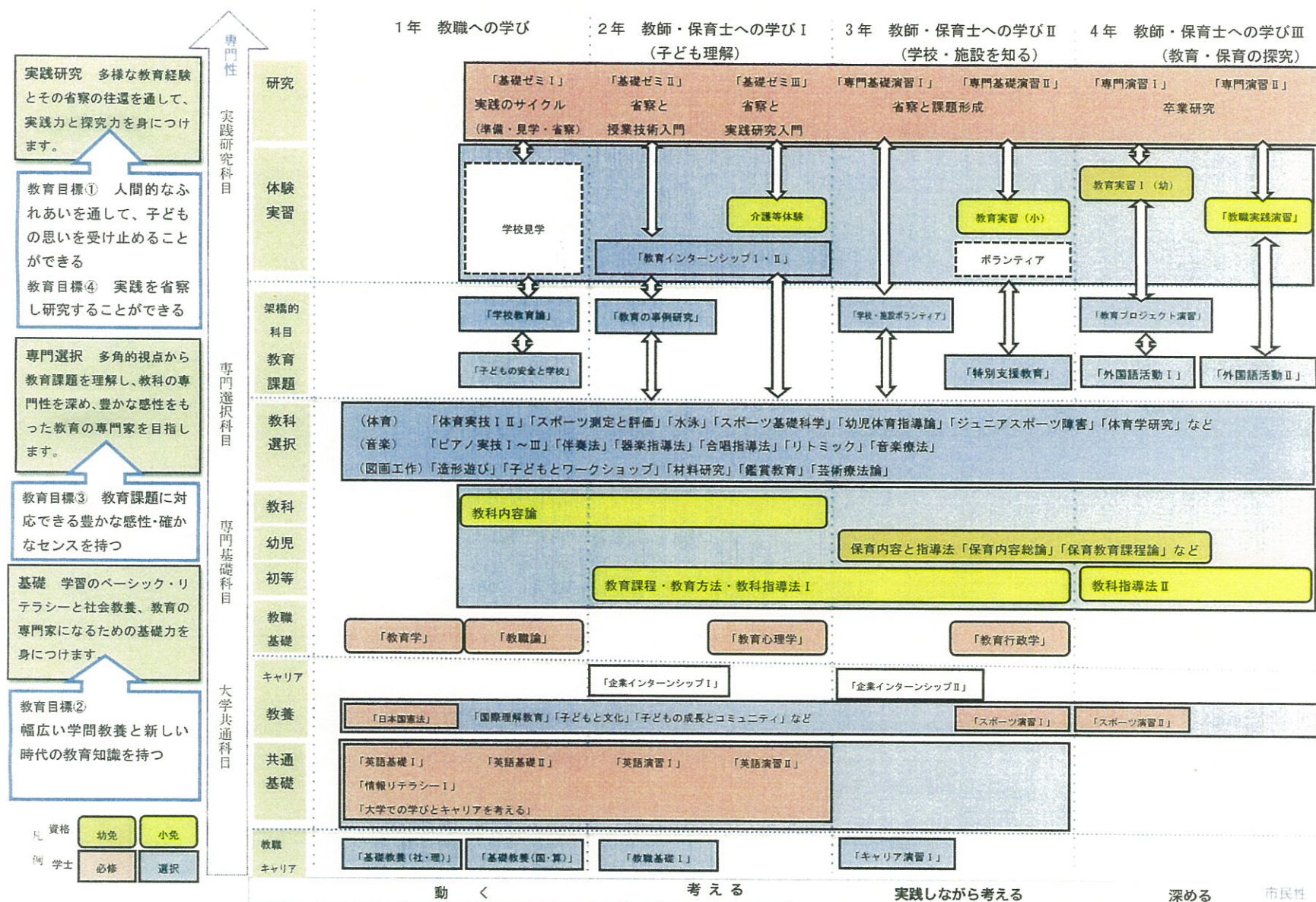
教育課程概念図

- 教育課程概念図（卒業要件）
- 教育課程概念図（初等教育コース）
- 教育課程概念図（幼児教育コース）

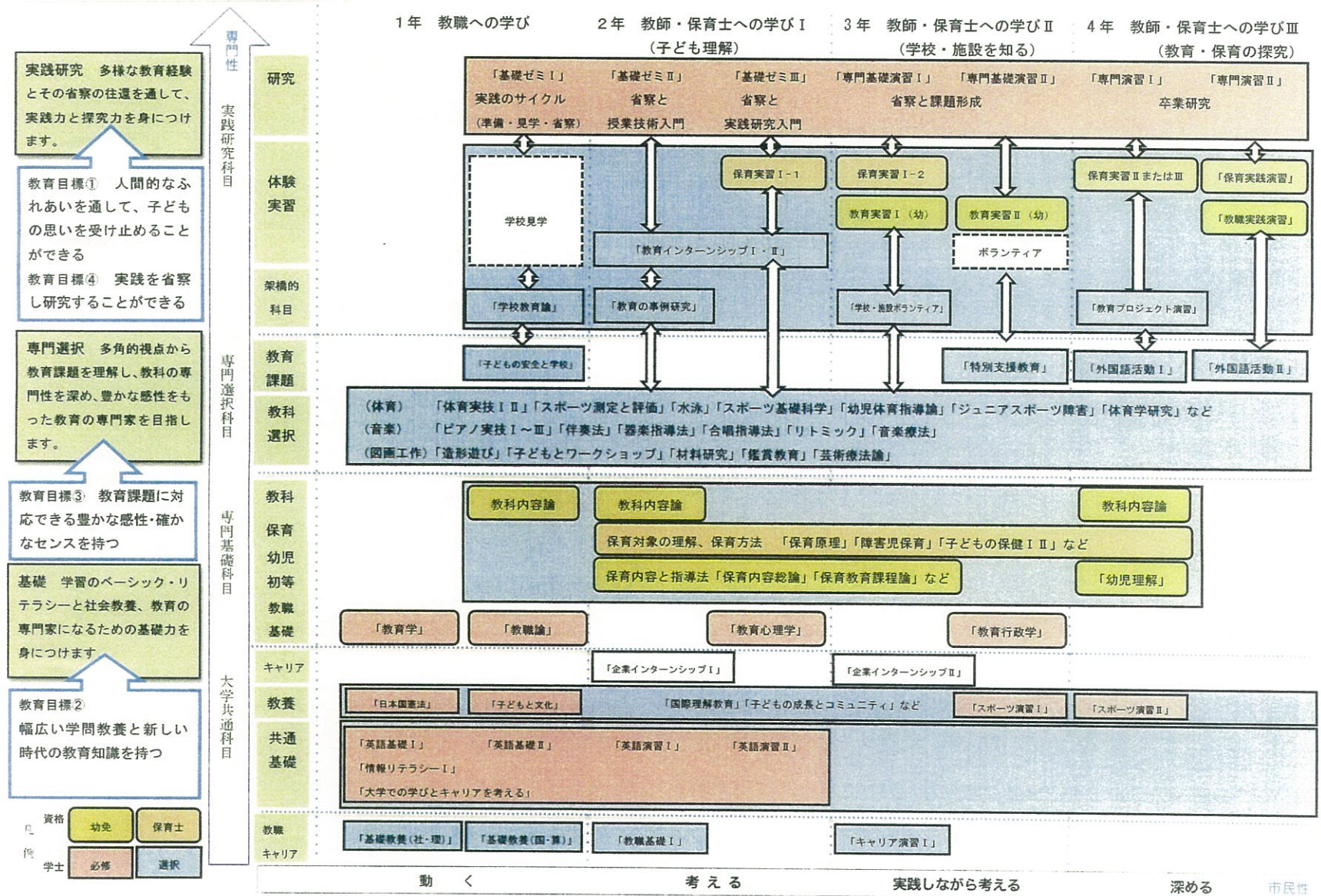
○ 教育課程概念図（卒業要件）



○ 教育課程概念図（初等教育コース）



○ 教育課程概念図（幼児教育コース）



資料 9

大阪成蹊学園定年規程

昭和44年4月1日
制定

第1条 大阪成蹊学園(以下「学園」という。)に勤務する専任教職員の定年は、次のとおりとする。

- (1) 大学並びに短期大学の教授、准教授、講師及び助教は、満65歳とする。
- (2) 中学・高等学校の教諭及び養護教諭は、満62歳とする。
- (3) 幼稚園の教諭は、満60歳とする。
- (4) 事務職員、技術職員及び校務員は、満62歳とする。
- (5) 大学並びに短期大学において、副学長、学部長、学長補佐、学科長の役職にある教員のうち、副学長、学部長にあつては、その教員の定年退職日の翌日から起算して、2年を超えない範囲内で、また、学長補佐、学科長にあつては、その教員の定年退職日の翌日から起算して、1年を超えない範囲内で期限を定め、それぞれの当該役職に従事するために定年期限を延長することができる。但しいずれの場合も70歳を超えることはできない。

第2条 退職時期は、定年に達した日の属する年度末とする。なお、延長された期限が到来する前に、延長事由が存しなくなった場合の退職時期は、当該年度末とする。

第3条 学園の役員であつて常勤する者については、この規程を適用しない。

第4条 「大阪成蹊大学及びびわこ成蹊スポーツ大学の教員任期に関する規程」及び「大阪成蹊短期大学の教員任期制に関する規程」に定める任期期間の途中であっても、学園定年規程を優先して適用する。

附 則

平成17年3月31日現在学園に専任技術職員及び校務員として在籍している者(平成15年度開設の大学設置申請において採用予定の者で平成17年4月1日以降に勤務する者を含む。)は下記の規程を適用する。

- (1) 技術職員及び校務員は、満67歳とする。

附 則

この規程は、昭和44年4月1日から施行する。

附 則(昭和47年4月1日)

この規程は、昭和47年4月1日から施行する。

附 則(昭和63年4月1日)

この規程は、昭和63年4月1日から施行する。

附 則(平成4年4月1日)

この規程は、平成4年4月1日から施行する。

附 則(平成15年4月1日)

この規程は、平成15年4月1日から施行する。

附 則(平成17年3月18日)

この規程は、平成17年4月1日から施行する。

附 則(平成18年12月21日)

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

附 則(平成21年12月15日)

この規程は、平成22年4月1日から施行する。

附 則(平成22年9月21日)

この規程は、平成23年4月1日から施行する。

大阪成蹊学園特別招聘教員就業規則

平成21年1月22日
制定

(目的)

- 第1条 この規程は、大阪成蹊大学、びわこ成蹊スポーツ大学及び大阪成蹊短期大学(以下「本学」という。)の特別招聘に任用する教員(以下「特別招聘教員」という。)に関し、必要な事項を定めることを目的とする。
- 2 この規程及びこれに付随する諸規程に定められていない事項については、労働基準法、「大阪成蹊学園就業規則」の定めによる。ただし特定の招聘教員について異なる定めをした場合はこの限りではない。

(定義)

- 第2条 特別招聘教員とは、国内外において顕著な業績、高度の専門的学識又は技能を有する者で、本学において教育研究に従事する教員として、大阪成蹊学園定年規程にかかわらず外部から招聘し、期間を定めて雇用する教員をいう。また、外部招聘以外に、本学教員として在籍し、顕著な教育研究上の業績を有する者や、本学の教育研究活動の進展に寄与すると認められる者が、本学を退職した場合、教育研究業務に著しく支障があると認められる場合は、退職後、特別招聘教員として、招聘する場合があります、いずれも任期制教員の適用外とする。

(採用)

- 第3条 特別招聘教員の招聘は、選考によるものとし、「大学教員資格審査等委員会」の議を経て、これを理事会において審議するものとする。

(雇用契約書)

- 第4条 学園は特別招聘教員の採用に際しては、次の各号に掲げる事項を記載した雇用契約書を取り交わすものとする。
- (1) 雇用契約期間に関する事項
 - (2) 就業の場所及び従事する業務に関する事項
 - (3) 始業及び就業の時刻、休憩時間、休日及び休暇に関する事項
 - (4) 給与に関する事項

- (5) 退職に関する事項
- (6) 安全・衛生に関する事項
- (7) 私学共済加入等に関する事項

(雇用期間)

第5条 特別招聘教員の雇用期間は、満年齢70歳に達する年度末までを限度に、1年毎の契約更新を行う。なお新学部の設定に際し、満70歳未満で採用し、その後、満年齢70歳を超える場合であっても、完成年度の年度末までは雇用を継続できるものとする。

2 前項の更新の可否は当法人の経営状況、教員の勤務成績及び勤務態度等によって理事長が決定する。

3 更新後の雇用期間は4月1日から翌年3月31日までとする。

4 契約更新をしない場合は、契約期間満了日の30日前までに当該教員に通知する。

ただし、契約期間満了後に更新しないことをあらかじめ通知している場合は、この限りではない。

(教員の階層)

第6条 特別招聘教員は、原則として教授職とする。

(勤務時間)

第7条 勤務時間は休憩時間を除き、1週間に40時間を超えないものとする。

始業時刻及び終業時刻は、次のとおりとする。

始業時刻 午前8時50分

終業時刻 午後5時20分

休憩時間は、1時間とする。

2 業務の都合、勤務場所等により、前項と異なる定めをすることができる。

また、休憩時間の配分は、勤務場所等によって所属長がこれを定める。

(出退勤記録)

第8条 特別招聘教員は、各人が毎日始業開始時刻及び終業時刻を勤務時間等の自己確認記録表に記録して就業を明らかにする。

(遅刻、早退、欠勤等)

第9条 遅刻、早退又は欠勤するときは、事由を具して届出て、業務に支障を来たさぬようにすること。

2 病欠欠勤が7日以上に及ぶときは医師の診断書を添付するものとする。

(休日)

第10条 特別招聘教員の休日は、次のとおりとする。

- (1) 土日曜日及び国民の祝日に関する法律に規定する休日
- (2) 12月29日から翌年の1月3日まで
- (3) 学園創立記念日(4月20日)

(休日出勤)

第11条 業務の都合上必要とする場合は、休日に勤務させることがある。この場合は原則として他の日に振替休日を取るものとする。

(有給休暇)

第12条 特別招聘教員には、労働基準法に定める年次有給休暇(以下「年休」という)日数を与える。

- 2 前1項の年休は、その願いがあっても業務運営上支障があると認めた場合は他の時期に変更することができる。
- 3 年休は1日又は半日を単位として請求することができる。
- 4 年休は、これを次年度に繰り越すことができる。ただし請求期限は2年とする。

(服務規律)

第13条 服務規律は「大阪成蹊学園就業規則」第19条に準ずるものとする。

第14条 特別招聘教員は次の各号のいずれかに該当する行為をしてはならない。

- (1) 理事長の許可を受けないで、在籍のまま他事業に従事し、または労務に服すること。
- (2) 学園の名誉または信用を傷つけるような行為をすること。
- (3) 業務上の機密事項または学園が不利益となる事項をもらすこと。
- (4) 職務上の権限を超え、または専断的な行為をすること。
- (5) 学園内での政治活動、宗教活動その他教育に直接関係のない活動を理事長の許可を得ずに行うこと。
- (6) 学園の内外を問わず職員として体面を傷つける行為をすること。

(給与)

第15条 特別招聘教員の給与は年俸制とし、その者の学歴及び業績評価等を勘案し個別に定める。

- 2 月額支給額は、年俸額の12分の1を支給する。
- 3 月額で支給する給与の計算期間は当月1日から月末までとする。
- 4 給与は、毎月21日に支給する。21日が休日に当たる場合は、その前日に支給する。

- 5 採用する月において、その月の雇用期間が1ヶ月に満たない場合は、当該月度の勤務日数を基に日割計算を行う。
- 6 通勤費以外の手当並びに退職金は支給しない。
- 7 通勤費は「大阪成蹊学園給与規程」第17条及び第18条の規程を準用し支給する。

第16条 給与は通貨で所得税、社会保険料その他法令で定められたもの等を控除して本人が指定する銀行口座に振り込み支給する。

第17条 特別招聘教員採用にあたっての提出書類は「大阪成蹊学園就業規則」第26条の規程を準用する。

第18条 特別招聘教員が雇用契約期間の途中において契約を解約し、退職しようとするときは、1ヶ月前までに所属長を経て退職願いを理事長宛提出するものとする。

第19条 次の各号の一に該当するときは、その教員の雇用契約は解約とし、特別招聘教員としての身分を失う。

- (1) 雇用契約の途中で、解約を申し出て承認されたとき。
- (2) 「大阪成蹊学園就業規則」第49条第2項別表第1により解雇されたとき。
- (3) 更新時、雇用契約の合意に至らなかったとき。

(解約)

第20条 特別招聘教員が次の各号のいずれかに該当するときは雇用契約を解約する。

- (1) 雇用契約期間満了で学園からの再契約の意思表示がなかったとき。
- (2) 死亡したとき。
- (3) 精神又は身体の障害については、適正な雇用管理を行ない、雇用の継続に配慮してもなおその障害により業務に耐えられないと認められたとき。
- (4) 勤務態度または能力・適正が著しく劣るとき、及び注意・指導を受けて直らないとき。
- (5) 第13条及び第14条の服務規程に違反したとき。
- (6) 無断欠勤が14日に及んだとき。
- (7) 成年被後見人または被保佐人になったとき。
- (8) 禁固刑以上の刑に処せられたとき。
- (9) 事業の運営上止むを得ない事情又は天変地異、その他これに準ずる止むを得ない事情により、事業の継続が不可能になったとき。
- (10) その他、「大阪成蹊学園就業規則」第49条第2項別表第1に規定する非違行為のいずれかに該当するとき。

(解約の予告)

第21条 契約を解約するときには、30日前に予告するかまたは30日分の平均賃金を支給する。平均賃金を支給したときは、その日数を予告すべき日数より減ずる。

ただし、前条1号から3号による場合はこの限りではない。

(解約の制限)

第22条 次の場合は解約をしない。ただし、行政官庁の認定を受けた場合は、この限りではない。

- (1) 業務上の負傷、疾病により就業できない期間及びその後の30日間。
- (2) 女性については産前6週間(多胎妊娠の場合は14週間)、産後8週間内の当該休業期間中及びその後30日間。

(解約の特例)

第23条 第20条9号及び10号に該当するときは第21条の規程にかかわらず、即時解約する。

(退職後の責務)

第24条 退職又は解雇された特別招聘教員は、在職中に知りえた秘密を他に漏らしてはならない。

(病者の就業禁止)

第25条 学園は特別招聘教員が、次の各号のいずれかに該当するときは、医師の判断により就業を禁止する。

- (1) 法定伝染病にかかっている場合
- (2) 著しく伝染の危険がある疾病にかかっている場合
- (3) 前各号の疑似患者または就業により疾病が悪化する恐れのある場合
- (4) その他の疾病で就業が不相当と認められた場合

(安全及び衛生)

第26条 特別招聘教員は、安全、衛生及び健康確保について、関係法令ほか、学園の指示を守るとともに、学園が行う定期健康診断の受診、その他安全衛生に関する措置に互いに協力しなければならない。

(医師の指示)

第27条 公衆衛生上、医師が予防医学的措置を必要と認めたときは、特別招聘教員は医師の指示に従う。

(業務上の災害補償)

第28条 特別招聘教員が業務上負傷し、又は疾病にかかった場合は、労働者災害補償保険法の規定するところにより補償を受ける。

2 前項の補償が行われるときは、学園は労働基準法上の補償の責を免れる。

第29条 この規程の改廃は理事会にて行う。

附 則

この規則は、平成21年4月1日から施行する。

附 則(平成22年7月20日)

この規則は、平成22年7月20日から施行する。

附 則(平成23年2月15日)

この規則は、平成23年4月1日より施行する。

附 則(平成24年11月22日)

この規則は、平成24年12月1日から施行する。

資料 11-①

平成25年4月18日、理事会資料

理 事 会 議 事 録

1. 日 時 平成25年4月18日(木) 9時30分～10時15分

1. 場 所 大阪市東淀川区相川 3-10-62 特別会議室

1. 理事現在数 15名 (理事定数 10名～17名)

1. 出席理事 14名

石 井 茂 伊 藤 一 比 古 佐 藤 英 夫 武蔵野 實
飯 田 稔 岡 本 正 志 紺 野 昇 柴 田 一 子
澤 田 克 之 河 野 正 俊 磯 川 正 明 脇 阪 恵 博
松 田 貴 典 清 水 史 郎

1. 意思表示出席 1名
三 村 寛 一

1. 欠 席 理 事 なし

1. 出 席 監 事 郷 田 紀 明 湯 浅 光 章

1. 欠 席 監 事 なし

1. 陪 席 山 本 昌 直 宮 地 茂 樹 脇 坂 信 夫

1. 議 案

大阪成蹊大学教育学部設置後 完成年度までに定年及び雇用上限年齢に達する教員の取扱いについて

1. 議案審議の経過及びその結果

定刻となったので石井茂理事長が議長となり、開会する旨を宣し議案の審議に入った。
議事の経過及びその結果は次のとおりである。

議 案 大阪成蹊大学教育学部設置後 完成年度までに定年及び雇用上限年齢に達する
教員の取扱いについて

議長の指名により武蔵野理事(大阪成蹊大学学長)から、平成26年4月1日より開設の教育学部所属予定教員のうち、三村寛一氏(平成24年10月1日から特別招聘教員として採用)は平成28年度に特別招聘教員の上限年齢満70歳に達し、山田敏男氏については平成26年度に専任教員の定年年齢に達することとなる。

三村氏については、特別招聘教員就業規則第5条の規定により「新学部の設定に際し、満70歳未満で採用し、その後満70歳を超える場合であっても、完成年度の年度末までは雇用を継続できるものとする。」との条項を適用し、山田氏については、平成27年4月1日付けで特別招聘教員として採用し、同様の規定により完成年度の年度末まで雇用を継続することとしたいと別添

資料に基づき説明があった。

出席理事により協議を重ねた結果、原案どおり三村氏及び山田氏を完成年度の年度末まで雇用を継続することで出席理事全員の賛成により承認可決した。

議長は議事終了の旨を告げ、10時15分散会した。

この議事録は原本と相違ないことを証明します。

平成25年5月17日

学校法人 大阪成蹊学園

理事長 石 井 茂



大阪成蹊大学教育学部設置後 完成年度までに定年及び雇用上限年齢に達する教員の取扱いについて

【審議】

教育学部設置が認可されたときには、完成年度までに定年及び雇用上限年齢に達する教員2名に対する雇用について、以下の通り取り扱うこととしたい。

【雇用の取り扱い】

平成26年4月1日より開設の大阪成蹊大学 教育学部に所属予定教員のうち、完成年度までに定年及び雇用上限年齢に達する教員が2名いるが、設置時に申請した教員は完成年度までは変更ができないので、それぞれ以下の対応を行う。

【完成年度までに定年に達する教員】

三村 寛一 大阪成蹊学大学 副学長 兼 教育学部長（予定）

（ 現大阪成蹊大学 副学長 → 平成26年4月1日付で大阪成蹊学大学 副学長 兼 教育学部長就任予定 ）

山田 敏男 大阪成蹊大学 教育学部 准教授

（ 現大阪成蹊短期大学 児童教育学科 → 平成26年4月1日付で大阪成蹊学大学 教育学部へ異動 ）

【それぞれの取り扱い】

- ・ 三村 寛一 副学長（昭和21年11月21日生）

平成24年10月1日から特別招聘教員で採用。平成28年度には特別招聘教員の上限年齢満70歳に達するが、大阪成蹊学園特別招聘教員就業規則第5条に「新学部の新設に際し、満70歳未満で採用し、その後、満年齢70歳を超える場合であっても、完成年度の年度末までは雇用を継続できるものとする。」という条項があり、当該教員にはこの条項を適用する。

- ・ 山田 敏男 准教授（昭和24年4月13日生）

平成26年度に専任教員の定年年齢満65歳に達するため、平成27年4月1日付で、特別招聘教員として採用するものとする。

資料 11-②

平成25年8月26日、理事会資料

理 事 会 議 事 録

1. 日 時 平成25年8月26日(月) 9時30分～10時30分

1. 場 所 大阪市東淀川区相川3-10-62 特別会議室

1. 理事現在数 16名 (理事定数 10名～17名)

1. 出席理事 15名

石 井 茂	佐 藤 英 夫	武蔵野 實	飯 田 稔
岡 本 正 志	紺 野 昇	柴 田 一 子	澤 田 克 之
河 野 正 俊	磯 川 正 明	脇 阪 恵 博	松 田 貴 典
三 村 寛 一	清 水 史 郎	脇 坂 信 夫	

1. 意思表示出席 なし

1. 欠席理事 1名
伊 藤 一比古

1. 出席監事 郷 田 紀 明 湯 浅 光 章

1. 欠席監事 なし

1. 陪 席 山 本 昌 直 宮 地 茂 樹 六 室 匡 司

1. 議 案

第1号議案 大阪成蹊大学教育学部(仮称) 専任教員等の採用について

第2号議案 大阪成蹊大学教育学部(仮称) への学内教員の異動について

1. 議案審議の経過及びその結果

定刻となったので石井茂理事長が議長となり、開会する旨を宣し議案の審議に入った。

議事の経過及びその結果は次のとおりである。

第1号議案 大阪成蹊大学教育学部(仮称) 専任教員等の採用について

議長の指名により武蔵野理事(大阪成蹊大学学長)から、大阪成蹊大学教育学部(仮称)は現在設置認可申請中であるが、教育研究をより充実させるため教育学部(仮称)に平成26年度より特別招聘教員1名(園田雅春氏 採用時66歳)を採用し、平成27年度より専任教員1名(赤沢真世氏 採用時36歳)を採用することとしたいと別添資料に基づき説明があった。

出席理事により協議を重ねた結果、原案どおり大阪成蹊大学教育学部(仮称)に平成26年4月1日より園田雅春氏を特別招聘教授として採用し(新学部完成年度までは雇用を継続)、平成27年4月1日より赤沢真世氏を准教授として採用することで出席理事全員の賛成により承認可決した。

第2号議案 大阪成蹊大学教育学部(仮称) への学内教員の異動について

議長の指名により武蔵野理事(大阪成蹊大学学長)から、大阪成蹊大学においては教育学部設置認可申請中であり、教育学部設置認可を前提として平成28年4月1日付けで大阪成蹊短期大学藤崎(本名 湯田)亜由子准教授(児童教育学科 専任教員)を大阪成蹊大学教育学部(仮称)に異動させることとしたいと別添資料に基づき説明があった。

出席理事により協議を重ねた結果、原案どおり平成28年4月1日付けで大阪成蹊短期大学児童教育学科藤崎(本名 湯田)亜由子准教授を大阪成蹊大学教育学部(仮称)に異動することで出席理事全員の賛成により承認可決した。

議長は議事終了の旨を告げ、10時30分散会した。

上記議決を明確にするため、議長及び出席理事において次に記名押印する。

平成25年8月26日

学校法人 大阪成蹊学園

この議事録は原本と相違ないことを証明します。

平成25年8月26日

学校法人 大阪成蹊学園

理事長 石 井 茂



大阪成蹊大学教育学部（仮称） 専任教員等の採用について

【審議】

大阪成蹊大学教育学部（仮称）に特別招聘教員 1 名、専任教員 1 名を採用する。 （追加採用）

【採用理由】

平成 26 年度新学部設置については現在認可申請中であるが、教育研究をより充実させるため、下記のとおり 2 名の教員を追加採用することとする。
 なお、採用日は平成 26 年 4 月 1 日 および 平成 27 年 4 月 1 日とする。

* 学校教育に関する教育学分野 2 名 （平成 26 年度採用 1 名、平成 27 年度採用 1 名）

【候補者・推薦理由】

教育学部（仮称）

園田 雅春（そのだ まさはる） 特別招聘教授 26 年度採用 採用時 66 歳

大阪教育大学教育学部小学校教員課程を卒業後、大阪府高槻市立小学校教諭を 31 年間務め、この間大阪教育大学大学院教育学研究科修士課程を修了。その後甲子園短期大学教授を 5 年間務めた後、大阪教育大学教授を 6 年間務め、その間同大学附属小学校の校長を 2 年間兼務し、現在大阪教育大学特任教授の現職。教育方法学が専門で、生徒指導論、学級形成論の分野で多数の著書・論文がある。

上記により、教育学部（仮称）の生徒・進路指導論、道德教育の指導法、特別活動の指導法の授業担当教員として適任であると判断する。

なお、特別招聘教員として採用し、新学部完成年度（29 年度）の年度末までは雇用を継続することとする。

赤沢 真世（あかざわ まさよ） 准教授 27 年度採用 採用時 36 歳

京都大学教育学部教育学科を卒業後、同大学院教育学研究科（博士課程）に入学して修士（教育学）を取得、博士課程単位取得退学。

引き続き、平成 20 年 4 月から京都大学大学院教育学研究科の助教を 2 年間勤めた後、立命館大学スポーツ健康科学部の准教授として採用され、現在に至っている。教育方法学が専門で、学術論文の発表や論文作成の面でも活躍中である。

上記により、教育学部（仮称）の教育課程論、教育方法論の授業担当教員として適任であると判断する。

【採用者の決定】

理事会審議を経て、大阪成蹊大学および人事本部にて採用手続きを行う。

なお、文部科学省への新学部設置申請および教職課程認定審査の過程で、設置授業科目に関して担当不可とされた場合は採用しない。

また設置認可を受けて、平成 26 年度および平成 27 年度より平成 29 年度までの就任を誓約する者である。

大阪成蹊大学教育学部（仮称）への学内教員の異動について

【審議】

平成 28 年 4 月 1 日付けで下記のとおり学内教員を教育学部へ異動させることとしたい。

※別途 H25.4.18 開催理事会にて H26.4.1 付で 9 名の異動は承認済

【教育学部への異動】

●対象者 1 名 （職位については変更することがある）

氏名	現所属	異動後
藤崎 亜由子 (本名:湯田)	大阪成蹊短期大学 児童教育学科・准教授	大阪成蹊大学 教育学部・准教授

奈良女子大学文学部教育学科を卒業、同大学院人間文化研究科前期博士課程を修了。

同大学院後期博士課程を修了し、博士(学術)の学位を得ている。

平成 17 年から大阪経済法科大学教養部の特別専任講師・准教授を 5 年間務めた後、平成 22 年 4 月から大阪成蹊短期大学児童教育学科の特別任用准教授を経て、現職は大阪成蹊短期大学児童教育学科准教授。その間、臨床発達心理士の資格を取得し発達心理学を研究分野とし学術論文の発表や論文作成の面でも活躍中である。

上記により、教育学部（仮称）の幼児理解の授業担当教員として適任である。

●異動発令日

平成 28 年 4 月 1 日付（但し、教育学部設置認可が前提となる。）

教育学科の履修モデル

- ① 卒業要件のモデル
- ② 小学校教諭一種免許状の取得を目指すモデル
- ③ 幼稚園教諭一種免許状の取得を目指すモデル
- ④ 保育士資格の取得を目指すモデル
- ⑤ 小学校教諭、幼稚園教諭一種免許状の取得を目指すモデル
- ⑥ 幼稚園教諭一種免許状と保育士資格の取得を目指すモデル

① 卒業要件のモデル

		1年次				2年次				3年次				4年次				卒業要件	
科目区分		前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	指定	計
大学 共通科目	共通基礎科目	大学入門基礎講座	大学での学びとキャリアを考える	2														2	22
		情報処理	情報リテラシーⅠ	2														2	
		外国語	英語基礎Ⅰ	1	英語基礎Ⅱ	1	英語演習Ⅰ	1	英語演習Ⅱ	1	英語表現Ⅰ	1	英語表現Ⅱ	1				6	
		人間の理解																10	
		現代社会と国際理解	日本国憲法	2				人権と社会	2	社会学概論	2								
		科学技術と環境の理解																	
		地域文化の理解																	
		子どもと社会			子どもと文化	2										子どもの成長とコミュニティ	2		
		健康とスポーツ											スポーツ演習Ⅰ	1	スポーツ演習Ⅱ	1		2	
		キャリア支援科目																	
専門 基礎科目	基礎	第二欄		教職論	2													8	84
		第三欄	教育学	2				教育心理学	2			教育行政学	2						
	初等教育	第四欄																	
	幼児教育						保育内容総論	2	保育教育課程論(幼)	2	保育内容(環境)	2							
							保育内容(表現1)	2	保育内容(人間関係)	2	保育内容(言葉)	2							
							保育内容(健康)	2	保育内容(表現2)	2	保育方法論	2							
	保育						保育原理	2					家庭支援論	2					
									児童家庭福祉	2	社会福祉	2							
													子どもの食と栄養	2					
	教科			図画工作科内容論	2	国語科内容論	2												
				音楽科内容論	2	算数科内容論	2												
														生活科内容論	2				
														体育科内容論	2				
専門 選択科目	教科選択	体育実技Ⅰ	1	体育実技Ⅱ	1	幼児体育指導論	2											10	
		スポーツ基礎科学	2	スポーツ測定と評価	2								テーピングとコンディショニング	2	ジュニアスポーツ障害	2			
		水泳(夏季集中)	1			ピアノ実技Ⅲ	1	伴奏法	2										
		ピアノ実技Ⅰ	1	ピアノ実技Ⅱ	1					器楽指導法	2								
		リトミック	2	合唱指導法	2														
			造形遊び	2															
	教育課題																		
実践 研究科目	架橋的科目			学校教育論	2	教育の事例研究	2											8	
	体験・実習	第五欄					教育インターンシップⅠ	2	教育インターンシップⅡ	2									
																	10		
				基礎ゼミⅠ	2	基礎ゼミⅡ	2	基礎ゼミⅢ	2	専門基礎演習Ⅰ	2	専門基礎演習Ⅱ	2					4	
教職キャリア	基礎教養(理科、社会)	2	基礎教養(国語、算数)	2										専門演習Ⅰ	2	専門演習Ⅱ	2		4
自由枠																		18	18
合計			18		23		22		19		17		10		9		6	124	124

(注) 網掛け部分は、自由枠18単位を表わす。

② 小学校教諭一種免許状の取得を目指すモデル

科目区分		1年次				2年次				3年次				4年次				計	卒業要件		
		前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	小			
大学共通科目	共通基礎科目	大学入門基礎講座	大学での学びとキャリアを考える	2														2	2		
		情報処理	情報リテラシーⅠ	2														2	2		
		外国語	英語基礎Ⅰ	1	英語基礎Ⅱ	1	英語演習Ⅰ	1	英語演習Ⅱ	1	英語表現Ⅰ	1	英語表現Ⅱ	1				6	6		
		人間の理解	日本の文学	2														10	10		
		現代社会と国際理解	日本国憲法	2																	
		科学技術と環境の理解			人権と社会	2															
		地域文化の理解																			
		子どもと社会			子どもと文化	2										子どもの成長とコミュニティ	2				
		健康とスポーツ											スポーツ演習Ⅰ	1	スポーツ演習Ⅱ	1		2	2		
		キャリア支援科目																			
専門科目	専門基礎科目	基礎第二欄			教職論	2												8	8		
		基礎第三欄	教育学	2				教育心理学	2			教育行政学	2						34	40	
		初等教育第四欄					教育課程論(小学校)	2			教育方法論	2	特別活動の指導法	2							
										道徳教育の指導法	2										
							図画工作科指導法Ⅰ	2	国語科指導法Ⅰ	2	国語科指導法Ⅱ	2									
							音楽科指導法Ⅰ	2	算数科指導法Ⅰ	2	算数科指導法Ⅱ	2									
									生活科指導法Ⅰ	2	社会科指導法Ⅰ	2			生活科指導法Ⅱ	2					
									家庭科指導法	2	理科指導法Ⅰ	2					理科指導法Ⅱ	2			
									体育科指導法Ⅰ	2											
								生徒・進路指導論	2	学校教育相談	2							4			
		幼児教育																			
	保育																		18		
	教科				図画工作科内容論	2	国語科内容論	2	社会科内容論	2									10	10	
					音楽科内容論	2	算数科内容論	2	理科内容論	2											
							生活科内容論	2													
							家庭科内容論	2													
				体育科内容論	2																
専門選択科目	教科選択	体育実技Ⅰ	1	体育実技Ⅱ	1													8	8		
	教育課題			子どもの安全と学校	2							特別支援教育	2	外国語活動(小学校英語Ⅰ)	2	外国語活動(小学校英語Ⅱ)	2				
架橋的科目																		10	10		
実践研究科目	体験・実習																	8	8		
	第六欄															教職実践演習(幼、小)	2				
研究科目			基礎ゼミⅠ	2	基礎ゼミⅡ	2	基礎ゼミⅢ	2	専門基礎演習Ⅰ	2	専門基礎演習Ⅱ	2					10	10			
卒業研究													専門演習Ⅰ	2	専門演習Ⅱ	2	4	4			
教職キャリア	基礎教養(理科、社会)	2	基礎教養(国語、算数)	2					キャリア演習Ⅰ	2							6	4			
自由枠																	0	18			
合計			14		18		20		21		24		10		7		10	124	124		

③ 幼稚園教諭一種免許状の取得を目指すモデル

科目区分		1年次				2年次				3年次				4年次				計	卒業要件	
		前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	幼		
大学共通科目	大学入門基礎講座	大学での学びとキャリアを考える	2															2	2	
	情報処理	情報リテラシーⅠ	2															2	2	
	外国語	英語基礎Ⅰ	1	英語基礎Ⅱ	1	英語演習Ⅰ	1	英語演習Ⅱ	1	英語表現Ⅰ	1	英語表現Ⅱ	1					6	6	
	人間の理解	日本の文学	2															10	10	
	現代社会と国際理解	日本国憲法	2																	
	科学技術と環境の理解			人権と社会	2															
	地域文化の理解																			
	子どもと社会			子どもと文化	2										子どもの成長とコミュニティ	2				
	健康とスポーツ											スポーツ演習Ⅰ	1	スポーツ演習Ⅱ	1		2	2		
	キャリア支援科目																			
大学教養科目	基礎第二欄			教職論	2													8	8	
	基礎第三欄	教育学	2					教育心理学	2			教育行政学	2							
	初等教育	第四欄																		
	専門基礎科目	幼児教育																2	19	
専門基礎科目	保育																	10		
専門基礎科目	教科																	12		
専門選択科目	教科選択	体育実技Ⅰ	1	体育実技Ⅱ	1	幼児体育指導論	2											15	10	
		ピアノ実技Ⅰ	1	ピアノ実技Ⅱ	1	ピアノ実技Ⅲ	1													
		リトミック	2																	
		子どもとワークショップ	2																	
専門選択科目	教育課題			子どもの安全と学校	2															
実践研究科目	架橋的科目			学校教育論	2					学校・施設ボランティア	2							4	14	8
実践研究科目	第五欄																		10	10
実践研究科目	第六欄																		4	4
実践研究科目	研究科目			基礎ゼミⅠ	2	基礎ゼミⅡ	2	基礎ゼミⅢ	2	専門基礎演習Ⅰ	2	専門基礎演習Ⅱ	2							
実践研究科目	卒業研究																			
実践研究科目	教職キャリア自由枠																			
合計			19		21		20		18		22		12		4		8	124	124	

④ 保育士資格の取得を目指すモデル

		1年次				2年次				3年次				4年次				計	卒業
科目区分		前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	保	要件
大学 共通科目	教養科目	大学入門基礎講座	大学での学びとキャリアを考える	2														2	2
		情報処理	情報リテラシーⅠ	2														2	2
		外国語	英語基礎Ⅰ	1	英語基礎Ⅱ	1	英語演習Ⅰ	1	英語演習Ⅱ	1	英語表現Ⅰ	1	英語表現Ⅱ	1				6	6
		人間の理解	日本の文学	2														10	10
		現代社会と国際理解	日本国憲法	2															
		科学技術と環境の理解			人権と社会	2													
		地域文化の理解																	
	子どもと社会			子どもと文化	2										子どもの成長とコミュニティ	2			
	健康とスポーツ											スポーツ演習Ⅰ	1	スポーツ演習Ⅱ	1		2	2	
	キャリア支援科目																		
専門 基礎科目	基礎	第二欄		教職論	2													8	8
		第三欄	教育学	2			教育心理学	2			教育行政学	2							
	初等教育	第四欄																	40
	幼児教育	保育									学校教育相談	2						2	24
							保育内容総論	2	保育教育課程論(幼)	2	保育内容(環境)	2			幼児理解	1		19	
							保育内容(表現1)	2	保育内容(人間関係)	2	保育内容(言葉)	2							
							保育内容(健康)	2	保育内容(表現2)	2	保育方法論	2							
教科						乳児保育	2										0		
						保育原理	2	障害児保育	2	社会的養護内容	1	家庭支援論	2						
						社会的養護	2	児童家庭福祉	2	社会福祉	2	相談援助	1	保育相談支援	1				
						子どもの保健Ⅰ-1	2	子どもの保健Ⅰ-2	2	子どもの保健Ⅱ	1	子どもの食と栄養	2						
専門 選択科目	教科選択	体育実技Ⅰ	1	体育実技Ⅱ	1	幼児体育指導論	2										18	10	
		スポーツ基礎科学	2																
		水泳(夏季集中)	1			ピアノ実技Ⅲ	1												
		ピアノ実技Ⅰ	1	ピアノ実技Ⅱ	1					音楽療法	2								
		リトミック	2	合唱指導法	2														
				造形遊び	2														
	教育課題																		
	実践・実習	架橋的科目																	
							教育インターンシップⅠ	2											
							保育実習Ⅰ-1	2	保育実習Ⅰ-2	2			保育実習指導Ⅱ・Ⅲ	1					
第五欄							保育実習指導Ⅰ-1	1	保育実習指導Ⅰ-2	1			保育実習Ⅱ・Ⅲ	2					
														保育実践演習	2				
研究科目	第六欄			基礎ゼミⅠ	2	基礎ゼミⅡ	2	基礎ゼミⅢ	2	専門基礎演習Ⅰ	2	専門基礎演習Ⅱ	2				10	10	
													専門演習Ⅰ	2	専門演習Ⅱ	2	4	4	
						教職基礎Ⅰ	2	教職基礎Ⅱ	2								4	4	
																	0	18	
自由枠																			
合計			18		15		24		22		18		13		8		6	124	124

⑤ 小学校教諭、幼稚園教諭一種免許状の取得を目指すモデル

		1年次				2年次				3年次				4年次				計	
科目区分		前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	小・幼	
大学 共通科目	共通基礎科目	大学入門基礎講座	大学での学びとキャリアを考える	2														2	
		情報処理	情報リテラシーⅠ	2														2	
		外国語	英語基礎Ⅰ	1	英語基礎Ⅱ	1	英語演習Ⅰ	1	英語演習Ⅱ	1	英語表現Ⅰ	1	英語表現Ⅱ	1				6	
	教養科目	人間の理解	日本の文学	2														10	
		現代社会と国際理解	日本国憲法	2															
		科学技術と環境の理解			人権と社会	2													
		地域文化の理解																2	
		子どもと社会			子どもと文化	2									子どもの成長とコミュニティ	2			
		健康とスポーツ											スポーツ演習Ⅰ	1	スポーツ演習Ⅱ	1			
	キャリア支援科目																		
専門科目	基礎	第二欄		教職論	2													8	
		第三欄	教育学	2				教育心理学	2			教育行政学	2						
	初等教育	第四欄				教育課程論(小学校)	2			教育方法論	2	特別活動の指導法	2					34	
									道徳教育の指導法	2									
						図画工作科指導法Ⅰ	2	国語科指導法Ⅰ	2	国語科指導法Ⅱ	2								
						音楽科指導法Ⅰ	2	算数科指導法Ⅰ	2	算数科指導法Ⅱ	2								
								生活科指導法Ⅰ	2	社会科指導法Ⅰ	2			生活科指導法Ⅱ	2				
								家庭科指導法	2	理科指導法Ⅰ	2				理科指導法Ⅱ	2			
								体育科指導法Ⅰ	2										
	幼児教育							生徒・進路指導論	2	学校教育相談	2							4	
										保育内容総論	2	保育教育課程論(幼)	2	幼児理解	1			13	
										保育内容(健康)	2	保育内容(表現2)	2	保育内容(言葉)	2	保育方法論	2		
	保育																	0	
	教科				図画工作科内容論	2	国語科内容論	2	社会科内容論	2									18
					音楽科内容論	2	算数科内容論	2	理科内容論	2									
							生活科内容論	2											
							家庭科内容論	2											
							体育科内容論	2											
	専門選択科目	教科選択		体育実技Ⅰ	1	体育実技Ⅱ	1											10	
教育課題				子どもの安全と学校	2									外国語活動(小学校英語Ⅰ)	2	外国語活動(小学校英語Ⅱ)	2		
架橋的科目			学校教育論	2					学校・施設ボランティア	2							4		
実践研究科目	体験・実習	第五欄																10	
										教育実習事前事後指導(小)	1								
										教育実習(小学校)	4			教育実習事前事後指導(幼)	1				
	第六欄												教育実習Ⅰ(幼稚園)	2					
	研究科目														教職実践演習(幼、小)	2			
卒業研究			基礎ゼミⅠ	2	基礎ゼミⅡ	2	基礎ゼミⅢ	2	専門基礎演習Ⅰ	2	専門基礎演習Ⅱ	2					10		
教職キャリア			基礎教養(理科、社会)	2	基礎教養(国語、算数)	2	教職基礎Ⅰ	2		キャリア演習Ⅰ	2			専門演習Ⅰ	2	専門演習Ⅱ	2	4	
自由枠																	0		
合計			14		20		21		21		30		14		15		10	145	

⑥ 幼稚園教諭一種免許状と保育士資格の取得を目指すモデル

		1年次				2年次				3年次				4年次				計
科目区分		前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	幼・保
大学 共通科目	共通基礎科目	大学入門基礎講座	大学での学びとキャリアを考える	2														2
		情報処理	情報リテラシーⅠ	2														2
		外国語	英語基礎Ⅰ	1	英語基礎Ⅱ	1	英語演習Ⅰ	1	英語演習Ⅱ	1	英語表現Ⅰ	1	英語表現Ⅱ	1				6
	教養科目	人間の理解	日本の文学	2														10
		現代社会と国際理解	日本国憲法	2														
		科学技術と環境の理解			人権と社会	2												
		地域文化の理解																
		子どもと社会			子どもと文化	2										子どもの成長とコミュニティ	2	
		健康とスポーツ											スポーツ演習Ⅰ	1	スポーツ演習Ⅱ	1		2
	キャリア支援科目																	
専門 基礎科目	基礎	第二欄		教職論	2													8
		第三欄	教育学	2			教育心理学	2			教育行政学	2						
	初等教育	第四欄																
	幼児教育						保育内容総論	2	保育教育課程論(幼)	2	保育内容(環境)	2		幼児理解	1			19
							保育内容(表現1)	2	保育内容(人間関係)	2	保育内容(言葉)	2						
							保育内容(健康)	2	保育内容(表現2)	2	保育方法論	2						
							乳児保育	2										
	保育						保育原理	2	障害児保育	2	社会的養護内容	1	家庭支援論	2				24
							社会的養護	2	児童家庭福祉	2	社会福祉	2	相談援助	1	保育相談支援	1		
						子どもの保健Ⅰ-1	2	子どもの保健Ⅰ-2	2	子どもの保健Ⅱ	1	子どもの食と栄養	2					
教科				図画工作科内容論	2												12	
				音楽科内容論	2	算数科内容論	2											
													生活科内容論	2				
													体育科内容論	2				
専門 選択科目	教科選択		体育実技Ⅰ	1			幼児体育指導論	2									10	
			スポーツ基礎科学	2														
			ピアノ実技Ⅰ	1														
	教育課題																	
					造形遊び	2												
					子どもの安全と学校	2												
実践 研究科目	架橋的科目			学校教育論	2					学校・施設ボランティア	2						4	
	体験・実習	第五欄							保育実習Ⅰ-1	2	保育実習Ⅰ-2	2		保育実習指導Ⅱ・Ⅲ	1		18	
									保育実習指導Ⅰ-1	1	保育実習指導Ⅰ-2	1		保育実習Ⅱ・Ⅲ	2			
											教育実習事前事後指導(幼)	1	教育実習Ⅱ(幼稚園)	2		保育実践演習		2
											教育実習Ⅰ(幼稚園)	2						
	研究科目	第六欄														教職実践演習(幼、小)	2	
	卒業研究				基礎ゼミⅠ	2	基礎ゼミⅡ	2	基礎ゼミⅢ	2	専門基礎演習Ⅰ	2	専門基礎演習Ⅱ	2			10	
	教職キャリア			基礎教養(理科、社会)	2	基礎教養(国語、算数)	2	教職基礎Ⅰ	2			キャリア演習Ⅰ	2					8
	自由枠																	0
合計			17		21		25		20		25		13		12		8	141

大阪成蹊大学教育学部履修規程（案）

第1章 総則

（趣旨）

第1条 この規程は、大阪成蹊大学学則(平成15年4月1日。以下「学則」という。)第34条第2項の規定に基づき、大阪成蹊大学教育学部(以下「本学部」という。)の授業科目の履修及び単位修得方法について、必要な事項を定める。

（学期制）

第2条 学年を、次の2学期に分ける。

前学期 4月1日から9月30日まで

後学期 10月1日から翌年3月31日まで

（教育課程）

第3条 本学部の授業科目の分類を、大学共通科目、専門科目及び自由枠とする。

第4条 本学部の授業科目の種類を、必修科目、選択科目及び自由科目とする。

第5条 授業の方法は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれか又はこれらの併用による。

第6条 本学部・学科に、教学指導のため初等教育コース、幼児教育コースを置き、授業科目及び単位数は別表に定める。

- (1) 初等教育コースにおいて、小学校教諭一種免許状と併せて幼稚園教諭一種免許状を取得しようとする場合は、コース必修の授業科目を修得しなければならない。
- (2) 幼児教育コースにおいて、幼稚園教諭一種免許状と併せて保育士資格を取得しようとする場合は、コース必修の授業科目を修得しなければならない。

2 前項の規定にかかわらず、授業科目によっては、やむを得ない事情により開講しないことがある。

（授業時間）

第7条 本学部における授業時間は、1日6時限制とし、年間を通じて次のとおりとする。

- 第1時限 9時00分から10時30分まで
- 第2時限 10時40分から12時10分まで
- 第3時限 13時00分から14時30分まで
- 第4時限 14時40分から16時10分まで
- 第5時限 16時20分から17時50分まで
- 第6時限 18時00分から19時30分まで

- 2 授業時間は、90分を単位とし、単位計算における2時間とみなす。
- 3 土曜日については、原則として3時限までとする。
- 4 授業の休講措置にかかわる事項は、次のとおりとする。

阪急電鉄が運休した場合(ストライキ等を含む)、大阪地方)①大阪市②北大阪③東部大阪④南河内⑤泉州)のいずれかに暴風警報が発令されている場合は、休講とする。なお、7時までに解除された時は、平常どおり授業を行い、11時までに解除された時は、第3時限から授業を行い、11時以降に解除された時は、全日休講とする。

第2章 履修申請

(履修登録)

第8条 学生は、各自の責任において、当該学期の始めに定められた方法により履修する授業科目を登録しなければならない。

- 2 登録をしていない授業科目の受講・受験単位修得は認められない。
- 3 登録に関する禁止事項は、次のとおりとする。
 - (1) 同一時限に行われる授業科目を二重登録することはできない。
 - (2) クラス別に時間割が定められている授業は、指定のクラス以外で登録することはできない。
 - (3) 単位修得済みの科目を登録することはできない。
 - (4) 特に指示のない限り、上位年次配当科目の登録をすることはできない。
 - (5) 学費の無届未納者は、履修登録をすることはできない。
 - (6) いったん登録した履修科目の変更、追加等は認められない。

(履修科目の登録の上限)

第9条 一年間に履修科目として登録できる単位数の上限は、1学期24単位とする。なお、学外で行われる実地指導関連科目は履修登録制限から除外する。

- 2 前項の規定にかかわらず、直前の学期に20単位以上修得した単位のうち8割以上(小数点以下は切り捨てとする。)が「優」である者については、上限を超えて1学期32単位まで履修科目の登録を認めることができる。

(再履修)

第10条 単位を修得できなかった科目については、次学期以降に再履修して、単位を修得することができる。

2 必修科目は、その科目の単位が修得できるまで履修しなければならない。

第3章 試験及び成績評価

(試験の種類)

第11条 本学部の試験の種類を、定期試験(前・後期末)、追試験及び再試験とする。

2 前項のほか、担当教員が必要と認めた場合は、臨時に試験を行うことがある。

(試験の方法)

第12条 試験は、筆記試験によるもののほか、実習・実技試験、口述試験、レポートその他の提出物によるものとする。

(受験資格)

第13条 学費未納者は、試験を受けることができない。

(成績評価)

第14条 成績評価は、授業科目ごとに100点満点として、これを学則第42条に定める「優・良・可・不可」の評語をもって次のとおり表し、「可」以上を合格とする。ただし、実習や大阪成蹊大学以外での学修に係る成績の評価については、「合格・不合格」、「認定」などの評語で表すことがある。

100点～80点 優

79点～70点 良

69点～60点 可

59点以下 不可

(試験時間)

第15条 試験時間は、原則として60分とし、時間配当は別途掲示で告知する。

(試験の延期、中止)

第16条 気象警報の発令、交通機関のストライキ等に伴う試験の延期又は中止については、第7条第4項に準ずる。

(受験心得)

第17条 受験者は、受験心得を遵守し、監督者の指示に従わなければならない。

- 2 受験者は、必ず学生証又は科目等履修生証を提示すること。なお、これらを携帯していない者は、学生部学生課で仮学生証の交付を受けなければならない。
- 3 試験場に20分以上遅れて入室することはできない。また、30分以上経過しなければ、退室することはできない。
- 4 答案用紙には、学籍番号・氏名を正確に記入すること。なお、記入のない答案は、無効とする。また、学籍番号・氏名を偽った場合は、不正行為とみなす。
- 5 答案・持込物は、監督者の指示する場所に置くこと。なお、許可された持込物であっても、貸借した場合は、不正行為とみなす。
- 6 試験中、携帯電話等の電源は必ず切ること。

(不正行為)

第18条 試験中、不正行為をした場合は、当期履修する全科目を無効とする。

(追試験)

第19条 やむを得ない事由により、所定の手続をし、定期試験を欠席した者には、追試験の受験を許可する。

- 2 追試験の受験を希望する者は、所定の期日までに証明書類を添付した試験欠席届を教務部教務課に提出して認定を受けた上、追試験願を提出しなければならない。
- 3 追試験による成績評価の方法は、定期試験の評価方法に準ずる。
- 4 追試験の実施時期は、別途掲示で告知する。

(再試験)

第20条 再試験は、所定の手続をした者に受験を許可する。

- 2 最終学年で卒業見込みの者が、定期試験または追試験受験科目において、専門演習科目を除く卒業にかかる科目のうち、不可評価となった科目について、科目担当者が「再試験受験可」と判断した者を対象とする。
- 3 受験できる単位数は、各学期10単位を上限とする。
- 4 再試験の受験を希望する者は、所定の期日までに1科目受験料2,000円を添えて、再試験願を提出しなければならない。
- 5 再試験による成績評価は、60点を上限とする。

附 則

この規程は、平成26年4月1日から施行する。

別表(第6条関係)
教育学部

(1) 大学共通科目

科目区分			授業科目の名称	単位数	卒業要件						
					初等教育コース		幼児教育コース				
					必修	選択	必修	選択			
大学 共通科目	共通基礎科目	大学入門基礎講座	大学での学びとキャリアを考える	2	2		2				
		情報処理	情報リテラシーⅠ	2	2		2				
			情報リテラシーⅡ	2							
		外国語	英語基礎Ⅰ	1	1		1				
			英語基礎Ⅱ	1	1		1				
			英語演習Ⅰ	1	1		1				
			英語演習Ⅱ	1	1		1				
			英語表現Ⅰ	1		2 単位 以上		2 単位 以上			
			英語表現Ⅱ	1							
			中国語入門Ⅰ	1							
			中国語入門Ⅱ	1							
			フランス語入門Ⅰ	1							
			フランス語入門Ⅱ	1							
			韓国語入門Ⅰ	1							
			韓国語入門Ⅱ	1							
		海外短期語学研修	2								
	教養科目	人間の理解	日本の文学	2			8 単位 以上			6 単位 以上	
			人間と宗教	2							
			哲学	2							
			心理学	2							
			民族学	2							
		現代社会と国際理解	日本国憲法	2	2			2			
			国際理解教育	2							
			人権と社会	2							
			現代倫理	2							
			社会学概論	2							
			多文化共生社会	2							
			日本史概説	2							
			外国史概説	2							
		科学技術と環境の理解	生命と科学	2							
			環境と科学	2							
			暮らしの科学	2							
			物質と科学	2							
		地域文化の理解	大阪の風土と文化	2							
			京都の文化と芸術	2							
		子どもと社会	子どもと文化	2				2			
			子どもの成長とコミュニティ	2							
		健康とスポーツ	スポーツ演習Ⅰ	1	1			1			
			スポーツ演習Ⅱ	1	1			1			
		キャリア支援科目	企業インターンシップⅠ	2							
			企業インターンシップⅡ	2							
		計				68		12	10		14

(2) 専門科目

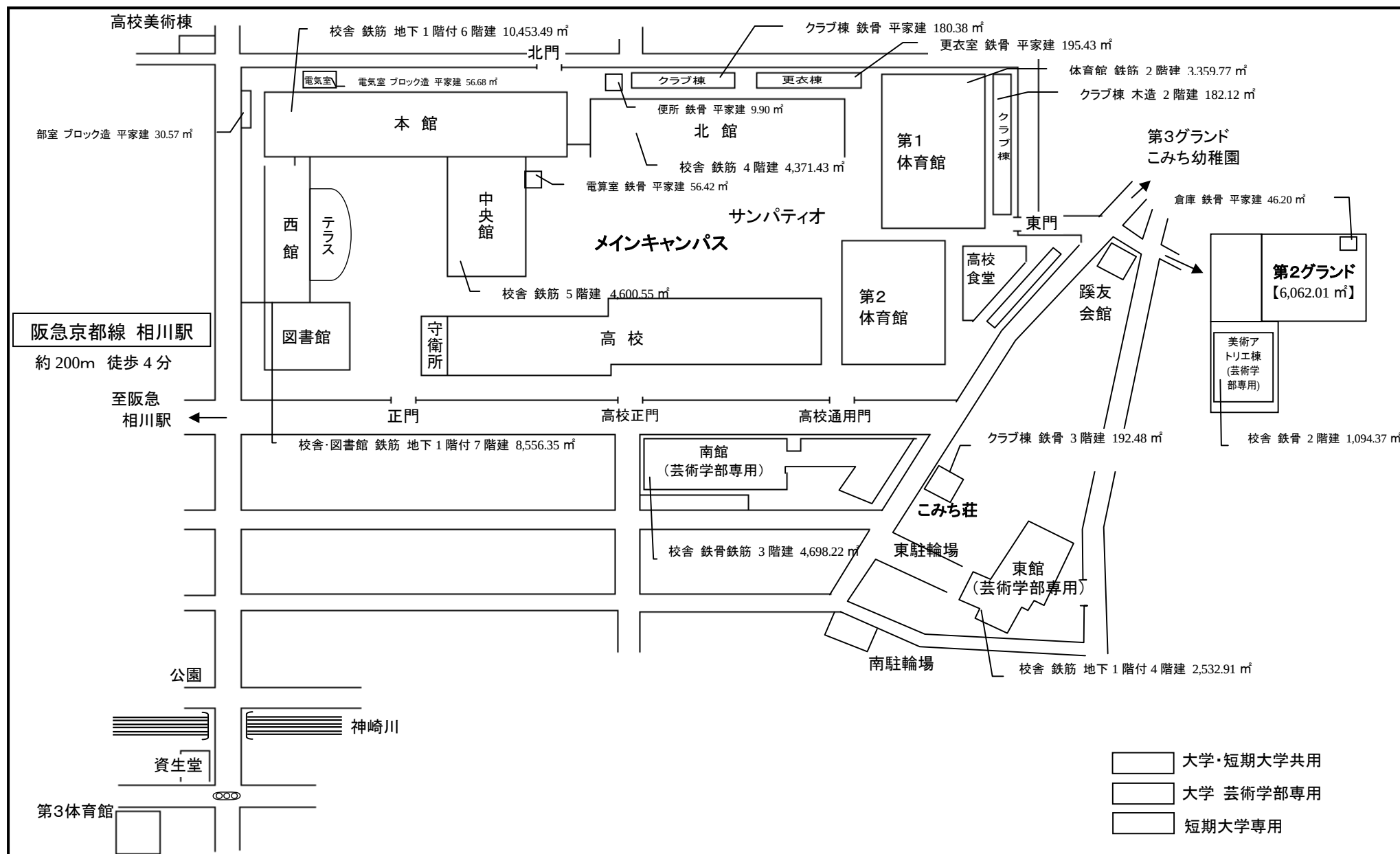
科目区分			授業科目の名称	単位数	卒業要件			
					初等教育コース		幼児教育コース	
					必修	選択	必修	選択
専門科目	教職基礎		教職論	2	2		2	
			教育学	2	2		2	
			教育心理学	2	2		2	
			教育行政学	2	2		2	
		初等教育	教育課程論(小学校)	2	2			
			教育方法論	2	2			
			道徳教育の指導法	2	2			
			特別活動の指導法	2	2			
			国語科指導法Ⅰ	2	2			
			社会科指導法Ⅰ	2	2			

科目区分			授業科目の名称	単位数	卒業要件			
					初等教育コース		幼児教育コース	
					必修	選択	必修	選択
専門科目	専門基礎科目	初等教育	算数科指導法Ⅰ	2	2			
			理科指導法Ⅰ	2	2			
			生活科指導法Ⅰ	2	2			
			音楽科指導法Ⅰ	2	2			
			図画工作科指導法Ⅰ	2	2			
			家庭科指導法	2	2			
			体育科指導法Ⅰ	2	2			
			国語科指導法Ⅱ	2		8		
			社会科指導法Ⅱ	2				
			算数科指導法Ⅱ	2				
			理科指導法Ⅱ	2				
			生活科指導法Ⅱ	2				
			音楽科指導法Ⅱ	2				
			図画工作科指導法Ⅱ	2				
			体育科指導法Ⅱ	2				
			生徒・進路指導論	2	2			
			学校教育相談	2	2		2	
		幼児教育	保育教育課程論（幼稚園）	2	2		2	
			保育内容総論	2	2		2	
			保育内容（健康）	2		6	2	
			保育内容（人間関係）	2			2	
			保育内容（環境）	2			2	
			保育内容（言葉）	2			2	
			保育内容（表現Ⅰ）	2			2	
			保育内容（表現Ⅱ）	2			2	
			保育方法論	2	2		2	
			幼児理解	1	1		1	
		保育	保育原理	2			2	
			児童家庭福祉	2			2	
			社会福祉	2			2	
			相談援助	1			1	
			社会的養護	2			2	
			子どもの保健Ⅰ－Ⅰ	2			2	
			子どもの保健Ⅰ－Ⅱ	2			2	
			子どもの保健Ⅱ	1			1	
			子どもの食と栄養	2			2	
			家庭支援論	2			2	
			乳児保育	2			2	
			障害児保育	2			2	
			社会的養護内容	1			1	
			保育相談支援	1			1	
		教科	国語科内容論	2	2		2	
			社会科内容論	2	2			
			算数科内容論	2	2		2	
			理科内容論	2	2			
			生活科内容論	2	2		2	
			音楽科内容論	2	2		2	
			図画工作科内容論	2	2		2	
			家庭科内容論	2	2			
			体育科内容論	2	2		2	
	専門選択科目	教科選択	体育実技Ⅰ	1	1		1	
			体育実技Ⅱ	1	1			
			スポーツ基礎科学	2			2	
			ジュニアスポーツ障害	2				
			幼児体育指導論	2			2	
			テーピングとコンディショニング	2				
			スポーツ測定と評価	2				
			体育学研究	2				
			水泳	1				
			ピアノ実技Ⅰ	1			1	

科目区分			授業科目の名称	単位数	卒業要件			
					初等教育コース		幼児教育コース	
					必修	選択	必修	選択
専門科目	専門選択科目	教科選択	ピアノ実技Ⅱ	1				
			ピアノ実技Ⅲ	1				
			伴奏法	2				
			器楽指導法	2				
			合唱指導法	2				
			リトミック	2				
			音楽療法	2				
			造形遊び	2			2	
			子どもとワークショップ	2				
			材料研究	2				
			鑑賞教育	2				
			芸術療法論	2				
		教育課題	外国語活動(小学校英語Ⅰ)	2	2			
			外国語活動(小学校英語Ⅱ)	2	2			
	子どもの安全と学校		2	2		2		
	特別支援教育		2	2				
	実践研究科目	架橋的科目	学校・施設ボランティア	2		4		4
			教育の事例研究	2				
			学校教育論	2				
			教育プロジェクト演習	2				
			海外教育演習	2				
		体験・実習	教育インターンシップⅠ	2				
			教育インターンシップⅡ	2				
			教育実習事前事後指導(小学校)	1		1		
			教育実習(小学校)	4		4		
			教育実習事前事後指導(幼稚園)	1		1		1
			教育実習Ⅰ(幼稚園)	2		2		2
			教育実習Ⅱ(幼稚園)	2				2
			介護等体験(施設)	1				
			教職実践演習(幼稚園、小学校)	2		2		2
			保育実習Ⅰ－１	2				2
			保育実習Ⅰ－２	2				2
			保育実習指導Ⅰ－１	1				1
			保育実習指導Ⅰ－２	1				1
			保育実習Ⅱ	2				Ⅱ又はⅢ
			保育実習指導Ⅱ	1				
			保育実習Ⅲ	2				3
			保育実習指導Ⅲ	1				
			保育実践演習	2				2
		研究科目	チュートリアル	基礎ゼミⅠ	2	2	2	
				基礎ゼミⅡ	2	2	2	
				基礎ゼミⅢ	2	2	2	
				専門基礎演習Ⅰ	2	2	2	
				専門基礎演習Ⅱ	2	2	2	
			卒業研究	専門演習Ⅰ	2	2	2	
				専門演習Ⅱ	2	2	2	
		教職キャリア科目	教職基礎Ⅰ	2	2		2	
			教職基礎Ⅱ	2				
			キャリア演習Ⅰ	2	2		2	
			キャリア演習Ⅱ	2				
			キャリア演習Ⅲ	2				
			基礎教養(国語、算数)	2	2		2	
	基礎教養(理科、社会)		2	2		2		
	計			230	95	28	97	22
	合 計			298	107	38	111	30

資料14

大阪成蹊大学・大阪成蹊短期大学校舎、運動場等の配置図

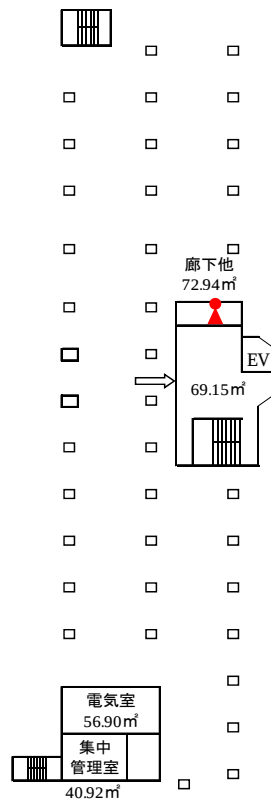


① 北館平面図 (4,371.43㎡)

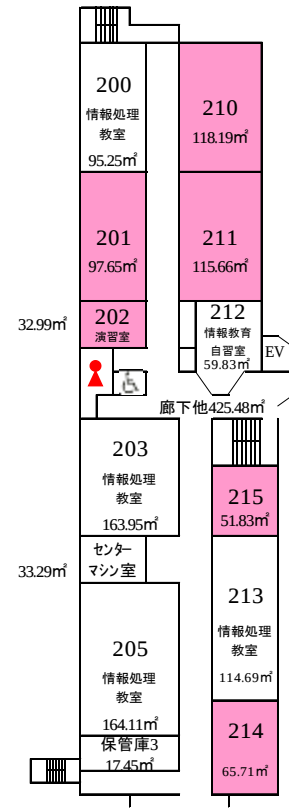
教育学部専用
大学、短大の共用

..... 1,733.64㎡
..... 2,637.79㎡

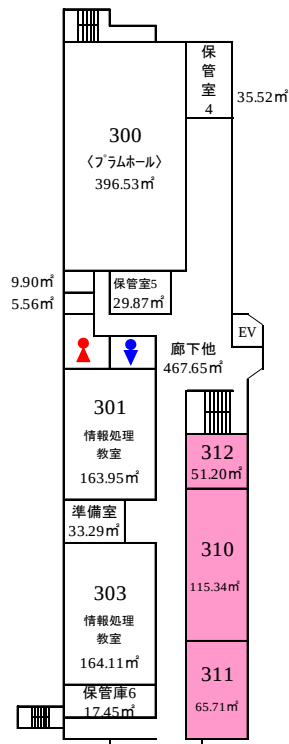
(面積)
1階 239.91㎡
大短共用 239.91㎡



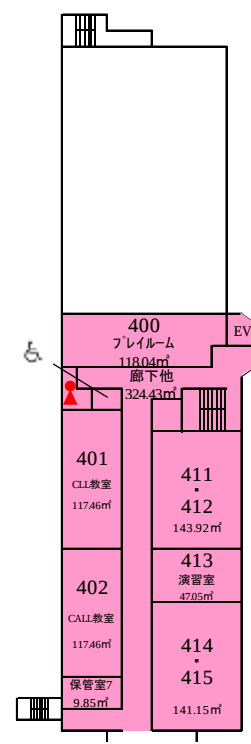
(面積)
2階 1,556.08㎡
教育学部専用 482.03㎡
大短共用 1074.05㎡



(面積)
3階 1,556.08㎡
教育学部専用 232.25㎡
大短共用 1323.83㎡



(面積)
4階 1,019.36㎡
教育学部専用 1019.36㎡



(面積)

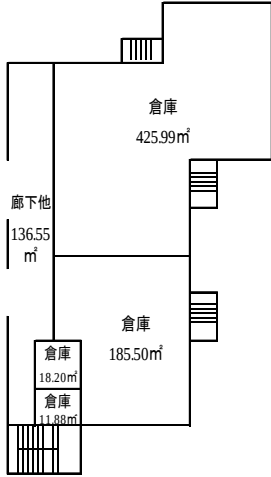
② 本館平面図 (10,453.49㎡)

大学専用	 60.75㎡
教育学部、短大児童教育学科の共用	 816.22㎡
大学、短大の共用	 6131.57㎡
他学部専用	 3444.95㎡

(面積)

地下1階 778.12㎡

大短共用 778.12㎡

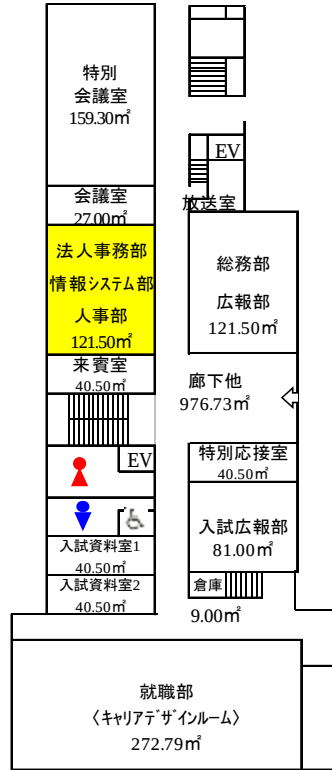


(面積)

1階 1,964.8㎡

大短共用 1,843.3㎡

他学部専用 121.5㎡



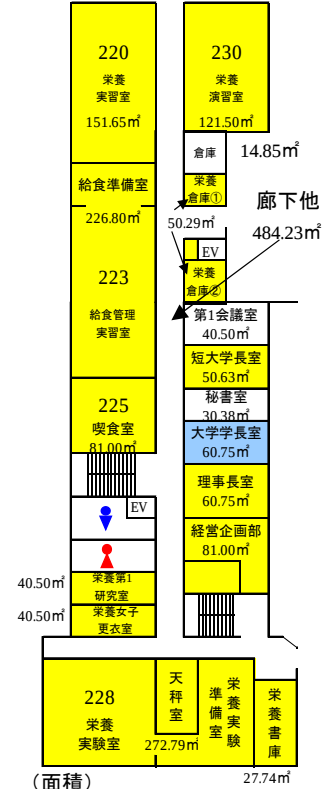
(面積)

2階 1,835.86㎡

大学専用 60.75㎡

大短共用 569.96㎡

他学部専用 1,205.15㎡

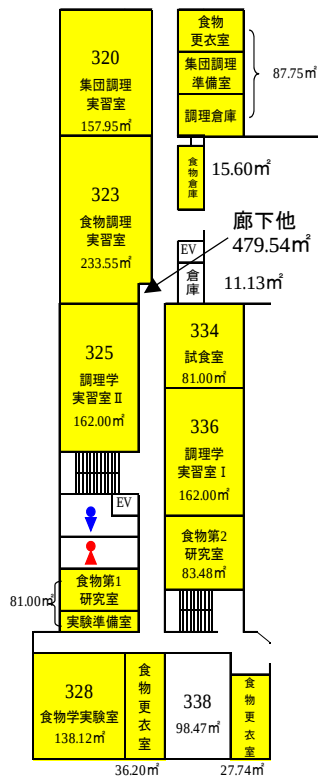


(面積)

3階 1,855.53㎡

大短共用 589.14㎡

他学部専用 1,266.39㎡



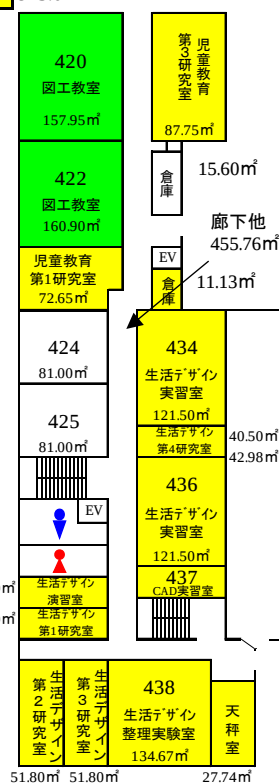
(面積)

4階 1,797.23㎡

教・幼共用 318.85㎡

大短共用 633.36㎡

他学部専用 845.02㎡

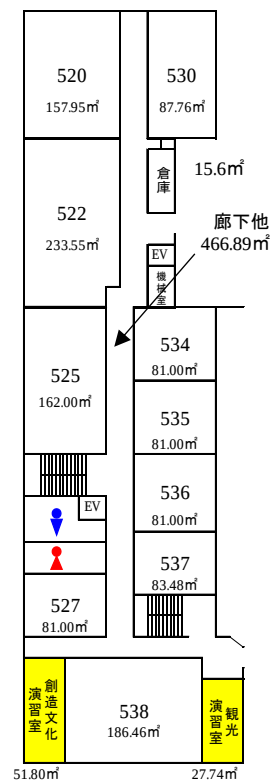


(面積)

5階 1,797.23㎡

大短共用 1,717.69㎡

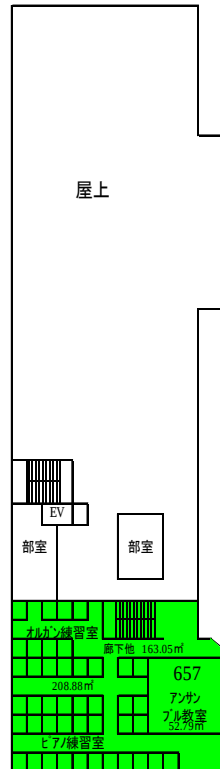
他学部専用 79.54㎡



（面積）
本館平面図 **(10,453.49㎡)**

- 大学専用
- 教育学部、短大児童教育学科の共用
- 大学、短大の共用
- 他学部専用

（面積）
6階 424.72㎡
教・幼共用 424.72㎡



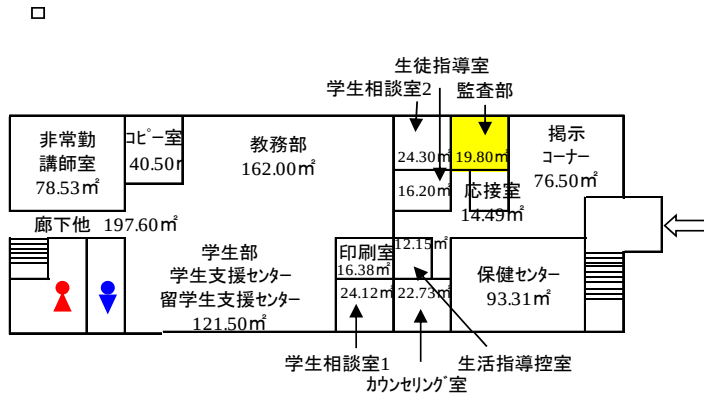
(面積)

③ 中央館平面図 (4,600.55㎡)

	教育学部専用	 690.98㎡
	教育学部、短大児童教育学科の共用	 204.98㎡
	教育学部、マネジメント学部、短大総合 生活学科、児童教育学科の共用	 202.50㎡
	大学、短大の共用	 3044.20㎡
	他学部専用	 457.89㎡

(面積)

1階	920.11㎡
大短共用	900.31㎡
他学部専用	19.80㎡



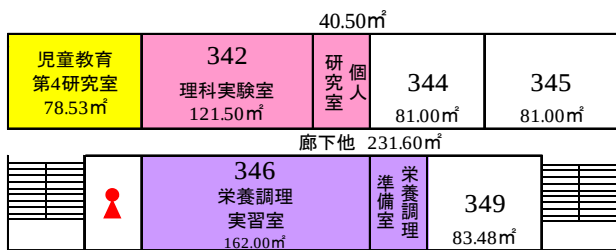
(面積)

2階	920.11㎡
教育学部専用	447.98㎡
大短共用	353.10㎡
他学部専用	119.03㎡



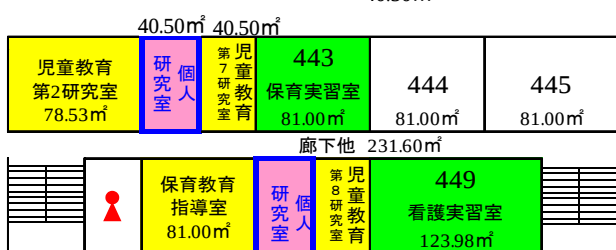
(面積)

3階	920.11㎡
教育学部専用	162.00㎡
教・マ・児・総合共用	202.50㎡
大短共用	477.08㎡
他学部専用	78.53㎡



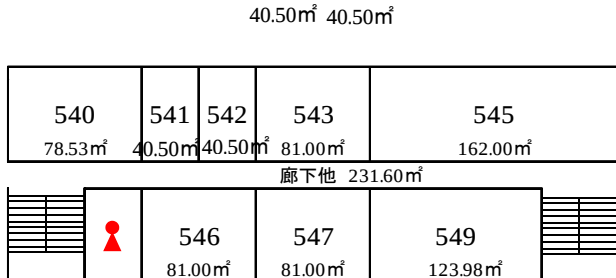
(面積)

4階	920.11㎡
教育学部専用	81.00㎡
教・児共用	204.98㎡
大短共用	393.60㎡
他学部専用	240.53㎡



(面積)

5階	920.11㎡
大短共用	920.11㎡

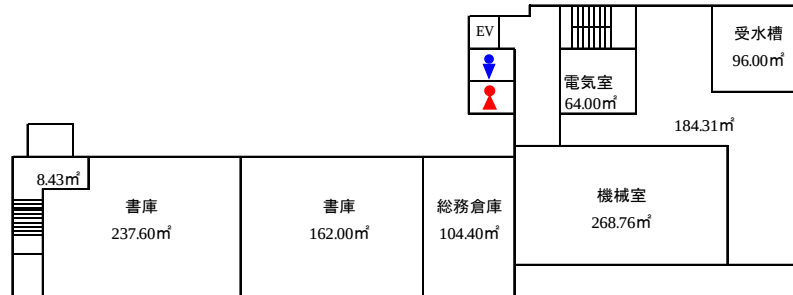


(面積)
④ 西館・図書館平面図 (8,556.35㎡)

 教育学部専用	 104.40㎡
 教育学部、短大児童教育学科の共用	 1009.80㎡
 大学、短大の共用	 6193.00㎡
 他学部専用	 1249.15㎡

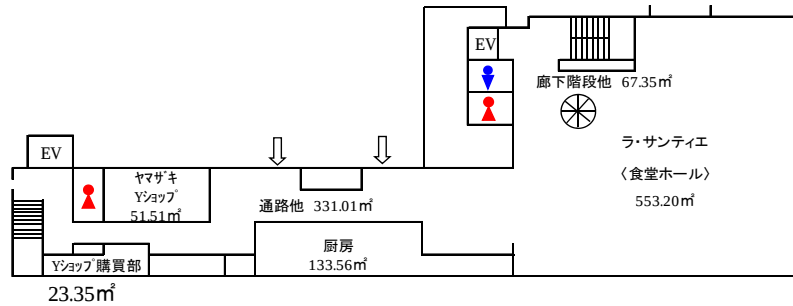
(面積)

地下1階	1,125.50㎡
大短共用	1125.50㎡



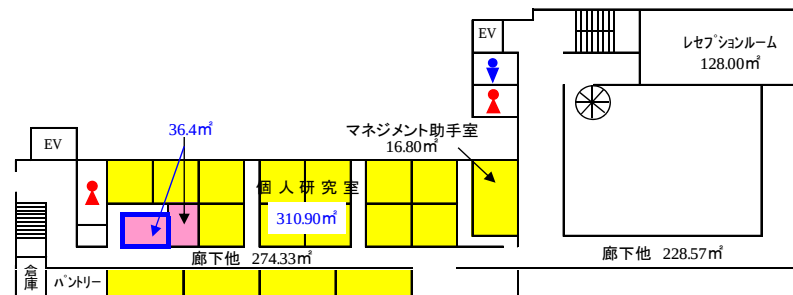
(面積)

1階	1,159.98㎡
大短共用	1159.98㎡



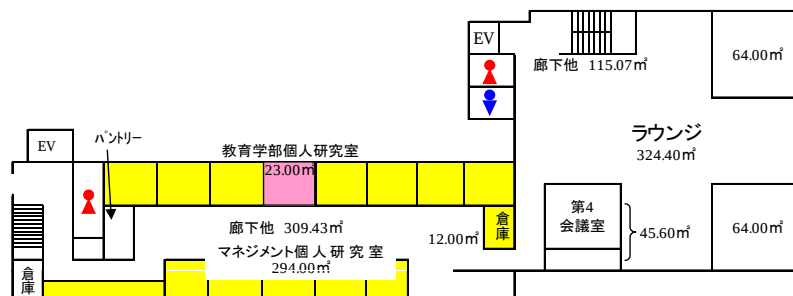
(面積)

2階	995.00㎡
教育学部専用	36.40㎡
大短共用	630.90㎡
他学部専用	327.70㎡



(面積)

3階	1,251.50㎡
教育学部専用	23.00㎡
大短共用	922.50㎡
他学部専用	306.00㎡

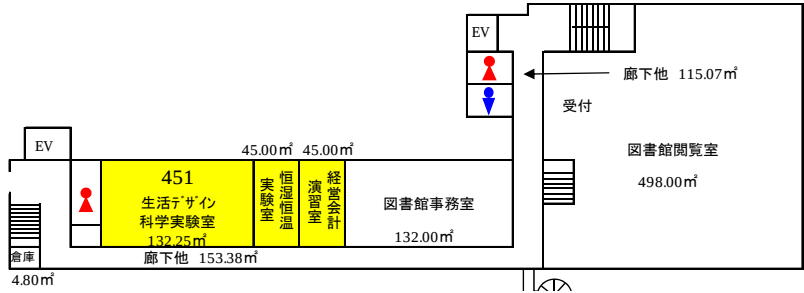


西館・図書館平面図

- 教育学部専用
- 教育学部、短大児童教育学科の共用
- 大学、短大の共用
- 他学部専用

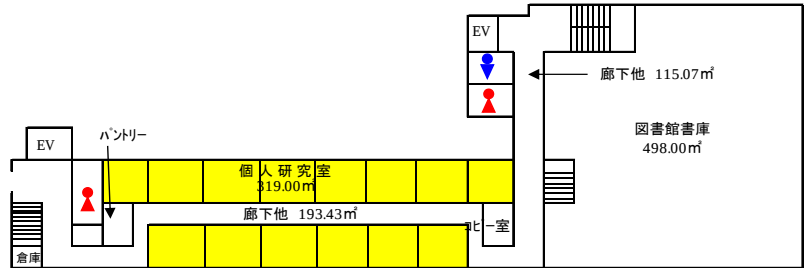
(面積)

4階	1,125.50㎡
大短共用	903.25㎡
他学部専用	222.25㎡



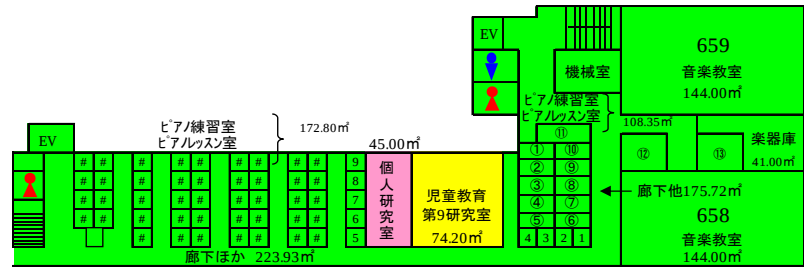
(面積)

5階	1,125.50㎡
大短共用	806.50㎡
他学部専用	319.00㎡



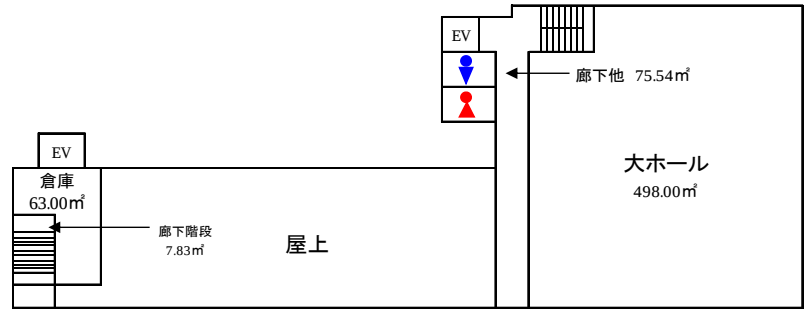
(面積)

6階	1,129.00㎡
教育学部専用	45.00㎡
教・児共用	1009.80㎡
他学部専用	74.20㎡



(面積)

7階	644.37㎡
大短共用	644.37㎡

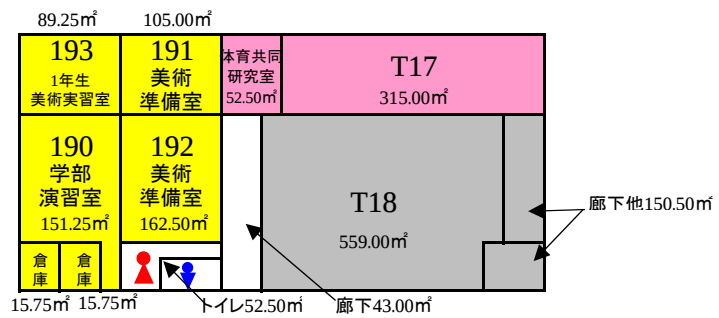


(面積)

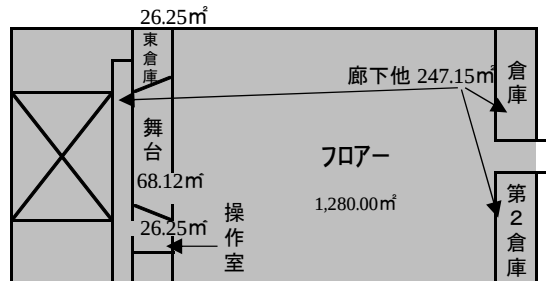
⑤ 第1体育館平面図 (3,359.77㎡)

	教育学部専用		367.50㎡
	他学部専用		539.50㎡
	大学、短大の共用		95.50㎡
	基準外		2,357.27㎡

(面積)	
1階	1,712.00㎡
教育学部専用	367.50㎡
他学部専用	539.50㎡
大短共用	95.50㎡
基準外	709.50㎡



(面積)	
2階	1,647.77㎡
基準外	1,647.77㎡

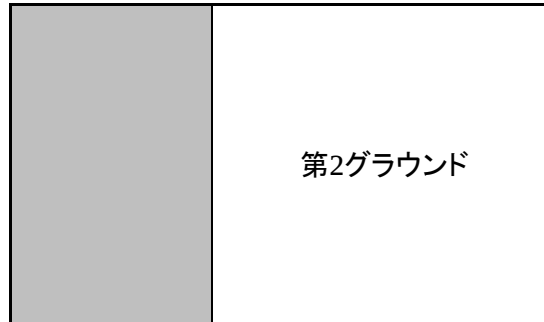


⑥ 第2グラウンド (面積) (46.20㎡)

大学、短大の共用 46.20㎡

大短共用 (面積) 46.20㎡

倉庫 46.20㎡



[illegible]

①-1

施設(教室、実習実験室、体育施設)使用状況一覧【H29年度後期】

[illegible]

【備考】教:教育学部 マ:マネジメント学部 芸:芸術学部 短:短期大学 稼働率 :大学・短大共有施設

2017(平成29)年度 前期 大阪成蹊大学教育学部時間割【案】

1 (9:00～10:30)					2 (10:40～12:10)					3 (13:00～14:30)					4 (14:40～16:10)					5 (16:20～17:50)					
科目区分・分野		クラス	授業科目名	担当者名	教室	科目区分・分野		クラス	授業科目名	担当者名	教室	科目区分・分野		クラス	授業科目名	担当者名	教室	科目区分・分野		クラス	授業科目名	担当者名	教室		
月	大学共通・教養	大学共通	日本史概説	非常勤教員	525	大学共通 1年A	英語基礎Ⅰ	山本 紀美子	411・412																
		大学共通 2年C	英語演習Ⅰ	山本 紀美子	411・412	大学共通 1年B	英語基礎Ⅰ	妻木 麻紀子	414・415																
		大学共通 2年D	英語演習Ⅰ	妻木 麻紀子	414・415					大学共通 4年AB	スポーツ演習Ⅱ	岸本 恵一	第1体												
		大学共通 4年CD	スポーツ演習Ⅱ	岸本 恵一	第1体																				
	1年生	専門選択 AB	リトミック	日笠 みどり	T17	専門選択 CD	リトミック	日笠 みどり	T17	専門基礎 オム	教育学	井藤 元	210	専門基礎 オム	教育学	鈴木 卓治	310	専門選択	ピアノ実技Ⅰ	東 真理子	レッスン室				
	2年生	専門基礎 初AB	図画工作科指導法Ⅰ	藤丸 一郎	420図工	専門基礎 初AB	保育内容(表現1)	東 真理子	658音楽	専門基礎 初AB	体育科内容論	安部 恵子	T17	専門基礎 初AB	国語科内容論	辻村 敬三	211	専門基礎 初AB	音楽科指導法Ⅰ	東 真理子	658音楽				
						専門基礎 幼C	保育原理	石田 貴子	210	専門基礎 幼CD	国語科内容論	辻村 敬三	211	専門基礎 幼CD	保育内容総論	鈴木 昌世	210	専門基礎 幼CD	体育科内容論	安部 恵子	T17				
	3年生	専門選択	材料研究	安部 永	422図工	専門基礎 初AB	社会科指導法Ⅰ	西川 秀智	211	専門基礎	保育方法論	石田 貴子	201	専門科目	教育実習事前事後指導(幼稚園)	青木 知史	411・412	専門科目	学校・施設ボランティア	鈴木 卓治	211				
														専門科目	教育実習事前事後指導(幼稚園)	井藤 元	414・415	専門科目	保育実習指導Ⅰー2	鈴木 昌世	411・412				
																		専門科目	保育実習指導Ⅰー2	藤崎 亜由子	414・415				
	4年生																								
						専門基礎 幼CD	幼児理解	藤崎 亜由子	201	専門基礎 幼D	保育相談支援	篠原 いくよ	411・412	専門選択	テーピングとコンディショニング	岸本 恵一	T17								
	火	大学共通・教養	大学共通 1年D	英語基礎Ⅰ	妻木 麻紀子	411・412	大学共通 1年C	情報リテラシーⅠ	浅井 宗海	402PC	大学共通	日本の文学	中村 隆嗣	525											
大学共通 3年			英語表現Ⅰ	國方 太司	414・415	大学共通 2年	韓国語入門Ⅰ	邊 恩田	536																
大学共通			民族学	内海 涼子	525	大学共通	暮らしの科学	井上 尚之	300																
大学共通			社会学概論	鍛冶 致	549																				
大学共通			物質と科学	井上 尚之	537																				
1年生																									
											大学共通	大学での学びとキャリアを考える	専任教員	215,310											
													三村、安部、浅井、 西川、藤崎、 鈴木昌除く	311,411・412											
2年生		専門基礎 幼D	保育原理	石田 貴子	211	専門基礎 初AB	教育課程論(小学校)	赤沢 真世	211	専門基礎 幼C	乳児保育	三好 伸子	201	専門科目	基礎ゼミⅡ	専任教員	312,401	専門選択	ピアノ実技Ⅲ	東 真理子	レッスン室				
						専門基礎 幼C	子どもの保健Ⅰー1	白石 龍生	411・412	専門基礎 幼D	子どもの保健Ⅰー1	白石 龍生	210				三村、安部、浅井、 西川、藤崎、 鈴木昌除く	411・412、 414・415	専門科目	教育の事例研究	羽野 ゆつ子	210			
						専門基礎 幼D	乳児保育	三好 伸子	414・415																
3年生		専門基礎 オム	教育方法論	浅井 宗海	210	専門基礎 オム	学校教育相談	青木 知史	210	専門基礎 幼C	社会的養護内容	原田 旬哉	211						専門科目	キャリア演習Ⅰ	藤崎 亜由子	411・412			
		専門基礎 オム	教育方法論	赤沢 真世	310	専門基礎 オム	学校教育相談	鈴木 卓治											専門科目	キャリア演習Ⅰ	藤丸 一郎	201			
																			専門科目	キャリア演習Ⅰ	福岡 亮治	211			
4年生																									
						専門基礎	体育科指導法Ⅱ	安部 恵子	T17																
水	大学共通・教養	大学共通 1年B	情報リテラシーⅠ	浅井 宗海	402PC	大学共通 1年D	情報リテラシーⅠ	浅井 宗海	402PC																
		大学共通 2年A	英語演習Ⅰ	妻木 麻紀子	411・412	大学共通 1年C	英語基礎Ⅰ	山本 紀美子	411・412																
		大学共通 2年B	英語演習Ⅰ	山本 紀美子	414・415	大学共通 2年	中国語入門Ⅰ	陳 昭宜	311																
		大学共通 1年CD	日本国憲法	千代原 亮一	210	大学共通 1年AB	日本国憲法	千代原 亮一	210																
		大学共通 3年	英語表現Ⅰ	國方 太司	211																				
	1年生																								
											専門選択 オム	体育実技Ⅰ	安部 恵子	第1体＋第2G	教職カリ オム	基礎教養(理科、社会)	福岡 亮治	211							
											専門選択 オム	体育実技Ⅰ	秋武 寛	第1体＋第2G	教職カリ オム	基礎教養(理科、社会)	西川 秀智								
	2年生																								
						専門選択 幼C	幼児体育指導論	秋武 寛	401	専門基礎 初AB	保育内容総論	鈴木 昌世	211	専門科目 オム	教職基礎Ⅰ	羽野 ゆつ子	210	大学共通	企業インターンシップⅠ	鈴木 卓治	211				
						専門基礎 幼D	社会的養護	明柴 聰史	211	専門基礎 幼CD	保育内容(健康)	三村 寛一	T17	専門科目 オム	教職基礎Ⅰ	井藤 元									
	3年生	専門選択	器楽指導法	奥田 有紀	659音楽	専門基礎	国語科指導法Ⅱ	辻村 敬三	201	専門基礎 幼C	社会福祉	塩田 祥子	310	専門基礎 幼C	子どもの保健Ⅱ	白石 龍生	449看護	専門科目	教育実習事前事後指導(小学校)	山田 敏男	201				
						専門基礎	算数科指導法Ⅱ	橋本 隆公	310	専門基礎 幼D	子どもの保健Ⅱ	白石 龍生	449看護	専門基礎 幼D	社会福祉	塩田 祥子	310	専門科目	教育実習事前事後指導(小学校)	赤沢 真世	210				
	4年生																								
						専門基礎	生活科指導法Ⅱ	西川 秀智	414・415	専門基礎 初AB	幼児理解	藤崎 亜由子	201	専門科目	保育実習指導Ⅱ	青木 知史	414・415								

		1（9:00～10:30）				2（10:40～12:10）				3（13:00～14:30）				4（14:40～16:10）				5（16:20～17:50）			
		科目区分・分野	クラス	授業科目名	担当者名	教室	科目区分・分野	クラス	授業科目名	担当者名	教室	科目区分・分野	クラス	授業科目名	担当者名	教室	科目区分・分野	クラス	授業科目名	担当者名	教室
木	教養						大学共通	2年	フランス語入門Ⅰ	黒田 恵梨子	537										
	1年生	【木曜1～4限】 ○1年生:学外活動 ○2年生:教育インターンシップ《学外活動》																			
	2年生																				
	3年生																				
	3年生	専門科目		専門基礎演習Ⅰ	専任教員全員	研究室他															
	4年生						専門科目		専門演習Ⅰ	専任教員全員	研究室他										
金	教養	大学共通		哲学	堤 正史	549	大学共通		現代倫理	堤 正史	549										
		大学共通 1年A		情報リテラシーⅠ	浅井 宗海	402PC															
		大学共通		京都の文化と芸術	門脇 むつみ	538															
	1年生						専門選択		子どもとワークショップ	藤丸 一郎	201	専門選択		スポーツ基礎科学	臼井 達也	T17					
	2年生	専門基礎 初AB		保育内容(健康)	三村 寛一	T17	専門基礎 初AB		生活科内容論	西川 秀智	310	専門基礎 オム		算数科内容論	橋本 隆公	211	専門基礎 初AB		家庭科内容論	古田 豊子	346家庭
		専門基礎 幼CD		保育内容(表現1)	東 真理子	658音楽	専門基礎 幼C		社会的養護	明柴 聡史	210	専門基礎 オム		算数科内容論	山田 敏男	310	専門基礎 幼CD		生活科内容論	西川 秀智	210
							専門選択 幼D		幼児体育指導論	秋武 寛	211										
	3年生	専門基礎 初AB		道德教育の指導法	園田 雅春	210	専門基礎 初AB		保育内容(環境)	瀧川 光治	411・412	専門基礎 初AB		保育内容(言葉)	岡本 雅子	411・412	専門基礎 幼D		社会的養護内容	原田 旬哉	211
							専門基礎 幼CD		保育内容(言葉)	岡本 雅子	414・415	専門基礎 幼CD		保育内容(環境)	瀧川 光治	414・415	専門基礎 初AB		理科指導法Ⅰ	福岡 亮治	342理科
	4年生						専門科目		教育プロジェクト演習	羽野 ゆつ子	312	専門科目		外国語活動(小学校英語Ⅰ)	赤沢 真世	210	専門科目		キャリア演習Ⅲ	山田 敏男	411・412
							専門科目		教育プロジェクト演習	浅井 宗海	401						専門科目		キャリア演習Ⅲ	橋本 隆公	215
																	専門科目		キャリア演習Ⅲ	藤崎 亜由子	312
																	専門科目		キャリア演習Ⅲ	東 真理子	214
集中	教養	大学共通 2年		海外短期語学研修	國方 太司																
	1年生	専門選択		水泳	三村 寛一	プール															
		専門選択		水泳	秋武 寛	プール															
	2年生	専門科目		介護等体験(施設)	井藤 元																
	3年生	専門科目		教育実習(小学校)	山田 敏男																
		専門科目		教育実習Ⅰ(幼稚園)	青木 知史																
		専門科目		教育実習Ⅰ(幼稚園)	鈴木 昌世																
		専門科目		保育実習Ⅰー2	鈴木 昌世																
		専門科目		保育実習Ⅰー2	藤崎 亜由子																
	4年生	専門科目		保育実習Ⅱ	青木 知史																
		専門科目		保育実習Ⅲ	石田 貴子																

2017(平成29)年度 後期 大阪成蹊大学教育学部時間割【案】

1 (9:00 ~ 10:30)						2 (10:40 ~ 12:10)				3 (13:00 ~ 14:30)					4 (14:40 ~ 16:10)					5 (16:20 ~ 17:50)						
	科目区分・分野	クラス	授業科目名	担当者名	教室	科目区分・分野	クラス	授業科目名	担当者名	教室	科目区分・分野	クラス	授業科目名	担当者名	教室	科目区分・分野	クラス	授業科目名	担当者名	教室	科目区分・分野	クラス	授業科目名	担当者名	教室	
月	大学共通・教養	大学共通	1年A	英語基礎Ⅱ	山本 紀美子	210	大学共通	2年C	英語演習Ⅱ	山本 紀美子	210															
		大学共通	3年	英語表現Ⅱ	國方 太司	211	大学共通	2年D	英語演習Ⅱ	妻木 麻紀子	211															
		大学共通		人間と宗教	堤 正史	545	大学共通		多文化共生社会	鍛治 致	538															
		大学共通		生命と科学	藤本 繁夫	525																				
	1年生						専門基礎	AB	音楽科内容論	東 真理子	659音楽	専門基礎	オム	教職論	山田 敏男	210	専門選択		ピアノ実技Ⅱ	東 真理子	レッスン室	専門選択		合唱指導法	東 真理子	658音楽
							専門基礎	CD	図画工作科内容論	藤丸 一郎	420図工	専門基礎	オム	教職論	鈴木 昌世	201										
火	大学共通・教養	大学共通	1年AB	情報リテラシーⅡ	浅井 宗海	402PC	大学共通	1年D	英語基礎Ⅱ	妻木 麻紀子	401															
		大学共通	3年	英語表現Ⅱ	國方 太司	211	大学共通	2年	韓国語入門Ⅱ	邊 恩田	541															
		大学共通		環境と科学	井上 尚之	300	大学共通	1年AB	子どもと文化	辻村 敬三	210															
		大学共通		外国史概説	村上 亮	545	大学共通	1年C	英語基礎Ⅱ	山本 紀美子	310															
	1年生											専門科目		基礎ゼミⅠ	専任教員	215,310										
															三村、安部、浅井、 藤丸、藤崎 鈴木昌除く	311, 411・412										
2年生	専門基礎	初AB	体育科指導法Ⅰ	安部 恵子	T17	専門基礎	初AB	算数科指導法Ⅰ	橋本 隆公	211	専門基礎	幼C	子どもの保健Ⅰー2	白石 龍生	201	専門科目		基礎ゼミⅢ	専任教員	312,401						
						専門基礎	幼C	児童家庭福祉	谷 俊英	411・412	専門基礎	幼D	児童家庭福祉	谷 俊英	210				三村、安部、浅井、 藤丸、藤崎 鈴木昌除く	411・412, 414・415	専門科目		教育インターンシップⅡ	福岡 亮治	211	
						専門基礎	幼D	子どもの保健Ⅰー2	白石 龍生	414・415																
3年生	専門基礎	初AB	特別活動の指導法	園田 雅春	414・415	教職基礎		教育行政学	中島 智子	201	専門基礎	幼C	相談援助	原田 旬哉	211	専門基礎	幼C	家庭支援論	安田 志津香	201	専門科目		海外教育演習	橋本 隆公	414・415	
											専門基礎	幼D	家庭支援論	安田 志津香	414・415	専門基礎	幼D	相談援助	原田 旬哉	210	専門科目		海外教育演習	井藤 元	310	
4年生	専門基礎		社会科指導法Ⅱ	西川 秀智	411・412	専門基礎		音楽科指導法Ⅱ	東 真理子	658音楽	専門選択		体育学研究	三村 寛一	T17											
水	大学共通・教養	大学共通	1年CD	情報リテラシーⅡ	浅井 宗海	402PC	大学共通	1年B	英語基礎Ⅱ	妻木 麻紀子	210															
							大学共通	2年	中国語入門Ⅱ	陳 昭宜	311															
							大学共通		大阪の風土と文化	中村 隆嗣	522															
							大学共通	1年CD	子どもと文化	辻村 敬三	211															
	1年生	専門基礎	AB	図画工作科内容論	藤丸 一郎	422図工						専門選択	オム	体育実技Ⅱ	安部 恵子	第1休、第2G	専門選択	AB	造形遊び	藤丸 一郎	422図工	教職キャリア	オム	基礎教養(国語、算数)	辻村 敬三	414・415
												専門選択	オム	体育実技Ⅱ	秋武 寛	第1休、第2G	専門基礎	CD	音楽科内容論	東 真理子	658音楽	教職キャリア	オム	基礎教養(国語、算数)	橋本 隆公	
2年生	専門基礎	初AB	国語科指導法Ⅰ	辻村 敬三	411・412	専門基礎	初AB	社会科内容論	西川 秀智	215	専門基礎	オム	生徒・進路指導論	園田 雅春	411・412	専門科目		保育実習指導Ⅰー1	鈴木 昌世	411・412						
	専門基礎	幼C	障害児保育	三好 伸子	211	専門基礎	幼D	障害児保育	三好 伸子	310	専門基礎	オム	生徒・進路指導論	鈴木 卓治	201	専門科目		保育実習指導Ⅰー1	石田 貴子	414・415						
3年生																										
						専門選択		鑑賞教育	藤丸 一郎	420図工室	専門科目		特別支援教育	杉田 律子	414・415											
4年生																										
						専門科目		保育実践演習	鈴木 昌世	411・412	専門基礎		ジュニアスポーツ障害	岸本 恵一	T17											
						専門科目		保育実践演習	石田 貴子	414・415																

1（9:00～10:30）						2（10:40～12:10）					3（13:00～14:30）					4（14:40～16:10）					5（16:20～17:50）						
科目区分・分野						科目区分・分野					科目区分・分野					科目区分・分野					科目区分・分野						
クラス						クラス					クラス					クラス					クラス						
授業科目名						授業科目名					授業科目名					授業科目名					授業科目名						
担当者名						担当者名					担当者名					担当者名					担当者名						
教室						教室					教室					教室					教室						
木	大学共通・教養					大学共通	2年	フランス語入門Ⅱ	黒田 恵梨子	542																	
	1年生	【木曜1～4限】 ○1年生:学外活動 ○2年生:教育インターンシップ《学外活動》																									
	2年生																										
	3年生						専門科目		専門基礎演習Ⅱ	専任教員全員	研究室他																
	4年生																										
	金	大学共通・教養	大学共通		国際理解教育	大槻 雅俊	411・412	大学共通		心理学	羽野 ゆつ子	538															
大学共通		4年	子どもの成長とコミュニティ	鈴木 卓治	414・415	大学共通		人権と社会	堤 正史	549																	
大学共通		3年AB	スポーツ演習Ⅰ	岸本 恵一	第1休、第2G	大学共通	3年CD	スポーツ演習Ⅰ	岸本 恵一	第1休、第2G																	
大学共通		2年A	英語演習Ⅱ	山本 紀美子	201																						
大学共通		2年B	英語演習Ⅱ	妻木 麻紀子	211																						
1年生		専門科目	オム	学校教育論	山田 敏男	210	専門選択		スポーツ測定と評価	臼井 達矢	T17	専門科目		子どもの安全と学校	三村 寛一	T17	専門選択	CD	造形遊び	藤丸 一郎	422図工						
		専門科目	オム	学校教育論	井藤 元																						
2年生																											
集中	大学共通・教養																										
	1年生																										
	2年生	専門科目		保育実習Ⅰー1	鈴木 昌世																						
		専門科目		保育実習Ⅰー1	石田 貴子																						
	3年生	専門科目		教育実習Ⅱ（幼稚園）	青木 知史																						
		専門科目		教育実習Ⅱ（幼稚園）	鈴木 昌世																						
		専門科目		教育実習Ⅱ（幼稚園）	藤崎 亜由子																						
	4年生																										

2017(平成29)年度 前期 大阪成蹊大学マネジメント学部時間割 【案】

[illegible]

2017(平成29)年度 前期 大阪成蹊大学マネジメント学部時間割 【案】

		1 (9:00 ~ 10:30)					2 (10:40 ~ 12:10)					3 (13:00 ~ 14:30)					4 (14:40 ~ 16:10)					5 (16:20 ~ 17:50)				
		科目区分・分野	授業科目名	指定	担当者名	教室	科目区分・分野	授業科目名	指定	担当者名	教室	科目区分・分野	授業科目名	指定	担当者名	教室	科目区分・分野	授業科目名	指定	担当者名	教室	科目区分・分野	授業科目名	指定	担当者名	教室
水	大学共通・教養	教養	スポーツ演習2			T18	共通基礎	英語表現1			536	共通基礎	英語演習1			344	共通基礎	英語表現1			535					
												2年	英語表現3			535	共通基礎	情報リテラシー1初級	初級		205PC					
							教養	スポーツ演習2			T18	3年	総合英語A	履修条件あり		424										
		教養	地理学概論 I			545											共通基礎	情報リテラシー1中級	中級		301PC					
		2年	英語表現3			536																				
							共通基礎	2年 英語演習3			424							共通基礎	情報リテラシー1留学生			303PC				
	1年生	学部基礎	簿記 I			525	学部基礎	簿記 I			538	学部基礎	ICT基礎 I	スポ・食		538										
							学部基礎	簿記 I			525															
							専門基礎	メディアプログラミング入門	メディアのみ		303PC															
												学部基礎	簿記 I			525										
	2年生						学部基幹	ビジネスマネジメント	経営・食		522						専門演習 情報	専門演習1	情報のみ		424	専門基幹 スポ	スポーツ産業論	スポビジのみ		538
		教職	教育史	教職のみ		535	専門基礎 情報他	プログラミング入門			303PC															
		共通キャリア	キャリア演習1			424						学部基幹	ビジネスマネジメント	情報・スポ		522	専門基礎 スポ	スポーツマネジメント入門	スポビジのみ		425					
		専門基礎 経営	経営数学基礎			538	専門一般 他					専門基幹 経営他	人事管理			545	専門基幹 食	外食・中食産業論	食ビジ		338					
		専門一般																								
	3年生																									
		教職	教育心理学	教職のみ		181	経営	ビジネスマネジメント			522	経営	人事管理			545	専門科目 スポ・食	スポーツ栄養	スポ・食のみ		545	専門科目	専門演習3	情報のみ		525
			経営数学基礎			538																				
							経情	情報法学			545	経営	ビジネスマネジメント			522										
							情報	プログラミング入門			303PC	専門科目 メディア	メディア戦略論			445										
	4年生																									
木	大学共通・教養	共通基礎	日本語コミュニケーション1	留学生A		536	共通基礎	中国語入門1			542															
							共通基礎	フランス語入門1			537	共通基礎	フランス語入門1	食ビジのみ		424										
		共通基礎	日本語コミュニケーション1	留学生B		537						2～4年	日本語演習3	留学生のみ		543										
		教養	考古学			522																				
		2～4年	日本語演習3	留学生のみ		543																				
	1年生	共通基礎	中国語入門2			425																				
							学部演習	基礎演習1	1年生のみ		300															
							学部演習	基礎演習1			205PC															
							学部演習	基礎演習1			303PC															
							学部演習	基礎演習1																		
							学部演習	基礎演習1																		
							学部演習	基礎演習1																		
							学部演習	基礎演習1																		
							学部演習	基礎演習1																		
							学部演習	基礎演習1																		
	2年生	学部基幹	会計学			538						専門基礎 情報他	現代経営情報学	経営・情報のみ		538	学部基幹	リスクマネジメント			525					
												専門一般	キャリアデザイン2			300・549										
	3年生	経営	会計学			538						教職	社会科・地理歴史科教育法 I	教職公民・社会のみ		349・301PC	情報	リスク管理論			525					
												経情	情報産業論			525	教職	社会科・公民科教育法 I	教職公民・社会のみ		349・301PC					
												経情	現代経営情報学			538		キャリアデザイン4			522・527					
	4年生	教職	教育実習事前事後指導	教職のみ		542・301PC																				

2017(平成29)年度 前期 大阪成蹊大学マネジメント学部時間割 【案】

1 (9:00 ～ 10:30)						2 (10:40 ～ 12:10)					3 (13:00 ～ 14:30)					4 (14:40 ～ 16:10)					5 (16:20 ～ 17:50)									
科目区分・分野		授業科目名	指定	担当者名	教室	科目区分・分野		授業科目名	指定	担当者名	教室	科目区分・分野		授業科目名	指定	担当者名	教室	科目区分・分野		授業科目名	指定	担当者名	教室	科目区分・分野		授業科目名	指定	担当者名	教室	
金	大学共通・教養	教養	哲学			549	共通基礎	英語演習1			520	共通基礎 2年	英語演習3			520														
		教養	スポーツ演習1			第1体育館																								
		教養	京都の文化と芸術			538	教養	現代倫理			549																			
							教養	スポーツ演習1			第1体育館																			
		共通基礎	日本語演習1	留学生A		546																								
		共通基礎	日本語演習1	留学生B		547																								
	1年生						学部基礎	ICT基礎 I	経営・メディア		538	学部基礎	マネジメント入門	経営・食		545	学部基礎	マネジメント入門	メディア・スポ		545									
												専門基礎 スポ	スポーツ学入門	スポのみ		345														
												専門基礎 経営	メディア演習	メディアのみ		541・203PC	専門基礎 食	食品学	食のみ		540									
	2年生	教職	道徳教育の研究	教職のみ		345	専門基幹 情報 専門一般 経営情報	データベース活用			303PC	専門基礎 経営 専門一般 他	民法 I			525														
							専門一般	行政学	経営・情報のみ		545	専門基幹 スポ	スポーツトレーニング論	スポビジのみ		547	専門基幹 スポ	スポーツ社会学	スポのみ		522									
												専門基幹 食ビ	食品安全マネジメント	食ビジのみ		540														
	3年生						情報	データベース活用			303PC																			
							経営	行政学			545	経営	経営モデル分析			530・303PC														
							経情	会計情報システム			205PC	経営	民法 I			525														
												教職	情報科教育法 I	教職情報のみ		301PC														
	4年生																													
集中	大学共通	教養	身体論																											
	1年生	学部演習	スポーツエクササイズ演習3			プール																								
	2年生		インターンシップ I																											
			インターンシップ1																											
			インターンシップ II																											
			インターンシップⅢ																											
		専門基幹 情報	Webサーバ構築演習/ パソコンアーキテクチャ	情報のみ																										
	専門基幹 スポ	スポーツ心理学	スポのみ																											
	3年生																													
		情報	パソコンアーキテクチャ																											
		教職	教育相談	教職のみ																										
			インターンシップ2																											
			専門インターンシップ																											
	4年生																													
		教職	教育実習Ⅰ	教職のみ																										
		教職	教育実習Ⅱ	教職のみ																										

2017(平成29)年度 後期 大阪成蹊大学マネジメント学部時間割【案】

1 (9:00～10:30)						2 (10:40～12:10)					3 (13:00～14:30)					4 (14:40～16:10)					5 (16:20～17:50)						
科目区分・分野		授業科目名	指Ⅱ	担当者名	教室	科目区分・分野		授業科目名	指Ⅱ	担当者名	教室	科目区分・分野		授業科目名	指Ⅱ	担当者名	教室	科目区分・分野		授業科目名	指Ⅱ	担当者名	教室				
月	大学共通・教養	教養	人間と宗教			545	共通基礎	日本語コミュニケーション2	②グループ		349	共通基礎	英語演習2			181											
		共通基礎	日本語コミュニケーション2	④グループ		344						共通基礎 食	英語基礎1	食のみ		185											
		共通基礎	英語演習2			424		共通基礎	日本語コミュニケーション2	①グループ		344															
		共通基礎	日本語演習2	留学生④・含む		349	教養	多文化共生社会				538															
		教養	生命と科学			525	共通基礎 2年	英語演習3	芸術優先		527																
		教職	教師論	教職のみ		338	共通基礎 2年	英語演習4			444																
	1年生																	学部演習 スポ	スポーツエクササイズ演習2	スポのみ		第1体育館					
																		専門基礎 ｽﾎﾟﾂ	メディアビジネス論	ｽﾎﾟﾂのみ		200PC					
	2年生						専門基幹 経営 専門一般 他	持続可能なマネジメント			300	学部基幹	サービスマネジメント			525											
							専門基幹 経営 専門一般 他	インターネットビジネス	経営・食・スポのみ		522	専門一般	Webプログラミング			303PC	専門基幹 スポ	地域スポーツクラブマネジメント	スポのみ		538						
		教職	生徒指導論	教職のみ		425						専門演習 スポ	専門演習2	スポビジのみ		338											
		専門科目	パーソナルファイナンス	経営のみ		522																					
	3年生	経営	税務会計			538	経営	環境管理			300																
		専門科目 スポ	スポーツビジネス講義	スポのみ		537	経情	インターネットビジネス			522	経営	サービスマネジメント			525					専門科目 スポ	専門演習4	スポのみ		538		
													情報	Webプログラミング			303PC										
							専門科目 スポ	スポーツボンサーシップ	スポのみ		338																
	4年生																										
																					専門科目 スポ	専門演習6	スポのみ		538		
	火	大学共通・教養	教養	スポーツ演習2			第1体育館	共通基礎	英語演習2			444	共通基礎 経営・ｽﾎﾟ	情報リテラシー2初級	初級・再履修		200PC	共通基礎	英語演習2			425					
								共通基礎	韓国語入門2			541							共通基礎 スポ・食	情報リテラシー2初級	初級		200PC				
							教養	情報と職業			522	共通基礎 経営・ｽﾎﾟ	情報リテラシー2中級	中級・再履修		301PC											
教養			環境と科学			300	教養	総合講座「日本人論」			344							共通基礎 スポ・食	情報リテラシー2中級	中級		301PC					
教養			外国史概説			545																					
教養			健康科学			549												共通基礎 スポ・食	情報リテラシー2留学生	留学生		303PC					
							共通基礎 経営・ｽﾎﾟ	情報リテラシー2留学生	留学生		301PC							共通基礎 スポ・食	情報リテラシー2留学生	留学生		303PC					
1年生		専門キャリア 食ビ	調理学実習2【隔週2コマ続き】							食ビｼﾞのみ		346実習室	専門キャリア スポ	スポーツビジネスマネジメント実践	スポのみ		535										
													専門基礎 食ビ	食品流通論	食ビｼﾞのみ		338										
2年生		専門基幹 経・食 専門一般 他	管理会計			522・200PC	専門基幹 情報	システム設計応用	情報のみ		300	専門一般	民法Ⅱ			525	専門演習 経営	専門演習2	経営のみ		525						
		専門基幹 経営	製品開発論	経営のみ		527						専門基幹 情報 専門一般 他	メディアデザインとプログラム応用 /プログラミング応用・Java			205PC											
		専門キャリア 食	テーブルコーディネート演習2	食ビｼﾞのみ		334												専門演習 食	専門演習2	食ビｼﾞのみ		536					
							専門基幹 食	食文化論	食ビｼﾞのみ		527																
							専門基幹 スポ	スポーツマーケティング	スポのみ		425	専門基幹 スポ	スポーツマネジメント論	スポのみ		545	専門演習 食	専門演習2	食ビｼﾞのみ		536						
												専門基幹 食	フードコーディネート基礎	食のみ		345	専門基幹 情報 専門一般 他	経営情報システム	経営・情報のみ		300						
3年生		経営	管理会計			522・200PC		情報	システム設計応用			300	経情	経営科学			549	専門科目 情報	ICT応用Ⅱ/ 情報処理応用Ⅱ			549	専門演習 経営	専門演習4	経営のみ		525
		経営	産業カウンセリング			538	専門科目 食	カフェ演習	食のみ		334	経営	民法Ⅱ			525	経情	知的財産権と法			522	専門演習 食	専門演習4	食ビｼﾞのみ		536	
													情報	プログラミング応用・Java			205PC										
4年生																											
																				専門演習 経営	専門演習6	経営のみ		525			
																				専門演習 食	専門演習6	食ビｼﾞのみ		536			

2017(平成29)年度 後期 大阪成蹊大学マネジメント学部時間割 【案】

1 (9:00 ～ 10:30)						2 (10:40 ～ 12:10)					3 (13:00 ～ 14:30)					4 (14:40 ～ 16:10)					5 (16:20 ～ 17:50)						
科目区分・分野		授業科目名	指	担当者名	教室	科目区分・分野		授業科目名	指	担当者名	教室	科目区分・分野		授業科目名	指	担当者名	教室	科目区分・分野		授業科目名	指	担当者名	教室				
水	大学共通・教養	共通基礎	英語表現1			425	共通基礎	英語表現2			425	共通基礎	英語表現1			527	共通基礎	英語表現2			527						
		教養	スポーツ演習2				第1体育館					2年	英語演習3			543											
		共通基礎	日本語演習2	留学生⑥		536	教職	教育学概論	教職のみ		530																
		教養	スポーツ演習2			第1体育館	教養	大阪の風土と文化			522																
		教養	日本国憲法			538	共通基礎 2年	英語演習4			344																
		教養	比較文化論			300	教養	子どもと文化	教育優先		211																
		教養	地理学概論Ⅱ			545																					
		教養	20世紀の芸術	芸術優先		181																					
	1年生							統計学概論			203PC	学部基礎	マネジメントインフォメーション			545	学部基礎	簿記Ⅱ			525						
													経営情報論				専門基礎 スポ	スポーツと健康	スポビジのみ		538						
												学部基礎	ICT基礎Ⅱ			538	専門基礎 食	調理学	食のみ		425						
	2年生	共通キャリア	キャリア演習2	芸術優先		534	共通キャリア	キャリア演習1	芸術優先		527	学部基幹	経営組織論			522	専門基幹 スポ	スポーツ法学入門	スポのみ		546	専門キャリア	起業家実践			522	
							学部基礎	経営戦略論			538	専門一般	情報社会論			525											
																	専門演習 情報	専門演習2	情報のみ		424						
	3年生	経営	文献講読/文献講読A			349	経営	組織デザイン			545	経営	経営組織論			522	専門科目	メディア活用プレゼンテーション			345	専門演習 情報	専門演習4	情報のみ		424	
		専門科目 メディア	メディアビジネス特論			345	経営	経営戦略論			538	経情	情報社会論			525											
												経情	GIS応用			303PC											
												教職	情報科教育法Ⅱ	教職情報のみ		301PC											
	4年生											専門科目 食	フードアナリスト論2	食のみ		536											
木	大学共通・教養	教養	メディア・リテラシー			545																					
		教養	日本の社会福祉			538	共通基礎	フランス語入門1			542	2～4年	日本語演習4	留学生のみ		338											
		共通キャリア	キャリアデザイン1			522																					
		2～4年	日本語演習4	留学生のみ		535																					
	1年生						学部演習	基礎演習2	1年生のみ		300																
							学部演習	基礎演習2			541																
							学部演習	基礎演習2																			
							学部演習	基礎演習2																			
							学部演習	基礎演習2																			
							学部演習	基礎演習2																			
	2年生	専門一般	企業財務論	情報・スポ・食のみ		549							キャリアデザイン3			522											
		専門一般	国際経済学			300																					
	3年生	経営	企業財務論			549							経営	報道とマスメディア			538		キャリアデザイン5			538					
		経営	国際経済学			300							情報	グループウェア活用			549	教職	社会科・公民科教育法Ⅱ	教職公民・社会のみ		541・301PC					
													教職	社会科・地理歴史科教育法Ⅱ	教職社会のみ		541・301PC										
	4年生																										

2017(平成29)年度 後期 大阪成蹊大学マネジメント学部時間割 【案】

		1 (9:00 ～ 10:30)					2 (10:40 ～ 12:10)					3 (13:00 ～ 14:30)					4 (14:40 ～ 16:10)					5 (16:20 ～ 17:50)				
		科目区分・分野	授業科目名	指	担当者名	教室	科目区分・分野	授業科目名	指	担当者名	教室	科目区分・分野	授業科目名	指	担当者名	教室	科目区分・分野	授業科目名	指	担当者名	教室	科目区分・分野	授業科目名	指	担当者名	教室
金	大学共通・教養	共通基礎	中国語入門1			522	教養	人権と社会			549	共通基礎	英語演習2			349										
		教養	スポーツ演習1			T18	教養	心理学			538															
		共通基礎	日本語コミュニケーション2	③グループ		338	共通基礎	フランス語入門2			424															
							教養	スポーツ演習1			T18															
		共通基礎	日本語コミュニケーション2	留学生(A)		424	共通基礎	日本語コミュニケーション2	⑤グループ		338															
		共通基礎	日本語コミュニケーション2	留学生(B)		425																				
	1年生	教養	国際理解教育			411・412																				
		教養	子どもの成長とコミュニティ			414・415																				
		専門一般	政治学			549	専門一般	経済学概論			522	専門キャリア メディア	メディアビジネス実践演習	メディアのみ		522	専門キャリア 経営	ビジネスマネジメント実践演習	経営のみ			538・213PC				
												専門キャリア 情報	情報マネジメント実践演習	情報のみ												
												学部基礎	簿記Ⅱ			549	専門基礎 食ビ	栄養学	食ビジのみ			424				
	2年生	教職	教育方法論	教職のみ		537	専門基幹 経・食 専門一般	流通論			300	専門一般 経・食	生産情報システム	経営・食のみ		205PC										
												専門一般	ビジネスデータ分析			203PC										
												専門基幹 食	食ビジネス経営論	食のみ		424										
	3年生	教職	教育実習事前事後指導	教職のみ		541・301PC	経営	流通論			300	経営	現代起業家事情			538										
												経情	生産情報システム			205PC										
							情報	情報ネットワーク			525															
											+213PC															
集中	1年生						経営	会計監査論			546	経情	ビジネスデータ分析			203PC										
	2年生	専門キャリア スポ	スポーツビジネス体験1	スポのみ																						
	3年生	教職のみ	キャリア演習3	教職のみ																						
		専門キャリア	スポーツビジネス体験	スポビジのみ																						
	4年生	専門キャリア スポ	海外スポーツビジネス調査	スポのみ																						
	4年生	教職	教育実習Ⅰ	教職のみ																						
		教職	教育実習Ⅱ	教職のみ																						

2017(平成29)年度 前期 大阪成蹊大学芸術学部時間割【案】

Ⅰ限 (9:00～10:30)					Ⅱ限 (10:40～12:10)				Ⅲ限 (13:00～14:30)				Ⅳ限 (14:40～16:10)				Ⅴ限 (16:20～17:50)				Ⅵ限 (18:00～19:30)						
区分 学科		科目名	担当者名	教室	区分 学科	科目名	担当者名	教室	区分 学科	科目名	担当者名	教室	区分 学科	科目名	担当者名	教室	区分 学科	科目名	担当者名	教室	区分 学科	科目名	担当者名	教室			
月曜日	教養	■1・2年	英語演習1	534	■1年	○日本語コミュニケーション1		281	■1年	●大学での学びとキャリアを考える		389・300															
		■1・2年	経済入門	538			285				387・300																
		■1・2年	日本史概説	525		■1・2年	英語演習2	535				386・300															
						■1・2年	女性学・男性学	525				185・300															
					■1・2年	現代科学論	538				542・300																
					■3・4年						541・300																
											534																
												■2年	英語演習3														
									■3・4年	英語3																	
	1年													環デ TF	環境デザイン基礎実習1(PC)							281					
						共通	ファッションデザイン史		185					環デ IP	環境デザイン基礎実習1(PC)							285					
														美術	美術基礎実習2							A12					
	2年	博物	博物館概論		425	共通	近代デザイン史2		181	情デ	情報デザイン専門研究2		181	情デ AC	情報デザイン専門演習5							282					
														情デ VD	情報デザイン専門演習3							377					
		教職	教育社会学		349	共通	ファッションデザイン史		185					情デ イラ	情報デザイン専門演習3							272					
														情デ イラ	情報デザイン専門演習3							273					
														環デTF	環境デザイン専門演習5							466					
														環デ IP	環境デザイン専門演習3							267					
														美術 美術	美術専門演習5							A22					
	3年													美術 表現	美術専門演習5							A10					
						共通	近代デザイン史2		181					情デ 映像	情報デザイン専門演習10							374B					
														環デ TF	環境デザイン専門演習10							265					
													美術 日本	美術専門演習9							A14						
4年													美術 現代	美術専門演習9							192						
					共通	近代デザイン史2		181	情デ コミュ	●情報デザイン専門演習13						379											
					教職	教育実習事前事後指導		542	情デ イラ	●情報デザイン専門演習13						176											
													環デ TF	●卒業制作・研究							265						
教養	■1・2年	物質と科学		537	■1年	○日本語コミュニケーション1		301	■1・2年	英語演習1		349															
	■1・2年	スポーツ演習1		T18				200			■1・2年	日本の文学		525													
	■3・4年							303																			
	■1・2年	民族学		525				281																			
	■3・4年							535					■1・2年	英語演習1													
	■1・2年	社会学概論		549				536					■1・2年	韓国語入門1													
	■3年	キャリア演習2		444				549					■1・2年	比較宗教思想史													
	■3年	キャリアデザイン4		300				300					■1・2年	暮らしの科学													
1年																											
									情デ	情報デザイン基礎実習1(PC)						281											
																282											
									環デ	環境デザイン基礎実習2						386											
2年					共通	芸術療法論		185	情デ VD	情報デザイン専門演習5						377	教職	造形演習(工芸)							A24		
					共通	広告論		181	情デ イラ	情報デザイン専門演習5						272									165		
	教職	教育課程論							環デ TF	環境デザイン専門演習4						265											
	教職	特別活動		534					環デ IP	環境デザイン専門演習4						267											
									美術	美術専門研究1		A24	美術 美術	美術専門演習3											A22		
3年													美術 表現	美術専門演習3							A10						
					共通	芸術療法研究論		185	情デ コミュ	情報デザイン専門演習9						378											
					共通	広告論		181	情デ イラ	情報デザイン専門演習9						172											
																174											
									環デ 空イ	環境デザイン専門演習9						366											
									環デ PC	環境デザイン専門演習9						285											
									環デ TF	環境デザイン専門演習9						466											
4年									美術	美術特講		A26															
					共通	芸術療法研究論		185																			
					共通	広告論		181																			
火曜日																											
火曜日																											
火曜日																											

Ⅰ 限（9:00～10:30）					Ⅱ 限（10:40～12:10）					Ⅲ 限（13:00～14:30）					Ⅳ 限（14:40～16:10）					Ⅴ 限（16:20～17:50）					Ⅵ 限（18:00～19:30）																			
区分 学科		科目名		担当者名	教室	区分 学科		科目名		担当者名	教室	区分 学科		科目名		担当者名	教室	区分 学科		科目名		担当者名	教室	区分 学科		科目名		担当者名	教室															
水曜日	教養	■2年	英語表現3		536	■ 1年	○日本語コミュニケーション1		282	■2年	ボランティア・スタディ2						543	■2年	サービスラーニング （+集中）	376																								
		■3・4年	英語会話3							ボランティア・スタディ3						543					■3・4年																							
		■1・2年	スポーツ演習2							T18		■1年	情報リテラシー1		205	■1・2年	英語演習1		344	■1・2年	英語表現1		535																					
		■3・4年										■1年/教職				■2年	英語表現3			536																								
		■1・2年	地理学概論 1									■2年	英語演習3			424																												
		■ 2年	キャリア演習1							424		■1・2年	英語表現1	T18																														
		■ 3年	キャリア入門									■1・2年	スポーツ演習2																															
															■3・4年																													
	1年													共通	●造形初動演習	新入生オリエンテーション期間中：授業内容紹介 デッサン・色彩・感性の冒険登録 1～ 7週目： デッサンまたは色彩構成 デッサン前期・色彩構成前期 （デッサン初級4クラス、中級1クラス、色彩構成4クラス） デッサン【阿部・市毛・赤西・津田・八木】色彩構成【大村・久保田・室田・村岡】 8～14週目： 色彩構成またはデッサン デッサン後期・色彩構成後期 （デッサン前期クラスの学生は、色彩構成後期を受講・色彩構成前期クラスの学生はデッサン後期を受講） 15週目： まとめと報告会										181																		
	2年	教職	教育史		535						共通	美術・デザイン学外演習						376																										
														情デ イラ	情報デザイン専門演習5						282・272																							
	3年	教職	教育心理学		181						共通	美術・デザイン学外演習						376																										
											共通	プロジェクト演習2						190																										
4年																																												
木曜日	教養	■1・2年	中国語入門2		425	■1・2年	中国語入門1		542	■1・2年	フランス語入門1(マネ)		424																															
		■1・2年	考古学		522	■1・2年	フランス語入門1		537	■2年留学生	日本語演習3		543																															
		■3・4年																																										
		■2年留学生	日本語演習3		543																			</																				

Ⅰ 限 （9:00～10:30）					Ⅱ 限 （10:40～12:10）					Ⅲ 限 （13:00～14:30）					Ⅳ 限 （14:40～16:10）					Ⅴ 限 （16:20～17:50）					Ⅵ 限 （18:00～19:30）							
区分 学科		科目名	担当者名	教室	区分 学科		科目名	担当者名	教室	区分 学科		科目名	担当者名	教室	区分 学科		科目名	担当者名	教室	区分 学科		科目名	担当者名	教室	区分 学科		科目名	担当者名	教室			
金曜日	教養	■1・2年	哲学	549	■1・2年	英語演習1		520	■2年	英語演習3		520																				
		■3・4年			現代倫理		549	■2年	●キャリアデザイン2		300																					
		■1・2年			スポーツ演習1	第1体育館	■1・2年	スポーツ演習1																								
		■3・4年					ボランティア・スタディ2		387																							
		■1年留学生	日本語演習1	546																												
		■1年留学生	日本語演習1	547																												
		■1・2年	京都の文化と芸術	538																												
	1年	共通/教職	西洋美術史1		181	共通/教職	西洋美術史1		181	情デ	●情報デザイン概論		522	情デ	情報デザイン基礎実習2							181・300										
					共通 1・2年	ボランティア・スタディ1		387													384・300											
					共通	西洋美術史特論2		522													387・300											
																					389・300											
											美術	美術基礎実習1 (PC)							281													
	2年	共通/教職	西洋美術史1		181	共通/教職	西洋美術史1		181					情デ AC	情報デザイン専門演習3							282										
						共通	西洋美術史特論2		522					情デ イラ	情報デザイン専門演習4							273										
		教職	道徳教育の研究		345	共通	メディア論		425								情デ	情報デザイン特講1(隔週＋集中)							185							
						共通	視覚文化論		530					環デ TF	環境デザイン専門演習3							265										
											(●キャリアデザイン2)			環デ IP	環境デザイン専門演習5							285										
														美術 美術	美術専門演習4							A24										
														美術 表現	美術専門演習4							A24										
	3年	共通/教職	西洋美術史1		181	共通/教職	西洋美術史1		181	情デ コミュ イラ	情報デザイン専門演習10							377B	情デ	情報デザイン特講(隔週＋集中)							185					
						共通	西洋美術史特論2		522									174・370														
		教職	美術科教育法Ⅱ		425	共通	メディア論		425	情デ 映像	情報デザイン専門演習9							284														
						共通	視覚文化論		530																							
														環デ PC	環境デザイン専門演習10							366・木工室										
											美術 日本	美術専門演習10							A14													
											美術 洋画	美術専門演習10							A16													
										美術 現代	美術専門演習10							192														
	4年	共通/教職	西洋美術史1		181	共通/教職	西洋美術史1		181					●環境デザイン専門演習13								情デ コミュ	●卒業制作・研究(+集中)			376						
						共通	西洋美術史特論2		522	環デ 空イ	●環境デザイン専門演習13							461・465	情デ イラ	●卒業制作・研究(+集中)			178									
						共通	メディア論		425										情デ 映像	●卒業制作・研究(+集中)			374									
						共通	視覚文化論		530	美術 洋画	●美術専門演習13							A16														
		博物	博物館実習						185										環デ 空イ	●卒業制作・研究			461・465									
																		環デ PC	●卒業制作・研究			365										
集中・フィールドワーク演習科目	■1・2年 ■3・4年 ■2年 ■3・4年 ■2年 ■3年 ■3・4年 ■3年	身体論(集中)																														
		サービスラーニング																														
		インターンシップ1																														
		企業インターンシップ																														
		フィールドワーク(海外美術研修)																														
		インターンシップ2																														
	2年	情デ	情報デザイン特講1																													
	3年	情デ	情報デザイン特講																													
	2年	環デ TF	環境デザイン専門演習3		265																											
	3年	環デ TF	環境デザイン専門研究5		265																											
4年	教職	介護体験																														
	教職	教育相談																														
	情デ コミュ	●卒業制作・研究																														
	情デ イラ	●卒業制作・研究																														
	情デ 映像	●卒業制作・研究																														
	教職	教育実習Ⅰ																														
	教職	教育実習Ⅱ																														

②-14

Ⅰ 限（9:00～10:30）					Ⅱ 限（10:40～12:10）				Ⅲ 限（13:00～14:30）					Ⅳ 限（14:40～16:10）					Ⅴ 限（16:20～17:50）				
区分 学科		科目名	担当者名	教室	区分 学科	科目名	担当者名	教室	区分 学科	科目名	担当者名	教室	区分 学科	科目名	担当者名	教室	区分 学科	科目名	担当者名	教室			
水曜日	教養	■1・2年	英語表現1	425	■1年	○日本語コミュニケーション2		282	■2年	英語演習3		543	■1・2年	英語表現2		527							
		■1・2年	比較文化論	300				285	■1・2年	英語表現1		527											
		■3・4年						281	ボランティア・スタディ3				540										
		■1・2年	20世紀の芸術	181	■1・2年	英語表現2		425															
		■1・2年/教職	日本国憲法	538	■1・2年	スポーツ演習2	第1体育館																
		■1・2年	地理学概論Ⅱ	545	■3・4年																		
		■1・2年	スポーツ演習2	第1体育館	■2年	キャリア演習1																	
		■3・4年			■3年	キャリア入門																	
		■2年	キャリア演習2		■1・2年	大阪の風土と文化		522															
		■3年	キャリア演習		211																		
	■1年留学生	日本語演習2	536																				
	1年	共通	西洋美術史特論1	185	共通	現代美術論		185	共通	基礎造形演習2(デッサン上級)		386	情デ	情報デザイン専門演習1						181・300			
					教職	教育学概論		530					情デ	情報デザイン専門演習1						387・300			
	2年	共通	西洋美術史特論1	185	共通	現代美術論		185															
					共通	絵本論/書物論		181															
				環デ	環境デザイン専門研究2		535	共通	プロジェクト演習1(+集中)						181								
															185								
															285								
3年	共通	西洋美術史特論1	185	共通	現代美術論		185																
	共通	20世紀の芸術	181																				
								共通	プロジェクト演習3(+集中)						181								
														185									
														285									
4年																							
	共通	西洋美術史特論1	185	共通	現代美術論		185	教職	教職実践演習(中・高)		541	情デ コミュイラ	●卒業制作・研究						379				
	共通	20世紀の芸術	181																176・271				
								環デ PC	●卒業制作・研究										365				
木曜日	教養	■1・2年	日本の社会福祉	538	■1・2年	フランス語入門1	542																
		■1・2年	メディア・リテラシー	545	■1年留学生	○日本語コミュニケーション2	303PC																
		■3・4年						■2年留学生	日本語演習4	338													
		■2年留学生	日本語演習4	535																			
	1年	共通	建築史	181	共通／教職	東洋美術史1		181					情デ MD	情報デザイン専門演習2						282			
									環デ IP	環境デザイン専門演習1					386								
	2年	博物	博物館情報・メディア論	338	共通／教職	東洋美術史1	181	情デ AC	情報デザイン専門演習8					372									
					共通	アートマネージメント論	185	情デ VD・ｲﾗ	情報デザイン専門演習8					281									
		共通	建築史	181	共通	デザインマネージメント論	522	情デ VD・ｲﾗ	情報デザイン専門演習8					285									
	3年	共通	建築史	181	共通／教職	東洋美術史1	181	情デ	情報デザイン特講2		185												
					共通	アートマネージメント論	185																
					共通	デザインマネージメント論	522	環デ 空イ	●環境デザイン専門演習12					366									
			博物	博物館経営論	538					環デ PC	●環境デザイン専門演習11							366					
			博物	博物館情報論																			
					環デ 空イ	環境デザイン専門研究5	361																
					美術	美術文化政策研究	A24																
	4年																						
		共通	建築史	181	共通／教職	東洋美術史1	181																
					共通	アートマネージメント論	185																
				共通	デザインマネージメント論	522	美術 洋画	●卒業制作・研究					A16										

2017(平成29)年度 前期 大阪成蹊短期大学時間割表【案】

●総合生活学科 生活デザインコース

曜日	学年	第1時限				第2時限				第3時限				第4時限				第5時限								
		講座番号	クラス	科目名	担当者名	教室	講座番号	クラス	科目名	担当者名	教室	講座番号	クラス	科目名	担当者名	教室	講座番号	クラス	科目名	担当者名	教室	講座番号	クラス	科目名	担当者名	教室
月	1 回 生		共通	健康とスポーツ		T18		共通	体育実技		第1体			アパレル繊維学		537			アパレル構成学		424		教職	福祉と介護体験		444
			共通	日本国憲法		546		共通	暮らしと環境		520												教職	福祉と介護体験		445
			共通	コンピュータリテラシーA		205PC		共通	文学・歴史・宗教		444															
			共通	人間学		536		共通	ホスピタリティー論		549															
			共通	ビジネスコミュニケーション		520																				
	2 回 生		共通	基礎韓国語A		445		A	創作研究Ⅰ		434		A	創作研究Ⅰ		434							教職	教育実習事前事後指導		537
		共通	基礎中国語A		530		B	生活造形実習Ⅰ		436		B	生活造形実習Ⅰ		436											
火	1 回 生			ファッション心理学		338		B2	アパレル設計実習Ⅰ		434		B2	アパレル設計実習Ⅰ		434			総合生活学概論Ⅰ		540			被服整理学		425
								A	アパレル設計実習Ⅱ		436		A	アパレル設計実習Ⅱ		436										
	2 回 生		共通	基礎韓国語A		445			ファッションビジネス論Ⅱ		540			住居学		534			染色加工学		537		共通	英文読解2		345
			A	CAD演習		437																		保育学		534
水	1 回 生		A	ドローイング演習Ⅰ		436		B2	ドローイング演習Ⅰ		436			食物学		425			成蹊基礎セミナー		534		教職	教育心理学		444
								A	情報処理概論		203PC									共通		基礎日本語A		541		
	2 回 生			生活デザイン論		303PC			被服整理学実験		438			被服整理学実験		438			キャリアプランニングⅡ		522		教職	生徒指導論		344
									調理学実習Ⅰ		336			調理学実習Ⅰ		336						共通	英語会話2		540	
																				520			B	ヘアメイク演習		436
木	1 回 生		A	フェースメイク演習		438		B2	フェースメイク演習		438		B2	色彩学		540		A	色彩学		540		教職	教職論		344
			B2	情報処理概論		203PC		A	アパレル設計実習Ⅰ		434		A	アパレル設計実習Ⅰ		434										
	2 回 生			デザイン特論Ⅰ		436			デザイン特論Ⅰ		436			家庭経営学		530		B	ブライダルコーディネート論		344		共通	TOEIC演習2		345
				デザイン特論Ⅰ					デザイン特論Ⅰ																	
		デザイン特論Ⅰ							デザイン特論Ⅰ																	
金	1 回 生							共通	基礎英語A		540		B2	アパレル設計実習Ⅱ		436		B2	アパレル設計実習Ⅱ		436		教職	教育学		344
								共通	基礎英語A		547		A	パターンメイキングⅠ		434		A	パターンメイキングⅠ		434					
								共通	基礎英語A		542															
	2 回 生			衣環境学実験		451			衣環境学実験		451							教職	道德教育研究		349					
土	1 回 生		司	情報資源組織論		543		司教	学校図書館メディアの構成		540		司教	読書と豊かな人間性		540		司	図書館情報資源特論		543					
								司	図書館情報資源概論		543		司	図書館概論		543										
	2 回 生		司	情報サービス論		445		司教	学校図書館メディアの構成		540		司教	読書と豊かな人間性		540										
								司	図書館サービス概論		445		司	図書・図書館史		445										
他	1 回 生		司	児童サービス論【集中】		未定																				
			教職	教育実習事前事後指導																						
	2 回 生		教職	教育実習Ⅰ		実習先																				
			教職	教育実習Ⅱ		実習先																				
		教職	教育実習事前事後指導																							

2017(平成29)年度 前期 大阪成蹊短期大学時間割表【案】

●総合生活学科 食物コース フードコーディネートクラス

曜日	学年	第1時限				第2時限				第3時限				第4時限				第5時限								
		講座番号	クラス	科目名	担当者名	教室	講座番号	クラス	科目名	担当者名	教室	講座番号	クラス	科目名	担当者名	教室	講座番号	クラス	科目名	担当者名	教室					
月	1 回 生			総合生活学概論Ⅰ		338		共通	体育実技		第1体育館			フードコーディネート論		338			食品学Ⅰ		338					
									共通	暮らしと環境		520														
									共通	文学・歴史・宗教		444														
									共通	ホスピタリティー論		549														
	2 回 生								食物学演習		205PC			調理学演習Ⅱ		336			調理学演習Ⅱ		336					
火	1 回 生								情報処理概論		203PC			調理学演習Ⅰ		336			調理学演習Ⅰ		336					
	2 回 生								インテリアコーディネート論		534			公衆衛生・法規		344				共通	英文読解2			345		
水	1 回 生			基礎英語A		344			調理学実習Ⅰ		336			調理学実習Ⅰ		336						共通	基礎日本語A		541	
				基礎英語A		546																				
				基礎英語A		338																				
				基礎英語A		527																				
	2 回 生			食文化概論		345			食品加工学実習		328			食品加工学実習		328						共通	英語会話2		540	
木	1 回 生			成蹊基礎セミナー		525			栄養学Ⅰ		344			食品衛生学Ⅰ		338										
	2 回 生			食料経済学		549			製菓実習Ⅰ		336			製菓実習Ⅰ		336			食品加工学		445		共通	TOEIC演習2		345
金	1 回 生								調理学Ⅰ		344			調理学実験		328			調理学実験		328					
	2 回 生			レストランサービス実習		338			レストランサービス実習		338			フードビジネス演習		344										
土	1 回 生		司	情報資源組織論		543		司	図書館情報資源概論		543		司	図書館概論		543		司	図書館情報資源特論		543					
	2 回 生		司	情報サービス論		445		司	図書館サービス概論		445		司	図書・図書館史		445										
他	1 回 生		司	児童サービス論【集中】		未定																				
	2 回 生			レストランサービス学外実習																						

2017(平成29)年度 前期 大阪成蹊短期大学時間割表【案】

●総合生活学科 食物コース 調理クラス

曜日	学年	第1時限					第2時限					第3時限					第4時限					第5時限				
		講座番号	クラス	科目名	担当者名	教室	講座番号	クラス	科目名	担当者名	教室	講座番号	クラス	科目名	担当者名	教室	講座番号	クラス	科目名	担当者名	教室	講座番号	クラス	科目名	担当者名	教室
月	1 回 生		共通	健康とスポーツ		T18		A	総合生活学概論Ⅰ		338		A	調理実習Ⅰ		323		A	調理実習Ⅰ		323					
			共通	日本国憲法		546		B	総合生活学概論Ⅰ		530		B	調理実習Ⅰ		325		B	調理実習Ⅰ		325					
			共通	コンピュータリテラシーA		205PC																				
			共通	人間学		536																				
			共通	ビジネスコミュニケーション		520																				
	2 回 生							B	調理理論Ⅳ		527		A	調理理論Ⅳ		527										
								A	衛生法規		228		B	衛生法規		228										
火	1 回 生						A	基礎調理実習Ⅰ		323		A	基礎調理実習Ⅰ		323											
							B	基礎調理実習Ⅰ		325		B	基礎調理実習Ⅰ		325											
	2 回 生		A	調理理論Ⅲ		205PC		A	公衆衛生学Ⅱ		344		A	食品衛生学Ⅲ		338		A	フードコーディネート論		334		共通	英文読解2		345
			B	公衆衛生学Ⅱ		344		B	調理理論Ⅲ		205PC		B	フードコーディネート論		334		B	食品衛生学Ⅲ		338					
水	1 回 生			基礎英語A		344		A	公衆衛生学Ⅰ		344		A	栄養学Ⅰ		530		A	食品衛生学実習		228		共通	基礎日本語A		541
				基礎英語A		546		B	栄養学Ⅰ		530		B	食品衛生学実習		228		B	公衆衛生学Ⅰ		344					
				基礎英語A		338																				
				基礎英語A		527																				
	2 回 生		A	製菓実習Ⅰ		323		A	製菓実習Ⅰ		323		A	レストランサービス実習		320		A	レストランサービス実習		320		共通	英語会話2		540
			B	調理実習Ⅳ		320		B	調理実習Ⅳ		320															
木	1 回 生			成蹊基礎セミナー		525		A	基礎調理実習Ⅱ		323		A	基礎調理実習Ⅱ		323										
							B	基礎調理実習Ⅱ		325		B	基礎調理実習Ⅱ		325											
	2 回 生			食料経済学		549		A	食品衛生学Ⅱ		527		A	栄養学Ⅲ		534			食品加工学		445		共通	TOEIC演習2		345
							B	栄養学Ⅲ		534		B	食品衛生学Ⅱ		527											
金	1 回 生		A	調理理論Ⅰ		534		A	食品衛生学Ⅰ		527		A	食品学Ⅰ		534		A	情報処理概論		205PC					
			B	情報処理概論		203PC		B	調理理論Ⅰ		534		B	食品衛生学Ⅰ		527		B	食品学Ⅰ		534					
	2 回 生		A	調理実習Ⅳ		320		A	調理実習Ⅳ		320		B	レストランサービス実習		320		B	レストランサービス実習		320					
			B	製菓実習Ⅰ		323		B	製菓実習Ⅰ		323															
土	1 回 生		司	情報資源組織論		543		司	図書館情報資源概論		543		司	図書館概論		543		司	図書館情報資源特論		543					
	2 回 生		司	情報サービス論		445	63051	司	図書館サービス概論		445		司	図書・図書館史		445										
他	1 回 生		司	児童サービス論【集中】		未定																				
	2 回 生			学外調理実習Ⅰ		実習先																				
				学外調理実習Ⅱ		実習先																				

2017(平成29)年度 前期 大阪成蹊短期大学時間割表【案】

●総合生活学科 栄養コース

曜日	学年	第1時限					第2時限					第3時限					第4時限					第5時限					
		講座番号	クラス	科目名	担当者名	教室	講座番号	クラス	科目名	担当者名	教室	講座番号	クラス	科目名	担当者名	教室	講座番号	クラス	科目名	担当者名	教室	講座番号	クラス	科目名	担当者名	教室	
月	1 回 生												AB1	人権と社会		543		AB1	調理学Ⅰ		444		教職	栄養教育実習事前事後指導		225	
													B2C	調理学Ⅰ		444		B2C	人権と社会		543						
	2 回 生		共通	基礎韓国語A		445		A	給食管理実習Ⅱ		223		A	給食管理実習Ⅱ		223		A	臨床栄養学Ⅰ		546		教職	栄養教育実習事前事後指導		230	
			共通	基礎中国語A		530		B	臨床栄養学Ⅰ		546		B	栄養学実習		346		B	栄養学実習		346						
			C	栄養学実習		346		C	栄養学実習		346		C	臨床栄養学Ⅰ		546											
火	1 回 生		A	給食管理論Ⅰ		543		A	調理学実習Ⅰ		220		A	調理学実習Ⅰ		220											
			B	栄養学Ⅰ		424		B	解剖生理学Ⅰ		345																
			C	食品学実習		346		C	食品学実習		346																
	2 回 生		A	食品衛生学実験		228		A	食品衛生学実験		228		A	栄養指導論Ⅰ		547		学校栄養教育論				547 230		共通	英文読解2		345
			C	栄養指導実習Ⅰ		230		B	給食管理実習Ⅱ		223		B	給食管理実習Ⅱ		223											
			共通	基礎韓国語A		445		C	栄養指導実習Ⅰ		230		C	栄養学Ⅲ		536											
水	1 回 生		A	食品学実習		346		A	食品学実習		346		A	解剖生理学Ⅰ		345		B	食品学実習		346		教職	教育心理学		444	
			B	情報処理概論		205PC		B	食品学Ⅰ		220		B	食品学実習		346		C	調理学実習Ⅰ		220		共通	基礎日本語A		541	
			C	給食管理論Ⅰ		543		C	解剖生理学Ⅰ		345		C	調理学実習Ⅰ		220											
	2 回 生		A	栄養指導実習Ⅰ		230		A	栄養指導実習Ⅰ		230		B	公衆衛生学Ⅰ		230			給食管理演習		225		教職	生徒指導論		344	
			B	食品衛生学実験		228		B	食品衛生学実験		228		C	給食管理実習Ⅱ		223							共通	英語会話2		540	
								C	給食管理実習Ⅱ		223																
木	1 回 生		成蹊基礎セミナー		545		A	栄養学Ⅰ		424			総合生活学概論Ⅰ		444 445 225								教職	教職論		344	
				B		給食管理論Ⅰ		220																			
				C		情報処理概論		203PC																			
2 回 生		C	社会福祉概論		546		A	社会福祉概論		230		A	栄養学Ⅲ		536		B	栄養学Ⅲ		536		共通	TOEIC演習2		345		
							B	栄養指導論Ⅰ		547		B	社会福祉概論		546												
							C	公衆衛生学Ⅰ		536																	
金	1 回 生		共通	基礎英語A		530		A	情報処理概論		203PC		A	食品学Ⅰ		444		A	基礎化学		535		教職	教育学		344	
			共通	基礎英語A		520		B	基礎化学		535		B	調理学実習Ⅰ		220		B	調理学実習Ⅰ		220						
			共通	基礎英語A		527		C	食品学Ⅰ		444		C	基礎化学		535		C	栄養学Ⅰ		424						
			共通	基礎英語A		344																					
	2 回 生		A	栄養学実習		346		A	栄養学実習		346		A	公衆衛生学Ⅰ		536		教職	道德教育研究		349						
			B	栄養指導実習Ⅰ		230		B	栄養指導実習Ⅰ		230		C	栄養指導論Ⅰ		230											
		C	食品衛生学実験		228		C	食品衛生学実験		228																	
土	1 回 生		司	情報資源組織論		543		司	図書館情報資源概論		543		司	図書館概論		543		司	図書館情報資源特論		543						
	2 回 生		司	情報サービス論		445		司	図書館サービス概論		445		司	図書・図書館史		445											
他	1 回 生		司	児童サービス論【集中】		未定																					
			教職	栄養教育実習事前事後指導																							
	2 回 生		教職	栄養教育実習		実習先																					
				給食管理校外実習Ⅰ		実習先																					
			給食管理校外実習Ⅱ		実習先																						

2017(平成29)年度 前期 大阪成蹊短期大学時間割表【案】

●児童教育学科 幼児教育学専攻

曜日	学年	第1時限					第2時限					第3時限					第4時限					第5時限				
		講座番号	クラス	科目名	担当者名	教室	講座番号	クラス	科目名	担当者名	教室	講座番号	クラス	科目名	担当者名	教室	講座番号	クラス	科目名	担当者名	教室	講座番号	クラス	科目名	担当者名	教室
月	1 回 生		A	保育原理		535		A	教育原理		545		A	国語		445		C	国語		535		A	教育実習事前事後指導		300
			B	体育実技		第2G		B	教育心理学		547		B	健康		520・第2G		D	障害児保育		536		B	教育実習事前事後指導		
			C	保育内容総論Ⅰ		543		C	表現		422		C	図画工作		422							C	教育実習事前事後指導		
			D	日本国憲法		545		D	図画工作		420		D	体育講義		547							D	教育実習事前事後指導		
			E	体育講義		547		E	成蹊基礎セミナー		534		E	教育原理		545							E	教育実習事前事後指導		
																							A	保育実習指導Ⅰ		
																							B	保育実習指導Ⅰ		
																							C	保育実習指導Ⅰ		
																							D	保育実習指導Ⅰ		
																							E	保育実習指導Ⅰ		
	2 回 生		共通	基礎韓国語A		445		C	保育方法論		445		B	幼児造形		420			専門演習Ⅱ		420		A	教育実習事前事後指導		522
			共通	基礎中国語A		530		D	体育		T18・第2G		C	体育		T18			専門演習Ⅱ		203PC		B	教育実習事前事後指導		
			E	乳児保育		540							D	発達心理学		425			専門演習Ⅱ		303PC		C	教育実習事前事後指導		
																			専門演習Ⅱ		301PC		D	教育実習事前事後指導		
																			専門演習Ⅱ		540		E	教育実習事前事後指導		
																			専門演習Ⅱ		525		A	保育実習指導Ⅰ		
																			専門演習Ⅱ		542		B	保育実習指導Ⅰ		
																			専門演習Ⅱ		T18		C	保育実習指導Ⅰ		
																			専門演習Ⅱ		657		D	保育実習指導Ⅰ		
																			専門演習Ⅱ		658		E	保育実習指導Ⅰ		
																			専門演習Ⅱ		527		A	保育実習指導Ⅱ		
																			専門演習Ⅱ		422		B	保育実習指導Ⅱ		
																			専門演習Ⅱ		445		C	保育実習指導Ⅱ		
																			専門演習Ⅱ		213PC		D	保育実習指導Ⅱ		
																			専門演習Ⅱ		541		E	保育実習指導Ⅱ		
																			専門演習Ⅱ		537		A	保育実習指導Ⅲ		
																			専門演習Ⅱ		534		B	保育実習指導Ⅲ		
																			専門演習Ⅱ		第2G		C	保育実習指導Ⅲ		
																			専門演習Ⅱ		547		D	保育実習指導Ⅲ		
																							E	保育実習指導Ⅲ		
火	1 回 生		A	音楽		659		B	教職論		543		A	教職論		543		A	保育内容総論Ⅰ		546		A	成蹊基礎セミナー		537
			B	人権と社会		547		C	人権と社会		547		B	保育内容総論Ⅰ		546		B	教育原理		545		B	表現		422
			C	成蹊基礎セミナー		536		D	教育原理		545		C	教育原理		545		CD	基礎英語A		536		E	社会福祉		536
			E	国語		535		E	健康		520・第2G		D	表現		422		CD	基礎英語A		530					
													E	図画工作		420		CD	基礎英語A		535					
																		CD	基礎英語A		527					
	2 回 生		A	器楽Ⅱ		レッスン室		A	幼児造形		422		A	言葉		300		A	乳児保育		424		B	乳児保育		424
			B	体育		第1体・第2G		B	保育方法論		445		B	器楽Ⅱ		レッスン室		B	言葉		300		共通	英文読解2		345
			C	子どもの保健Ⅱ		449		C	器楽Ⅱ		レッスン室		C	乳児保育		540		D	器楽Ⅱ		レッスン室					
			共通	基礎韓国語A		445		D	子どもの保健Ⅱ		449		D	相談援助		345		E	発達心理学		445					
			E	幼児造形		422		E	体育		第1体育館		E	幼児音楽		659										

曜日	学年	第1時限					第2時限					第3時限					第4時限					第5時限				
		講座番号	クラス	科目名	担当者名	教室	講座番号	クラス	科目名	担当者名	教室	講座番号	クラス	科目名	担当者名	教室	講座番号	クラス	科目名	担当者名	教室	講座番号	クラス	科目名	担当者名	教室
水	1 回 生		A	人間関係		530		A	子どもの保健Ⅰ		549		A	健康		520・T18		A	社会福祉		536		B	社会福祉		536
			B	音楽		658		B	人間関係		547		B	子どもの保健Ⅰ		549		B	障害児保育		537		D	成蹊基礎セミナー		349
			C	健康		520・第1体		C	日本国憲法		537		C	教育心理学		303PC		C	子どもの保健Ⅰ		549		E	子どもの保健Ⅰ		549
			D	子どもの保健Ⅰ		549		D	健康		520・第1体		D	音楽		658		D	人間関係		538		共通	基礎日本語A		541
			E	日本国憲法		537		E	障害児保育		535		E	人間関係		537		E	教職論		444					
	2 回 生			医学一般		522		A	相談援助		300		A	幼児音楽		659		A	家庭支援論		345		共通	英語会話2		540
								B	幼児音楽		659		B	発達心理学		536		C	言葉		349					
								C	家庭支援論		444		C	相談援助		300		E	相談援助		445					
								D	保育方法論		540		D	言葉		349										
								E	子どもの保健Ⅱ		449															
木	1 回 生		A	教育心理学		547		AB	基礎英語A		345		A	器楽Ⅰ		レッスン室		A	図画工作		420		E	保育原理		520
			B	図画工作		420		AB	基礎英語A		444		B	成蹊基礎セミナー		535		D	保育原理		520					
			C	社会福祉		520		AB	基礎英語A		535		C	保育原理		520										
			D	器楽Ⅰ		レッスン室		AB	基礎英語A		445		D	教育心理学		545										
			E	基礎英語A		535		C	人間関係		530		E	表現		420										
			E	基礎英語A		444		D	社会福祉		520															
			E	基礎英語A		445		E	器楽Ⅰ		レッスン室															
	2 回 生		B	子どもの保健Ⅱ		449		A	子どもの保健Ⅱ		449		A	発達心理学		425		E	器楽Ⅱ		レッスン室		共通	TOEIC演習2		345
			E	保育方法論		530		B	家庭支援論		545		B	相談援助		537										
								D	家庭支援論		522		C	幼児音楽		659										
金	1 回 生		A	体育実技		第2G		A	表現		420		A	障害児保育		537		C	器楽Ⅰ		レッスン室		C	音楽		659
			B	国語		535		B	保育原理		537		B	器楽Ⅰ		レッスン室		D	教職論		549					
			C	障害児保育		537		C	体育実技		第2G		C	教職論		549										
			D	保育内容総論Ⅰ		543		E	保育内容総論Ⅰ		543		D	国語		445		E	音楽		658					
													E	教育心理学		538										
	2 回 生		C	発達心理学		545		A	保育方法論		300		A	体育		T18・第1体									教育史（初教と同時）	543
			D	幼児造形		422		C	幼児造形		422		D	幼児音楽		659										
土	1 回 生	司		情報資源組織論		543	司		図書館情報資源概論		543	司		図書館概論		543	司		図書館情報資源特論		543					
	2 回 生	司		情報サービス論		445	司		図書館サービス概論		445	司		図書・図書館史		445										
他	1 回 生	司		児童サービス論【集中】		未定	A		教育実習Ⅰ		実習先	A		保育実習Ⅰ		実習先										
							B		教育実習Ⅰ		実習先	B		保育実習Ⅰ		実習先										
							C		教育実習Ⅰ		実習先	C		保育実習Ⅰ		実習先										
							D		教育実習Ⅰ		実習先	D		保育実習Ⅰ		実習先										
							E		教育実習Ⅰ		実習先	E		保育実習Ⅰ		実習先										
	2 回 生	A		教育実習Ⅱ		実習先	A		保育実習Ⅰ		実習先	A		保育実習Ⅱ		実習先	A		保育実習Ⅲ		実習先					
		B		教育実習Ⅱ		実習先	B		保育実習Ⅰ		実習先	B		保育実習Ⅱ		実習先	B		保育実習Ⅲ		実習先					
		C		教育実習Ⅱ		実習先	C		保育実習Ⅰ		実習先	C		保育実習Ⅱ		実習先	C		保育実習Ⅲ		実習先					
		D		教育実習Ⅱ		実習先	D		保育実習Ⅰ		実習先	D		保育実習Ⅱ		実習先	D		保育実習Ⅲ		実習先					
		E		教育実習Ⅱ		実習先	E		保育実習Ⅰ		実習先	E		保育実習Ⅱ		実習先	E		保育実習Ⅲ		実習先					

2017(平成29)年度 前期 大阪成蹊短期大学時間割表【案】

●観光学科

曜日	学年	第1時限					第2時限					第3時限					第4時限					第5時限				
		講座番号	クラス	科目名	担当者名	教室	講座番号	クラス	科目名	担当者名	教室	講座番号	クラス	科目名	担当者名	教室	講座番号	クラス	科目名	担当者名	教室	講座番号	クラス	科目名	担当者名	教室
月	1 回 生		共通	基礎韓国語A		445		AB	ホスピタリティー論		540		CD	ホスピタリティー論		540		A	英会話Ⅰ		344					
			共通	基礎中国語A		530		CD	観光総論		537		B	英会話Ⅰ		344		CD	まちづくり・食文化		425					
													A	成蹊基礎セミナー		345		B	成蹊基礎セミナー		345					
	2 回 生		C	航空予約演習B		200PC		A	航空予約演習B		200PC		AB	日本語表現		349		B	航空予約演習B		200PC					
								CD	日本語表現		543		CD	観光文化論		424										
火	回 生		共通	基礎韓国語A		445		3・4	観光英語		424		3・4	基礎英語A		535		1・2・3・4	国内旅行管理者演習A		444		1・2・3・4	国内旅行管理者演習B		444
								1・2	基礎英語A		546		1・2	観光英語		424										
	2 回 生		ABCD	英語演習B		345		ABCD	観光演習Ⅱ		522		AB	コンピュータ演習Ⅰ		200PC		AB	秘書学概論		425		共通	英文読解2		345
													CD	秘書学概論		425		D	航空予約演習B		200PC					
水	1 回 生		CD	国際観光論		445		AB	観光総論		527												共通	基礎日本語A		541
			AB	観光演習Ⅰ		425		CD	観光演習Ⅰ		425															
	2 回 生							AB	インターネット英語		301PC		AB	観光文化論		546					522 525 520		共通	英語会話2		540
													CD	インターネット英語		301PC			キャリアプランニングⅡ							
木	1 回 生		C	英会話Ⅰ		349		A	航空予約基礎演習		200PC		AB	旅行地理		344		B	航空予約基礎演習		200PC					
			D	航空予約基礎演習		200PC		C	成蹊基礎セミナー		425		C	航空予約基礎演習		200PC										
								D	英会話Ⅰ		349															
	2 回 生		ABCD	地域振興とメディア活用		540		ABCD	グリーンツーリズム		549												共通	TOEIC演習2		345
金	1 回 生		AB	まちづくり・食文化		444		AB	秘書実務		424		AB	情報処理概論		200PC		CD	情報処理概論		303PC					
			D	成蹊基礎セミナー		536		CD	旅行地理		536		CD	秘書実務		424		AB	国際観光論		345					
	2 回 生		CD	英会話Ⅱ		349		AB	英会話Ⅱ		349		ABCD	情報処理演習B		546										
								CD	コンピュータ演習Ⅰ		200PC															
土	1 回 生		司	情報資源組織論		543		司	図書館情報資源概論		543		司	図書館概論		543		司	図書館情報資源特論		543					
	2 回 生		司	情報サービス論		445		司	図書館サービス概論		445		司	図書・図書館史		445										
他			司	児童サービス論【集中】		未定																				

2017(平成29)年度 前期 大阪成蹊短期大学時間割表【案】

●創造文化学科

曜日	学年	第1時限				第2時限				第3時限					第4時限					第5時限						
		講座番号	クラス	科目名	担当者名	教室	講座番号	クラス	科目名	担当者名	教室	講座番号	クラス	科目名	担当者名	教室	講座番号	クラス	科目名	担当者名	教室	講座番号	クラス	科目名	担当者名	教室
月	1 回 生		共通	健康とスポーツ		T18		共通	体育実技		第1体			文学入門		530			人間と文化		522		教職	福祉と介護体験		444
			共通	日本国憲法		546		共通	暮らしと環境		520												教職	福祉と介護体験		445
			共通	コンピュータリテラシーA		205PC		共通	文学・歴史・宗教		444															
			共通	人間学		536		共通	ホスピタリティー論		549															
			共通	ビジネスコミュニケーション		520																				
	2 回 生			基礎韓国語A		445																	教職	教育実習事前事後指導		543
				基礎中国語A		530																				
				ライティング I		549																				
火	1 回 生			対人コミュニケーション		540		A	成蹊基礎セミナー		527			映像表現		203PC			青年心理学		344		B	表現とコンピュータ		200PC
								B	成蹊基礎セミナー		444												教職	教育実習事前事後指導		543
	2 回 生		共通	基礎韓国語A		445			漢字検定演習		541			笑いのシナリオ創作		301PC			資格英語演習		345			英文読解2		345
水	1 回 生			文法		547		共通	基礎英語A		534		A	文章表現法		534			表現文化論		530		教職	教育心理学		444
								共通	基礎英語A		546		B	文章表現法		547							共通	基礎日本語A		541
								共通	基礎英語A		543															
	2 回 生			社会心理学		300								デジタル画像処理		203PC			キャリアプランニングⅡ		522 520 525		教職	生徒指導論		344
																								英語会話2		540
木	1 回 生			お笑い学		338			表現文化基礎演習1		540		B	コンピュータ基礎		213PC			日本語文法1		345		教職	教職論		344
									表現文化基礎演習1		541		A	表現とコンピュータ		205PC			ヴォイストレーニングⅠ		659					
	2 回 生			表現文化演習1		541			放送メディアコミュニケーション		538			ダンスパフォーマンス		T18			英語学Ⅰ		425			TOEIC演習2		345
				表現文化演習1		424																				
金	1 回 生		A	コンピュータ基礎		205PC			音楽パフォーマンス		658			漢文学入門		349			English Communcation Ⅰ		344		教職	教育学		344
			B	English Conversation Ⅰ		542													English Communcation Ⅰ		543		A	English Conversation Ⅰ		542
																			English Communcation Ⅰ		546					
	2 回 生			カウンセリング入門		424			ユーモアと文化		345			リーディング		542		教職	道徳教育研究		349					
土	1 回 生		司	情報資源組織論		543		司教	学校図書館メディアの構成		540		司教	読書と豊かな人間性		540		司	図書館情報資源特論		543					
								司	図書館情報資源概論		543		司	図書館概論		543										
	2 回 生		司	情報サービス論		445		司教	学校図書館メディアの構成		540		司教	読書と豊かな人間性		540										
								司	図書館サービス概論		445		司	図書・図書館史		445										
他	1 回 生		司	児童サービス論【集中講義】		未定																				
			教職	教育実習事前事後指導																						
	2 回 生		教職	教育実習Ⅰ		実習先																				
			教職	教育実習Ⅱ		実習先																				

2017(平成29)年度 前期 大阪成蹊短期大学時間割表【案】

●経営会計学科

曜日	学年	第1時限				第2時限				第3時限				第4時限				第5時限			
		講座番号	クラス	科目名	担当者名	教室	講座番号	クラス	科目名	担当者名	教室	講座番号	クラス	科目名	担当者名	教室	講座番号	クラス	科目名	担当者名	教室
月	1 回 生			ビジネスコミュニケーション		424			経済学		345			中級簿記1		549			中級簿記1		549
														ビジネス情報処理		213PC			経営学		349
	2 回 生		共通	基礎韓国語A		445			ビジネス情報処理演習Ⅲ		203PC			ビジネス情報処理演習Ⅲ		203PC			中級簿記1		549
			共通	基礎中国語A		530	ABクラス分けて登録せず、授業内容で登録(エクセル中心)				ABクラス分けて登録せず、授業内容で登録(ワード中心)										
														中級簿記1		549					
火	1 回 生								ビジネス情報処理		213PC			基礎英語A		542		A	成蹊基礎セミナー		349
														基礎英語A		530		B	成蹊基礎セミナー		520
														基礎英語A		541					
	2 回 生		共通	基礎韓国語A		445			マーケティングⅠ		425			専門演習Ⅱ		213PC					
														専門演習Ⅱ		520			共通	英文読解2	345
水	1 回 生		A	ビジネスマナーⅠ		534			ビジネス英語Ⅰ		541			マーケティング入門		540			共通	基礎日本語A	541
			B	ビジネスマナーⅠ		540															
	2 回 生			専門演習Ⅱ		444			会計学特殊講義		338			比較経営制度		338					522
				専門演習Ⅱ		349			ビジネス英語Ⅰ		541			専門演習Ⅱ		444			キャリアプランニングⅡ		520
木	1 回 生			マーケティング入門		534			専門演習ⅠA		301PC										
				経営学		344			専門演習ⅠA		525										
									専門演習ⅠA		213PC										
									専門演習ⅠA		543										
	2 回 生			財務会計		527			ビジネス実務総論		546								共通	TOEIC演習2	345
金	1 回 生			初級簿記1		525			税法		525			上級簿記1		338			工業簿記1		525
	2 回 生			初級簿記1		525			ビジネス実務総論		546			管理会計		543			工業簿記1		525
																			上級簿記1		338
土	1 回 生		司	情報資源組織論		543		司	図書館情報資源概論		543		司	図書館概論		543		司	図書館情報資源特論		543
	2 回 生		司	情報サービス論		445		司	図書館サービス概論		445		司	図書・図書館史		445					
他	1 回 生		司	児童サービス論【集中】																	
	2 回 生																				

2017(平成29)年度 後期 大阪成蹊短期大学時間割表【案】

●総合生活学科 生活デザインコース

曜日	学年	第1時限				第2時限				第3時限				第4時限				第5時限									
		講座番号	クラス	科目名	担当者名	教室	講座番号	クラス	科目名	担当者名	教室	講座番号	クラス	科目名	担当者名	教室	講座番号	クラス	科目名	担当者名	教室	講座番号	クラス	科目名	担当者名	教室	
月	1 回 生		共通	体育講義		535		共通	日本事情		542			ファッションビジネス概論		424		A	パターンメイキングⅡ		436		A	パターンメイキングⅡ		436	
			共通	ホスピタリティー論		445		共通	美学		540																
			共通	文学・歴史・宗教		444		共通	日本の食文化		546																
			共通	人間学		536		共通	人間学		536																
			共通	キャリア演習(インターンシップ)		527		共通	暮らしと環境		520																
	2 回 生																										
				デザイン特論Ⅱ					デザイン特論Ⅱ						材料学実験		451			材料学実験		451		教職	教職実践演習(中学校)		345
				デザイン特論Ⅱ		436			デザイン特論Ⅱ		436																
				デザイン特論Ⅱ					デザイン特論Ⅱ																		
火	1 回 生		共通	社会福祉と暮らしの法		543		A	テキスタイル基礎実験		451		A	テキスタイル基礎実験		451		A	ファッションアイテム演習		434		共通	英文読解1		345	
			共通	人権と社会		525		B	テキスタイル基礎実験		438		B	テキスタイル基礎実験		438		B	アパレル材料学		344		B	ファッションアイテム演習		434	
			共通	コンピュータリテラシーB		205PC																					
			共通	キャリアデザイン		520																					
			A	アパレル材料学		345																					
	2 回 生																										
			共通	基礎韓国語B		546			栄養学Ⅰ		540		B	スタイリスト演習		436		B	スタイリスト演習		436						
水	1 回 生		A	ドローイング演習Ⅱ		434		A	アパレル設計実習Ⅳ		436		A	アパレル設計実習Ⅳ		436			キャリアプランニングⅠ		534		共通	基礎日本語B		541	
								B	アパレル設計実習Ⅲ		434		B	アパレル設計実習Ⅲ		434					535		共通	英語会話1		540	
																				536							
																				537							
	2 回 生			ファッションビジネス論Ⅲ		200PC			調理学実習Ⅱ		336			調理学実習Ⅱ		336							教職	カウンセリング概論		345	
木	1 回 生		教職	教育課程論		344		教職	家庭科教育法		530		A	アパレル設計実習Ⅲ		434		A	アパレル設計実習Ⅲ		434		共通	TOEIC演習1		345	
												B	アパレル設計実習Ⅳ		436		B	アパレル設計実習Ⅳ		436							
	2 回 生			ショップ経営学		540		B	ネイルアート演習		434		B	生活造形実習Ⅱ		演習室		B	生活造形実習Ⅱ		演習室						
金	1 回 生			販売論		543		共通	基礎英語B		540			衣環境学		547		教職	教育方法論		345						
									共通	基礎英語B		547															
									共通	基礎英語B		542															
	2 回 生			インテリアコーディネート論		534			総合生活学概論Ⅱ		534		A	創作研究Ⅱ		434		A	創作研究Ⅱ		434						
土	1 回 生		司教	情報メディアの活用		540		司教	学校経営と学校図書館		540		司教	学習指導と学校図書館		540		司	生涯学習概論		543						
			司	情報資源組織演習1		543		司	図書館情報技術論		543		司	図書館制度・経営論		543											
	2 回 生		司教	情報メディアの活用		540		司教	学校経営と学校図書館		540		司教	学習指導と学校図書館		540		司	情報サービス演習2		445						
							司	情報資源組織演習2		445		司	情報サービス演習1		445												
他	1 回 生		共通	海外語学演習		実習先																					
			教職	福祉と介護体験		実習先																					
			教職	教育実習事前事後指導																							
	2 回 生		教職	教育実習Ⅰ		実習先																					
			教職	教育実習Ⅱ		実習先																					
			教職	教育実習事前事後指導																							

2017(平成29)年度 後期 大阪成蹊短期大学時間割表【案】

●総合生活学科 食物コース フードコーディネートクラス

曜日	学年	第1時限				第2時限				第3時限				第4時限				第5時限								
		講座番号	クラス	科目名	担当者名	教室	講座番号	クラス	科目名	担当者名	教室	講座番号	クラス	科目名	担当者名	教室	講座番号	クラス	科目名	担当者名	教室					
月	1 回 生		共通	体育講義		535		共通	日本事情		542			栄養学Ⅱ		349			総合生活学概論Ⅱ		338					
			共通	ホスピタリティー論		445		共通	美学		540															
			共通	文学・歴史・宗教		444		共通	日本の食文化		546															
			共通	人間学		536		共通	人間学		536															
			共通	キャリア演習(インターンシップ)		527		共通	暮らしと環境		520															
	2 回 生													食物学演習		205PC			栄養学Ⅲ		349					
火	1 回 生			レストランサービス論		540			ラッピング演習		338			テーブルコーディネート実習Ⅱ		334			テーブルコーディネート実習Ⅱ		334		共通	英文読解1		345
	2 回 生								フードマネジメント論		525			製菓実習Ⅱ		336			製菓実習Ⅱ		336					
水	1 回 生			基礎英語B		344			調理学実習Ⅱ		336			調理学実習Ⅱ		336							共通	基礎日本語B		541
				基礎英語B		546														共通	英語会話1		540			
				基礎英語B		338																				
				基礎英語B		527																				
	2 回 生								状態別栄養学実習		325			状態別栄養学実習		325										
木	1 回 生			フードビジネスセミナー		525			食品学Ⅱ		534			調理学Ⅱ		344							共通	TOEIC演習1		345
	2 回 生								調理学実習Ⅲ		336			調理学実習Ⅲ		336										
金	1 回 生			色彩学		525			販売論		543			カフェ実習		336			カフェ実習		336					
	2 回 生			テーブルコーディネート実習Ⅰ		336			テーブルコーディネート実習Ⅰ		336															
土	1 回 生		司	情報資源組織演習1		543		司	図書館情報技術論		543		司	図書館制度・経営論		543		司	生涯学習概論		543					
	2 回 生							司	情報資源組織演習2		445		司	情報サービス演習1		445		司	情報サービス演習2		445					
他	1 回 生			レストランサービス学外実習																						
		共通		海外語学演習																						
	2 回 生																									

2017(平成29)年度 後期 大阪成蹊短期大学時間割表【案】

●総合生活学科 食物コース 調理クラス

曜日	学年	第1時限					第2時限					第3時限					第4時限					第5時限				
		講座番号	クラス	科目名	担当者名	教室	講座番号	クラス	科目名	担当者名	教室	講座番号	クラス	科目名	担当者名	教室	講座番号	クラス	科目名	担当者名	教室	講座番号	クラス	科目名	担当者名	教室
月	1 回 生		共通	体育講義		535		共通	日本事情		542		A	調理実習Ⅱ		323		A	調理実習Ⅱ		323					
			共通	ホスピタリティー論		445		共通	美学		540		B	調理実習Ⅱ		325		B	調理実習Ⅱ		325					
			共通	文学・歴史・宗教		444		共通	日本の食文化		546															
			共通	人間学		536		共通	人間学		536															
			共通	キャリア演習(インターンシップ)		527		共通	暮らしと環境		520															
	2 回 生			カフェ実習		336			カフェ実習		336			食文化概論		344			フードスペシャリスト論		534					
火	1 回 生		共通	社会福祉と暮らしの法		543		A	基礎調理実習Ⅲ		323		A	基礎調理実習Ⅲ		323		A	栄養学Ⅱ		534		共通	英文読解1		345
			共通	人権と社会		525		B	基礎調理実習Ⅲ		325		B	基礎調理実習Ⅲ		325										
			共通	コンピュータリテラシーB		205PC																				
			共通	キャリアデザイン		520																				
		2 回 生		A	調理理論Ⅴ		534			フードマネージメント論		525			食品評価演習		328			食品評価演習		328				
水	1 回 生			基礎英語B		344		A	総合生活学概論Ⅱ		338												共通	基礎日本語B		541
				基礎英語B		546		B	総合生活学概論Ⅱ		540												共通	英語会話1		540
				基礎英語B		338																				
				基礎英語B		527																				
		2 回 生		A	応用調理実習		320		A	応用調理実習		320														
			B	応用調理実習		323		B	応用調理実習		323															
木	1 回 生			フードビジネスセミナー		525		A	調理実習Ⅲ		323		A	調理実習Ⅲ		323		B	栄養学Ⅱ		534		共通	TOEIC演習2		345
								B	調理実習Ⅲ		325		B	調理実習Ⅲ		325										
		2 回 生			食物学演習		205PC			食物学演習		205PC		A	公衆衛生学Ⅲ		444		B	公衆衛生学Ⅲ		444				
													B	調理理論Ⅴ		534										
金	1 回 生			色彩学		525			販売論		543		A	食品学Ⅱ		344		A	調理理論Ⅱ		527					
													B	調理理論Ⅱ		527		B	食品学Ⅱ		344					
		2 回 生							A	調理実習Ⅴ		325		A	調理実習Ⅴ		325									
								B	調理実習Ⅴ		323		B	調理実習Ⅴ		323										
土	1 回 生		司	情報資源組織演習1		543		司	図書館情報技術論		543		司	図書館制度・経営論		543		司	生涯学習概論		543					
	2 回 生							司	情報資源組織演習2		445		司	情報サービス演習1		445		司	情報サービス演習2		445					
他	1 回 生		共通	海外語学演習		未定																				
				学外調理実習Ⅰ		実習先																				
		2 回 生			学外調理実習Ⅱ		実習先																			

2017(平成29)年度 後期 大阪成蹊短期大学時間割表【案】

●総合生活学科 栄養コース

曜日	学年	第1時限					第2時限					第3時限					第4時限					第5時限						
		講座番号	クラス	科目名	担当者名	教室	講座番号	クラス	科目名	担当者名	教室	講座番号	クラス	科目名	担当者名	教室	講座番号	クラス	科目名	担当者名	教室	講座番号	クラス	科目名	担当者名	教室		
月	1 回 生		共通	体育講義		535		A	食品学Ⅱ		230		B	給食管理実習Ⅰ		223			給食管理演習		230							
			共通	ホスピタリティ論		445		B	給食管理実習Ⅰ		223		C	調理学実習Ⅱ		220												
			共通	文学・歴史・宗教		444		C	調理学実習Ⅱ		220																	
			共通	人間学		536																						
			共通	キャリア演習(インターンシップ)		527																						
	2 回 生		共通	基礎韓国語B		547			フードコーディネート論		334		A	臨床栄養学Ⅱ		546		A	生化学		536		教職	教職実践演習(栄養教諭)		349		
			共通	基礎中国語B		530			フードマネジメント論		534		B	生化学実験		228		B	生化学実験		228							
									食文化概論		537		C	生化学		536		C	臨床栄養学Ⅱ		546							
	火	1 回 生		共通	社会福祉と暮らしの法		543		A	給食管理実習Ⅰ		223		A	給食管理実習Ⅰ		223		A	給食管理論Ⅱ		546		共通	英文読解1		345	
			共通	人権と社会		525		B	解剖生理学Ⅱ		345		B	食品学実験		228		B	食品学実験		228							
			共通	コンピュータリテラシーB		205PC							C	栄養学Ⅱ		547		C	解剖生理学Ⅱ		345							
			共通	キャリアデザイン		520																						
2 回 生			共通	基礎韓国語B		546		A	生化学実験		228		A	運動生理学		546		C	調理学実習Ⅲ		220							
			A	生化学実験		228		B	運動生理学		230		B	栄養指導論Ⅱ		536												
												C	調理学実習Ⅲ		220													
水	1 回 生		C	給食管理実習Ⅰ		223		A	解剖生理学Ⅱ		345			総合生活学概論Ⅱ		445 338 225		A	栄養学Ⅱ		338		共通	基礎日本語B		541		
								B	食品衛生学Ⅰ		537				B		食品学Ⅱ		546		共通	英語会話1		540				
								C	給食管理実習Ⅰ		223				C		給食管理論Ⅱ		547									
	2 回 生		A	栄養指導実習Ⅱ		230		A	栄養指導実習Ⅱ		230		A	調理学実習Ⅲ		220		A	調理学実習Ⅲ		220		教職	カウンセリング概論		345		
			B	調理学実習Ⅲ		220		B	調理学実習Ⅲ		220																	
			C	臨床栄養学実習		346		C	臨床栄養学実習		346																	
木	1 回 生		教職	教育課程論		344		A	食品衛生学Ⅰ		537		A	調理学実習Ⅱ		220		A	調理学実習Ⅱ		220		共通	TOEIC演習1		345		
								B	給食管理論Ⅱ		546		B	栄養学Ⅱ		547		C	食品学実験		228							
													C	食品学実験		228												
	2 回 生		A	臨床栄養学実習		346		A	臨床栄養学実習		346		B	臨床栄養学Ⅱ		546												
			B	栄養指導実習Ⅱ		230		B	栄養指導実習Ⅱ		230		C	栄養指導論Ⅱ		536												
			C	生化学実験		228		C	生化学実験		228																	
金	1 回 生		共通	基礎英語B		530		A	食品学実験		228		A	食品学実験		228		教職	教育方法論		345							
			共通	基礎英語B		345		B	調理学実習Ⅱ		220		B	調理学実習Ⅱ		220												
			共通	基礎英語B		527		C	食品衛生学Ⅰ		537		C	食品学Ⅱ		338												
			共通	基礎英語B		344																						
	2 回 生		B	臨床栄養学実習		346		A	栄養指導論Ⅱ		536		A	公衆栄養学		535		B	公衆栄養学		535							
			C	運動生理学		546		B	臨床栄養学実習		346		B	生化学		536		C	栄養指導実習Ⅱ		230							
							C	公衆栄養学		535		C	栄養指導実習Ⅱ		230													
土	1 回 生	司		情報資源組織演習1		543	司		図書館情報技術論		543	司		図書館制度・経営論		543	司		生涯学習概論		543							
	2 回 生											司		情報サービス演習1		445	司		情報サービス演習2		445							
他	1 回 生			給食管理校外実習Ⅰ		実習先																						
		教職		栄養教育実習事前事後指導																								
		共通		海外語学演習		実習先																						
	2 回 生		教職	栄養教育実習		実習先																						
		教職		栄養教育実習事前事後指導																								
				給食管理校外実習Ⅰ		実習先																						
				給食管理校外実習Ⅱ		実習先																						
				給食管理演習																								

2017(平成29)年度 後期 大阪成蹊短期大学時間割表【案】

●児童教育学科 幼児教育学専攻

曜日	学年	第1時限				第2時限				第3時限				第4時限				第5時限								
		講座番号	クラス	科目名	担当者名	教室	講座番号	クラス	科目名	担当者名	教室	講座番号	クラス	科目名	担当者名	教室	講座番号	クラス	科目名	担当者名	教室	講座番号	クラス	科目名	担当者名	教室
月	1 回 生		A	幼児体育		T18		A	経済と暮らし		345			専門演習Ⅰ		420		B	障害児保育		543			教育実習事前事後指導		300
			B	教育課程論		546		B	体育講義		543			専門演習Ⅰ		203PC		E	アジアの未来と日本		445			保育実習指導Ⅰ		300
			C	暮らしと環境		520		C	音楽		658			専門演習Ⅰ		535										
			D	障害児保育		543		D	体育実技		第1体			専門演習Ⅰ		540										
			E	体育実技		第1体		E	生涯発達心理学		535			専門演習Ⅰ		425										
														専門演習Ⅰ		345										
														専門演習Ⅰ		T18										
														専門演習Ⅰ		659・657										
														専門演習Ⅰ		658										
														専門演習Ⅰ		443・527										
														専門演習Ⅰ		445										
														専門演習Ⅰ		537										
														専門演習Ⅰ		422										
														専門演習Ⅰ		542										
														専門演習Ⅰ		213PC										
														専門演習Ⅰ		541										
														専門演習Ⅰ		第2G										
														専門演習Ⅰ		547										
														専門演習Ⅰ		444										

曜日	学年	第1時限				第2時限				第3時限				第4時限				第5時限									
		講座番号	クラス	科目名	担当者名	教室	講座番号	クラス	科目名	担当者名	教室	講座番号	クラス	科目名	担当者名	教室	講座番号	クラス	科目名	担当者名	教室	講座番号	クラス	科目名	担当者名	教室	
水	1 回 生		A	臨床心理学		445		A	子どもの保健Ⅰ		549		A	社会的養護内容		535		A	生涯発達心理学		545		A	障害児保育		444	
			B	音楽		658		B	児童家庭福祉		525		B	子どもの保健Ⅰ		549		B	環境		520		C	生涯発達心理学		546	
			C	社会的養護		535		C	教育課程論		536		C	環境		520		C	子どもの保健Ⅰ		549		D	子どもの保健Ⅰ		549	
			D	文学・歴史・宗教		547		D	臨床心理学		445		D	音楽		658							共通	英語会話1		540	
			E	子どもの保健Ⅰ		549		E	環境		520		E	障害児保育		444							共通	基礎日本語B		541	
	2 回 生			生活		540		E	体育		T18		C	子どもの食と栄養		346		C	子どもの食と栄養		346		C	児童文化		538	
													E	児童文化		344											
木	1 回 生		A	図画工作		420		AB	基礎英語B		345		A	器楽Ⅰ		レッスン室		B	保育内容総論Ⅱ		520		共通	TOEIC演習1		345	
			B	幼児体育		T18		AB	基礎英語B		444		B	図画工作		420		D	児童家庭福祉		525		C	保育内容総論Ⅱ		520	
			C	社会的養護内容		520		AB	基礎英語B		543		C	児童家庭福祉		525		E	社会的養護内容		445		E	児童家庭福祉		525	
			D	器楽Ⅰ		レッスン室		AB	基礎英語B		547		D	生涯発達心理学		543											
			E	基礎英語B		543		C	幼児体育		T18		E	幼児体育		T18											
			E	基礎英語B		444		D	社会的養護内容		520																
			E	基礎英語B		547		E	器楽Ⅰ		レッスン室																
	2 回 生		A	体育		第2G		ACE	保育・教職実践演習(幼稚園)		536		C	保育相談支援		540		A	保育相談支援		540						
											549		B	保育相談支援		545		D	子どもの食と栄養		346						
											349		D	子どもの食と栄養		346		E	器楽Ⅱ		レッスン室						
											535																
								B	体育		第2G																
								D	保育相談支援		545																
金	1 回 生		A	体育講義		547		A	保育内容総論Ⅱ		445		A	環境		525		A	音楽		659		A	教育課程論		546	
			D	保育内容総論Ⅱ		445		B	臨床心理学		520		B	器楽Ⅰ		レッスン室		B	情報機器の操作		303PC						
			E	図画工作		420		C	情報機器の操作		303PC		C	臨床心理学		520		C	器楽Ⅰ		レッスン室						
								D	図画工作		420		D	情報機器の操作		303PC		D	環境		525						
								E	音楽		659		E	保育内容総論Ⅱ		546		E	臨床心理学		520						
	2 回 生			教育行政学		540		D	乳児保育		545		B	子どもの食と栄養		346		B	子どもの食と栄養		346		B	乳児保育		545	
												E	乳児保育		545		E	保育相談支援		349			算数		445		
土	1 回 生		司	情報資源組織演習1		543		司	図書館情報技術論		543		司	図書館制度・経営論		543		司	生涯学習概論		543						
	2 回 生							司	情報資源組織演習2		445		司	情報サービス演習1		445		司	情報サービス演習2		445						
他	1 回 生		共通	海外語学演習		実習先																					
				教育実習Ⅰ		実習先																					
				保育実習Ⅰ		実習先																					
	2 回 生			教育実習Ⅱ		実習先																					
				保育実習Ⅰ		実習先																					
				保育実習Ⅱ		実習先																					
			保育実習Ⅲ		実習先																						

2017(平成29)年度 後期 大阪成蹊短期大学時間割表【案】

●観光学科

曜日	学年	第1時限					第2時限					第3時限					第4時限					第5時限					
		講座番号	クラス	科目名	担当者名	教室	講座番号	クラス	科目名	担当者名	教室	講座番号	クラス	科目名	担当者名	教室	講座番号	クラス	科目名	担当者名	教室	講座番号	クラス	科目名	担当者名	教室	
月	1 回 生		共通	基礎韓国語B		547		AB	秘書実務		425		A	航空予約演習A		200PC		A	英会話 I		530						
			共通	基礎中国語B		530		CD	ビジネスコミュニケーション		547		B	英会話 I		530		CD	秘書実務		345						
													CD	観光ビジネス論		543											
	2 回 生		ABCD	簿記概説		549		AB	事務管理		549		AB	ホスピタティー英語		545											
								CD	ホスピタリティー英語		545		CD	事務管理		549											
火	1 回 生		CD	観光演習 I		425		AB	観光ビジネス論		534		AB	観光関連法規		540		AB	英語演習A		338		共通	英文読解1		345	
			共通	基礎韓国語B		546		CD	英語演習A		424		CD	経済と暮らし		445		CD	観光関連法規		540						
	2 回 生												AB	観光マーケティング		203PC		AB	観光バリアフリー		543						
													CD	観光バリアフリー		543		CD	観光マーケティング		203PC						
水	1 回 生		AB	宿泊業実務演習		543		AB	基礎英語B		444		AB	ビジネスコミュニケーション		547		キャリアプランニング I				534		共通	基礎日本語B		541
			CD	基礎英語B		444		CD	宿泊業実務演習		300		CD	暮らしと環境		534						535		共通	英語会話1		540
																					536						
																					537						
	2 回 生		ABCD	観光統計調査法		203PC		ABCD	情報とネットワーク		200PC																
木	1 回 生		D	英会話 I		425		AB	経済と暮らし		425		AB	運輸業実務演習		537		B	航空予約演習A		200PC						
			AB	暮らしと環境		536		C	英会話 I		445		C	航空予約演習A		200PC											
								D	航空予約演習A		200PC																
	2 回 生		ABCD	コンピューター演習Ⅱ		200PC		ABCD	観光演習Ⅱ		540																
金	1 回 生		AB	アジアの未来と日本		520		AB	情報処理演習A		205PC		AB	旅行業実務演習		540		CD	旅行業実務演習		540						
			CD	情報処理演習A		205PC		CD	アジアの未来と日本		425		CD	運輸業実務演習		537		AB	観光演習 I		425						
	2 回 生		AB	地域文化遺産の活性化		545		AB	英会話Ⅱ		345																
			CD	英会話Ⅱ		542		CD	地域文化遺産の活性化		444																
土	1 回 生		司	情報資源組織演習1		543		司	図書館情報技術論		543		司	図書館制度・経営論		543		司	生涯学習概論		543						
	2 回 生							司	情報資源組織演習2		445		司	情報サービス演習1		445		司	情報サービス演習2		445						
他	1 回 生			インターンシップ		実習先																					
			共通	海外語学演習		実習先																					
	2 回 生																										

2017(平成29)年度 後期 大阪成蹊短期大学時間割表【案】

●創造文化学科

曜日	学年	第1時限				第2時限				第3時限				第4時限				第5時限								
		講座番号	クラス	科目名	担当者名	教室	講座番号	クラス	科目名	担当者名	教室	講座番号	クラス	科目名	担当者名	教室	講座番号	クラス	科目名	担当者名	教室					
月	1 回 生		共通	体育講義		535		共通	日本事情		542			コンピュータ・オフィスベシヤリスト		301PC			情報資格演習		301PC		教職	教育実習事前事後指導		543
			共通	ホスピタリティー論		445		共通	美学		540			アニメマンガカルチャー		538								笑いと表現		424
			共通	文学・歴史・宗教		444		共通	日本の食文化		546															
			共通	人間学		536		共通	人間学		536															
			共通	キャリア演習(インターンシップ)		527		共通	暮らしと環境		520															
	2 回 生			基礎韓国語B		547			広告表現研究		530			アニメキャラクター演習		534			コミュニケーション概論		344		教職	教職実践演習(中学校)		345
				基礎中国語B		530																				
火	1 回 生		共通	社会福祉と暮らしの法		543		A	音声表現法		200PC			ヴォイストレーニングⅡ		T18			舞台パフォーマンス		T18			英文読解1		345
			共通	人権と社会		525		B	音声表現法		205PC			English Conversation2		537			English Communication 2		541			創作言語活動		205PC
			共通	コンピュータリテラシーB		205PC								English Conversation2		349			English Communication 2		542					
			共通	キャリアデザイン		520													English Communication 2		547					
	2 回 生			基礎韓国語B		546			舞台表現演習		T18			ライティングⅡ		344			創作活動演習		205PC					
水	1 回 生			人間関係論		530			基礎英語B		534			視覚デザイン		203PC			キャリアプランニングⅠ		534 535 536 537			基礎日本語B		541
									基礎英語B		546										英語会話1		540			
									基礎英語B		543															
	2 回 生			音楽創造		659			インターネットイングリッシュ		205PC			メディア論		537			アニメーション作成演習		203PC		教職	カウンセリング概論		345
木	1 回 生		教職	教育課程論		344			表現文化基礎演習2		301PC			身体表現		第1体		教職	日本語文法2		535			TOEIC演習1		345
									表現文化基礎演習2		525															
	2 回 生			表現文化演習2		424			英米の文化		344			プレゼンテーション技法		203PC			書道		530					
			表現文化演習2		541																					
金	1 回 生			英米の文学		535			英語表現		527		教職	国語科教育法		530		教職	教育方法論		345					
				日本の文学		536								Advanced English		445										
	2 回 生			臨床心理学		349			異文化コミュニケーション		344								英語学2		444					
																		比較文化		445						
土	1 回 生		司教	情報メディアの活用		540		司教	学校経営と学校図書館		540		司教	学習指導と学校図書館		540		司	生涯学習概論		543					
			司	情報資源組織演習1		543		司	図書館情報技術論		543		司	図書館制度・経営論		543										
	2 回 生		司教	情報メディアの活用		540		司教	学校経営と学校図書館		540		司教	学習指導と学校図書館		540		司	情報サービス演習2		445					
							司	情報資源組織演習2		445		司	情報サービス演習1		445											
他	1 回 生			海外語学演習																						
			教職	福祉と介護体験																						
	2 回 生			教育実習Ⅰ																						
				教育実習Ⅱ																						
		教職	教育実習事前事後指導																							

2017(平成29)年度 後期 大阪成蹊短期大学時間割表【案】

●経営会計学科

曜日	学年	第1時限				第2時限				第3時限				第4時限				第5時限								
		講座番号	クラス	科目名	担当者名	教室	講座番号	クラス	科目名	担当者名	教室	講座番号	クラス	科目名	担当者名	教室	講座番号	クラス	科目名	担当者名	教室					
月	1 回 生			物流システム		534		共通	日本事情		542			中級簿記2		520			中級簿記2		520					
				ビジネス情報処理演習Ⅱ		205PC		共通	美学		540								ビジネス情報処理演習Ⅱ		205PC					
								共通	日本の食文化		546															
								共通	人間学		536															
								共通	暮らしと環境		520															
	2 回 生		共通	基礎韓国語B		547			ビジネス情報処理演習Ⅳ		203PC			交通論		522			中級簿記2		520					
			共通	基礎中国語B		530								中級簿記2		520										
火	1 回 生			日本産業史		338			会社法		530			基礎英語B		527			ビジネス情報処理演習Ⅰ		213PC		共通	英文読解1		345
														基礎英語B		530			物流システム		424					
														基礎英語B		534										
	2 回 生			経営学特殊講義		303PC			マーケティングⅡ		546			専門演習Ⅱ		213PC			地域経営論		445					
			共通	基礎韓国語B		546																				
水	1 回 生		A	ビジネスマナーⅡ		424			生活経済学		424			人間関係論		424			キャリアプランニングⅠ		534 535 536 537 205PC		共通	基礎日本語B		541
			B	ビジネスマナーⅡ		520			初級簿記2		547			ビジネス英語Ⅱ		542				共通		英語会話1		540		
	2 回 生			専門演習Ⅱ		525			ビジネス実務演習		349			ビジネス英語Ⅱ		542										
				専門演習Ⅱ		537								専門演習Ⅱ		425										
				専門演習Ⅱ		205PC																				
木	1 回 生			会計学		527			専門演習ⅠB		424												共通	TOEIC演習1		345
									専門演習ⅠB		527															
									専門演習ⅠB		213PC															
									専門演習ⅠB		203PC															
	2 回 生			ビジネス情報処理演習Ⅳ		203PC			ビジネス実務演習		338															
金	1 回 生			初級簿記2		444			ビジネス情報処理演習Ⅱ		200PC			販売管理論		543			上級簿記2		534					
				ビジネス情報処理演習Ⅰ		203PC			工業簿記2		349			キャリアプランニングⅠ (プレゼンテーション特訓)		200PC										
														上級簿記2		534										
	2 回 生			初級簿記2		444			工業簿記2		349			上級簿記2		534			上級簿記2		534			コンピュータ会計		213PC
土	1 回 生		司	情報資源組織演習1		543		司	図書館情報技術論		543		司	図書館制度・経営論		543		司	生涯学習概論		543					
	2 回 生							司	情報資源組織演習2		445		司	情報サービス演習1		445		司	情報サービス演習2		445					
他	1 回 生		共通	海外語学演習		実習先																				
	2 回 生																									

学術雑誌一覧

	和洋 区分	タイトル	出版社
1	和	月刊保育とカリキュラム	ひかりのくに(株)
2	和	子どもと発達発達	杏林書店
3	和	新幼児と保育	小学館
4	和	生徒指導	学事出版
5	和	体育科教育	大修館書店
6	和	現代と保育	ひとなる書房
7	和	季刊保育問題研究	新読書社
8	和	教育社会学研究	日本教育社会学会
9	和	月刊学校教育相談	ほんの森出版(株)
10	和	道徳教育	明治図書出版(株)
11	和	教育科学国語教育	明治図書
12	和	実践国語研究	明治図書
13	和	四季の生活科	東洋館
14	和	社会科教育	明治図書
15	和	生活科 授業を楽しく	明治図書
16	和	生活科・総合の実践ブックレット	日本生活科・総合的学習教育学会
17	和	楽しい算数の授業	明治図書出版
18	和	新しい算数研究	東洋館出版社
19	和	Rika Tan 理科の探検	文一総合出版
20	和	初等理科教育	農山漁村文化協会
21	和	ニュートン	ニュートンプレス
22	和	教育美術	教育美術振興会
23	和	美育文化	美育文化協会
24	和	初等教育資料	東洋館出版社
25	和	体育の科学	杏林書店
26	和	月間スポーツメディスン	ブックハウスHD
27	和	トレーニングジャーナル	ブックハウスHD
28	洋	Pediatric Exercise Science	Human Kinetics Publishers
29	洋	American Journal of Education	The University of Chicago Press
30	洋	British Journal of Educational Studies	Taylor & Francis Limited
31	洋	Journal of Early Childhood Research	Sage Publications Inc.

学術雑誌点数内訳

内国雑誌	外国雑誌
点数	点数
27	4

教育学部学術雑誌追加一覧

No	雑誌名	刊行頻度	出版社
1	あそびと環境 0, 1, 2歳	月刊	学習研究社
2	学校教育研究	年刊	日本学校教育学会
3	教育音楽 小学版	月刊	音楽之友社
4	教育ジャーナル	月刊	学習研究社
5	教育情報研究	季刊	日本教育情報学会
6	教育制度学研究	年刊	日本教育制度学会
7	教育哲学研究	年2回刊	教育哲学会
8	教育フォーラム	年2回刊	金子書房
9	教育方法学研究	年刊	日本教育方法学会
10	教職キャリアデザイン	季刊	ジアース教育新社
11	月刊子どもの本棚	月刊	日本子どもの本研究会
12	心とからだの健康	月刊	健学社
13	子ども社会研究	年刊	日本子ども社会学会
14	子どもと教育	月刊	ルック
15	子どもと読書	隔月刊	子どもと読書編集部
16	食育フォーラム	月刊	健学社
17	生活教育	月刊	生活ジャーナル
18	そだちの科学	年2回刊	日本評論社
19	たのしい授業	月刊	仮説社
20	楽しい体育の授業	月刊	明治図書出版
21	使える授業ベーシック	年3回刊	学事出版
22	乳幼児の教育	季刊	キュークリヒ記念財団
23	発達	季刊	ミネルヴァ書房
24	比較教育学研究	年2回刊	東信堂
25	保育界	月刊	日本保育協会
26	保育情報	月刊	全国保育団体連絡会
27	保育通信	月刊	全国私立保育園連盟
28	保育の実践と研究	季刊	相川書房
29	保育のひろば	月刊	メイト
30	幼児の教育	季刊	フレーベル館
31	理科教室	月刊	日本標準
32	理科の教育	月刊	東洋館出版社

様式第2号（小・教科に関する科目）

認定を受けようとする学部学科等の教育課程及び教員組織（小・教科に関する科目）												
認定を受けようとする 学部・学科等	教育学部	教育学科	入学定員 100	1. 免許状取得に必要な最低修得単位数 ・教科に関する科目 8 単位				2. 学 位 学 士（教育学）		3. 学位又は学科の分野 教育学・保育学関係		
認定を受け ようとする 免許状の種 類	免許法施行規則に 定める科目区分	左記に対応する開設授業科目				専任教員				備考		
		授業科目	単位数	共通 開設		教授	准教授	講師	助教			
				必修	選択						学校 種	学科 等
小一種免	国 語 (書写を含む。)	国語科内容論	2		幼	同		辻村 敬三			書写を含む。	
	社 会	社会科内容論	2				(西川 秀智)					
	算 数	算数科内容論	2		幼	同						
	理 科	理科内容論	2					福岡 亮治				
	生 活	生活科内容論	2		幼	同		西川 秀智				
	音 楽	音楽科内容論	2		幼	同			東 真理子			
	図画工作	図画工作科内容論	2		幼	同		藤丸 一郎				
	家 庭	家庭科内容論	2									
	体 育	体育科内容論 体育実技Ⅰ 体育実技Ⅱ	2 1 1	幼 幼 幼	同 同 同	安部 恵子 (安部 恵子) (安部 恵子)						
●単位数				・教員の免許状取得のための必修科目（選択 必修科目の単位数を含む）				2 0 単位				
				・教員の免許状取得のための選択科目				0 単位				
				●専任教員数（合計）				6 人				
				●必要専任教員数				6 人				

様式第2号（幼・教科に関する科目）

認定を受けようとする学部学科等の教育課程及び教員組織（幼・教科に関する科目）												
認定を受けようとする 学部・学科等	教育学部	教育学科	入学定員 100	1. 免許状取得に必要な最低修得単位数 ・教科に関する科目 6 単位				2. 学 位 学 士 （教育学）		3. 学位又は学科の分野 教育学・保育学関係		
認定を受けようとする免許状の種類	免許法施行規則に定める科目区分	左記に対応する開設授業科目				専任教員				備考		
		授業科目	単位数		共通開設		教授	准教授	講師		助教	
			必修	選択	学校種等	学科等						
幼一種免	国 語	国語科内容論	2		小	同		辻村 敬三				
	算 数	算数科内容論	2		小	同						
	生 活	生活科内容論	2		小	同		西川 秀智				
	音 楽	音楽科内容論	2		小	同			東 真理子			
	図画工作	図画工作科内容論	2		小	同		藤丸 一郎				
	体 育	体育科内容論	2		小	同	安部 恵子					
		体育実技Ⅰ	1		小	同	（安部 恵子）					
	体育実技Ⅱ	1		小	同	（安部 恵子）						
	これら科目に含まれる内容を合わせた内容に係る科目その他これら科目に準ずる内容の科目											
●単位数 ・教員の免許状取得のための必修科目（選択必修科目の単位数を含む） 1 3 単位 ・教員の免許状取得のための選択科目 1 単位 ●専任教員数（合計） 5 人 ●必要専任教員数 4 人												

様式第 2 号（小・教科又は教職に関する科目）

認定を受けようとする学部学科等の教育課程及び教員組織（教科又は教職に関する科目）						
認定を受けようとする 学部・学科等	教育学部	教育学科	入学定員 100	1. 免許状取得に必要な最低修得単位数 ・教科又は教職に関する科目 10 単位	2. 学 位 学 士 （教育学）	3. 学位又は学科の分野 教育学・保育学関係
認定を受けようとする免許 状の種類	免許法施行規則に定める 科目区分	左記に対応する開設授業科目		備考		
		授業科目	単位数			
			必修			
小一種免 (初等教育コース)	教科又は教職に関する科目	外国語活動(小学校英語 I)	2		「教科又は教職に関する科目の選択科目」又は最低修得科目を超えて修得した「教科に関する科目」若しくは「教職に関する科目」について、併せて 2 単位以上修得	
		外国語活動(小学校英語 II)	2			
		子どもの安全と学校	2			
		特別支援教育	2			
		学校・施設ボランティア	2			
		教育の事例研究	2			
		学校教育論	2			
		教育プロジェクト演習	2			
		海外教育演習	2			
●単位数	・教員の免許状取得のための必修科目（選択必修科目の単位数を含む）			8 単位		
	・教員の免許状取得のための選択科目			10 単位		
	・「教科に関する科目」及び「教職に関する科目」の単位数のうち最低修得単位数を超えている単位数の合計			32 単位		

様式第2号（幼・教科又は教職に関する科目）

認定を受けようとする学部学科等の教育課程及び教員組織（教科又は教職に関する科目）												
認定を受けようとする 学部・学科等	教育学部	教育学科	入学定員 100	1. 免許状取得に必要な最低修得単位数 ・教科又は教職に関する科目 10単位	2. 学 位 学 士 （教育学）	3. 学位又は学科の分野 教育学・保育学関係						
認定を受けようとする免許 状の種類	免許法施行規則に定める 科目区分	左記に対応する開設授業科目	単位数		備考							
		授業科目	必修	選択								
幼一種免 （初等教育コース） （幼児教育コース）	教科又は教職に関する科目	子どもの安全と学校	2		「教科又は教職に関する科目の選択科目」又は最低修得科目を超えて修得した 「教科に関する科目」若しくは「教職に関する科目」について、併せて8単位 以上修得							
		特別支援教育		2								
		学校・施設ボランティア		2								
		教育の事例研究		2								
		学校教育論		2								
		教育プロジェクト演習		2								
		海外教育演習		2								
●単位数 <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">・教員の免許状取得のための必修科目（選択必修科目の単位数を含む）</td> <td style="width: 50%; text-align: right;">2単位</td> </tr> <tr> <td>・教員の免許状取得のための選択科目</td> <td style="text-align: right;">12単位</td> </tr> <tr> <td>・「教科に関する科目」及び「教職に関する科目」の単位数のうち最低修得単位数を超えている単位数の合計</td> <td style="text-align: right;">9単位</td> </tr> </table>							・教員の免許状取得のための必修科目（選択必修科目の単位数を含む）	2単位	・教員の免許状取得のための選択科目	12単位	・「教科に関する科目」及び「教職に関する科目」の単位数のうち最低修得単位数を超えている単位数の合計	9単位
・教員の免許状取得のための必修科目（選択必修科目の単位数を含む）	2単位											
・教員の免許状取得のための選択科目	12単位											
・「教科に関する科目」及び「教職に関する科目」の単位数のうち最低修得単位数を超えている単位数の合計	9単位											

様式第2号（小・教職に関する科目）

認定を受けようとする学部学科等の教育課程及び教員組織（小・教職に関する科目）														
認定を受けようとする学部・学科等		教育学部			教育学科	入学定員 100	1．免許状取得に必要な最低修得単位数 ・教職に関する科目 4 1 単位			2．学 位 学 士（教育学）		3．学位又は学科の分野 教育学・保育学関係		
認定を受けようとする免許状の種類	免許法施行規則に定める科目区分等			左記に対応する開設授業科目				専任教員				備考		
	科目	各科目に含める必要事項	単位数	授業科目		単位数 必修 選択	共通 開設 学校 種等	学科 等	教授	准教授	講師		助教	
小一種免 (初等教育コース)	教職の意義等に関する科目	・教職の意義及び教員の役割 ・教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む。） ・進路選択に資する各種の機会の提供等	2	教職論		2	幼	同	鈴木 昌世	山田 敏男			書写を含む。	
		教育の基礎理論に関する科目	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	6	教育学		2	幼	同	鈴木 卓治		井藤 元		
	・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。）		教育心理学		2	幼	同	青木 知史	羽野 ゆつ子					
	・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項		教育行政学		2	幼	同							
	教育課程及び指導法に関する科目	・教育課程の意義及び編成の方法	22	教育課程論(小学校)		2				赤沢 真世				
		・各教科の指導法		国語科指導法Ⅰ		2								
				国語科指導法Ⅱ		2								
				社会科指導法Ⅰ		2								
				社会科指導法Ⅱ		2								
				算数科指導法Ⅰ		2				橋本 隆公				
				算数科指導法Ⅱ		2				(橋本 隆公)				
				理科指導法Ⅰ		2								
				理科指導法Ⅱ		2								
				生活科指導法Ⅰ		2								
				生活科指導法Ⅱ		2								
				音楽科指導法Ⅰ		2								
				音楽科指導法Ⅱ		2								
				図画工作科指導法Ⅰ		2								
				図画工作科指導法Ⅱ		2								
		家庭科指導法		2										
		体育科指導法Ⅰ		2										
		体育科指導法Ⅱ		2										
		・道徳の指導法		道徳教育の指導法		2				園田 雅春				
・特別活動の指導法			特別活動の指導法		2				(園田 雅春)					
・教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）			教育方法論		2				浅井 宗海	(赤沢 真世)				
生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	・生徒指導の理論及び方法 ・進路指導の理論及び方法	4	生徒・進路指導論		2				(園田 雅春)					
	・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		学校教育相談		2	幼	同	(青木 知史)						
教育実習		5	教育実習事前事後指導(小学校)		1					(山田 敏男) (赤沢 真世)				
			教育実習(小学校)		4	幼	同		(山田 敏男)					
教職実践演習		2	教職実践演習(幼稚園、小学校)		2	幼	同	(鈴木 卓治)	(山田 敏男)					
●単位数									●専任教員数（合計） 1 0 人					
・教員の免許状取得のための必修科目（選択必修科目の単位数を含む）									4 5 単位					
・教員の免許状取得のための選択科目									1 6 単位					
									●必要専任教員数 4 人					

※専任教員欄の網掛けは消去しないこと。

様式第2号（幼・教職に関する科目）

認定を受けようとする学部学科等の教育課程及び教員組織（幼・教職に関する科目）													
認定を受けようとする学部・学科等		教育学部		教育学科	入学定員	1．免許状取得に必要な最低修得単位数 ・教職に関する科目 35単位				2．学 位 学 士（教育学）		3．学位又は学科の分野 教育学・保育学関係	
認定を受けようとする免許状の種類	免許法施行規則に定める科目区分等			左記に対応する開設授業科目				専任教員				備考	
	科目	各科目に含める必要事項	単位数	授業科目	単位数		共通開設 学校 種等	教授	准教授	講師	助教		
					必修	選択							
幼一種免 (初等教育コース) (幼児教育コース)	教職の意義等に関する科目	・教職の意義及び教員の役割 ・教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む。） ・進路選択に資する各種の機会の提供等	2	教職論	2		小	同	鈴木 昌世	山田 敏男			
		教育の基礎理論に関する科目	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		教育学	2		小	同	鈴木 卓治		井藤 元	
	・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。）		6	教育心理学	2		小	同	青木 知史	羽野 ゆづ子			
	・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項			教育行政学	2		小	同					
	教育課程及び指導法に関する科目	・教育課程の意義及び編成の方法	18	保育教育課程論(幼稚園)	2				(鈴木 昌世)	石田 貴子			
		・保育内容の指導法		保育内容総論	2				(鈴木 昌世)				
		保育内容（健康）		2				三村 寛一					
		保育内容（人間関係）		2									
		保育内容（環境）		2									
		保育内容（言葉）		2									
		保育内容（表現1）		2									
		保育内容（表現2）		2									
		・教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）		保育方法論	2					(石田 貴子)			
	生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	・幼児理解の理論及び方法	2	幼児理解	1					藤崎 亜由子			
		・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		学校教育相談	2		小	同	(青木 知史) (鈴木 卓治)				
	教育実習	5	教育実習事前事後指導(幼稚園)	1					(青木 知史) (青木 知史) (鈴木 昌世)		(井藤 元)		
			教育実習Ⅰ（幼稚園）	2									
			教育実習Ⅱ（幼稚園）	2				(青木 知史) (鈴木 昌世)	(藤崎 亜由子)				
			教育実習（小学校）	4		小	同		(山田 敏男)				
	教職実践演習	2	教職実践演習(幼稚園、小学校)	2			小	同	(鈴木 卓治)	(山田 敏男)			
●単位数		・教員の免許状取得のための必修科目（選択必修科目の単位数を含む）				初等教育 38単位 幼児教育 36単位				●専任教員数（合計）		9人	
		・教員の免許状取得のための選択科目				0単位				●必要専任教員数		4人	

※専任教員欄の網掛けは消去しないこと。

様式第 2 号 (6 6 - 6)

教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目						
認定を受けようとする 学部・学科等	教育学部	教育学科	入学定員 100	学 位 学 士 (教育学)		学位又は学科の分野 教育学・保育学関係
免許法施行規則に定める 科目区分	単位数	左記に対応する開設授業科目			備考	
		授業科目	単位数			
			必修	選択		
日本国憲法	2	日本国憲法	2			
体育	2	スポーツ演習Ⅰ	1			
		スポーツ演習Ⅱ	1			
外国語コミュニケーション	2	英語基礎Ⅰ	1			
		英語基礎Ⅱ	1			
情報機器の操作	2	情報リテラシーⅠ	2			

教科目名称読み替え表（保育士資格）

(様式2)

告示による教科目				当該養成施設における教科の開設状況等（旧）					当該養成施設における教科の開設状況等					備考 (変更内容の概要等)
系列	教科目	授業 形態	単位数	左に対応して開設されて いる教科目	授業 形態	単 位 数			左に対応して開設されて いる教科目	授業 形態	単 位 数			
						必修	選択	計			必修	選択	計	
教 養 科 目	外国語・体育 以外の科目	不問	6 以上						大学での学びとキャリアを考える	演習	2		2	
									情報リテラシーⅠ	演習	2		2	
									日本国憲法	講義	2		2	
	外国語	演習	2 以上						英語基礎Ⅰ	演習	1		1	
									英語基礎Ⅱ	演習	1		1	
									英語演習Ⅰ	演習	1		1	
									英語演習Ⅱ	演習	1		1	
	体 育	講義	1					スポーツ基礎科学	講義	2		2		
		実技	1					体育実技Ⅰ	実技	1		1		
	合 計		1 0 単位以上								13	0	13	
				単位（≧ 単位）					1 3 単位（≧ 1 0 単位）					

(様式3)

告示による教科目				当該養成施設における教科の開設状況等（旧）					当該養成施設における教科の開設状況等（新）					備考 （変更内容の概要等）
系列	教科目	授業 形態	単位数	左に対応して開設されて いる教科目	授業 形態	単 位 数			左に対応して開設されて いる教科目	授業 形態	単 位 数			
						必修	選択	計			必修	選択	計	
保育に関する 本質・科目目	保育原理	講義	2						保育原理	講義	2		2	
	教育原理	講義	2						教育学	講義	2		2	
	児童家庭福祉	講義	2						児童家庭福祉	講義	2		2	
	社会福祉	講義	2						社会福祉	講義	2		2	
	相談援助	演習	1						相談援助	演習	1		1	
	社会的養護	講義	2						社会的養護	講義	2		2	
	保育者論	講義	2						教職論	講義	2		2	
保育に関する 対象の目理	保育の心理学Ⅰ	講義	2						教育心理学	講義	2		2	
	保育の心理学Ⅱ	演習	1						幼児理解	演習	1		1	
	子どもの保健Ⅰ	講義	4						子どもの保健Ⅰ－１	講義	2		2	
									子どもの保健Ⅰ－２	講義	2		2	
	子どもの保健Ⅱ	演習	1						子どもの保健Ⅱ	演習	1		1	
	子どもの食と栄養	演習	2						子どもの食と栄養	演習	2		2	
保育に関する 内容・目方	家庭支援論	講義	2						家庭支援論	講義	2		2	
	保育課程論	講義	2						保育教育課程論（幼稚園）	講義	2		2	
	保育内容総論	演習	1						保育内容総論	演習	2		2	
	保育内容演習	演習	5						保育内容（健康）	演習	2		2	
									保育内容（人間関係）	演習	2		2	
									保育内容（環境）	演習	2		2	
									保育内容（言葉）	演習	2		2	
									保育内容（表現１）	演習	2		2	
									保育内容（表現２）	演習	2		2	
	乳児保育	演習	2						乳児保育	演習	2		2	
	障害児保育	演習	2						障害児保育	演習	2		2	
社会的養護内容	演習	1						社会的養護内容	演習	1		1		
保育相談支援	演習	1						保育相談支援	演習	1		1		
保育の 表現技術	保育の表現技術	演習	4						ピアノ実技Ⅰ	演習	1		1	
									造形遊び	演習	2		2	
									幼児体育指導論	演習	2		2	
									子どもと文化	演習	2		2	
保育 実習	保育実習Ⅰ	実習	4						保育実習Ⅰ－１	実習	2		2	
									保育実習Ⅰ－２	実習	2		2	
	保育実習指導Ⅰ	演習	2						保育実習指導Ⅰ－１	演習	1		1	
									保育実習指導Ⅰ－２	演習	1		1	
総合演習	保育実践演習	演習	2						保育実践演習	演習	2		2	
合 計		51単位									62	0	62	
			単位（≧ 単位）					62単位（≧ 51単位）						

(様式4)

告示による教科目				当該養成施設における教科の開設状況等（旧）					当該養成施設における教科の開設状況等					備考 (変更内容の概要等)
系列	教科目	授業 形態	単位数	左に対応して開設されて いる教科目	授業 形態	単 位 数			左に対応して開設されて いる教科目	授業 形態	単 位 数			
						必修	選択	計			必修	選択	計	
保 育 の 本 質 ・ 目			15 <											

(様式5)

	当該養成施設における教科の開設状況等（旧）					当該養成施設における教科の開設状況等（新）					備考 (変更内容の概要等)
	左に対応して開設されて いる教科目	授業 形態	単 位 数			左に対応して開設されて いる教科目	授業 形態	単 位 数			
			必修	選択	計			必修	選択	計	
保育士資格取得科目ではないが、学校 独自の科目として開設されている科目						情報リテラシーⅡ	演習		2	2	
						英語表現Ⅰ	演習		1	1	
						英語表現Ⅱ	演習		1	1	
						中国語入門Ⅰ	演習		1	1	
						中国語入門Ⅱ	演習		1	1	
						フランス語入門Ⅰ	演習		1	1	
						フランス語入門Ⅱ	演習		1	1	
						韓国語入門Ⅰ	演習		1	1	
						韓国語入門Ⅱ	演習		1	1	
						海外短期語学研修	演習		2	2	
						日本の文学	講義		2	2	
						人間と宗教	講義		2	2	
						哲学	講義		2	2	
						心理学	講義		2	2	
						民族学	講義		2	2	
						国際理解教育	講義		2	2	
						人権と社会	講義		2	2	
						現代倫理	講義		2	2	
						社会学概論	講義		2	2	
						多文化共生社会	講義		2	2	
						日本史概説	講義		2	2	
						外国史概説	講義		2	2	
						生命と科学	講義		2	2	
						環境と科学	講義		2	2	
						暮らしの科学	講義		2	2	
						物質と科学	講義		2	2	
						大阪の風土と文化	講義		2	2	
						京都の文化と芸術	講義		2	2	
						子どもの成長とコミュニティ	演習		2	2	
						スポーツ演習Ⅰ	演習	1		1	
						スポーツ演習Ⅱ	演習	1		1	
						企業インターンシップⅠ	演習		2	2	
						企業インターンシップⅡ	演習		2	2	
						教育課程論（小学校）	講義		2	2	
						教育方法論	講義		2	2	

				道徳教育の指導法	講義		2	2	
				特別活動の指導法	講義		2	2	
				国語科指導法Ⅰ	講義		2	2	
				社会科指導法Ⅰ	講義		2	2	
				算数科指導法Ⅰ	講義		2	2	
				理科指導法Ⅰ	講義		2	2	
				生活科指導法Ⅰ	講義		2	2	
				音楽科指導法Ⅰ	講義		2	2	
				図画工作科指導法Ⅰ	講義		2	2	
				家庭科指導法	講義		2	2	
				体育科指導法Ⅰ	講義		2	2	
				国語科指導法Ⅱ	講義		2	2	
				社会科指導法Ⅱ	講義		2	2	
				算数科指導法Ⅱ	講義		2	2	
				理科指導法Ⅱ	講義		2	2	
				生活科指導法Ⅱ	講義		2	2	
				音楽科指導法Ⅱ	講義		2	2	
				図画工作科指導法Ⅱ	講義		2	2	
				体育科指導法Ⅱ	講義		2	2	
				生徒・進路指導論	講義		2	2	
				学校教育相談	講義		2	2	
				社会科内容論	講義		2	2	
				算数科内容論	講義		2	2	
				理科内容論	講義		2	2	
				生活科内容論	講義		2	2	
				家庭科内容論	講義		2	2	
				体育実技Ⅱ	実技		1	1	
				ジュニアスポーツ障害	講義		2	2	
				テーピングとコンディショニング	演習		2	2	
				スポーツ測定と評価	講義		2	2	
				体育学研究	講義		2	2	
				水泳	実技		1	1	
				ピアノ実技Ⅲ	演習		1	1	
				伴奏法	演習		2	2	
				器楽指導法	演習		2	2	
				材料研究	演習		2	2	
				鑑賞教育	演習		2	2	
				外国語活動(小学校英語Ⅰ)	講義		2	2	
				外国語活動(小学校英語Ⅱ)	講義		2	2	

					子どもの安全と学校	講義		2	2	
					学校・施設ボランティア	演習		2	2	
					教育の事例研究	演習		2	2	
					学校教育論	講義		2	2	
					教育プロジェクト演習	演習		2	2	
					海外教育演習	演習		2	2	
					教育インターンシップⅠ	演習		2	2	
					教育インターンシップⅡ	演習		2	2	
					教育実習事前事後指導（小学校）	実習		1	1	
					教育実習（小学校）	実習		4	4	
					教育実習事前事後指導（幼稚園）	実習		1	1	
					教育実習Ⅰ（幼稚園）	実習		2	2	
					教育実習Ⅱ（幼稚園）	実習		2	2	
					介護等体験（施設）	実習		1	1	
					教職実践演習（幼稚園、小学校）	演習		2	2	
					基礎ゼミⅠ	演習	2		2	
					基礎ゼミⅡ	演習	2		2	
					基礎ゼミⅢ	演習	2		2	
					専門基礎演習Ⅰ	演習	2		2	
					専門基礎演習Ⅱ	演習	2		2	
					専門演習Ⅰ	演習	2		2	
					専門演習Ⅱ	演習	2		2	
					教職基礎Ⅰ	演習		2	2	
					教職基礎Ⅱ	演習		2	2	
					キャリア演習Ⅰ	演習		2	2	
					キャリア演習Ⅱ	演習		2	2	
					キャリア演習Ⅲ	演習		2	2	
					基礎教養(国語、算数)	講義		2	2	
					基礎教養(理科、社会)	講義		2	2	
合	計						16	176	192	

資料22

小学校

平成25年3月1日現在

区名	学校名	区名	学校名	区名	学校名	区名	学校名	区名	学校名	区名	学校名	区名	学校名
北区	濱川	西淀川区	西船場	浪速区	日本橋	東淀川区	大桐	旭区	高殿南	住之江区	北粉浜	平野区	平野南
北区	堀川	西淀川区	日吉	浪速区	敷津	東淀川区	豊新	城東区	複並	住之江区	住之江	平野区	長吉東
北区	西天満	西淀川区	九条南	浪速区	塩草	東淀川区	東井高野	城東区	関目	住之江区	平林	平野区	喜連西
北区	菅北	西淀川区	九条東	西淀川区	柏里	東淀川区	大隅西	城東区	鯨江	住之江区	加賀屋東	平野区	喜連南
北区	豊崎東	西淀川区	九条北	西淀川区	野里	東淀川区	豊里南	城東区	今福賢	住之江区	新北島	平野区	瓜破北
北区	豊崎本庄	西淀川区	本田	西淀川区	姫里	東淀川区	大道南	城東区	聖賢	住之江区	南港光	平野区	長原
北区	中津	西淀川区	堀江	西淀川区	姫島	東淀川区	東小橋	城東区	中浜	住之江区	南港緑	平野区	喜連東
北区	大淀	西淀川区	明治	西淀川区	福	東淀川区	大成	城東区	城東	住之江区	南港桜	平野区	瓜破東
北区	大淀仁	西淀川区	明治(分校)	西淀川区	大和田	東淀川区	中道	城東区	城東	住之江区	南港落	平野区	長吉六反
北区	豊崎	港南区	市岡	西淀川区	川北	東淀川区	北中道	城東区	誠訪	住之江区	清江	平野区	加美北
北区	豊崎	港南区	磯路	西淀川区	佃	東淀川区	中本	城東区	成育	住吉区	東粉浜	平野区	長吉出戸
都島区	桜宮	港南区	三先	西淀川区	香養	東淀川区	東中本	城東区	すみれ	住吉区	長居	平野区	瓜破西
都島区	中野	港南区	田中	西淀川区	歌島	東淀川区	今里	城東区	東中浜	住吉区	依羅	平野区	喜連北
都島区	高倉	港南区	八幡屋	西淀川区	出来島	東淀川区	片江	城東区	放出	住吉区	墨江	平野区	加美東
都島区	淀川	港南区	波除	西淀川区	佃西	東淀川区	神路	城東区	関目東	住吉区	森之宮	平野区	川辺
都島区	都島	港南区	築港	西淀川区	佃南	東淀川区	深江	城東区	森之宮	住吉区	遠里小野	平野区	新平野西
都島区	内代	港南区	南市岡	西淀川区	御幣島	東淀川区	宝栄	城東区	鈴江東	住吉区	清水丘	西成区	秋之茶屋
都島区	東都島	港南区	港晴	淀川区	神津	生野区	北鶴橋	鶴見区	榎本	住吉区	南住吉	西成区	今宮
都島区	大東	港南区	弁天	淀川区	田川	生野区	御幸森	鶴見区	茨田南	住吉区	大領	西成区	天下茶屋
都島区	友洲	港南区	池島	淀川区	加島	生野区	鶴橋	鶴見区	茨田北	住吉区	苅田	西成区	岸里
都島区	友洲(分校)	大正区	三軒家西	淀川区	三津屋	生野区	東桃谷	鶴見区	鶴見	住吉区	山之内	西成区	玉出
福島区	福島	大正区	泉尾東	淀川区	新高	生野区	勝山	鶴見区	今津	住吉区	苅田南	西成区	千本
福島区	玉川	大正区	中泉尾	淀川区	野中	生野区	林寺	鶴見区	茨田東	住吉区	苅田北	西成区	橘
福島区	野田	大正区	北恩加島	淀川区	十三	生野区	生野	鶴見区	茨田西	住吉区	南住吉	西成区	梅南
福島区	吉野	大正区	南恩加島	淀川区	木三	生野区	中川	鶴見区	横堤	東住吉区	桑津	西成区	弘治
福島区	大鷺洲	大正区	鶴町	淀川区	木三	生野区	東中川	鶴見区	みどり	東住吉区	北田辺	西成区	松之宮
福島区	鷺洲	大正区	泉尾北	淀川区	北中島	生野区	小路	鶴見区	鶴見南	東住吉区	田辺	西成区	長橋
福島区	海老江東	大正区	平尾	淀川区	西中島	生野区	東小路	鶴見区	茨田	東住吉区	東田辺	西成区	北津守
福島区	海老江西	大正区	三軒家東	淀川区	塚本	生野区	田島	鶴見区	焼野	東住吉区	南田辺	西成区	津守
福島区	上福島	大正区	小林	淀川区	木川南	生野区	舍利寺	阿倍野区	高松	東住吉区	南百済	西成区	南津守
此花区	西九条	大正区	鶴浜	淀川区	東三国	生野区	生野南	阿倍野区	常盤	東住吉区	育和	郊外	弘済
此花区	四寶島	天王寺区	真田山	淀川区	西三国	生野区	巽	阿倍野区	常盤(分校)	東住吉区	鷹合	郊外	弘済(分校)
此花区	島屋	天王寺区	味原	淀川区	新東三国	生野区	北巽	阿倍野区	金塚	東住吉区	今川	郊外	長谷川
此花区	伝法	天王寺区	桃陽	淀川区	宮原	生野区	西生野	阿倍野区	丸山	東住吉区	矢田		
此花区	梅香	天王寺区	五条	東淀川区	東淡路	生野区	巽南	阿倍野区	晴明丘	東住吉区	矢田東		
此花区	高見	天王寺区	聖和	東淀川区	西淡路	生野区	巽東	阿倍野区	阿倍野	東住吉区	矢田西		
此花区	西島	天王寺区	大江	東淀川区	菅原	旭区	清水	阿倍野区	阪南	東住吉区	矢田北		
此花区	春日出	天王寺区	生魂	東淀川区	新庄	旭区	古市	阿倍野区	長池	東住吉区	湯里		
中央区	玉造	天王寺区	天王寺	東淀川区	大隅東	旭区	大宮	阿倍野区	苗代	平野区	喜連		
中央区	南大江	浪速区	立葉	東淀川区	豊里	旭区	高殿	阿倍野区	晴明丘南	平野区	平野西		
中央区	中大江	浪速区	栄	東淀川区	啓発	旭区	大宮西	住之江区	粉浜	平野区	平野		
中央区	高津	浪速区	難波元町	東淀川区	小松	旭区	生江	住之江区	安立	平野区	長吉		
中央区	南	浪速区	大國	東淀川区	淡路	旭区	城北	住之江区	敷津浦	平野区	瓜破		
中央区	開平	浪速区	恵美	東淀川区	下新庄	旭区	新森小路	住之江区	加賀屋	平野区	加美		
中央区	中央	浪速区	日東	東淀川区	井高野	旭区	太子橋	住之江区	住吉川	平野区	加美南部		

平成25年度 幼稚園			
ブロック	区	番号	園名
1 (12)	福島	1	西野田
		2	貫江田
		3	海老江西
	此花	4	伝法
	西	5	九条
		6	鞠
		7	日吉
		8	西船場
		9	堀江
	港	10	三先
	大正	11	三軒家西
		12	泉尾
2 (10)	北	1	菅南
		2	滝川
		3	堀川
		4	中大淀
	西淀川	5	姫島
		6	野里
		7	大和田
	淀川	8	西中島
		9	田川
		10	新高
3 (10)	都島	1	桜宮
	東成	2	今里
		3	中本
		4	東小橋
		5	北中道
		6	東中本
	旭	7	旭東
	城東	8	鯉江
		9	城東
	鶴見	10	榎本
4 (14)	中央	1	愛珠
		2	銅座
		3	玉造
		4	中大江
		5	桃園
		6	南
	天王寺	7	五条
		8	真田山
		9	味原
		10	大江
		11	生魂
	浪速	12	日東
	生野	13	立葉
		14	鶴橋
5 (13)	阿倍野	1	常盤
	住之江	2	粉浜
	住吉	3	住吉
		4	墨江
	平野	5	長吉
		6	長吉第二
		7	瓜破
		8	瓜破北
		9	六反
		10	加美北
	西成	11	玉出
		12	天下茶屋
		13	津守

教育・介護等・保育実習先の一覧

① 幼稚園教育実習

	園数
大阪市教育委員会	59
私立	13
合 計	72

(受入承諾書は資料22に添付)

② 小学校教育実習

	校数
大阪市教育委員会	299

(受入承諾書は資料22に添付)

③ 介護等体験実習

	施設数
大阪府教育委員会	1～2
大阪府社会福祉協議会	85
合 計	86～87

○大阪府教育委員会の介護等体験受入承諾書

○大阪府社会福祉協議会の介護等体験受入承諾書

④ 保育実習

保育実習Ⅰ	施設数
保育所	134
施設	15
合 計	149

保育実習Ⅱ	施設数
保育所	134

保育実習Ⅲ	施設数
施設	5

① 幼稚園教育実習（大阪市立幼稚園一覧：59園）

	区	園名	住 所
1	福島	西野田	福島区吉野3-17-5
2		貫江田	福島区鷺洲5-6-18
3		海老江西	福島区海老江8-1-28
4	此花	伝法	此花区伝法4-4-35
5	西	九条	西区九条2-19-18
6		靱	西区靱本町1-19-13
7		日吉	西区南堀江4-8-24
8		西船場	西区江戸堀1-21-34
9		堀江	西区北堀江3-2-31
10	港	三先	港区三先1-6-37
11	大正	三軒家西	大正区三軒家西1-23-23
12		泉尾	大正区千島3-16-2
13	北	菅南	北区菅原町11-2
14		滝川	北区天満1-24-15
15		堀川	北区東天満2-10-7
16		中大淀	北区大淀中4-10-21
17	西淀川	姫島	西淀川区姫島1-13-7
18		野里	西淀川区歌島2-5-25
19		大和田	西淀川区大和田4-3-35
20	淀川	西中島	淀川区西中島7-14-41
21		田川	淀川区田川2-2-26
22		新高	淀川区新高1-15-67
23	都島	桜宮	都島区東野田町1-2-5
24	東成	今里	東成区大今里1-37-7
25		中本	東成区中本4-2-41
26		東小橋	東成区東小橋2-6-2
27		北中道	東成区中道2-2-19
28		東中本	東成区東中本2-9-3
29	旭	旭東	旭区新森7-5-5
30	城東	鯉江	城東区今福西3-7-17
31		城東	城東区嶋野東3-13-6
32	鶴見	榎本	鶴見区今津北1-5-35
33	中央	愛珠	中央区今橋3-1-11
34		銅座	中央区内久宝寺町1-1-4
35		玉造	中央区玉造1-9-10
36		中大江	中央区南新町2-4-8
37		桃園	中央区谷町6-5-34
38		南	中央区南船場3-2-19
39	天王寺	五条	天王寺区上之宮町4-4
40		真田山	天王寺区餌差町6-13
41		味原	天王寺区味原町5-18
42		大江	天王寺区四天王寺1-11-108
43		生魂	天王寺区生玉町7-4
44	浪速	日東	浪速区日本橋東3-2-9
45		立葉	浪速区桜川4-8-21
46	生野	鶴橋	生野区桃谷2-20-14
47	阿倍野	常盤	阿倍野区松崎町3-11-35
48	住之江	粉浜	住之江区粉浜1-21-11
49	住吉	住吉	住吉区帝塚山西4-2-37
50		墨江	住吉区墨江2-3-17
51	平野	長吉	平野区長吉長原1-10-3
52		長吉第二	平野区長吉長原東3-12-47
53		瓜破	平野区瓜破5-3-34
54		瓜破北	平野区瓜破1-9-12
55		六反	平野区長吉六反5-3-32
56	西成	加美北	平野区加美北4-1-14
57		玉出	西成区玉出中2-13-29
58		天下茶屋	西成区聖天下1-10-34
59		津守	西成区津守3-1-66

① 幼稚園教育実習（私立幼稚園一覧：13園）

	園名	住 所	人数
1	こみち幼稚園	〒533-0001 大阪市東淀川区井高野4-8-8	40
2	御幣島幼稚園	〒555-0012 大阪市西淀川区御幣島4-15-23	5
3	美鳩幼稚園	〒533-0005 大阪市東淀川区瑞光1-11-10	5
4	こうづしま幼稚園	〒560-0843 豊中市上津島3-3-18	5
5	神童幼稚園	〒560-0046 豊中市千里園2-4-5	5
6	宮山幼稚園	〒560-0021 豊中市本町7-3-7	5
7	安威幼稚園	〒567-0007 茨木市南安威2-3-23	5
8	やまなみ幼稚園	〒572-0803 寝屋川市梅が丘1-5-1	5
9	石切山手幼稚園	〒579-8011 東大阪市東石切町4-15-32	5
10	東金剛幼稚園	〒584-0082 富田林市向陽台2-24-4	5
11	茶山台幼稚園	〒590-0115 堺市南区茶山台2-6-1	5
12	あかね幼稚園	〒617-0814 長岡京市今里4-17-19	5
13	立花愛の園幼稚園	〒661-0025 尼崎市立花町3-20-27	5
合 計			100

② 小学校教育実習（大阪市立小学校一覧：297校）

	学校名	郵便番号	所在地
1	大阪市立滝川小学校	530-0043	大阪市北区天満1-24-15
2	大阪市立堀川小学校	530-0044	大阪市北区東天満2-10-7
3	大阪市立西天満小学校	530-0047	大阪市北区西天満3-12-21
4	大阪市立扇町小学校	530-0025	大阪市北区扇町2-7-24
5	大阪市立菅北小学校	530-0031	大阪市北区菅栄町9-5
6	大阪市立豊崎東小学校	531-0062	大阪市北区長柄中2-3-30
7	大阪市立豊崎本庄小学校	531-0073	大阪市北区本庄西2-1-16
8	大阪市立中津小学校	531-0071	大阪市北区中津3-34-18
9	大阪市立大淀小学校	531-0076	大阪市北区大淀中4-10-33
10	大阪市立豊仁小学校	531-0061	大阪市北区長柄西2-6-20
11	大阪市立豊崎小学校	531-0072	大阪市北区豊崎4-5-9
12	大阪市立桜宮小学校	534-0024	大阪市都島区東野田町1-10-19
13	大阪市立中野小学校	534-0027	大阪市都島区中野町3-10-5
14	大阪市立高倉小学校	534-0011	大阪市都島区高倉町3-3-10
15	大阪市立淀川小学校	534-0001	大阪市都島区毛馬町3-5-39
16	大阪市立都島小学校	534-0021	大阪市都島区都島本通3-10-3
17	大阪市立内代小学校	534-0013	大阪市都島区内代町3-4-6
18	大阪市立東都島小学校	534-0021	大阪市都島区都島本通4-24-20
19	大阪市立大東小学校	534-0001	大阪市都島区毛馬町2-11-111
20	大阪市立友淵小学校	534-0016	大阪市都島区友淵1-3-123
21	大阪市立福島小学校	553-0003	大阪市福島区福島4-5-6
22	大阪市立玉川小学校	553-0004	大阪市福島区玉川2-13-16
23	大阪市立野田小学校	553-0005	大阪市福島区野田5-13-22
24	大阪市立吉野小学校	553-0006	大阪市福島区吉野3-10-5
25	大阪市立大開小学校	553-0007	大阪市福島区大開2-10-28
26	大阪市立鷺洲小学校	553-0002	大阪市福島区鷺洲5-6-8
27	大阪市立海老江東小学校	553-0001	大阪市福島区海老江1-6-19
28	大阪市立海老江西小学校	553-0001	大阪市福島区海老江8-1-10
29	大阪市立上福島小学校	553-0003	大阪市福島区福島7-4-33
30	大阪市立西九条小学校	554-0012	大阪市此花区西九条4-3-41
31	大阪市立四貫島小学校	554-0014	大阪市此花区四貫島2-16-29
32	大阪市立島屋小学校	554-0024	大阪市此花区島屋2-9-36
33	大阪市立伝法小学校	554-0002	大阪市此花区伝法3-13-10
34	大阪市立梅香小学校	554-0013	大阪市此花区梅香3-17-29
35	大阪市立高見小学校	554-0001	大阪市此花区高見1-3-35
36	大阪市立西島小学校	554-0051	大阪市此花区西島2-5-12
37	大阪市立春日出小学校	554-0022	大阪市此花区春日出中1-13-23
38	大阪市立玉造小学校	540-0004	大阪市中央区玉造2-3-43
39	大阪市立南大江小学校	540-0011	大阪市中央区農人町1-3-3
40	大阪市立中大江小学校	540-0022	大阪市中央区糸屋町2-3-14
41	大阪市立南小学校	542-0083	大阪市中央区東心斎橋1-14-29
42	大阪市立高津小学校	542-0072	大阪市中央区高津3-4-21
43	大阪市立開平小学校	541-0042	大阪市中央区今橋1-5-7
44	大阪市立中央小学校	542-0066	大阪市中央区瓦屋町2-8-4
45	大阪市立西船場小学校	550-0002	大阪市西区江戸堀1-21-28
46	大阪市立日吉小学校	550-0015	大阪市西区南堀江4-9-19
47	大阪市立九条南小学校	550-0025	大阪市西区九条南2-13-17
48	大阪市立九条東小学校	550-0027	大阪市西区九条2-6-2
49	大阪市立九条北小学校	550-0025	大阪市西区九条南4-7-38
50	大阪市立本田小学校	550-0021	大阪市西区川口1-5-19

	学校名	郵便番号	所在地
51	大阪市立堀江小学校	550-0014	大阪市西区北堀江3-2-16
52	大阪市立明治小学校	550-0011	大阪市西区阿波座2-3-35
53	大阪市立市岡小学校	552-0012	大阪市港区市岡3-2-24
54	大阪市立磯路小学校	552-0003	大阪市港区磯路3-7-7
55	大阪市立三先小学校	552-0016	大阪市港区三先2-6-32
56	大阪市立田中小学校	552-0005	大阪市港区田中2-10-34
57	大阪市立八幡屋小学校	552-0014	大阪市港区八幡屋3-3-5
58	大阪市立波除小学校	552-0001	大阪市港区波除3-6-8
59	大阪市立築港小学校	552-0021	大阪市港区築港1-10-38
60	大阪市立南市岡小学校	552-0011	大阪市港区南市岡2-6-35
61	大阪市立港晴小学校	552-0023	大阪市港区港晴1-3-12
62	大阪市立弁天小学校	552-0007	大阪市港区弁天2-9-35
63	大阪市立池島小学校	552-0015	大阪市港区池島2-5-47
64	大阪市立三軒家西小学校	551-0001	大阪市大正区三軒家西1-20-26
65	大阪市立泉尾東小学校	551-0003	大阪市大正区千島1-16-16
66	大阪市立中泉尾小学校	551-0031	大阪市大正区泉尾3-23-34
67	大阪市立北恩加島小学校	551-0031	大阪市大正区泉尾5-17-31
68	大阪市立南恩加島小学校	551-0021	大阪市大正区南恩加島3-6-11
69	大阪市立鶴町小学校	551-0023	大阪市大正区鶴町2-6-24
70	大阪市立泉尾北小学校	551-0031	大阪市大正区泉尾2-21-24
71	大阪市立平尾小学校	551-0012	大阪市大正区平尾2-21-28
72	大阪市立三軒家東小学校	551-0002	大阪市大正区三軒家東2-12-63
73	大阪市立小林小学校	551-0011	大阪市大正区小林東2-4-45
74	大阪市立鶴浜小学校	551-0023	大阪市大正区鶴町2-20-26
75	大阪市立真田山小学校	543-0013	大阪市天王寺区玉造本町14-41
76	大阪市立味原小学校	543-0023	大阪市天王寺区味原町8-19
77	大阪市立桃陽小学校	543-0033	大阪市天王寺区堂ヶ芝1-2-23
78	大阪市立五条小学校	543-0036	大阪市天王寺区小宮町9-28
79	大阪市立聖和小学校	543-0045	大阪市天王寺区寺田町1-6-37
80	大阪市立大江小学校	543-0051	大阪市天王寺区四天王寺1-9-18
81	大阪市立生魂小学校	543-0002	大阪市天王寺区上汐4-1-25
82	大阪市立天王寺小学校	543-0052	大阪市天王寺区大道1-4-49
83	大阪市立立葉小学校	556-0020	大阪市浪速区立葉2-1-15
84	大阪市立栄小学校	556-0027	大阪市浪速区木津川2-3-30
85	大阪市立大国小学校	556-0014	大阪市浪速区大国1-9-3
86	大阪市立恵美小学校	556-0003	大阪市浪速区恵美須西2-13-9
87	大阪市立日東小学校	556-0006	大阪市浪速区日本橋東3-1-23
88	大阪市立日本橋小学校	556-0005	大阪市浪速区日本橋3-2-27
89	大阪市立敷津小学校	556-0012	大阪市浪速区敷津東3-9-32
90	大阪市立塩草小学校	556-0024	大阪市浪速区塩草1-4-31
91	大阪市立難波元町小学校	556-0016	大阪市浪速区元町1-5-30
92	大阪市立柏里小学校	555-0022	大阪市西淀川区柏里2-13-33
93	大阪市立野里小学校	555-0024	大阪市西淀川区野里2-21-13
94	大阪市立姫里小学校	555-0025	大阪市西淀川区姫里2-8-24
95	大阪市立姫島小学校	555-0033	大阪市西淀川区姫島1-10-4
96	大阪市立福小学校	555-0034	大阪市西淀川区福町2-5-23
97	大阪市立大和田小学校	555-0032	大阪市西淀川区大和田4-3-43
98	大阪市立川北小学校	555-0041	大阪市西淀川区中島1-11-20
99	大阪市立佃小学校	555-0001	大阪市西淀川区佃1-21-12
100	大阪市立香簑小学校	555-0012	大阪市西淀川区御幣島6-5-25
101	大阪市立御幣島小学校	555-0012	大阪市西淀川区御幣島3-5-5
102	大阪市立歌島小学校	555-0021	大阪市西淀川区歌島2-5-18
103	大阪市立出来島小学校	555-0031	大阪市西淀川区出来島2-2-24

	学校名	郵便番号	所在地
104	大阪市立佃西小学校	555-0001	大阪市西淀川区佃2-15-30
105	大阪市立佃南小学校	555-0001	大阪市西淀川区佃5-12-12
106	大阪市立神津小学校	532-0028	大阪市淀川区十三元今里2-3-12
107	大阪市立田川小学校	532-0027	大阪市淀川区田川2-9-37
108	大阪市立加島小学校	532-0031	大阪市淀川区加島1-60-28
109	大阪市立三津屋小学校	532-0036	大阪市淀川区三津屋中1-4-14
110	大阪市立新高小学校	532-0033	大阪市淀川区新高1-15-53
111	大阪市立野中小学校	532-0034	大阪市淀川区野中北1-11-26
112	大阪市立十三小学校	532-0023	大阪市淀川区十三東4-3-6
113	大阪市立木川小学校	532-0012	大阪市淀川区木川東3-7-32
114	大阪市立三国小学校	532-0005	大阪市淀川区三国本町3-9-18
115	大阪市立北中島小学校	532-0003	大阪市淀川区宮原5-3-4
116	大阪市立西中島小学校	532-0011	大阪市淀川区西中島7-14-25
117	大阪市立塚本小学校	532-0026	大阪市淀川区塚本3-5-6
118	大阪市立木川南小学校	532-0012	大阪市淀川区木川東1-2-36
119	大阪市立東三国小学校	532-0002	大阪市淀川区東三国6-3-24
120	大阪市立西三国小学校	532-0006	大阪市淀川区西三国1-21-28
121	大阪市立新東三国小学校	532-0002	大阪市淀川区東三国3-9-10
122	大阪市立宮原小学校	532-0005	大阪市淀川区三国本町1-16-44
123	大阪市立東淡路小学校	533-0023	大阪市東淀川区東淡路3-3-32
124	大阪市立西淡路小学校	533-0031	大阪市東淀川区西淡路3-14-11
125	大阪市立菅原小学校	533-0022	大阪市東淀川区菅原6-3-25
126	大阪市立新庄小学校	533-0006	大阪市東淀川区上新庄2-20-5
127	大阪市立大隅東小学校	533-0005	大阪市東淀川区瑞光5-8-19
128	大阪市立豊里小学校	533-0013	大阪市東淀川区豊里5-14-60
129	大阪市立啓発小学校	533-0033	大阪市東淀川区東中島4-8-38
130	大阪市立小松小学校	533-0004	大阪市東淀川区小松3-18-15
131	大阪市立淡路小学校	533-0031	大阪市東淀川区西淡路5-5-32
132	大阪市立下新庄小学校	533-0021	大阪市東淀川区下新庄5-2-9
133	大阪市立井高野小学校	533-0001	大阪市東淀川区井高野1-28-17
134	大阪市立大桐小学校	533-0011	大阪市東淀川区大桐4-1-15
135	大阪市立豊新小学校	533-0014	大阪市東淀川区豊新4-17-26
136	大阪市立東井高野小学校	533-0001	大阪市東淀川区井高野2-8-28
137	大阪市立大隅西小学校	533-0015	大阪市東淀川区大隅2-3-18
138	大阪市立豊里南小学校	533-0013	大阪市東淀川区豊里5-12-41
139	大阪市立大道南小学校	533-0012	大阪市東淀川区大道南1-23-6
140	大阪市立東小橋小学校	537-0024	大阪市東成区東小橋3-10-37
141	大阪市立大成小学校	537-0014	大阪市東成区大今里西3-2-62
142	大阪市立中道小学校	537-0023	大阪市東成区玉津1-7-39
143	大阪市立北中道小学校	537-0025	大阪市東成区中道2-9-20
144	大阪市立中本小学校	537-0022	大阪市東成区中本4-2-32
145	大阪市立東中本小学校	537-0021	大阪市東成区東中本2-9-3
146	大阪市立今里小学校	537-0012	大阪市東成区大今里1-35-29
147	大阪市立片江小学校	537-0013	大阪市東成区大今里南2-13-2
148	大阪市立神路小学校	537-0012	大阪市東成区大今里4-6-19
149	大阪市立深江小学校	537-0002	大阪市東成区深江南1-4-6
150	大阪市立宝栄小学校	537-0003	大阪市東成区神路1-15-48
151	大阪市立北鶴橋小学校	544-0031	大阪市生野区鶴橋3-4-50
152	大阪市立御幸森小学校	544-0034	大阪市生野区桃谷5-5-37
153	大阪市立鶴橋小学校	544-0034	大阪市生野区桃谷2-20-32
154	大阪市立東桃谷小学校	544-0033	大阪市生野区勝山北3-7-21
155	大阪市立勝山小学校	544-0021	大阪市生野区勝山南1-3-5
156	大阪市立林寺小学校	544-0023	大阪市生野区林寺2-14-3

	学校名	郵便番号	所在地
157	大阪市立生野小学校	544-0022	大阪市生野区舍利寺3-1-39
158	大阪市立中川小学校	544-0005	大阪市生野区中川3-4-3
159	大阪市立東中川小学校	544-0001	大阪市生野区新今里7-14-37
160	大阪市立小路小学校	544-0002	大阪市生野区小路2-24-40
161	大阪市立東小路小学校	544-0003	大阪市生野区小路東3-8-15
162	大阪市立田島小学校	544-0011	大阪市生野区田島3-7-38
163	大阪市立舍利寺小学校	544-0021	大阪市生野区勝山南4-15-25
164	大阪市立生野南小学校	544-0023	大阪市生野区林寺6-6-7
165	大阪市立巽小学校	544-0013	大阪市生野区巽中3-12-5
166	大阪市立北巽小学校	544-0004	大阪市生野区巽北1-30-29
167	大阪市立西生野小学校	544-0024	大阪市生野区生野西3-5-7
168	大阪市立巽南小学校	544-0015	大阪市生野区巽南2-10-7
169	大阪市立巽東小学校	544-0014	大阪市生野区巽東3-8-13
170	大阪市立清水小学校	535-0021	大阪市旭区清水5-1-12
171	大阪市立古市小学校	535-0013	大阪市旭区森小路2-10-35
172	大阪市立大宮小学校	535-0002	大阪市旭区大宮4-9-16
173	大阪市立高殿小学校	535-0031	大阪市旭区高殿6-9-10
174	大阪市立大宮西小学校	535-0003	大阪市旭区中宮1-8-14
175	大阪市立生江小学校	535-0004	大阪市旭区生江1-10-21
176	大阪市立城北小学校	535-0005	大阪市旭区赤川3-13-47
177	大阪市立新森小路小学校	535-0022	大阪市旭区新森6-3-13
178	大阪市立太子橋小学校	535-0001	大阪市旭区太子橋1-12-15
179	大阪市立高殿南小学校	535-0031	大阪市旭区高殿3-10-30
180	大阪市立榎並小学校	536-0006	大阪市城東区野江4-1-28
181	大阪市立関目小学校	536-0008	大阪市城東区関目6-5-5
182	大阪市立鯉江小学校	536-0004	大阪市城東区今福西3-9-27
183	大阪市立今福小学校	536-0003	大阪市城東区今福南2-1-53
184	大阪市立聖賢小学校	536-0015	大阪市城東区新喜多2-4-35
185	大阪市立鷗野小学校	536-0014	大阪市城東区鷗野西4-11-48
186	大阪市立中浜小学校	536-0024	大阪市城東区中浜2-12-35
187	大阪市立城東小学校	536-0013	大阪市城東区鷗野東3-16-41
188	大阪市立諏訪小学校	536-0022	大阪市城東区永田2-15-5
189	大阪市立成育小学校	536-0007	大阪市城東区成育1-5-19
190	大阪市立すみれ小学校	536-0001	大阪市城東区古市2-6-46
191	大阪市立東中浜小学校	536-0023	大阪市城東区東中浜5-4-5
192	大阪市立放出小学校	536-0011	大阪市城東区放出西2-2-18
193	大阪市立関目東小学校	536-0008	大阪市城東区関目4-12-15
194	大阪市立森之宮小学校	536-0025	大阪市城東区森之宮1-6-64
195	大阪市立鯉江東小学校	536-0002	大阪市城東区今福東1-3-26
196	大阪市立榎本小学校	538-0041	大阪市鶴見区今津北1-5-35
197	大阪市立茨田南小学校	538-0051	大阪市鶴見区諸口1-3-71
198	大阪市立茨田北小学校	538-0035	大阪市鶴見区浜3-8-66
199	大阪市立鶴見小学校	538-0053	大阪市鶴見区鶴見4-14-10
200	大阪市立今津小学校	538-0042	大阪市鶴見区今津中4-1-48
201	大阪市立茨田東小学校	538-0031	大阪市鶴見区茨田大宮3-7-61
202	大阪市立茨田西小学校	538-0052	大阪市鶴見区横堤5-13-61
203	大阪市立横堤小学校	538-0052	大阪市鶴見区横堤1-11-83
204	大阪市立みどり小学校	538-0054	大阪市鶴見区緑2-4-45
205	大阪市立鶴見南小学校	538-0053	大阪市鶴見区鶴見2-17-22
206	大阪市立茨田小学校	538-0032	大阪市鶴見区安田2-1-8
207	大阪市立焼野小学校	538-0037	大阪市鶴見区焼野1-3-44
208	大阪市立高松小学校	545-0001	大阪市阿倍野区天王寺町北3-17-19
209	大阪市立常盤小学校	545-0053	大阪市阿倍野区松崎町3-11-12

	学校名	郵便番号	所在地
210	大阪市立金塚小学校	545-0051	大阪市阿倍野区旭町3-4-46
211	大阪市立丸山小学校	545-0042	大阪市阿倍野区丸山通1-4-43
212	大阪市立晴明丘小学校	545-0032	大阪市阿倍野区晴明通10-34
213	大阪市立阿倍野小学校	545-0021	大阪市阿倍野区阪南町2-17-21
214	大阪市立阪南小学校	545-0021	大阪市阿倍野区阪南町5-7-40
215	大阪市立長池小学校	545-0013	大阪市阿倍野区長池町20-26
216	大阪市立苗代小学校	545-0021	大阪市阿倍野区阪南町1-26-30
217	大阪市立晴明丘南小学校	545-0037	大阪市阿倍野区帝塚山1-23-8
218	大阪市立粉浜小学校	559-0001	大阪市住之江区粉浜2-6-6
219	大阪市立安立小学校	559-0004	大阪市住之江区住之江1-4-29
220	大阪市立敷津浦小学校	559-0014	大阪市住之江区北島2-9-22
221	大阪市立加賀屋小学校	559-0011	大阪市住之江区北加賀屋2-5-26
222	大阪市立住吉川小学校	559-0016	大阪市住之江区西加賀屋4-1-4
223	大阪市立北粉浜小学校	559-0001	大阪市住之江区粉浜1-5-48
224	大阪市立住之江小学校	559-0013	大阪市住之江区御崎4-6-43
225	大阪市立平林小学校	559-0025	大阪市住之江区平林南2-6-48
226	大阪市立加賀屋東小学校	559-0012	大阪市住之江区東加賀屋1-6-25
227	大阪市立新北島小学校	559-0024	大阪市住之江区新北島6-2-56
228	大阪市立南港光小学校	559-0033	大阪市住之江区南港中4-4-22
229	大阪市立南港緑小学校	559-0033	大阪市住之江区南港中2-7-18
230	大阪市立南港桜小学校	559-0033	大阪市住之江区南港中5-2-48
231	大阪市立南港渚小学校	559-0033	大阪市住之江区南港中3-7-13
232	大阪市立清江小学校	559-0013	大阪市住之江区御崎5-7-18
233	大阪市立東粉浜小学校	558-0051	大阪市住吉区東粉浜2-3-26
234	大阪市立住吉小学校	558-0052	大阪市住吉区帝塚山西4-1-35
235	大阪市立長居小学校	558-0004	大阪市住吉区長居東3-3-40
236	大阪市立依羅小学校	558-0014	大阪市住吉区我孫子4-11-48
237	大阪市立墨江小学校	558-0043	大阪市住吉区墨江2-3-46
238	大阪市立遠里小野小学校	558-0032	大阪市住吉区遠里小野6-6-27
239	大阪市立清水丘小学校	558-0033	大阪市住吉区清水丘2-9-41
240	大阪市立南住吉小学校	558-0041	大阪市住吉区南住吉3-5-1
241	大阪市立南住吉大空小学校	558-0015	大阪市住吉区我孫子西1-6-12
242	大阪市立大領小学校	558-0001	大阪市住吉区大領3-3-5
243	大阪市立苅田小学校	558-0011	大阪市住吉区苅田3-5-34
244	大阪市立山之内小学校	558-0023	大阪市住吉区山之内2-17-39
245	大阪市立苅田南小学校	558-0011	大阪市住吉区苅田10-1-35
246	大阪市立苅田北小学校	558-0011	大阪市住吉区苅田1-11-39
247	大阪市立桑津小学校	546-0041	大阪市東住吉区桑津5-13-13
248	大阪市立北田辺小学校	546-0044	大阪市東住吉区北田辺3-11-14
249	大阪市立田辺小学校	546-0031	大阪市東住吉区田辺2-3-34
250	大阪市立東田辺小学校	546-0032	大阪市東住吉区東田辺2-14-6
251	大阪市立南田辺小学校	546-0033	大阪市東住吉区南田辺4-3-4
252	大阪市立南百済小学校	546-0013	大阪市東住吉区湯里1-15-40
253	大阪市立育和小学校	546-0002	大阪市東住吉区杭全4-10-12
254	大阪市立鷹合小学校	546-0014	大阪市東住吉区鷹合3-12-38
255	大阪市立今川小学校	546-0003	大阪市東住吉区今川4-24-4
256	大阪市立矢田小学校	546-0023	大阪市東住吉区矢田5-1-22
257	大阪市立矢田東小学校	546-0022	大阪市東住吉区住道矢田2-7-43
258	大阪市立矢田西小学校	546-0024	大阪市東住吉区公園南矢田2-15-43
259	大阪市立矢田北小学校	546-0021	大阪市東住吉区照ヶ丘矢田2-1-55
260	大阪市立湯里小学校	546-0013	大阪市東住吉区湯里6-8-3
261	大阪市立喜連小学校	547-0027	大阪市平野区喜連7-6-4
262	大阪市立平野西小学校	547-0034	大阪市平野区背戸口4-1-31

	学校名	郵便番号	所在地
263	大阪市立平野小学校	547-0046	大阪市平野区平野宮町1-9-29
264	大阪市立長吉小学校	547-0016	大阪市平野区長吉長原2-6-55
265	大阪市立瓜破小学校	547-0024	大阪市平野区瓜破5-3-11
266	大阪市立加美小学校	547-0006	大阪市平野区加美正覚寺3-13-35
267	大阪市立加美南部小学校	547-0003	大阪市平野区加美南1-9-17
268	大阪市立平野南小学校	547-0031	大阪市平野区平野南2-3-8
269	大阪市立長吉東小学校	547-0011	大阪市平野区長吉出戸8-13-41
270	大阪市立喜連西小学校	547-0026	大阪市平野区喜連西3-17-61
271	大阪市立長吉南小学校	547-0012	大阪市平野区長吉六反3-2-17
272	大阪市立瓜破北小学校	547-0024	大阪市平野区瓜破1-8-33
273	大阪市立長原小学校	547-0013	大阪市平野区長吉長原東3-10-9
274	大阪市立喜連東小学校	547-0021	大阪市平野区喜連東2-2-17
275	大阪市立瓜破東小学校	547-0022	大阪市平野区瓜破東2-5-78
276	大阪市立長吉六反小学校	547-0012	大阪市平野区長吉六反5-3-41
277	大阪市立加美北小学校	547-0001	大阪市平野区加美北7-4-10
278	大阪市立長吉出戸小学校	547-0011	大阪市平野区長吉出戸3-1-43
279	大阪市立瓜破西小学校	547-0025	大阪市平野区瓜破西2-1-43
280	大阪市立喜連北小学校	547-0027	大阪市平野区喜連1-7-4
281	大阪市立加美東小学校	547-0002	大阪市平野区加美東5-9-25
282	大阪市立川辺小学校	547-0014	大阪市平野区長吉川辺1-4-9
283	大阪市立新平野西小学校	547-0034	大阪市平野区背戸口1-5-22
284	大阪市立萩之茶屋小学校	557-0004	大阪市西成区萩之茶屋1-11-15
285	大阪市立今宮小学校	557-0014	大阪市西成区天下茶屋1-16-5
286	大阪市立天下茶屋小学校	557-0012	大阪市西成区聖天下1-11-35
287	大阪市立岸里小学校	557-0054	大阪市西成区千本中1-8-22
288	大阪市立玉出小学校	557-0044	大阪市西成区玉出中2-13-48
289	大阪市立千本小学校	557-0054	大阪市西成区千本中2-8-8
290	大阪市立橋小学校	557-0051	大阪市西成区橋2-1-29
291	大阪市立梅南小学校	557-0033	大阪市西成区梅南3-2-25
292	大阪市立弘治小学校	557-0016	大阪市西成区花園北2-16-26
293	大阪市立松之宮小学校	557-0032	大阪市西成区旭3-5-39
294	大阪市立長橋小学校	557-0025	大阪市西成区長橋2-3-21
295	大阪市立北津守小学校	557-0061	大阪市西成区北津守3-3-40
296	大阪市立津守小学校	557-0062	大阪市西成区津守3-1-66
297	大阪市立南津守小学校	557-0063	大阪市西成区南津守6-1-14
298	大阪市立長谷川小学校	582-0027	大阪府柏原市円明町3-15
299	大阪市立弘済小学校	565-0874	大阪府吹田市古江台6-2-2

③ 介護等体験実習

○大阪府教育委員会の介護等体験受入承諾書

○大阪府社会福祉協議会の介護等体験受入承諾書

介護等体験・H25年度受入可能施設一覧(大阪市内)

No.	法人名	施設名	種別	住所
1	社会福祉法人 みなと堂	港曙寮	救護施設	大阪市港区港曙2-4-25
2	(福)日本ヘルンケラー財団	平和寮	救護施設	大阪市阿倍野区昭和町3-4-27
3	(福)大阪自強館	白雲寮	救護施設	大阪市西成区天下茶屋1-3-17
4	(福)大阪自強館	白雲寮	救護施設	大阪市西成区太子1-1-19
5	(福)大阪自強館	甲子寮	救護施設	大阪市西成区天下茶屋1-3-17
6	(福)大阪自強館	三島寮	救護施設	大阪市西成区新茶屋1-9-14
7	社会福祉法人 豊後院の家	豊後院児園	乳児院	大阪市東淀川区中本4-1-21
8	(福)みおつくし福祉会	東さくら園	母子生活支援施設	大阪市平野区平野上町1-7-3
9	社会福祉法人 大念仏社会事業団	ボ・ドーム大念仏	知的障害児施設	大阪市住之江区南加賀屋3-10-27
10	(福)いわき学園	駿津浦学園	養護老人ホーム	大阪市西淀川区川口3-6-14
11	(福)仁愛会	養護老人ホームすみれ苑	養護老人ホーム	大阪市天王寺区城南寺町2-23
12	(福)天祥院和会	天祥養護老人ホーム	特別養護老人ホーム	大阪市西淀川区太子島1-8-44
13	(福)豊望会	特別養護老人ホーム江ノ子島コスモス苑	特別養護老人ホーム	大阪市大正区北村3-5-10
14	(福)豊財財団済生会支部大阪府済生会	泉島特別養護老人ホーム第二大正園	特別養護老人ホーム・デイサービスセンター	大阪市天王寺区北山町9-6
15	(福)四天王寺福祉事業団	四天王寺きたやま苑	特別養護老人ホーム	大阪市西淀川区大和田2-5-11
16	(福)松福会	西淀川特別養護老人ホーム	特別養護老人ホーム	大阪市東淀川区井高野3-1-58
17	(福)井高野福祉会	特別養護老人ホーム井高野園	特別養護老人ホーム	大阪市東淀川区東深路1-4-49
18	(福)大阪自強館	特別養護老人ホームジュネス	特別養護老人ホーム	大阪市東淀川区神路1-10-3
19	社会福祉法人 山水学園	特別養護老人ホームサンローズオオサカ	特別養護老人ホーム	大阪市東淀川区中川1-6-20
20	(福)弘仁会	特別養護老人ホームレインボー今里	特別養護老人ホーム	大阪市生野区轟中1-5-8
21	(福)光音会	特別養護老人ホーム美さくら苑	特別養護老人ホーム	大阪市旭区赤川1-6-12
22	(福)旭長寿の森	特別養護老人ホームあいあい	特別養護老人ホーム	大阪市旭区赤川2-1-20
23	(福)ほしの会	特別養護老人ホームライフライン	特別養護老人ホーム	大阪市東淀川区今福東2-2-25
24	(福)豊財財団済生会支部大阪府済生会	野江特別養護老人ホーム城東園	特別養護老人ホーム	大阪市阿倍野区丸山通1-2-8
25	(福)大阪平成会	ふれあひ山荘	特別養護老人ホーム	大阪市住吉区帝塚山東2-1-35
26	(福)帝塚山福祉会	帝塚山特別養護老人ホーム	特別養護老人ホーム	大阪市住吉区住道矢田4-20-17
27	(福)城南福祉会	特別養護老人ホーム城南ホーム	特別養護老人ホーム	大阪市東淀川区矢田6-8-7
28	(福)ふれあひ共生会	特別養護老人ホーム花風	特別養護老人ホーム・デイサービスセンター	大阪市東淀川区矢田7-6-10
29	(福)隆生福祉会	特別養護老人ホームゆめあざみ	特別養護老人ホーム	大阪市西成区南津守1-4-7
30	(福)救済復興園	特別養護老人ホーム山雲	特別養護老人ホーム	大阪市淀川区大川西4-5-40
31	(福)関西中央福祉会	特別養護老人ホーム淀川屋敷の苑	特別養護老人ホーム	大阪市住之江区深江口2-5-14
32	(福)シーカー社会貢献会	介護老人福祉施設グルメ岸原社会貢献の家	特別養護老人ホーム	大阪市住之江区南港中2-1-35
33	(福)連福会	南港咲洲特別養護老人ホーム	特別養護老人ホーム	大阪市東淀川区加美北7-1-2
34	(福)和悦会	加美北特別養護老人ホーム	特別養護老人ホーム	大阪市平野区長吉六反2-1-6
35	(福)愛和福祉会	特別養護老人ホーム愛和	特別養護老人ホーム	大阪市平野区長吉川辺3-20-14
36	(福)永寿福祉会	特別養護老人ホーム永寿	特別養護老人ホーム	大阪市平野区瓜破南1-2-11
37	社会福祉法人 永寿福祉会	永寿特別養護老人ホーム	特別養護老人ホーム	大阪市平野区喜連2丁目2-40
38	(福)永寿福祉会	特別養護老人ホーム喜連	特別養護老人ホーム	大阪市北区芝田2-10-39
39	社会福祉法人 豊財財団済生会支部大阪府済生会	大阪府済生会中津特別養護老人ホーム喜久寿苑	特別養護老人ホーム	大阪市北区神山町15-12
40	(福)北慶会	特別養護老人ホーム北野よこび苑	特別養護老人ホーム	大阪市西淀川区川口3-6-14
41	(福)仁愛会	特別養護老人ホームすみれ苑	特別養護老人ホーム	大阪市東淀川区中道2-7-1
42	(福)森の宮福祉会	高齢者総合ケアセンター ハミングバード中道	特別養護老人ホーム	大阪市北区大淀南2-5-20
43	(福)厚風会	特別養護老人ホーム厚風おおさか	特別養護老人ホーム	大阪市阿倍野区長池町18-20
44	(福)育徳園	いくとくII	デイサービスセンター	大阪市平野区喜連東3-6-40
45	(福)城南福祉会	デイサービスセンター博愛荘	デイサービスセンター	大阪市東淀川区中野町5-10-70
46	(福)治栄会	からまつ苑デイサービスセンター	デイサービスセンター	大阪市住之江区北加賀屋1-5-6
47	(福)南海福祉事業会	ブルー北加賀屋	介護老人保健施設	大阪市東淀川区東中本2-5-31
48	医療法人 明生会	介護老人保健施設桜の宮苑	介護老人保健施設	大阪市東淀川区高島6-14-41
49	(医)社団 緑会	介護老人保健施設エーグリーン	介護老人保健施設	大阪市東淀川区東中本2-5-31
50	(医)愛仁会	介護老人保健施設ユーアイ	介護老人保健施設	大阪市東淀川区高島6-14-41
51	(医)公達会	大阪市立老人保健施設おとしよりすこやかセンター東部館	介護老人保健施設	大阪市東淀川区東中本2-5-31
52	特定医療法人 清翠会	大阪市立老人保健施設おとしよりすこやかセンター北部館	介護老人保健施設	大阪市東淀川区高島6-14-41
53	特定医療法人	桜老人保健施設	介護老人保健施設	大阪市東淀川区高島6-14-41
54	(福)帝塚山福祉会	介護老人保健施設聖苑	介護老人保健施設	大阪市東淀川区高島6-14-41
55	(医)橋会	介護老人保健施設たちばな	介護老人保健施設	大阪市東淀川区高島6-14-41
56	(医)協和会	淀川老人保健施設ハートフル	介護老人保健施設	大阪市東淀川区高島6-14-41
57	(福)ラポール会	介護老人保健施設ながし苑	介護老人保健施設	大阪市東淀川区高島6-14-41
58	(福)永寿福祉会	永寿ケアセンター	介護老人保健施設	大阪市東淀川区高島6-14-41
59	(福)宝寿福祉会	介護老人保健施設おとしより健康センター	介護老人保健施設	大阪市東淀川区高島6-14-41
60	(医)医誠会	介護老人保健施設エスベール井高野	介護老人保健施設	大阪市東淀川区高島6-14-41
61	社会福祉法人 難波福祉会	介護老人保健施設難波苑	介護老人保健施設	大阪市東淀川区高島6-14-41
62	(福)和悦会	特別養護老人ホーム	特別養護老人ホーム	大阪市東淀川区高島6-14-41
63	(福)浪速松福会	特別養護老人ホーム寿寿苑	特別養護老人ホーム	大阪市東淀川区高島6-14-41
64	医療法人 愛徳会	介護老人保健施設愛徳の里	介護老人保健施設	大阪市東淀川区高島6-14-41
65	社会福祉法人 永寿福祉会	永寿特別養護老人ホーム デイサービスセンター	老人デイサービスセンター	大阪市東淀川区高島6-14-41
66	医療法人 河和会	パークサイドなごみ	介護老人保健施設	大阪市東淀川区高島6-14-41
67	社会福祉法人 厚風会	デイサービスセンター 厚風おおさか	老人デイサービスセンター	大阪市東淀川区高島6-14-41
68	医療法人 仁徳会	介護老人保健施設 カルテラ住吉川	介護老人保健施設	大阪市東淀川区高島6-14-41
69	(福)豊財財団済生会支部大阪府済生会	障害者支援施設 北村園	障害者支援施設	大阪市東淀川区高島6-14-41
70	(福)大阪自強館	希望の園	身体障害者通所授産施設	大阪市東淀川区高島6-14-41
71	(福)日本ヘルンケラー財団	ぶるうむ此花	知的障害者通所更生施設	大阪市東淀川区高島6-14-41
72	(福)大阪福祉事業財団	あさひ希望の里	障害福祉サービス事業を行う施設	大阪市東淀川区高島6-14-41
73	(福)大阪福祉事業財団	すみれ共同作業所	障害福祉サービス事業を行う施設	大阪市東淀川区高島6-14-41
74	(福)ノーマライゼーション協会	西沢路希望の家	知的障害者通所授産施設	大阪市東淀川区高島6-14-41
75	(福)ひがしよどが福祉会	あすわ〜く	知的障害者通所授産施設	大阪市東淀川区高島6-14-41
76	(福)大阪市障害者福祉・スポーツ協会	大阪市立中央授産場	知的障害者通所授産施設	大阪市東淀川区高島6-14-41
77	(福)よさみ野福祉会	よさみ野障害者作業所	障害福祉サービス事業を行う施設	大阪市東淀川区高島6-14-41
78	(福)大阪府肢体不自由者協会	なにわの宮	障害福祉サービス事業を行う施設	大阪市東淀川区高島6-14-41
79	(福)大阪府家内労働センター	連合授産場	障害福祉サービス事業を行う施設	大阪市東淀川区高島6-14-41
80	(福)永寿福祉会	永寿の里 若菜	障害福祉サービス事業を行う施設	大阪市東淀川区高島6-14-41
81	(福)日本ヘルンケラー財団	障害者支援施設アテナ平和	障害者支援施設	大阪市東淀川区高島6-14-41
82	(福)日本ライトハウス	日本ライトハウスわくわく	障害福祉サービス事業を行う施設	大阪市東淀川区高島6-14-41
83	社会福祉法人 大阪聴覚障害者福祉会	あいらぶ工房	障害福祉サービス事業を行う施設	大阪市東淀川区高島6-14-41
84	社会福祉法人 なかき福祉会	みつぎ	障害福祉サービス事業を行う施設	大阪市東淀川区高島6-14-41
85	社会福祉法人 ふれあひ共生会	在宅サービスステーションもくれん	障害福祉サービスを行う施設	大阪市東淀川区高島6-14-41

④ 保育実習（実習種別・保育実習Ⅰ、保育所：134園）

	種別	保育園名	住所	入所定員	人数
1	保育所	社会福祉法人 鶴野会 つるのひまわり保育園	摂津市鶴野2丁目7-16	90	5
2	保育所	社会福祉法人 桃林会 とりかいひがし保育園	摂津市鳥飼上3丁目2-25	100	5
3	保育所	社会福祉法人 桃林会 せつつ保育園	摂津市三島3丁目13-1	130	5
4	保育所	社会福祉法人 みおつくし福祉会 相川保育園	大阪市東淀川区相川3-11-24	120	5
5	保育所	社会福祉法人 照治福祉会 浦堂保育園	高槻市宮之川原4丁目3-1	150	5
6	保育所	社会福祉法人 裕榮福祉会 たちばな保育園	茨木市片桐町14-26	180	5
7	保育所	社会福祉法人 つつみ会 たんぽぽ保育園	茨木市玉樹1丁目3-1	90	5
8	保育所	社会福祉法人 つつみ会 たんぽぽ中条保育園	茨木市東中条町8-6	150	5
9	保育所	宗教法人 法泉寺 法泉寺保育園	箕面市栗生間谷東5丁目21-14	80	5
10	保育所	社会福祉法人 さつき保育園	池田市城南2丁目4-20	120	5
11	保育所	社会福祉法人 神童福祉会 アトリオとねやま保育園	豊中市刀根山4丁目1-1	110	5
12	保育所	社会福祉法人 青空福祉会 青空保育園	大阪市西淀川区中島1丁目14-5	110	5
13	保育所	社会福祉法人 都島友の会 都島乳児保育センター	大阪市都島区都島本通3丁目16-8	60	5
14	保育所	社会福祉法人 都島友の会 都島保育所	大阪市都島区都島本通3-4-3	221	5
15	保育所	社会福祉法人 旭ヶ丘学園 きたの旭ヶ丘学園	大阪市北区兎我野町3-10	180	5
16	保育所	社会福祉法人 旭ヶ丘学園	吹田市朝日が丘町1-5	300	5
17	保育所	社会福祉法人 奥真会 石切山手保育園	東大阪市東石切町4丁目15-54	90	5
18	保育所	宗教法人 竹林寺 月かげ保育園	京都市中京区西ノ京南両町22	180	5
19	保育所	社会福祉法人 柳辻保育園	京都市山科区柳辻池尻町44-1	220	5
20	保育所	社会福祉法人 千里山山手学園 千里山やまて学園	吹田市山手町2丁目17-22	120	5
21	保育所	大阪市立大淀保育所	大阪市北区大淀南3-3-62	126	5
22	保育所	大阪市立御幸保育所	大阪市都島区御幸町2-7-13	97	
23	保育所	大阪市立毛馬保育所	大阪市都島区毛馬町2-5-13	103	
24	保育所	大阪市立野田保育所	大阪市福島区野田2-12-1	93	
25	保育所	大阪市立海老江保育所	大阪市福島区海老江6-1-9	124	
26	保育所	大阪市立高見町保育所	大阪市此花区高見3-1-4	110	
27	保育所	大阪市立西島保育所	大阪市此花区西島1-18-19-101	89	
28	保育所	大阪市立南大江保育所	大阪市中央区農人橋1-1-2	124	
29	保育所	大阪市立西保育所	大阪市西区千代崎2-21-18	111	
30	保育所	大阪市立梅本保育所	大阪市西区本田1-4-50	148	
31	保育所	大阪市立八幡屋保育所	大阪市港区八幡屋3-11-6	102	
32	保育所	大阪市立磯路保育所	大阪市港区磯路2-11-8	104	

	種別	保育園名	住所	入所 定員	人数
33	保育所	大阪市立大浪保育所	大阪市大正区三軒家東2-5-4-101	103	
34	保育所	大阪市立北恩加島保育所	大阪市大正区泉尾7-14-2-108	97	
35	保育所	大阪市立大正保育所	大阪市大正区平尾2-23-5-101	110	
36	保育所	大阪市立鶴町保育所	大阪市大正区鶴町3-22-1-109	92	
37	保育所	大阪市立天王寺保育所	大阪市天王寺区堂ヶ芝2-16-24	78	
38	保育所	大阪市立味原保育所	大阪市天王寺区味原町9-6	127	
39	保育所	大阪市立浪速第1保育所	大阪市浪速区浪速東3-2-53	128	
40	保育所	大阪市立浪速第5保育所	大阪市浪速区木津川2-3-46	125	
41	保育所	大阪市立日東南保育所	大阪市浪速区下寺3-17-7	50	
42	保育所	大阪市立小田町保育所	大阪市浪速区塩草2-1-12	126	
43	保育所	大阪市立柏里保育所	大阪市西淀川区柏里3-17-1-101	89	
44	保育所	大阪市立姫島保育所	大阪市西淀川区姫島4-21-7	114	
45	保育所	大阪市立出来島保育所	大阪市西淀川区出来島3-2-99	51	
46	保育所	大阪市立佃保育所	大阪市西淀川区佃2-2-12-101	97	
47	保育所	大阪市立十三保育所	大阪市淀川区野中南2-2-6	112	
48	保育所	大阪市立三国保育所	大阪市淀川区西宮原2-6-57	143	
49	保育所	大阪市立加島第1保育所	大阪市淀川区加島1-32-17	124	
50	保育所	大阪市立木川第1保育所	大阪市淀川区木川西4-4-3-101	100	
51	保育所	大阪市立西大道保育所	大阪市東淀川区大桐2-8-2-100	124	
52	保育所	大阪市立西淡路第1保育所	大阪市東淀川区淡路4-1-13	64	
53	保育所	大阪市立西淡路第2保育所	大阪市東淀川区西淡路5-1-14	109	
54	保育所	大阪市立豊里第1保育所	大阪市東淀川区豊里7-15-21	104	
55	保育所	大阪市立あすか保育所	大阪市東淀川区東中島3-14-13	78	
56	保育所	大阪市立南江口保育所	大阪市東淀川区小松5-6-9-101	96	
57	保育所	大阪市立日之出保育所	大阪市東淀川区東中島4-11-25	138	
58	保育所	大阪市立南方保育所	大阪市東淀川区東中島2-20-21	41	
59	保育所	大阪市立東小橋保育所	大阪市東成区東小橋3-7-4	90	
60	保育所	大阪市立北中本保育所	大阪市東成区中本4-1-22	106	
61	保育所	大阪市立南生野保育所	大阪市生野区生野東4-1-75	102	
62	保育所	大阪市立鶴橋保育所	大阪市生野区桃谷5-4-5	48	
63	保育所	大阪市立生野保育所	大阪市生野区舍利寺1-11-14	70	
64	保育所	大阪市立中川保育所	大阪市生野区中川2-4-26	88	
65	保育所	大阪市立生江保育所	大阪市旭区生江3-26-23	130	

	種別	保育園名	住所	入所 定員	人数
66	保育所	大阪市立森小路保育所	大阪市旭区森小路2-5-29	127	
67	保育所	大阪市立大宮第1保育所	大阪市旭区中宮2-22-22	51	
68	保育所	大阪市立清水保育所	大阪市旭区清水2-14-17	115	
69	保育所	大阪市立両国保育所	大阪市旭区清水4-6-15	121	
70	保育所	大阪市立赤川保育所	大阪市旭区赤川2-16-9	56	
71	保育所	大阪市立鯉江保育所	大阪市城東区今福西1-13-4	145	
72	保育所	大阪市立鳴野保育所	大阪市城東区鳴野西5-3-3-100	135	
73	保育所	大阪市立東中浜保育所	大阪市城東区東中浜2-4-31	121	
74	保育所	大阪市立関目保育所	大阪市城東区関目1-24-27	123	
75	保育所	大阪市立茨田第1保育所	大阪市鶴見区諸口5-浜6-17	147	
76	保育所	大阪市立茨田大宮保育所	大阪市鶴見区茨田大宮3-1-43	142	
77	保育所	大阪市立高松保育所	大阪市阿倍野区天王寺町北3-2-14	115	
78	保育所	大阪市立阪南保育所	大阪市阿倍野区阪南町3-26-13	144	
79	保育所	大阪市立北加賀屋保育所	大阪市住之江区中加賀屋2-17-1	125	
80	保育所	大阪市立御崎保育所	大阪市住之江区御崎7-2-4	126	
81	保育所	大阪市立住吉保育所	大阪市住吉区帝塚山東5-9-4	90	
82	保育所	大阪市立住吉乳児保育所	大阪市住吉区帝塚山東5-5-16	63	
83	保育所	大阪市立浅香東保育所	大阪市住吉区浅香1-1-24	153	
84	保育所	大阪市立荻田南保育所	大阪市住吉区荻田9-1-12	116	
85	保育所	大阪市立万領保育所	大阪市住吉区万代東4-1-29	92	
86	保育所	大阪市立鷹合保育所	大阪市東住吉区鷹合1-5-16	119	
87	保育所	大阪市立矢田教育の森保育所	大阪市東住吉区矢田5-2-12	143	
88	保育所	大阪市立加美第1保育所	大阪市平野区加美正覚寺2-12-26	127	
89	保育所	大阪市立加美第2保育所	大阪市平野区加美南1-9-45	140	
90	保育所	大阪市立長吉第1保育所	大阪市平野区長吉長原東2-4-15-101	97	
91	保育所	大阪市立長吉第2保育所	大阪市平野区長吉六反4-5-2-101	56	
92	保育所	大阪市立瓜破保育所	大阪市平野区瓜破3-3-64	112	
93	保育所	大阪市立喜連保育所	大阪市平野区喜連6-7-44	123	
94	保育所	大阪市立千本保育所	大阪市西成区千本南2-11-20	120	
95	保育所	大阪市立天下茶屋保育所	大阪市西成区天下茶屋東2-1-12	95	
96	保育所	大阪市立長橋第2保育所	大阪市西成区南開1-7-7	112	
97	保育所	大阪市立長橋第5保育所	大阪市西成区長橋1-6-28	62	
98	保育所	大阪市立北津守保育所	大阪市西成区北津守3-5-32	75	

	種別	保育園名	住所	入所 定員	人数
99	保育所	大阪市立松之宮保育所	大阪市西成区旭2-7-17	135	
100	保育所	大阪市立南津守保育所	大阪市西成区南津守2-4-7-101	65	
101	保育所	大阪市立松通保育所	大阪市西成区松3-2-32	70	

	種別	保育園名	住所	入所 定員	人数
102	保育所	吹田市立吹田保育園	吹田市昭和町24-1	120	5
103	保育所	吹田市立山田保育園	吹田市山田市場19-9	111	
104	保育所	吹田市立いずみ保育園	吹田市泉町2-11-43	120	
105	保育所	吹田市立北千里保育園	吹田市古江台3-9-2	120	
106	保育所	吹田市立南千里保育園	吹田市桃山台1-4-1	142	
107	保育所	茨木市立春日保育所	茨木市西田中町1-6	118	5
108	保育所	茨木市立中央保育所	茨木市宮元町2-34	111	
109	保育所	茨木市立沢良宜保育所	茨木市沢良宜浜3-13-27	106	
110	保育所	茨木市立総持寺保育所	茨木市総持寺2-2-15	77	
111	保育所	茨木市立郡保育所	茨木市郡5-29-4	139	
112	保育所	摂津市立べふこども園	摂津市東別府五丁目1-13	69	5
113	保育所	摂津市立正雀保育所	摂津市正雀一丁目1-2	90	
114	保育所	摂津市立鳥飼保育所	摂津市鳥飼西三丁目1-2	90	
115	保育所	摂津市立子育て総合支援センター	摂津市千里丘東一丁目16-2	130	
116	保育所	豊中市立桜井谷保育所	豊中市柴原町3-11-35	70	5
117	保育所	豊中市立豊南保育所	豊中市豊南町西4-16-1	85	
118	保育所	豊中市立庄内保育所	豊中市大黒町3-19-27	90	
119	保育所	豊中市立野田保育所	豊中市野田町1-2	90	
120	保育所	豊中市立栄町保育所	豊中市島江町1-3-9-101	100	
121	保育所	豊中市立旭丘保育所	豊中市西泉丘1-9-1	120	
122	保育所	豊中市立東豊中保育所	豊中市東豊中町5-3-1	120	
123	保育所	豊中市立服部保育所	豊中市服部本町2-5-7	70	
124	保育所	豊中市立東丘保育所	豊中市新千里東町2-6-1	140	
125	保育所	豊中市立庄内西保育所	豊中市二葉町1-17-1	90	
126	保育所	豊中市立小曾根保育所	豊中市北条町3-15-1	120	
127	保育所	豊中市立西丘保育所	豊中市新千里西町2-2-1	140	
128	保育所	豊中市立島田保育所	豊中市庄内栄町3-12-18	210	
129	保育所	豊中市立高川保育所	豊中市小曾根4-7-1	210	
130	保育所	豊中市立原田保育所	豊中市原田元町2-22-1	140	
131	保育所	豊中市立蛍池保育所	豊中市蛍池西町1-18-5	140	
132	保育所	豊中市立本町保育所	豊中市本町5-8-52	120	
133	保育所	豊中市立北緑丘保育所	豊中市北緑丘2-2-1	100	
134	保育所	豊中市立豊中人権まちづくりセンター保育所	豊中市岡町北3-13-7	90	
依頼可能合計					125

大阪市公立保育所一覧表 (H24. 4現在)

(別紙)

	区名	保育所名	郵便番号	所在地	電話	運営定員
1	北区	大淀保育所	531-0075	大淀南3-3-62	6458-6200	126名
2	都島区	御幸保育所	534-0012	御幸町2-7-13	6922-2000	97名
3	都島区	毛馬保育所	534-0001	毛馬町2-5-13	6924-1565	103名
4	福島区	野田保育所	553-0005	野田2-12-1	6462-0080	93名
5	福島区	海老江保育所	553-0001	海老江6-1-9	6451-5734	124名
6	此花区	高見町保育所	554-0001	高見3-1-4	6461-5610	110名
7	此花区	西島保育所	554-0051	西島1-18-19-101	6468-8105	89名
8	中央区	南大江保育所	540-0011	農人橋1-1-2	6942-0590	124名
9	西区	西保保育所	550-0023	千代崎2-21-18	6581-4009	111名
10	西区	梅本保育所	550-0022	本田1-4-50	6581-2009	148名
11	港区	八幡屋保育所	552-0014	八幡屋3-11-6	6571-0204	102名
12	港区	磯路保育所	552-0003	磯路2-11-8	6572-6495	104名
13	大正区	大浪保育所	551-0002	三軒家東2-5-4-101	6554-5374	103名
14	大正区	北恩加島保育所	551-0031	泉尾7-14-2-108	6553-5521	97名
15	大正区	大正保育所	551-0012	平尾2-23-5-101	6552-0300	110名
16	大正区	鶴町保育所	551-0023	鶴町3-22-1-109	6554-5372	92名
17	天王寺区	天王寺保育所	554-0033	堂ヶ芝2-16-24	6771-0260	78名
18	天王寺区	味原保育所	543-0023	味原町9-6	6762-0150	127名
19	浪速区	浪速第1保育所	556-0012	浪速東3-2-53	6568-1901	128名
20	浪速区	浪速第5保育所	556-0027	木津川2-3-46	6568-1905	125名
21	浪速区	日東南保育所	556-0001	下寺3-17-7	6641-7042	50名
22	浪速区	小田町保育所	556-0024	塩草2-1-12	6562-0008	126名
23	西淀川区	柏里保育所	555-0022	柏里3-17-1-101	6471-0440	89名
24	西淀川区	姫島保育所	555-0033	姫島4-21-7	6471-0859	114名
25	西淀川区	出来島保育所	555-0031	出来島3-2-99	6472-4397	51名
26	西淀川区	佃保育所	555-0001	佃2-2-12-101	6473-9507	97名
27	淀川区	十三三保保育所	532-0022	野中南2-2-6	6301-6479	112名
28	淀川区	十三国保育所	532-0004	西宮原2-6-57	6391-5040	143名
29	淀川区	加島第1保育所	532-0031	加島1-32-17	6309-3090	124名
30	淀川区	木川第1保育所	532-0013	木川西4-4-3-101	6303-5018	100名
31	東淀川区	西大道路保育所	533-0011	大桐2-8-2-100	6329-8810	124名
32	東淀川区	西淡路第1保育所	533-0032	淡路4-1-13	6322-0783	64名
33	東淀川区	西淡路第2保育所	533-0031	西淡路5-1-14	6323-5160	109名
34	東淀川区	豊里第1保育所	533-0013	豊里7-15-21	6328-5200	104名
35	東淀川区	あすか保育所	533-0033	東中島3-14-13	6322-1400	78名
36	東淀川区	南江口保育所	533-0004	小松5-6-9-101	6329-2869	96名
37	東淀川区	日之出口保育所	533-0033	東中島4-11-25	6323-9800	138名
38	東淀川区	南方保育所	533-0033	東中島2-20-21	6320-4574	41名
39	東成区	東小橋保育所	537-0024	東小橋3-7-4	6971-3970	90名
40	東成区	北中本保育所	537-0022	中本4-1-22	6971-3722	106名
41	生野区	南生野保育所	544-0025	生野東4-1-75	6741-0300	102名
42	生野区	鶴橋保育所	544-0034	桃谷5-4-5	6731-0371	48名
43	生野区	生野保育所	544-0022	舍利寺1-11-14	6731-3937	70名
44	生野区	中川保育所	544-0005	中川2-4-26	6751-5177	88名
45	旭区	生江保育所	535-0004	生江3-26-23	6922-7797	130名
46	旭区	森小路保育所	535-0013	森小路2-5-29	6951-6283	127名
47	旭区	大宮第1保育所	535-0003	中宮2-22-22	6951-3998	51名
48	旭区	清水保育所	535-0021	清水2-14-17	6954-6260	115名
49	旭区	両国保育所	535-0021	清水4-6-15	6951-3083	121名
50	旭区	赤川保育所	535-0005	赤川2-16-9	6922-7117	56名
51	城東区	鯉江保育所	536-0004	今福西1-13-4	6931-8080	145名
52	城東区	嶋野保育所	536-0014	嶋野西5-3-3-100	6961-3756	135名
53	城東区	東中浜保育所	536-0023	東中浜2-4-31	6967-2282	121名
54	城東区	関目保育所	536-0008	関目1-24-27	6931-7070	123名
55	鶴見区	茨田第1保育所	538-0051	諸口5-浜6-17	6912-6149	147名
56	鶴見区	茨田大宮保育所	538-0031	茨田大宮3-1-43	6911-0101	142名
57	阿倍野区	高松保育所	545-0001	天王寺町北3-2-14	6714-3012	115名
58	阿倍野区	阪南保育所	545-0021	阪南町3-26-13	6623-0277	144名
59	住之江区	北加賀屋保育所	559-0017	中加賀屋2-17-1	6681-2673	125名
60	住之江区	御崎保育所	559-0013	御崎7-2-4	6685-6693	126名

	区名	保育所名	郵便番号	所在地	電話	運営定員
61	住吉区	住吉保育所	558-0054	帝塚山東5-9-4	6678-7031	90名
62	住吉区	住吉乳児保育所	558-0054	帝塚山東5-5-16	6672-3831	63名
63	住吉区	浅香東保育所	558-0021	浅香1-1-24	6697-5987	153名
64	住吉区	苅田南保育所	558-0011	苅田9-1-12	6698-8500	116名
65	住吉区	万領保育所	558-0056	万代東4-1-29	6694-1623	92名
66	東住吉区	鷹合保育所	546-0014	鷹合1-5-16	6696-3891	119名
67	東住吉区	矢田教育の森保育所	546-0023	矢田5-2-12	6692-0053	143名
68	平野区	加美第1保育所	547-0006	加美正覚寺2-12-26	6791-4400	127名
69	平野区	加美第2保育所	547-0003	加美南1-9-45	6791-0730	140名
70	平野区	長吉第1保育所	547-0013	長吉長原東2-4-15-101	6709-1991	97名
71	平野区	長吉第2保育所	547-0012	長吉六反4-5-2-101	6708-1230	56名
72	平野区	瓜破保育所	547-0024	瓜破3-3-64	6707-0700	112名
73	平野区	喜連保育所	547-0027	喜連6-7-44	6790-2700	123名
74	西成区	千本保育所	557-0055	千本南2-11-20	6651-0073	120名
75	西成区	天下茶屋保育所	557-0011	天下茶屋東2-1-12	6653-6010	95名
76	西成区	長橋第2保育所	557-0023	南開1-7-7	6562-0016	112名
77	西成区	長橋第5保育所	557-0024	長橋1-6-28	6649-7216	62名
78	西成区	北津守保育所	557-0061	北津守3-5-32	6561-5525	75名
79	西成区	松之宮保育所	557-0032	旭2-7-17	6567-3460	135名
80	西成区	南津守保育所	557-0063	南津守2-4-7-101	6658-4818	65名
81	西成区	松通保育所	557-0034	松3-2-32	6659-2900	70名

豊中市立保育所・施設一覧表（こども未来部所管）

平成24年4月1日

	施設名	定員
1	桜井谷 保育所	70
2	豊 南 保育所	85
3	庄 内 保育所	90
4	野 田 保育所	90
5	栄 町 保育所	100
6	旭 丘 保育所	120
7	東豊中 保育所	120
8	服 部 保育所	70
9	東 丘 保育所	140
10	庄内西 保育所	90
11	小曾根 保育所	120
12	西 丘 保育所	140
13	島 田 保育所	210
14	高 川 保育所	210
15	原 田 保育所	140
16	螢 池 保育所	140
17	本 町 保育所	120
18	北緑丘 保育所	100
19	豊中人権まちづくりセンター保育所	90

④ 保育実習（実習種別・保育実習Ⅰ、施設：15園）

	種 別	実 習 施 設 名	住 所	入所 定員	人数
1	児童養護施設	社会福祉法人 東光学園	〒599-8234 堺市中区土塔町2028	154	15
2	児童養護施設	社会福祉法人 博愛社	〒532-0028 大阪市淀川区十三元今 里3-1-72	135	10
3	児童養護施設	社会福祉法人 尼崎市社会福 祉事業団 尼崎市尼崎学園	〒651-1502 神戸市北区道場町塩田 3083	60	5
4	児童養護施設	社会福祉法人 あいむ アメニティホーム 広畑学園	〒671-1102 姫路市広畑区蒲田383-3	75	10
5	児童養護施設	社会福祉法人 阪南福祉事業 会 岸和田学園	〒596-0808 岸和田市三田町911	98	10
6	自立訓練等	社会福祉法人 大阪府障害者 福祉事業団 明光ワークス	〒562-0015 箕面市稲6-15-26	120	20
7	福祉型児童発達 支援センター	社会福祉法人 水仙福祉会 淡路こども園	〒533-0031 大阪市東淀川区西淡路 5-1-12	30	5
8	生活介護	社会福祉法人 加島友愛会 アンダンテ加島	〒532-0031 大阪市淀川区加島1-36- 46	50	5
9	生活介護	社会福祉法人 加島友愛会 加島希望の家	〒532-0031 大阪市淀川区加島1-49- 21	50	5
10	生活介護	社会福祉法人加島友愛会 かしま障害者センター	〒532-0031 大阪市淀川区加島1-60- 36	23	5
11	福祉型児童発達 支援センター	寝屋川市立あかつき園・ひばり 園	〒572-0853 寝屋川市大谷町6-1	各40	10
12	福祉型児童発達 支援センター	吹田市立こども発達支援セン ター	〒564-0082 吹田市片山町2-11-40	60	5
13	生活介護	社会福祉法人 イエス団 愛隣デイサービスセンター	〒612-8141 京都市伏見区向島二ノ丸 町151-34	20	5
14	就労継続支援(B 型)	特定非営利法人 エクスクラメーションファクトリー	〒614-8182 京都府八幡市上津屋南 村7	10	5
15	福祉型児童発達 支援センター	社会福祉法人 京都基督教福 祉会 洛西愛育園	〒615-8156 京都市西京区榎原百々ヶ 池23	42	5
依頼可能合計人数					120

④ 保育実習（実習種別・保育実習Ⅱ、保育所：134園）

	種別	保育園名	住所	入所定員	人数
1	保育所	社会福祉法人 鶴野会 つるのひまわり保育園	摂津市鶴野2丁目7-16	90	5
2	保育所	社会福祉法人 桃林会 とりかいひがし保育園	摂津市島飼上3丁目2-25	100	5
3	保育所	社会福祉法人 桃林会 せつつ保育園	摂津市三島3丁目13-1	130	5
4	保育所	社会福祉法人 みおつくし福祉会 相川保育園	大阪市東淀川区相川3-11-24	120	5
5	保育所	社会福祉法人 照治福祉会 浦堂保育園	高槻市宮之川原4丁目3-1	150	5
6	保育所	社会福祉法人 裕榮福祉会 たちばな保育園	茨木市片桐町14-26	180	5
7	保育所	社会福祉法人 つつみ会 たんぼぼ保育園	茨木市玉櫛1丁目3-1	90	5
8	保育所	社会福祉法人 つつみ会 たんぼぼ中条保育園	茨木市東中条町8-6	150	5
9	保育所	宗教法人 法泉寺 法泉寺保育園	箕面市粟生間谷東5丁目21-14	80	5
10	保育所	社会福祉法人 さつき保育園	池田市城南2丁目4-20	120	5
11	保育所	社会福祉法人 神童福祉会 アトリオとねやま保育園	豊中市刀根山4丁目1-1	110	5
12	保育所	社会福祉法人 青空福祉会 青空保育園	大阪市西淀川区中島1丁目14-5	110	5
13	保育所	社会福祉法人 都島友の会 都島乳児保育センター	大阪市都島区都島本通3丁目16-8	60	5
14	保育所	社会福祉法人 都島友の会 都島保育所	大阪市都島区都島本通3-4-3	221	5
15	保育所	社会福祉法人 旭ヶ丘学園 きたの旭ヶ丘学園	大阪市北区兎我野町3-10	180	5
16	保育所	社会福祉法人 旭ヶ丘学園	吹田市朝日が丘町1-5	300	5
17	保育所	社会福祉法人 奥真会 石切山手保育園	東大阪市東石切町4丁目15-54	90	5
18	保育所	宗教法人 竹林寺 月かげ保育園	京都市中京区西ノ京南両町22	180	5
19	保育所	社会福祉法人 柳辻保育園	京都市山科区柳辻池尻町44-1	220	5
20	保育所	社会福祉法人 千里山山手学園 千里山やまて学園	吹田市山手町2丁目17-22	120	5
21	保育所	大阪市立大淀保育所	大阪市北区大淀南3-3-62	126	
22	保育所	大阪市立御幸保育所	大阪市都島区御幸町2-7-13	97	
23	保育所	大阪市立毛馬保育所	大阪市都島区毛馬町2-5-13	103	
24	保育所	大阪市立野田保育所	大阪市福島区野田2-12-1	93	
25	保育所	大阪市立海老江保育所	大阪市福島区海老江6-1-9	124	
26	保育所	大阪市立高見町保育所	大阪市此花区高見3-1-4	110	
27	保育所	大阪市立西島保育所	大阪市此花区西島1-18-19-101	89	
28	保育所	大阪市立南大江保育所	大阪市中央区農人橋1-1-2	124	
29	保育所	大阪市立西保育所	大阪市西区千代崎2-21-18	111	
30	保育所	大阪市立梅本保育所	大阪市西区本田1-4-50	148	
31	保育所	大阪市立八幡屋保育所	大阪市港区八幡屋3-11-6	102	
32	保育所	大阪市立磯路保育所	大阪市港区磯路2-11-8	104	

	種別	保育園名	住所	入所定員	人数
33	保育所	大阪市立大浪保育所	大阪市大正区三軒家東2-5-4-101	103	5
34	保育所	大阪市立北恩加島保育所	大阪市大正区泉尾7-14-2-108	97	
35	保育所	大阪市立大正保育所	大阪市大正区平尾2-23-5-101	110	
36	保育所	大阪市立鶴町保育所	大阪市大正区鶴町3-22-1-109	92	
37	保育所	大阪市立天王寺保育所	大阪市天王寺区堂ヶ芝2-16-24	78	
38	保育所	大阪市立味原保育所	大阪市天王寺区味原町9-6	127	
39	保育所	大阪市立浪速第1保育所	大阪市浪速区浪速東3-2-53	128	
40	保育所	大阪市立浪速第5保育所	大阪市浪速区木津川2-3-46	125	
41	保育所	大阪市立日東南保育所	大阪市浪速区下寺3-17-7	50	
42	保育所	大阪市立小田町保育所	大阪市浪速区塩草2-1-12	126	
43	保育所	大阪市立柏里保育所	大阪市西淀川区柏里3-17-1-101	89	
44	保育所	大阪市立姫島保育所	大阪市西淀川区姫島4-21-7	114	
45	保育所	大阪市立出来島保育所	大阪市西淀川区出来島3-2-99	51	
46	保育所	大阪市立佃保育所	大阪市西淀川区佃2-2-12-101	97	
47	保育所	大阪市立十三保育所	大阪市淀川区野中南2-2-6	112	
48	保育所	大阪市立三国保育所	大阪市淀川区西宮原2-6-57	143	
49	保育所	大阪市立加島第1保育所	大阪市淀川区加島1-32-17	124	
50	保育所	大阪市立木川第1保育所	大阪市淀川区木川西4-4-3-101	100	
51	保育所	大阪市立西大道保育所	大阪市東淀川区大桐2-8-2-100	124	
52	保育所	大阪市立西淡路第1保育所	大阪市東淀川区淡路4-1-13	64	
53	保育所	大阪市立西淡路第2保育所	大阪市東淀川区西淡路5-1-14	109	
54	保育所	大阪市立豊里第1保育所	大阪市東淀川区豊里7-15-21	104	
55	保育所	大阪市立あすか保育所	大阪市東淀川区東中島3-14-13	78	
56	保育所	大阪市立南江口保育所	大阪市東淀川区小松5-6-9-101	96	
57	保育所	大阪市立日之出保育所	大阪市東淀川区東中島4-11-25	138	
58	保育所	大阪市立南方保育所	大阪市東淀川区東中島2-20-21	41	
59	保育所	大阪市立東小橋保育所	大阪市東成区東小橋3-7-4	90	
60	保育所	大阪市立北中本保育所	大阪市東成区中本4-1-22	106	
61	保育所	大阪市立南生野保育所	大阪市生野区生野東4-1-75	102	
62	保育所	大阪市立鶴橋保育所	大阪市生野区桃谷5-4-5	48	
63	保育所	大阪市立生野保育所	大阪市生野区舍利寺1-11-14	70	
64	保育所	大阪市立中川保育所	大阪市生野区中川2-4-26	88	
65	保育所	大阪市立生江保育所	大阪市旭区生江3-26-23	130	

	種別	保育園名	住所	入所定員	人数
66	保育所	大阪市立森小路保育所	大阪市旭区森小路2-5-29	127	
67	保育所	大阪市立大宮第1保育所	大阪市旭区中宮2-22-22	51	
68	保育所	大阪市立清水保育所	大阪市旭区清水2-14-17	115	
69	保育所	大阪市立両国保育所	大阪市旭区清水4-6-15	121	
70	保育所	大阪市立赤川保育所	大阪市旭区赤川2-16-9	56	
71	保育所	大阪市立鯉江保育所	大阪市城東区今福西1-13-4	145	
72	保育所	大阪市立嶋野保育所	大阪市城東区嶋野西5-3-3-100	135	
73	保育所	大阪市立東中浜保育所	大阪市城東区東中浜2-4-31	121	
74	保育所	大阪市立関目保育所	大阪市城東区関目1-24-27	123	
75	保育所	大阪市立茨田第1保育所	大阪市鶴見区諸口5-浜6-17	147	
76	保育所	大阪市立茨田大宮保育所	大阪市鶴見区茨田大宮3-1-43	142	
77	保育所	大阪市立高松保育所	大阪市阿倍野区天王寺町北3-2-14	115	
78	保育所	大阪市立阪南保育所	大阪市阿倍野区阪南町3-26-13	144	
79	保育所	大阪市立北加賀屋保育所	大阪市住之江区中加賀屋2-17-1	125	
80	保育所	大阪市立御崎保育所	大阪市住之江区御崎7-2-4	126	
81	保育所	大阪市立住吉保育所	大阪市住吉区帝塚山東5-9-4	90	
82	保育所	大阪市立住吉乳児保育所	大阪市住吉区帝塚山東5-5-16	63	
83	保育所	大阪市立浅香東保育所	大阪市住吉区浅香1-1-24	153	
84	保育所	大阪市立苅田南保育所	大阪市住吉区苅田9-1-12	116	
85	保育所	大阪市立万領保育所	大阪市住吉区万代東4-1-29	92	
86	保育所	大阪市立鷹合保育所	大阪市東住吉区鷹合1-5-16	119	
87	保育所	大阪市立矢田教育の森保育所	大阪市東住吉区矢田5-2-12	143	
88	保育所	大阪市立加美第1保育所	大阪市平野区加美正覚寺2-12-26	127	
89	保育所	大阪市立加美第2保育所	大阪市平野区加美南1-9-45	140	
90	保育所	大阪市立長吉第1保育所	大阪市平野区長吉長原東2-4-15-101	97	
91	保育所	大阪市立長吉第2保育所	大阪市平野区長吉六反4-5-2-101	56	
92	保育所	大阪市立瓜破保育所	大阪市平野区瓜破3-3-64	112	
93	保育所	大阪市立喜連保育所	大阪市平野区喜連6-7-44	123	
94	保育所	大阪市立千本保育所	大阪市西成区千本南2-11-20	120	
95	保育所	大阪市立天下茶屋保育所	大阪市西成区天下茶屋東2-1-12	95	
96	保育所	大阪市立長橋第2保育所	大阪市西成区南開1-7-7	112	
97	保育所	大阪市立長橋第5保育所	大阪市西成区長橋1-6-28	62	
98	保育所	大阪市立北津守保育所	大阪市西成区北津守3-5-32	75	

	種別	保育園名	住所	入所定員	人数
99	保育所	大阪市立松之宮保育所	大阪市西成区旭2-7-17	135	5
100	保育所	大阪市立南津守保育所	大阪市西成区南津守2-4-7-101	65	
101	保育所	大阪市立松通保育所	大阪市西成区松3-2-32	70	
102	保育所	吹田市立吹田保育園	吹田市昭和町24-1	120	5
103	保育所	吹田市立山田保育園	吹田市山田市場19-9	111	
104	保育所	吹田市立いずみ保育園	吹田市泉町2-11-43	120	
105	保育所	吹田市立北千里保育園	吹田市古江台3-9-2	120	
106	保育所	吹田市立南千里保育園	吹田市桃山台1-4-1	142	
107	保育所	茨木市立春日保育所	茨木市西田中町1-6	118	5
108	保育所	茨木市立中央保育所	茨木市宮元町2-34	111	
109	保育所	茨木市立沢良宜保育所	茨木市沢良宜浜3-13-27	106	
110	保育所	茨木市立総持寺保育所	茨木市総持寺2-2-15	77	
111	保育所	茨木市立郡保育所	茨木市郡5-29-4	139	
112	保育所	摂津市立べふこども園	摂津市東別府五丁目1-13	69	5
113	保育所	摂津市立正雀保育所	摂津市正雀一丁目1-2	90	
114	保育所	摂津市立烏飼保育所	摂津市烏飼西三丁目1-2	90	
115	保育所	摂津市立子育て総合支援センター	摂津市千里丘東一丁目16-2	130	
116	保育所	豊中市立桜井谷保育所	豊中市柴原町3-11-35	70	5
117	保育所	豊中市立豊南保育所	豊中市豊南町西4-16-1	85	
118	保育所	豊中市立庄内保育所	豊中市大黒町3-19-27	90	
119	保育所	豊中市立野田保育所	豊中市野田町1-2	90	
120	保育所	豊中市立栄町保育所	豊中市島江町1-3-9-101	100	
121	保育所	豊中市立旭丘保育所	豊中市西泉丘1-9-1	120	
122	保育所	豊中市立東豊中保育所	豊中市東豊中町5-3-1	120	
123	保育所	豊中市立服部保育所	豊中市服部本町2-5-7	70	
124	保育所	豊中市立東丘保育所	豊中市新千里東町2-6-1	140	
125	保育所	豊中市立庄内西保育所	豊中市二葉町1-17-1	90	
126	保育所	豊中市立小曾根保育所	豊中市北条町3-15-1	120	
127	保育所	豊中市立西丘保育所	豊中市新千里西町2-2-1	140	
128	保育所	豊中市立島田保育所	豊中市庄内栄町3-12-18	210	
129	保育所	豊中市立高川保育所	豊中市小曾根4-7-1	210	
130	保育所	豊中市立原田保育所	豊中市原田元町2-22-1	140	
131	保育所	豊中市立蛍池保育所	豊中市蛍池西町1-18-5	140	

	種別	保育園名	住所	入所定員	人数
132	保育所	豊中市立本町保育所	豊中市本町5-8-52	120	
133	保育所	豊中市立北緑丘保育所	豊中市北緑丘2-2-1	100	
134	保育所	豊中市立豊中人権まちづくりセンター保育所	豊中市岡町北3-13-7	90	
依頼可能合計					125

大阪市公立保育所一覧表 (H24.4現在)

(別紙)

	区名	保育所名	郵便番号	所在地	電話	運営定員
1	北区	大淀保育所	531-0075	大淀南3-3-62	6458-6200	126名
2	都島区	御幸保育所	534-0012	御幸町2-7-13	6922-2000	97名
3	都島区	毛馬保育所	534-0001	毛馬町2-5-13	6924-1565	103名
4	福島区	野田保育所	553-0005	野田2-12-1	6462-0080	93名
5	福島区	海老江保育所	553-0001	海老江6-1-9	6451-5734	124名
6	此花区	高見町保育所	554-0001	高見3-1-4	6461-5610	110名
7	此花区	西島保育所	554-0051	西島1-18-19-101	6468-8105	89名
8	中央区	南大江保育所	540-0011	農人橋1-1-2	6942-0590	124名
9	西区	西保保育所	550-0023	千代崎2-21-18	6581-4009	111名
10	西区	梅本保育所	550-0022	本田1-4-50	6581-2009	148名
11	港区	八幡屋保育所	552-0014	八幡屋3-11-6	6571-0204	102名
12	港区	磯路保育所	552-0003	磯路2-11-8	6572-6495	104名
13	大正区	大浪保育所	551-0002	三軒家東2-5-4-101	6554-5374	103名
14	大正区	北恩加島保育所	551-0031	泉尾7-14-2-108	6553-5521	97名
15	大正区	大正保育所	551-0012	平尾2-23-5-101	6552-0300	110名
16	大正区	鶴町保育所	551-0023	鶴町3-22-1-109	6554-5372	92名
17	天王寺区	天王寺保育所	554-0033	堂ヶ芝2-16-24	6771-0260	78名
18	天王寺区	味原保育所	543-0023	味原町9-6	6762-0150	127名
19	浪速区	浪速第1保育所	556-0012	浪速東3-2-53	6568-1901	128名
20	浪速区	浪速第5保育所	556-0027	木津川2-3-46	6568-1905	125名
21	浪速区	日東南保育所	556-0001	下寺3-17-7	6641-7042	50名
22	浪速区	小田町保育所	556-0024	塩草2-1-12	6562-0008	126名
23	西淀川区	柏里保育所	555-0022	柏里3-17-1-101	6471-0440	89名
24	西淀川区	姫島保育所	555-0033	姫島4-21-7	6471-0859	114名
25	西淀川区	出来島保育所	555-0031	出来島3-2-99	6472-4397	51名
26	西淀川区	佃保育所	555-0001	佃2-2-12-101	6473-9507	97名
27	淀川区	十三三保保育所	532-0022	野中南2-2-6	6301-6479	112名
28	淀川区	十三国保育所	532-0004	西宮原2-6-57	6391-5040	143名
29	淀川区	加島第1保育所	532-0031	加島1-32-17	6309-3090	124名
30	淀川区	木川第1保育所	532-0013	木川西4-4-3-101	6303-5018	100名
31	東淀川区	西大道路保育所	533-0011	大桐2-8-2-100	6329-8810	124名
32	東淀川区	西淡路第1保育所	533-0032	淡路4-1-13	6322-0783	64名
33	東淀川区	西淡路第2保育所	533-0031	西淡路5-1-14	6323-5160	109名
34	東淀川区	豊里第1保育所	533-0013	豊里7-15-21	6328-5200	104名
35	東淀川区	あすか保育所	533-0033	東中島3-14-13	6322-1400	78名
36	東淀川区	南江口保育所	533-0004	小松5-6-9-101	6329-2869	96名
37	東淀川区	日之出保育所	533-0033	東中島4-11-25	6323-9800	138名
38	東淀川区	南方保育所	533-0033	東中島2-20-21	6320-4574	41名
39	東成区	東小橋保育所	537-0024	東小橋3-7-4	6971-3970	90名
40	東成区	北中本保育所	537-0022	中本4-1-22	6971-3722	106名
41	生野区	南生野保育所	544-0025	生野東4-1-75	6741-0300	102名
42	生野区	鶴橋保育所	544-0034	桃谷5-4-5	6731-0371	48名
43	生野区	生野保育所	544-0022	舍利寺1-11-14	6731-3937	70名
44	生野区	中川保育所	544-0005	中川2-4-26	6751-5177	88名
45	旭区	生江保育所	535-0004	生江3-26-23	6922-7797	130名
46	旭区	森小路保育所	535-0013	森小路2-5-29	6951-6283	127名
47	旭区	大宮第1保育所	535-0003	中宮2-22-22	6951-3998	51名
48	旭区	清水保育所	535-0021	清水2-14-17	6954-6260	115名
49	旭区	両国保育所	535-0021	清水4-6-15	6951-3083	121名
50	旭区	赤川保育所	535-0005	赤川2-16-9	6922-7117	56名
51	城東区	鯉江保育所	536-0004	今福西1-13-4	6931-8080	145名
52	城東区	鳴野保育所	536-0014	鳴野西5-3-3-100	6961-3756	135名
53	城東区	東中浜保育所	536-0023	東中浜2-4-31	6967-2282	121名
54	城東区	関目保育所	536-0008	関目1-24-27	6931-7070	123名
55	鶴見区	茨田第1保育所	538-0051	諸口5-浜6-17	6912-6149	147名
56	鶴見区	茨田大宮保育所	538-0031	茨田大宮3-1-43	6911-0101	142名
57	阿倍野区	高松保育所	545-0001	天王寺町北3-2-14	6714-3012	115名
58	阿倍野区	阪南保育所	545-0021	阪南町3-26-13	6623-0277	144名
59	住之江区	北加賀屋保育所	559-0017	中加賀屋2-17-1	6681-2673	125名
60	住之江区	御崎保育所	559-0013	御崎7-2-4	6685-6693	126名

	区名	保育所名	郵便番号	所在地	電話	運営定員
61	住吉区	住吉保育所	558-0054	帝塚山東5-9-4	6678-7031	90名
62	住吉区	住吉乳児保育所	558-0054	帝塚山東5-5-16	6672-3831	63名
63	住吉区	浅香東保育所	558-0021	浅香1-1-24	6697-5987	153名
64	住吉区	苅田南保育所	558-0011	苅田9-1-12	6698-8500	116名
65	住吉区	万領保育所	558-0056	万代東4-1-29	6694-1623	92名
66	東住吉区	鷹合保育所	546-0014	鷹合1-5-16	6696-3891	119名
67	東住吉区	矢田教育の森保育所	546-0023	矢田5-2-12	6692-0053	143名
68	平野区	加美第1保育所	547-0006	加美正覚寺2-12-26	6791-4400	127名
69	平野区	加美第2保育所	547-0003	加美南1-9-45	6791-0730	140名
70	平野区	長吉第1保育所	547-0013	長吉長原東2-4-15-101	6709-1991	97名
71	平野区	長吉第2保育所	547-0012	長吉六反4-5-2-101	6708-1230	56名
72	平野区	瓜破保育所	547-0024	瓜破3-3-64	6707-0700	112名
73	平野区	喜連保育所	547-0027	喜連6-7-44	6790-2700	123名
74	西成区	千本保育所	557-0055	千本南2-11-20	6651-0073	120名
75	西成区	天下茶屋保育所	557-0011	天下茶屋東2-1-12	6653-6010	95名
76	西成区	長橋第2保育所	557-0023	南開1-7-7	6662-0016	112名
77	西成区	長橋第5保育所	557-0024	長橋1-6-28	6649-7216	62名
78	西成区	北津守保育所	557-0061	北津守3-5-32	6661-5525	75名
79	西成区	松之宮保育所	557-0032	旭2-7-17	6667-3460	135名
80	西成区	南津守保育所	557-0063	南津守2-4-7-101	6658-4818	65名
81	西成区	松通保育所	557-0034	松3-2-32	6659-2900	70名

豊中市立保育所・施設一覧表（こども未来部所管）

平成24年4月1日

	施設名	定員
1	桜井谷 保育所	70
2	豊 南 保育所	85
3	庄 内 保育所	90
4	野 田 保育所	90
5	栄 町 保育所	100
6	旭 丘 保育所	120
7	東豊中 保育所	120
8	服 部 保育所	70
9	東 丘 保育所	140
10	庄内西 保育所	90
11	小曽根 保育所	120
12	西 丘 保育所	140
13	島 田 保育所	210
14	高 川 保育所	210
15	原 田 保育所	140
16	蛍 池 保育所	140
17	本 町 保育所	120
18	北緑丘 保育所	100
19	豊中人権まちづくりセンター保育所	90

④ 保育実習（実習種別・保育実習Ⅲ、施設：5園）

	種 別	施設名	所在地	入所定員	人数
1	児童養護施設	社会福祉法人 泉心学園	〒678-1203 赤穂郡上郡町尾長谷 536	90	10
2	児童養護施設	社会福祉法人 善照学園	〒651-1423 西宮市山口町船坂 2128-1	90	5
3	福祉型児童発達支援センター	社会福祉法人 水仙福祉会 姫島こども園	〒555-0033 大阪市西淀川区姫島 6-3-33	40	5
4	生活介護	社会福祉法人 島本福祉会 作業所 わくわく	〒618-0024 大阪府三島郡島本町 若山台1丁目793-4	20	5
5	生活介護	社会福祉法人 世光福祉会 ベテスダの家	〒612-8154 京都市伏見区向島津 田町182-1	20	5
依頼可能合計人数					30

教育・保育実習センター構想の概要

教育・保育実習センター構想の概要

①大学内の各学部・学科等との連絡調整を行う委員会等

・委員会等の名称

教育・保育実習センター

・委員会等の構成員(役職・人数など)

大阪成蹊大学教育学部学科長、実習担当教員2名、大阪成蹊短期大学幼児教育学科(名称変更予定)学科長、実習担当教員2名、教育・保育実習センターの教職員4名の合計10名で構成する。

・委員会等の運営方法

小学校教育実習・幼稚園教育実習にかかわる学生指導、教育支援、情報交換、緊急対応等及びこれらにかかわる諸事項について、中核的な役割を担っていく。

・委員会の活動内容

小学校教育実習・幼稚園教育実習・保育実習にかかわる学生指導、教育支援、情報管理、緊急対応など及びこれらにかかわる諸事項を管理、運営する。具体的には、教育実習全般の情報を本センターに一元化させ、実習先との事前の連絡調整及び取りまとめを遺漏なく行うとともに、実習時の巡回指導についての組織的な運営の中心として機能させていく。

下記の組織図に示すように、質の高い教員及び保育士の育成を目指しその実現を図るために、学科の担う実習の事前事後指導、教育・保育実習の可否判定及び評価の原案作成、実習課題の検証と解決策の提案、その他実習にかかわる必要な情報の発信と管理等の諸事項について、教育・保育実習センターをその実務面でのサポート・センターとして機能させていく。具体的には、教育・保育施設との緊密な連携協力の下、学生一人ひとりがより充実した教育実習ができるよう、実習に臨む前段階における教育インターンシップや学校・施設ボランティアの支援等の組織的な取り組みを進めていく。

また、教育・保育実習の可否判定及び単位認定は教務委員会で行い、実習課題の抽出と課題解決は教員養成カリキュラム委員会で協議し、学部のカリキュラムに反映する。

さらに、近隣社会への地域貢献面については子ども教育研究センターが中心となり、地域社会や各教育委員会そして教育・保育現場との連携協力の下、学校・地域の教育課題の解決、調査研究活動、研修等の貢献活動を展開していく。

以上のように、教員養成カリキュラム委員会、教育・保育実習センター、子ども教育研究センターといった学内組織が堅固な協力体制を敷き、その基盤の上に、学外の教育委員会、教育・保育施設、近隣地域に対し積極的な働き掛けを行う。これ等の取り組みにより、実際の教育実習を円滑に実施し、教職課程の最終段階である教職実践演習において、教員として最小限必要な資質能力を確実に身に付けさせる計画である。

The diagram illustrates the organizational structure and relationships of the University of Tsukuba's Education and Child Development Center. It is organized into several interconnected components:

- Left Side (Vertical Bar):** A vertical bar on the far left contains the text "※教育・保育実習課題抽出とカリキュラムへの反映" (Reflection on curriculum and selection of education/childcare practice topics).
- Top Left Box (学部 - Faculty):** A box titled "学部" (Faculty) lists four bullet points:
 - ※実習の事前事後指導 (Pre and post-practice guidance)
 - ※教育・保育実習可否判定原案 (Original plan for determining the feasibility of education/childcare practice)
 - ※教育・保育実習評価原案 (Original plan for evaluating education/childcare practice)
 - ※実習課題検証と解決策提案 (Verification of practice topics and proposal of solutions)
 - ※必要な情報の発信と管理 (Dissemination and management of necessary information)
- Top Right Box (教務委員会 - Academic Affairs Committee):** A box titled "教務委員会" (Academic Affairs Committee) with the text "教育・保育実習実施可否判定" (Determination of whether education/childcare practice can be implemented).
- Middle Right Box (教育・保育実習センター - Education/Childcare Practice Center):** A large box titled "教育・保育実習センター" (Education/Childcare Practice Center) lists six bullet points:
 - ※教育実習・保育実習 (Education/Childcare Practice)
 - 介護等体験・教育インターンシップの実習先の調整と情報の一元化 (Adjustment of practice sites for nursing etc. experience/education internship and centralization of information)
 - ※実習に関する巡回調整と情報の一元化 (Itinerant adjustment and centralization of information related to practice)
 - ※実習に関する依頼書及び公文書作成 (Creation of request letters and official documents related to practice)
 - ※教員採用試験大学推薦情報管理と学科への発信 (Management of university recommendation information for teacher recruitment exams and dissemination to departments)
 - ※教育・保育現場におけるボランティア情報管理と学科への発信 (Management of volunteer information in education/childcare fields and dissemination to departments)
- Bottom Left Box (子ども教育研究センター - Center for Research in Children's Education):** A box titled "子ども教育研究センター" (Center for Research in Children's Education) lists four bullet points:
 - ※学校・地域の教育課題の解決 (Solution of education/childcare issues in schools/communities)
 - ※調査研究活動 (Survey and research activities)
 - ※研修 (Training)
 - ※地域貢献活動 (Community contribution activities)
- Bottom Middle Box (小学校幼稚園保育所 - Elementary School, Kindergarten, Nursery):** A box containing the text "小学校 幼稚園 保育所" (Elementary School, Kindergarten, Nursery).
- Bottom Right Box (近隣地域 - Surrounding Area):** An oval shape containing the text "近隣地域" (Surrounding Area).
- Connections:**
 - Horizontal double-headed arrows connect the Faculty box to the Academic Affairs Committee box, and the Academic Affairs Committee box to the Education/Childcare Practice Center box.
 - A vertical double-headed arrow connects the Faculty box to the Center for Research in Children's Education box.
 - A vertical double-headed arrow connects the Education/Childcare Practice Center box to the Elementary School/Kindergarten/Nursery box.
 - A horizontal double-headed arrow connects the Center for Research in Children's Education box to the Elementary School/Kindergarten/Nursery box.
 - A horizontal double-headed arrow connects the Elementary School/Kindergarten/Nursery box to the Surrounding Area oval.
 - A vertical double-headed arrow connects the Surrounding Area oval to the Elementary School/Kindergarten/Nursery box.
 - A vertical double-headed arrow connects the Surrounding Area oval to the Center for Research in Children's Education box.

② 大学外の関係機関(例:都道府県及び市区町村教育委員会など)との連絡調整等を行う委員会等

・委員会等の名称

教育・保育実習センター連絡会議

・委員会等の構成員(役職・人数など)

大学関係教員・・・教育・保育実習センターの教職員4名、教育学部・短期大学の各学科長の合計6名

学外関係者・・・教育委員会代表、実習先小学校校長代表、実習先幼稚園園長代表、実習先社会福祉施設代表の合計4名

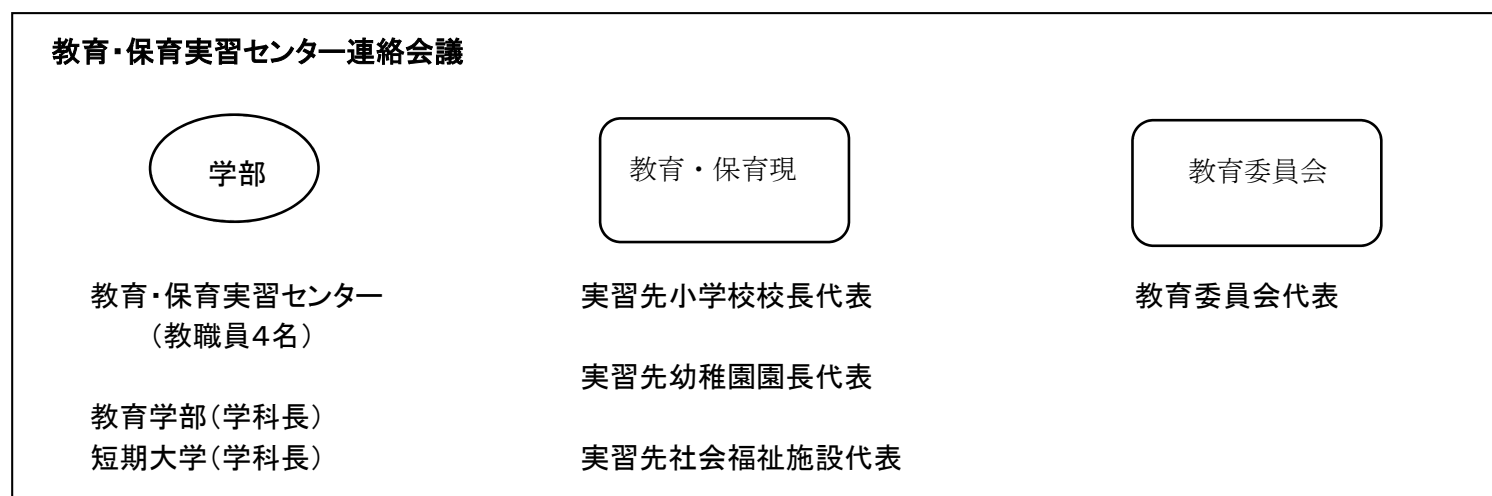
・委員会等の運営方法

教育・保育実習センターの教職員が中心となり運営を行い、小学校教育実習・幼稚園教育実習・保育実習にかかわる学生指導、教育支援、情報交換、緊急対応など及びこれらにかかわる諸事項を検討、協議し、学外代表者とも意見交流する。

・委員会の活動内容

必要に応じて会議を開催し、教育・保育実習に関する現状把握と課題解決および情報の共有を図る。

【委員会の組織図】



以上の構成員において、小学校教育実習・幼稚園教育実習・保育実習・介護等体験の実施全般にわたる諸事項について検討及び協議を行い、実習全体の改善を図る。

企業実習及び海外語学研修先の一覧

① 企業インターンシップ実習生受け入れ先企業の一覧

② 海外語学研修先の一覧

① 企業インターンシップ実習生受け入れ先企業の一覧

[illegible]

② 海外語学研修先の一覧

■オーストラリア クイーンズランド州ケアンズ市（10名）

小学校名: Trinity Anglican school, Freshwater Christian College

住 所: 369-401 Brinsmead Rd, Brinsmead QLD 4870

Postal Address: PO Box 89, Freshwater QLD 4870

Phone: (07) 4055 1311 Fax: (07) 4055 1464

幼稚園名: SUNSHINE DAY CARE CENTRE

住 所: 41-45 Aeroglen Drive Aeroglen QLD 4870

Phone: (07) 4032 2155

■中国 上海市（10名）

小学校名: 同済小学校

住 所: 上海市浦区四平路彰武路同済新村758号

幼稚園名: 同済幼稚園

住 所: 上海市浦区四平路彰武路同済新村580号

編入学の履修モデル

- ① 卒業要件のモデル
- ② 幼稚園教諭一種免許状の取得を目指すモデル
- ③ 小学校教諭、幼稚園教諭一種免許状の取得を目指すモデル

① 卒業要件のモデル

科目区分		認定 単位数	認定科目名・単位数				3年次				4年次				取得計 履修のみ	取得計 認定含む	卒業 要件
			科目名	単位	科目名	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位			
大学 共通科目	大学入門基礎講座						大学での学びとキャリアを考える	2							2	2	2
	情報処理	2	情報リテラシーⅠ	2											0	2	2
	外国語	2	英語基礎Ⅰ	1	英語基礎Ⅱ	1					英語演習Ⅰ	1	英語演習Ⅱ	1	4	6	6
	人間の理解	4													0	12	10
	現代社会と国際理解		日本国憲法	2	人権と社会	2		多文化共生社会	2					2			
	科学技術と環境の理解										暮らしの科学	2			2		
	地域文化の理解													0			
	子どもと社会											子どもの成長とコミュニティ	2	2	2		
	健康とスポーツ	2	スポーツ演習Ⅱ	1	スポーツ演習Ⅰ	1							子どもと文化	2	2	2	
	キャリア支援科目														0	2	2
専門 基礎科目	基礎第二欄	2	教職論	2											0	8	8
	基礎第三欄	4	教育学	2	教育心理学	2						教育行政学	2	2			
	初等教育 第四欄	8													0		
	学校教育相談	2												0	2		
	幼児教育		保育内容総論	2	保育教育課程論(幼)	2	保育内容(環境)	2	保育内容(人間関係)	2	幼児理解	1					
保育方法論			2			保育内容(言葉)	2	保育内容(表現1)	2	保育内容(表現2)	2						
						保育内容(健康)	2										
保育	15	乳児保育	2												0	15	
		保育原理	2	障害児保育	2												
		児童家庭福祉	2	社会福祉	2												
		子どもの保健Ⅰ-1	2	子どもの保健Ⅰ-2	2												
子どもの保健Ⅱ	1																
教科	4	理科内容論	2			国語科内容論	2	音楽科内容論	2			図画工作科内容論	2	8	12		
		算数科内容論	2			体育科内容論	2										
専門 選択科目	教科選択	2	ピアノ実技Ⅰ	1	ピアノ実技Ⅱ	1	幼児体育指導論	2	芸術療法論	2	体育実技Ⅰ	1	体育実技Ⅱ	1	11	17	10
							ピアノ実技Ⅲ	1			スポーツ基礎科学	2	造形遊び	2			
教育課題																	
架橋的科目																	
体験・実習 第五欄	7	教育実習事前事後指導(幼)	1												0	9	8
		教育実習Ⅰ(幼稚園)	2														
		教育実習Ⅱ(幼稚園)	2														
		教職実践演習(幼、小)	2														
研究科目	6	基礎ゼミⅠ	2	基礎ゼミⅡ	2	専門基礎演習Ⅰ	2	専門基礎演習Ⅱ	2					4	10	10	
		基礎ゼミⅢ	2														
卒業研究																	
教職キャリア							キャリア演習Ⅰ	2	キャリア演習Ⅱ	2				4	4	4	
														4	4	4	
自由枠														0	0	18	
															0	0	18
合計		58					19		16		12		19	66	124	124	

② 幼稚園教諭一種免許状の取得を目指すモデル

科目区分		認定 単位 数	認定科目名・単位数				3年次				4年次				取得計 履修のみ	取得計 認定含む	卒業 要件	
			科目名	単位	科目名	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位				
大学 共通 科目	大学入門基礎講座						大学での学びとキャリアを考える	2							2	2	2	
	情報処理	2	情報リテラシーⅠ	2											0	2	2	
	外国語	2	英語基礎Ⅰ	1	英語基礎Ⅱ	1					英語演習Ⅰ	1	英語演習Ⅱ	1	4	6	6	
	人間の理解	4													0	12	10	
	現代社会と国際理解		日本国憲法	2	人権と社会	2			多文化共生社会	2				2				
	科学技術と環境の理解									暮らしの科学	2			2				
	地域文化の理解											0						
	子どもと社会											子どもの成長とコミュニティ	2	2	2			
	健康とスポーツ	2											子どもと文化	2	2	2		
	キャリア支援科目		スポーツ演習Ⅱ	1	スポーツ演習Ⅰ	1									0	2	2	
専門 基礎 科目	基礎第二欄	2	教職論	2											0	8	8	
	基礎第三欄	4	教育学	2	教育心理学	2						教育行政学	2	2				
	初等教育	第四欄	8													0	0	
	幼児教育		学校教育相談	2												0	2	
			保育内容総論	2	保育教育課程論(幼)	2	保育内容(環境)	2	保育内容(人間関係)	2	幼児理解	1			13	19	40	
			保育方法論	2			保育内容(言葉)	2			保育内容(表現1)	2	保育内容(表現2)	2				
	保育	15					保育内容(健康)	2										
乳児保育			2													0	15	
保育原理			2	障害児保育	2													
児童家庭福祉	2	社会福祉	2															
教科	4	子どもの保健Ⅰ-1	2	子どもの保健Ⅰ-2	2													
		子どもの保健Ⅱ	1															
		理科内容論	2			国語科内容論	2	音楽科内容論	2			図画工作科内容論	2	8	12			
専門 選択 科目	教科選択	2	ピアノ実技Ⅰ	1	ピアノ実技Ⅱ	1	幼児体育指導論	2	芸術療法論	2	体育実技Ⅰ	1	体育実技Ⅱ	1	11	17	10	
							ピアノ実技Ⅲ	1			スポーツ基礎科学	2	造形遊び	2				
	教育課題							特別支援教育	2			子どもの安全と学校	2	4				
	架橋的科目	7							学校教育論	2					2	0	9	8
			教育実習事前事後指導(幼)	1														
			教育実習Ⅰ(幼稚園)	2														
	実験・実習	第六欄	教育実習Ⅱ(幼稚園)	2														
			教職実践演習(幼、小)	2														
研究科目	6	基礎ゼミⅠ	2	基礎ゼミⅡ	2	専門基礎演習Ⅰ	2	専門基礎演習Ⅱ	2					4	10	10		
		基礎ゼミⅢ	2															
卒業研究										専門演習Ⅰ	2	専門演習Ⅱ	2	4	4	4		
教職キャリア							キャリア演習Ⅰ	2	キャリア演習Ⅱ	2				4	4	4		
自由枠															0	0	18	
合計		58						19		16		12		19	66	124	124	

③ 小学校教諭、幼稚園教諭一種免許状の取得を目指すモデル

科目区分		認定 単位 数	認定科目名・単位数				3年次				4年次				取得計 履修のみ	取得計 認定含む	卒業 要件
			科目名	単位	科目名	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位			
大学 共通 科目	大学入門基礎講座						大学での学びとキャリアを考える	2							2	2	2
	情報処理	2	情報リテラシーⅠ	2											0	2	2
	外国語	2	英語基礎Ⅰ	1	英語基礎Ⅱ	1					英語演習Ⅰ	1	英語演習Ⅱ	1	4	6	6
	人間の理解	4									英語表現Ⅰ	1	英語表現Ⅱ	1			
	現代社会と国際理解		日本国憲法	2	人権と社会	2								0			
	科学技術と環境の理解									暮らしの科学	2			2		10	10
	地域文化の理解													0			
	子どもと社会											子どもの成長とコミュニティ	2	2	2		
	健康とスポーツ	2	スポーツ演習Ⅱ	1	スポーツ演習Ⅰ	1							子どもと文化	2	2		
	キャリア支援科目														0	2	2
基礎第二欄	2	教職論	2											0	0		
専門 基礎 科目	基礎第三欄	4	教育学		教育心理学	2						教育行政学	2	2	0	8	8
	初等教育 第四欄	8					教育課程論(小学校)	2			教育方法論	2	特別活動の指導法	2	26	26	
							道徳教育の指導法	2									
							社会科指導法Ⅰ	2	国語科指導法Ⅰ	2	図画工作科指導法Ⅰ	2	家庭科指導法	2			
							理科指導法Ⅰ	2	算数科指導法Ⅰ	2	音楽科指導法Ⅰ	2					
									生活科指導法Ⅰ	2							
									体育科指導法Ⅰ	2							
			学校教育相談	2					生徒・進路指導論	2				2	4		
	幼児教育		保育内容総論	2	保育教育課程論(幼)	2	保育内容(環境)	2	保育内容(人間関係)	2	幼児理解	1			13	19	40
			保育方法論	2			保育内容(言葉)	2		保育内容(表現1)	2	保育内容(表現2)	2				
						保育内容(健康)	2										
保育	16	乳児保育	2	保育相談支援	1									0	16		
		保育原理	2	障害児保育	2												
		児童家庭福祉	2	社会福祉	2												
		子どもの保健Ⅰ-1	2	子どもの保健Ⅰ-2	2												
教科	4	子どもの保健Ⅱ	1											8	12		
		理科内容論	2			国語科内容論	2	音楽科内容論	2		図画工作科内容論	2					
			算数科内容論	2			体育科内容論	2									
専門 選択 科目	教科選択	2	ピアノ実技Ⅰ	1	ピアノ実技Ⅱ	1					体育実技Ⅰ	1	体育実技Ⅱ	1	4	10	10
											造形遊び	2					
	教育課題									外国語活動(小学校英語Ⅰ)	2	子どもの安全と学校	2	4			
	架橋的科目							学校教育論	2					2			
	体験・実習 第五欄	5													6	15	8
			教育実習事前事後指導(幼)	1													
			教育実習Ⅰ(幼稚園)	2													
			教育実習Ⅱ(幼稚園)	2			介護等体験(施設)	1	教育実習事前事後指導(小)	1	教育実習(小学校)	4					
第六欄										教職実践演習(幼、小)	2	2					
研究科目	6	基礎ゼミⅠ	2	基礎ゼミⅡ	2	専門基礎演習Ⅰ	2	専門基礎演習Ⅱ	2				4	10	10		
			基礎ゼミⅢ	2													
卒業研究										専門演習Ⅰ	2	専門演習Ⅱ	2	4	4	4	
教職キャリア						キャリア演習Ⅰ	2	キャリア演習Ⅱ	2					4	4	4	
自由枠														0	0	18	
合計		57					24		21		18		25	93	150	124	

大阪成蹊大学関係委員会規程

(大学委員会)

- 大学評議会規程
- 大学学位規程
- 教務委員会規程
- 学生委員会規程
- 就職委員会規程
- 自己点検評価委員会規程
- 図書館委員会規程
- 国際交流委員会規程
- 共同研究審査委員会規程
- 教員資格審査等委員会規程
- 入試委員会規程
- 広報委員会規程

(教育学部委員会)

- 教務委員会規程
- 学生委員会規程
- 自己点検評価委員会規程
- 入試委員会規程
- 研究紀要委員会規程
- ファカルティ・ディベロップメント(FD)委員会規程
- 運営協議会規程

(その他)

- 大阪成蹊大学教員養成カリキュラム委員会規程
- 大阪成蹊大学外部評価委員会規程

○大阪成蹊大学評議会規程(改正案)

平成15年4月1日
制定

(趣旨)

第1条 この規程は、大阪成蹊大学学則(平成15年4月1日。以下「学則」という。)第9条第2項の規定に基づき大阪成蹊大学(以下「本学」という。)に置く評議会(以下「評議会」という。)の組織及び運営に関し、必要な事項を定める。

(審議事項)

第2条 評議会は、学長の諮問に応じ次の各号に掲げる重要事項を審議する。

- (1) 本学の重要な組織の設置・改廃に関すること。
- (2) 学則その他重要な規則の制定又は改廃に関すること。
- (3) 学生定員に関すること。
- (4) 学生の福利厚生及びその身分に関すること。
- (5) 学部その他の機関の連絡調整に関すること。
- (6) その他本学の運営に関する重要事項

(組織)

第3条 評議会は、次の各号に掲げる評議員で組織する。

- (1) 学長
- (2) 学長推薦による理事会選出理事 2名
- (3) 副学長
- (4) 学部長 3名
- (5) 学科長 各学部1名 計3名
- (6) 教授会選出の教員 各学部2名 計6名
- (7) 図書館長
- (8) 総務本部長

2 前項第2号、第4号及び第5号の評議員は、学長が委嘱する。

(任期)

第4条 前条第1項第2号、第4号及び第5号に規定する評議員の任期は、2年とする。ただし、補欠の者の任期は、前任者の任期の残余期間とする。

2 前項の委員は、再任することができる。

(運営等)

第5条 学長は、評議会を主宰しその議長となる。ただし、学長に事故があるときは、学長が指名した者が議長となる。

2 評議会の審議事項を専門的に審議するため、専門委員会を置くことができる。

(定足数)

第6条 評議会は、3分の2以上の出席がなければ開会することができない。

(議決)

第7条 評議会の議事は、出席者の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところ

による。

(構成員以外の者の出席)

第8条 学長が必要と認めた場合は、構成員以外の者を出席させ、意見等を述べさせることができる。

(事務)

第9条 評議会の事務は、総務部総務課において処理する。

附 則

この規程は、平成15年4月1日から施行する。

附 則(平成17年4月1日)

この規程は、平成17年4月1日から施行する。

附 則(平成23年3月24日)

この規程は、平成23年4月1日から施行する。

附 則(平成 年 月 日)

この規程は、平成26年4月1日から施行する。

○大阪成蹊大学学位規程(改正案)

平成15年4月1日
制定

(趣旨)

第1条 この規程は、大阪成蹊大学学則(平成15年4月1日。以下「学則」という。)第45条の規定に基づき、大阪成蹊大学(以下「本学」という。)における学位の授与に関し、必要な事項を定める。

(学位)

第2条 本学において授与する学位は、次の表のとおりとする。

現代経営情報学部	現代経営情報学科	学士(経営学)
マネジメント学部	マネジメント学科	学士(経営学)
芸術学部	情報デザイン学科	学士(芸術)
	環境デザイン学科	学士(芸術)
	美術学科	学士(芸術)
教育学部	児童教育学科	学士(教育学)

(学位の授与)

第3条 本学に4年以上在学し、学則第44条に定める所定の単位を修得した者については、当該学部教授会の議を経て、学長が学士の学位を授与する。

附 則

この規程は、平成15年4月1日から施行する。

附 則(平成23年3月24日)

この規程は、平成23年4月1日から施行する。

附 則(平成24年3月23日)

この規程は、平成24年4月1日から施行する。

附 則(平成 年 月 日)

この規程は、平成26年4月1日から施行する。

○大阪成蹊大学教務委員会規程

平成15年4月1日
制定

(趣旨)

第1条 この規程は、大阪成蹊大学評議会規程(平成15年4月1日)第5条第2項の規定に基づき、大阪成蹊大学(以下「本学」という。)に置く教務委員会(以下「委員会」という。)の組織及び運営に関し、必要な事項を定める。

(審議事項)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 本学の教育実施体制に関する事。
- (2) 本学の教育改善の方途に関する事。
- (3) その他本学の教育に関する重要事項

(組織)

第3条 委員会は、次に掲げる者で組織する。

- (1) 各学部学科長
- (2) 学部教務委員会から推薦された者 各1名 計3名
- (3) 教務部長

2 前項第2号の委員は、学長が委嘱する。

(任期)

第4条 前条第1項第2号に規定する委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の任期の残余期間とする。

2 前項の委員は、再任することができる。

(委員長)

第5条 委員会に委員長を置き、委員の互選とする。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

(会議)

第6条 委員会は、委員の過半数の出席により成立する。

2 委員会の議事は、出席委員の過半数により決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の出席)

第7条 委員会は、必要に応じ、委員以外の者を出席させることができる。

(事務)

第8条 委員会の事務は、教務部において処理する。

(雑則)

第9条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会が定める。

附 則

この規程は、平成15年4月1日から施行する。

附 則(平成17年4月1日)

この規程は、平成17年4月1日から施行する。

附 則(平成23年3月24日)

この規程は、平成23年4月1日から施行する。

○大阪成蹊大学学生委員会規程

平成15年4月1日
制定

(趣旨)

第1条 この規程は、大阪成蹊大学評議会規程(平成15年4月1日)第5条第2項の規定に基づき、大阪成蹊大学(以下「本学」という。)に置く学生委員会(以下「委員会」という。)の組織及び運営に関し、必要な事項を定める。

(審議事項)

第2条 委員会は、本学の厚生補導に関し、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 学生の課外活動に関すること。
- (2) 学生の保健衛生に関すること。
- (3) 学生の奨学援護に関すること。
- (4) 学生の福利厚生に関すること。
- (5) 学生の賞罰に関すること。
- (6) その他厚生補導に関すること。

(組織)

第3条 委員会は、次に掲げる者で組織する。

- (1) 学部学生委員会から推薦された者
- (2) 学生部長

2 前項第1号の委員は、学長が委嘱する。

(任期)

第4条 前条第1項第1号に規定する委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の任期の残余期間とする。

2 前項の委員は、再任することができる。

(委員長)

第5条 委員会に委員長を置き、委員の互選とする。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

(会議)

第6条 委員会は、委員の過半数の出席により成立する。

2 委員会の議事は、出席委員の過半数により決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の出席)

第7条 委員会は、必要に応じ、委員以外の者を出席させることができる。

(事務)

第8条 委員会の事務は、学生部学生課において処理する。

(雑則)

第9条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

附 則

この規程は、平成15年4月1日から施行する。

附 則(平成17年4月1日)
この規程は、平成17年4月1日から施行する。

附 則(平成23年3月24日)
この規程は、平成23年4月1日から施行する。

附 則(平成24年6月8日)
この規程は、平成24年6月8日から施行する。

○大阪成蹊大学就職委員会規程

平成15年4月1日
制定

(趣旨)

第1条 この規程は、大阪成蹊大学評議会規程(平成15年4月1日)第5条第2項の規定に基づき、大阪成蹊大学(以下「本学」という。)に置く就職委員会(以下「委員会」という。)の組織及び運営に関し、必要な事項を定める。

(審議事項)

第2条 委員会は、本学の就職指導等に関し、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 就職指導及び進路指導に関する基本方策に関すること。
- (2) 企業開拓に関すること。
- (3) その他学生の進路・就職に関すること。

(組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員で組織する。

- (1) 学部就職委員会から推薦された者 各1名 計3名
- (2) 就職部長

2 前項第1号の委員は、学長が委嘱する。

(任期)

第4条 前条第1項第1号の委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の任期の残余期間とする。

2 前項の委員は、再任することができる。

(委員長)

第5条 委員会に委員長を置き、委員の互選とする。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

(会議)

第6条 委員会は、委員の過半数の出席により成立する。

2 委員会の議事は、出席委員の過半数により決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の出席)

第7条 委員会は、必要に応じ、委員以外の者を出席させることができる。

(事務)

第8条 委員会の事務は、就職部就職課において処理する。

(雑則)

第9条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会が定める。

附 則

この規程は、平成15年4月1日から施行する。

附 則(平成17年4月1日)

この規程は、平成17年4月1日から施行する。

附 則(平成23年3月24日)
この規程は、平成23年4月1日から施行する。

○大阪成蹊大学自己点検評価委員会規程

平成15年4月1日
制定

(趣旨)

第1条 この規程は、大阪成蹊大学学則(平成15年4月1日)第2条第2項の規定に基づき、教育研究活動等について自主的に点検及び評価を行うため、大阪成蹊大学に置く自己点検評価委員会(以下「委員会」という。)の組織及び運営に関し、必要な事項を定める。

(審議事項)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 自己点検・評価の基本方針に関すること。
- (2) 点検・評価項目に関すること。
- (3) 自己評価の実施及び結果の公表に関すること。
- (4) その他自己点検・評価に関し必要な事項

(組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員で組織する。

- (1) 学部選出の評議員 各1名 計3名
- (2) 入試、教務、学生及び就職委員会の長
- (3) 各学部長から推薦された者 各1名 計3名
- (4) 総務部、入試広報部、教務部、学生部、就職部の長

2 前項第1号及び第3号の委員は、学長が委嘱する。

(任期)

第4条 前条第1項第1号及び第3号に規定する委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の者の任期は、前任者の任期の残余期間とする。

2 前項の委員は、再任することができる。

(委員長)

第5条 委員会に委員長を置き、委員の互選とする。

2 委員会は、委員長が招集し、その議長となる。

(会議)

第6条 委員会は、委員の過半数の出席により成立する。

2 委員会の議決は、出席委員の過半数により決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

(委員以外の出席)

第7条 委員会は、必要に応じ、委員以外の者を出席させることができる。

(事務)

第8条 委員会の事務は、総務部総務課において処理する。

(雑則)

第9条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

附 則

この規程は、平成15年4月1日から施行する。

附 則(平成17年4月1日)
この規程は、平成17年4月1日から施行する。

附 則(平成23年3月24日)
この規程は、平成23年4月1日から施行する。

附 則(平成23年11月17日)
この規程は、平成23年4月1日から施行する。

○大阪成蹊大学図書館委員会規程

平成15年7月14日
制定

(目的)

第1条 この規程は、大阪成蹊大学図書館規程第4条第2項の規定に基づき、大阪成蹊大学に置く図書館委員会(以下「委員会」という。)の組織及び運営に関し、必要な事項を定める。

(審議事項)

第2条 委員会は、次に掲げる事項を審議する。

- (1) 図書館の企画並びに運営に関する重要事項
- (2) 図書館資料の収集並びに保管に関する事項
- (3) 図書館に関する諸規程の制定および改廃に関する事項
- (4) その他図書館運営上の重要事項

(組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる者で組織する。

- (1) 図書館長
- (2) 各学部学部長から推薦された者 若干名

2 前項第2号の委員は、図書館長が委嘱する。

(任期)

第4条 前条第1項第2号に掲げる委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の任期の残余期間とする。

(委員長)

第5条 委員会に委員長を置き、図書館長をもって充てる。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

(会議)

第6条 委員会は、委員の過半数の出席により成立する。

2 委員会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の出席)

第7条 委員会は、必要に応じ、委員以外の者を出席させることができる。

(専門委員会)

第8条 委員会に、専門事項を審議するため、必要に応じ専門委員会を置くことができる。

2 専門委員会に関する事項は、委員会が別に定める。

(事務)

第9条 委員会の事務は、図書課で処理する。

(雑則)

第10条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

附 則

- 1 この規程は、平成15年7月14日から施行する。
- 2 規則第4条の規定にかかわらず、当初の任期は、施行の日から平成17年3月31日までとする。

附 則(平成23年11月17日)

この規程は、平成23年4月1日から施行する。

附 則(平成24年1月19日)

- 1 この規程は、平成24年4月1日から施行する。
- 2 大阪成蹊大学マネジメント学部図書館委員会規程並びに大阪成蹊大学芸術学部図書館委員会規程は廃止する。

○大阪成蹊大学国際交流委員会規程

平成15年4月1日
制定

(趣旨)

第1条 この規程は、大阪成蹊大学に置く国際交流委員会(以下「委員会」という。)の組織及び運営に関し、必要な事項を定める。

(審議事項)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 国際交流の基本方針策定に関すること。
- (2) 外国の大学等諸機関との提携に関すること。
- (3) 研究者及び学生の交流に関すること。
- (4) その他国際交流活動の全般に関すること。

(組織)

第3条 委員会は、次に掲げる者で組織する。

- (1) 学部国際交流委員会から推薦された者 各2名 計4名
- (2) 教育研究支援部長
- (3) 総務部長
- (4) 教務部長
- (5) 学生部長

2 前項第1号の委員は、学長が委嘱する。

(任期)

第4条 前条第1項第1号の委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の任期の残余期間とする。

2 前項の委員は、再任することができる。

(委員長)

第5条 委員会に、委員長を置き委員の互選とする。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

(会議)

第6条 委員会は、委員の過半数の出席により成立する。

2 委員会の議事は、出席委員の過半数により決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の出席)

第7条 委員会は、必要に応じ、委員以外の者を出席させることができる。

(事務)

第8条 委員会の事務は、教育研究支援部教育研究支援課において処理する。

(雑則)

第9条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に必要な事項は、委員会が定める。

附 則

この規程は、平成15年4月1日から施行する。

附 則(平成16年2月26日)

この規程は、平成16年2月26日から施行する。

附 則(平成17年4月1日)

この規程は、平成17年4月1日から施行する。

附 則(平成23年3月24日)

この規程は、平成23年4月1日から施行する。

附 則(平成24年2月23日)

この規程は、平成24年4月1日から施行する。

○大阪成蹊大学共同研究審査委員会規程

平成15年4月1日
制定

(趣旨)

第1条 大阪成蹊大学教員研究費取扱規程(平成15年4月1日)第11条の規定に基づき、大阪成蹊大学(以下「大学」という。)における教員相互間の共同研究の申請に係る審査を行うため、学長の諮問に応じ、大学に置く共同研究審査委員会(以下「大学審査委員会」という。)の組織及び運営に関し、必要な事項を定める。

(審査)

第2条 審査は、次の各号の視点を重視し、総合的に行うものとする。

- (1) 教育研究の充実発展の観点から、特別の配慮を必要とする教育研究プロジェクト
- (2) 社会的動向を踏まえ要請の強い教育、研究プロジェクト
- (3) 大学・学部の国際化を図る観点からの教育研究プロジェクト
- (4) その他大学・学部の教育研究の進展に寄与するプロジェクト

(組織)

第3条 大学審査委員会は、次の各号に掲げる者で組織する。

- (1) 学長
- (2) 副学長
- (3) 各学部長
- (4) 学科長 各1名 計2名

(委嘱)

第4条 前条第4号の委員は、学長が委嘱する。

(任期)

第5条 第3条第4号委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残余期間とする。

2 前項の委員は、再任することができない。

(委員長)

第6条 大学審査委員会に委員長を置き、学長をもって充てる。

2 委員長は、会議を招集し、その議長となる。

(委員会)

第7条 大学審査委員会は、委員の過半数により成立する。

2 委員会の議事は、出席委員の過半数により決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の出席)

第8条 大学審査委員会は、必要に応じ、委員以外の者を出席させることができる。

(事務)

第9条 委員会の事務は、総務部総務課において処理する。

(雑則)

第10条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に必要な事項は、委員会が定める。

附 則

この規程は、平成15年4月1日から施行する。

附 則(平成17年4月1日)

この規程は、平成17年4月1日から施行する。

附 則(平成23年3月24日)

この規程は、平成23年4月1日から施行する。

附 則(平成24年2月23日)

この規程は、平成24年4月1日から施行する。

○大阪成蹊大学教員資格審査等委員会規程(改正案)

平成 26 年 4 月 1 日

改正

(設置)

第 1 条 この規程は、大阪成蹊大学教員採用等選考規程(平成 15 年 4 月 1 日)第 3 条第 3 項の規定に基づき、大阪成蹊大学(以下「本学」という。)の専任教員を採用及び再採用並びに昇格させるに当たり、その資格審査及び業績評価(以下「審査等」という。)をするため、学長の諮問に応じ、本学にマネジメント学部、芸術学部及び教育学部教員資格審査等委員会(以下「委員会」という。)を置く。

(審査等)

第 2 条 審査等は、大学設置基準(昭和 31 年文部省令第 28 号)に定める教員の資格を踏まえ、次の各号に掲げる事項により総合的に行うものとする。

- (1) 著書、学術論文、作品等による教育・研究業績
- (2) 教育現場等における教育業績
- (3) 学会、国際会議等における活動業績
- (4) 社会における活動業績
- (5) その他

(対象)

第 3 条 委員会は、次の各号に係る教員の審査を行う。

- (1) 教授
- (2) 准教授
- (3) 講師
- (4) 助教

(組織)

第 4 条 委員会は、次の各号に掲げる者で組織する。

- (1) 学部長
 - (2) 学科長
 - (3) 当該専門分野の教員 2 名
 - (4) 当該専門分野以外の教員 3 名
- 2 前項第 3 号及び第 4 号の委員は、学部長が委嘱する。

(任期)

第 5 条 委員の任期は、学長が諮問した日から審査が終了し、理事会において採用、再採用及び昇任が決定した日までとする。また、補欠の委員の任期も同様とする。

(委員長)

第 6 条 委員会に委員長を置き、学部長をもって充てる。

- 2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

(委員会)

第 7 条 委員会は、委員の 3 分の 2 の出席により成立する。

- 2 委員会の議事は、出席委員の過半数により決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の出席)

第 8 条 委員会は、必要に応じ、委員以外の者を出席させることができる。

(事務)

第 9 条 委員会の事務は、総務部長がこれに当たる。

(雑則)

第 10 条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

附 則

この規程は、平成 15 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(平成 年 月 日)

この規程は、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。

○大阪成蹊大学入学者選抜規程

平成15年4月1日
制定

第1章 総則

(趣旨)

第1条 この規程は、大阪成蹊大学学則(平成15年4月1日)第17条第1項の規定に基づき大阪成蹊大学(以下「本学」という。)における入学者選抜試験を実施するための組織及び運営に関し、必要な事項を定める。

(定義)

第2条 この規程において入学試験とは、次の各号に掲げる試験をいう。

- (1) 本学の学部入学者の選抜に関し、必要に応じて実施する試験
- (2) 独立行政法人 大学入試センター試験(以下「センター試験」という。)

第2章 入試委員会

(設置)

第3条 本学に入試委員会(以下「委員会」という。)を置く。

(審議事項)

第4条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 学生募集及び入学者選抜に関する基本方策に関すること。
- (2) 教授会の議に基づく合格者の総合判定に関すること。
- (3) その他学生募集・選抜全般に関すること。

(組織)

第5条 委員会は、次の各号に掲げる委員で組織する。

- (1) 学長
- (2) 各学部長
- (3) 学部入試委員会から推薦された者 各1名 計3名
- (4) 入試事務部 入試事務部長

2 前項第3号の委員は、学長が委嘱する。

(任期)

第6条 前条第1項第3号に規定する委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は前任者の任期の残余期間とする。

2 前項の委員は、再任することができる。

(委員長)

第7条 委員会に委員長を置き、学長をもって充てる。

(会議の招集及び議長)

第8条 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

(定足数及び議決)

第9条 委員会は、委員の過半数が出席し、かつ、各学部委員のうち1人以上の出席がなければ、開会することができない。

- 2 委員会の議事は、出席委員の過半数により決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第10条 委員会は、必要に応じ、委員以外の者を出席させることができる。

(事務)

第11条 委員会の事務は、入試事務部 入試事務課において処理する。

第3章 試験本部等

(センター試験)

第12条 センター試験を実施するため、センター試験実施本部を置き、学長が統轄する。

2 センター試験は、試験場ごとに試験場本部を置き、試験場責任者は学部長等をもって充てる。

3 センター試験実施本部及び試験場本部の組織及び運営については、別に定める。

(雑則)

第13条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

附 則

この規程は、平成15年4月1日から施行する。

附 則(平成17年4月1日)

この規程は、平成17年4月1日から施行する。

附 則(平成23年3月24日)

この規程は、平成23年4月1日から施行する。

○大阪成蹊大学広報委員会規程

平成15年4月1日
制定

(趣旨)

第1条 この規程は、大阪成蹊大学評議会規程(平成15年4月1日)第5条第2項の規定に基づき、大阪成蹊大学に置く広報委員会(以下「委員会」という。)の組織及び運営に関し、必要な事項を定める。

(審議事項)

第2条 委員会は、次に掲げる事項を審議する。

- (1) 広報に関する基本方針に関すること。
- (2) その他広報活動に関すること。

(組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる者で組織する。

- (1) 学長
- (2) 学部長
- (3) 図書館長
- (4) 学部広報委員会から推薦された者 各1名 計3名
- (5) 総務部長
- (6) 広報部長

2 前項第4号の委員は、学長が委嘱する。

(任期)

第4条 前条第4号に掲げる委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の任期の残余期間とする。

(委員長)

第5条 委員会に委員長を置き、学長をもって充てる。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

(会議)

第6条 委員会は、委員の過半数の出席により成立する。

2 委員会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の出席)

第7条 委員会は、必要に応じ、委員以外の者を出席させることができる。

(専門委員会)

第8条 委員会に、専門事項を審議するため、必要に応じ専門委員会を置くことができる。

2 専門委員会に関する事項は、委員会が別に定める。

(事務)

第9条 委員会の事務は、広報部で処理する。

(雑則)

第10条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会が別に

定める。

附 則
この規則は、平成15年4月1日から施行する。

附 則(平成17年4月1日)
この規程は、平成17年4月1日から施行する。

附 則(平成23年11月17日)
この規程は、平成23年4月1日から施行する。

○大阪成蹊大学教育学部教務委員会規程（案）

平成 26 年 4 月 1 日
制定

（趣旨）

第 1 条 この規程は、大阪成蹊大学教授会規程（平成 15 年 4 月 1 日）第 4 条第 2 項の規定に基づき、大阪成蹊大学教育学部（以下「学部」という。）に置く教務委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定める。

（審議事項）

第 2 条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- （1）教育課程に関すること。
- （2）授業に関すること。
- （3）入学、卒業、休学、退学等学籍に関すること。
- （4）教育行事に関すること。
- （5）その他教務に関すること。

（組織）

第 3 条 委員会は、次の各号に掲げる者で組織する。

- （1）学科長
- （2）学部長が推薦した者 若干名
- （3）学部から推薦された者 若干名
- （4）教務部長

2 前項第 2 号及び第 3 号の委員は、学部長が委嘱する。

（任期）

第 4 条 前条第 1 項第 2 号及び第 3 号に掲げる委員の任期は、2 年とする。

ただし、補欠の委員の任期は、前任者の任期の残余期間とする。

2 前項の委員は、再任することができる。

（委員長）

第 5 条 委員会に委員長を置き、学科長をもって充てる。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

（会議）

第 6 条 委員会は、委員の過半数の出席により成立する。

2 委員会の議事は、出席委員の過半数により決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

（専門委員会）

第 7 条 委員会は、必要に応じ、専門委員会を置くことができる。

（委員以外の出席）

第 8 条 委員会は、必要に応じ、委員以外の者を出席させることができる。

(事務)

第 9 条 委員会の事務は、教務部教務課において処理する。

(雑則)

第 10 条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

附 則

この規程は、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。

○大阪成蹊大学教育学部学生委員会規程（案）

平成 26 年 4 月 1 日
制定

（趣旨）

第 1 条 この規程は、大阪成蹊大学教授会規程（平成 15 年 4 月 1 日）第 4 条第 2 項の規定に基づき、大阪成蹊大学教育学部（以下「学部」という。）に置く学生委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定める。

（審議事項）

第 2 条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- （1） 学生の課外活動に関する事。
- （2） 学生の保健衛生に関する事。
- （3） 学生の奨学援護に関する事。
- （4） 学生の福利厚生に関する事。
- （5） 学生の学生の賞罰に関する事。
- （6） その他厚生補導に関する事。

（組織）

第 3 条 委員会は、次の各号に掲げる者で組織する。

- （1） 学部長が推薦した者 若干名
- （2） 学部から選出された者 若干名
- （3） 学生部長

2 前項第 1 号及び第 2 号の委員は、学部長が委嘱する。

（任期）

第 4 条 前条第 1 項第 1 号及び第 2 号に規定する委員の任期は、2 年とする。

ただし、補欠の委員の任期は、前任者の任期の残余期間とする。

2 前項の委員は、再任することができる。

（委員長）

第 5 条 委員会に、委員長を置き、委員の互選とする。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

（会議）

第 6 条 委員会は、委員の過半数の出席により成立する。

2 委員会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

（委員以外の出席）

第 7 条 委員会は、必要に応じ、委員以外の者を出席させることができる。

（事務）

第 8 条 委員会の事務は、学生部学生課において処理する。

(雑則)

第 9 条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

附 則

この規程は、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。

○大阪成蹊大学教育学部自己点検評価委員会規程（案）

平成 26 年 4 月 1 日
制定

（趣旨）

第 1 条 この規程は、大阪成蹊大学学則（平成 15 年 4 月 1 日）第 2 条第 2 項の規定に基づき、教育研究活動等について自主的に点検及び評価を行うため、大阪成蹊大学教育学部に置く自己点検評価委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定める。

（審議事項）

第 2 条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- （1） 自己点検及び評価の基本方針に関すること。
- （2） 点検及び評価項目に関すること。
- （3） 自己評価の実施及び結果の公表に関すること。
- （4） その他自己点検及び評価に関し必要な事項

（組織）

第 3 条 委員会は、次の各号に掲げる者で組織する。

- （1） 学部長
- （2） 学科長
- （3） 学部長が推薦した者 若干名
- （4） 総務部長

2 前項第 2 号及び第 3 号の委員は、学部長が委嘱する。

（任期）

第 4 条 前条第 1 項第 2 号及び第 3 号に規定する委員の任期は、2 年とする。

ただし、補欠の者の任期は、前任者の任期の残余期間とする。

2 前項の委員は、再任することができる。

（委員長）

第 5 条 委員会に委員長を置き、委員の互選とする。

2 委員会は、委員長が招集し、その議長となる。

（会議）

第 6 条 委員会は、委員の過半数の出席により成立する。

2 委員会の議決は、出席委員の過半数により決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の出席)

第7条 委員会は、必要に応じ、委員以外の者を出席させることができる。

(事務)

第8条 委員会の事務は、総務部総務課において処理する。

(雑則)

第9条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

附 則

この規程は、平成26年4月1日から施行する。

○大阪成蹊大学教育学部入試委員会規程（案）

平成 26 年 4 月 1 日
制定

（趣旨）

第 1 条 この規程は、大阪成蹊大学学則（平成 15 年 4 月 1 日）第 4 条第 2 項の規定に基づき、大阪成蹊大学教育学部（以下「学部」という。）に置く入試委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定める。

（審議事項）

第 2 条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- （1） 入学者の受入方策に関すること。
- （2） 入学者の選抜に関する基本的事項に関すること。
- （3） 合格候補者の選考資料に関すること。

（組織）

第 3 条 委員会は、次の各号に掲げる者で組織する。

- （1） 学部長
- （2） 学科長
- （3） 学部長が推薦した者 若干名
- （4） 学部から選出された者 若干名
- （5） 入試事務部長

2 前項第 3 号及び第 4 号の委員は、学部長が委嘱する。

（任期）

第 4 条 前条第 1 項第 3 号及び第 4 号委員の任期は、2 年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の任期の残余期間とする。

2 前項の委員は、再任することができる。

（委員長）

第 5 条 委員会に委員長を置き、学部長をもって充てる。

（会議の招集及び議長）

第 6 条 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

（定足数及び議決）

第 7 条 委員会は、委員の過半数の出席により成立する。

2 委員会の議事は、出席委員の過半数により決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

（委員以外の出席）

第 8 条 委員会は、必要に応じ、委員以外の者を出席させることができる。

（事務）

第 9 条 委員会の事務は、入試事務部入試事務課において処理する。

(雑則)

第 10 条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

附 則

この規程は、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。

○大阪成蹊大学教育学部研究紀要委員会規程（案）

平成 26 年 4 月 1 日
制定

（目的）

第 1 条 この規程は、大阪成蹊大学教授会規程（平成 15 年 4 月 1 日）第 4 条第 2 項の規定に基づき、大阪成蹊大学教育学部に置く研究紀要委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定める。

（審議事項）

第 2 条 本委員会は、次の事項について審議する。

- （1） 大阪成蹊大学教育学部研究紀要（以下「紀要」という。）投稿要項の改廃、運用に関する事項
- （2） 紀要投稿論文の執筆要項の改廃、運用に関する事項
- （3） 投稿論文の採否・掲載及び編集に関する事項
- （4） 紀要の出版に関する事項
- （5） 紀要の寄贈等に関する事項

（組織）

第 3 条 本委員会は、委員若干名をもって組織し、学部長がこれを指名し委嘱するものとする。

（任期）

第 4 条 委員の任期は 2 年とする。ただし、補欠の委員の任期は前任者の任期の残余期間とする。

2 前項の委員は、再任することができる。

（委員長）

第 5 条 本委員会に委員長を置く。

2 委員長は、学部長が指名した者をあてるものとする。

3 委員長は、本委員会を招集し、その議長をつとめる。

（事務）

第 6 条 本委員会の事務は図書館図書課が所掌する。

附 則

この規程は、平成 26 年 4 月 1 日より施行する。

○大阪成蹊大学教育学部ファカルティ・ディベロップメント(FD)委員会規程 (案)

平成 26 年 4 月 1 日
制定

(趣旨)

第 1 条 この規程は、大阪成蹊大学教授会規程(平成 15 年 4 月 1 日)第 4 条第 2 項の規定に基づき、大阪成蹊大学教育学部に、本学の教学理念に沿った教育活動を向上させるファカルティ・ディベロップメント(以下、「FD」という)の推進を図るため、ファカルティ・ディベロップメント(FD)委員会(以下、「委員会」という)を置く。

(任務)

第 2 条 委員会は、次に掲げる活動を行う。

- (1) FD を推進するための施策の検討と実施に関すること
- (2) FD に係わる資料・情報の収集と学内広報に関すること
- (3) FD に係わる調査・研究に関すること
- (4) 授業評価に関すること
- (5) 教育課程編成・実施の方針に関すること
- (6) FD に係わる報告書等の作成に関すること
- (7) 教育活動優秀教員の表彰に関すること
- (8) FD に係わる職員の職能開発(スタッフ・ディベロップメント [SD])との連携に関すること
- (9) FD に係わって学部長から諮問があった事項に関すること
- (10) その他 FD に関すること

(構成)

第 3 条 委員会は、次に掲げる委員で組織する。

- (1) 学部長
- (2) 学科長
- (3) 教務委員会委員長
- (4) 学部から選出された者 若干名
- (5) 教務部長

(委員長等)

第 4 条 委員会に委員長を置き、学部長をもって充てる。

2 委員会には副委員長を置き、委員長が委員のうちから指名する。

(任期)

第 5 条 第 3 条第 4 号の委員の任期は 2 年とする。ただし、再任を妨げない。

2 前項に定める委員以外の委員の任期は、当該役職もしくは委員の在任期間とする。

3 委員に欠員が生じたときは、これを補充する。ただし、その場合の任期は前任者の残余期間とする。

(運営)

第 6 条 委員会は委員長が招集し、議事を進行する。

2 委員会は構成員の過半数の出席によって成立し、その議決は、出席委員の過半数をもって決する。可否同数のときは、委員長の決めるところによる。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、その任務を代行する。

(委員以外の出席)

第 7 条 委員会は、必要に応じて委員以外の者を出席させることができる。

(事務)

第 8 条 委員会の事務は、教務部教務課において処理する。

(雑則)

第 9 条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関わる必要な事項は、委員会が別に定める。

(改廃)

第 10 条 この規程の改廃は、委員会および教授会の審議を経て行う。

附 則

この規程は、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。

○大阪成蹊大学教育学部運営協議会に関する規程（案）

平成 26 年 4 月 1 日
制定

第 1 条 大阪成蹊大学教育学部(以下「本学部」という。)の運営を円滑にし、本学部の教育・研究の一層の充実を図るため、教育学部運営協議会(以下「運営協議会」という。)を置く。

第 2 条 運営協議会は、本学部の運営・教学の運営にかかわる諸問題について検討・協議するとともに、各部署の連絡調整を図る。

第 3 条 運営協議会の協議の結果、必要かつ重要なものは教授会の審議を求めるものとする。

第 4 条 運営協議会は、次の各号に掲げる者で、組織する。

- (1) 学部長
- (2) 学科長
- (3) 入試委員会委員長
- (4) 就職委員会委員長
- (5) 教務委員会委員長
- (6) 学生委員会委員長
- (7) 自己点検評価委員会委員長
- (8) 事務部門の各部長

第 5 条 運営協議会は、学部長がこれを招集し、その議長となる。

2 学部長に事故があるときは、あらかじめ学部長が指名する者が議長の職務を代行する。

3 運営協議会は、必要に応じ、他の教職員の出席を求めることができる。

第 6 条 運営協議会の事務は、総務部総務課がこれを担当する。

第 7 条 規程の改正は、教授会の議決によるものとする。

附 則

この規程は、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。

○大阪成蹊大学教員養成カリキュラム委員会規程（案）

平成 26 年 4 月 1 日
制定

（目的）

第 1 条 この規程は、大阪成蹊大学評議会規程(平成 15 年 4 月 1 日)第 5 条第 2 項に基づき、大阪成蹊大学(以下「本学」という。)における教職課程の充実・強化を図り、その全学的運営を円滑にするために、大阪成蹊大学教員養成カリキュラム委員会(以下「委員会」という。)を設置する。

（審議事項）

第 2 条 委員会は、次の事項を審議する。

- (1) 本学における教職課程の基本方針に関する事項
- (2) 教職課程のカリキュラムの改善に関する事項
- (3) 教育実習の実施及びその運営に関する事項
- (4) その他教職課程に関して重要と認める事項
- (5) 委員会の自己点検・自己評価に関する事項

（構成）

第 3 条 委員会は、次に定める委員をもって構成し、学長がこれを委嘱する。

- (1) 各学部から 1 名
- (2) 教職に関する科目担当教員から 3 名
- (3) 学長が指名する実務経験を有する教員
- (4) 教務部長

（任期）

第 4 条 前条第 1 項第 2 号及び第 3 号に掲げる委員の任期は 2 年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の任期の残余期間とする。

2 前項の委員は、再任することができる。

（委員長）

第 5 条 委員会に委員長を置く。

2 委員長は、学長が任命する。

3 委員長に事故があるときは、学長が代行を任命する。ただし、その任期は、前任者の任期の残存期間とする。

4 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

（会議）

第 6 条 委員会は、委員の過半数の出席をもって成立する。

2 委員会の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。

（委員以外の出席）

第 7 条 委員長が必要と認めたときは、関係者の出席を求め、その意見を聴くことができる。

（事務）

第 8 条 委員会の事務は、教務部教務課が担当する。

（改廃）

第 9 条 この規程の改廃は、委員会の審議を経て評議会の議決により行う。

附 則

この規程は、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。

○大阪成蹊大学外部評価委員会規程（案）

平成 26 年 4 月 1 日
制 定

（趣旨）

第 1 条 大阪成蹊大学(以下「本学」という。)における教育研究活動の状況に係る自己点検及び評価の結果について、外部の有識者による検証（以下「外部評価」という。）を行い、本学の教育研究活動の質の向上に資するとともに、社会への説明責任を果たすことを目的とする。

（実施者）

第 2 条 外部評価は、学外者の協力を得て学長が実施する。

（委員会）

第 3 条 本学に、前条の目的を達成するため、大阪成蹊大学外部評価委員会（以下「委員会」という。）を置く。

2 委員会は、高等教育に関し広くかつ高い識見を有するとともに、本学の教育研究活動に深い理解を有する地方公共団体、教育機関等に在職する者及び卒業生等広く社会から、評価の目的に応じ学長が委嘱した委員をもって構成する。

3 委員会に委員長を置く。委員長の選出は委員の互選による。

なお、委員長は議長になり委員会を運営し、評価結果について各委員会の意見を添えて学長に答申する。

4 その他委員会の運営に関しては、委員会が定める。

（実施方法）

第 3 条 委員会は、教育研究活動に関して行う自己点検及び評価の結果について外部評価を行う。

2 外部評価は、前項の自己点検及び評価の結果に関する資料による調査のほか、必要に応じ実地調査等により行う。

（結果の公表）

第 4 条 外部評価結果については、本学の意見を添えて学内外に公表する。

（事務）

第 5 条 委員会の事務は、総務部総務課が行う。

（雑則）

第 6 条 この規則に定めるもののほか、外部評価の実施に関し必要な事項は、学長が定める。

附 則

この規則は、平成 26 年 4 月 1 日から施行する

連携協力協定締結教育委員会一覧

連携協力協定締結教育委員会一覧

1. 大阪市教育委員会
2. 茨木市教育委員会
3. 吹田市教育委員会
4. 摂津市教育委員会
5. 高槻市教育委員会
6. 東大阪市教育委員会
7. 豊能地区3市2町教育委員会
(豊中市、池田市、箕面市、豊能町、能勢町)
8. 川西市教育委員会

大阪市教育委員会並びに大阪成蹊大学、大阪成蹊短期大学及びびわこ成蹊スポーツ大学
との連携協力に関する協定書

(目的)

第1条 大阪市教育委員会（以下「甲」という。）並びに大阪成蹊大学（以下「乙」という。）、大阪成蹊短期大学（以下「丙」という。）及びびわこ成蹊スポーツ大学（以下「丁」という。）は、相互に連携協力し、教職員の資質の向上及び教員養成の充実を図るとともに、教育上の諸課題等に適切に対応することにより、大阪市の教育及び大学における教育・研究の充実、発展に資するものとする。

(内容)

第2条 甲並びに乙、丙及び丁は、相互に連携協力して、次に掲げる事項を行う。

- (1) 学校現場のニーズに応える教員養成の推進に関する事
- (2) 教職員の資質向上のために必要な研修の推進に関する事
- (3) 乙、丙及び丁の学生等による大阪市立学校園の教育活動の支援の推進に関する事
- (4) 教育上の諸課題に係る研究の実施に関する事
- (5) その他双方が必要と認める事

(方法)

第3条 甲並びに乙、丙及び丁は、前条の規定による連携協力（以下「連携協力」という。）を行うに当たっては、業務に支障のない限りにおいて、相互に便宜を図るものとする。

(経費)

第4条 連携協力に必要な経費の負担については、各々の事業ごとに甲と乙、丙又は丁の間で協議の上、決定する。

(有効期間)

第5条 この協定書の有効期間は、協定書締結の日から平成26年3月31日までとする。ただし、この協定書の有効期間満了の日の30日前までに、甲並びに乙、丙及び丁のいずれからも書面をもって改廃の申し入れがない場合は、さらに1年間更新するものとし、その後も同様とする。

(補足)

第6条 この協定書に定めるもののほか、連携協力に関する細目については、甲並びに乙、丙及び丁が協議して定めるものとする。

2 この協定書に定める事項について疑義が生じたときは、甲並びに乙、丙及び丁が協議して解決を図るものとする。

この協定書は、4通作成し、甲並びに乙、丙及び丁の各々が各1通を保有する。

平成25年2月1日

(甲) 大阪市北区中之島1丁目3番20号 (乙) 大阪市東淀川区相川3丁目10番62号

大阪市教育委員会
教育長 永井哲郎



大阪成蹊大学
学長 石井 茂



(丙) 大阪市東淀川区相川3丁目10番62号

大阪成蹊短期大学
学長 武蔵野 實



(丁) 大津市北比良1204番地

びわこ成蹊スポーツ大学
学長 飯田 稔



茨木市教育委員会並びに大阪成蹊大学、大阪成蹊短期大学及び
びわこ成蹊スポーツ大学との連携協力に関する協定書

(目的)

第1条 茨木市教育委員会(以下「甲」という。)並びに大阪成蹊大学(以下「乙」という。)、
大阪成蹊短期大学(以下「丙」という。)及びびわこスポーツ成蹊大学(以下「丁」とい
う。)は、相互に連携協力し、大学及び茨木市における教育・研究の充実、発展に資する
ことを目的として、この協定を締結する。

(事業)

第2条 甲並びに乙、丙及び丁が連携協力して行う事業は、次の通りとする。

- (1) 大学による市立学校園児・児童・生徒を対象とした新たな学びの機会を提供する
こと
- (2) 大学生(院生を含む)に市立学校・園の教育現場を体験する機会を提供すること
- (3) 大学生(院生を含む)による市立学校・園の教育活動及び地域の各種活動への支
援を推進すること
- (4) 大学と市立学校・園の教職員相互の交流・研修を促進すること
- (5) その他、双方が必要と認める事項

(事業実施方法等の決定)

第3条 甲並びに乙、丙及び丁は、前条に掲げる事業を実施する場合は、あらかじめ当該
事業ごとに、実施方法、当該事業の実施に要する経費負担等について相互に協議の上、
決定するものとする。

(有効期間)

第4条 この協定書の有効期間は、協定締結の日から平成26年3月31日までとする。
ただし、この協定書の有効期間満了の日の30日前までに、甲並びに乙、丙及び丁のい
ずれかからも申入れがないときは、さらに1年間有効期間を延長するものとし、それ以降
も同様とする。

(補則)

第5条 この協定書に定めるもののほか、連携協力に関し必要な事項については、甲並び
に乙、丙及び丁が協議して、定めるものとする。
2 この協定書に定める事項について疑義が生じた場合は、甲並びに乙、丙及び丁が誠意
をもって協議するものとする。

上記を証するため、正本4通を作成し、甲並びに乙、丙及び丁の各々が記名押印の上、
各1通を所持する。

平成25年4月22日

(甲) 茨木市駅前3丁目8番13号

(乙) 大阪市東淀川区相川3丁目10番62号

茨木市教育委員会
教育長

八木章海



大阪成蹊大学
学長

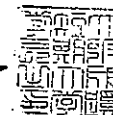
武蔵野實



(丙) 大阪市東淀川区相川3丁目10番62号

大阪成蹊短期大学
学長

岡本正志



(丁) 大津市北比良1204番地

びわこ成蹊スポーツ大学
学長

飯田 稔



吹田市教育委員会並びに大阪成蹊大学、大阪成蹊短期大学及びびわこ成蹊スポーツ大学
との連携協力に関する協定書

(目的)

第1条 吹田市教育委員会（以下「甲」という。）並びに大阪成蹊大学（以下「乙」という。）、大阪成蹊短期大学（以下「丙」という。）及びびわこ成蹊スポーツ大学（以下「丁」という。）は、相互に連携協力し、教職員の資質の向上及び教員養成の充実を図るとともに、教育上の諸課題等に適切に対応することにより、吹田市の教育及び大学における教育・研究の充実、発展に資するものとする。

(内容)

第2条 甲並びに乙、丙及び丁は、相互に連携協力して、次に掲げる事項を行う。

- (1) 学校現場のニーズに応える教員養成の推進に関する事
- (2) 教職員の資質向上のために必要な研修の推進に関する事
- (3) 乙、丙及び丁の学生等による吹田市立学校園の教育活動の支援の推進に関する事
- (4) 教育上の諸課題に係る研究の実施に関する事
- (5) その他双方が必要と認める事

(方法)

第3条 甲並びに乙、丙及び丁は、前条の規定による連携協力（以下「連携協力」という。）を行うに当たっては、業務に支障のない限りにおいて、相互に便宜を図るものとする。

(経費)

第4条 連携協力に必要な経費の負担については、各々の事業ごとに甲と乙、丙又は丁の間で協議の上、決定する。

(有効期間)

第5条 この協定書の有効期間は、協定書締結の日から平成26年3月31日までとする。ただし、この協定書の有効期間満了の日の30日前までに、甲並びに乙、丙及び丁のいずれからも書面をもって改廃の申し入れがない場合は、さらに1年間更新するものとし、その後も同様とする。

(補足)

第6条 この協定書に定めるもののほか、連携協力に関する細目については、甲並びに乙、丙及び丁が協議して定めるものとする。

2 この協定書に定める事項について疑義が生じたときは、甲並びに乙、丙及び丁が協議して解決を図るものとする。

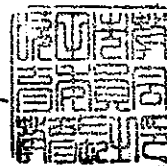
この協定書は、4通作成し、甲並びに乙、丙及び丁の各々が各1通を保有する。

平成25年3月6日

(甲) 大阪府吹田市泉町1丁目3番40号 (乙) 大阪市東淀川区相川3丁目10番62号

吹田市教育委員会
教育長

西川俊孝



大阪成蹊大学
学長

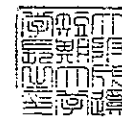
石井 茂



(丙) 大阪市東淀川区相川3丁目10番62号

大阪成蹊短期大学
学長

武蔵野 實



(丁) 津市北比良1204番地

びわこ成蹊スポーツ大学
学長

飯田 稔



摂津市教育委員会並びに大阪成蹊大学、大阪成蹊短期大学及びびわこ成蹊スポーツ大学

との連携協力に関する協定書

摂津市教育委員会（以下「甲」という。）と大阪成蹊大学（以下「乙」という。）、大阪成蹊短期大学（以下「丙」という。）及びびわこ成蹊スポーツ大学（以下「丁」という。）は、相互の連携協力に関して次のとおり協定を締結する。

（目的）

第1条 甲並びに乙、丙及び丁は、相互に連携協力し、大学及び短期大学と学校等との人的・知的交流を通じて、地域に根ざした新たな学びの機会を創造するとともに、教育上の諸課題等に適切に対応することにより、学生の資質の向上を図るとともに、摂津市の教育の充実・発展に資するものとする。

（実施機関）

第2条 前条に規定する連携は、甲並びに乙、丙及び丁の間で実施する。

（内容）

第3条 甲並びに乙、丙及び丁が連携協力して行う内容は、次のとおりとする。

- (1) 学生に小中学校等の教育現場を体験する機会を提供すること。
- (2) 学生による小中学校の教育活動及び地域の各種活動への支援を推進すること。
- (3) 大学及び短期大学と小中学校等の教職員相互の交流・研修を促進すること。
- (4) その他、双方が必要と認める事項。

（方法）

第4条 甲並びに乙、丙及び丁が連携協力するに当たっては、相互の教職員ならびに学生の派遣及び受け入れ、施設設備の利用について、業務に支障のない限りにおいて、互いに便宜を供するものとする。

（経費）

第5条 甲並びに乙、丙及び丁が連携協力するための経費の負担は、各々の事業ごとに甲並びに乙、丙及び丁が協議の上、決定する。

（有効期間）

第6条 この協定書の有効期間は、協定書締結の日から平成26年3月31日までとする。ただし、この協定書の有効期間満了の日の30日前までに、甲並びに乙、丙及び丁のいずれからも申し入れがないときは、さらに1年間更新するものとし、その後も同様とする。

（補足）

第7条 この協定書に定めるもののほか、連携協力の細目その他については、甲並びに乙、丙及び丁が協議して別に定めるものとする。

2 この協定書に定める事項に疑義が生じた場合、甲並びに乙、丙及び丁は協議してその解決を図るものとする。

本協定書は4通作成し、甲並びに乙、丙及び丁がそれぞれ記名押印の上、各1通を保管する。

平成25年3月14日

（甲）大阪府摂津市三島1丁目1番1号

（乙）大阪市東淀川区相川3丁目10番62号

摂津市教育委員会
教育長

和島 剛



大阪成蹊大学
学長

石井 茂



大阪市東淀川区相川3丁目10番62号

大阪成蹊短期大学
学長

武蔵野 實



（丁）天津市北比良1204番

びわこ成蹊スポーツ大学
学長

飯田 稔



東大阪市教育委員会と大阪成蹊大学・大阪成蹊短期大学との
連携協力の実施に関する協定書

高槻市教育委員会と大阪成蹊大学との連携協力に関する協定書

高槻市教育委員会（以下「甲」という。）と大阪成蹊大学（以下「乙」という。）は、相互の人的・知的資源の交流・活用を図るとともに、教育上の諸課題への確に対応するため、相互に連携協力して研究・協議を行い、その具体化を図り、その成果を生かして双方の教育の充実・発展に寄与することを目的として、次のとおり協定を締結する。

（連携協力の内容）

第1条 甲および乙は、次に掲げる事項を連携協力して実施する。

- (1) 幼児・児童・生徒に、多様な学びの場を提供すること
- (2) 学生に教育現場を体験する機会を提供すること
- (3) 学生による教育活動への支援・協力に関すること
- (4) 教職員の交流・研修に関すること
- (5) その他、双方が必要と認める事項

（方法）

第2条 教員の派遣や施設・設備等の利用については、それぞれの業務に支障のない限りにおいて相互に便宜を図る。

（経費）

第3条 甲と乙が連携協力するための経費の負担については、相互協議の上、決定する。

（有効期間）

第4条 この協定書の有効期間は、協定締結日から平成25年3月31日までとする。ただし、この協定書の有効期間満了日の1ヵ月前までに、甲乙いずれからの申し出がない場合は、さらに1年間延長するものとし、以後も同様とする。

（その他）

第5条 この協定書に定めるもののほか、連携協力の細目その他必要な事項については、甲乙が協議のうえ定める。

本協定書は、2通作成し、甲と乙が記名押印のうえ、双方各1通を保有する。

平成24年12月3日

甲：大阪府高槻市桃園町2番1号

高槻市教育委員会
教育長 一瀬



乙：大阪市東淀川区相川3丁目10番62号

大阪成蹊大学
学長 石井 茂



（目的）

第1条 東大阪市教育委員会（以下「甲」という。）と大阪成蹊大学・大阪成蹊短期大学（以下「乙」という。）とは、相互に連携協力し、教職員の資質の向上及び教員養成の充実を図るとともに、教育上の課題等に適切に対応することにより、東大阪市の教育及び大学における教育・研究の充実、発展に資するものとする。

（内容）

第2条 甲と乙とは、連携協力して行う内容は、次のとおりとする。

- (1) 学校現場のニーズに応える教員養成の推進に関すること
- (2) 教職員の資質向上のために必要な研修の推進に関すること
- (3) 乙の学生等による東大阪市立学校園の教育活動及び地域の各種活動への支援の推進に関すること
- (4) 教育上の諸課題に係る研究の実施に関すること
- (5) その他双方が必要と認めること

（方法）

第3条 甲と乙とは、前条の規定による連携協力（以下「連携協力」という。）をするにあたっては、相互の教職員ならびに学生の派遣及び受け入れ、施設整備等の利用について、業務に支障のない限りにおいて、相互に便宜を図るものとする。

（経費）

第4条 甲と乙が、連携協力をするための経費の負担については、原則として各機関が負担する。

（有効期間）

第5条 この協定書の有効期間は、協定締結の日から平成26年3月31日までとする。ただし、この協定書の有効期間満了の日の30日前までに、甲と乙のいずれからも書面をもって改廃の申し入れがない場合は、さらに1年間更新するものとし、その後も同様とする。

（補足）

第6条 この協定書に定めるもののほか、連携協力に関する細目については、甲乙協議して別に定めるものとする。

2 この協定書に定める事項について疑義が生じたときは、甲乙協議して解決を図るものとする。

この協定書は、2通作成し、甲乙両名記名押印の上、各自1通を保有する。

平成25年3月26日

東大阪市教育委員会
教育長 西村 保



大阪成蹊大学
学長 石井 茂



大阪成蹊短期大学
学長 武蔵野 實



教員養成のための豊能地区3市2町教育委員会と学校法人大阪成蹊学園
との連携協力に関する協定書

(目的)

第1条 この協定は、豊中市、池田市、箕面市、豊能町及び能勢町（以下「3市2町」という。）の教育委員会（以下「3市2町教育委員会」という。）と、学校法人大阪成蹊学園大阪成蹊大学、大阪成蹊短期大学、びわこ成蹊スポーツ大学（以下「各大学」という。）が、相互に連携協力し、教職員の資質向上及び教員養成の充実を図るとともに、3市2町における教育及び各大学における教育・研究の充実、発展に資することを目的とする。

(連携協力事業)

第2条 3市2町教育委員会及び各大学（以下「各主体」という。）は、前条の目的を達成するため、次に掲げる事業について連携協力するものとする。

- (1) 3市2町教育委員会が実施する教職員の採用選考に関する情報提供及びその周知に関すること。
- (2) 各主体が実施する教員養成に関する事業に対する3市2町教育委員会の職員又は各大学教員の派遣に関すること。
- (3) 教職員をめざす大学の学生等の学校教育活動の体験機会等の創出に関すること。
- (4) 教員養成に関する諸課題に対応した調査及び研究に関すること。
- (5) その他前条の目的を達成するため3市2町教育委員会及び各大学の双方が必要と認めること。

(事業実施方法の決定)

第3条 各主体は、前条の連携協力事業を実施する場合は、あらかじめ当該事業ごとに協議して、実施方法を決定するものとする。

(経費負担)

第4条 各主体は、連携協力事業の実施に要する経費の負担について、当該事業ごとに協議して定めるものとする。

(有効期間)

第5条 この協定書の有効期間は、協定締結の日から平成26年3月31日までとする。ただし、この協定書の有効期間満了の日の30日前までに、各主体のいずれかからも申入れがないときは、更に1年間有効期間を延長するものとし、それ以降も同様とする。

(補則)

第6条 この協定書に定めるもののほか、連携協力に関し必要な事項については、各主体が協議して、定めるものとする。

2 この協定書に定める事項について疑義が生じた場合は、各主体が誠意をもって協議するものとする。

3 第3条から前条までに規定する協議にあたっては、3市2町教育委員会の窓口を大阪府豊能地区教職員人事協議会に、各大学の窓口を学校法人大阪成蹊学園教育研究支援センターに置くものとする。

この協定書は8通作成し、3市2町教育委員会と各大学がそれぞれ記名押印のうえ、各自1通を所持する。

平成25年(2013年) 2月4日

豊中市教育委員会教育長

大源 文造



池田市教育委員会教育長

村田 隆



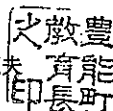
箕面市教育委員会教育長

森田 雅彦



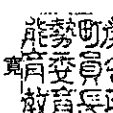
豊能町教育委員会教育長

小川 照夫



能勢町教育委員会教育長職務代理者

瀬川 寛



学校法人大阪成蹊学園理事長
大阪成蹊大学学長

石井 茂



大阪成蹊短期大学学長

武蔵野 寛



びわこ成蹊スポーツ大学学長

飯田 稔



川西市教育委員会並びに大阪成蹊大学、大阪成蹊短期大学及びびわこ成蹊スポーツ大学
との連携協力に関する協定書

(目的)

第1条 川西市教育委員会（以下「甲」という。）並びに大阪成蹊大学（以下「乙」という。）、大阪成蹊短期大学（以下「丙」という。）及びびわこ成蹊スポーツ大学（以下「丁」という。）は、相互に連携協力し、教職員の資質の向上及び教員養成の充実を図るとともに、教育上の諸課題等に適切に対応することにより、川西市の教育及び大学における教育・研究の充実、発展に資するものとする。

(内容)

第2条 甲並びに乙、丙及び丁は、相互に連携協力して、次に掲げる事項を行う。

- (1) 学校現場のニーズに応える教員養成の推進に関する事
- (2) 教職員の資質向上のために必要な研修の推進に関する事
- (3) 乙、丙及び丁の学生等による川西市立学校園の教育活動の支援の推進に関する事
- (4) 教育上の諸課題に係る研究の実施に関する事
- (5) その他双方が必要と認める事

(方法)

第3条 甲並びに乙、丙及び丁は、前条の規定による連携協力（以下「連携協力」という。）を行うに当たっては、業務に支障のない限りにおいて、相互に便宜を図るものとする。

(経費)

第4条 連携協力に必要な経費の負担については、各々の事業ごとに甲と乙、丙又は丁の間で協議の上、決定する。

(有効期間)

第5条 この協定書の有効期間は、協定書締結の日から平成26年3月31日までとする。ただし、この協定書の有効期間満了の日の3カ月前までに、甲並びに乙、丙及び丁のいずれからも書面をもって改廃の申し入れがない場合は、さらに1年間更新するものとし、その後も同様とする。

(補足)

第6条 この協定書に定めるもののほか、連携協力に関する細目については、甲並びに乙、丙及び丁が協議して定めるものとする。

2 この協定書に定める事項について疑義が生じたときは、甲並びに乙、丙及び丁が協議して解決を図るものとする。

この協定書は、4通作成し、甲並びに乙、丙及び丁の各々が各1通を保有する。

平成25年7月9日

(甲) 兵庫県川西市中央町12番1号

(乙) 大阪市東淀川区相川3丁目10番62号

川西市教育委員会

大阪成蹊大学

教育長

学長

牛尾



武蔵野 實

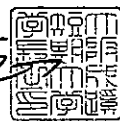


(丙) 大阪市東淀川区相川3丁目10番62号

大阪成蹊短期大学

学長

岡本正志



(丁) 滋賀県大津市北比良1204番地

びわこ成蹊スポーツ大学

学長

飯田 稔



コード	幼稚園保育園名	事業所種別	Q9-A-1 大阪成蹊大学教育学部の卒業生を幼稚園教諭として採用を希望されますか？ 【幼稚園採用】	採用希望人数 【幼稚園教諭】	Q9-A-2 大阪成蹊大学教育学部の卒業生を保育士として採用を希望されますか？ 【保育士採用】	採用希望人数 【保育士】	平成25年8月追加調査結果	
							採用希望人数 【幼稚園教諭】	採用希望人数 【保育士】
00001	鶴見幼稚園	幼稚園	採用したい	2	無回答	-		
00002	蛭池文化幼稚園	幼稚園	採用したい	2	採用したい	2		
00010	聖美幼稚園	幼稚園	採用したい	2	採用したい	1		
00012	無記名	幼稚園	採用したい	2	無回答	-		
00014	認定こども園 庄内幼稚園認定こども園 庄内たちばな保育園	こども園	採用したい	-	採用したい	-	1	1
00015	やまなみ幼稚園	幼稚園	採用したい	1	無回答	-		
00017	喜連東幼稚園	幼稚園	採用したい	-	採用したい	-	1	1
00019	栗生幼稚園	幼稚園	採用したい	2	採用したい	4		
00021	朝陽ヶ丘幼稚園	幼稚園	採用したい	2	どちらとも言えない	-		
00022	鴻池学園幼稚園	幼稚園	採用したい	-	採用の予定はない	-	5	
00028	彩都敬愛幼稚園	こども園	採用したい	2	無回答	-		
00030	山手幼稚園	幼稚園	採用したい	-	採用したい	-	7	3
00032	ふしお台保育所	保育園	どちらとも言えない	-	採用したい	3		
00033	みつばさ保育園	保育園	無回答	-	採用したい	2		
00034	鶴見えのもと保育園	保育園	無回答	-	採用したい	2		
00037	つくしんぼ西保育園	保育園	採用の予定はない	-	採用したい	4		
00038	都島桜宮保育園	保育園	無回答	-	採用したい	-		1
00039	蓮美幼児学園	保育園	無回答	-	採用したい	5		
00040	無記名	保育園	無回答	-	採用したい	2		
00042	たんぼぼbambi保育園	保育園	採用の予定はない	-	採用したい	3		
00046	真上保育園	保育園	無回答	-	採用したい	1		
00048	さかえ保育園	保育園	採用の予定はない	-	採用したい	-		3
00050	大手前保育園	保育園	無回答	-	採用したい	-		
00051	大阪市立茨田東保育所	保育園	無回答	-	採用したい	1		
00053	小野原学園	保育園	無回答	-	採用したい	3		
00055	柳辻保育園	保育園	無回答	-	採用したい	-		2
00056	大宮第2保育所	保育園	採用の予定はない	-	採用したい	-		1
00057	天王保育園	保育園	無回答	-	採用したい	2		
00058	東野田ちどり保育園	保育園	無回答	-	採用したい	-		40
00059	遠里小野保育園	保育園	無回答	-	採用したい	-		2
00060	くれない学園	保育園	無回答	-	採用したい	2		
00061	天川保育園	保育園	無回答	-	採用したい	-		3
00063	南総持寺保育園	保育園	採用したい	-	採用したい	-		
00066	ほづみ保育園	保育園	採用したい	-	採用したい	-		2
00075	無記名	保育園	採用の予定はない	-	採用したい	1		
00077	あびにょん保育園	保育園	無回答	-	採用したい	1		
00078	蓮美幼児学園 千里丘ナーサリー	保育園	無回答	-	採用したい	2		
00099	無記名	保育園	無回答	-	採用したい	1		
00100	保育所第二和光園	保育園	無回答	-	採用したい	2		
00101	不川第2保育所	保育園	採用の予定はない	-	採用したい	2		
00102	青空保育園	保育園	無回答	-	採用したい	3		
00103	藤森保育園	保育園	無回答	-	採用したい	1		
00104	鶴満寺保育所	保育園	無回答	-	採用したい	-		2
00105	あけぼの保育学院	保育園	無回答	-	採用したい	5		
00110	長柄保育園	保育園	無回答	-	採用したい	1		
00111	やまゆり保育園	保育園	採用の予定はない	-	採用したい	-		3
00112	東三国丘保育園	保育園	無回答	-	採用したい	3		
00113	みさき佃保育園	保育園	無回答	-	採用したい	-		2
00114	きたの旭ヶ丘学園	保育園	無回答	-	採用したい	2		
00115	無記名	保育園	無回答	-	採用したい	1		
00116	旭ヶ丘学園	保育園	無回答	-	採用したい	-		2
00117	玉川橋保育園	保育園	無回答	-	採用したい	2		
00118	松ヶ本保育園	保育園	無回答	-	採用したい	2		
00119	城東ちどり保育園	保育園	無回答	-	採用したい	-		5
00120	住吉保育園	保育園	無回答	-	採用したい	2		
00121	佐井寺たんぼぼ保育園	保育園	無回答	-	採用したい	2		
00125	彩都敬愛保育園	保育園	無回答	-	採用したい	3		
00126	徳蔵寺保育園	保育園	無回答	-	採用したい	-		3
00127	相川保育園	保育園	無回答	-	採用したい	-		4
00128	無記名	保育園	無回答	-	採用したい	1		
00129	たんぼぼ中条保育園	保育園	無回答	-	採用したい	-		5
00130	無記名	保育園	無回答	-	採用したい	1		
00131	なかよしわんぱく保育園	保育園	無回答	-	採用したい	2		
00132	茨木山学園	保育園	無回答	-	採用したい	-		4
00133	かんらん保育園	保育園	無回答	-	採用したい	2		
00134	夢の鳥保育園	保育園	採用したい	-	採用したい	-		30
00135	彩都保育園	保育園	無回答	-	採用したい	-		2
00136	もろぐち保育園	保育園	無回答	-	採用したい	2		
00137	姫室保育園	保育園	無回答	-	採用したい	3		
00138	豊原学園	保育園	無回答	-	採用したい	5		
00139	おひさま岡町保育園	保育園	採用の予定はない	-	採用したい	1		

コード	幼稚園保育園名	事業所 種別	Q9-A-1 大阪成 蹊大学教育学部 の卒業生を幼稚 園教諭として採 用を希望されま すか？ 【幼稚園採用】	採用希望 人数 【幼稚園 教諭】	Q9-A-2 大阪成 蹊大学教育学部 の卒業生を保育 士として採用を希 望されますか？ 【保育士採用】	採用希 望人 数 【保育 士】	平成25年8月 追加調査結果	
							採用希 望人数 【幼稚園 教諭】	採用希 望人数 【保育 士】
00140	あけぼのベビーセンター	保育園	無回答	-	採用したい	-		
00141	無記名	保育園	無回答	-	採用したい	3		
00142	ちとせ保育園	保育園	採用の予定はない	-	採用したい	2		
00143	湯里保育園	保育園	無回答	-	採用したい	-		2
00156	白ばら幼稚園	幼稚園	採用したい	-	無回答	-	2	
00157	りんでん学園	幼稚園	採用したい	2	採用の予定はない	-		
00158	天王学園幼稚園	幼稚園	採用したい	2	どちらとも言えない	-		
00159	千里敬愛幼稚園	幼稚園	採用したい	-	採用の予定はない	-	2	
00160	豊南幼稚園	幼稚園	採用したい	1	無回答	-		
00161	住の江幼稚園	幼稚園	採用したい	1	採用したい	1		
00162	茶山台幼稚園	幼稚園	採用したい	2	採用したい	1		
00163	小曽根幼稚園	幼稚園	採用したい	1	採用の予定はない	-		
00164	みすず学園森町こども園	こども園	採用したい	-	採用したい	-	2	2
00165	豊中みどり幼稚園 豊中みどりっこ保育園	幼稚園	採用したい	1	採用したい	1		
00166	住吉清水学園おりおの幼稚園	幼稚園	採用したい	1	採用の予定はない	-		
00167	御崎幼稚園	幼稚園	採用したい	-	採用したい	-	2	
00168	まこと幼稚園	幼稚園	採用したい	2	無回答	-		
00169	ルンビニ学園幼稚園	幼稚園	採用したい	-	無回答	-	2	
00170	鮎川幼稚園	幼稚園	採用したい	1	採用の予定はない	-		
00171	大阪女子高等学校附属朝陽幼稚園	幼稚園	採用したい	2	無回答	-		
00176	朝陽幼稚園	幼稚園	採用したい	1	採用の予定はない	-		
00181	岸部敬愛保育園	保育園	採用したい	4	採用したい	2		
00182	せつつ保育園	保育園	無回答	-	採用したい	2		
00183	とりかい保育園	保育園	無回答	-	採用したい	1		
00184	諏訪保育園	保育園	無回答	-	採用したい	5		
00185	たちばな保育園	保育園	無回答	-	採用したい	7		
00186	たんぽぽ安威保育園	保育園	無回答	-	採用したい	-		3
00187	すみれ保育園	保育園	無回答	-	採用したい	1		
00188	阿武山たつの子保育園	保育園	無回答	-	採用したい	-		2
00198	大阪市立豊里第2保育所	保育園	採用したい	-	採用したい	-		2
00209	豊里幼稚園	幼稚園	採用したい	-	無回答	-	2	
00210	御幣島幼稚園	幼稚園	採用したい	-	採用したい	-	4	
00211	曾根幼稚園	幼稚園	採用したい	-	無回答	-	1	
00212	無記名	幼稚園	採用したい	-	どちらとも言えない	-		
00213	ひばり幼稚園	幼稚園	採用したい	2	無回答	-		
00214	開成幼稚園幼児教育学園	幼稚園	採用したい	2	無回答	-		
00215	長池幼稚園	幼稚園	採用したい	1	採用の予定はない	-		
00216	東高殿幼稚園	幼稚園	採用したい	2	無回答	-		
00217	万代幼稚園	こども園	採用したい	-	採用したい	-	3	2
00219	無記名	こども園	採用したい	3	採用したい	-		
00220	アスール幼稚園	幼稚園	採用したい	-	無回答	-	2	
00221	関目聖マリア幼稚園	幼稚園	採用したい	1	採用したい	1		
00222	服部幼稚園	幼稚園	採用したい	-	採用の予定はない	-	3	
00223	諸口幼稚園	幼稚園	採用したい	-	無回答	-		
00224	茨木東邦幼稚園	幼稚園	採用したい	-	採用したい	-	2	2
00225	無記名	幼稚園	採用したい	-	無回答	-		
00226	東豊中幼稚園	幼稚園	採用したい	4	採用の予定はない	-		
00227	郡山敬愛幼稚園	幼稚園	採用したい	4	無回答	-		
00228	熊野田幼稚園	幼稚園	採用したい	-	採用したい	-	5	5
00229	箕面桜ヶ丘幼稚園	幼稚園	採用したい	-	無回答	-	1	
00230	喜連幼稚園	幼稚園	採用したい	-	採用したい	-	2	1
00231	奥林学園	幼稚園	採用したい	3	無回答	-		
00232	岸部敬愛幼稚園	幼稚園	採用したい	1	無回答	-		
00233	みなと幼稚園	幼稚園	採用したい	-	無回答	-	4	
00234	青い鳥幼稚園	幼稚園	採用したい	2	採用の予定はない	-		
00235	南港幼稚園	幼稚園	採用したい	1	採用したい	1		
00236	無記名	幼稚園	採用したい	2	無回答	-		
00237	みつや・めぐみ幼稚園	幼稚園	採用したい	1	どちらとも言えない	-		
00238	摂津ひかり幼稚園摂津ひかりにこにこ保育園	こども園	採用したい	-	採用したい	-	3	3
00239	第二愛育園	保育園	無回答	-	採用したい	-	10	10
00240	とりかいひかし保育園	保育園	採用の予定はない	-	採用したい	3		
00241	あけぼのぶんぶん	保育園	採用したい	-	採用したい	-		2
00242	無記名	保育園	無回答	-	採用したい	5		
00243	こどもの国敬愛保育園	保育園	無回答	-	採用したい	2		
00244	たんぽぽ保育園	保育園	無回答	-	採用したい	3		
00245	今福南保育所	保育園	採用の予定はない	-	採用したい	-		2
				65		131	66	159

※こども園以外で、幼稚園教員及び保育士の両方に採用希望人数を記入している園は、将来のこども園への移行を考慮しているものと思われる。

平成 25 年 8 月

大阪成蹊大学 教育学部教育学科（設置認可申請中） の設置構想に係わるアンケート調査票【幼稚園・保育園向け】

平成 24 年 9 月から 10 月にかけて実施しました大阪成蹊大学教育学部教育学科（仮称）のアンケート調査にお答えいただき誠にありがとうございました。その調査の採用意向をお聞きした問いにおきまして「採用したい」とお答えいただきましたが、採用人数につき再度ご質問いたします。ご多忙中恐縮ですが、ご協力の程よろしく申し上げます。

■貴園・貴所の概要についてお聞きます。あてはまる番号に○をつけてください。

1. 幼稚園 2. 保育園・保育所 3. こども園

Q3. 保育士の採用について
採用希望人数【 名】

電話 06 (6829) 2620

一般企業追加アンケート調査結果

(調査期間：平成25年8月1日から8月8日)

資料 30

番号	企業名	業種	上場区分	所在地	回答
1	高木証券(株)	証券	東証2部	大阪市北区	採用したい
2	(株)ジョイックコーポレーション	アパレル		東京都中央区	採用したい
3	宝不動産(株)	不動産		名古屋市熱田区	採用したい
4	サンヨーホームズ(株)	住宅	東証1部	大阪市西区	採用したい
5	福西電機(株)	電設資材		大阪市北区	採用したい
6	(株)コスモネット	情報通信		京都市中京区	採用したい
7	(株)ダイサン	建築資材	東証2部	大阪市中央区	どちらとも言えない
8	ブリヂストンタイヤ北大阪販売(株)	タイヤ		大阪府豊中市	採用したい
9	(株)イケガミ	アパレル		大阪市北区	採用したい
10	(株)ウエルネスサプライ	スポーツ施設派遣		大阪市西区	採用したい
11	(株)ネットヨタ中央大阪	カーディーラー		大阪市中央区	採用したい
12	(株)寺内	雑貨卸		京都市中京区	採用したい
13	(株)家族亭	外食		大阪市中央区	採用したい
14	佐川印刷(株)	印刷		京都府向日市	採用したい
15	大阪レンタル(株)	建機レンタル		大阪府茨木市	採用したい
16	(株)アイテム	通信商社		大阪市西区	採用したい
17	ゴールドフラッグ(株)	アパレル		大阪市中央区	どちらとも言えない
18	エクセルヒューマン(株)	SPA(製造小売)		大阪府堺市	採用したい
19	(株)トランスコスモス・テクノロジーズ	情報通信		横浜市西区	採用したい
20	ストーリーテラー(株)	写真スタジオ		大阪市城東区	どちらとも言えない
21	(株)万代	小売		大阪府東大阪市	採用したい
22	ロングライフホールディング(株)	介護サービス	ジャスダック	大阪市北区	採用したい
23	(株)ソーシャルブリッジ	人材紹介・教育		東京都千代田区	採用したい
24	(株)ベネッセコーポレーション	教育		岡山市	採用したい
25	(株)学情	人材広告・紹介		大阪市北区	採用したい
26	(株)夢真ホールディングス	建設	ジャスダック	東京都文京区	採用したい
27	(株)ライセンスアカデミー	教育		東京都新宿区	採用したい
28	タマノイ酢(株)	食品		大阪府堺市	採用したい
29	(株)カトープレジャーグループ	レジャー		大阪市天王寺区	採用したい
30	(株)関西丸和ロジスティクス	物流・運輸		京都府綾部市	採用したい
31	(株)大倉	住宅・建築		大阪市北区	採用したい
32	(株)ネクスト	インターネット付随サービス	東証1部	東京都港区	採用したい
33	(株)タムラ製作所	電子機器製造	東証1部	東京都練馬区	採用したい
34	(株)阪南ビジネスマシン	印刷・OA機器販売		大阪府堺市	採用したい
35	日本PCサービス(株)	家電機器修理サービス		大阪府吹田市	採用したい
36	(株)アッシュペーパー	ファッション		東京都渋谷区	採用したい
37	(株)成学社	教育	ジャスダック	大阪市北区	採用したい
38	オークラハウジング(株)	住宅管理		大阪市北区	採用したい
39	(株)カプコン	ゲーム開発・販売	東証1部	大阪市中央区	どちらとも言えない
40	大倉土木(株)	土木		大阪市北区	採用したい
41	(株)トーセ	ゲーム開発	東証1部	京都市下京区	どちらとも言えない
42	オグランジャパン(株)	アパレル製造		東京都中央区	採用したい
43	合鉄産業(株)	鉄鋼		大阪市北区	採用したい
44	(株)ロードカー	自動車		大阪市西区	採用したい
45	(株)ダイリキ	小売		大阪市西区	採用したい
46	(株)ワンダイニング	飲食		大阪市西区	採用したい
47	リゾートトラスト(株)	ホテル	東証1部	名古屋市中区	採用したい
48	(株)ナルミヤ・インターナショナル	アパレル		東京都港区	採用したい
49	KOSモバイル(株)	情報通信		大阪市西区	採用したい
50	(株)パイオン	情報通信	ジャスダック	大阪市中央区	採用したい
51	(株)トヨタカロラ新大阪	自動車		大阪市淀川区	採用したい

52	(株)チュチュアンナ	アパレル		大阪市阿倍野区	採用したい
53	(株)ツカサ	インテリア		京都市右京区	どちらとも言えない
54	旭商工(株)	商社		大阪府高槻市	どちらとも言えない
55	(株)ジェイアール西日本フードサービス	鉄道		大阪市淀川区	採用したい
56	(株)信和ゴルフメンテナンス	ゴルフ場運営		京都市中京区	採用したい
57	(株)トヨタレンタリース京都	リース		京都市南区	採用したい
58	(株)ダイヤモンドソサエティ	ホテル		大阪市中央区	採用したい
59	(株)シティーヒル	アパレル		大阪市中央区	採用したい
60	(株)八光殿	冠婚葬祭		大阪府八尾市	採用したい
61	(株)ハナテン	中古車		大阪市城東区	どちらとも言えない
62	(株)G-7ホールディング	カー用品・業務スーパー		神戸市須磨区	どちらとも言えない
63	(株)イレブンインターナショナル	自動車シート製造		大阪府松原市	どちらとも言えない
64	(株)辰巳電子工業(株)	ゲーム開発		奈良県橿原市	採用したい
65	(株)くらコーポレーション	飲食		大阪府堺市	採用したい
66	(株)引越社関西	物流		大阪府吹田市	採用したい
67	(株)マリノ	イタリアンレストラン		横浜市港北区	採用したい
68	(株)ニッカ	靴販売		千葉県浦安市	採用したい
69	(株)オペーションファクトリー	飲食・調理		大阪市西区	採用したい
70	(株)Be-Groove	アパレル		大阪市北区	採用したい
71	(株)フジデン	情報通信		兵庫県尼崎市	採用したい
72	(株)ファニーワーク	教材販売		埼玉県上尾市	採用したい
73	(株)ユタカ研装	建設		大阪市浪速区	採用したい
74	(株)キンレイ	外食		大阪市中央区	採用したい
75	(株)三井住友銀行	金融	東証1部	東京都千代田区	採用したい
76	(株)関西アーバン銀行	金融	東証1部	大阪市中央区	採用したい
77	(株)りそな銀行	金融	東証1部	東京都江東区	採用したい
78	摂津水都信用金庫	金融		大阪府茨木市	採用したい
79	(株)富士通マーケティング	情報通信		東京都文京区	採用したい
80	(株)内田洋行	事務機	東証1部	大阪市中央区	採用したい
81	(株)阪急製作所	建築		大阪市淀川区	採用したい
82	阪急百貨店ユニフォーム(株)	制服販売		大阪市北区	採用したい
83	(株)前田組	建設・土木		大阪府寝屋川区	採用したい
84	(株)滋賀銀行	金融	東証1部	滋賀県大津市	採用したい

(集計)

調査対象企業数	回答数	「採用したい」の回答数	「どちらとも言えない」の回答数
84	84	74	10

平成 25 年 8 月

大阪成蹊大学 教育学部教育学科（設置認可申請中）
設置構想に係るアンケート調査

貴社名：_____

Q 1. 大阪成蹊大学教育学部（設置認可申請中）の卒業生を採用する可能性はありますか？
（あてはまるもの 1 つに○）

- 1. 採用したい
- 2. どちらとも言えない
- 3. 採用しない

Q 2. 貴社が採用する学生に求めるものは何ですか？（あてはまるもの全てに○）

1. コミュニケーション能力	2. 基礎的な学力
3. 専門的な知識	4. 社会常識
5. 積極的な行動力	6. 仕事への積極性
7. チームで働く力	8. 教育への情熱
9. 目標達成への意欲	10. トラブル解決能力
11. 忍耐力	12. ボランティアでの経験など
13. 取得資格	14. その他（ ）

教 員 名 簿

学 長 の 氏 名 等						
調書 番号	役職名	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額基本給 (千円)	現 職 (就任年月)
	学長	武蔵野 實 ＜平成25年4月＞		理学博士		大阪成蹊大学 学長 (平成25年4月1日)

別記様式第3号（その2の1）

（用紙 日本工業規格A4縦型）

調書 番号	専任 等 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配 年 次	担 単 位 数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係 る大学等 の職務に 従事する 週当たり 平均日数
1	専	教授 (学部長)	ミラ カンイ 三村 寛一 ＜平成26年4月＞		学術博士		保育内容（健康） 体育学研究 水泳 子どもの安全と学校 専門基礎演習Ⅰ 専門基礎演習Ⅱ 専門演習Ⅰ 専門演習Ⅱ	2前 4後 1前 「集中」 1後 3前 3後 4前 4後	4 2 1 2 2 2 2	2 1 1 1 1 1 1	大阪成蹊大学 教授 (平24.10)	5日
2	専	教授	ソノダ マサハル 園田 雅春 ＜平成26年4月＞		修士 (教育学)		生徒・進路指導論※ 道徳教育の指導法 特別活動の指導法 専門基礎演習Ⅰ 専門基礎演習Ⅱ 専門演習Ⅰ 専門演習Ⅱ キャリア演習Ⅱ 大学での学びとキャリアを 考える 基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 基礎ゼミⅢ	2後 3前 3後 3前 3後 4前 4後 3後 1前 1後 2前 2後	2 4 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	大阪教育大学 教育学部 特任教授 (平25.4)	5日
3	専	教授	アサイ ムネミ 浅井 宗海 ＜平成26年4月＞		理学修士		情報リテラシーⅠ 情報リテラシーⅡ 教育方法論※ 教育プロジェクト演習 専門基礎演習Ⅰ 専門基礎演習Ⅱ 専門演習Ⅰ 専門演習Ⅱ	1前 1後 3前 4前 3前 3後 4前 4後	8 4 2 2 2 2 2 2	4 2 1 1 1 1 1 1	大阪成蹊大学 マネジメント 学部 教授 (平20.4)	5日
4	専	教授 (学科長)	アベ ケイコ 安部 恵子 ＜平成26年4月＞		博士 (学校教育学)		体育科指導法Ⅰ 体育科指導法Ⅱ 体育科内容論 体育実技Ⅰ※ 体育実技Ⅱ※ 専門基礎演習Ⅰ 専門基礎演習Ⅱ 専門演習Ⅰ 専門演習Ⅱ	2後 4前 2前 1前 1後 3前 3後 4前 4後	2 2 4 1 1 2 2 2 2	1 1 2 1 1 1 1 1 1	大阪成蹊大学 教授 (平25.4)	5日
5	専	教授	スズキ マサヨ 鈴木 昌世 ＜平成26年4月＞		博士 (教育学)		教職論※ 保育教育課程論（幼稚園） 保育内容総論 教育実習Ⅰ（幼稚園） 教育実習Ⅱ（幼稚園） 保育実習Ⅰ－1 保育実習Ⅰ－2 保育実習指導Ⅰ－1 保育実習指導Ⅰ－2 保育実践演習 専門基礎演習Ⅰ 専門基礎演習Ⅱ 専門演習Ⅰ 専門演習Ⅱ	1後 2後 2前 3前 3後 2後 3前 2後 3前 4後 3前 3後 4前 4後	2 2 4 2 2 2 1 1 2 2 2 2 2 2	1 1 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	和歌山信愛女子短期大学 保育科 准教授 (平17.4)	5日
6	専	教授	アサキ サチ 青木 知史 ＜平成26年4月＞		修士※ (教育学)		大学での学びとキャリアを 考える 教育心理学※ 学校教育相談※ 教育実習事前事後指導（幼 稚園） 教育実習Ⅰ（幼稚園） 教育実習Ⅱ（幼稚園） 保育実習Ⅱ 保育実習指導Ⅱ 基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 基礎ゼミⅢ 専門基礎演習Ⅰ 専門基礎演習Ⅱ 専門演習Ⅰ 専門演習Ⅱ キャリア演習Ⅱ	1前 2後 3前 3前 3前 3後 4前 4前 1後 2前 2後 3前 3後 4前 4後 3後	2 2 1 1 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 0.5 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	大阪成蹊短期 大学児童教育 学科 教授 (平23.4)	5日

7	専	教授	スズキ タツジ 鈴木 卓治 ＜平成26年4月＞		修士 (教育学)	大学での学びとキャリアを 考える 子どもの成長とコミュニ ティ 企業インターンシップⅠ 企業インターンシップⅡ 教育学※ 生徒・進路指導論※ 学校教育相談※ 学校・施設ボランティア 教職実践演習（幼稚園、小 学校）※ 基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 基礎ゼミⅢ 専門基礎演習Ⅰ 専門基礎演習Ⅱ 専門演習Ⅰ 専門演習Ⅱ	1前 4後 2前 3前 1前 2後 3前 3前 4後 1後 2前 2後 3前 3後 4前 4後	2 2 2 2 2 2 1 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 0.5 1 1 1 1 1 1 1	大阪成蹊大学 芸術学部 教授 (平25.4)	5日
8	専	准教授	ヤマダ トシオ 山田 敏男 ＜平成26年4月＞		教育学士	大学での学びとキャリアを 考える 教職論※ 算数科内容論※ 学校教育論※ 教育実習事前事後指導（小 学校） 教育実習（小学校） 教職実践演習（幼稚園、小 学校）※ 基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 基礎ゼミⅢ 専門基礎演習Ⅰ 専門基礎演習Ⅱ 専門演習Ⅰ 専門演習Ⅱ キャリア演習Ⅲ	1前 1後 2前 1後 3前 3前 4後 1後 1後 2前 2後 3前 3後 4前 4後 4前	2 2 2 1 1 4 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 0.5 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	大阪成蹊短期 大学児童教育 学科 准教授 (平23.4)	5日
9	専	准教授	ニシカワ ヒデトモ 西川 秀智 ＜平成26年4月＞		教育学修 士	社会科指導法Ⅰ 生活科指導法Ⅰ 社会科指導法Ⅱ 生活科指導法Ⅱ 社会科内容論 生活科内容論 基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅢ 基礎ゼミⅢ 専門基礎演習Ⅰ 専門基礎演習Ⅱ 専門演習Ⅰ 専門演習Ⅱ 基礎教養（理科、社会） ※	3前 2後 4後 4前 2後 2前 1後 2後 3前 3後 4前 4後 1前	2 2 2 2 2 4 2 2 2 2 2 2 2 1	1 1 1 1 1 2 1 1 1 1 1 1 0.5	羽曳野市立高 鷺小学校 校長 (平21.4)	5日
10	専	准教授	フジマル イチロウ 藤丸 一郎 ＜平成26年4月＞		教育学修 士	大学での学びとキャリアを 考える 図画工作科指導法Ⅰ 図画工作科指導法Ⅱ 図画工作科内容論 造形遊び 子どもとワークショップ 鑑賞教育 基礎ゼミⅡ 専門基礎演習Ⅰ 専門基礎演習Ⅱ 専門演習Ⅰ 専門演習Ⅱ キャリア演習Ⅰ	1前 2前 4後 1後 1後 1前 3後 2前 3前 3後 4前 4後 3前	2 2 2 4 4 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 2 2 1 1 1 1 1 1 1 1	寝屋川市立梅 が丘小学校 校長 (平23.4)	5日
11	専	准教授	ツジムラ ケイゾウ 辻村 敬三 ＜平成26年4月＞		修士 (教育学)	大学での学びとキャリアを 考える 子どもと文化 国語科指導法Ⅰ 国語科指導法Ⅱ 国語科内容論 基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 基礎ゼミⅢ 専門基礎演習Ⅰ 専門基礎演習Ⅱ 専門演習Ⅰ 専門演習Ⅱ キャリア演習Ⅱ 基礎教養（国語、算数）※	1前 1後 2後 3前 2前 1後 2前 2後 3前 3後 4前 4後 3後 1後	2 4 2 2 4 2 2 2 2 2 2 2 2 1	1 2 1 1 2 1 1 1 1 1 1 1 0.5	大阪成蹊短期 大学児童教育 学科 准教授 (平25.4)	5日

12	専	准教授	イシダ タカコ 石田 貴子 ＜平成26年4月＞		修士※ (教育学)	大学での学びとキャリアを 考える 保育教育課程論（幼稚園） 保育方法論 保育原理 保育実習Ⅰー1 保育実習指導Ⅰー1 保育実習Ⅲ 保育実習指導Ⅲ 保育実践演習 基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 基礎ゼミⅢ 専門基礎演習Ⅰ 専門基礎演習Ⅱ 専門演習Ⅰ 専門演習Ⅱ	1前 2後 3前 2前 2後 2後 4前 4前 4後 1後 2前 2後 3前 3後 4前 4後	2 2 2 4 2 1 2 1 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	いわき短期大 学幼児教育科 教授 (平24.3まで)	5日
13	専	准教授	ハシモト タカヒロ 橋本 隆公 ＜平成26年4月＞		修士 (教育学)	大学での学びとキャリアを 考える 算数科指導法Ⅰ 算数科指導法Ⅱ 算数科内容論※ 海外教育演習 基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 基礎ゼミⅢ 専門基礎演習Ⅰ 専門基礎演習Ⅱ 専門演習Ⅰ 専門演習Ⅱ キャリア演習Ⅱ キャリア演習Ⅲ 基礎教養（国語、算数）※	1前 2後 3前 2前 3後 1後 2前 2後 3前 3後 4前 4後 3後 4前 4後 1後	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 0.5	大阪教育大学 教育学部附属 平野小学校 副校長 (平24.4)	5日
14	専	准教授	ハノ ユツコ 羽野 ゆつ子 ＜平成26年4月＞		博士 (教育学)	大学での学びとキャリアを 考える 心理学 教育心理学※ 芸術療法論 教育の事例研究 教育プロジェクト演習 基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 基礎ゼミⅢ 専門基礎演習Ⅰ 専門基礎演習Ⅱ 専門演習Ⅰ 専門演習Ⅱ 教職基礎Ⅰ※ 教職基礎Ⅱ※	1前 1・2後 2後 3後 2前 4前 1後 2前 2後 3前 3後 4前 4後 2前 2後	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 0.5 0.5	大阪成蹊大学 芸術学部 准教授 (平20.4)	5日
15	専	准教授	フジサキ アユユ 藤崎 亜由子 (湯田 亜由子) ＜平成28年4月＞		博士 (学術)	幼児理解 教育実習Ⅱ（幼稚園） 保育実習Ⅰ-2 保育実習指導Ⅰ-2 専門基礎演習Ⅰ 専門基礎演習Ⅱ 専門演習Ⅰ 専門演習Ⅱ キャリア演習Ⅰ キャリア演習Ⅱ キャリア演習Ⅲ	4前 3後 3前 3前 3前 3後 4前 4後 3前 3後 4前 4後	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	大阪成蹊短期 大学児童教育 学科 准教授 (平23.4)	5日
16	専	准教授	アカザ マサヨ 赤沢 真世 ＜平成27年4月＞		修士※ (教育 学)	教育課程論（小学校） 教育方法論※ 外国語活動 （小学校英語Ⅰ） 外国語活動 （小学校英語Ⅱ） 教育インターンシップⅠ 教育実習事前事後指導（小 学校） 専門基礎演習Ⅰ 専門基礎演習Ⅱ 専門演習Ⅰ 専門演習Ⅱ 大学での学びとキャリアを 考える 基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 基礎ゼミⅢ	2前 3前 4前 4後 2前 3前 3前 3後 4前 4後 1前 1後 2前 2後	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	立命館大学ス ポーツ健康科 学部 准教授 (平22.4)	5日

17	専	講師	アズマ マリコ 東 真理子 ＜平成26年4月＞		修士 (教育学)	大学での学びとキャリアを 考える 音楽科指導法Ⅰ 音楽科指導法Ⅱ 保育内容（表現1） 音楽科内容論 ピアノ実技Ⅰ ピアノ実技Ⅱ ピアノ実技Ⅲ 合唱指導法 基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 基礎ゼミⅢ 専門基礎演習Ⅰ 専門基礎演習Ⅱ 専門演習Ⅰ 専門演習Ⅱ キャリア演習Ⅲ	1前 2前 4後 2前 1後 1前 1後 2前 1後 1後 2前 2後 3前 3後 4前 4後 4前	2 2 2 4 4 1 1 1 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 2 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	大阪成蹊短期 大学 非常勤講師 (平25.4)	5日
18	専	講師	フクオカ リョウジ 福岡 亮治 ＜平成26年4月＞		修士 (教育学)	大学での学びとキャリアを 考える 理科指導法Ⅰ 理科指導法Ⅱ 理科内容論 教育インターンシップⅠ 教育インターンシップⅡ 基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 基礎ゼミⅢ 専門基礎演習Ⅰ 専門基礎演習Ⅱ 専門演習Ⅰ 専門演習Ⅱ キャリア演習Ⅰ キャリア演習Ⅱ 基礎教養（理科、社会）※	1前 3前 4後 2後 2前 2後 1後 2前 2後 3前 3後 4前 4後 3前 3後 1前	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 0.5	京都市立桂坂 小学校 教諭 (平25.4)	5日
19	専	講師	イトウ ゲン 井藤 元 ＜平成26年4月＞		博士 (教育学)	大学での学びとキャリアを 考える 教育学※ 学校教育論※ 海外教育演習 教育実習事前事後指導（幼 稚園） 介護等体験（施設） 基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 基礎ゼミⅢ 専門基礎演習Ⅰ 専門基礎演習Ⅱ 専門演習Ⅰ 専門演習Ⅱ 教職基礎Ⅰ※ 教職基礎Ⅱ※	1前 1前 1後 3後 3前 2前 1後 2前 2後 3前 3後 4前 4後 2前 2後	2 2 1 2 1 2 2 2 2 2 2 2 2 1 1	1 1 0.5 1 1 1 1 1 1 1 1 1 0.5 0.5	大阪成蹊短期 大学児童教育 学科 専任講師 (平23.4)	5日
20	兼任	教授	ナカムラ タカシ 中村 隆嗣 ＜平成26年4月＞		文学修士	日本の文学 大阪の風土と文化	1・2前 1・2後	2 2	1 1	大阪成蹊大学 マネジメント 学部 教授 (平19.4)	
21	兼任	教授	ツツミ マサシ 堤 正史 ＜平成26年4月＞		博士 (哲学)	人間と宗教 哲学 人権と社会 現代倫理	1・2後 1・2前 1・2後 1・2前	2 2 2 2	1 1 1 1	大阪成蹊大学 マネジメント 学部 教授 (平15.4)	
22	兼任	教授	ウツミ リョウコ 内海 涼子 ＜平成26年4月＞		文学修士	民族学	1・2前	2	1	大阪成蹊大学 芸術学部 教授 (平21.4)	
23	兼任	教授	クニカタ タカシ 國方 太司 ＜平成27年4月＞		教育学修 士	英語表現Ⅰ 英語表現Ⅱ 海外短期語学研修	3前 3後 2前	2 2 2	2 2 1	大阪成蹊大学 マネジメント 学部 教授 (平16.4)	
24	兼任	教授	ヤマモト キミヨ 山本紀美子 ＜平成26年4月＞		文学修士	英語基礎Ⅰ 英語基礎Ⅱ 英語演習Ⅰ 英語演習Ⅱ	1前 1後 2前 2後	2 2 2 2	2 2 2 2	大阪成蹊大学 マネジメント 学部 教授 (平19.4)	
25	兼任	准教授	カジ 鍛治 イタル 致 ＜平成26年4月＞		修士（言 語文化 学）	社会学概論 多文化共生社会	1・2前 1・2後	2 2	1 1	大阪成蹊大学 マネジメント 学部 准教授 (平22.4)	
26	兼任	准教授	チヨ ハラリョウイチ 千代原亮一 ＜平成26年4月＞		修士 (法学)	日本国憲法	1前	4	2	大阪成蹊大学 マネジメント 学部 准教授 (平20.4)	

27	兼任	講師	フジモト シンゲオ 藤本 繁夫 ＜平成26年4月＞		医学博士		生命と科学	1・2後	2	1	大阪市立大学 大学院医学研究科 教授 (平12.4)	
28	兼任	講師	ビョン ウンジョン 邊 恩田 ＜平成27年4月＞		博士 (国文学)		韓国語入門Ⅰ 韓国語入門Ⅱ	2前 2後	1 1	1 1	同志社大学 文学部 嘱託講師 (平8.4)	
29	兼任	講師	フルタ トモコ 古田 豊子 ＜平成27年4月＞		教育学士		家庭科指導法 家庭科内容論	2後 2前	2 2	1 1	大阪成蹊短期 大学 非常勤講師 (平22.4)	
30	兼任	講師	シノハラ いくよ 篠原 いくよ ＜平成29年4月＞		修士 (教育学)		保育相談支援	4前	2	2	大阪成蹊短期 大学児童教育学 科 准教授 (平24.4)	
31	兼任	講師	オオツキ マサトシ 大槻 雅俊 ＜平成26年4月＞		教育学修士※		国際理解教育	1・2後	2	1	大阪成蹊短期 大学児童教育学 科 准教授 (平24.4)	
32	兼任	講師	シライシ タツオ 白石 龍生 ＜平成27年4月＞		医学博士		子どもの保健Ⅰ-1 子どもの保健Ⅰ-2 子どもの保健Ⅱ	2前 2後 3前	4 4 2	2 2 2	大阪教育大学 教育学部 教授 (平10.4)	
33	兼任	講師	ナカジマ トモコ 中島 智子 ＜平成28年4月＞		教育学修士※		教育行政学	3後	2	1	ブール学院大学 国際文化学 部 教授 (平19.4)	
34	兼任	講師	チン ショウギ 陳 昭宜 ＜平成27年4月＞		文学士		中国語入門Ⅰ 中国語入門Ⅱ	2前 2後	1 1	1 1	大阪成蹊大学 非常勤講師 (平16.4)	
35	兼任	講師	イノウエ ナオユキ 井上 尚之 ＜平成26年4月＞		博士 (学術)		環境と科学 暮らしの科学 物質と科学	1・2後 1・2前 1・2前	2 2 2	1 1 1	大阪成蹊大学 非常勤講師 (平21.4)	
36	兼任	講師	ヤスダ シ ヅカ 安田志津香 ＜平成28年4月＞		教育学修士		家庭支援論	3後	4	2	大阪成蹊短期 大学児童教育学 科 准教授 (平24.4)	
37	兼任	講師	ヒカサ 目笠みどり ＜平成26年4月＞		修士 (教育学)		リトミック	1前	4	2	M・EMOTION 主宰 (平14.4)	
38	兼任	講師	オカモト マサコ 岡本 雅子 ＜平成28年4月＞		修士※ (教育学)		保育内容（言葉）	3前	4	2	関西福祉科学 大学社会福祉 学部 准教授 (平19.4)	
39	兼任	講師	ヒガシネ ユウコ 東根 裕子 ＜平成28年4月＞		修士 (学術)		子どもの食と栄養	3後	4	2	大阪青山大学 健康科学部 教授 (平25.4)	
40	兼任	講師	アサノ ハコ 朝野 典子 ＜平成28年4月＞		音楽学士		音楽療法	3後	2	1	滋賀短期大学 幼児教育保育 学科 非常勤講師 (平20.4)	
41	兼任	講師	ミヨシ グコ 三好 伸子 ＜平成27年4月＞		修士（臨 床教育 学）		乳児保育 障害児保育	2前 2後	4 4	2 2	大阪成蹊短期 大学児童教育学 科 専任講師 (平25.4)	
42	兼任	講師	クロダ エリコ 黒田 恵梨子 ＜平成27年4月＞		修士※ (文学)		フランス語入門Ⅰ フランス語入門Ⅱ	2前 2後	1 1	1 1	大阪成蹊大学 非常勤講師 (平15.4)	
43	兼任	講師	ナイノウ マキ 内藤 真希 ＜平成27年4月＞		修士※ (教育学)		保育内容（人間関係）	2後	4	2	学校法人共立 学園新光明池 幼稚園 園長 (平11.4)	

44	兼任	講師	アベ ヒサン 安部 永 ＜平成28年4月＞		修士 (教育学)		材料研究	3前	2	1	大阪樟蔭女子 大学児童学部 准教授 (平19.4)	
45	兼任	講師	カドワキ 門脇むつみ ＜平成26年4月＞		博士 (文学)		京都の文化と芸術	1・2前	2	1	城西国際大学 国際人文学部 准教授 (平24.3ま で)	
46	兼任	講師	タキガワ コウジ 瀧川 光治 ＜平成28年4月＞		博士 (教育学)		保育内容（環境）	3前	4	2	関西国際大学 教育学部 准教授 (平22.4)	
47	兼任	講師	ハラダ ジュンヤ 原田 旬哉 ＜平成28年4月＞		修士 (文学)		相談援助 社会的養護内容	3後 3前	2 2	2 2	大阪成蹊短期 大学児童教育 学科 専任講師 (平24.4)	
48	兼任	講師	スギタ リツコ 杉田 律子 ＜平成28年4月＞		修士※ (教育学)		特別支援教育	3後	2	1	兵庫大学短期 大学部 保育科 講師 (平25.4)	
49	兼任	講師	シオタ ショウコ 塩田 祥子 ＜平成28年4月＞		修士（臨 床教育 学）		社会福祉	3前	4	2	大阪府立大学 人間社会学部 非常勤講師 (平23.4)	
50	兼任	講師	キシモト ケイイチ 岸本 恵一 ＜平成28年4月＞		博士 (学術)		スポーツ演習Ⅰ スポーツ演習Ⅱ ジュニアスポーツ障害 テーピングとコンディショ ニング	3後 4前 4後 4前	2 2 2 2	2 2 1 1	大阪産業大学 学生生活課 トレーナー (平22.4)	
51	兼任	講師	シラハセ タツヤ 白波瀬 達也 ＜平成27年4月＞		修士 (教育学)		保育内容（表現2）	2後	4	2	常磐会短期大 学 幼児教育科 准教授 (平25.4)	
52	兼任	講師	ツマキ マキコ 妻木麻紀子 ＜平成26年4月＞		修士 (文学)		英語基礎Ⅰ 英語基礎Ⅱ 英語演習Ⅰ 英語演習Ⅱ	1前 1後 2前 2後	2 2 2 2	2 2 2 2	大阪成蹊短期 大学観光学科 専任講師 (平25.4)	
53	兼任	講師	オクダ ユキ 奥田 有紀 ＜平成28年4月＞		学士 (音楽)		器楽指導法	3前	2	1	大阪教育大学 教育学部 非常勤講師 (平19.4)	
54	兼任	講師	アキタケ ヒロシ 秋武 寛 ＜平成26年4月＞		修士 (教育学)		体育実技Ⅰ※ 体育実技Ⅱ※ 幼児体育指導論 水泳	1前 1後 2前 1前 「集中」	1 1 4 1	1 1 2 1	慶應義塾大学 非常勤講師 (平24.4)	
55	兼任	講師	タニ トシヒデ 谷 俊英 ＜平成27年4月＞		学士 (社会 学)		児童家庭福祉	2後	4	2	社会福祉法人 阪南福祉事業 会 岸和田学園 職員 (平13.4)	
56	兼任	講師	アケンバ サトシ 明柴 聡史 ＜平成27年4月＞		修士 (教育学)		社会的養護	2前	4	2	社会福祉法人 善照学園 児童養護施設 善照学園 統括主任 (平24.4)	
57	兼任	講師	ウスイ タツヤ 臼井 達矢 ＜平成26年4月＞		博士 (医学)		スポーツ基礎科学 スポーツ測定と評価	1前 1後	2 2	1 1	大阪成蹊短期 大学児童教育 学科 専任講師 (平24.4)	
58	兼任	講師	ヤマグチ マサヨ 山口 聖代 ＜平成27年4月＞		修士 (教育学)		伴奏法	2後	2	1	愛徳学園中学 校・高等学校 非常勤講師 (平24.4)	
59	兼任	講師	マツオカ ヒロユキ 松岡 弘之 ＜平成26年4月＞		修士 (文学)		日本史概説	1・2前	2	1	大阪市資料調 査会 調査員 (平16.4)	
60	兼任	講師	ムラカミ リウ 村上 亮 ＜平成26年4月＞		博士 (歴史 学)		外国史概説	1・2後	2	1	大阪成蹊大学 非常勤講師 (平24.10)	

【添付資料】

(教育学部 教育学科)

調書 番号	専任 等 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	採 用 根 拠 等
1	専	教授	三村 寛一 (H26.4.1)		大阪成蹊学園特別招聘教員就業規則規程第5条第1項を適用する。 理事会(平成25年4月18日開催)にて承認済み。
9	専	准教授	山田 敏男 (H26.4.1)		大阪成蹊学園特別招聘教員就業規則規程第5条第1項を適用する。 理事会(平成25年4月18日開催)にて承認済み。
①	専	教授	園田 雅彦 (H26.4.1)		大阪成蹊学園特別招聘教員就業規則規程第5条第1項を適用する。 理事会(平成25年8月26日開催)にて承認済み。

大阪成蹊学園定年規程

昭和44年4月1日

制定

第1条 大阪成蹊学園(以下「学園」という。)に勤務する専任教職員の定年は、次のとおりとする。

- (1) 大学並びに短期大学の教授、准教授、講師及び助教は、満65歳とする。
- (2) 中学・高等学校の教諭及び養護教諭は、満62歳とする。
- (3) 幼稚園の教諭は、満60歳とする。
- (4) 事務職員、技術職員及び校務員は、満62歳とする。
- (5) 大学並びに短期大学において、副学長、学部長、学長補佐、学科長の役職にある教員のうち、副学長、学部長にあつては、その教員の定年退職日の翌日から起算して、2年を超えない範囲内で、また、学長補佐、学科長にあつては、その教員の定年退職日の翌日から起算して、1年を超えない範囲内で期限を定め、それぞれの当該役職に従事するために定年期限を延長することができる。但しいずれの場合も70歳を超えることはできない。

第2条 退職時期は、定年に達した日の属する年度末とする。なお、延長された期限が到来する前に、延長事由が存しなくなった場合の退職時期は、当該年度末とする。

第3条 学園の役員であつて常勤する者については、この規程を適用しない。

第4条 「大阪成蹊大学及びびわこ成蹊スポーツ大学の教員任期に関する規程」及び「大阪成蹊短期大学の教員任期制に関する規程」に定める任期期間の途中であっても、学園定年規程を優先して適用する。

附 則

平成17年3月31日現在学園に専任技術職員及び校務員として在籍している者(平成15年度開設の大学設置申請において採用予定の者で平成17年4月1日以降に勤務する者を含む。)は下記の規程を適用する。

- (1) 技術職員及び校務員は、満67歳とする。

附 則

この規程は、昭和44年4月1日から施行する。

附 則(昭和47年4月1日)

この規程は、昭和47年4月1日から施行する。

附 則(昭和63年4月1日)

この規程は、昭和63年4月1日から施行する。

附 則(平成4年4月1日)

この規程は、平成4年4月1日から施行する。

附 則(平成15年4月1日)

この規程は、平成15年4月1日から施行する。

附 則(平成17年3月18日)

この規程は、平成17年4月1日から施行する。

附 則(平成18年12月21日)

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

附 則(平成21年12月15日)

この規程は、平成22年4月1日から施行する。

附 則(平成22年9月21日)

この規程は、平成23年4月1日から施行する。

大阪成蹊学園特別招聘教員就業規則

平成21年1月22日
制定

(目的)

- 第1条 この規程は、大阪成蹊大学、びわこ成蹊スポーツ大学及び大阪成蹊短期大学(以下「本学」という。)の特別招聘に任用する教員(以下「特別招聘教員」という。)に関し、必要な事項を定めることを目的とする。
- 2 この規程及びこれに付随する諸規程に定められていない事項については、労働基準法、「大阪成蹊学園就業規則」の定めによる。ただし特定の招聘教員について異なる定めをした場合はこの限りではない。

(定義)

- 第2条 特別招聘教員とは、国内外において顕著な業績、高度の専門的学識又は技能を有する者で、本学において教育研究に従事する教員として、大阪成蹊学園定年規程にかかわらず外部から招聘し、期間を定めて雇用する教員をいう。また、外部招聘以外に、本学教員として在籍し、顕著な教育研究上の業績を有する者や、本学の教育研究活動の進展に寄与すると認められる者が、本学を退職した場合、教育研究業務に著しく支障があると認められる場合は、退職後、特別招聘教員として、招聘する場合があります、いずれも任期制教員の適用外とする。

(採用)

- 第3条 特別招聘教員の招聘は、選考によるものとし、「大学教員資格審査等委員会」の議を経て、これを理事会において審議するものとする。

(雇用契約書)

- 第4条 学園は特別招聘教員の採用に際しては、次の各号に掲げる事項を記載した雇用契約書を取り交わすものとする。

- (1) 雇用契約期間に関する事項
- (2) 就業の場所及び従事する業務に関する事項
- (3) 始業及び就業の時刻、休憩時間、休日及び休暇に関する事項
- (4) 給与に関する事項

- (5) 退職に関する事項
- (6) 安全・衛生に関する事項
- (7) 私学共済加入等に関する事項

(雇用期間)

第5条 特別招聘教員の雇用期間は、満年齢70歳に達する年度末までを限度に、1年毎の契約更新を行う。なお新学部の設定に際し、満70歳未満で採用し、その後、満年齢70歳を超える場合であっても、完成年度の年度末までは雇用を継続できるものとする。

2 前項の更新の可否は当法人の経営状況、教員の勤務成績及び勤務態度等によって理事長が決定する。

3 更新後の雇用期間は4月1日から翌年3月31日までとする。

4 契約更新をしない場合は、契約期間満了日の30日前までに当該教員に通知する。

ただし、契約期間満了後に更新しないことをあらかじめ通知している場合は、この限りではない。

(教員の階層)

第6条 特別招聘教員は、原則として教授職とする。

(勤務時間)

第7条 勤務時間は休憩時間を除き、1週間に40時間を超えないものとする。

始業時刻及び終業時刻は、次のとおりとする。

始業時刻 午前8時50分

終業時刻 午後5時20分

休憩時間は、1時間とする。

2 業務の都合、勤務場所等により、前項と異なる定めをすることができる。

また、休憩時間の配分は、勤務場所等によって所属長がこれを定める。

(出退勤記録)

第8条 特別招聘教員は、各人が毎日始業開始時刻及び終業時刻を勤務時間等の自己確認記録表に記録して就業を明らかにする。

(遅刻、早退、欠勤等)

第9条 遅刻、早退又は欠勤するときは、事由を具して届出て、業務に支障を来たさぬようにすること。

2 病気欠勤が7日以上に及ぶときは医師の診断書を添付するものとする。

(休日)

第10条 特別招聘教員の休日は、次のとおりとする。

- (1) 土日曜日及び国民の祝日に関する法律に規定する休日
- (2) 12月29日から翌年の1月3日まで
- (3) 学園創立記念日(4月20日)

(休日出勤)

第11条 業務の都合上必要とする場合は、休日に勤務させることがある。この場合は原則として他の日に振替休日を取るものとする。

(有給休暇)

第12条 特別招聘教員には、労働基準法に定める年次有給休暇(以下「年休」という)日数を与える。

- 2 前1項の年休は、その願いがあっても業務運営上支障があると認めた場合は他の時期に変更することができる。
- 3 年休は1日又は半日を単位として請求することができる。
- 4 年休は、これを次年度に繰り越すことができる。ただし請求期限は2年とする。

(服務規律)

第13条 服務規律は「大阪成蹊学園就業規則」第19条に準ずるものとする。

第14条 特別招聘教員は次の各号のいずれかに該当する行為をしてはならない。

- (1) 理事長の許可を受けないで、在籍のまま他事業に従事し、または労務に服すること。
- (2) 学園の名誉または信用を傷つけるような行為をすること。
- (3) 業務上の機密事項または学園が不利益となる事項をもらすこと。
- (4) 職務上の権限を超え、または専断的な行為をすること。
- (5) 学園内での政治活動、宗教活動その他教育に直接関係のない活動を理事長の許可を得ずに行うこと。
- (6) 学園の内外を問わず職員として体面を傷つける行為をすること。

(給与)

第15条 特別招聘教員の給与は年俸制とし、その者の学歴及び業績評価等を勘案し個別に定める。

- 2 月額支給額は、年俸額の12分の1を支給する。
- 3 月額で支給する給与の計算期間は当月1日から月末までとする。
- 4 給与は、毎月21日に支給する。21日が休日に当たる場合は、その前日に支給する。

- 5 採用する月において、その月の雇用期間が1ヶ月に満たない場合は、当該月度の勤務日数を基に日割計算を行う。
- 6 通勤費以外の手当並びに退職金は支給しない。
- 7 通勤費は「大阪成蹊学園給与規程」第17条及び第18条の規程を準用し支給する。

第16条 給与は通貨で所得税、社会保険料その他法令で定められたもの等を控除して本人が指定する銀行口座に振り込み支給する。

第17条 特別招聘教員採用にあたっての提出書類は「大阪成蹊学園就業規則」第26条の規程を準用する。

第18条 特別招聘教員が雇用契約期間の途中において契約を解約し、退職しようとするときは、1ヶ月前までに所属長を経て退職願いを理事長宛提出するものとする。

第19条 次の各号の一に該当するときは、その教員の雇用契約は解約とし、特別招聘教員としての身分を失う。

- (1) 雇用契約の途中で、解約を申し出て承認されたとき。
- (2) 「大阪成蹊学園就業規則」第49条第2項別表第1により解雇されたとき。
- (3) 更新時、雇用契約の合意に至らなかったとき。

(解約)

第20条 特別招聘教員が次の各号のいずれかに該当するときは雇用契約を解約する。

- (1) 雇用契約期間満了で学園からの再契約の意思表示がなかったとき。
- (2) 死亡したとき。
- (3) 精神又は身体の障害については、適正な雇用管理を行ない、雇用の継続に配慮してもなおその障害により業務に耐えられないと認められたとき。
- (4) 勤務態度または能力・適正が著しく劣るとき、及び注意・指導を受けて直らないとき。
- (5) 第13条及び第14条の服務規程に違反したとき。
- (6) 無断欠勤が14日に及んだとき。
- (7) 成年被後見人または被保佐人になったとき。
- (8) 禁固刑以上の刑に処せられたとき。
- (9) 事業の運営上止むを得ない事情又は天変地異、その他これに準ずる止むを得ない事情により、事業の継続が不可能になったとき。
- (10) その他、「大阪成蹊学園就業規則」第49条第2項別表第1に規定する非違行為のいずれかに該当するとき。

(解約の予告)

第21条 契約を解約するときには、30日前に予告するかまたは30日分の平均賃金を支給する。平均賃金を支給したときは、その日数を予告すべき日数より減ずる。

ただし、前条1号から3号による場合はこの限りではない。

(解約の制限)

第22条 次の場合は解約をしない。ただし、行政官庁の認定を受けた場合は、この限りではない。

- (1) 業務上の負傷、疾病により就業できない期間及びその後の30日間。
- (2) 女性については産前6週間(多胎妊娠の場合は14週間)、産後8週間内の当該休業期間中及びその後30日間。

(解約の特例)

第23条 第20条9号及び10号に該当するときは第21条の規程にかかわらず、即時解約する。

(退職後の責務)

第24条 退職又は解雇された特別招聘教員は、在職中に知りえた秘密を他に漏らしてはならない。

(病者の就業禁止)

第25条 学園は特別招聘教員が、次の各号のいずれかに該当するときは、医師の判断により就業を禁止する。

- (1) 法定伝染病にかかっている場合
- (2) 著しく伝染の危険がある疾病にかかっている場合
- (3) 前各号の擬似患者または就業により疾病が悪化する恐れのある場合
- (4) その他の疾病で就業が不相当と認められた場合

(安全及び衛生)

第26条 特別招聘教員は、安全、衛生及び健康確保について、関係法令ほか、学園の指示を守るとともに、学園が行う定期健康診断の受診、その他安全衛生に関する措置に互いに協力しなければならない。

(医師の指示)

第27条 公衆衛生上、医師が予防医学的措置を必要と認めたときは、特別招聘教員は医師の指示に従う。

(業務上の災害補償)

第28条 特別招聘教員が業務上負傷し、又は疾病にかかった場合は、労働者災害補償保険法の規定するところにより補償を受ける。

2 前項の補償が行われるときは、学園は労働基準法上の補償の責を免れる。

第29条 この規程の改廃は理事会にて行う。

附 則

この規則は、平成21年4月1日から施行する。

附 則(平成22年7月20日)

この規則は、平成22年7月20日から施行する。

附 則(平成23年2月15日)

この規則は、平成23年4月1日より施行する。

附 則(平成24年11月22日)

この規則は、平成24年12月1日から施行する。